

茨城県教育財団文化財調査報告第285集

うえ の ふる や しき
上野古屋敷遺跡1

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ

中 卷

平成 19 年 3 月

独立行政法人 都市再生機構茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

目 次

— 中 卷 —

第3章 調査の成果

第3節 遺構と遺物

7 中世の遺構と遺物

| | |
|------------|-----|
| (7) 溝跡 | 373 |
| (8) 道路跡 | 572 |
| (9) 方形竪穴遺構 | 574 |
| (10) 地下式坑 | 583 |
| (11) 墓坑 | 600 |
| (12) 火葬土坑 | 617 |
| (13) 土坑 | 622 |
| (14) 土坑群 | 635 |

8 近世の遺構と遺物

| | |
|----|-----|
| 墓坑 | 644 |
|----|-----|

9 その他の遺構と遺物

| | |
|-------------|-----|
| (1) 溝跡 | 655 |
| (2) 道路跡 | 658 |
| (3) 土坑 | 659 |
| (4) 炉跡 | 668 |
| (5) 炭焼遺構 | 669 |
| (6) 不明遺構 | 669 |
| (7) 遺物包含層 | 673 |
| (8) 遺構外出土遺物 | 679 |

第4節 まとめ

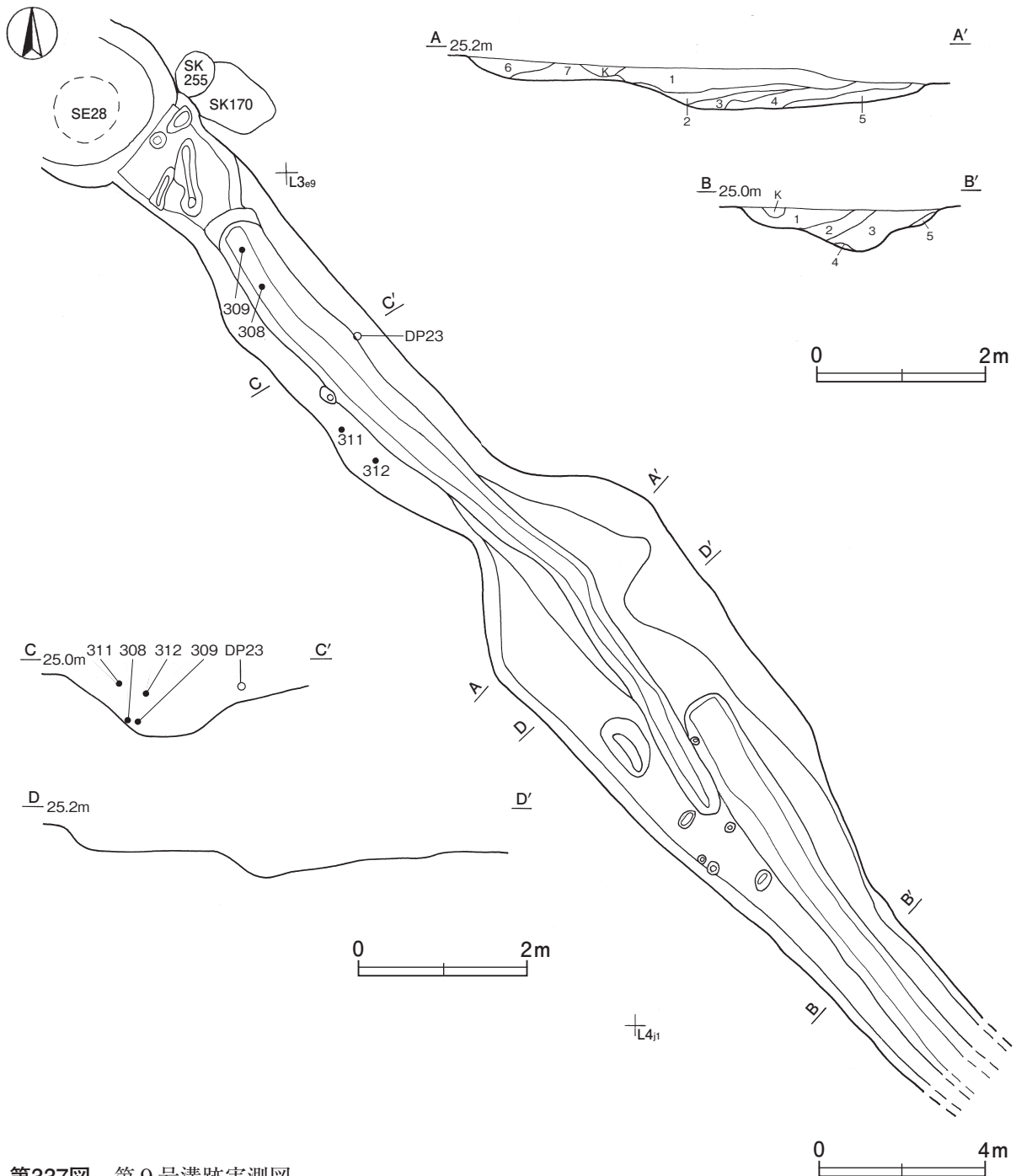
付図

(7) 溝跡

中世の溝跡は、200条が確認されている。ここでは、当遺跡の性格を考察するうえで重要な溝跡は図版と文章で説明し、それらと重複する主な溝跡については簡潔な説明とした。なお、重複関係については、同時期に機能していたと判断できる遺構については切り合い関係を記述した。その他は、一覧表と全測図で紹介し、あわせて土層断面図または断面図と遺物実測図を記載する。また、図示した遺物については、出土遺物観察表で記載した。

第9号溝跡（第337・338図）

位置 調査区南西部のL 3 d8～L 4 j2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。



第337図 第9号溝跡実測図

重複関係 第28号井戸を切り、第1号土坑群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 L3d8区から南東方向（N-38°-W）へ直線的に延びている。確認された長さは28mほどで、上幅2.0～5.4m、下幅0.4～0.8m、深さ38～62cmである。断面形は逆台形状と浅いU字状の部分が見られ、壁は緩やかに立ち上がっている。

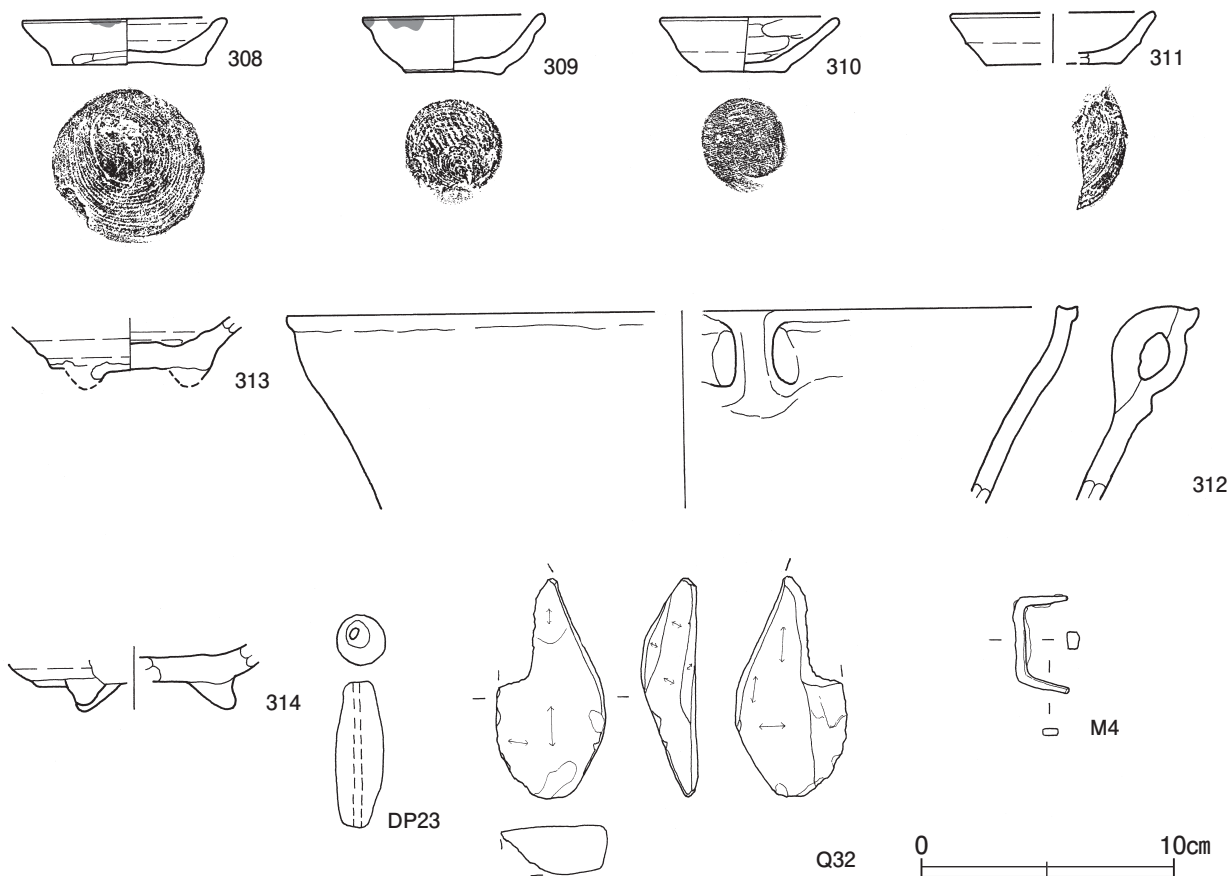
覆土 7層に分層される。含有物と遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片407点（皿34、内耳鍋類357、香炉2、挿鉢14）、陶器片3点（皿1、常滑系甕2）、土製品1点（管状土錘）、石器1点（砥石）、鉄製品1点（鋸カ）、鉄滓8点と、流れ込んだ縄文土器片2点、礫8点及び混入した磁器片1点が出土している。308・309・311・312、DP23を含めた遺物の大部分は、第28号井戸に近い北部の覆土中層から下層にかけて投棄されたように出土している。310・313・314・Q32・M4は覆土中から出土している。

所見 掘り方の形状と第28号井戸を上端で掘り込んでいることから、井戸に溜まった水を利用した洗い場のような水場遺構と推測される。また、西から東に向って底面の高さが傾斜していることから、調査区南部で標高の最も低い位置にある第41号井戸の方向に水を流し込んでいたとも推測されるが、削平のため東端の掘り方は確認されていない。さらに、第3号道路と共に、屋敷跡と考えられる第7～10号掘立柱建物と土坑群域とを区画する機能をもっていたもので、時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第338図 第9号溝跡出土遺物実測図

第9号溝跡出土遺物観察表（第338図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|-------|------------|-------|----|------------------------|---------|------------------|
| 308 | 土師質土器 | 皿 | 8.1 | 1.9 | 6.1 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 95%口唇部油煙附着 PL108 |
| 309 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.4 | 3.8 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 95%口唇部油煙附着 PL108 |
| 310 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.3 | 3.3 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 95% |
| 311 | 土師質土器 | 皿 | [8.0] | 2.1 | [5.4] | 赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 30% |
| 312 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.6] | (7.8) | — | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 1内耳残存 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土上層～中層 | 10% |
| 313 | 土師質土器 | 香炉 | — | (2.4) | 6.3 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 3足脚 脚部欠損の体部破片 内・外面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 314 | 土師質土器 | 香炉 | — | (2.6) | [7.5] | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 3足脚 底部と1脚部の破片 内・外面ナデ | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|------|----|---------------|------|------|
| DP23 | 管状土錘 | 5.8 | 0.4 | 1.9 | 21.4 | 土製 | 全面ナデ 一方向からの穿孔 | 覆土中層 | 100% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|--------|-----|-----------|------|----|
| Q32 | 砥石 | (8.8) | 4.4 | 2.2 | (72.6) | 凝灰岩 | 端部欠損 砥面3面 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|-----|-----|-----|-------|----|-------|------|-------|
| M4 | 鏡カ | 3.9 | 2.2 | 0.5 | (4.5) | 鉄 | 両端部欠損 | 覆土中 | PL123 |

第19B号溝跡（第339～341図）

位置 調査区南東部のL5e9～M6b4区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第120・131A溝、第39号井戸、第9号水溜遺構を切り、第144・170号溝に切られている。

規模と形状 L5e9区から南東方向（N-35°-W）へ直線的に伸び、第39号井戸に連結している。確認できた長さは33mほどで、上幅0.76～1.72m、下幅0.2～0.6m、深さ24～56cmである。断面形は、深い部分は逆台形状、比較的浅い部分は緩やかなU字状で、壁は深い部分は外傾、浅い部分は緩やかに立ち上がっている。

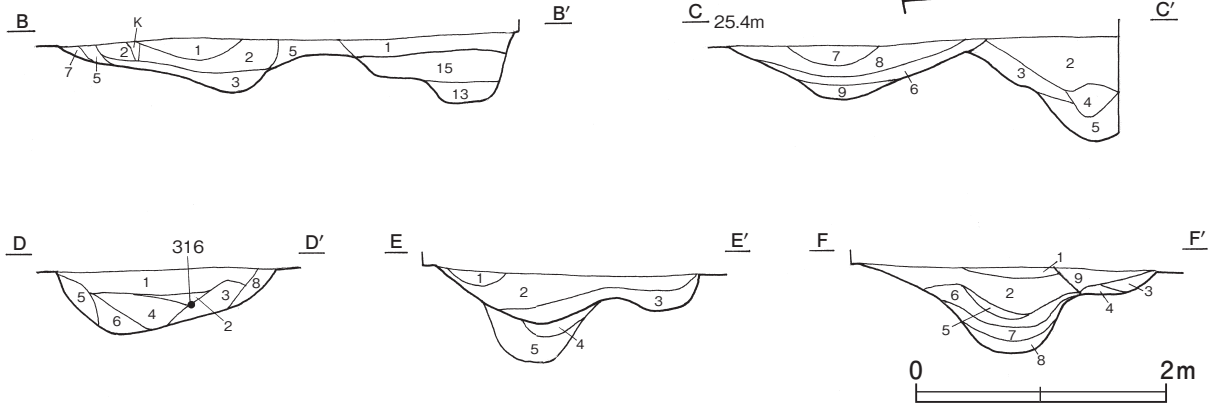
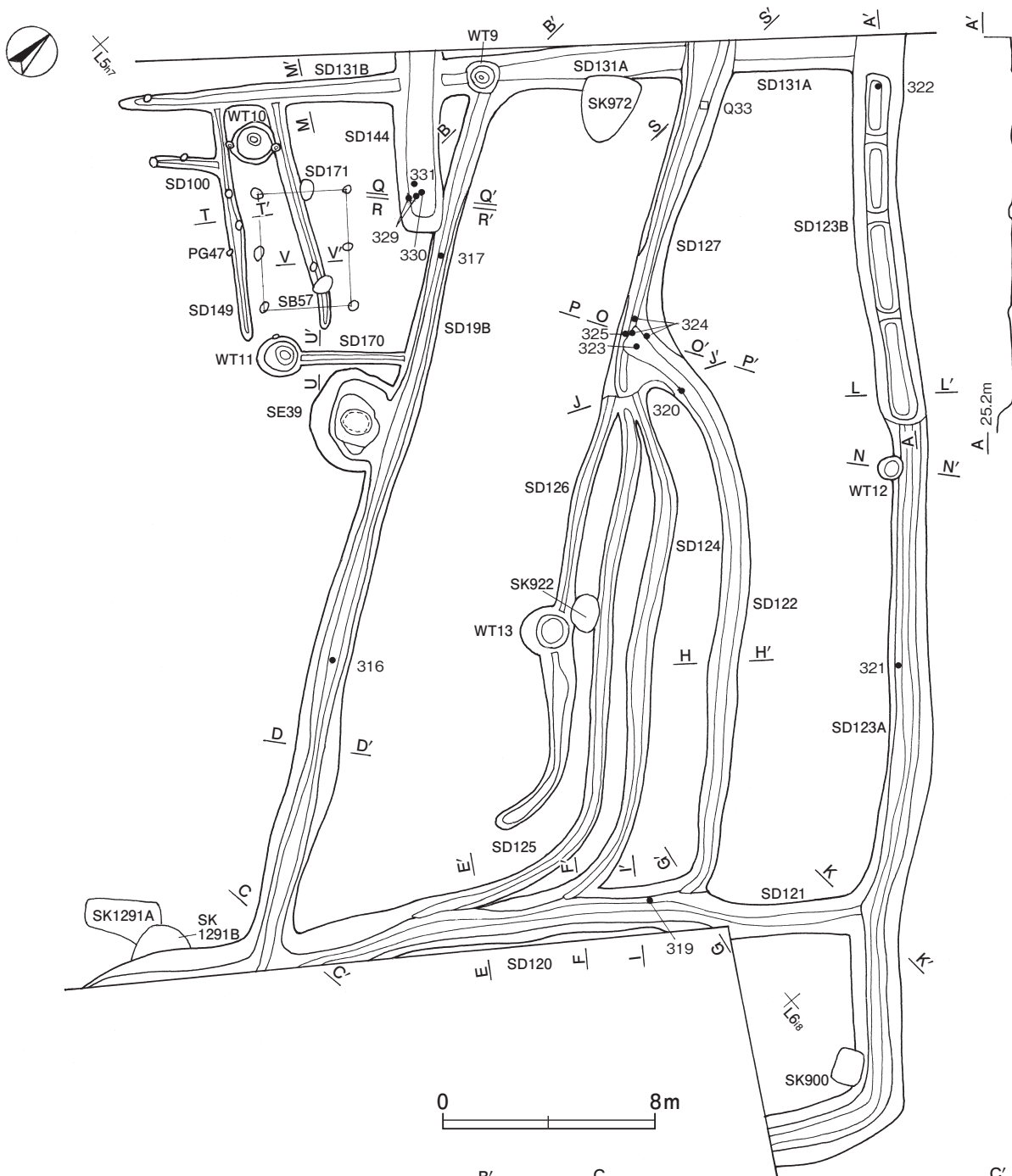
覆土 9層に分層される。一部第120号溝との重複部（C-C'）は含有物から人為堆積と考えられるが、その他は、含有物とレンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説（B-B'、D-D'、Q-Q'）

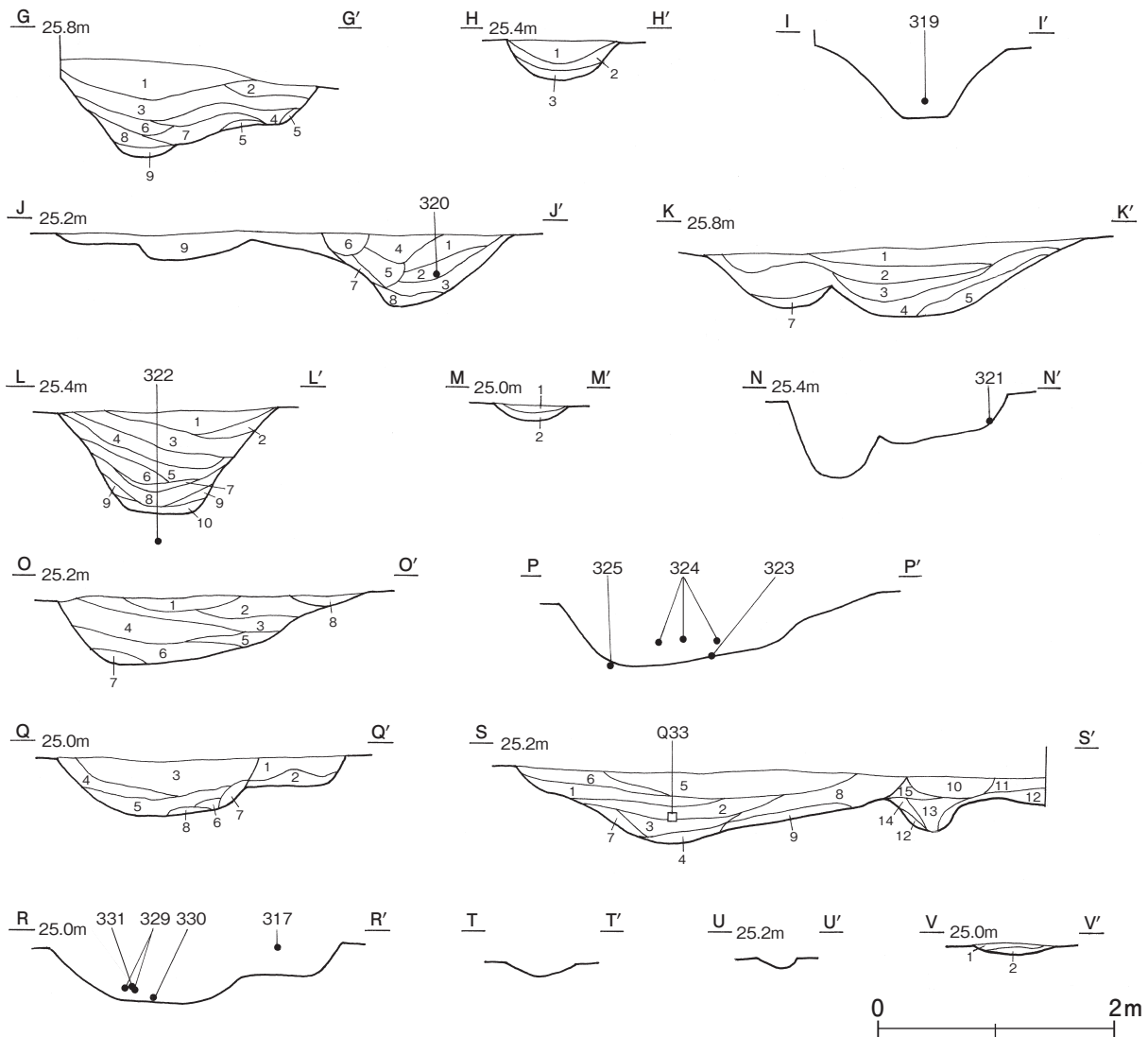
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片75点（皿44、内耳鍋30、挿鉢1）が出土している。これらの土器片は、第47・48号ピット群をはじめとする周囲の遺構から流れ込んだものと考えられる。316・317は底面、315・318・DP24は覆土中からそれぞれ出土している。この他、流れ込んだ縄文土器片2点、土師器片11点、須恵器片2点、礫1点も出土している。

所見 形状と覆土から、L5e9区から調査区域外を挟んで北西方向へ直線的に伸びている第19A号溝と同一の溝と考えられ、調査区南部と南東部を斜めに横断している。また、第120号溝に連結して排水していたと想定でき、区画と排水の機能をもっていたものと考えられる。なお、覆土の第1層が硬化していることから、一時期道路として使用されていたものと推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第339图 第19B·100·120~122·123A·123B·124~127·131A·131B·144·149·170·171号沟迹实测图(1)



第340図 第19B・100・120～122・123A・123B・124～127・131A・131B・144・149・170・171号溝跡実測図(2)

第100号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区東部のL 5 g8～L 5 h8区に位置している。L 5 h8区から、北東方向(N-47°-E)へ直線的に伸び、L 5 g8区で第149号溝に連結している。長さは2.7mで、上幅0.31～0.47m、下幅0.1～0.25m、深さ9～21cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層。ローム粒子と炭化粒子を少量含む暗褐色土である。含有物から自然堆積である。

所見 覆土と方向性から、雨水等を第149号溝に排水する機能があったものと推測される。時期は、重複関係から第149号溝とほぼ同時期の16世紀後半と考えられる。

第120号溝跡 (第339～341図)

位置 調査区南東部のM 6 c3～L 6 i6区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1291B号土坑を掘り込み、第19B・121・122・124・125号溝に切られている。

規模と形状 L 6 g7区から東部の調査区域外との地境に沿って、南西方向(N-147°-W)へ直線的に伸び、M 6 b3区で調査区域外へと向かっている。確認された長さは24.6mで、上幅1.20～1.25m、下幅0.20～0.45m、

深さ60～66cm, 断面形は逆台形状を呈し, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。第1・2層は含有物から人為堆積であり, その他は含有物とレンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説 (C-C', E-E', F-F')

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | 7 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| | 8 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片45点 (皿2, 内耳鍋42, 播鉢1) と, 流れ込んだ土師器片1点, 須恵器片1点, 礫1点が出土している。319は, 第122号溝と連結する南部の底面から出土している。

所見 第19B・122～125号溝と連結し, 本跡に雨水を排水されていたと考えられる。東方向には谷津があり, 溜まった水を排水するとともに, 地境に沿っていることから区画の機能もあったと推測される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第121号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL 6 g7～L 6 i6区に位置している。L 6 g7区から, 南西方向 (N-140°-W) へ直線的に伸び, L 6 i6区で第120号溝に連結している。長さは6.8mで, 上幅1.14～1.36m, 下幅0.22～0.36m, 深さ48cm, 断面形は逆台形で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第122・123A号溝との接続部の土層から, 人為堆積と判断できる。

所見 第120号溝と第123A号溝を連結することにより, 第123号溝からの雨水を第120号溝に流し, 水量を調整したと考えられる。時期は, 重複関係から16世紀後半と考えられる。

第122号溝跡 (第339～341図)

位置 調査区南東部のL 6 e2～L 6 i6区で, 標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第127号溝を切り, 第120・121号溝に切られている。

規模と形状 L 6 e2区から, 南東方向 (N-135°-E) へほぼ直線的に伸び, L 6 i6区で第120・121号溝に連結している。長さは22mほどで, 上幅0.82～1.26m, 下幅0.3～0.5m, 深さ36～58cm, 断面形は緩やかなU字状を呈し, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 中央部 (H-H') は3層に分層され, 含有物と堆積状況から自然堆積である。連結部分 (J-J') では8層に分層され, 含有物は人為堆積の状況を示している。第9層は第124～126号溝と共通する覆土である。

土層解説 (H-H')

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | |

土層解説 (J-J')

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| | 9 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量 (第124～126号溝跡と共通の覆土) |

遺物出土状況 土師質土器片9点 (皿4, 内耳鍋2, 播鉢3), 陶器片1点 (皿) が出土している。320は, 第127号溝に近い西部底面から出土している。その他, 縄文土器片1点, 石器1点 (磨石), 礫2点も出土し

ている。

所見 第127号溝からの雨水等を、第120号溝へ排水していたと考えられ、第124・125号溝のバイパスとして掘削された溝と推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第123 A号溝跡 (第339～341図)

位置 調査区南東部のL 6 d4～L 6 j9区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第121・123 B号溝、第12号水溜遺構を切り、第900号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 L 6 d4区で第123 B号溝から派生し、南東方向(N-136°-E)へ直線的に伸び、L 6 i0区で南西方向(N-155°-W)へ屈曲して、L 6 j9区で調査区域外へ延びている。確認できた長さは30mほどで、上幅1.24～2.12m、下幅0.18～0.54m、深さ40～62cm、断面形は深い部分が逆台形で浅い部分が緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第121号溝との重複部(K-K')の覆土は7層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈しているが、含有物から人為堆積の状況を示し、第121号溝と同時期に埋められたと考えられる。

土層解説 (K-K')

| | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)の321は、ほぼ中央部の底面から出土している。その他、礫1点も出土している。

所見 第121号溝と第123 B号溝とを連結して、雨水を調整していたと考えられる。南東方向70mの地点には谷津が入り込んでおり、溜まった水を谷津の方向に排水していたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第123 B号溝跡 (第339～341図)

位置 調査区南東部のL 6 b1～L 6 d4区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第123 A・131 A号溝に切られている。

規模と形状 L 6 d4区で第123 A号溝と連結し、北西方向(N-53°-W)へ直線的に伸び、L 6 b1区で第131 A号溝と連結している。長さは14.4mで、上幅1.7～1.96m、下幅0.36～0.56m、深さ88cmで、断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

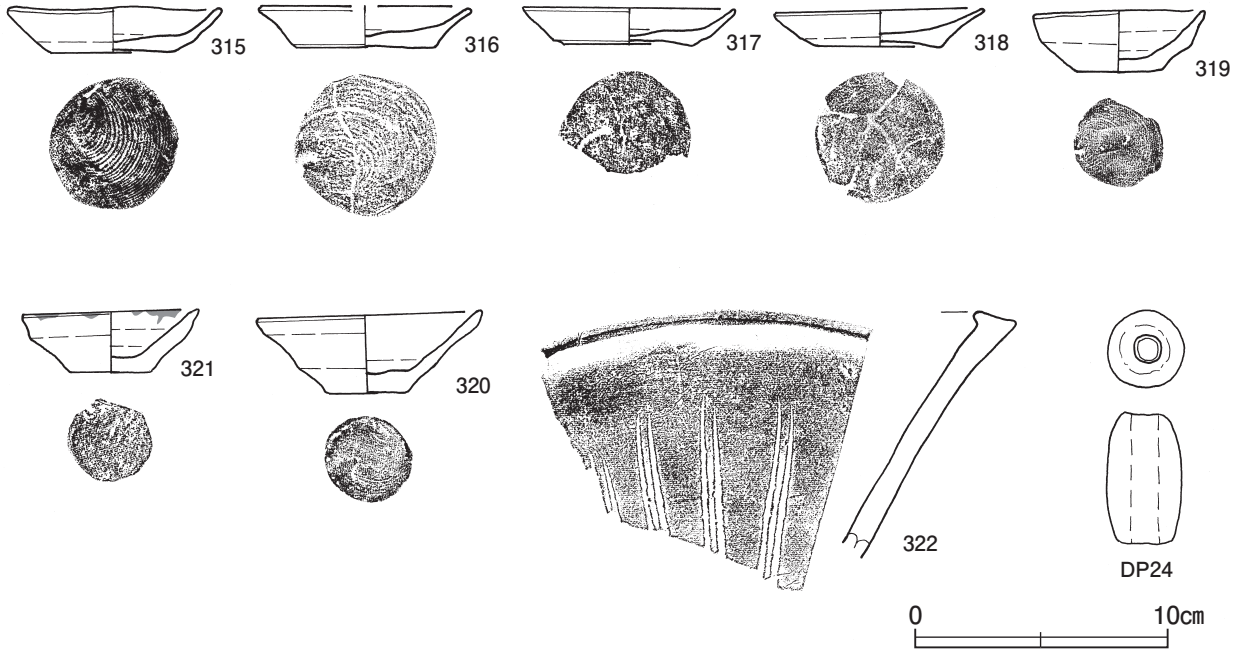
覆土 10層に分層される。第1～3層は含有物から人為堆積、第4層以下は含有物とレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説 (L-L')

| | | | |
|-------|---------------------------|----------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 9 におい黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量 |
| | | 10 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿2、内耳鍋1、播鉢1)が出土している。322は、第131号溝との連結部付近の底面から出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

所見 底面が障子堀状に区画されていることから、一定量の水を溜めておく機能をもっていたと推測される。また、第123A号溝と第131号溝とを連結することで、雨水等の流れを調整したと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第341図 第19B・120・122・123A・123B号溝跡出土遺物実測図

第19B号溝跡出土遺物観察表（第341図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|-------|-----|------|------------|-------|------|----------------------------------|------|-------------------|
| 315 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 1.8 | 5.0 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデくぼむ 底部回転糸切り 底面中央部が | 覆土中 | 70% 口辺部にゆがみ PL108 |
| 316 | 土師質土器 | 皿 | [8.4] | 1.6 | 5.6 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデくぼむ 底部回転糸切り 底面中央部が | 底面 | 70% |
| 317 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 1.4 | 5.1 | 石英・赤色粒子 | にぶい黄褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデくぼむ 底部回転糸切り後ナデ 底面中央部が | 底面 | 55% |
| 318 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 1.6 | 5.0 | 長石・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデくぼむ 底部回転糸切り後ナデ 底面中央部が | 覆土中 | 60% |
| 番号 | 器種 | 長さ | 孔径 | 幅 | 重量 | 材質 | 特徴 | | 出土位置 | 備考 | |
| DP24 | 管状土錘 | 5.2 | 1.1 | 3.0 | 47.0 | 土製 | 梨形 | 全面ナデ | 覆土中 | | |

第120号溝跡出土遺物観察表（第341図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|---------|-------|----|----------------------------|------|-----|
| 319 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.4 | 3.6 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り 底面が | 底面 | 80% |

第122号溝跡出土遺物観察表（第341図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|---------|------|----|-------------------------|------|------------|
| 320 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 3.3 | 3.3 | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り 底面が | 底面 | 100% PL109 |

第123A号溝跡出土遺物観察表（第341図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|------|-----|----|-------------------------------|------|-------------|
| 321 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.4 | 3.4 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 底面が | 底面 | 85% 口唇部油煙付着 |

第123号溝跡出土遺物観察表（第341図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|----|----------|------|----|------------------------------------|------|-----|
| 322 | 土師質土器 | 播鉢 | [37.8] | (9.7) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し位の掘り目 内面2条1単 外面ナデ | 底面 | 10% |

第124号溝跡（第339・340図）

位置と形状 調査区南東部のL 6 f2～L 6 j5区に位置している。L 6 f2区で第127号溝から分派し、南東方向（N-160°-E）へU字状に延び、L 6 j5区で第120号溝と連結している。長さは23.3mで、上幅0.4～1.04m、下幅0.12～0.44m、深さ16～20cm、断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第120号溝との接続部土層（F-F'）では3層の人為堆積状況を呈し、第124～126号溝との重複部土層（J-J'）では、単一層の自然堆積の状況を示している。

所見 第120号溝と第127号溝に連結し、南東方向へ雨水等を排水したと考えられ、第120号溝と第127号溝を連結している溝の中では、第125号溝に次いで掘削されたと判断できる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第125号溝跡（第339・340図）

位置と規模 調査区南東部のL 6 f2～M 6 a5区。L 6 f2区で第127号溝と連結し、南東方向（N-157°-E）へ緩やかなU字状に延び、M 6 a5区で第120号溝と連結している。

覆土 第120号溝との重複部土層（E-E'）から、第1～3層が相当し3層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈しているが、含有物から人為堆積である。

所見 第120号溝と第127号溝とを連結しており、第122・124号溝とほぼ並行して、北西方向と南東方向へ雨水等を排水していたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第126号溝跡（第339・340図）

位置と規模 調査区南東部のL 6 f2～L 6 j5区に位置している。L 6 j5区から、北西方向（N-40°-W）へ曲線状に延び、L 6 j4区で屈曲しL 6 f2区まで直線的に延び第127号溝と連結している。長さは24mほどで、上幅0.5～0.68m、下幅0.18～0.38m、深さ20～30cm、断面形は逆台形または緩やかなU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第122・124～126号溝との連結部土層（J-J'）は単一層で、自然堆積の状況を示している。

所見 第127号溝から分岐し、雨水等を排水していたと考えられる。また、第13号水溜遺構と同時期に機能し、雨水の水量調整をしていたと推測される。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第127号溝跡（第339・340・342図）

位置 調査区南東部のL 5 c0～L 6 f2区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第131A号溝を切り、第122・124～126号溝に切られている。

規模と形状 L 6 f2区から、北西方向（N-34°-W）へ直線的に延び、L 5 c02区で第131号溝に連結している。長さは14mほどで、上幅0.92～1.8m、下幅0.18～0.9m、深さ44～60cm、断面形は緩やかなU字状または台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

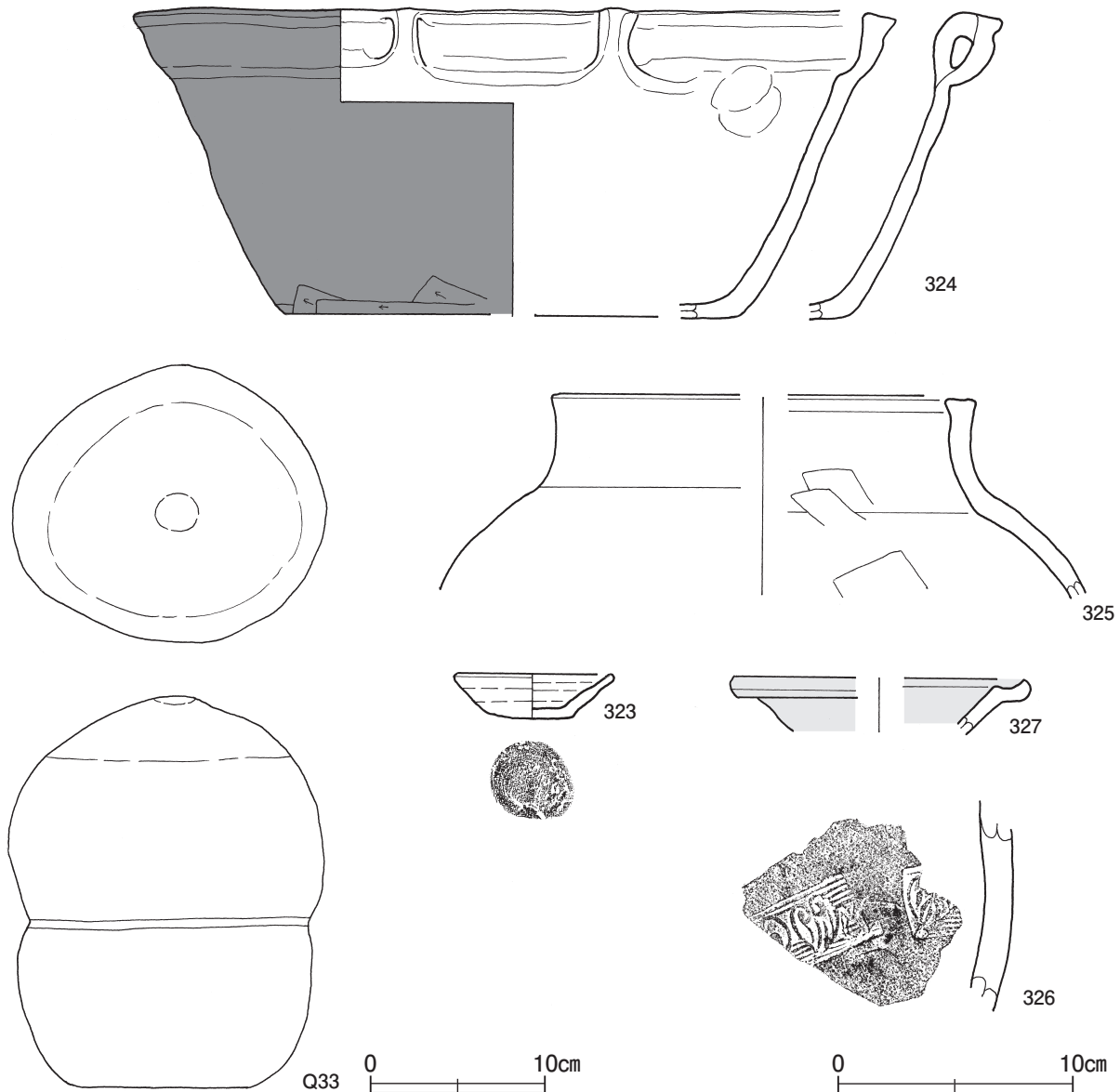
覆土 第131A号溝との接続部土層（S-S'）は、9層に分層され、レンズ状の堆積状況を呈しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（S-S'）

- | | | | |
|----------|---------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量，ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子微量 | | |
| 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | | |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片78点（皿7，内耳鍋65，甕3，播鉢3），陶器片1点（常滑系甕），青磁片1点（坏），石塔1点（五輪塔），木片1点は，第122号溝と重複するくぼんだ地点を中心に出土している。323～326はくぼんだ地点の底面，327は覆土中からそれぞれ出土しており，投げ込まれたと考えられるQ33は，北西部の底面から出土している。この他，流れ込んだ須恵器片3点，礫2点も出土している。

所見 第131A号溝と第122・124～126号溝が連結しており，雨水等の排水を調整したと考えられる。時期は，出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第342図 第127号溝跡出土遺物実測図

第127号溝跡出土遺物観察表（第342図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|--------|---------------|----------|----|---------------------------------|------|------------|
| 323 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.0 | 3.5 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 100% PL109 |
| 324 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 30.6 | 13.1 | [19.6] | 長石・石英・雲母 | 明褐 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け 内・外面ナデ 指頭痕 外面下端ヘラ削り | 底面 | 30%外面煤付着 |
| 325 | 土師質土器 | 甕 | [18.2] | (8.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口辺部から体部上位の破片 内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ | 底面 | |
| 326 | 陶器 | 甕 | — | (9.1) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 体部上位の破片 内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印 | 覆土中 | 常滑系カ |
| 327 | 青磁 | 坏 | [12.8] | (2.4) | — | 精良 青磁釉 | 明緑灰白・明緑灰 | 良好 | 口辺部片 内・外面施釉 | 覆土中 | 龍泉窯カ PL126 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----------|--------|------|------|--------|-----|----------------------------------|------|-------|
| Q33 | 五輪塔 (空風輪) | (22.2) | 17.8 | 15.7 | (8280) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 空輪と風輪のくびれ不明瞭 空輪の頭頂部欠損 | 底面 | PL118 |

第131 A号溝跡（第339・340・343図）

位置と規模 調査区南東部のL 6 b1～L 5 f9区に位置している。L 6 b1区から、直線的に南西方向（N-142°-W）のL 6 b1区まで延びている。調査できたのは調査区域外との境界の長さ13.35mだけで、上幅1.18～1.56m、下幅0.64～1.22m、深さ30～58cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 第127号溝跡との重複部土層は6層に分層され、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（S-S'）

| | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 10 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ローム粒子中量、砂粒微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 |

遺物出土状況 師質土器片18点（皿7、内耳鍋10、挿鉢1）、礫1点が出土している。確認された土器片はいずれも小片で、覆土中や底面から散在して出土している。328は、割れて覆土中から出土している。

所見 調査区域外となっている農道に沿って、一部が確認されているだけである。掘り方の形状から、第19B・123B・127号溝跡からの排水された雨水を調整していた大規模な区画溝と推測される。重複する第972号土坑は調査区域外を挟んだ第26号溝の東部の突端部の可能性がある。また、重複する第9号水溜遺構は井戸状で深く、水量調整のための土坑と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第131 B号溝跡（第339・340図）

位置と規模 調査区南東部のL 5 h7～L 5 f9区に位置している。L 5 f9区から、南西方向（N-142°-W）へ直線的にL 5 b1区まで延び、第144号溝に連結している。長さは10.6mで、上幅0.42～0.74m、下幅0.12～0.42m、深さ6～10cm、断面形は緩やかなU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈し、含有物は自然堆積の状況を示している。

土層解説（M-M'）

| | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・砂粒微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
|-------|-------------------|-------|----------------|

所見 第149・171号溝からの雨水等を、第144号溝に排水していたと溝考えられる。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第144号溝跡（第339・340・343図）

位置 調査区南東部のL 5 e9～L 5 f0区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第19B号溝を切り、第131B号溝に切られている。

規模と形状 L 5 f0区から、北西方向 (N - 54° - W) へ直線的に延び、さらに L 5 e9区で調査区域外へ延びている。確認できた長さは6.5mで、上幅1.6 ~ 1.96m、下幅0.72 ~ 1.16m、深さ46cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

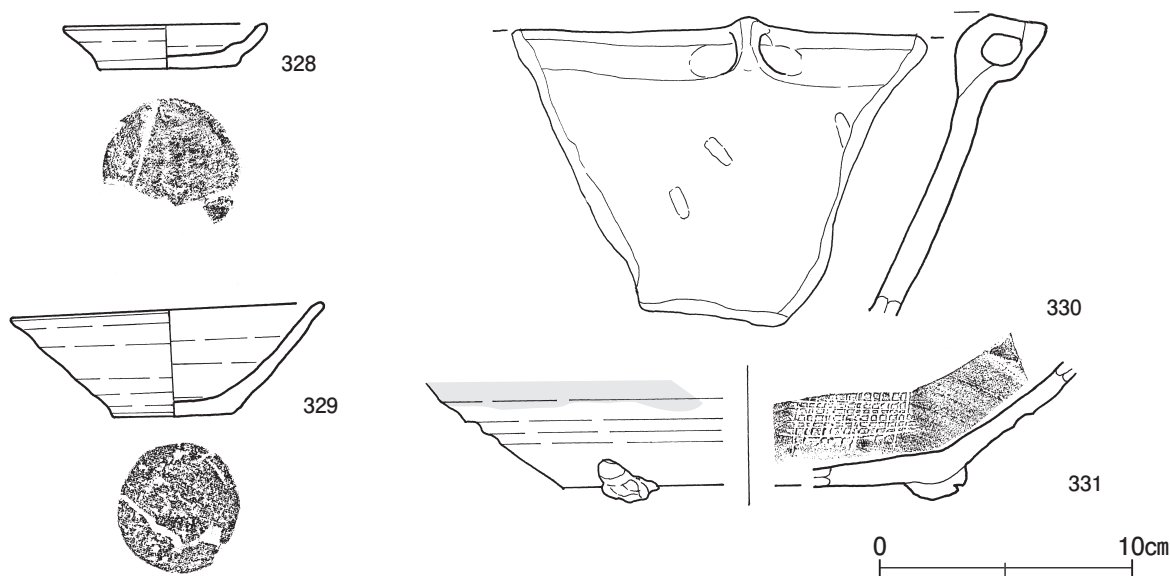
覆土 第19B号溝との重複部 (Q - Q') の覆土は、6層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況は、自然堆積の状況を示している。

土層解説 (Q - Q')

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-----------------------|
| 3 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・酸化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・砂粒・酸化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片24点 (皿6, 内耳鍋18), 陶器片1点 (卸目付皿), 石器1点 (凹石), 礫1点が出土している。329 ~ 331は、覆土下層から底面にかけて集中して出土している。

所見 規模と形状から、第131B号溝から排水された雨水を溜めた洗い場のような水場の可能性が考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第343図 第131A・144号溝跡出土遺物実測図

第131A号溝跡出土遺物観察表 (第343図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 328 | 土師質土器 | 皿 | 8.2 | 1.7 | 5.5 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 80% |

第144号溝跡出土遺物観察表 (第343図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-------|------|--------|--------|-----------------|-------|----|------------------------------------|------|-----------|
| 329 | 土師質土器 | 皿 | 12.5 | 4.5 | 4.9 | 長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 70% PL109 |
| 330 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (12.0) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 褐・明褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面圧痕を残すナデ 外面ナデ | 底面 | 10%外面煤付着 |
| 331 | 陶器 | 卸目付大皿 | — | (5.4) | [15.0] | 精良 長石・灰釉 | 灰白・淡黄 | 普通 | ロクロ成形 掛種 内面に卸目 底部糸切り後ナデ 脚部貼付け1か所残存 | 覆土下層 | 瀬戸・美濃系 |

第149号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区東部の L 5 g8 ~ L 5 h9区に位置している。L 5 h9区から、北西方向 (N - 55° - W) へ直線的に延び、L 5 g8区で第131B号溝に連結している。長さは8.9mで、上幅0.29 ~ 0.57m、下幅0.15 ~ 0.29m、深さ8 ~ 24cm、断面形は緩やかなU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、ローム粒子を少量含む黒褐色土である。

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿)が、覆土中から出土している。

所見 第100・131B号溝をそれぞれ連結している。覆土と方向から、第100号溝からの雨水等を第131B号溝に排水する機能をもっていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第170号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL 5 g1～L 5 h0区に位置している。L 5 h0区で第11号水溜遺構と連結し、南西方向(N-44°-E)へ直線的に伸び、L 5 g1区で第19B号溝に連結している。長さは4mほどで、上幅0.25～0.41m、下幅0.07～0.2m、深さ5cmほど、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、ローム粒子と粘土粒子を微量含む黒褐色土である。

所見 第19B号溝と第11号水溜遺構とを連結しており、第11号水溜遺構の水量を調整する機能をもっていたと推測される。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第171号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL 5 g8～L 5 h0区に位置している。L 5 h0区から、北西方向(N-62°-W)へ直線的にL 5 g8区まで伸びている。長さは8.7mで、上幅0.4～0.74m、下幅0.15～0.32m、深さ5～8cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説 (V-V')

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

所見 溝の西側で第10号水溜遺構を掘り込んで第131B号溝に連結し、第10号水溜遺構の水量を調整する機能をもっていたと考えられる。第57号掘立柱建物が掘り込んで重複しているが、詳細は不明である。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第20号溝跡 (第344～349図)

位置 調査区南西部のJ 5 a9～K 6 b2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第401・402号土坑を掘り込んでいる。第21号井戸、第21・22号溝、第11号ピット群に切られているが、ほぼ同時期に機能していたと考えられる。また、期間において第300・301・308・310号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 J 5 a9区から南方向(N-15°-E)へ直線的に伸び、第22号溝に連結している。北部は調査区域外に伸びており、確認できた長さは41mほどである。上幅1.47～2.71m、下幅0.42～1.29m、深さ60～74cmで、断面形はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。北部では、西側の壁際から人為的に埋められた形跡が認められ、南部では不規則な堆積状況を呈している。第1層は含有物から自然堆積である。

土層解説 (A-A', B-B')

1 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

5 褐色 褐鉄色粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量、下部褐鉄色(酸化による第二次底面)

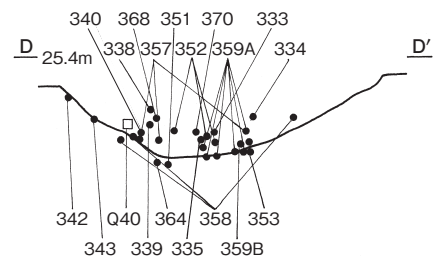
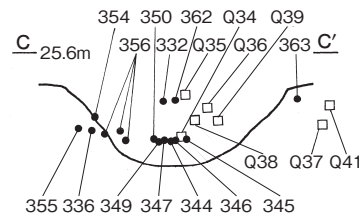
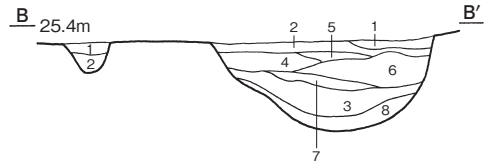
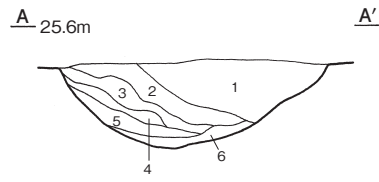
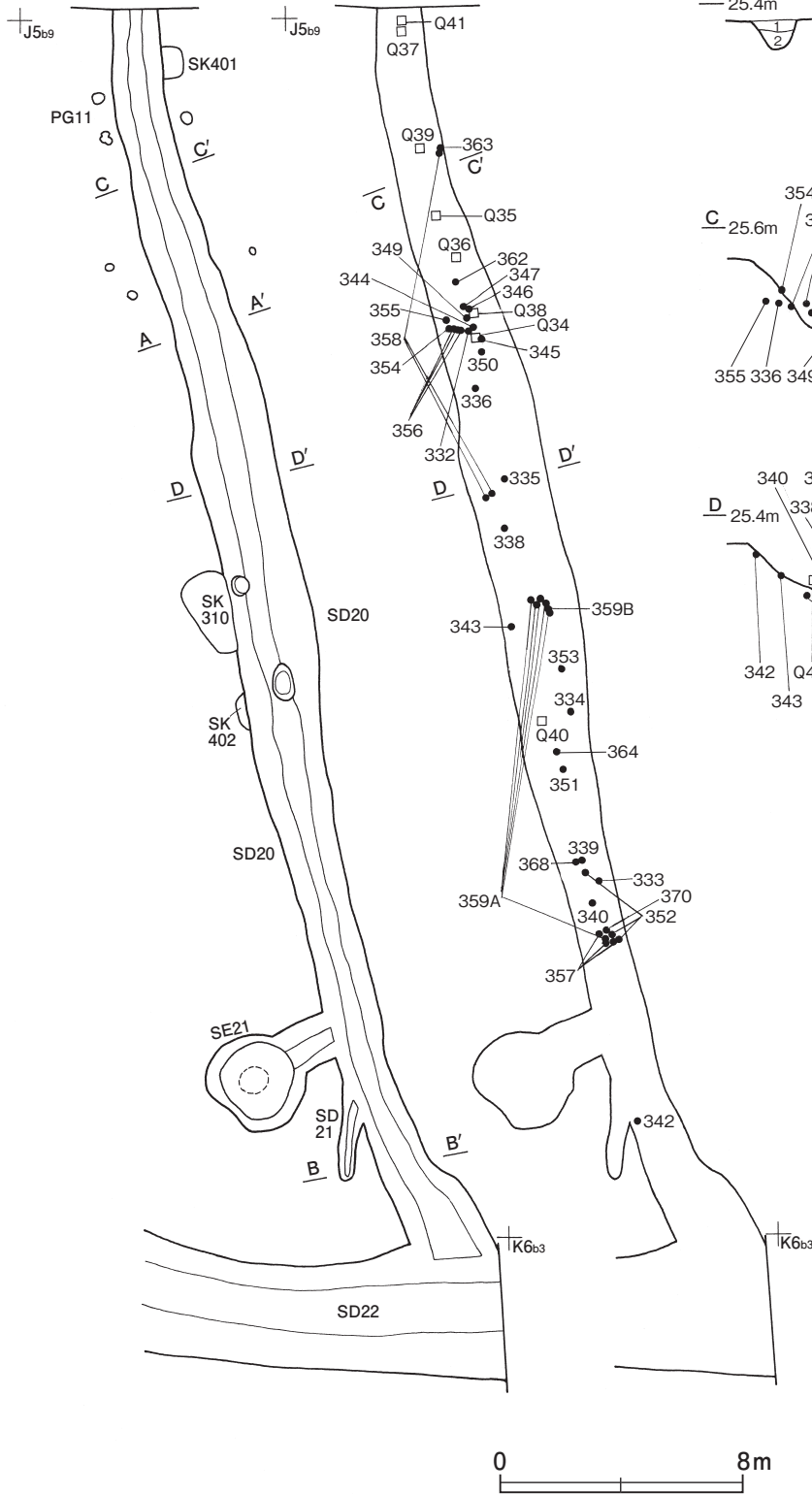
6 黒褐色 ローム粒子微量(第一次底面)

3 褐色 褐鉄色粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

7 褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、褐鉄色粘土ブロック微量

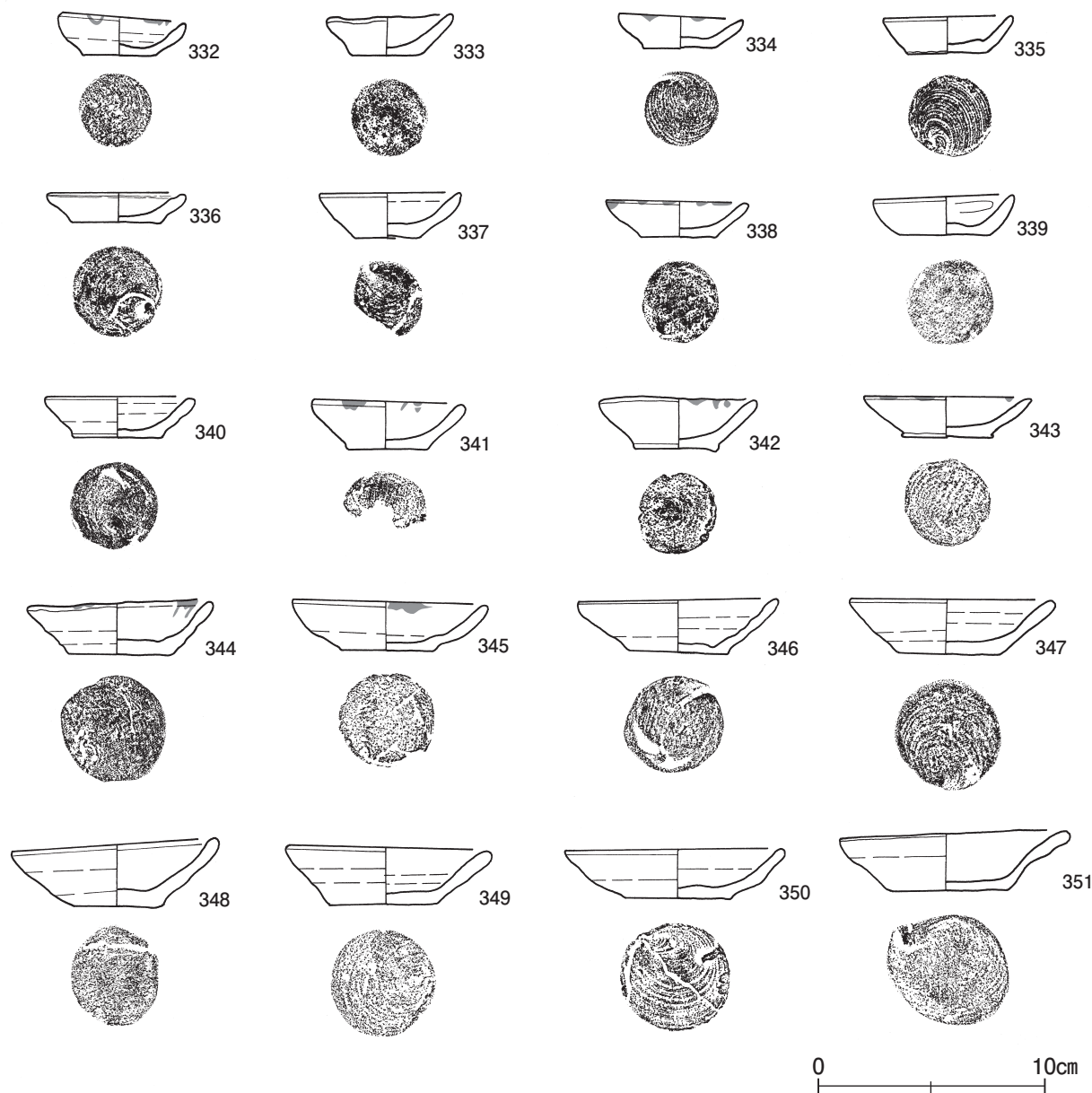
8 におい赤褐色 褐鉄色粘土粒子多量、炭化粒子微量(第一次底面)



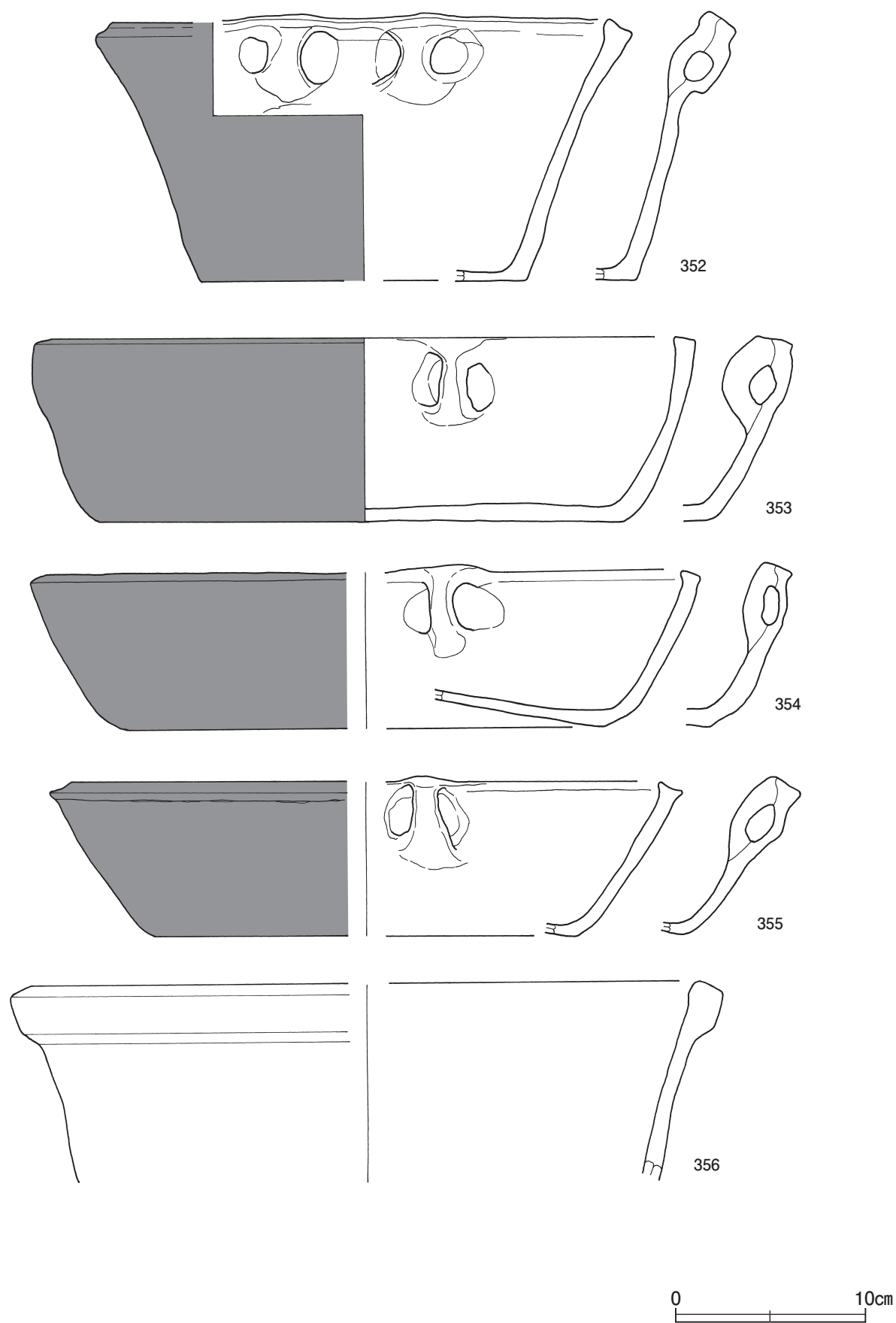
第344图 第20·21号沟迹实测图

遺物出土状況 土師質土器片868点（皿180，内耳鍋類527，甕8，香炉2，播鉢149，火鉢2），瓦質土器片5点（火鉢），陶器片14点（志野皿2，天目茶碗4，灰釉碗1，常滑甕4，瓶2，香炉1），石器・石製品16点（磨石1，石臼4，砥石10，不明1），石塔6点（五輪塔5，宝篋印塔1），鉄製品1点（不明），木片5点，鉄滓4点，重さ0.74～4.72kgの雲母片岩7点が出土している。332～371，Q34～Q41，M5は，北部から中央部にかけて集中して出土した多くの遺物に含まれるものであり，西側の屋敷域の廃絶に伴なって廃棄または流れ込んだものと考えられる。この他，縄文土器片25点，軽石1点，円礫54点も確認されている。

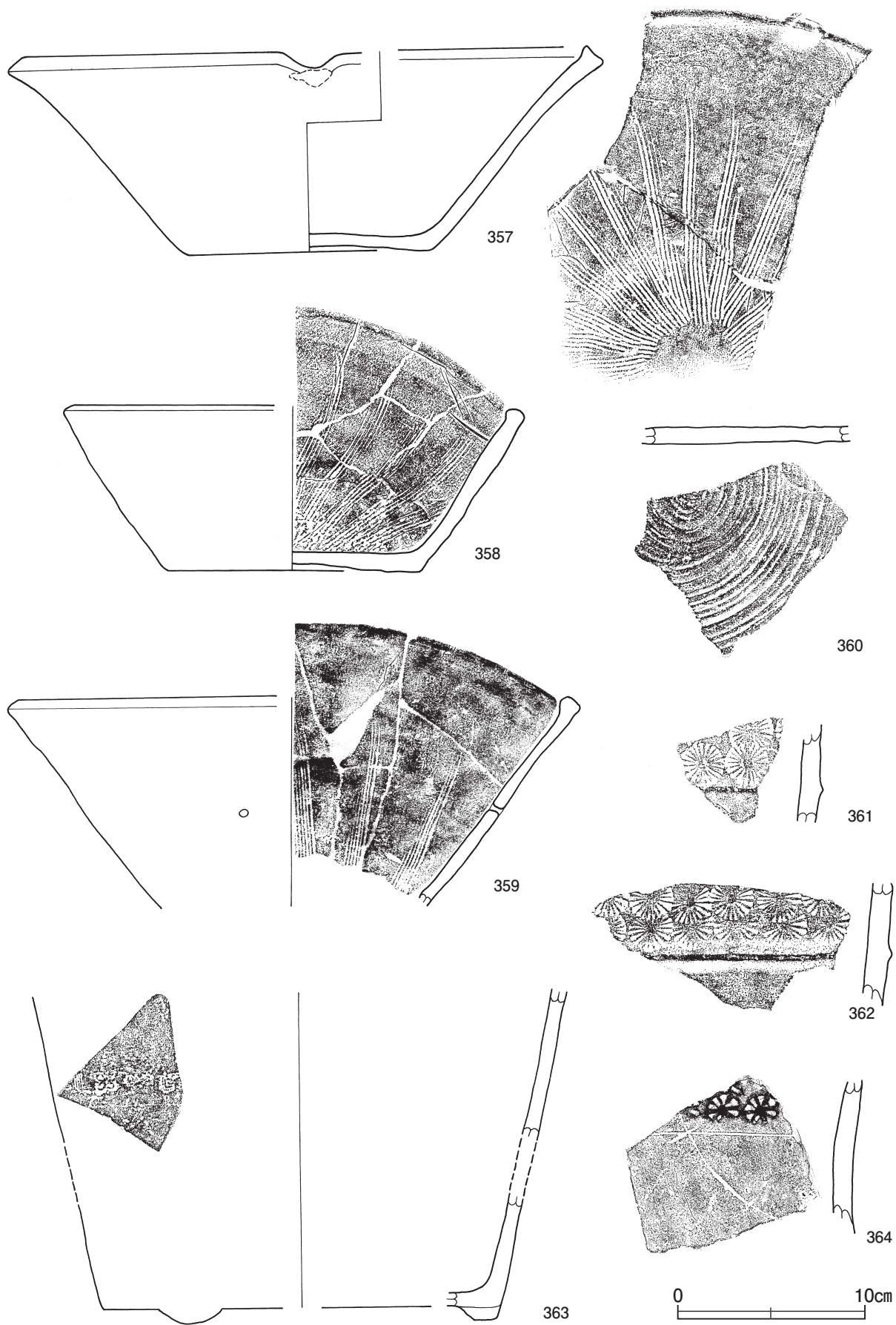
所見 覆土と底面の堆積状況から大きく2期にわたり使用されていたものと考えられる。方向と底面の高さから，雨水を南東部で連結する第22号溝に排水する機能と，屋敷のまとまりと考えられる第1～4号掘立柱建物，第11号ピット群を区画する区画溝としての機能が考えられる。また，本跡は第203号溝と調査区域外を挟んで連結していると想定される。時期は，出土土器から16世紀後半と考えられる。



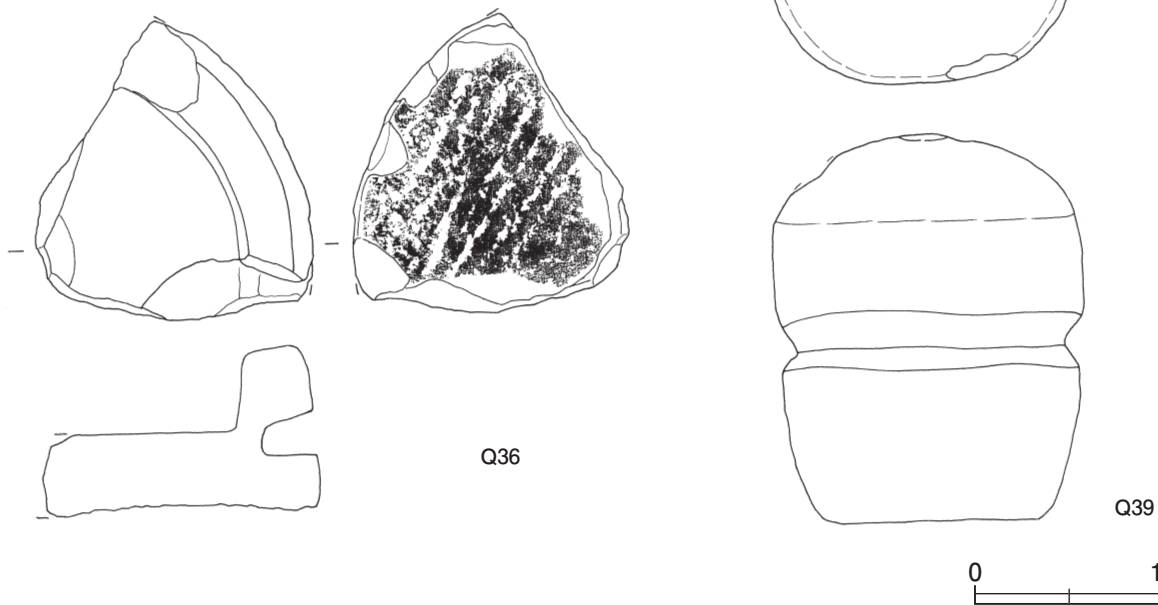
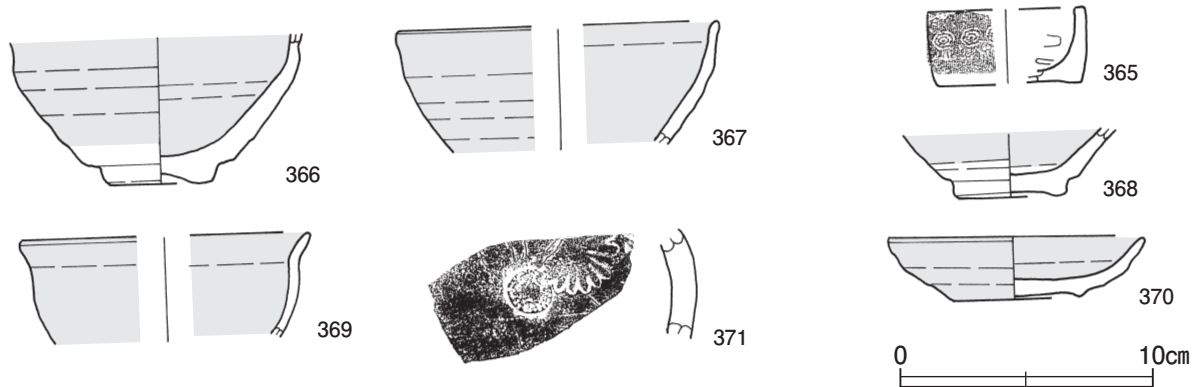
第345図 第20号溝跡出土遺物実測図(1)



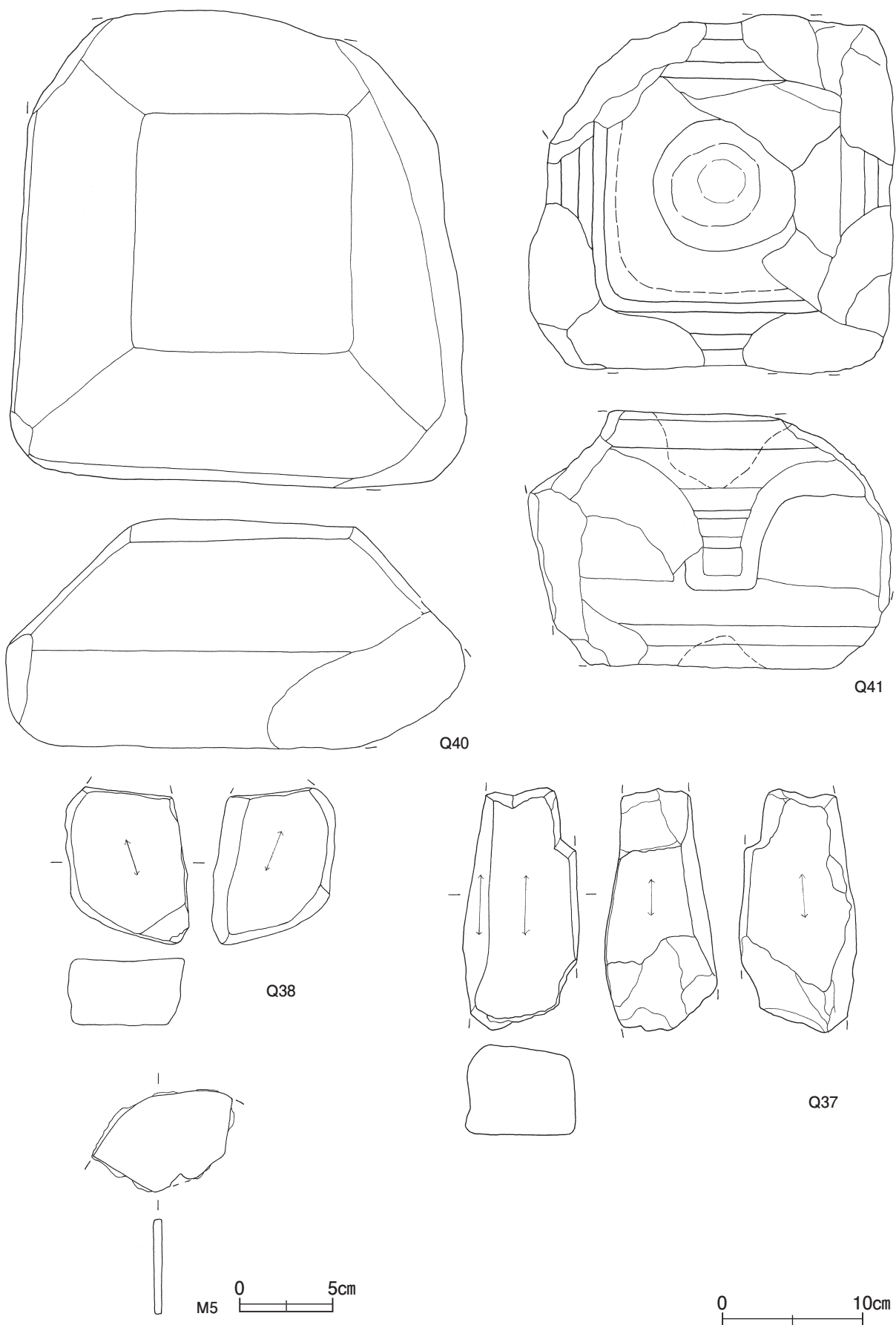
第346图 第20号沟迹出土遗物实测图(2)



第347图 第20号沟迹出土遺物実測図(3)



第348图 第20号沟迹出土遗物实测图(4)



第349图 第20号沟迹出土遺物実測図(5)

第20号溝跡出土遺物観察表 (第345 ~ 349図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|--------|--------|-----------------|-----------|----|------------------------------------|------|----------------------------|
| 332 | 土師質土器 | 皿 | 5.5 | 1.9 | 3.2 | 長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%成形にゆがみ 口唇部油煙付着 |
| 333 | 土師質土器 | 皿 | 5.6 | 1.8 | 3.4 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%成形にゆがみ |
| 334 | 土師質土器 | 皿 | 5.6 | 1.6 | 3.2 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 100%成形にゆがみ 口唇部油煙付着 PL108 |
| 335 | 土師質土器 | 皿 | 5.7 | 1.7 | 3.6 | 長石・砂粒 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 100% |
| 336 | 土師質土器 | 皿 | 6.0 | 1.4 | 4.0 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 口唇部内側に沈線 底部回転糸切り | 覆土下層 | 100% |
| 337 | 土師質土器 | 皿 | 6.2 | 2.0 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 90% |
| 338 | 土師質土器 | 皿 | 6.2 | 1.7 | 3.4 | 赤色粒子・砂粒 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 100%成形にゆがみ 口唇部油煙付着 PL108 |
| 339 | 土師質土器 | 皿 | 6.3 | 1.8 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% |
| 340 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 1.9 | 4.0 | 長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 90% |
| 341 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 3.6 | 長石・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60%口唇部油煙付着 |
| 342 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.2 | 3.6 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 95%成形にゆがみ 内面・口唇部油煙付着 PL108 |
| 343 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 1.8 | 4.0 | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 100%口唇部油煙付着 |
| 344 | 土師質土器 | 皿 | 8.1 | 2.5 | 4.6 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 99%口唇部油煙付着 PL108 |
| 345 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 2.3 | 4.2 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 95%口唇部油煙付着 |
| 346 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.6 | 4.3 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100%成形にゆがみ PL108 |
| 347 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 2.5 | 4.4 | 長石・雲母 | にぶい橙・一部褐灰 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部糸切り | 底面 | 100% PL108 |
| 348 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 3.1 | 4.0 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 100%成形にゆがみ |
| 349 | 土師質土器 | 皿 | 9.1 | 2.7 | 4.8 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロ成形後ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 100%成形にゆがみ |
| 350 | 土師質土器 | 皿 | 9.6 | 2.3 | 4.7 | 赤色粒子・砂粒 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 100% PL108 |
| 351 | 土師質土器 | 皿 | 9.9 | 2.7 | 5.4 | 長石・石英・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 70%成形にゆがみ |
| 352 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [26.6] | 14.1 | [17.4] | 長石・雲母 | 灰黄 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 覆土下層 | 20%体部外面煤付着 |
| 353 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 33.1 | 9.9 | 27.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | にぶい橙 | 普通 | 3内耳残存 耳部貼り付け 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土下層 | 70%体部外面煤付着 焙烙カ PL112 |
| 354 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [35.6] | 8.7 | [25.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土下層 | 20%体部外面煤付着 焙烙カ |
| 355 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.4] | (8.5) | 22.0 | 雲母・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土下層 | 15%体部外面煤付着 焙烙カ |
| 356 | 土師質土器 | 甕 | [35.0] | (10.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 口辺部破片 内・外面横ナデ | 底面 | |
| 357 | 土師質土器 | 播鉢 | [30.0] | 10.8 | 13.0 | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 断面T字状 5条1単位の播り目 | 底面 | 30% |
| 358 | 土師質土器 | 播鉢 | [23.0] | 8.8 | 13.8 | 長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部端部丸み 5条1単位の播り目 | 底面 | 30% |
| 359 | 土師質土器 | 播鉢 | [29.4] | (11.3) | — | 長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部端部内側につまみ出し 6条1単位の播り目 体部に穿孔1か所 | 覆土下層 | 30% |
| 360 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (11.2) | — | 石英・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 底面の破片 底面の外面に同心円状の文様 | 覆土中 | |
| 361 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (5.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | にぶい褐 | 普通 | 体部破片 外面に菊花のスタンプ文押印 | 覆土中 | |
| 362 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (6.5) | — | 長石・石英・雲母・礫 | 灰褐 | 普通 | 体部破片 外面に菊花のスタンプ文押印 | 覆土下層 | |
| 363 | 瓦質土器 | 火鉢 | — | [17.7] | [21.6] | 長石・雲母 | 褐灰 | 普通 | 内・外面ナデ 外面スタンプ文押印 三足脚のうち二足残存 | 底面 | 15% |
| 364 | 瓦質土器 | 火鉢 | — | (8.3) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 内・外面ナデ 外面スタンプ文押印 | 底面 | |
| 365 | 瓦質土器 | 香炉 | [6.4] | 3.0 | [5.8] | 石英 | 暗灰 | 普通 | 内・外面ナデ 外面に渦巻き状スタンプ文押印 外面黒色 | 覆土中層 | 65% PL114 |
| 366 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (5.7) | 4.1 | 精良 鉄釉 | 灰黄褐・黒褐 | 普通 | 削り出し高台 内・外面鉄釉 露体は無釉 疊付に鉄釉付着 見込に茶筌痕 | 覆土中 | 50%瀬戸・美濃系 PL114 |
| 367 | 陶器 | 天目茶碗 | [12.6] | (4.9) | — | 精良 鉄釉 | 灰黄褐・黒褐 | 良好 | 内・外面鉄釉 | 覆土中 | 10%瀬戸・美濃系 |
| 368 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (2.6) | 4.4 | 精良 褐釉 | 灰褐・褐 | 良好 | 削り出し高台 内・外面褐釉 露体に錆カ | 底面 | 20%瀬戸・美濃系 |
| 369 | 陶器 | 碗 | [11.4] | (4.2) | — | 精良 灰釉 | 明褐灰・浅黄 | 良好 | 口辺部外反 ロクロ成形 内・外面オリ 黄の灰釉を施釉 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |
| 370 | 陶器 | 丸皿 | 10.1 | 2.7 | 5.3 | 精良 灰釉 | 白・オリープ黄 | 良好 | 削り出し高台 高台内面にトチン痕 全体に施釉 志野皿 | 覆土中層 | 95%瀬戸・美濃系 PL115 |
| 371 | 陶器 | 香炉 | — | (4.4) | — | 精良 灰釉カ | 灰白・オリープ黄 | 普通 | 外面に菊花のスタンプ文押印 釉剥離 釉溜まり痕 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系カ |

| 番号 | 器種 | 径・長さ | 孔径・幅 | 高さ・厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|--------|--------|-------|-------|----------|-----|-------------------------------------|------|--------|
| Q34 | 石白(上白) | [28.0] | [4.0] | 10.8 | (2682.7) | 安山岩 | 8条1単位の播り目 | 底面 | PL117 |
| Q35 | 石白(上白) | [23.1] | [3.8] | 7.0 | (1893.9) | 安山岩 | 上側8条1単位の播り目カ 軸受け横打込孔残存 裏側播り目痕 | 底面 | 下白の転用カ |
| Q36 | 石白(上白) | [29.2] | — | 8.9 | (1639.0) | 安山岩 | 上側8条1単位の播り目カ 軸受け横打込孔残存 播り目 摩滅し炭化物残存 | 覆土下層 | |
| Q37 | 砥石 | (17.2) | 8.2 | 8.0 | (1533.1) | 砂岩 | 両端部欠損 砥面3面 | 覆土中層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|--------------|--------|--------|--------|---------|-----|------------------------|------|-------|
| Q38 | 砥石 | 11.1 | 8.9 | 4.7 | (783.4) | 砂岩 | 端部欠損 砥面2面 | 覆土中層 | |
| Q39 | 五輪塔 (空風輪) | 20.5 | 16.3 | (14.5) | (7120) | 花崗岩 | 空輪と風輪のくびれ明瞭 空輪の頭頂部一部欠損 | 覆土下層 | PL118 |
| Q40 | 五輪塔 (火輪) | (34.0) | (32.5) | 16.2 | (24380) | 花崗岩 | ほぼ直線的な軒 軒先欠損 | 覆土中層 | |
| Q41 | 宝篋印塔 (笠) | (25.4) | (25.8) | 18.1 | (17760) | 花崗岩 | 風化のため後線が不明瞭 隅飾突起四方とも欠損 | 覆土上層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|-------|-------|-----|--------|----|-------------|------|-------|
| M5 | 不明 | (5.5) | (7.4) | 0.4 | (42.5) | 鉄 | 両端部欠損 板状の破片 | 覆土中 | PL123 |

第21号溝跡 (第344図)

位置 調査区南西部のJ 6 j1 ~ K 6 a1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第20号溝を切り、同時期に機能していたと考えられる。

規模と形状 K 6 a1区から北方向 (N - 7° - E) へ直線的に延び、第20号溝に連結している。確認された長さは3.4mで、上幅0.54 ~ 0.69m、下幅0.19 ~ 0.22m、深さ26cmである。断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。壁際からレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説 (B - B')

- 1 褐 色 粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子微量 2 黄 褐 色 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

所見 方向と底面の高さから、雨水等を第20号溝に排水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から第20号溝と同時期の16世紀後半と考えられる。

第25号溝跡 (第350・351図)

位置 調査区南西部のK 5 d3 ~ K 5 h1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 ほぼ同時期に第11・57号溝を切り、第19A・56号溝に切られ、第372号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 K 5 c2区で第11号溝に連結し、さらに南西方向 (N - 150° - W) へ直線状に延びて、第56・57号溝と連結している。確認された長さは21mほどで、上幅1.4 ~ 2.04m、下幅0.16 ~ 0.42m、深さ46 ~ 56cmである。断面形は浅い部分が浅いU字状、深い部分では逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

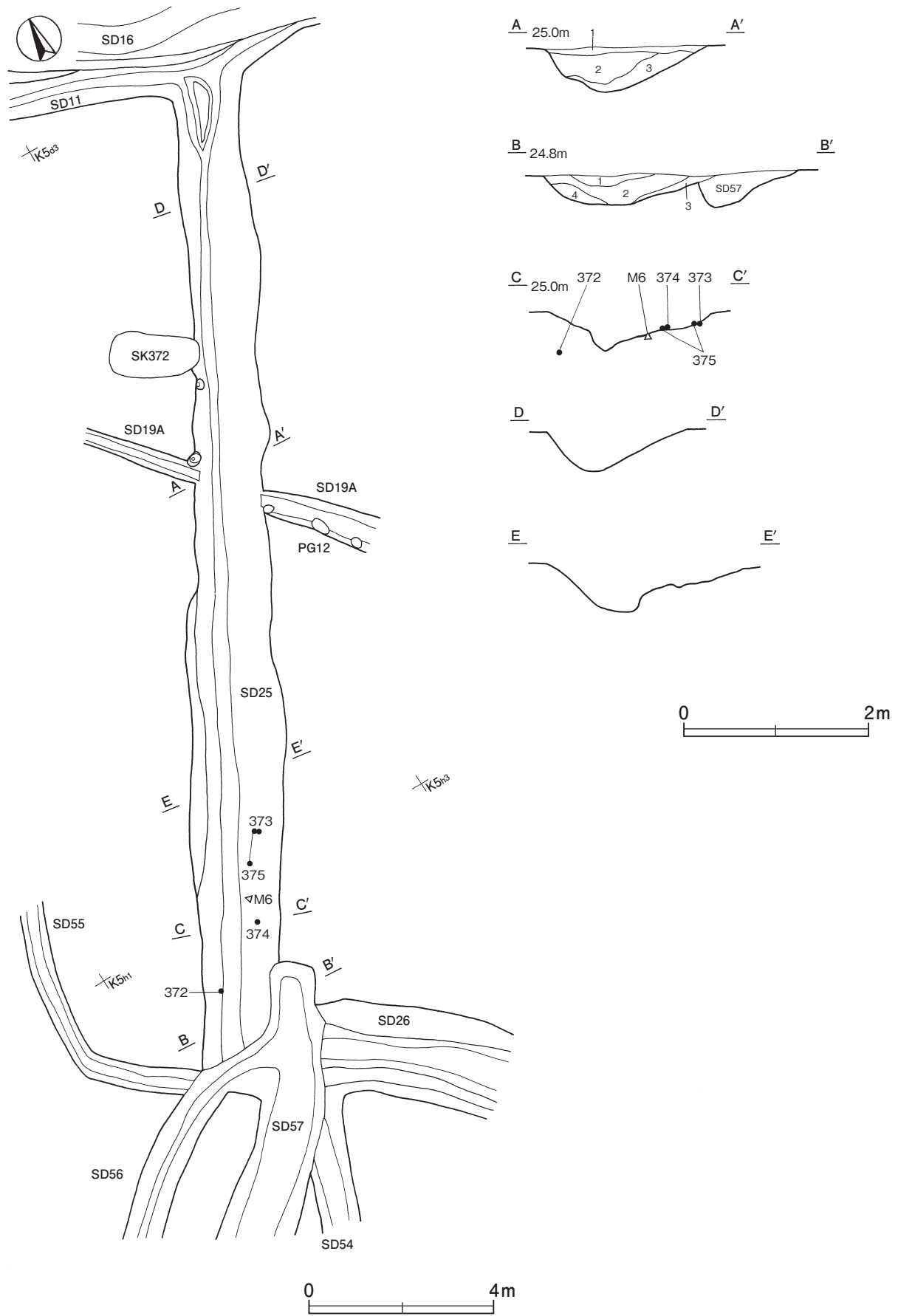
覆土 4層に分層される。壁際から流入したような堆積状況を示しているが、遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。第1層は硬化しており、埋没後に、道路として使用されていたと推測される。

土層解説

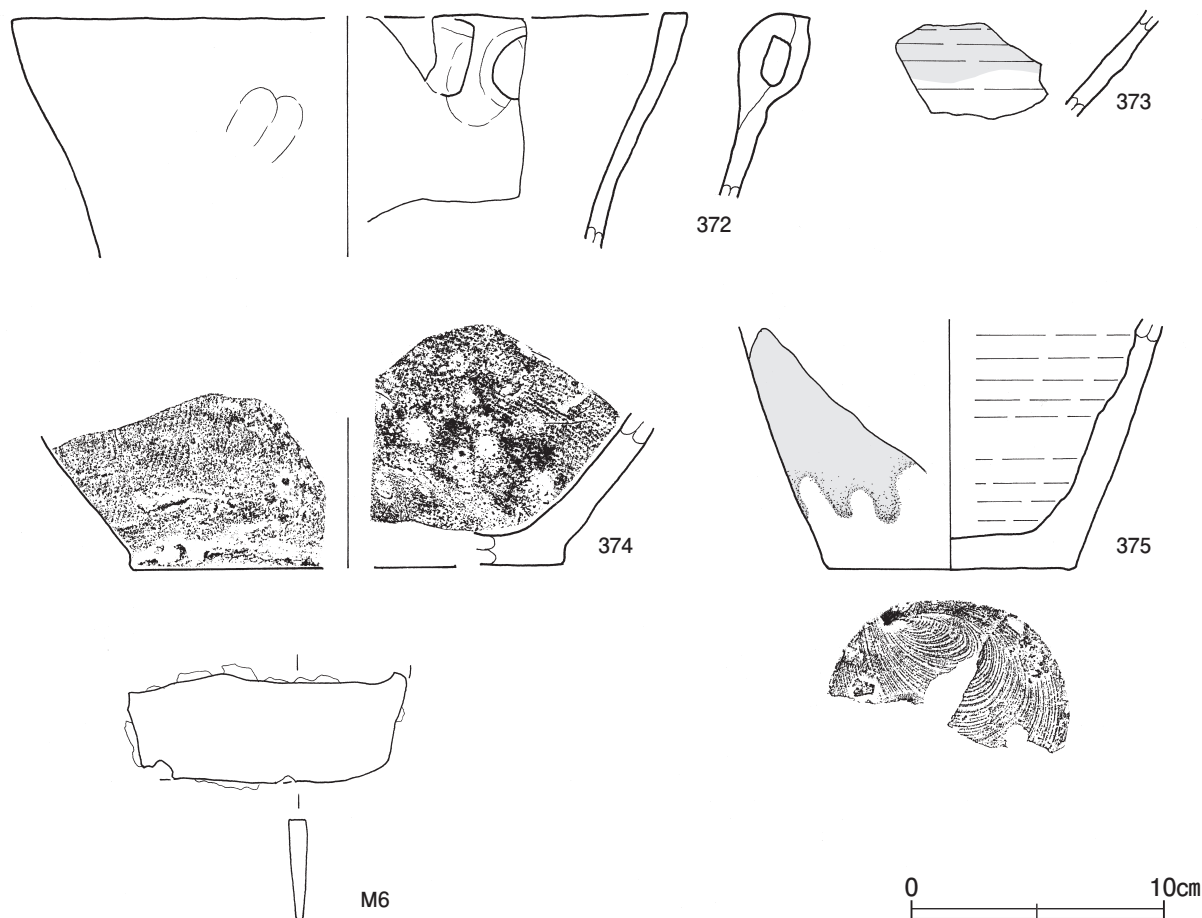
- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片47点 (皿10, 内耳鍋37), 陶器片11点 (縁釉皿1, 常滑系甕7, 瓶3), 磁器片1点 (碗), 瓦片1点, 石器3点 (石臼2, 砥石1), 鉄製品1点 (火打金カ), 軽石1点, 円礫78点が出土している。372 ~ 375は、南部の重複部に近い部分に多くの遺物とともにまとまって出土しており、東側の居住区域と考えられる第12号ピット群から投棄されたものと考えられる。

所見 第56・57号溝と第11号溝を南北に連結している。底面の高低差から考えると第11号溝を経て、北の第16号溝へと雨水等を排水していた溝と考えられ、当集落の終末期までその機能を果たしていたと推測される。時期は、出土土器から16世紀末と考えられる。



第350图 第25号沟迹实测图



第351図 第25号溝跡出土遺物実測図

第25号溝跡出土遺物観察表（第351図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|--------|--------|----------------|--------------|----|---|------|---|
| 372 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [27.0] | (9.6) | — | 石英・雲母・赤色 粒子 | 明赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け 縁部外面横ナデ 内面から口 | 底面 | |
| 373 | 陶器 | 縁釉大皿 | — | (4.3) | — | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 外面上位灰釉 | 覆土中層 | 瀬戸・美濃系 |
| 374 | 陶器 | 甕 | — | (6.0) | [17.0] | 精良 石英 | にぶい橙 | 良好 | 内・外面ナデ | 覆土中層 | 常滑系 |
| 375 | 陶器 | 灰釉瓶 | — | (10.6) | [10.0] | 長石・黒色粒子・ 灰釉 | 灰白・オリ ーブ黄 | 良好 | ロクロ成形 外面上位から中位まで釉掛 け 底部回転糸切り 破断面漆繋ぎ痕 | 覆土下層 | 20%瀬戸・美濃系 SD26底面から同一個 体破片出土 PL115 |

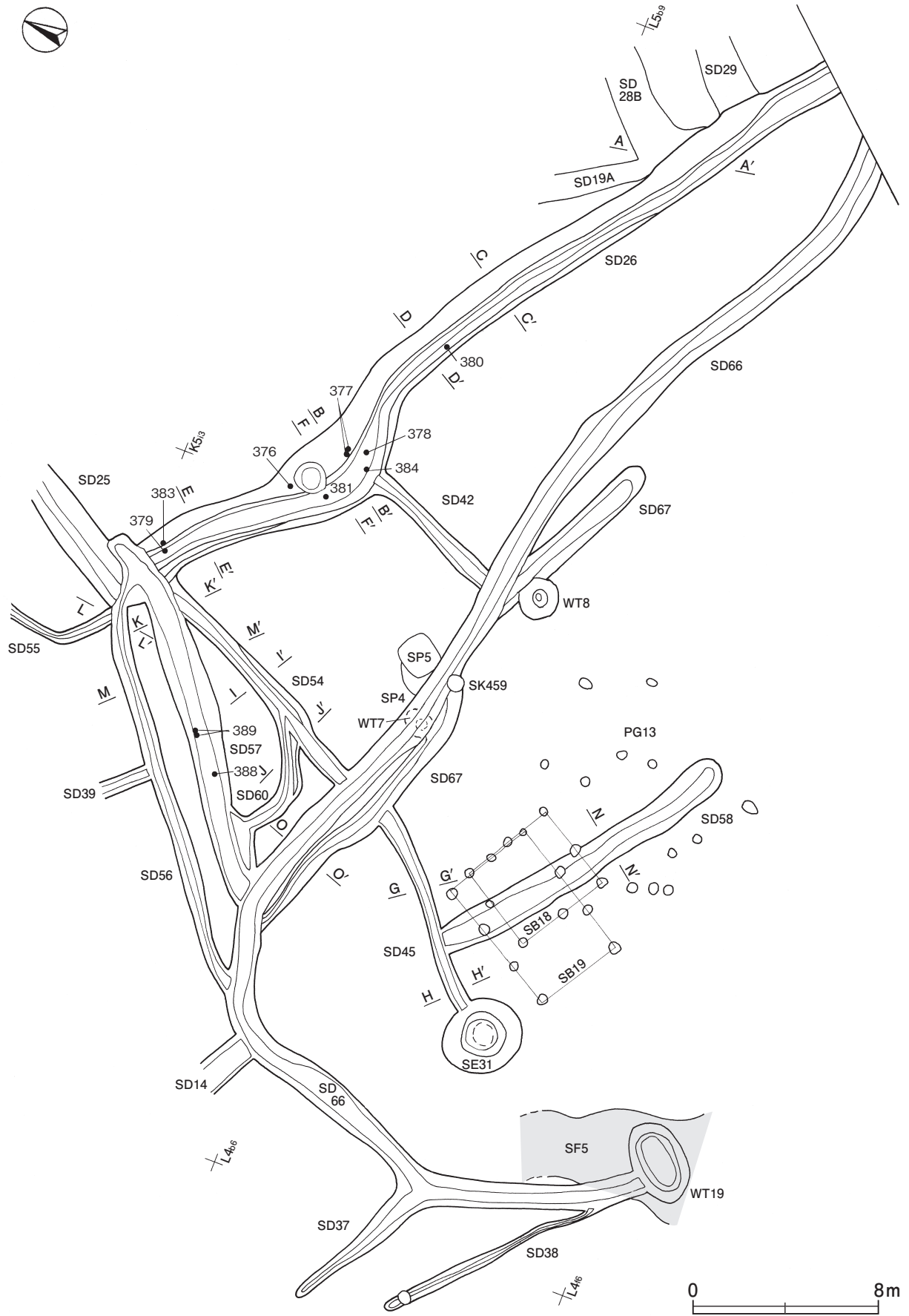
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|--------|-------|-----|--------|----|-----------|------|-------|
| M6 | 火打金カ | (11.1) | (4.4) | 0.7 | (83.9) | 鉄 | 端部欠損 板状破片 | 底面 | PL123 |

第26号溝跡（第352～354図）

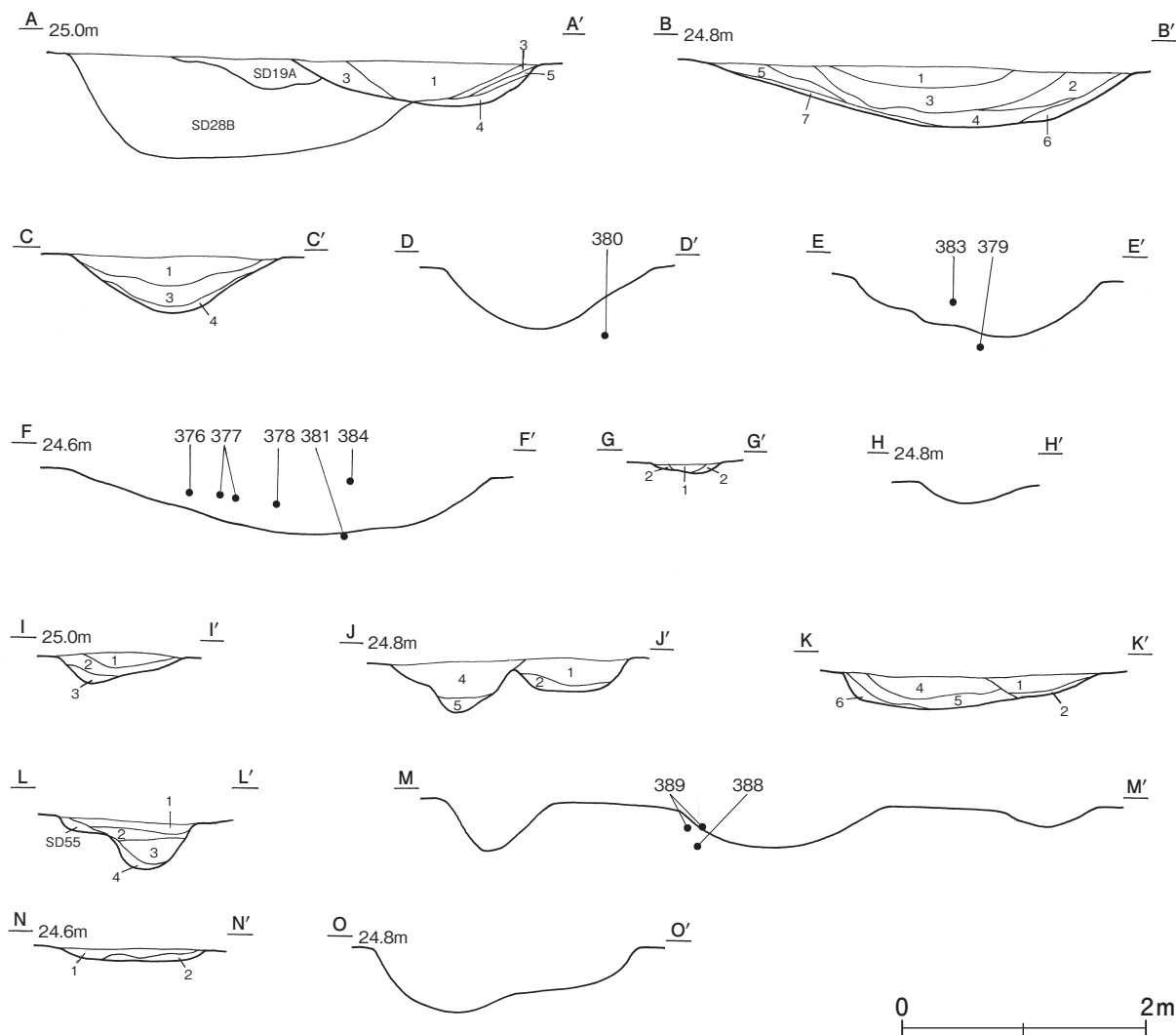
位置 調査区南部のK 5 h1～L 5 d9区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第19A・28B・29号溝跡を掘り込み、第54号溝を切り、第42・57号溝に切られている。

規模と形状 L 5 d9区の調査区域外から北西方向（N-59°-W）へ延び、K 5 h1区で第56・57号溝と連結している。形状は、一部緩やかに蛇行しているがほぼ直線的であり、確認できた長さは36mほどで、上幅1.7～3.45m、下幅0.2～1.0m、深さ40～59cmである。断面形は弧状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。



第352图 第26・42・45・54・56～58・60・66・67号沟迹实测图(1)



第353図 第26・42・45・54・56～58・60・66・67号溝跡実測図(2)

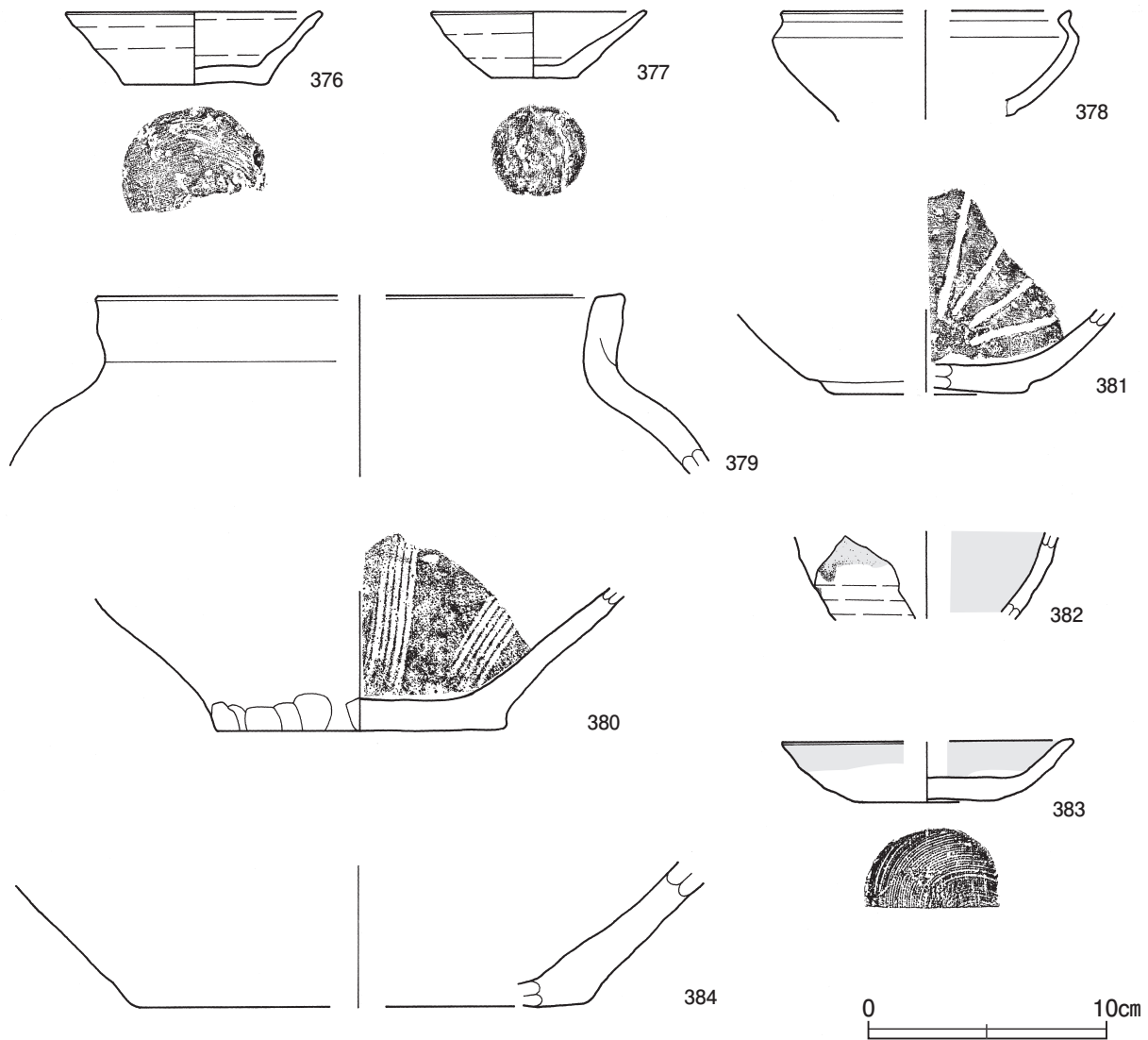
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈した自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A', B-B', C-C')

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片407点 (皿90, 内耳鍋類304, 香炉1, 甕2, 播鉢10), 陶器片15点 (天目茶碗1, 縁釉皿1, 常滑系甕9, 常滑系片口鉢3, 瓶1), 土製品1点 (不明), 石器6点 (磨石2, 石臼1, 砥石3), 鉄滓3点が出土している。376～384を含む土器片の多くは破片であり, 中央部の第42号溝と重複する掘り方が深い部分の覆土中及び底面を中心に出土している。これらは, 北側の屋敷域と想定される第14・15掘立柱建物, 第12号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。この他, 流れ込みによる土師器片52点, 須恵器片3点が細片で出土し, 礫38点も確認されている。

所見 第66号溝に並行して, ほぼ東西に延びる溝で, 東西に位置して南北に延びる第25号溝と連結する区画溝と推測される。連結により, 雨水等を東西に排水する機能をもっていたと推測される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第354図 第26号溝跡出土遺物実測図

第26号溝跡出土遺物観察表（第354図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|-------|--------|---------------|------------|----|---------------------------|------|------------|
| 376 | 土師質土器 | 皿 | 10.8 | 3.0 | 6.2 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 60% |
| 377 | 土師質土器 | 皿 | 9.1 | 2.8 | 3.8 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 70% PL108 |
| 378 | 土師質土器 | 香炉 | [12.2] | (4.6) | — | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 底部欠損 体部内・外面ナデ | 底面 | 20% |
| 379 | 土師質土器 | 甕 | [22.4] | (7.6) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 良好 | 口辺部破片 体部内・外面ナデ 輪積痕 | 底面 | |
| 380 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.0) | [12.0] | 長石・石英・雲母 | 灰褐 | 普通 | 内面摩滅6条1単位の播り目 外面下端横位のヘラナデ | 底面 | 20% |
| 381 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (3.5) | [8.4] | 長石・石英・雲母 | にぶい橙・灰褐 | 普通 | 内面1条1単位の播り目 外面ナデ | 底面 | |
| 382 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (3.7) | — | 精良 黒色粒子・鉄釉 | 灰白・黒褐 | 良好 | 内・外面中位鉄釉 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |
| 383 | 陶器 | 縁袖皿 | [12.4] | 2.5 | 5.4 | 精良 灰釉 | にぶい橙・灰オリーブ | 良好 | 底面糸切り 見込にトチン痕 漬け釉 | 覆土下層 | 40% 瀬戸・美濃系 |
| 384 | 陶器 | 甕 | — | (6.0) | [19.2] | 精良 石英 | 黄褐 | 良好 | 内・外面ナデ | 覆土下層 | 常滑系 |

第42号溝跡（第352・353・355図）

位置と規模 調査区南部のK 5 j3 ~ L 5 b2区に位置している。L 5 b2区で第66号溝から分派し、北東方向（N - 20° - E）へ直線的に伸び、K 5 j3区で第26号溝に連結している。確認された長さは17mほどで、上幅0.65 ~

1.03m, 下幅0.12～0.6m, 深さ20～22cmである。断面形は弧状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 暗褐色と黒褐色の覆土からなる。含有物とレンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片42点(皿8, 内耳鍋類32, 挿鉢2), 瓦質土器1点(火鉢カ), 陶器片2点(常滑系甕), 磁器片2点(碗), 礫3点が出土している。385は, 第26号溝近くの覆土中から出土している。

所見 第26号溝と第66号溝を連結し, 雨水の水量を調整していたと推測される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第45号溝跡 (第352・353・355図)

位置と規模 調査区南部のL4b0～L4c8区に位置している。L4c8区で第31号井戸から派生し, 北東方向(N-49°-E)へ直線的に伸び, 第67号溝に連結している。長さは8.8mで, 上幅0.6～0.9m, 下幅0.18～0.62m, 深さ7～15cmである。断面形は緩やかなU字状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説 (G-G')

1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋2, 挿鉢1), 白磁片1点(小杯), 須恵器片1点が出土している。386・387は, ともに覆土中から出土している。

所見 第31号井戸と第67号溝を連結し, 水量調整の機能をもっていたと考えられる。また, 第58号溝からの雨水が流れ込んでおり, 第54号溝との接続も推測される。時期は, 出土土器と重複関係から, 16世紀代と考えられる。

第54号溝跡 (第352・353図)

位置と規模 調査区南西部のK5i1～L4a0区に位置している。K5i1区で第57号溝から派生し, 南西方向(N-150°-W)へ直線的に伸び, L4a0区で第66号溝と連結している。長さは11.6mで, 上幅0.74～0.92m, 下幅0.21～0.48m, 深さ14～20cmである。断面形は弧形で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説 (I-I', J-J', K-K')

1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片26点〔皿9, 内耳鍋12, 外耳鍋(茶釜カ)1, 甕3, 罌カ1〕, 瓦片2点(平瓦)が出土しているが, 細片である。

所見 第57号溝から派生し, 第60・66号溝とも連結しており, 伸びる方向と形状から第45号溝とも連結する可能性が推測される。時期は, 出土土器の傾向と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第56号溝跡 (第352・353・355図)

位置 調査区南部のK5h1～L4a7区で, 標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第25・55・57・66号溝を切り, 第39号溝に切られている。

規模と形状 L4a7区で第66号溝と連結して, 北東方向(N-55°-E)へ弓状に伸び, K5h1区で第25・55・57号溝を切っている。長さは19mほどで, 上幅0.5～1.2m, 下幅0.1～0.9m, 深さ36～40cmである。断面形はU字状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説 (L-L')

- | | | | |
|---------|---------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化物・粘土粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 土師質土器片35点(皿6, 内耳鍋27, 甕2), 陶器片1点(灰釉皿)と, 流れ込んだ縄文土器片4点が出土している。

所見 第66号溝から派生し, 第25・26・55・57号溝が重複するところを掘り込むかたちで連結しているが, 本来第26号溝と同一溝の可能性も考えられる。また, 並行している第57号溝も第25号溝と第66号溝を連結しており, 本溝跡は延びる方向と形状から第57号溝の補助的な機能をもっていたと推測される。時期は, 出土土器の傾向と重複関係から16世紀代後半と考えられる。

第57号溝跡 (第352・353・355図)

位置 調査区南部のK 5 h1 ~ L 4 a8区で, 標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第26・54・66号溝を切り, 第25・56・60号溝に切られている。

規模と形状 K 5 h1区で第26号溝から派生し, 南西方向(N-127°-W)へ直線的に延び, L 4 a8区で第66号溝に連結している。長さは16.4mで, 上幅0.95 ~ 1.66m, 下幅0.5 ~ 0.9m, 深さ18 ~ 35cmである。断面形は逆台形状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況を呈していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説 (K-K')

- | | | | |
|---------|-----------------|-------|-------------------------------|
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ローム粒子中量, 粘土粒子・酸化鉄粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片122点(皿12, 内耳鍋105, 香炉1, 播鉢4), 陶器片3点(常滑系甕2, 渥美系壺カ1), 石器5点(磨石1, 砥石3, 石臼1), 鉄製品1点(不明)が出土している。388 ~ 390の土器は, 中央部の覆土下層から底面にかけて出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片1点, 須恵器片4点, 礫3点も出土している。

所見 第26号溝から派生し, 第66号溝に連結している。延びる方向と形状から雨水等を低地の谷津方向へ排水する機能をもっていたと推測される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第58号溝跡 (第352・353図)

位置と規模 調査区南部のL 4 c9 ~ L 5 e1区に位置している。L 5 e1区から北西方向(N-55°-W)へ直線的に延び, L 4 c9区で第45号溝に流れ込んでいる。長さは14mほどで, 上幅1.18 ~ 1.54m, 下幅0.44 ~ 0.98m, 深さ10cmほどである。断面形は皿状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説 (N-N')

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|-----------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
|---------|-------------------------|---------|-----------------|

所見 第45号溝に雨水等を排水していたと考えられる。第31号井戸に隣接し, 第18・19号掘立柱建物や第13号ピット群と重複しているが, 詳細は不明である。なお, 調査区南東部の第171号溝も掘立柱建物と重複する同様の溝である。時期は, 重複関係から16世紀代と考えられる。

第60号溝跡 (第352・353・355図)

位置と規模 調査区南西部のL 4 j9～L 4 j0区に位置している。L 4 j0区で第54号溝から派生し、南西方向(N-114°-W)へ曲線的に延び、L 4 j9区で第57号溝に流れ込んでいる。長さは4.2mで、上幅0.7～0.8m、下幅0.38～0.62m、深さ40cmほどである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説 (J-J')

4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

5 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片21点(皿5, 内耳鍋15, 播鉢1), 陶器片1点(常滑系甕)が覆土中から細片で出土している。391も覆土中からの出土である。

所見 第54号溝と第57号溝を掘り込んで連結し、水量調整の機能をもっていたと推測される。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第66号溝跡 (第352・353・355図)

位置 調査区南部のL 4 f7～L 5 d8区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第4・5号方形竪穴遺構, 第7号水溜遺構を掘り込み, 第5号道路, 第459号土坑に掘り込まれている。また, 第67号溝, 第19号水溜遺構を切り, 第14・37・38・42・54・56・57号溝に切られている。

規模と形状 調査区域外に接するL 5 d8区から, 西方向(N-75°-W)へ直線的に延び, L 4 a8区付近で大きくに南西方向(N-20°-W)へ彎曲し, その後L 4 f7区まで緩やかな曲線を描いて第19号水溜遺構に連結する。確認された長さは67mほどで, 上幅0.85～1.6m, 下幅0.2～1.05m, 深さ50～65cmである。断面形は緩やかなU字状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ローム粒子と粘土粒子をわずかに含んだ黒褐色土と暗褐色土からなり, 含有物とレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片18点(皿6, 鍋類11, 播鉢1), 陶器片5点(縁釉皿, 常滑甕, 瓶カ, 渥美系瓶カ, 鉢カ)と, 流れ込んだ須恵器片1点が覆土中からいずれも小片で出土している。392も覆土中からの出土である。

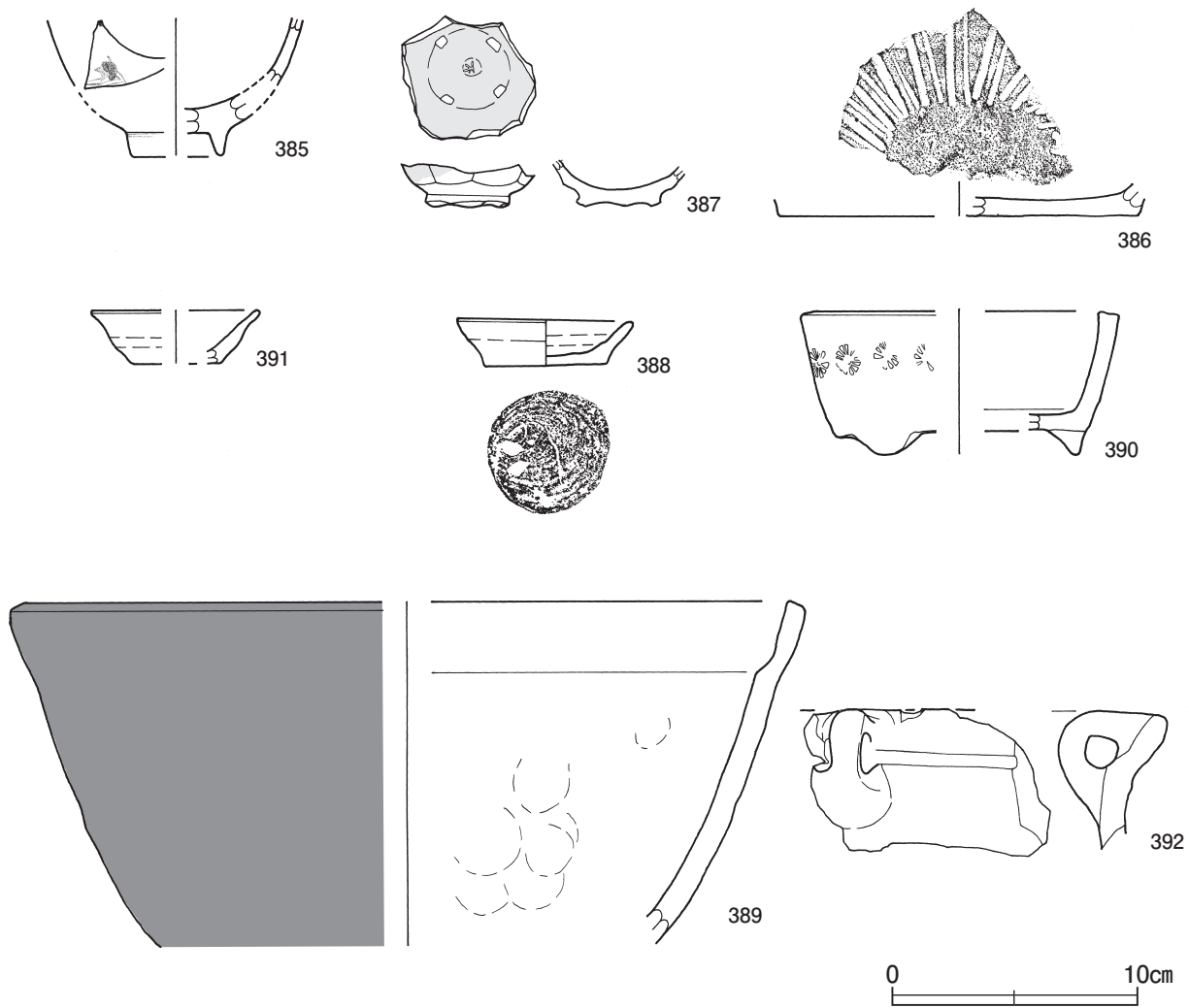
所見 調査区南部の中央を大きく彎曲するように掘られており, 8条の比較的小規模の溝と連結している。雨水等を効率よく排水する機能をもっていたものと推測できる。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第67号溝跡 (第352・353図)

位置と規模 調査区南部のL 4 a8～L 5 c4区に位置している。第66号溝と重複しているL 5 c4区から, 北西方向(N-75°-W)へほぼ直線的に延び, L 4 b1とL 4 a8区で再び第66号溝と重複している。確認された長さは23mほどで, 上幅0.98～1.3m, 下幅0.2～0.35m, 深さ35～45cmである。断面形は緩やかなU字形で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ローム粒子を, 少量または微量含んだ黒褐色土と暗褐色土からなり, レンズ状の堆積状況を呈した自然堆積である。

所見 大きく第66号溝に切られ, 切られる以前は第66号溝と同様に雨水等を効率よく排水する機能をもっていたものと推測される。時期は, 重複関係から16世紀代と考えられる。



第355図 第42・45・57・60・66号溝跡出土遺物実測図

第42号溝跡出土遺物観察表（第355図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|----|-------|-------|--------|--------|----|---------------------|------|---------|
| 385 | 磁器 | 丸碗 | — | [5.6] | [3.8] | 精良 透明釉 | 灰白・明青灰 | 良好 | 削り出し高台 砂目高台 畳付無袖 青絵 | 覆土中 | 10%伊万里系 |

第45号溝跡出土遺物観察表（第355図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|----|-------|--------|--------|-------|----|--|------|--------------|
| 386 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (1.3) | [14.4] | 長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部片 2条1単位の播り目 | 覆土中 | |
| 387 | 白磁 | 小坏 | — | 1.8 | 2.9 | 精良 透明釉 | 灰白・灰白 | 良好 | 削り出し高台 畳付削り面取 外面下端8面の面取 見込みに梅花文カ4か所のトチン痕と擦痕 内・外面貫入 | 覆土中 | 40%中国産 PL126 |

第57号溝跡出土遺物観察表（第355図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|------|----|-----------------------------|------|-------------|
| 388 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.0 | 5.0 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 80% |
| 389 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.4] | (14.1) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 内面指頭痕を残すナデ 外面ナデ | 覆土下層 | 10% 体部外面爆付着 |
| 390 | 土師質土器 | 香炉 | [11.6] | 5.8 | [10.5] | 長石・石英・雲母・小礫 | 橙 | 普通 | 脚部1足残存 体部内・外面ナデ 外面に菊花のスタンプ文 | 覆土中 | 20% |

第60号溝跡出土遺物観察表（第355図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|---------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 391 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 2.2 | [3.7] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 25% |

第66号溝跡出土遺物観察表（第355図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-----|----|------------|-------|----|---------------------------------|------|------------|
| 392 | 土師質土器 | 内耳鍋 | (22.4) | 5.8 | — | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け後ナデ 内面指頭痕を残すナデ 外面ナデ | 覆土中 | 10%体部外面燥付着 |

第31号溝跡（第356～358図）

位置 調査区南部のM4e2～M4h5区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第41・43号井戸を切っている。

規模と形状 M4h5区で第43号井戸から、西方向（N-115°-W）、さらに北西方向（N-40°-W）へ鉤の手状に延び、第41号井戸に連結している。長さは19.4mで、上幅1.26～2.14m、下幅0.36～0.72m、深さ24～46cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説（A-A'）

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器片15点（皿4、内耳鍋10、壺カ1）、礫1点がいずれも小破片で出土している。442は、覆土中から出土している。

所見 井戸と井戸を繋ぐ溝で、第43井戸から第41号井戸への水量調整の機能をもっていたと考えられる。第41・43号井戸は、当遺跡調査区域南端の最も低い位置に立地しており、南部の雨水の水量調整及び排水の機能を果たしていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第32号溝跡（第356・357図）

位置 調査区南部のM4d2～M4g5区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第41・43号井戸を切り、同時期に機能していたと考えられる。

規模と形状 M4g6区で第43号井戸から、西方向（N-150°-W）、さらに（N-54°-W）へ鉤の手状に延び、第41号井戸に連結している。長さは17mほどで、上幅0.40～1.74m、下幅0.19～0.62m、深さ9～16cm、断面形はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

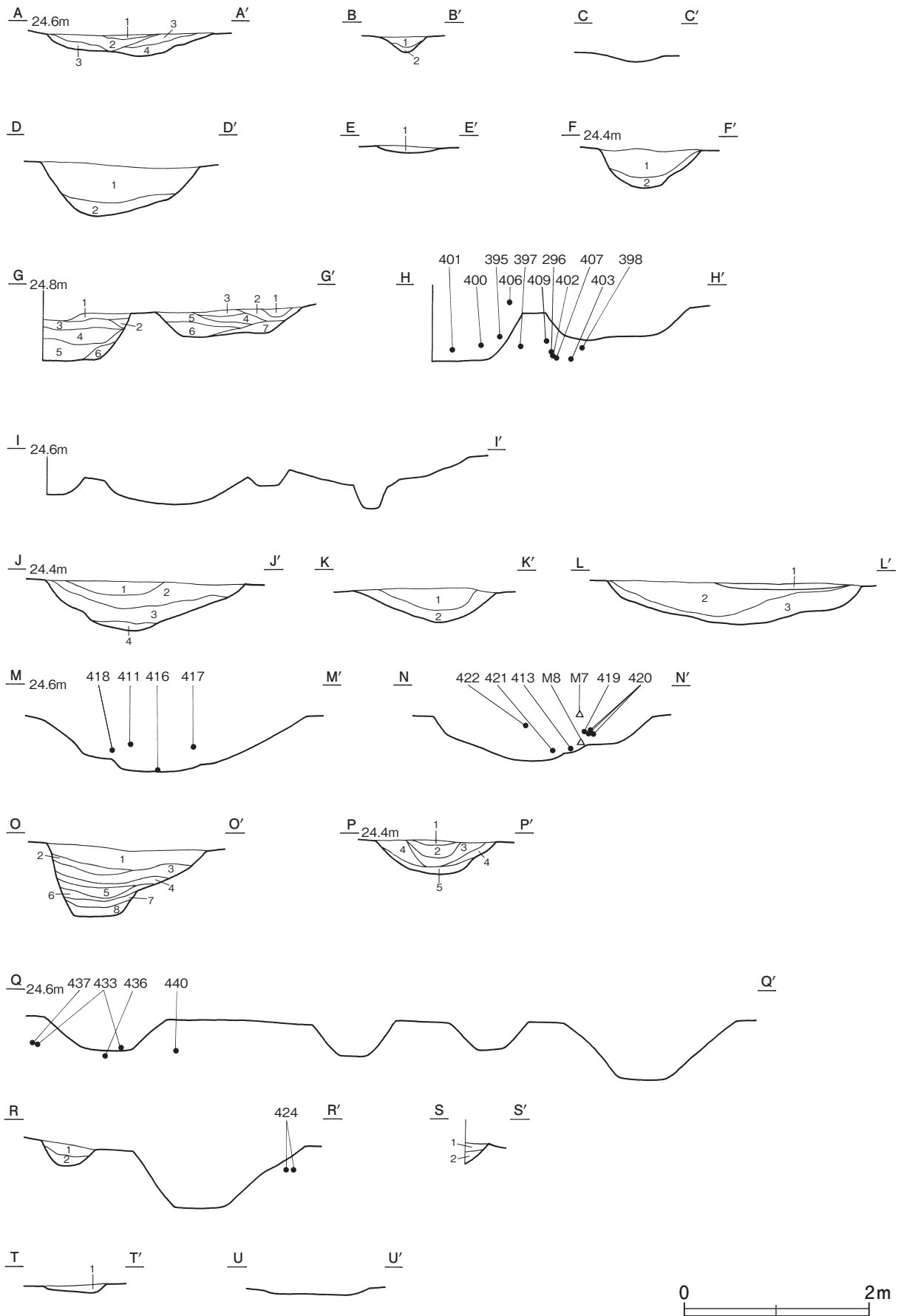
覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説（B-B'）

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 2 黒褐色 ロームブロック中量 |
|---------------|-----------------|

遺物出土状況 土師質土器片3点（内耳鍋）が細片で出土している。

所見 建物跡と考えられる第2号ピット群の雨水を排水していた雨垂れ溝の類と考えられる。また井戸と井戸を連結する溝で、第31号溝と同じの水量調整の機能をもっていたと考えられる。形状も第31号溝と類似し、下流になるにつれて掘り方の上幅や深さが大きくなっている。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。



第357图 第31 ~ 34 · 46A · 46B · 50A · 50B · 51 ~ 53 · 145 · 146 · 156号沟迹实测图(2)

第33号溝跡（第356・357図）

位置と規模 調査区南部のM4c4～M4g7区に位置している。調査区域外に接するM4g7区から北西方向（N-41°-W）へ直線的に伸び、攪乱のため確認できなかったが第50B号溝に繋がっていると想定される。確認されている長さは17.6mで、上幅0.94～1.68m、下幅0.4～1.24m、深さ17～52cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説（D-D'）

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|

所見 建物跡と考えられる第3号ピット群からの雨水を、第14号水溜遺構に排水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第34号溝跡（第356・357図）

位置と規模 調査区南部のM4e7～M4f8区に位置している。調査区域外に接するM4f8区から、北西方向（N-39°-W）へ鉤の手状に伸び、M4e7区で第14号水溜遺構に流れ込んでいる。確認されている長さは7.4mで、上幅0.44～0.96m、下幅0.15～0.68m、深さ6～12cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で堆積状況は判然としないが、包含物から自然堆積と考えられる。

土層解説（E-E'）

- | | |
|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
|-------|---------------------|

所見 比較的浅く覆土の締まりも弱い。第6号掘立柱建物の桁行と並行していることなどから、雨落ち溝と考えられ、雨水等を第14号水溜遺構に排水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第46A号溝跡（第356～358図）

位置 調査区南部のL4j0～M5b2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第50A・51～53・145号溝に切られ、第482号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外に接するM5b2区から、北西方向（N-38°-W）へ直線的に伸び、第50A・51～53号溝に連結している。確認された長さは16mで、上幅0.85～3.8m、下幅0.2～0.9m、深さ28～40cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

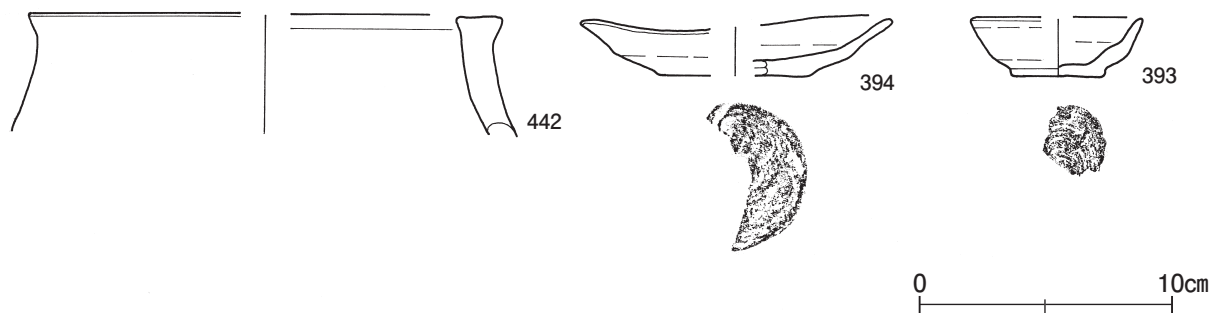
覆土 2層に分層される。含有物などから第2層は自然堆積であり、第1層は人為堆積と考えられる。

土層解説（F-F'）

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
|-------|-----------------|-------|--------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片56点（皿15、内耳鍋40、播鉢1）、瓦質土器片1点（火鉢カ）と、流れ込んだ縄文土器片1点、須恵器片1点、木片1点が出土している。393・394は、共に覆土中から出土している。

所見 調査区域外を挟んで、第46B号溝に連結していると推測され、重複関係及び方向性、底面の高さから、雨水等を第50A号溝に排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第358図 第31・46A号溝跡出土遺物実測図

第31号溝跡出土遺物観察表（第358図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|----|---------------|-------|----|--------------|------|----|
| 442 | 土師質土器 | 壺カ | [19.0] | (4.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口辺部片 内・外面横ナデ | 覆土中 | |

第46A号溝跡出土遺物観察表（第358図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-----|-------|------------|----|----|------------------------|------|-----------|
| 393 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 2.4 | [3.6] | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 20% |
| 394 | 土師質土器 | 皿 | [12.4] | 2.2 | [6.0] | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 30%成形にゆがみ |

第46B号溝跡（第356・357・359図）

位置 調査区南東部のM5c2～M5d1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第46A・146号溝を切り、同時期に機能していたものと考えられる。

規模と形状 M5d1区から、北東方向（N-24°-E）へ直線的に伸び、さらに第146号溝を掘り込んだ後に、調査区域外付近で第46A号溝に連結している。確認された長さは6.5mで、上幅1.04～1.12m、下幅0.6～0.7m、深さ22～42cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

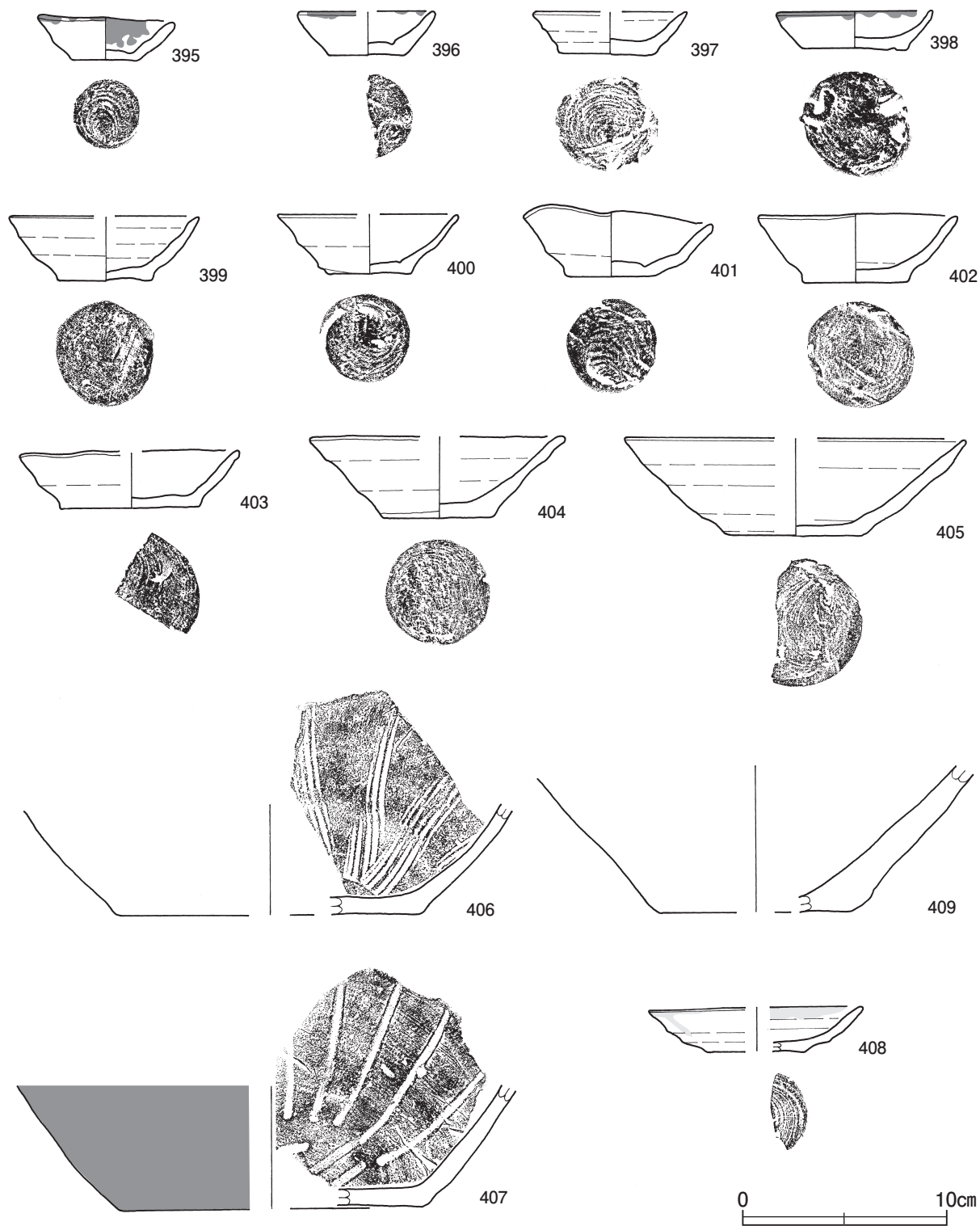
覆土 6層に分層される。含有物などから第3層は人為堆積と考えられるが、その他の堆積状況は自然堆積の状況を示している。

土層解説（G-G'）

| | | | |
|--------|---------------------------|-------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片255点（皿58、内耳鍋類174、甕9、播鉢14）、陶器片10点（皿2、常滑系甕8）、石器1点（磨石）、剥片1点、鉄滓1点が出土している。395～409を含めた遺物は、遺構全体の底面を中心に集中して出土しており、西側に屋敷域と想定される第6号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。その他、流れ込んだ土師器片7点、須恵器片1点、礫12点も確認されている。

所見 調査区域外付近で、第46A号溝に連結している。重複関係及び、覆土と方向性から雨水等を第46A号溝に排水したと想定される。時期は、出土土器から第46A号溝と同時期の16世紀代と考えられる。



第359図 第46B号溝跡出土遺物実測図

第46B号溝跡出土遺物観察表（第359図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|---------|------|----|---------------------------|------|-------------|
| 395 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.3 | 3.2 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 100%口辺部油煙附着 |
| 396 | 土師質土器 | 皿 | [6.6] | 2.1 | [3.8] | 長石・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 45%口唇部油煙附着 |
| 397 | 土師質土器 | 皿 | [7.5] | 2.1 | 4.9 | 長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後板目状圧痕 | 底面 | 70%変色 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|--------|------------|---------|----|------------------------------|------|-------------------|
| 398 | 土師質土器 | 皿 | 7.6 | 1.9 | 5.1 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 90% 口唇部油煙付着 PL108 |
| 399 | 土師質土器 | 皿 | [9.3] | 3.3 | 4.6 | 長石・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70% |
| 400 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 3.0 | 4.2 | 赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面摩滅 外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 60% PL108 |
| 401 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 3.6 | 4.4 | 赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面摩滅外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 95% 成形にゆがみ |
| 402 | 土師質土器 | 皿 | 9.8 | 3.3 | 5.2 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ 外面摩滅 底部回転糸切り後板目状圧痕 | 底面 | 70% |
| 403 | 土師質土器 | 皿 | [10.8] | 2.8 | [7.0] | 赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面摩滅外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 25% 成形にゆがみ |
| 404 | 土師質土器 | 皿 | [12.6] | 4.0 | 5.4 | 長石・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 60% |
| 405 | 土師質土器 | 皿 | [16.8] | 4.8 | 6.6 | 石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 30% |
| 406 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.5) | [14.9] | 長石・石英 | 褐 | 普通 | 6条1単位の播り目ヵ 外面ナデ | 覆土上層 | 10% |
| 407 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.0) | [15.0] | 長石・石英・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 1条1単位の播り目 外面ナデ | 底面 | 10% |
| 408 | 陶器 | 縁釉皿 | [10.6] | 2.2 | [4.6] | 精良 灰釉 | にぶい黄・淡黄 | 良好 | 口辺部内・外面に漬け掛け | 覆土中 | 20% 瀬戸・美濃系 |
| 409 | 陶器 | 甕 | — | (7.2) | [9.6] | 長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 内・外面ナデ | 底面 | 常滑系 |

第50A号溝跡 (第356・357・360・361図)

位置 調査区南部のM4b4～L4i0区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第30・42号井戸跡を掘り込み、第46A・50B・52号溝を切り、第51・53号溝に切られている。上部には北西から南北方向へ第7号道路が直交している。

規模と形状 L4j0区から、北西方向(N-52°-W)へ直線的に延び、L4h8区で南西方向(N-138°-W)へL字に屈曲し、直線的にM4b4区まで延びて、第50B号溝と連結している。長さは35mほどで、上幅1.16～2.64m、下幅0.24～1.14m、深さ33～54cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は深い部分は外傾し、浅い部分は緩やかに立ち上がっている。

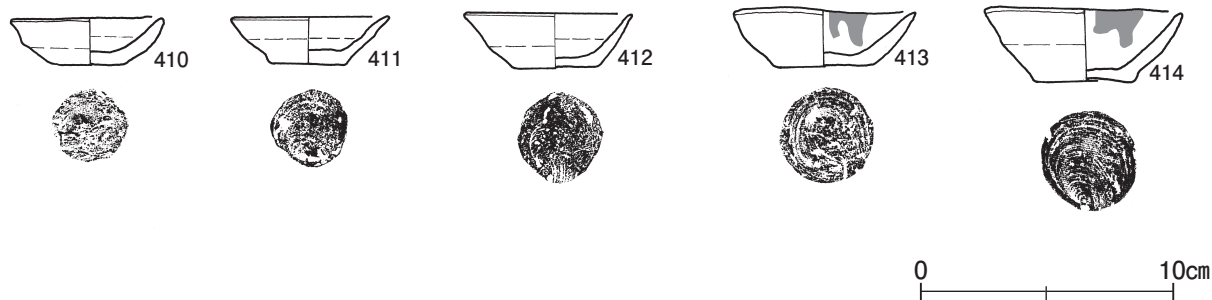
覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説

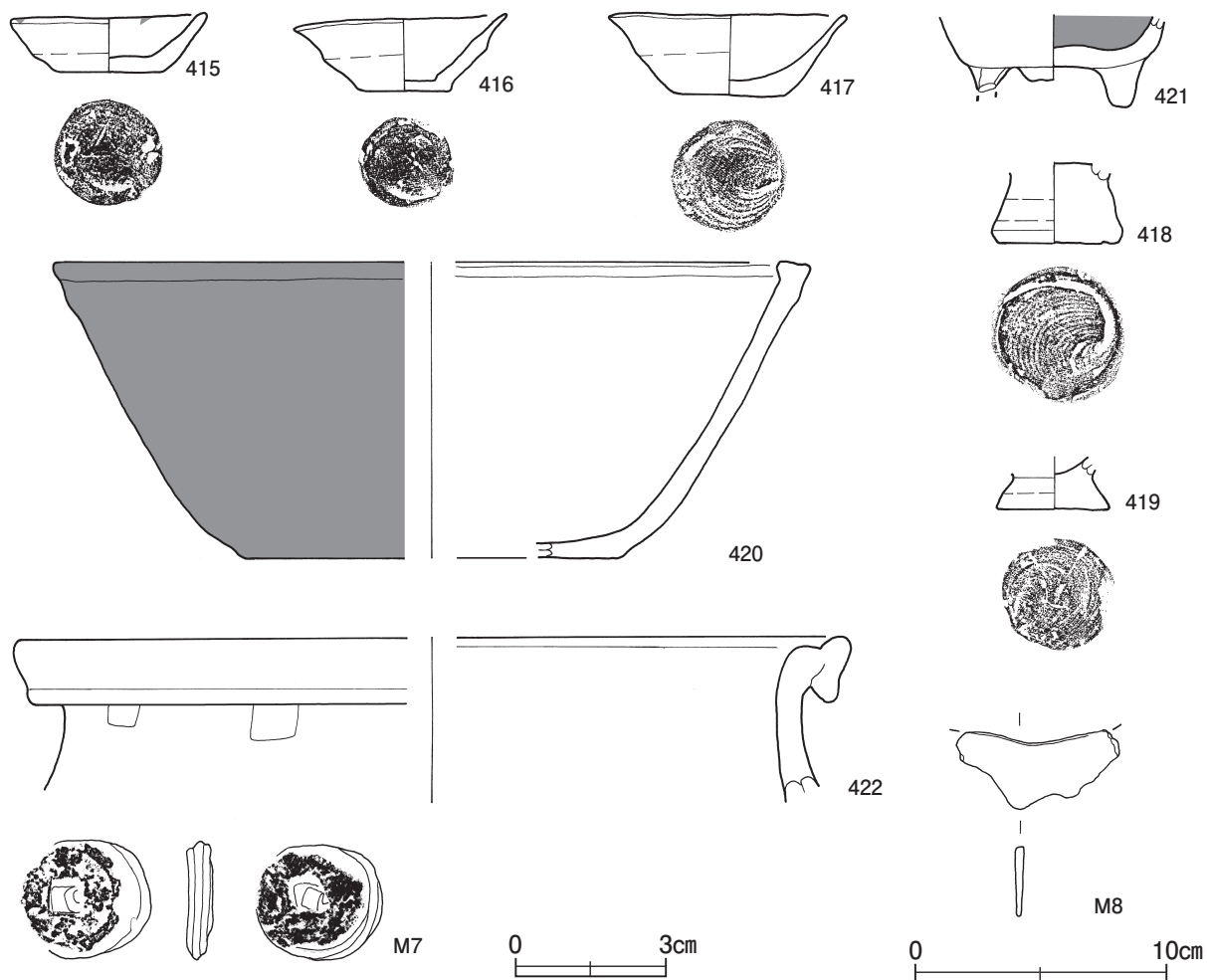
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片351点(皿83, 内耳鍋類252, 甕5, 播鉢11), 陶器片7点(皿1, 常滑系甕4, 甕1, 常滑系鉢1), 石器3点(砥石), 鉄製品1点(不明), 古銭1点(聖宋元寶ヵ), 木片4点が出土している。410～422, M7・M8は、主に第51～53号溝が流れ込む東部と第20号掘立柱建物・第18号ピット群の西側から集中して出土している。これらは、流れ込みによるものと第20号掘立柱建物・第18号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと推測される。その他、流れ込んだ縄文土器片1点, 土師器片1点, 礫4点も確認されている。

所見 当遺跡の調査区中で最も低い地区に位置しており、南部の雨水等を集水していた溝である。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第360図 第50A号溝跡出土遺物実測図(1)



第361図 第50A号溝跡出土遺物実測図(2)

第50A号溝跡出土遺物観察表 (第360・361図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-------|--------|-------|--------|--------------|------|----|--|------|------------------|
| 410 | 土師質土器 | 皿 | 6.0 | 1.9 | 2.8 | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 75% |
| 411 | 土師質土器 | 皿 | 6.3 | 2.0 | 3.0 | 赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 85% |
| 412 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.3 | 3.4 | 赤色粒子 | 淡黄・黒 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90%一部変色 |
| 413 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.3 | 3.8 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 90%成形にゆがみ内面油煙付着 |
| 414 | 土師質土器 | 皿 | 7.9 | 3.1 | 4.0 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 95%成形にゆがみ内面油煙付着 |
| 415 | 土師質土器 | 皿 | 7.7 | 2.4 | 4.2 | 長石 | 橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 95%口径部油煙付着 |
| 416 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 3.1 | 3.8 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100%成形にゆがみ PL108 |
| 417 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 3.3 | 4.4 | 長石・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り痕を残すナデ | 覆土中層 | 50%成形にゆがみ |
| 418 | 土師質土器 | 柱状高台皿 | — | (3.3) | 4.7 | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 高台部片 外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 30% |
| 419 | 土師質土器 | 柱状高台皿 | — | (2.0) | 4.4 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 高台部片 外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 30% |
| 420 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [30.4] | 11.8 | [15.0] | 石英・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口径部内側につまみ出し 内面から口径部外面ナデ | 底面 | 10%体部外面爆付着 |
| 421 | 土師質土器 | 香炉 | — | (3.7) | 7.6 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 底部破片 三足脚カ 体部外面ロクロナデ後ナデ 内面ナデ 底部切り離した後雑なナデ | 覆土中層 | 30%体部内面爆付着 |
| 422 | 陶器 | 甕 | [33.4] | (6.6) | — | 石英・雲母 | 灰褐 | 普通 | 内・外面ナデ | 覆土下層 | 常滑系 |

| 番号 | 銭種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-------|-----|-------|------|----|-----------------|------|-------|
| M7 | 聖宋元寶 | (2.3) | 0.6 | (1.8) | 1101 | 銅 | 鏽により4枚が付着 宋銭 行書 | 底面 | PL123 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|-----|--------|----|-------------|------|----|
| M 8 | 火打金カ | (6.6) | (3.1) | 0.4 | (11.0) | 鉄 | 板状の破片 両端部欠損 | 底面 | |

第50B号溝跡（第356・357図）

位置 調査区南部のM 4 c2～M 4 c4区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第41号井戸を切り、第50A号溝に切られている。

規模と形状 M 4 c4区から、南西方向（N-135°-W）へ直線的にM 4 c2区まで延び、第41号井戸に連結している。大部分が攪乱のため調査が困難であったが、確認できた長さは6.8mで、上幅約2.2m、下幅約1.6m、深さ約110cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 攪乱によって堆積状況は不明であるが、連結する第50A号溝と同様に自然堆積と推測される。

遺物出土状況 土師質土器片23点（皿9、内耳鍋12、甕2）が出土している。

所見 第50A号溝と同様に、調査区中で最も低い地区に立地しており、南部の雨水等を集水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第51号溝跡（第356・357・362図）

位置 調査区南部のL 4 i0～M 5 a2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第44号井戸跡を掘り込み、第46A・50A・53号溝を切っている。

規模と形状 調査区域外に接するM 5 a2区から、北西方向（N-39°-W）へ直線的に延び、L 5 i0区で第50A号溝に連結している。確認された長さは11.7mで、上幅1.65～2.0m、下幅0.52～1.19m、深さ62～74cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

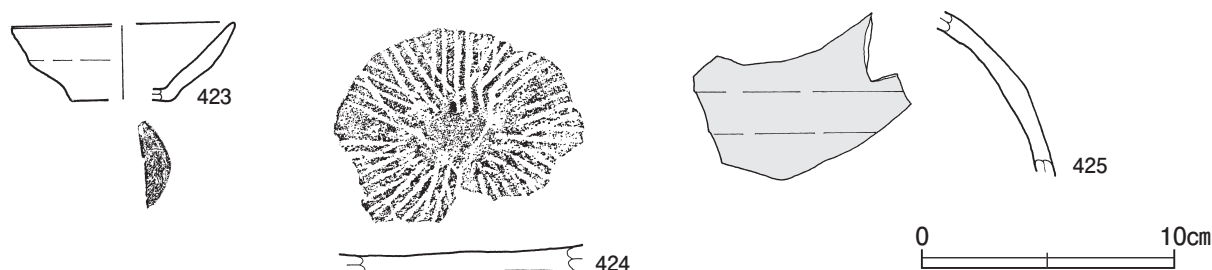
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（O-O'）

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、砂粒微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片78点（皿24、内耳鍋41、甕4、挿鉢9）、陶器片2点（皿、常滑系甕）、磁器片1点（白磁皿カ）、石器2点（砥石）が出土している。424は北側の壁際、423・425は覆土中からそれぞれ出土している。この他、土師器片7点、須恵器片1点、礫6点も出土している。

所見 第46A・53号溝と並行して延び、第50A号溝に連結している。連結部に高まりがあり、ある一定量の雨水が溜まるように掘られていることから、雨水の調整のほかに洗い場的な水場遺構としても利用されたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第362図 第51号溝跡出土遺物実測図

第51号溝跡出土遺物観察表（第362図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-------|-----|---------------|-------|----|--------|-------------|------|-----|
| | | | | | | | | | 体部内面ナデ | 外面ロクロナデ | | |
| 423 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 3.0 | 4.0 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 系切り後ナデ | 底部回転 | 覆土中 | 30% |
| 424 | 土師質土器 | 搦鉢 | — | (1.0) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 底部片 | 内面4条1単位の掘り目 | 壁際 | |
| 425 | 陶器 | 瓶子 | — | (6.6) | — | 精良 鉄釉 | 灰白・黒褐 | 普通 | 体部片 | 外面施釉 | 覆土中 | 瀬戸系 |

第52号溝跡（第356・357・363・364図）

位置 調査区南西部のL 4 j9～M 4 a0区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第10号墓坑を掘り込み、第480号土坑に掘り込まれている。また、第46A号溝を切り、第50A号溝に切られている。

規模と形状 M 4 a0区で第46A号溝から派生して西へ、さらに北西方向（N-35°-W）へ延び、L 4 j9区で第50A号溝に連結している。確認された長さは9.3mで、上幅1.2～2.8m、下幅0.54～1.15m、深さ32～44cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

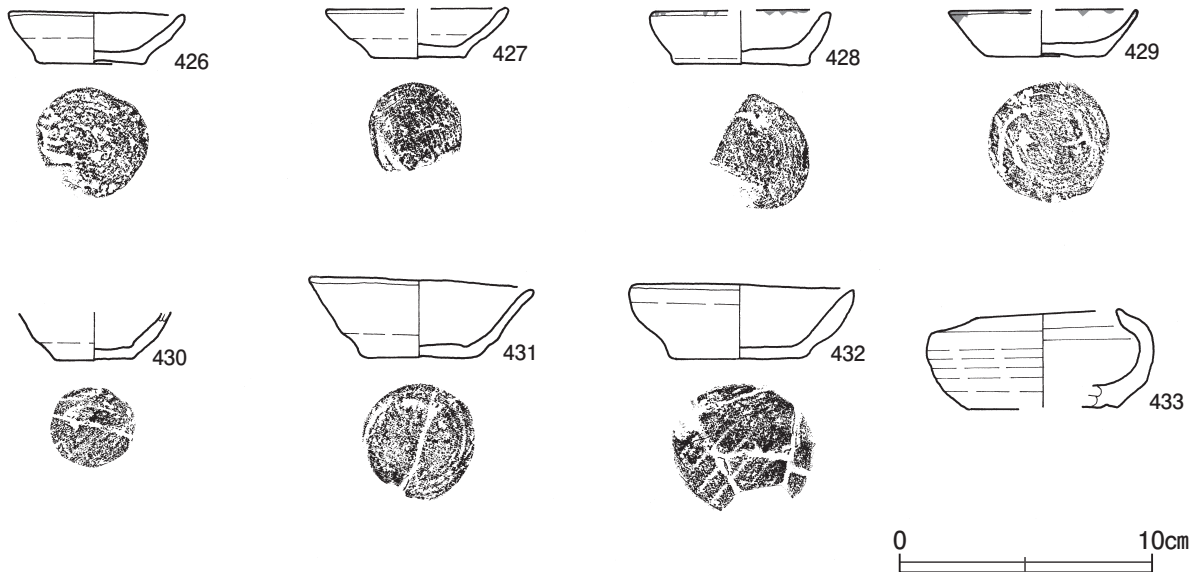
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（P-P'）

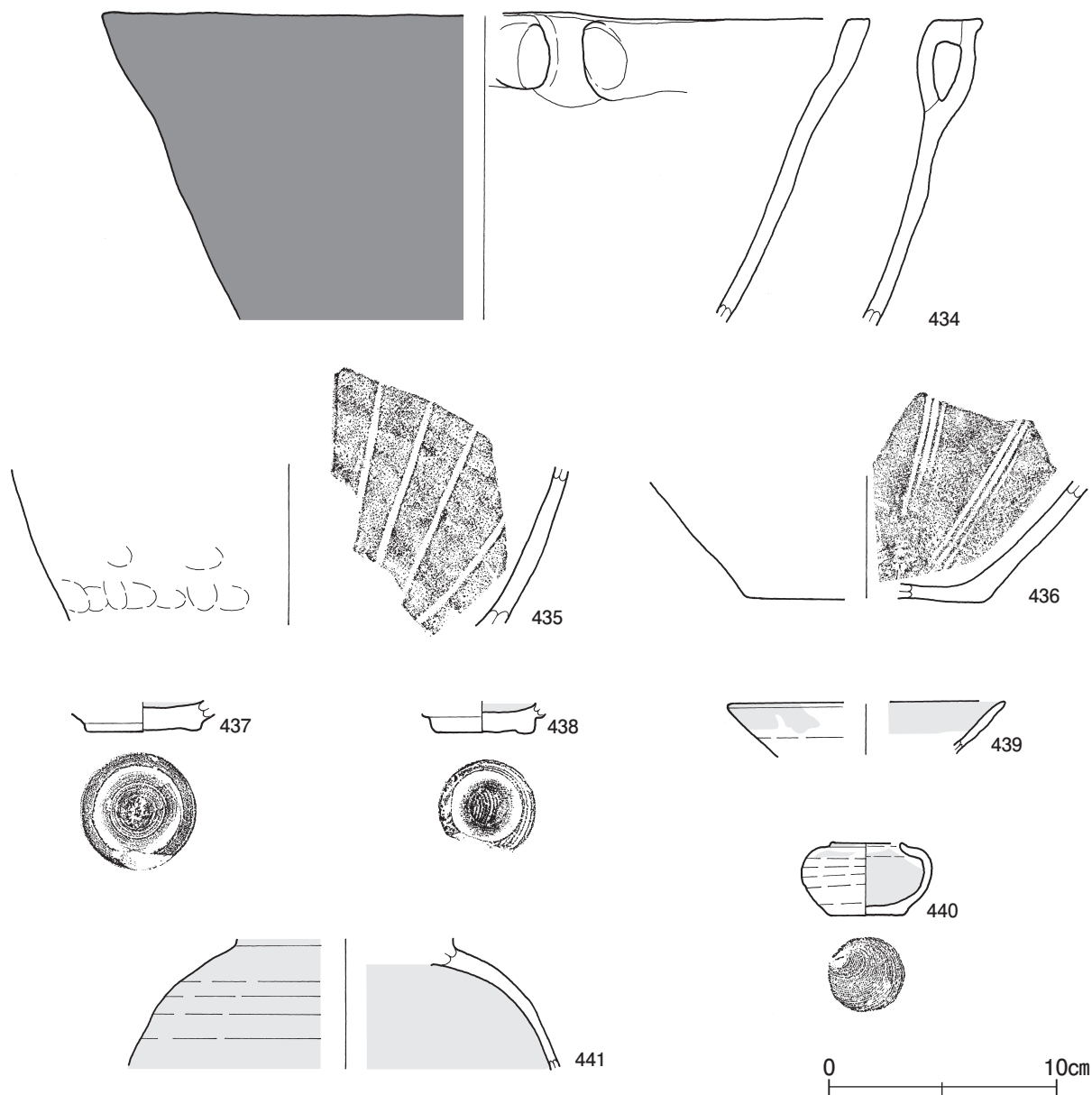
- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 粘土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 土師質土器片215点（皿59、内耳鍋131、甕9、搦鉢16）、陶器片5点（碗2、皿1、常滑系甕1、合子1）、青磁片1点（壺カ）、石器4点（石皿、磨石、凹石、砥石）のほか、流れ込みの縄文土器片1点、須恵器片2点、礫4点も出土している。426～441は、屈曲した部分に集中して出土している。

所見 第46A・51・53号溝と並行している地点にあり、第46A号溝からの水が巡り、ある一定の水が溜まるような掘り方から、洗い場的な機能をもっていたとも考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第363図 第52号溝跡出土遺物実測図(1)



第364図 第52号溝跡出土遺物実測図(2)

第52号溝跡出土遺物観察表 (第363・364図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|------------|-------|----|------------------------------|-------|-----------------|
| 426 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.0 | 4.4 | 赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90%成形にゆがみ |
| 427 | 土師質土器 | 皿 | [7.2] | 2.0 | 3.8 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中中層 | 50% |
| 428 | 土師質土器 | 皿 | [7.1] | 2.1 | [5.4] | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 50%口唇部油煙附着 |
| 429 | 土師質土器 | 皿 | [7.6] | 1.9 | 4.7 | 赤色粒子 | 灰黄 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60%口唇部油煙附着 |
| 430 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.0) | 3.2 | 赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中中層 | 70% |
| 431 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 3.2 | 4.6 | 赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70%成形にゆがみ PL108 |
| 432 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 3.0 | 5.2 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ板状圧痕 | 覆土中中層 | 90%成形にゆがみ |
| 433 | 土師質土器 | 香炉カ | 5.7 | 4.0 | [6.0] | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面ナデ外面ロクロナデ 口縁部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 40% |
| 434 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [33.6] | (13.5) | — | 長石・石英・雲母 | 暗赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け 内・外面横ナデ | 覆土中中層 | 10% |
| 435 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (7.0) | — | 長石・石英・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 1条1単位の播り目 外面下位指頭痕 | 覆土中層 | |
| 436 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.4) | [10.6] | 長石・雲母・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 3条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|--------|-------|-----|--------|-----------------|----|------------------------|------|--------------------|
| 437 | 陶器 | 碗 | — | (1.3) | 5.2 | 精良 灰釉 | オリーブ黄・ にぶい黄橙 | 良好 | 底部回転糸切り後低い削り出し高台 内面に施釉 | 底面 | 10%瀬戸・美濃系 |
| 438 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (1.4) | 4.2 | 精良 鉄釉 | 灰白・黒 | 良好 | 底部回転糸切り後削り出し高台 内面に施釉 | 覆土中 | 10%瀬戸・美濃系 |
| 439 | 陶器 | 緑釉皿 | [12.2] | (2.2) | — | 精良 灰釉 | 灰・ オリーブ黄 | 良好 | 口辺部内・外面に施釉 | 覆土中 | 10%瀬戸・美濃系 |
| 440 | 陶器 | 小壺 | 3.0 | 3.2 | 3.4 | 精良 灰釉 | 黄灰・ オリーブ | 良好 | ロクロ成形 底面糸切り 釉薬一部剥離 | 底面 | 60%合子カ瀬戸・美濃系 PL115 |
| 441 | 青磁 | 壺 | — | (5.9) | — | 精良 青磁釉 | 灰白・ 明緑灰 | 良好 | ロクロ成形 内・外面一様に施釉 | 覆土中 | 竜泉窯カ PL126 |

第53号溝跡 (第356・357・365図)

位置 調査区南西部のL 4 i0～M 5 a2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第46A・50A号溝を切り、第51号溝に切られている。

規模と形状 調査区域外に接するM 5 a2区から、北西方向(N-39°-W)へ直線的に延び、L 4 i0区で第50A号溝に直線的に連結している。確認された長さは11.3mで、上幅0.6～1.15m、下幅0.2～0.34m、深さ22～30cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

土層解説 (R-R')

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片22点(皿11, 内耳鍋9, 甕2), 石器2点(砥石), 礫1点が出土している。443は覆土中から出土している。

所見 第46A・51・53号溝と並行して延び、それぞれ第50A号溝に連結している。また、調査区域外を挟んで、第145号溝に連結していると推測される。底面の掘り方と高低差から、雨水等を第50A号溝に排水する機能もっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第145号溝跡 (第356・357・365図)

位置と規模 調査区南東部のM 5 b3～M 5 d2区に位置している。M 5 d2から、北西方向(N-14°-W)へ直線的に延び、M 5 b3区で調査区域外となっている。確認された長さは8.8mで、上幅0.7～1.6m、下幅0.4～1.1m、深さ30～40cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説 (G-G')

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 7 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
4 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片27点(皿8, 内耳鍋12, 甕2, 挿鉢4, 火鉢1), 陶器片1点(常滑系甕)のほか、流れ込んだ土師器片1点、礫1点が出土している。444・445とも覆土中から出土しているが、ほとんどが50%以下の破片で接合関係が見られないことから、覆土と共に流れ込んだものと考えられる。

所見 調査区域外へ向かって北西方向(N-14°-W)に延び、全容は明白ではない。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第146号溝跡 (第356・357・365図)

位置と規模 調査区南東部のM 5 c2～M 5 d1区に位置している。調査区域外の道路に沿って、一部分だけ確認された。北東方向(N-38°-E)へ直線的に延び、確認できた長さは6.6m、深さは24cmほどで、上端、下

幅とも明確ではなく、形状の詳細は不明である。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から自然堆積と考えられる。

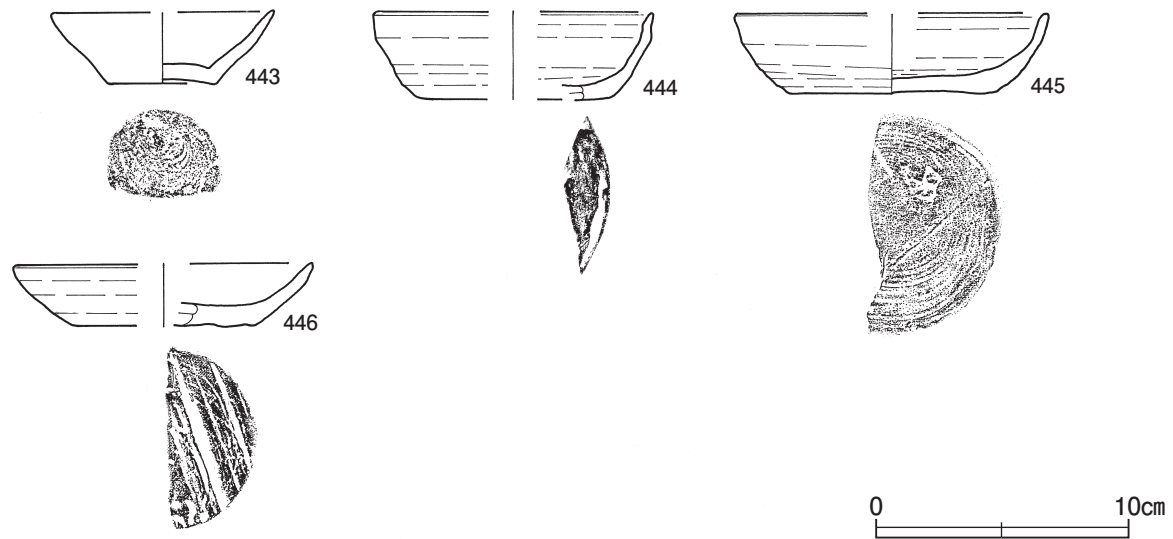
土層解説 (S-S')

1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿3, 内耳鍋1)が出土している。446は、覆土中の中層から出土している。

所見 調査区域外の道路下に遺存すると推測される溝で、その一部が確認された。形状から、小規模な溝から雨水等が流れ込んでいる第46A・143号溝と同様な規模ではないかと想定される。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。



第365図 第53・145・146号溝跡出土遺物実測図

第53号溝跡出土遺物観察表 (第365図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|---------|----|----|------------------------|------|-----|
| 443 | 土師質土器 | 皿 | [8.7] | 2.8 | 4.3 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 40% |

第145号溝跡出土遺物観察表 (第365図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-----|-------|---------------|-----|----|----------------------------|------|-----|
| 444 | 土師質土器 | 皿 | [11.2] | 3.5 | [8.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り 後板状圧痕カ | 覆土中 | 10% |
| 445 | 土師質土器 | 皿 | [12.4] | 3.2 | 8.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 40% |

第146号溝跡出土遺物観察表 (第365図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-----|-------|------------|-----|----|---------------------------|-------|-----|
| 446 | 土師質土器 | 皿 | [11.8] | 2.5 | [7.2] | 長石・石英・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り 後板状圧痕 | 覆土中中層 | 40% |

第156号溝跡 (第356・357図)

位置と規模 調査区南部のM4 d5～M4 b8区に位置している。削平を受けているM4 b8から南西方向(N-116°-W)へ曲線状に延び、M4 d5で第33号溝と連結する。確認できる長さは14.6mで、上幅0.6～1.8m、下

幅0.2～0.68m、深さ7～15cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で堆積状況の判断は困難であるが、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (T-T')

1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

所見 連結する第33号溝に、雨水等を排水していたと考えられる。時期は、16世紀代と考えられる。

第128号溝跡 (第366・367図)

位置 調査区南東部のL5i9～M5b7区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第130号溝を切り、第38号井戸跡を掘り込んで、第46号ピット群に掘り込まれているが、ほぼ同時期と考えられる。

規模と形状 L5i9区から、南西方向(N-137°-W)へ直線的に延び、M5b7区で第130号溝に連結している。確認された長さは13.4mで、上幅0.6～0.96m、下幅0.12～0.36m、深さ10～18cmである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿4、内耳鍋9)と、流れ込みの弥生土器片2点、礫1点が出土している。447・448とも、南側の覆土下層から出土している。

所見 第130号溝に雨水等を排水していたものと考えられる。本溝に掘り込まれている第38号井戸跡は廃絶後、雨水等を調整する水溜遺構に転用されたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から、16世紀代と考えられる。

第129号溝跡 (第366・367図)

位置 調査区南東部のM5a8～M5b7区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第130号溝を切り、第974号土坑を掘り込んでいるが、ほぼ同時期と考えられる。

規模と形状 M5a8区から、南西方向(N-136°-W)へ直線状に延び、M5b7区で第130号溝に連結している。長さは4.2mで、上幅0.48～0.66m、下幅0.13～0.27m、深さ14cmほどである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片32点(皿3、内耳鍋29)、土製品1点(球状土錘)が散在して出土している。449・DP25は、覆土中から出土している。その他、土師器片6点、須恵器片1点、礫1点も確認されている。

所見 第130号溝に雨水等を排水していたものと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第130号溝跡 (第366・367図)

位置 調査区南東部のL5j4～M5b7区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第128・129・133号溝に切られている。

規模と形状 M5 b7区から、西方向（N-61°-W）へ直線状に延び、M5 a8区で調査区域外へ延びている。確認できる長さは12.6mで、上幅1.8～2.06m、下幅0.43～0.71m、深さ29～71cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

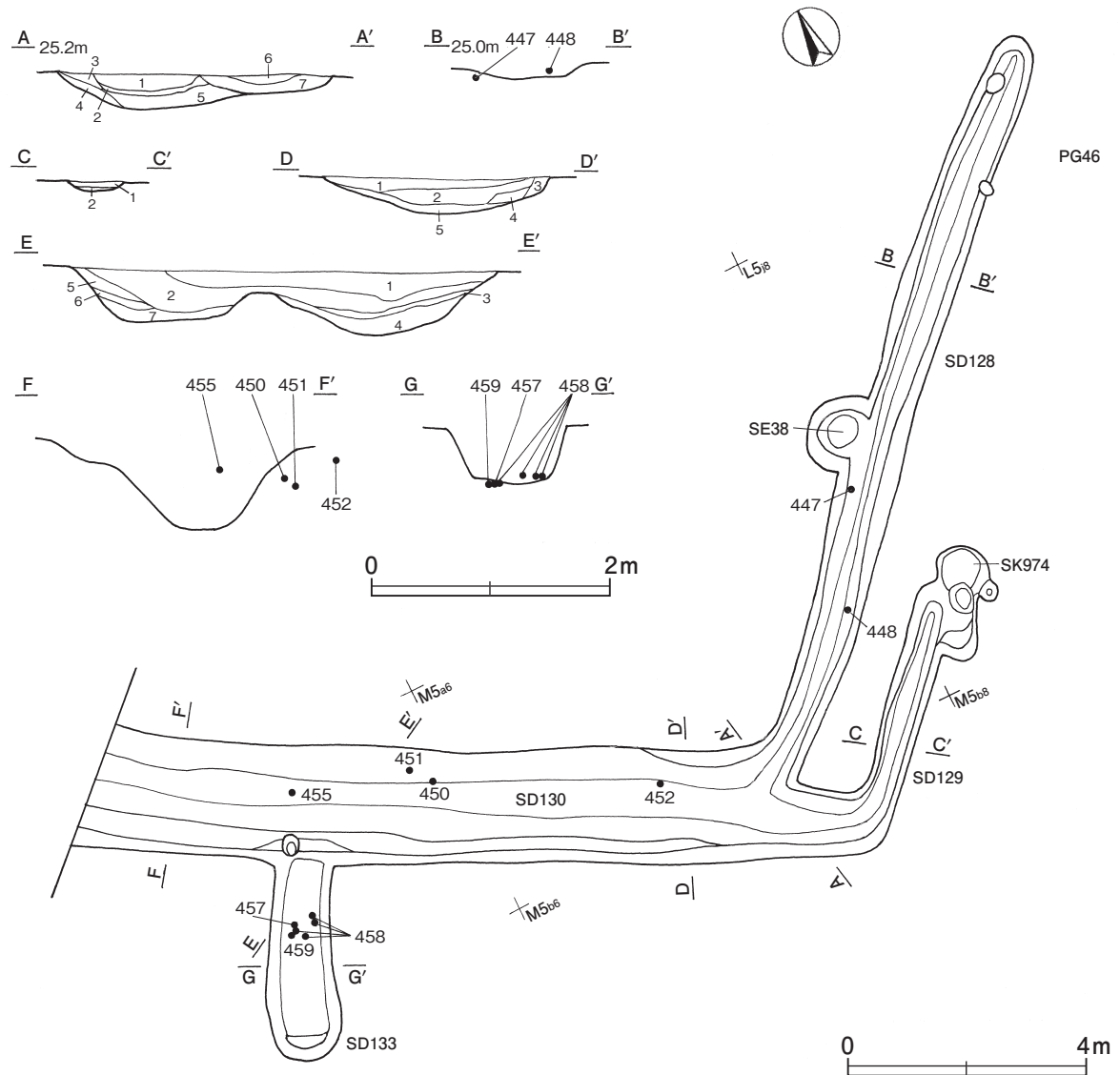
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説（A-A'、D-D'、E-E'）

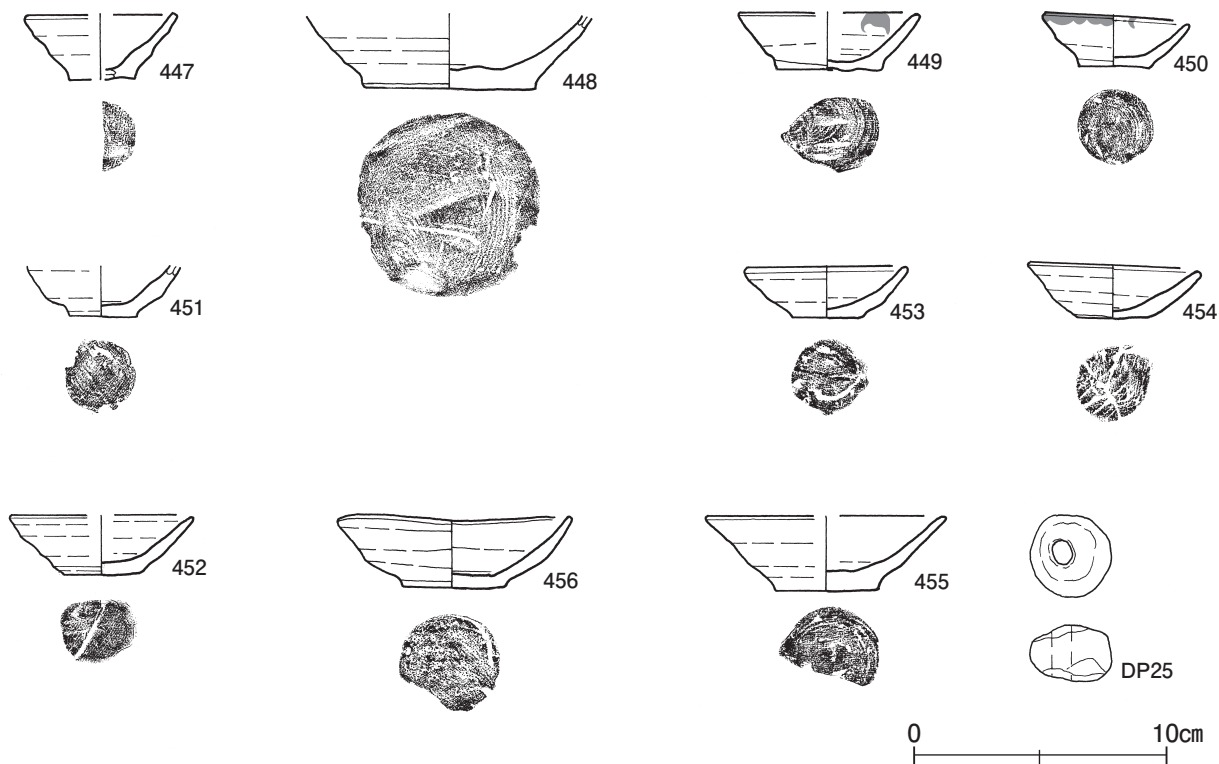
- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片47点（皿19, 内耳鍋27, 甕1）が出土している。450～455は多くの土器片と同じように、点在して覆土中層と覆土中から出土している。この他、土師器片2点、須恵器片1点、礫2点も出土している。

所見 第128・129・133号溝からの雨水等を排水していたものと考えられる。また、幅が広く緩やかな掘り方の形状から、水場作業場的な機能があったものと推測される。時期は土器と重複関係から、16世紀代と考えられる。



第366図 第128～130・133号溝跡実測図



第367図 第128～130号溝跡出土遺物実測図

第128号溝跡出土遺物観察表（第367図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-------|-------|---------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 447 | 土師質土器 | 皿 | [6.0] | 2.6 | [2.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 30% |
| 448 | 土師質土器 | 皿 | — | (3.0) | 7.0 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 60% |

第129号溝跡出土遺物観察表（第367図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|---------------|-----|----|------------------------|------|-----------|
| 449 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.3 | [4.2] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 40%内面油煙付着 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|------|----|------|------|------|----|
| DP25 | 球状土錘 | 3.2 | 0.8 | 2.3 | 22.8 | 土製 | 全面ナデ | 一部欠損 | 覆土中 | |

第130号溝跡出土遺物観察表（第367図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-------|-------|---------------|------|----|---------------------------|------|----------------------------|
| 450 | 土師質土器 | 皿 | 6.0 | 2.1 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 95%口唇部油煙付着 成形にゆがみ PL109 |
| 451 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.0) | 2.8 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 80% |
| 452 | 土師質土器 | 皿 | [7.2] | 2.3 | [3.0] | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 40% |
| 453 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.2 | 2.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% |
| 454 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.2 | 2.9 | 雲母・赤色粒子 | 黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90% |
| 455 | 土師質土器 | 皿 | [9.6] | 3.0 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 30% |
| 456 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 2.9 | 4.1 | 石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70%成形にゆがみ |

第133号溝跡（第366・368図）

位置 調査区南東部のM5 a5～M5 b5区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第130号溝を切っている。

規模と形状 M5 b4区から、北東方向（N-28°-E）へ直線状にM5 a5区まで延び、第130号溝に連結している。長さは3.5mで、上幅0.98～1.2m、下幅0.54～0.76m、深さ41～46cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

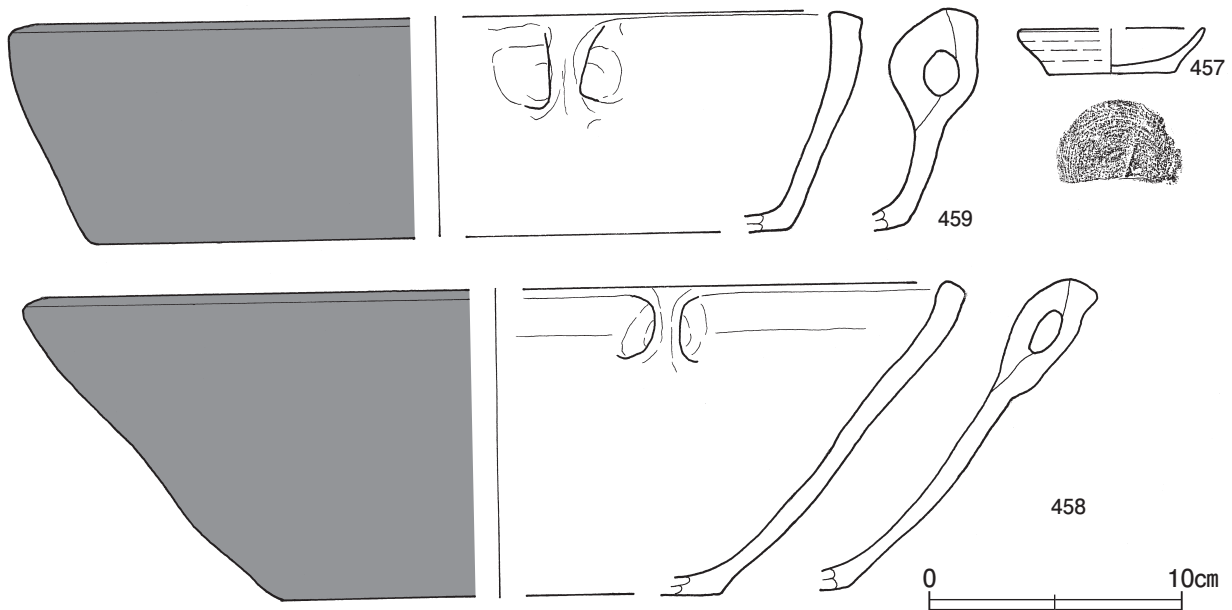
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第1・2層から埋没したことから、第130号溝とはほぼ同時期と考えられる。

土層解説（E-E'）

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片12点（皿3，内耳鍋9）が出土している。457～459は、ほぼ中央部の底面からまとまって出土している。

所見 第130号溝に雨水等を排水していたものと考えられるが、細長い土坑状の形状と第130号溝との連結部に畝状の高まりがあることから、水を溜めて作業をする水場的な機能があったものと推測される。時期は土器と重複関係から、16世紀代と考えられる。



第368図 第133号溝跡出土遺物実測図

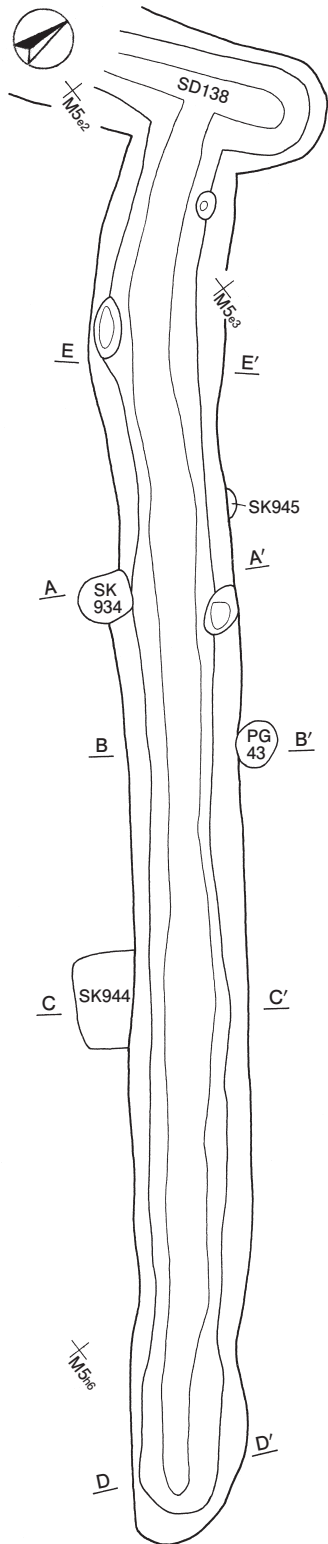
第133号溝跡出土遺物観察表（第368図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|------|--------|---------------|----|----|-------------------------|------|-------------|
| 457 | 土師質土器 | 皿 | [7.2] | 1.8 | 5.0 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口ロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 40% |
| 458 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [36.2] | 12.2 | [17.4] | 長石・石英・雲母 | 暗褐 | 普通 | 1内耳残存部外面ナデ 耳貼り付け 内面から口縁 | 底面 | 20% 体部外面煤付着 |
| 459 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.0] | 8.8 | [28.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 1内耳残存部外面ナデ 耳貼り付け 内面から口縁 | 底面 | 体部外面煤付着 |

第134号溝跡 (第369 ~ 373図)

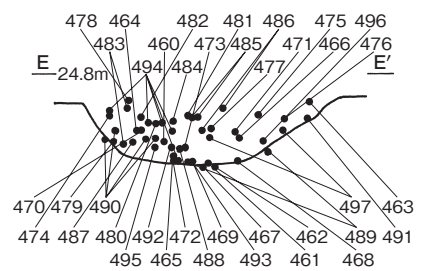
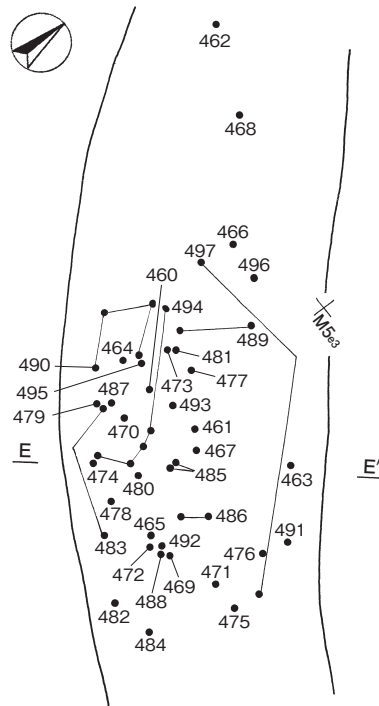
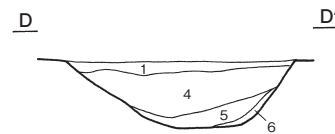
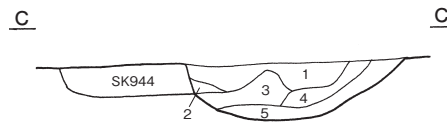
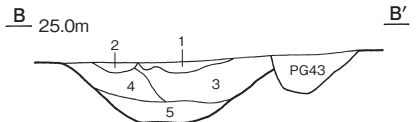
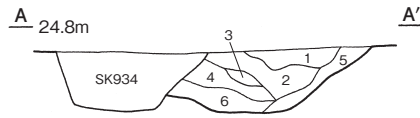
位置 調査区南東部のM5 d2 ~ M5 h6区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第944・945号土坑を掘り込み、第43号ピット群、第934号土坑に掘り込まれている。また、第138号溝を切っている。



0 4m

第369図 第134号溝跡実測図



0 2m

規模と形状 M5 h6区から、北西方向（N-55°-W）へ直線的にM5 d2区まで延び、第138号溝に連結している。確認された長さは22.4mで、上幅1.6～2.1m、下幅0.4～0.8m、深さ45～48cmで、断面形は逆台形状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

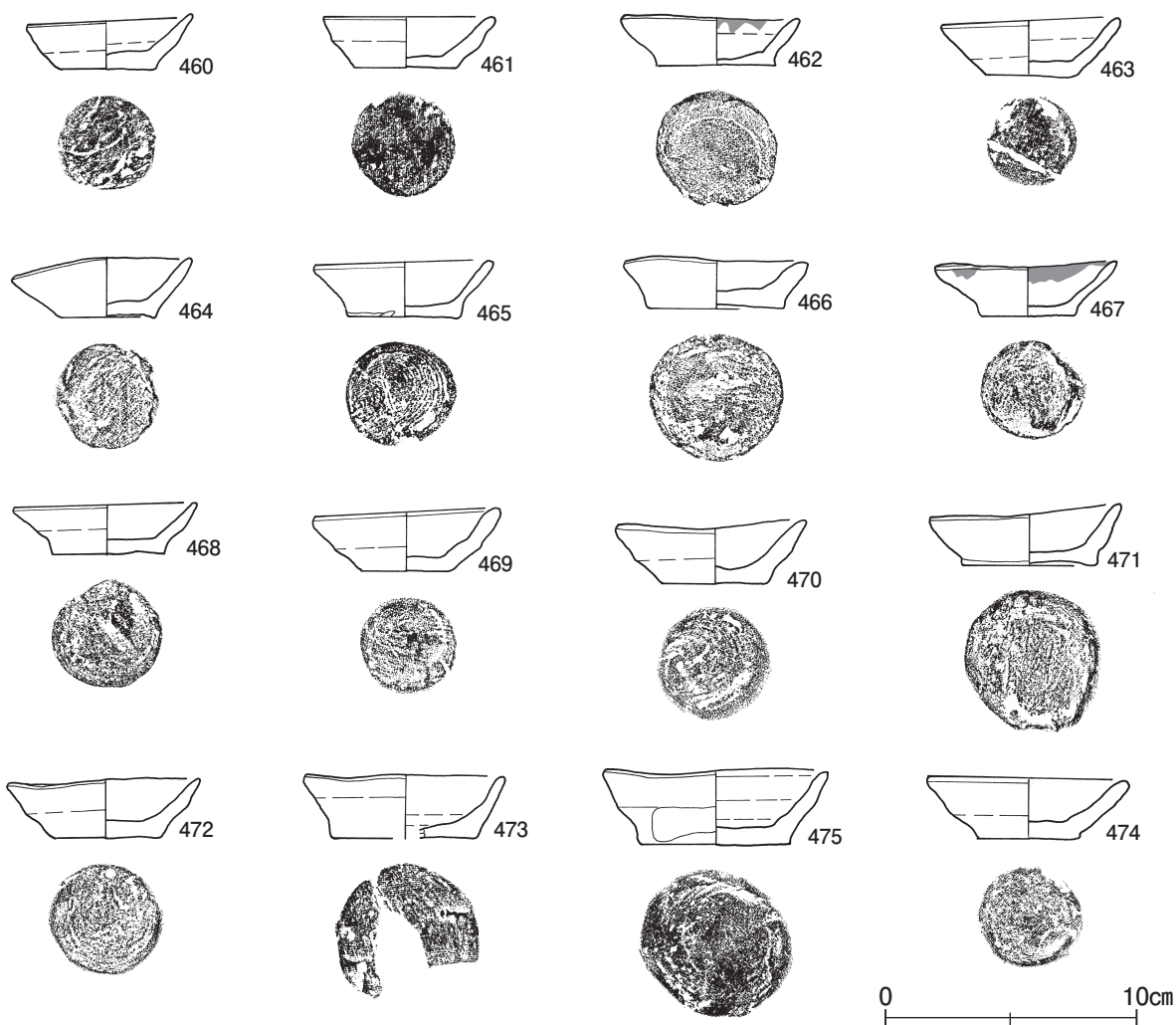
覆土 6層に分層され、含有物と遺物出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説（共通）

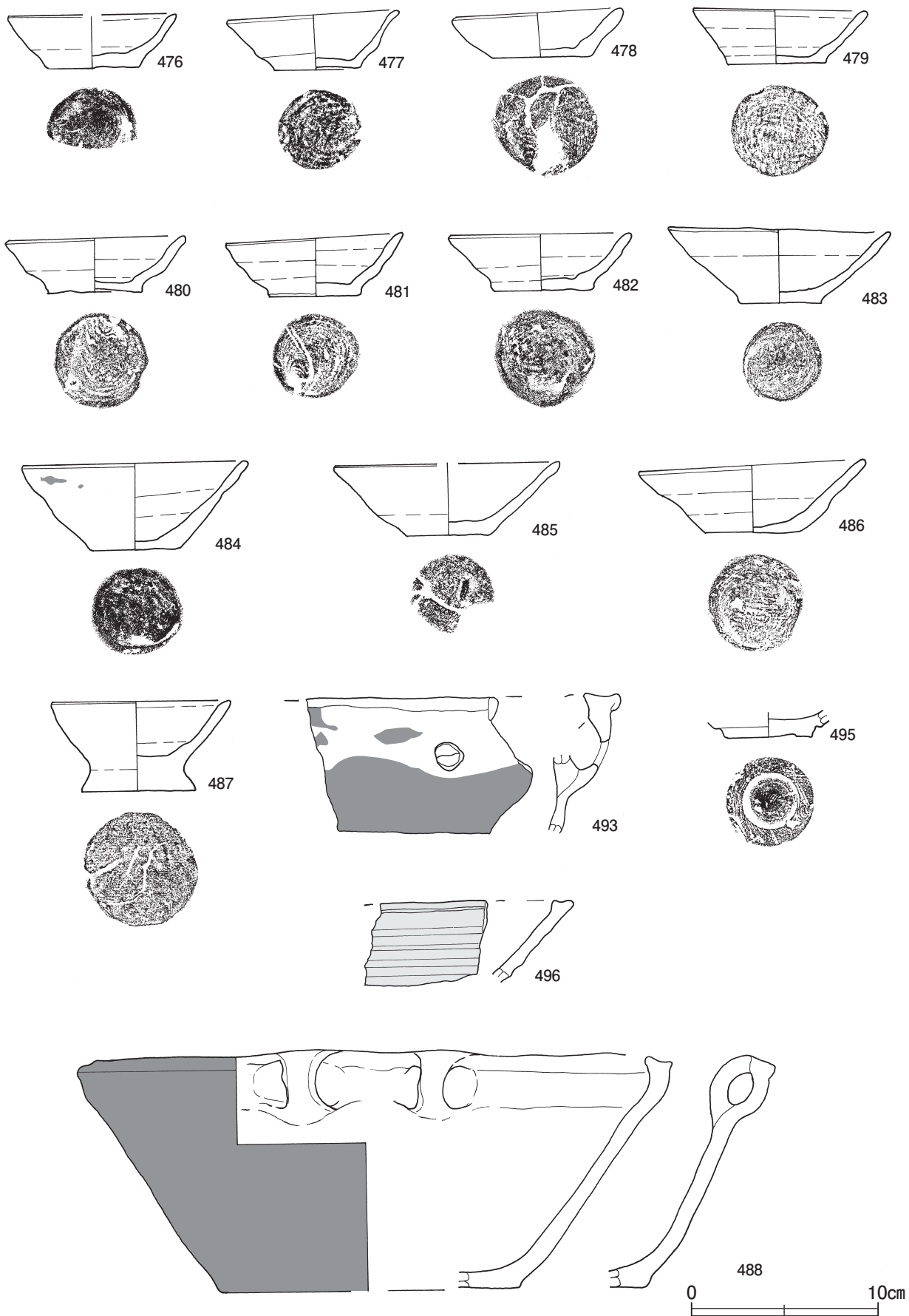
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 4 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片2142点（皿180，内耳鍋類1932，播鉢19，茶釜11），瓦質土器片1点（火鉢），陶器片11点（灰釉碗2，皿4，常滑系鉢3，瓶カ2），磁器片1点（碗），石器4点（磨石1，砥石2，石臼1），鉄滓1点が出土している。内耳鍋片を中心とした多量の土師質土器は、重複する第138号溝に近い北西部に集中して出土している。492を除くこれらの遺物は、埋土とともに覆土上層から底面まで一様に確認されていることから、北と南に接する居住区の廃絶に伴って一括投棄されたものと考えられる。その他、縄文土器片1点、礫26点も確認されている。

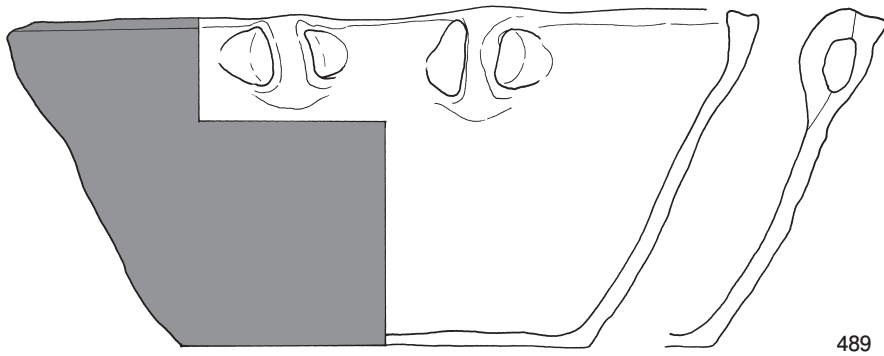
所見 第138号溝に雨水等流していた排水の役割と、配置と形状的な面から区画と水場的な機能を有していたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



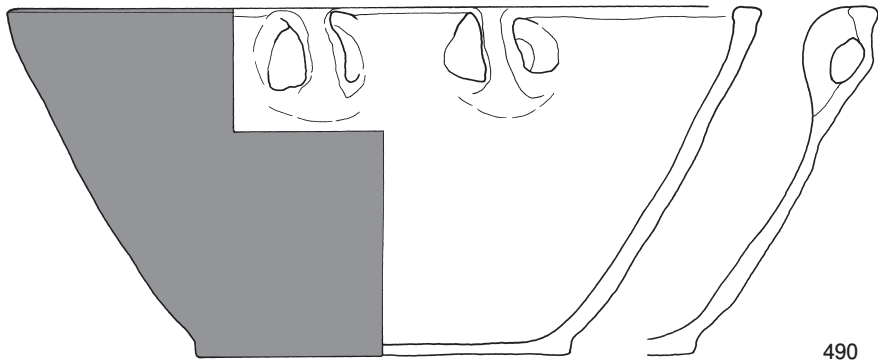
第370図 第134号溝跡出土遺物実測図(1)



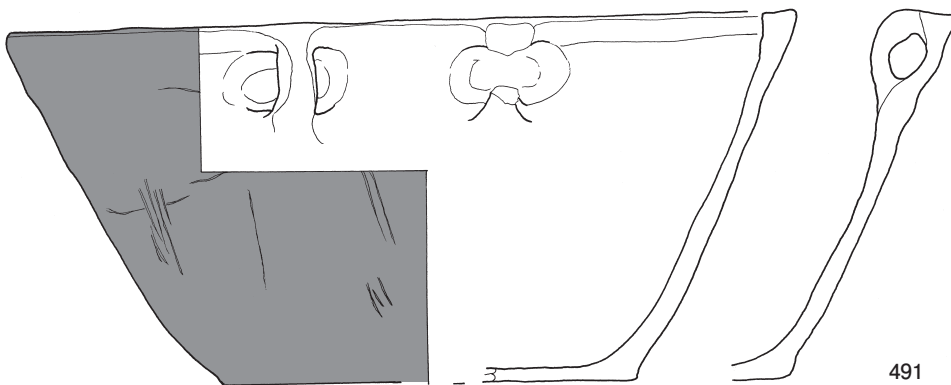
第371图 第134号溝跡出土遺物実測図(2)



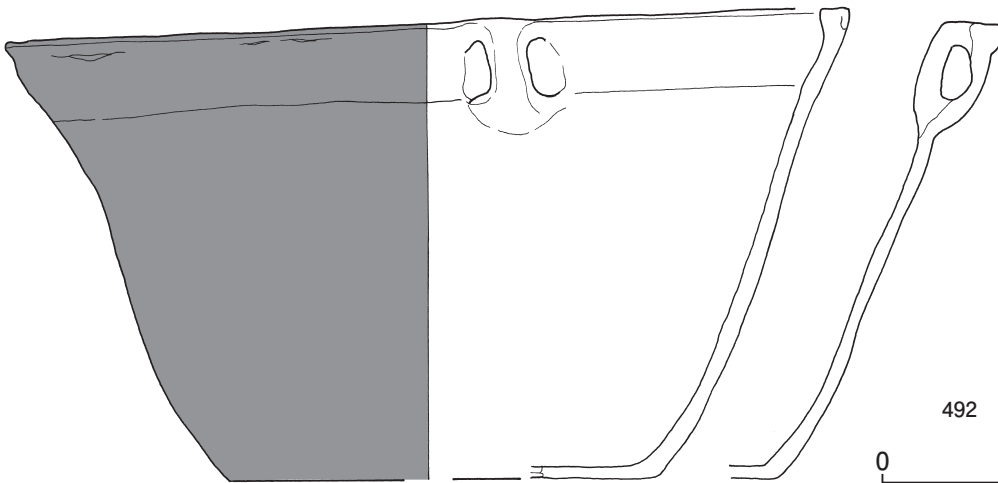
489



490



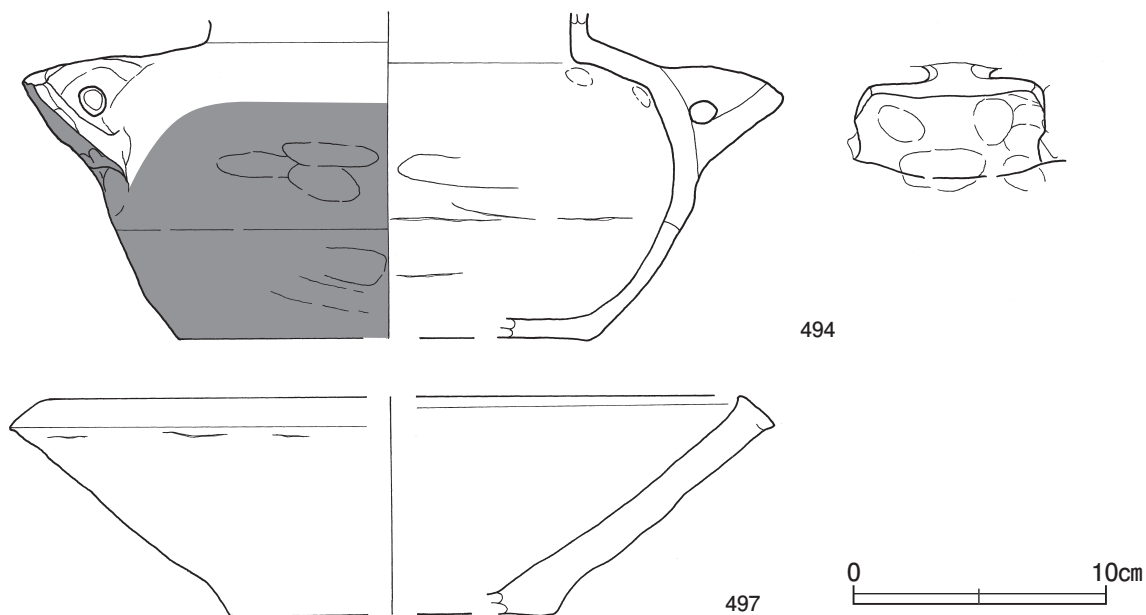
491



492



第372図 第134号溝跡出土遺物実測図(3)



第373図 第134号溝跡出土遺物実測図(4)

第134号溝跡出土遺物観察表 (第370 ~ 373図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-----|-----|---------------|--------|----|-----------------------------------|--------|---------------------------|
| 460 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.2 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 暗褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 90% 成形にゆがみ |
| 461 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.1 | 4.1 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ヘラナデ | 底面 | 95% |
| 462 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.0 | 4.8 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 底面 | 100% 口唇部油煙附着 PL109 |
| 463 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.4 | 3.5 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 100% 成形にゆがみ |
| 464 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.4 | 3.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 100% 成形にゆがみ |
| 465 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.3 | 4.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 体部下端に当て具痕 底部回転糸切り | 覆土下層 | 100% |
| 466 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 1.9 | 5.4 | 赤色粒子 | 黒褐・浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 95% 成形にゆがみ |
| 467 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 2.3 | 3.8 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 底面 | 100% 口唇部油煙附着 成形にゆがみ PL109 |
| 468 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.1 | 4.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 底面 | 90% |
| 469 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.5 | 3.6 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 底面 | 90% 成形にゆがみ |
| 470 | 土師質土器 | 皿 | 7.5 | 2.6 | 4.2 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100% 成形にゆがみ |
| 471 | 土師質土器 | 皿 | 7.6 | 2.5 | 5.3 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 95% 成形にゆがみ |
| 472 | 土師質土器 | 皿 | 7.8 | 2.3 | 4.4 | 雲母・赤色粒子 | 明褐灰 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 底面 | 100% 成形にゆがみ |
| 473 | 土師質土器 | 皿 | 7.9 | 2.5 | 5.8 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% 成形にゆがみ |
| 474 | 土師質土器 | 皿 | 8.0 | 2.5 | 4.0 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 100% PL109 |
| 475 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 3.0 | 6.0 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 95% 成形にゆがみ PL109 |
| 476 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 2.9 | 4.8 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 45% |
| 477 | 土師質土器 | 皿 | 9.1 | 3.2 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 90% 成形にゆがみ |
| 478 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 2.7 | 5.4 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 85% 成形にゆがみ |
| 479 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 3.1 | 5.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 底面 | 95% 成形にゆがみ |
| 480 | 土師質土器 | 皿 | 9.5 | 3.0 | 5.0 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 覆土中層 | 95% |
| 481 | 土師質土器 | 皿 | 9.5 | 3.4 | 5.0 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後糸切り痕を残すヘラナデ | 覆土中層 | 100% |
| 482 | 土師質土器 | 皿 | 9.8 | 3.0 | 5.3 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ | 覆土中層 | 95% |
| 483 | 土師質土器 | 皿 | 11.9 | 4.2 | 4.3 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 覆土上～下層 | 90% PL109 |
| 484 | 土師質土器 | 皿 | 12.0 | 4.7 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ 見込みがくぼむ | 覆土中層 | 55% 外面の一部剥離 |
| 485 | 土師質土器 | 皿 | [12.0] | 3.9 | 4.4 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 45% |

規模と形状 M6e2区から、北西方向のM6f1区へ弧状に延びているが、全容は不明である。確認できた長さは6mほどで、上幅2.12～3.84m、下幅0.4～0.79m、深さ60～90cmで、断面形は逆台形または緩やかなU字状であり、壁は部分的に緩やかに立ち上がっている。

木橋跡 1か所。6か所の柱穴痕の深さは38～78cmで、屈曲部の中央に確認されている。

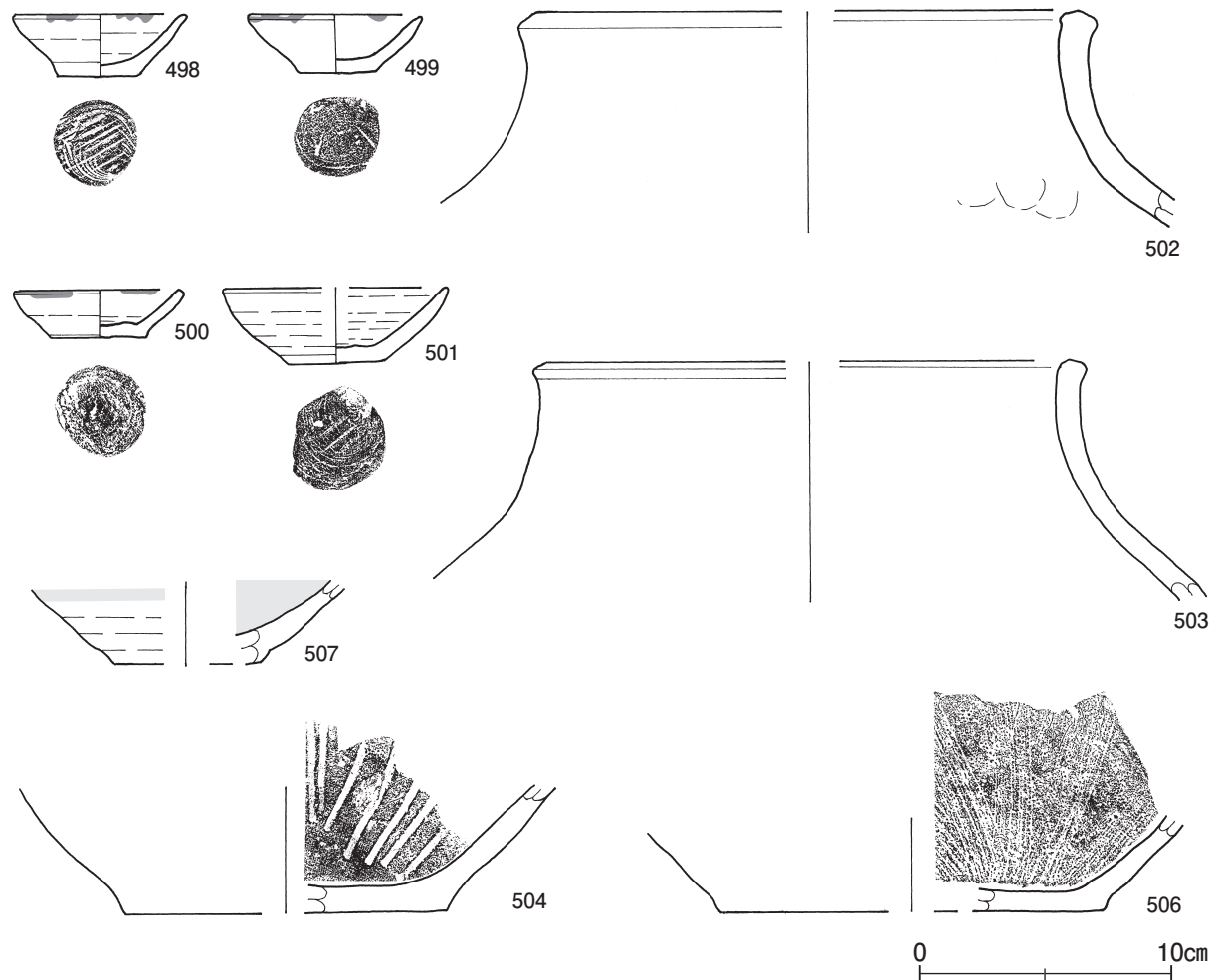
覆土 9層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物と遺物出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説 (各層共通)

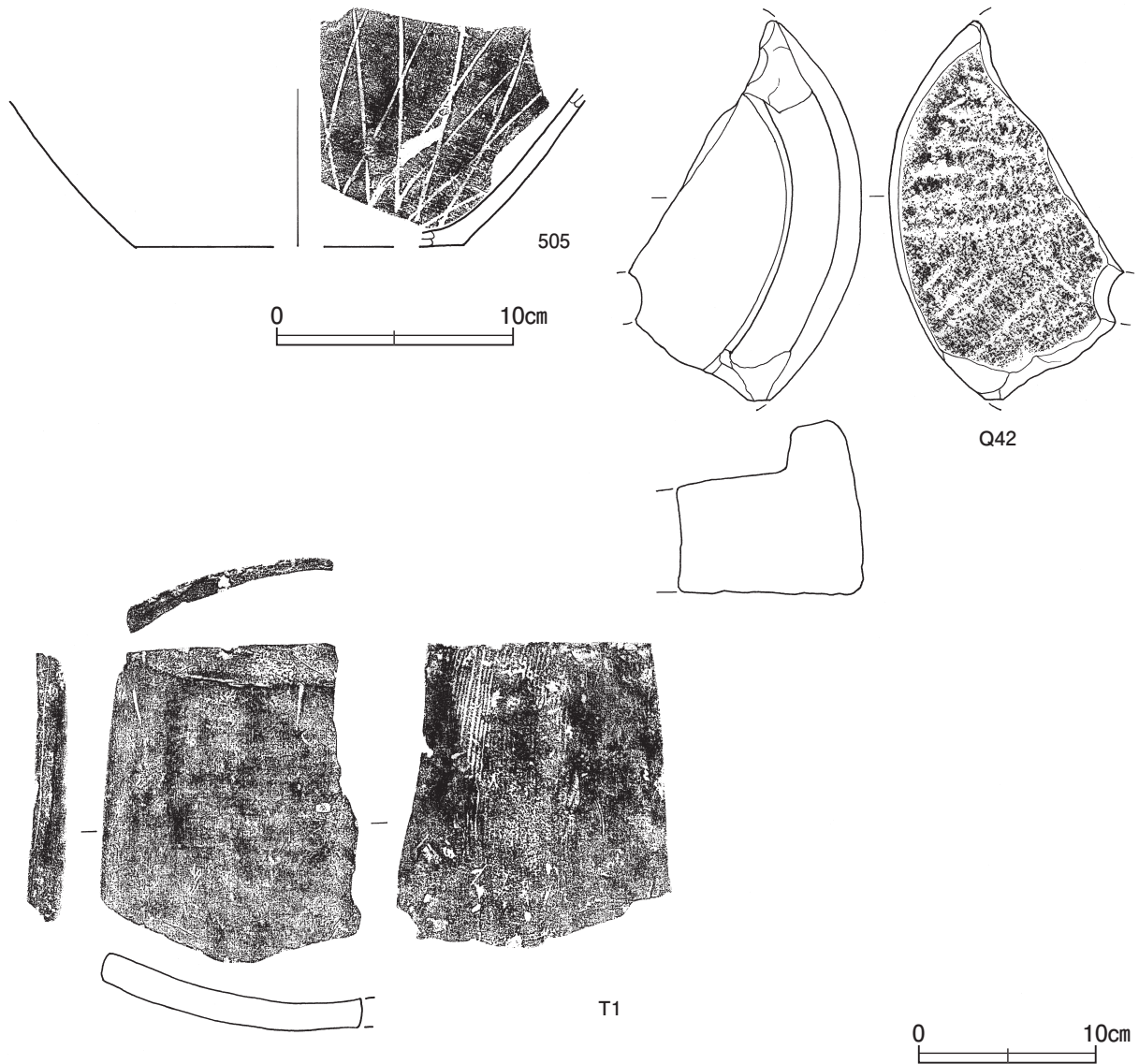
| | | | |
|--------|---|-------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 (第137号溝第1層と同じ) | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子量 |
| | | 9 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片95点 (皿13, 内耳鍋54, 甕4, 播鉢24), 陶器片2点 (皿, 常滑系甕), 瓦片1点, 石器・石製品3点 (磨石, 石臼, 不明), 石塔2点 (五輪塔) が出土している。499は覆土中, 498・500～507, Q42, T1は, 木橋痕のピット周辺から多くの遺物と共に出土しており, 隣接する居住区域が廃絶されたときに投棄されたものと考えられる。この他, 縄文土器片8点, 土師器片1点, 須恵器片4点, 軽石4点, 礫53点も確認されている。

所見 検出されたのは, 遺構全体の中の西側に突出した部分と推測され, その形状は調査区中央部の南東に位置している第185号溝と類似している。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第375図 第135号溝跡出土遺物実測図(1)



第376図 第135号溝跡出土遺物実測図

第135号溝跡出土遺物観察表 (第375・376図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|--------|---------------|-------|----|-------------------------------|---------|------------------|
| 498 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.4 | 3.4 | 長石・石英 | 黒褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95%口唇部油煙付着 PL109 |
| 499 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.4 | 3.1 | 長石・雲母・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後スノコ状圧痕 | 覆土中 | 90%口唇部油煙付 |
| 500 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 1.9 | 3.8 | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中下層 | 90%口唇部油煙付着 |
| 501 | 土師質土器 | 皿 | [8.7] | 3.0 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後スノコ状圧痕 | 覆土中層 | 30% |
| 502 | 土師質土器 | 甕 | [21.7] | (8.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明褐 | 普通 | 体部内面指頭痕を残すナデ 外面ナデ | 底面 | |
| 503 | 土師質土器 | 甕 | [21.2] | (9.6) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ | 覆土下層～底面 | |
| 504 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.0) | [13.0] | 長石・石英・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内面1条1単位の播り目 外面ナデ 底部ナデ | 覆土中層 | 10% |
| 505 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.7) | [14.2] | 長石・石英・雲母 | 褐 | 普通 | 体部内面1条1単位の播り目が交差 外面ナデ 底部ナデ | 覆土上層～中層 | |
| 506 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (3.8) | [15.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 体部内面5条1単位の播り目カ 外面ナデ 底部ナデ | 覆土中層 | 10% |
| 507 | 陶器 | 平碗 | — | (3.4) | [6.0] | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 普通 | 削り出し高台 内面と外面中位まで施釉 | 覆土上層 | 10%瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|--------|--------|-------|-----|--------|-----|-----------|------|-------|
| Q42 | 石白(上白) | [27.2] | [3.0] | 9.9 | (2387) | 安山岩 | 6条1単位の播り目 | 覆土中層 | PL117 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|--------|-----|---------|-------|----------------------------------|------|----|
| T 1 | 平瓦 | (18.3) | (14.8) | 1.7 | (756.6) | 長石・雲母 | 外面ナデ 裏面調整圧痕を残すナデ 胎芯明褐色 表面の一部に煤付着 | 覆土下層 | |

第137号溝跡 (第374図)

位置 調査区南東部のM 6 d2～M 6 e1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第135号溝を切っている。

規模と形状 M 6 d2区から、南西方向(N-149°-W)へ直線的にM 6 e1区まで延び、第135号溝に連結している。確認された長さは3.2mで、上幅0.6～0.84m、下幅0.1～0.5m、深さ12cmほどで、断面形は緩やかなU字状である。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 (第135号溝第1層と同じ)

所見 第135号溝に雨水等を排水していたと考えられる。時期は、第135号溝と同じ16世紀後半と考えられる。

第147号溝跡 (第374図)

位置 調査区南東部のM 6 d2～M 6 e2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第135号溝を切っている。

規模と形状 M 6 d2区から、南西方向(N-151°-W)へ直線的にM 6 e2区まで延び、第135号溝に連結している。長さは3mほどで、上幅0.12～0.62m、下幅0.04～0.32m、深さ4cmで、断面形は緩やかなU字状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 黒褐色土の単一層で、自然堆積と考えられる。

所見 第137号溝に並行して位置しており、第135号溝に雨水等を排水していたと考えられる。時期は、第135号溝と同じ16世紀後半と考えられる。

第138号溝跡 (第377・378図)

位置 調査区南東部のM 5 d2～N 5 b5区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第16号墓坑を掘り込み、第145号溝を切り、第134・139・143号溝に切られている。

規模と形状 N 5 b5区から北西方向(N-42°-W)へほぼ直線状にM 5 d2区まで延び、L字状に北東方向(N-57°-E)へ屈曲し、M 5 d2区で第134・145号溝に連結している。確認されたのは長さは48mほどで、上幅1.5～2.3m、下幅0.2～0.6m、深さ60～84cmで、断面形は逆台形状であり、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

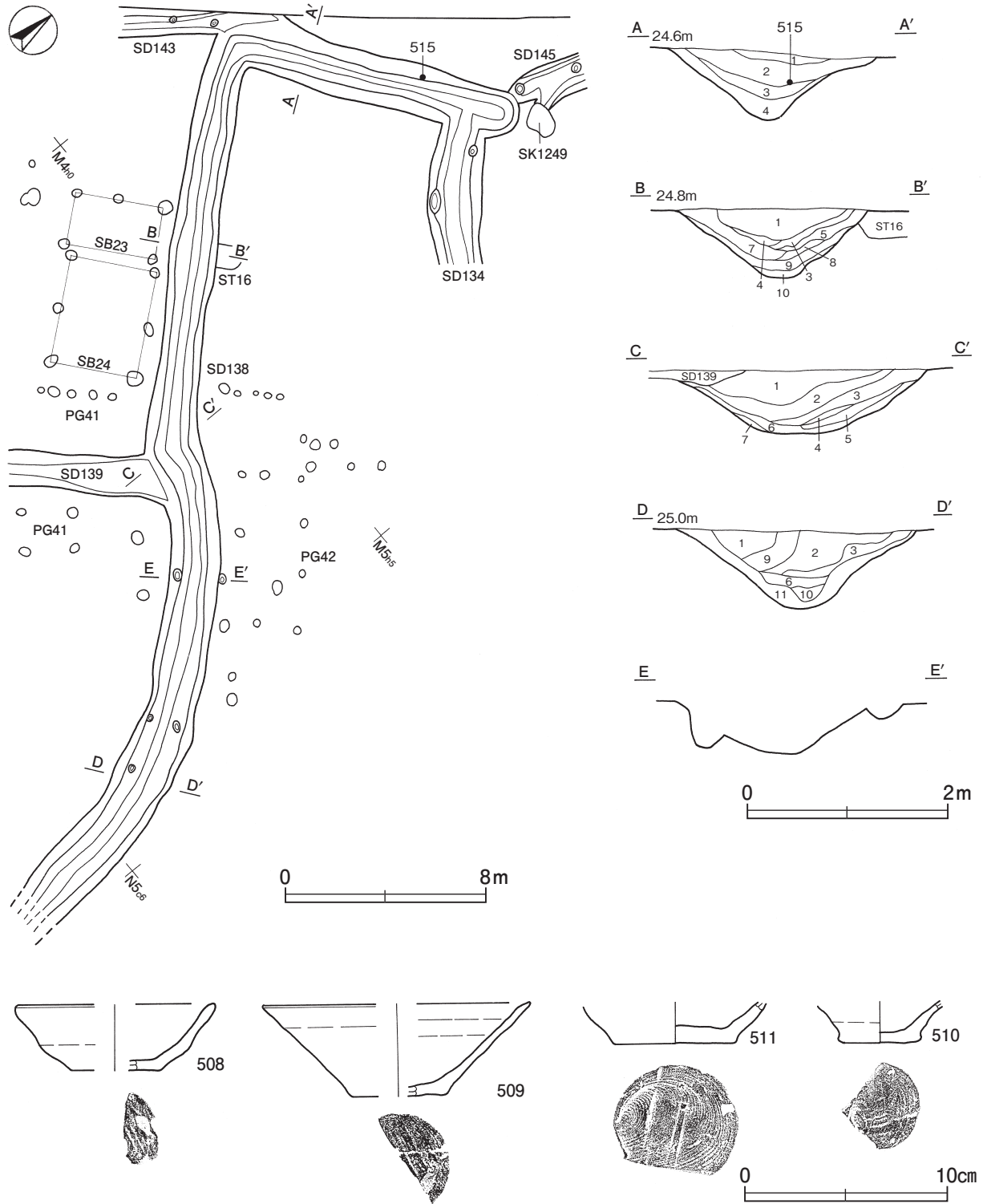
覆土 11層に分層される。部分的にレンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

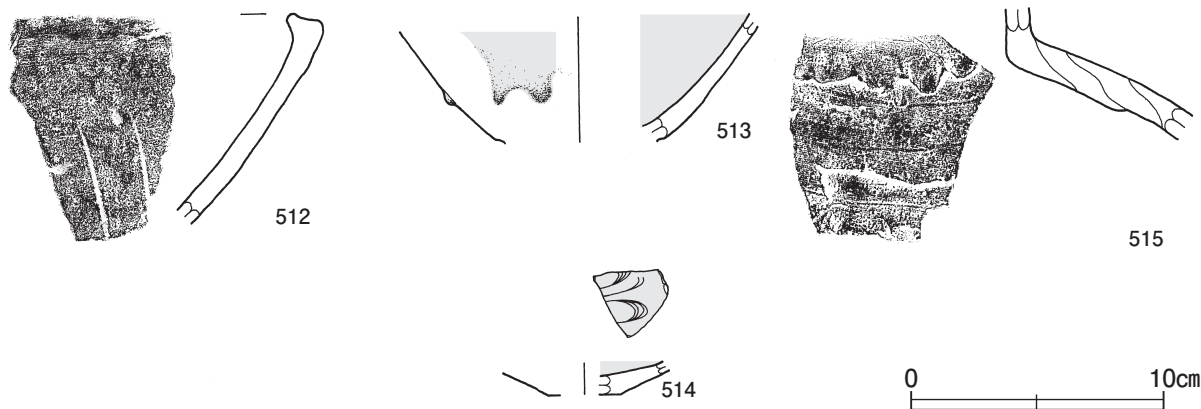
- | | | | |
|----------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化物微量 |
| | | 11 褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片164点（皿32，内耳鍋類128，挿鉢4），陶器片5点（碗1，皿1，常滑系甕2，鉢カ1），磁器片1点（碗），鉄滓1点と，流れ込んだ縄文土器片2点，礫9点が出土している。図示した遺物は，いずれも埋土と共に廃棄されたと推測される。

所見 連結する第134・143号溝からの雨水等を集水する機能と，形状的に第23・24号掘立柱建物，第41・42号ピット群を区画する区画溝であったと考えられる。時期は，出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第377図 第138号溝跡・出土遺物実測図



第378図 第138号溝跡出土遺物実測図

第138号溝跡出土遺物観察表 (第377・378図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|-------|---------------|----------|----|------------------------------|-------|---------|
| 508 | 土師質土器 | 皿 | [9.8] | 3.3 | [4.4] | 長石・雲母・赤色粒子 | 淡黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 20% |
| 509 | 土師質土器 | 皿 | [13.4] | 4.6 | [6.8] | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 30% |
| 510 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.1) | 3.8 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後圧痕 | 覆土中 | 30% |
| 511 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.1) | 6.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後圧痕 | 覆土中 | 50% |
| 512 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (8.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 内面1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | |
| 513 | 陶器 | 碗 | — | (5.0) | — | 精良 灰釉 | 灰白・淡黄 | 普通 | ロクロ成形 掛釉 | 覆土中上層 | 瀬戸・美濃系カ |
| 514 | 陶器 | 皿 | — | (1.3) | [3.0] | 精良 灰釉 | 灰白・灰オリーブ | 普通 | 内面に凌ぎ 漬け掛けカ | 覆土中 | 瀬戸・美濃系カ |
| 515 | 陶器 | 甕 | — | (5.3) | — | 長石・石英 | 明褐色 | 普通 | 体部内・外面ナデ 内面輪積痕 外面タタキ目と自然釉 | 底面 | 常滑系 |

第182号溝跡 (第379～381図)

位置 調査区中央部の I 7 c6～I 7 c8区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第196A号溝に切られている。

規模と形状 I 7 c8区から、北西方向 (N-68°-W) へ直線的に I 7 c6区まで延びている。確認できた長さは8.9mで、上幅0.9～1.2m、下幅0.5～0.62m、深さ55～66cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

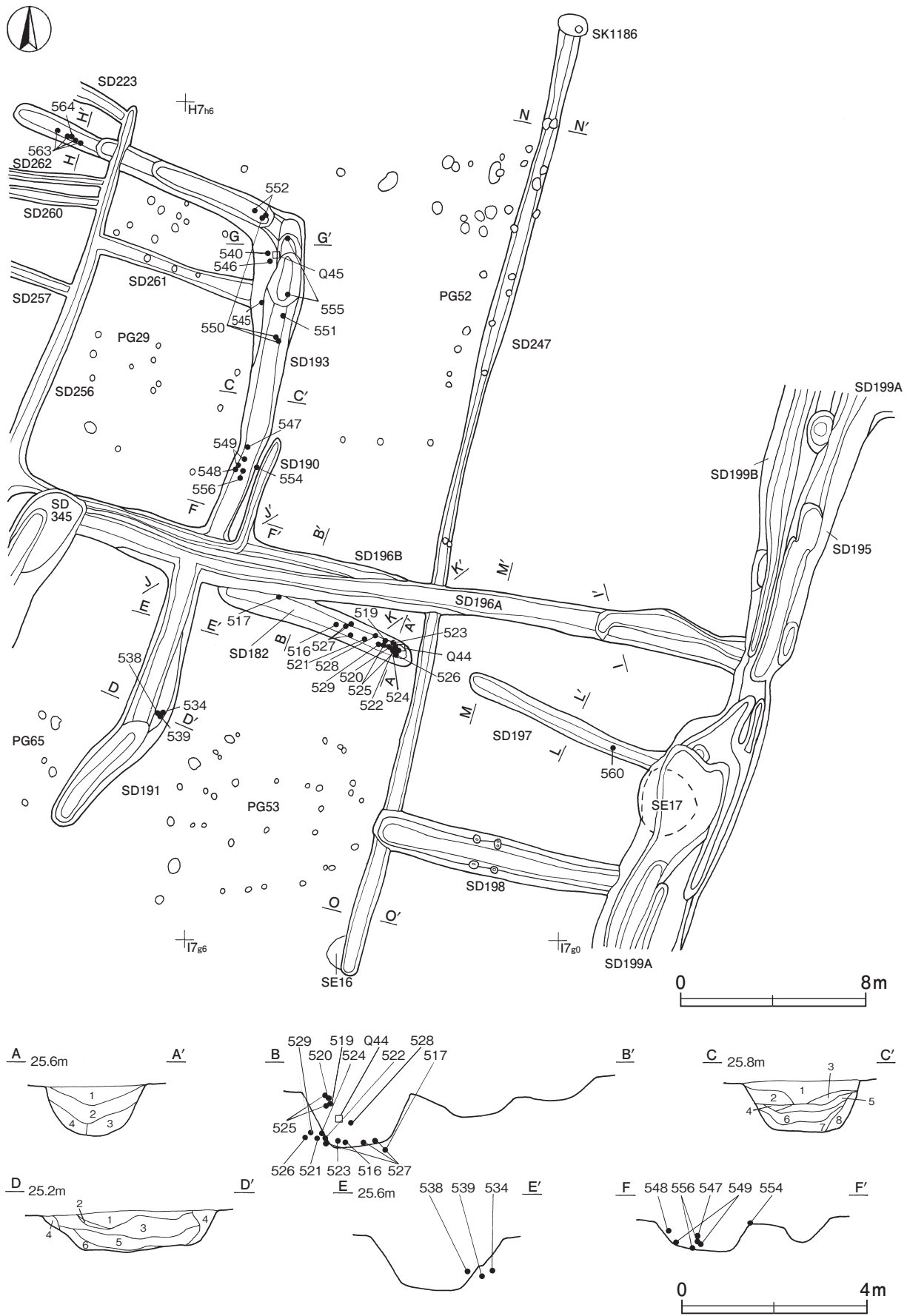
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。各層とも粘土ブロック・粒子を比較的多く含んだ締まりの強い層である。

土層解説 (A-A')

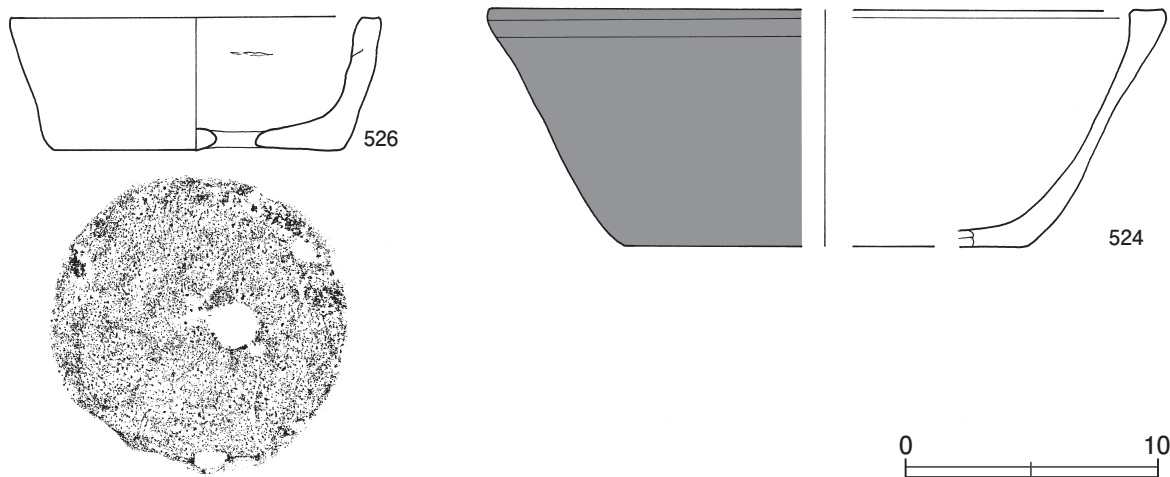
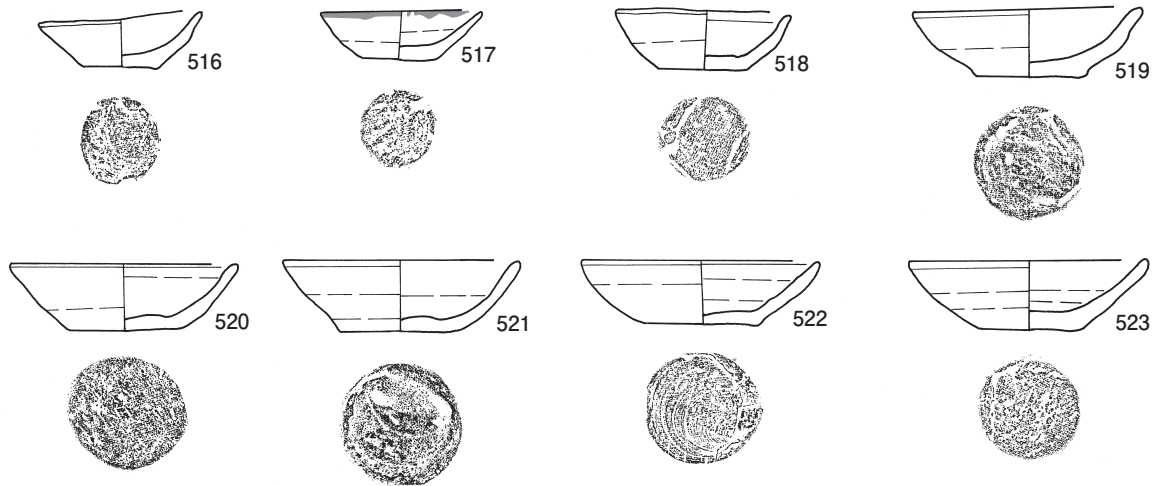
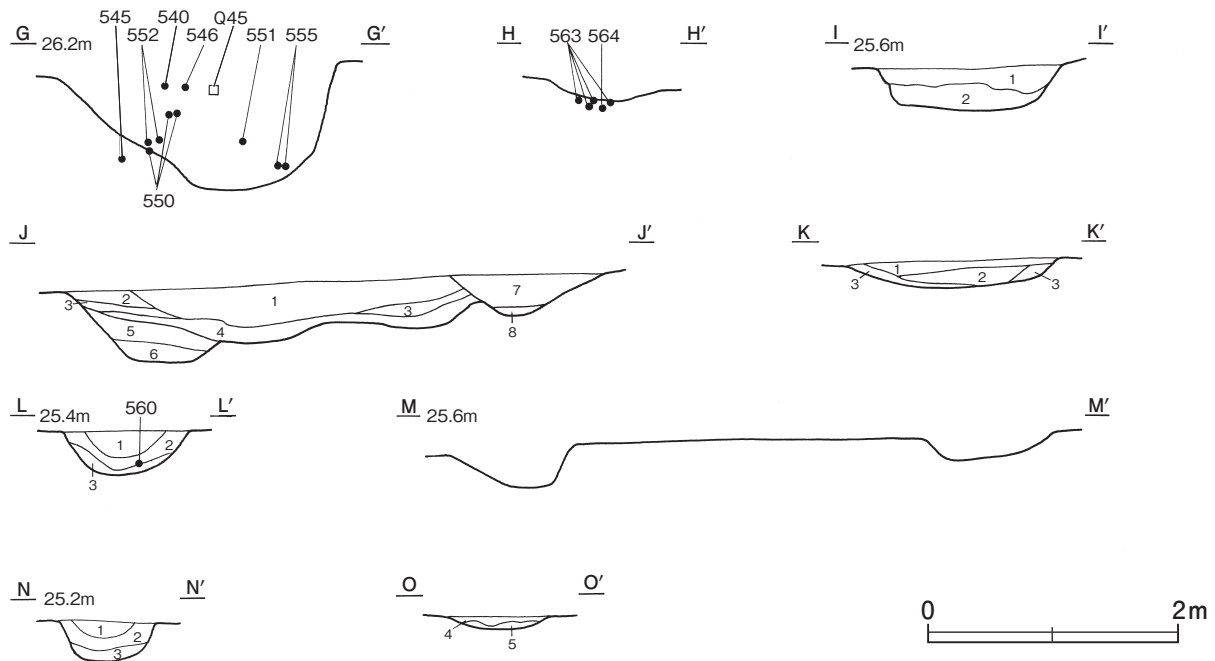
- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 極暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量 | 3 黒褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片88点 (皿32, 内耳鍋19, 香炉1, 甕類34, 播鉢1, 火鉢1), 石器2点 (砥石) が出土している。516・527は中央部, 517は西部, 518～526・528～530とQ43・Q44は東部から、それぞれ覆土下層と底面を中心に集中して出土しており、本跡の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。この他、流れ込んだ土師器片10点, 須恵器片1点, 礫1点も出土している。

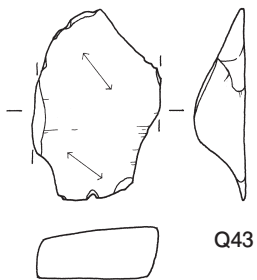
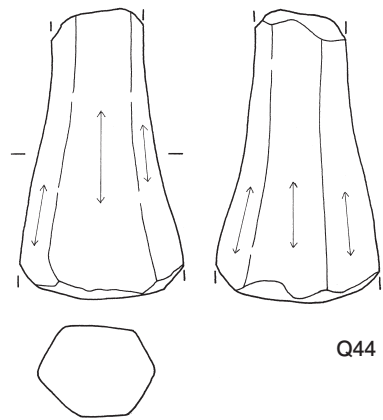
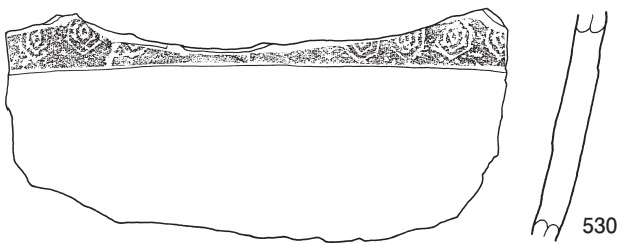
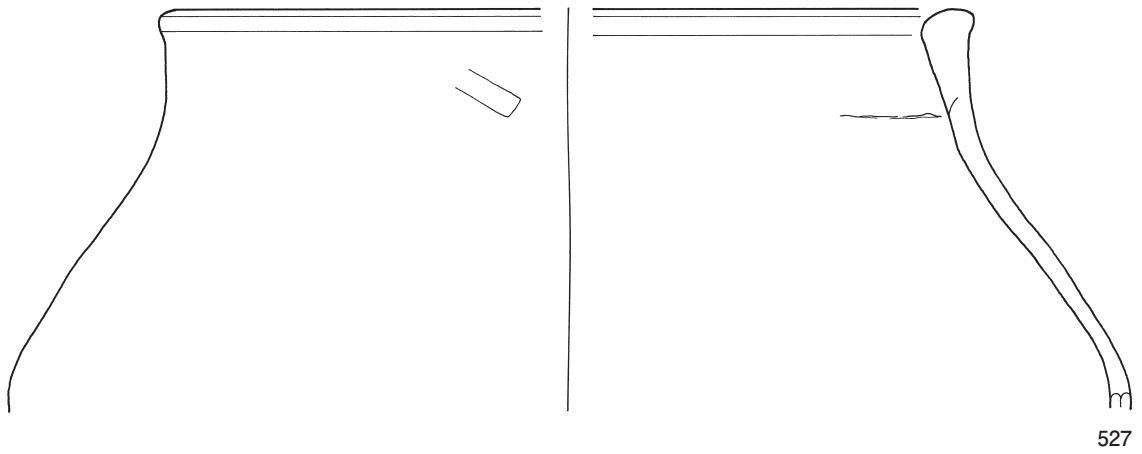
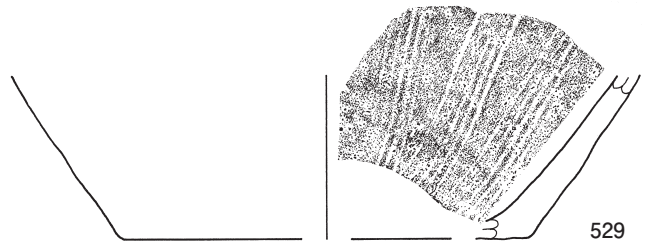
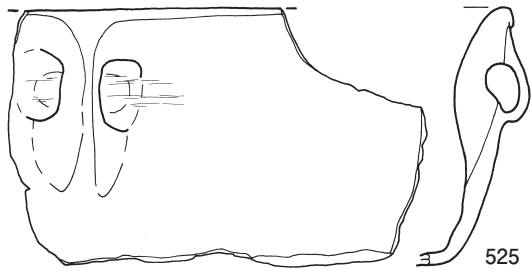
所見 第196A号溝に掘り込まれているため全容は不明であるが、掘り方の位置などから区画溝と推測される。出土した土器は皿と香炉の残存率が高く、甕片が多いことから意図的に廃棄した可能性が想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第379图 第182·190·191·193·196A·196B·197·247号沟迹实测图



第380图 第190·193·196A·196B·197·247号沟迹, 第182号沟迹出土遗物实测图



第381图 第182号沟迹出土遗物实测图

第182号溝跡出土遺物観察表（第380・381図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|-----------------|-------|----|---------------------------------|------|-------------------|
| 516 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 2.3 | 3.2 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% 成形にゆがみ |
| 517 | 土師質土器 | 皿 | 6.3 | 2.0 | 2.9 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95% 口唇部油煙付着 PL109 |
| 518 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.4 | 3.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90% 成形にゆがみ PL109 |
| 519 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 2.8 | 4.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 85% |
| 520 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 2.7 | 4.4 | 雲母・赤色粒子 | 淡橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 90% |
| 521 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 2.9 | 4.7 | 長石・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% PL109 |
| 522 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 2.5 | 4.6 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100% PL109 |
| 523 | 土師質土器 | 皿 | 9.5 | 2.8 | 4.0 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100% |
| 524 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [27.0] | 9.5 | [16.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内面から口縁部外面ナデ | 覆土下層 | 外面煤付着 |
| 525 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [39.6] | 10.3 | [35.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 1 内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ 内耳に掛け痕 | 覆土上層 | 外面煤付着 |
| 526 | 土師質土器 | 香炉カ | 14.6 | 5.3 | 11.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 体部内面輪積痕を残すナデ 外面へラ削り後ナデ 底部穿孔 | 覆土下層 | 90% 植木鉢転用カ PL114 |
| 527 | 土師質土器 | 甕 | [31.7] | (16.1) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明黄褐 | 普通 | 口唇部破片 内面輪積痕を残すナデ 外面へラ削り後ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 528 | 土師質土器 | 壺カ | — | (15.5) | 19.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内面指圧痕を残すナデ 外面へラ削り後ナデ 体部下端へラ削り | 覆土中層 | 25% |
| 529 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.5) | [16.4] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | にぶい橙 | 普通 | 5 条 1 単位の播り目カ 外面ナデ 内面摩滅 | 覆土下層 | |
| 530 | 瓦質土器 | 火鉢 | — | (9.1) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 明赤褐 | 普通 | 内面ナデ 外面スタンプ文押印 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-----|-----|--------|-----|-------------|------|----|
| Q 43 | 砥石 | (7.6) | 5.1 | 2.0 | (7.6) | 凝灰岩 | 端部欠損 砥面 2 面 | 覆土中 | |
| Q 44 | 砥石 | (11.6) | 6.5 | 5.2 | (34.4) | 砂岩 | 端部欠損 砥面 6 面 | 覆土中層 | |

第190号溝跡（第379・380図）

位置 調査区中央部の I 7 a7 ~ I 7 b4区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第193・196A・196B号溝を切り、第345号溝に切られている。

規模と形状 I 7 a7区から、南西方向（N-162°-W）へ直線的に I 7 b6区まで延び、さらに西方向（N-71°-W）へL字状に屈曲して I 7 b4区まで延びている。長さは11.2mで、上幅0.26 ~ 0.75m、下幅0.1 ~ 0.3m、深さ20cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。粘土を含む層は締まりが強く、下層ほど粘性が強い層である。

土層解説（J-J'）

7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 8 暗褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片5点（皿1、播鉢1、内耳鍋3）と、流れ込んだ縄文土器片9点が散在して小片で出土しており、流れ込みや混入したものと考えられる。

所見 雨水等を第345号溝へ排水する機能をもっていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第191号溝跡（第379・380・382図）

位置 調査区中央部の I 7 c6 ~ I 7 e4区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第196A号溝に切られている。

規模と形状 I 7 e4区から、北東方向（N-30°-E）へ緩曲線状に延び、第196A号溝に連結している。長さは12mほどで、上幅1.3 ~ 1.94m、下幅0.3 ~ 0.72m、深さ45 ~ 55cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾し

て立ち上がっている。

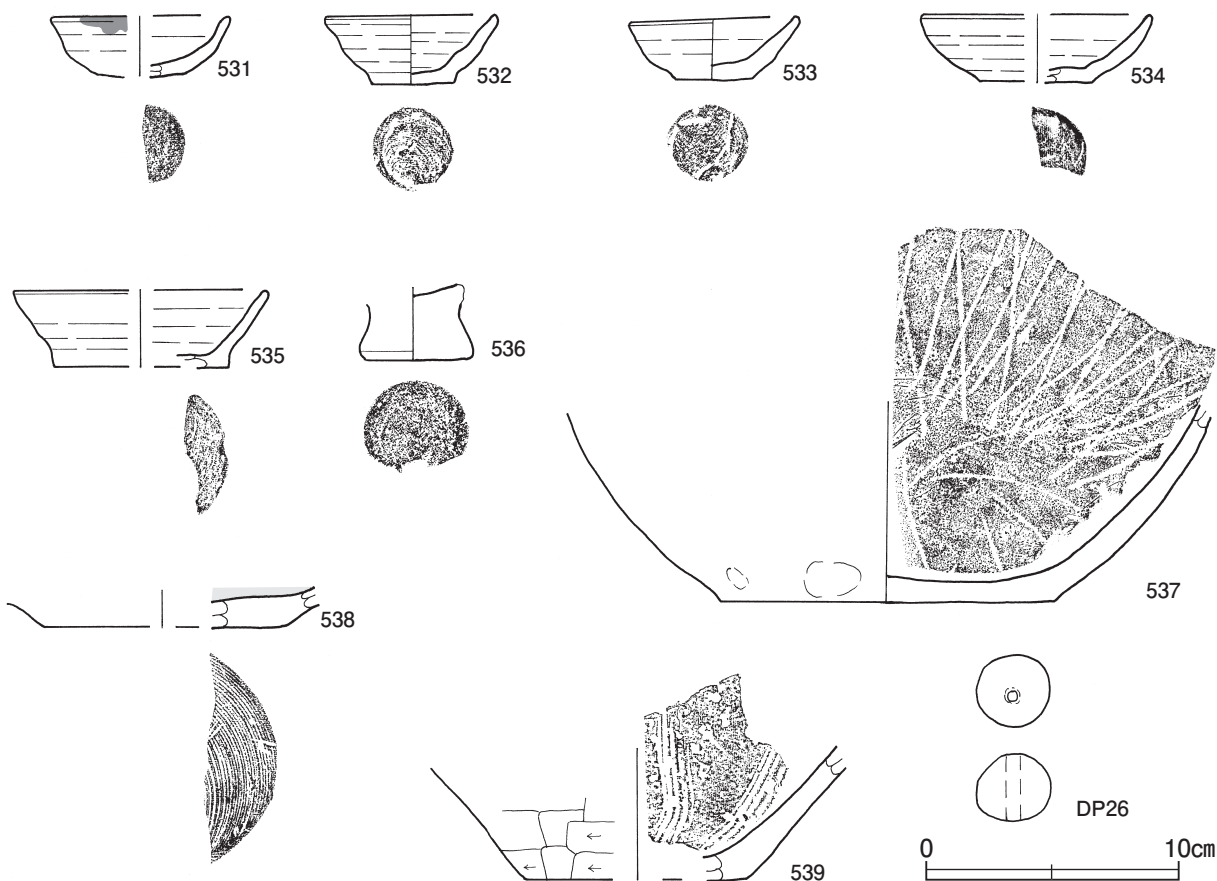
覆土 6層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。各層とも粘土ブロック・粒子を比較的多く含んで締まりが強い層である。

土層解説 (D-D', J-J')

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|-------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐灰色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐灰色 | 粘土粒子多量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐灰色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片533点 (皿82, 内耳鍋類441, 挿鉢10), 瓦質土器片1点 (香炉), 陶器片9点 (皿4, 大皿1, 常滑系片口鉢1, 常滑系甕2, 瓶カ1), 磁器片1点 (皿), 石器2点 (砥石), 粘土塊1点が出土している。531～539は、覆土上層から底面にかけて混在して出土した遺物の一部である。これらは、建物跡と想定される第53・65号ピット群等の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。この他、流れ込んだ縄文土器片2点, 礫16点も確認されている。

所見 掘り方と重複関係から、第196A号溝から流れ込んだ雨水の流路と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第382図 第191号溝跡出土遺物実測図

第191号溝跡出土遺物観察表 (第382図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|------------|----|----|-------------------------------|-------|------------|
| 531 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.3 | [3.4] | 長石・雲母 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中上層 | 40% 口唇部煤附着 |
| 532 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.7 | 3.2 | 石英・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 覆土中上層 | 70% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-------|--------|-------|-------|-----------------|--------|----|---------------------------------|-------|--------------|
| 533 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.5 | 3.1 | 長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子 | 浅黄 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 覆土中上層 | 85% 成形にゆがみ |
| 534 | 土師質土器 | 皿 | [9.2] | 2.7 | [4.4] | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 25% |
| 535 | 土師質土器 | 皿 | [10.2] | 3.1 | [7.0] | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 25% |
| 536 | 土師質土器 | 柱状高台皿 | — | 2.9 | 4.5 | 長石・雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 貼り付けた高台部の破片 ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中上層 | 20% |
| 537 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (8.0) | 13.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 1条1単位の播り目を交差 外面指頭圧痕を残すナデ | 覆土中 | 25% |
| 538 | 陶器 | 折縁深皿 | — | (1.5) | [9.6] | 精良 長石・灰釉 | 灰白・灰黄褐 | 良好 | 底部片 底部回転糸切り 内面に施釉 | 覆土中層 | 10% 瀬戸系14世紀代 |
| 539 | 陶器 | 播鉢 | — | (5.3) | [8.8] | 精良 長石・錆釉 | 灰白・赤褐 | 良好 | 内面5条1単位の播り目 外面横位のヘラ削りとナデ | 覆土中層 | 瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 器種 | 高さ | 孔径 | 幅 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|------|----|------|------|----|
| DP26 | 球状土鉢 | 2.7 | 0.6 | 3.0 | 23.3 | 土製 | 全面ナデ | 覆土中 | |

第193号溝跡 (第379・380・383～386図)

位置 調査区中央部のH7h4～I7b6区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第261号溝を切り、第190・256号溝に切られている。

規模と形状 H7h4区から、南東方向(N-112°-E)へ直線的にH7i7区まで延び、さらに南方向(N-170°-W)へL字状に屈曲してI7b6区まで直線的に延びている。確認された長さは26.3mで、上幅0.82～2.4m、下幅0.36～0.9m、深さ20～55cm、北西部の断面形は緩やかなU字状を呈し、他は逆台形状である。壁は北西部は緩やかな角度で立ち上がり、他は外傾して立ち上がっている。

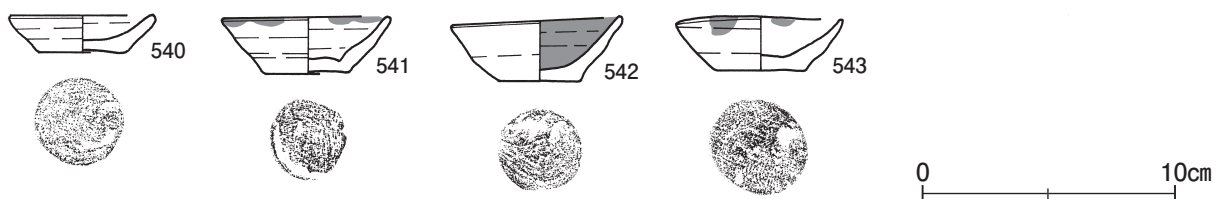
覆土 8層に分層される。第1～5層は含有物から人為堆積と考えられるが、第6～8層はレンズ状の堆積状況と含有物から自然堆積と想定される。粘土を多く含む層ほど締まりが強く、下位層ほど水分を含んで粘性が強い層である。

土層解説 (C-C')

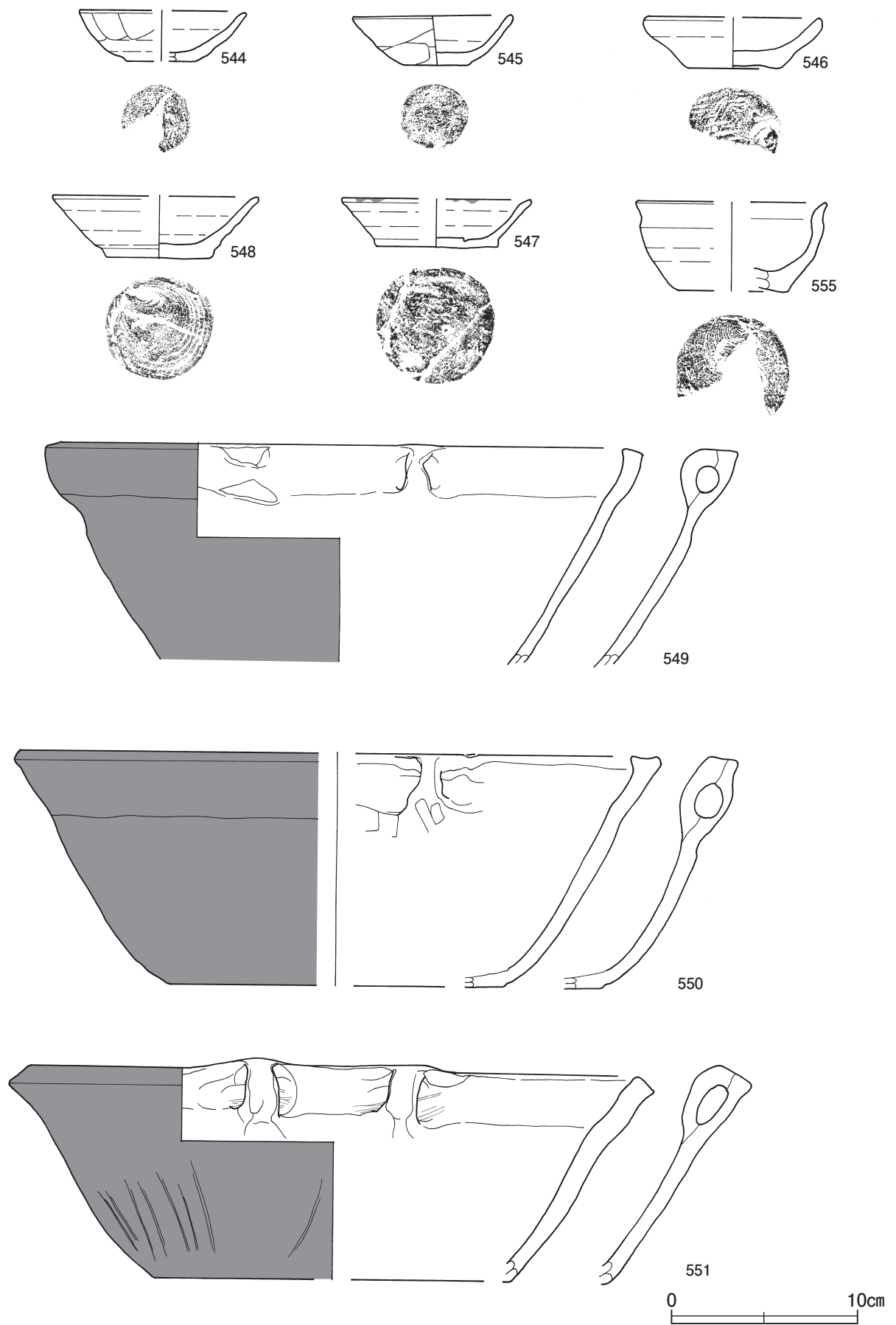
| | | | |
|----------|--------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片309点(碗カ1, 皿69, 内耳鍋類189, 甕19, 播鉢31), 陶器片13点(灰釉皿1, 常滑系甕8, 常滑系片口鉢4), 青磁片1点(皿カ), 石器4点(磨石1, 石臼2, 砥石1), 鉄製品1点(不明), 古銭1点(永楽通寶), 粘土の焼土塊16点が出土している。図示した遺物は、北部, 中央部, 南部の3か所に集中して出土している。3か所とも覆土上層から底面にかけて出土しており、投棄されたものと推測される。この他、周辺の住居跡から流れ込んだ縄文土器片13点, 土師器片37点, 須恵器片37点, 軽石1点, 礫10点も確認されている。

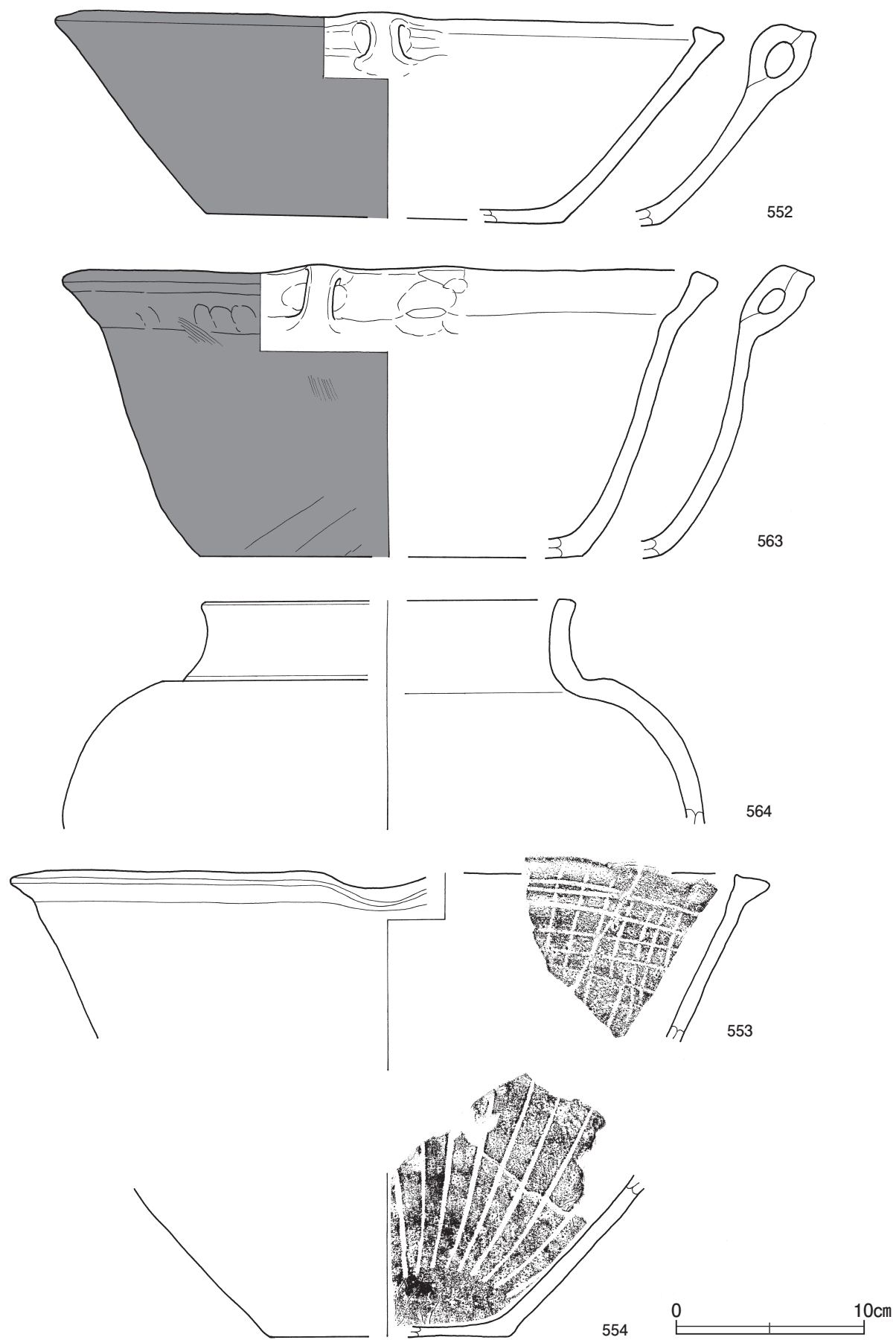
所見 形状と配置から、第29号ピット群を区画する溝と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



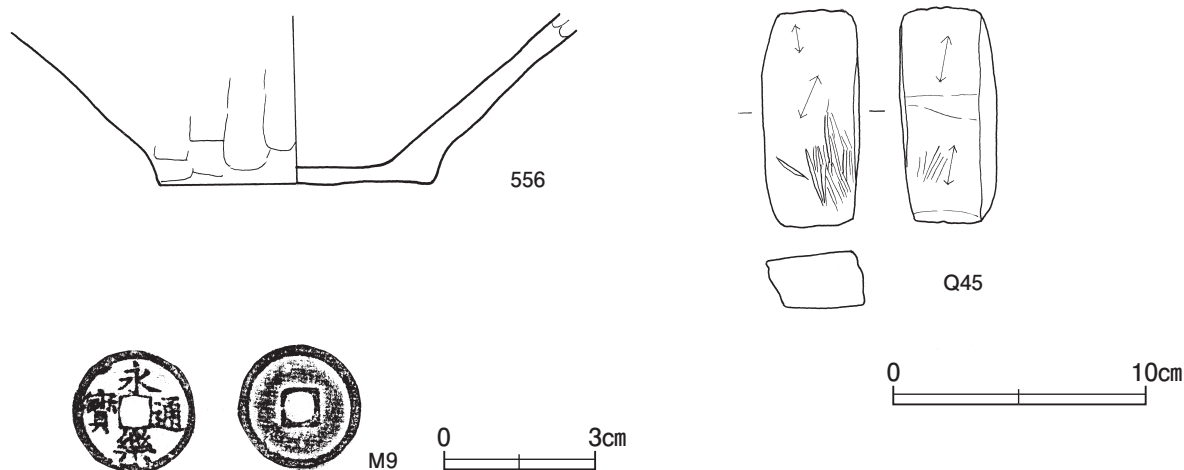
第383図 第193号溝跡出土遺物実測図(1)



第384图 第193号沟迹出土遗物实测图(2)



第385图 第193号溝跡出土遺物実測図(3)



第386図 第193号溝跡出土遺物実測図(4)

第193号溝跡出土遺物観察表 (第383 ~ 386図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|------------------|-------|----|------------------------------------|---------|------------------|
| 540 | 土師質土器 | 皿 | 5.8 | 1.5 | 3.6 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 95% |
| 541 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 3.4 | 長石・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中底面 | 95%口唇部油煙付着 PL109 |
| 542 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.6 | 3.4 | 赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り痕を残すナデ | 覆土中中層 | 90%成形にゆがみ内面油煙付着 |
| 543 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 2.1 | 3.6 | 雲母・赤色粒子 | 淡橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り痕を残すナデ | 覆土中下層 | 90%成形にゆがみ口唇部油煙付着 |
| 544 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 2.7 | 3.8 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後口辺部外面ヘラナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 60% |
| 545 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 2.8 | 3.7 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後外面ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 80% |
| 546 | 土師質土器 | 皿 | [9.2] | 2.8 | 5.0 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後板状圧痕 | 覆土上層 | 40% |
| 547 | 土師質土器 | 皿 | [10.3] | 2.6 | 6.6 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 65%口唇部油煙付着 |
| 548 | 土師質土器 | 皿 | [11.0] | 3.4 | 5.6 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 65% |
| 549 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 30.4 | (11.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫 | にぶい褐 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け 内・外面ナデ 耳部摩滅 | 覆土下層・底面 | 85% PL112 |
| 550 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [34.6] | (12.6) | [18.2] | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け 内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ 耳部摩滅 | 覆土中層 | 20%体部外面煤付着 |
| 563 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 32.8 | 15.7 | [20.6] | 長石・石英・雲母 | 明褐 | 普通 | 2内耳残存 耳部貼り付け 内面ナデ 外面工具痕を残すナデ | 覆土中 | 40%外面煤付着 PL113 |
| 551 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 33.0 | 11.9 | [19.4] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 暗赤褐 | 普通 | 2内耳残存 耳部貼り付け 内面ナデ 外面工具痕を残すナデ 耳部に掛痕 | 覆土下層 | 80%体部外面煤付着 PL112 |
| 552 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 36.0 | 10.8 | [19.2] | 長石・石英・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳部貼り付け 内・外面ナデ | 覆土中層 | 40%体部外面煤付着 |
| 564 | 土師質土器 | 甕 | [19.8] | (17.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 口辺部破片 内・外面横ナデ | 覆土中 | 15% |
| 553 | 土師質土器 | 播鉢 | [40.6] | (9.0) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 片口部残存 口唇部外側につまみ出し 1条1単位の播り目を交差 | 覆土中 | 10% |
| 554 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (8.7) | [12.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 1条1単位の播り目 外面ナデ | 底面 | 10% |
| 555 | 土師質土器 | 碗カ | [10.2] | 4.8 | 6.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 40% |
| 556 | 陶器 | 片口鉢 | — | (6.7) | [11.2] | 長石・雲母 | 浅黄 | 良好 | 外面下位縦位のヘラ削りとナデ 内面滑らか | 覆土下層・底面 | 10%常滑系 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|-----------|------|----|
| Q45 | 砥石 | 8.6 | 4.0 | 2.2 | 88.2 | 凝灰岩 | 砥面2面 擦痕有り | 覆土下層 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|------|-----|-----|-----|------|----|--------|------|-------|
| M9 | 永楽通寶 | 2.5 | 0.6 | 2.2 | 1408 | 銅 | 明銭 模鑄銭 | 覆土中 | PL123 |

第196A号溝跡 (第379・380・387図)

位置 調査区中央部のI7b4～I8d2区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第182・191・196B・247号溝を切り、第190・199A・199B・345号溝に切られている。

規模と形状 I 7 b42区から、東方向(N-97°-E)へ直線的に延びている。長さは29.4mで、上幅1.04～2.26m、下幅0.16～0.86m、深さ16～48cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 9層に分層される。各土層断面ごとに含有物に違いが認められる人為堆積である。

土層解説 (I-I')

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量

土層解説 (K-K')

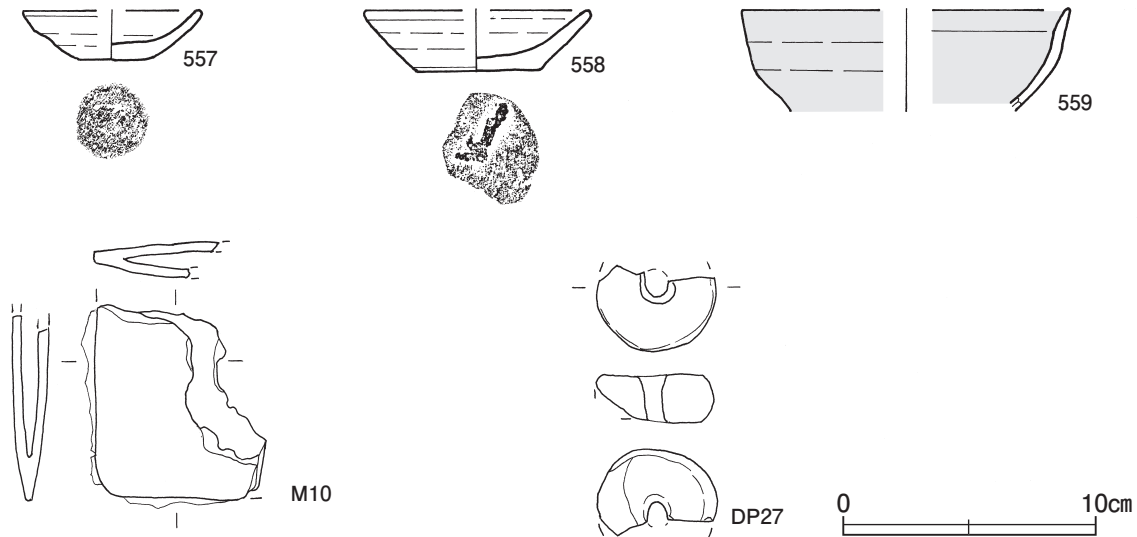
- 1 灰褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 焼土ブロック多量, 炭化物中量, ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 粘土粒子多量, 炭化物中量, 焼土ブロック少量

土層解説 (J-J')

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・砂粒微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック・炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック・炭化物・砂粒微量

遺物出土状況 土師質土器片161点(皿21, 内耳鍋類113, 甕10, 播鉢17), 瓦質土器片1点(火鉢), 陶器片1点(天目茶碗), 石器3点(砥石), 鉄器1点(鋤先), 壁土片1点, その他, 流れ込みや攪乱によって混入した須恵器片6点, 陶器片1点(小杯), 磁器片6点(小杯1, 碗4, 瓶1), 土製品1点(紡錘車), 近代の瓦片2点, 礫10点も出土している。557～559, DP27, M10は, 多くの遺物と同様に散在した状態で覆土中から出土しており, 埋土と共に廃棄されたものと考えられる。

所見 雨水を第199A号溝に排水するとともに, 第345号溝と第199A号溝を連結して中央部の東区を南北に区画していたと考えられる。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第387図 第196A号溝跡出土遺物実測図

第196A号溝跡出土遺物観察表(第387図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|-------|-------|---------------|-------|----|------------------------|------|------------|
| 557 | 土師質土器 | 皿 | [7.2] | 2.0 | 2.9 | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60% |
| 558 | 土師質土器 | 皿 | [9.2] | 2.5 | [5.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 30% |
| 559 | 陶器 | 天目茶碗 | [13.0] | (4.1) | — | 精良 鉄釉 | 灰白・黒褐 | 良好 | 内・外面中位まで鉄釉を施釉 | 覆土中 | 20% 瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|-----|--------|----|-----------|------|----|
| DP27 | 紡錘車 | 4.7 | 1.9 | 1.2 | (30.6) | 土製 | 半分欠損 全面ナデ | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-------|-----|--------|----|----------|------|-------|
| M10 | 鋤先 | (7.6) | (6.9) | 0.4 | (78.5) | 鉄 | 差し込み部の破片 | 覆土中 | PL123 |

第196 B号溝跡 (第379・380図)

位置と規模 調査区中央部の I 7 b6 ~ I 7 c8区に位置している。I 7 b6区から、南東方向 (N-100°-E) へ直線的に I 7 c8区まで延びている。確認できる長さは7 mほどで、上幅0.6 ~ 0.72m, 下幅0.24 ~ 0.4m, 深さ24cmで、断面形は皿状である。底面も皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 粘土ブロック・粒子を比較的多く含んだ人為堆積である。

所見 重複する第196 A号溝に大きく掘り込まれていることから、時的には第196 A号溝が掘削される前の溝と推測される。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第197号溝跡 (第379・380・388図)

位置と規模 調査区中央部の I 7 d9 ~ I 8 e1区に位置している。I 7 d9区から、南東方向 (N-116°-E) へ直線的に延び、I 8 e1区で第199 A号溝に連結している。長さは9 mほどで、上幅0.72 ~ 0.98m, 下幅0.28 ~ 0.5m, 深さ39cmほど、断面形はU字形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (L-L')

- | | | | |
|-------|------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 3 褐色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片26点 (皿6, 内耳鍋19, 挿鉢1), 礫2点, この他, 攪乱により混入した磁器片1点 (碗) も出土している。埋土と共に廃棄されたと考えられる560は、覆土下層から出土している。

所見 第199 A号溝に、雨水等を排水する機能があったと考えられる。時期は、重複関係から16世紀後半以降と考えられる。

第247号溝跡 (第379・380・388図)

位置と規模 調査区中央部の H 7 g0 ~ I 7 g7区に位置している。H 7 g0区から、南西方向 (N-170°-W) へ直線的に I 7 g7区まで延びている。長さは42mで、上幅1.38 ~ 1.8m, 下幅0.24 ~ 0.44m, 深さ35cm, 断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

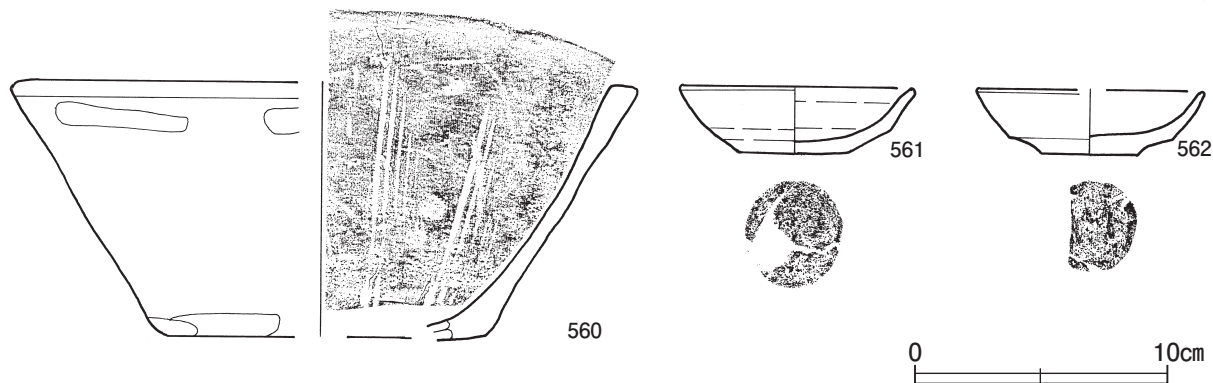
覆土 5層に分層される。含有物から第1 ~ 3層は人為堆積, 第4・5層は自然堆積と考えられる。

土層解説 (N-N', O-O')

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片23点 (皿9, 内耳鍋14), 陶器片1点 (皿), 石器1点 (磨石) と, 流れ込んだ縄文土器片2点, 土師器片9点, 須恵器片2点, 礫2点が散在した状態で出土している。ほとんどの遺物は、流れ込んだものと推測され, 561・562も覆土中から出土している。

所見 第199号溝と並行して中央部を東西に区画していた溝で、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。



第388図 第197・247号溝跡出土遺物実測図

第197号溝跡出土遺物観察表（第388図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|------|--------|-------------|----|----|------------------------------------|------|-----|
| 560 | 土師質土器 | 播鉢 | [25.2] | 10.2 | [13.0] | 長石・石英・雲母・小礫 | 橙 | 普通 | 口唇部端部水平 外面ヘラナデ後ナデ 内面5条1単位の播り目摩滅 | 覆土下層 | 10% |

第247号溝跡出土遺物観察表（第388図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|---------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 561 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 2.7 | 4.1 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90% |
| 562 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 2.6 | 3.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 淡橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 40% |

第183号溝跡（第389図）

位置 調査区中央部の J 7 a6 ~ J 7 a8区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 掘り替えをされた溝で、第185号溝に切られている。

規模と形状 J 7 a8区から、北西方向 (N-80°-W) へ直線状に J 7 a6区まで伸び、第185号溝に繋がっている。確認できる長さは8.8mで、上幅0.52 ~ 0.84m、下幅0.24 ~ 0.5m、深さ22 ~ 30cmで、断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説 (B-B')

3 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 第185号溝に雨水等を排水していたと想定され、時期は重複関係から、16世紀後半と考えられる。

第185号溝跡（第389 ~ 391図）

位置 調査区中央部の東端 J 7 a0 ~ J 7 b8区で、標高24 ~ 25mにかけての台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第183号溝を切り、第187号溝に切られている。

規模と形状 調査区域外と接する J 7 a5区から、西方向 (N-94°-W) へ直線的に J 7 a0区まで伸び、U字状に屈曲して南東方向 (N-110°-E) へ直線的に J 7 b8区まで伸びている。確認された長さは31mほどで、上幅1.3 ~ 3.8m、下幅0.28 ~ 1.4m、深さ50 ~ 118cmで、断面形は緩やかなU字形で、壁は外傾して立ち上がっている。

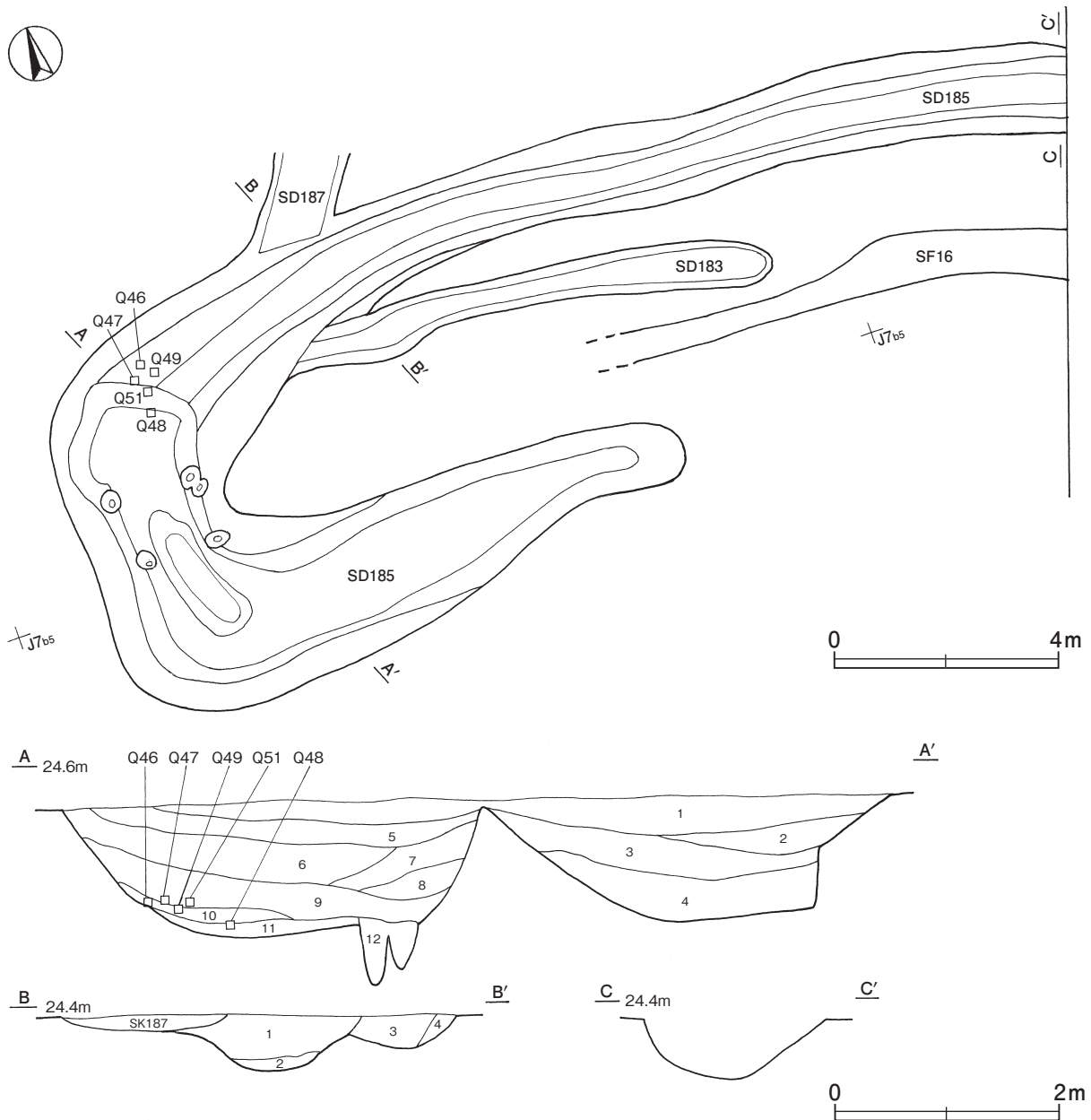
木橋跡 1か所。5か所の柱穴痕の深さは26～32cmで、西端のU字状に屈曲した部分に確認されている。

覆土 12層に分層される。含有物と堆積状況から、自然堆積と考えられる。第12層は粘性が強く締まりの弱い柱穴痕の層である。

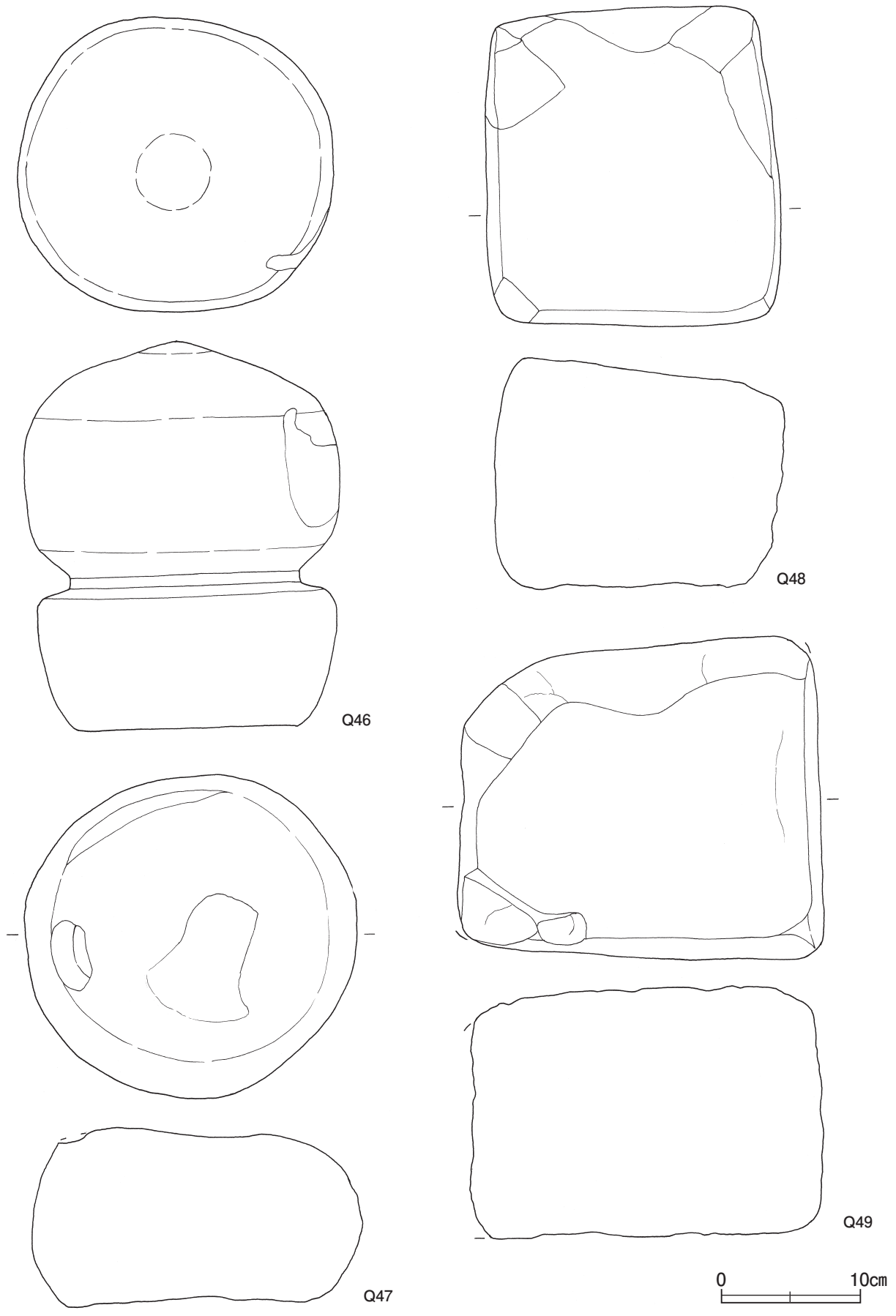
土層解説 (A-A', B-B')

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 10 極暗褐色 | 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 砂粒・炭化粒子微量 (底面の層) |
| 6 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 12 黒褐色 | 粘土ブロック・砂粒微量 (柱痕の層) |

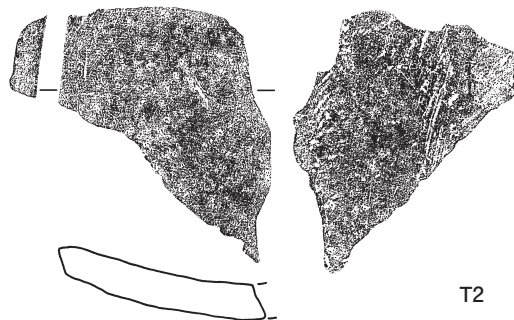
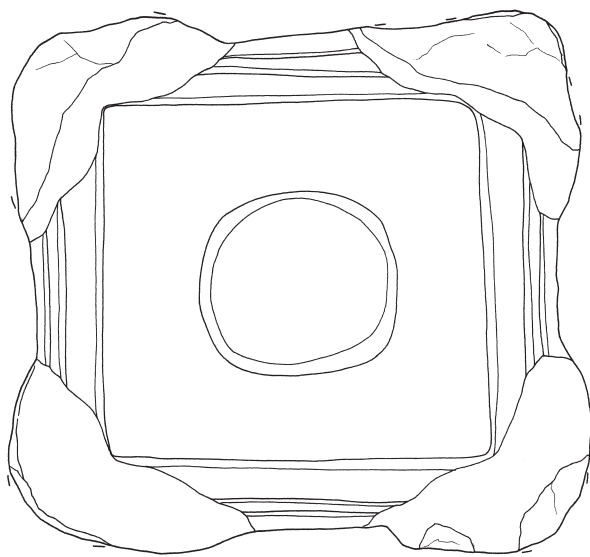
遺物出土状況 土師質土器片46点 (皿10, 内耳鍋29, 甕5, 挿鉢1, 火鉢1), 陶器片2点 (碗), 石器3点 (砥石), 石塔11点 (五輪塔8, 宝篋印塔2, 六地藏石幢1) が出土している。Q46～Q51, T2を中心とする遺物は、木橋の北側に投げ込まれたように底面から出土している。その他、縄文土器片4点, 土師器片45点, 礫6点も確認されている。



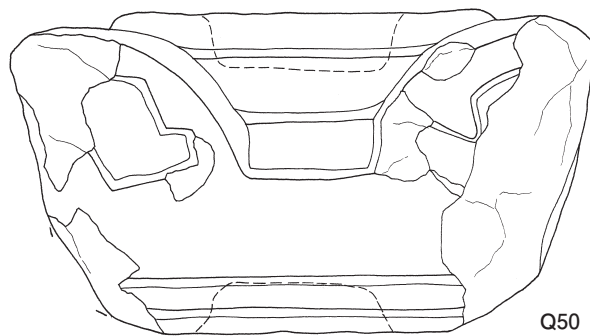
第389図 第183・185号溝跡実測図



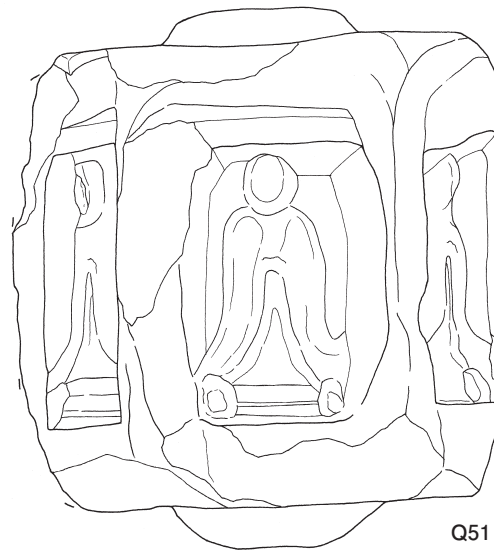
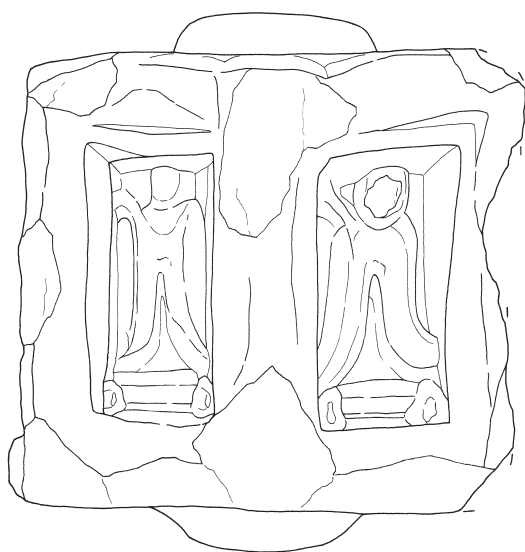
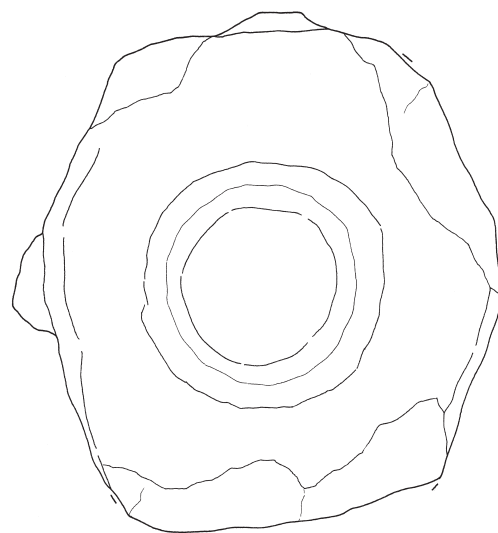
第390图 第185号溝跡出土遺物実測図(1)



T2



Q50



Q51



第391图 第185号沟迹出土遗物实测图(2)

所見 中央部の標高の最も低い埋没谷に位置しており、東の調査区域外には谷が入り込み谷津頭となっている。また、南東の調査区域外には近世後半の墓石類が廃棄されている墓域と鹿島神社の祠が所在している。この周辺は中世後半にも墓域が所在していたものと推測され、集落廃絶時にその石塔が投げ込まれたものと推察される。廃絶された時期は、出土遺物から16世紀末葉から17世紀初頭と考えられる。

第185号溝跡出土遺物観察表（第390・391図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----------------|--------|--------|--------|---------|-----|------------------------|------|-------|
| Q46 | 五輪塔 (空風輪) | 27.8 | (22.6) | 21.3 | (19400) | 花崗岩 | 空輪と風輪のくびれ明瞭 空輪の一部欠損 | 底面 | PL118 |
| Q47 | 五輪塔 (塔身・水輪) | 24.0 | 23.2 | (12.9) | (9800) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 上下が平らな扁平な球形 | 底面 | |
| Q48 | 五輪塔 (地輪) | 22.9 | 21.0 | 16.7 | 14400 | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 3方の角部欠損 | 底面 | |
| Q49 | 五輪塔 (地輪) | (26.3) | (23.2) | 18.0 | (19420) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 2方の角部欠損 | 底面 | |
| Q50 | 宝篋印塔 (笠) | (28.3) | (30.6) | 17.0 | (21600) | 花崗岩 | 風化のため稜線が不明瞭 隅飾突起四方とも欠損 | 底面 | PL118 |
| Q51 | 六地藏石 輪(輪身) | (27.3) | (25.8) | 28.3 | (25800) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 六角の各面に地藏を配す | 底面 | PL118 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|--------|-----|---------|----------------|-----------------------------------|------|----|
| T 2 | 平瓦 | (12.4) | (10.8) | 2.0 | (359.9) | 長石・雲母・赤色 粒子 | 表面ナデ 裏面調整痕を残すナデ 表面にぶい橙色 胎土 褐灰色 | 底面 | |

第187号溝跡（第392～394図）

位置 調査区中央部の I 7 i7～I 7 j6区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第185・327号溝を切っている。

規模と形状 I 7 i7区から、南西方向（N-150°-W）の I 7 j6区へ直線的に延びている。長さは9mほどで、上幅1.2～1.28m、下幅0.76～1.0m、深さ16～36cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積である。

土層解説（A-A'）

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |

遺物出土状況 土師質土器片10点（皿2，内耳鍋5，甕2，播鉢1），石器1点（石臼）と、流れ込んだ須恵器片1点、礫1点が出土している。ほとんどの土器片は残存率が低く、散在して出土していることから、雨水や覆土と共に流れ込んだものと考えられる。565は、多くの土器片と同様に覆土中から出土している。

所見 第185号溝と第327号溝とを連結し、雨水等を第185号溝に排水して水量を調整する機能をもっていたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第188号溝跡（第392～394図）

位置 調査区中央部の I 7 h6～I 7 j6区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第15号井戸を切っている。

規模と形状 I 7 h6区から、南西方向（N-154°-W）の I 7 j6区へ直線的に延びている。確認できた長さは7.1mで、上幅1.04～1.4m、下幅0.56～0.88m、深さ52cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積である。

土層解説 (B-B')

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量 |

遺物出土状況 土師質土器片36点(皿5, 内耳鍋19, 甕11, 播鉢1), 陶器片1点(皿), 石器2点(磨石, 砥石)と, 流れ込んだ縄文土器片8点, 須恵器片3点が出土している。566は, 多くの土器片と同様に覆土中から出土している。

所見 削平されているため第185号溝との繋がりは確認できないが, 第15号井戸の水を南部の第185号溝の方向へ排水していたと推測される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第189号溝跡 (第392～396図)

位置 調査区中央部のI7e2～I7i0区で, 標高25～26mの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第187・199A・326・327・337・338・345号溝, 第15号井戸に切られ, 第339号溝, 第14号井戸, 第1418・1543号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 I7e2区から, 東方向(N-115°-E)のI7i0区へ緩やかな曲線状に延び, さらに調査区域外へと延びている。確認できた長さは39mほどで, 上幅1.36～2.8m, 下幅0.16～0.68m, 深さ58～103cmである。断面形はU字形状で, 壁は緩斜または外傾して立ち上がっている。

木橋跡 1か所。4か所の柱穴痕の深さは24～40cmで, 中央部西寄りに確認されている。覆土は3層に分層される。

木橋跡土層解説 (C-C', E-E')

- | | | | |
|---------|---------------------|----------|---------------------|
| 1 にぶい褐色 | 褐色粘土粒子・砂粒中量 | 3 オリーブ黒色 | 褐色粘土粒子中量, 炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 灰黄褐色 | 褐色粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子微量 | | |

覆土 4層と8層に分層され, 含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (D-D')

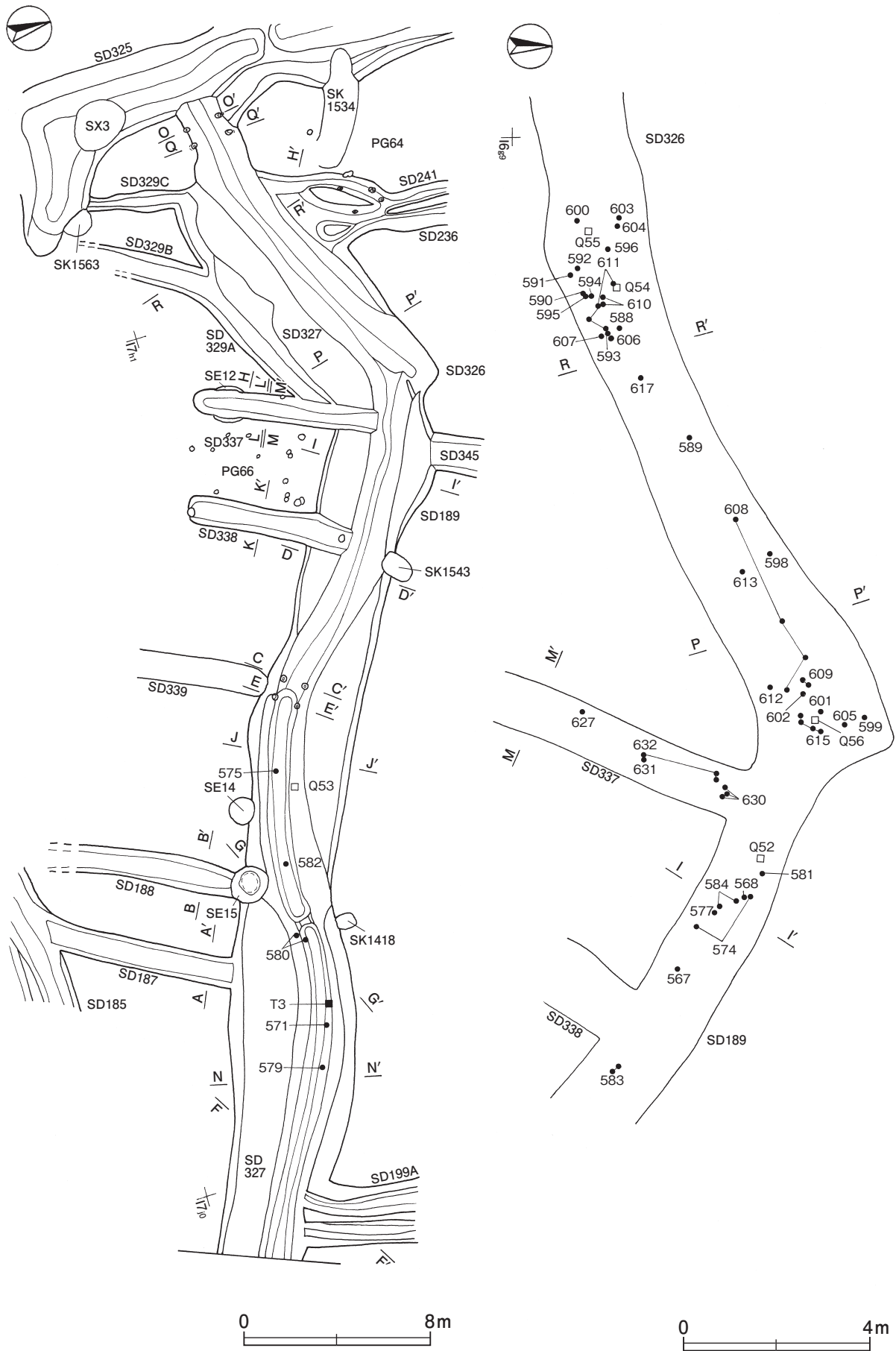
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 4 褐灰色 | ロームブロック微量 |

土層解説 (F-F', G-G')

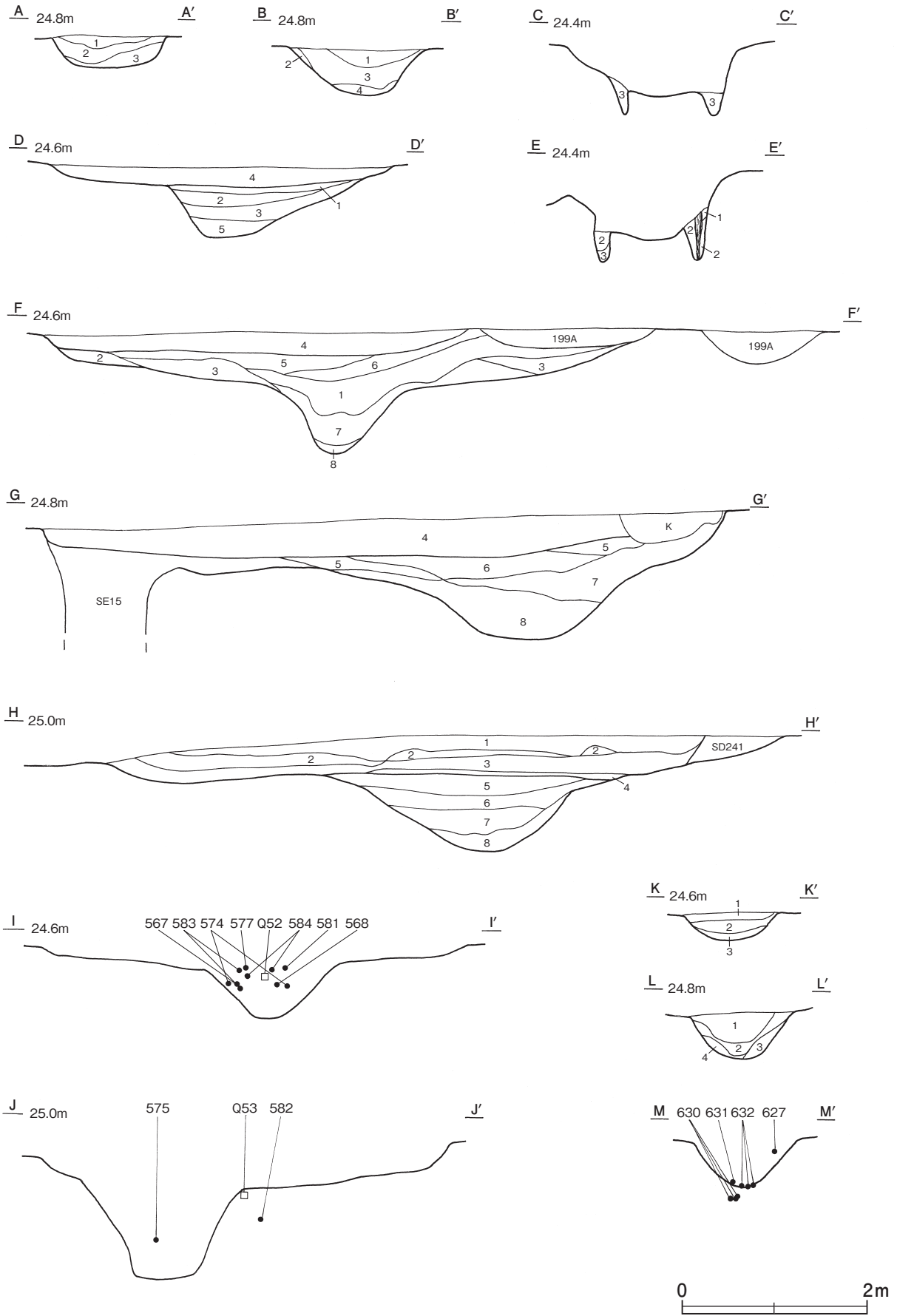
- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化物微量 | 5 暗褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック多量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化物少量 | 8 灰黄褐色 | 褐色粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片930点(皿103, 内耳鍋類630, 香炉3, 甕82, 播鉢112), 瓦質土器1点(香炉), 陶器片21点(碗4, 皿2, 常滑系甕6, 常滑系片口鉢6, 瀬戸・美濃系播鉢2, 瓶カ1), 石器8点(凹石1, 石臼3, 砥石4), 石塔2点(五輪塔), 鉄製品1点(不明), 瓦片2点(平瓦, 軒丸瓦カ), 鉄滓1点, 木片1点, 粘土塊27点と, 流れ込みまたは混入した縄文土器片12点, 弥生土器片1点, 土師器片88点, 須恵器片32点, 磁器片3点(碗), 骨片カ5点, 礫30点が出土している。567～587, Q52・Q53, T3は, 屋敷域と想定される第53・54・65・66号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたと考えられ, 全体から混在するように出土している。

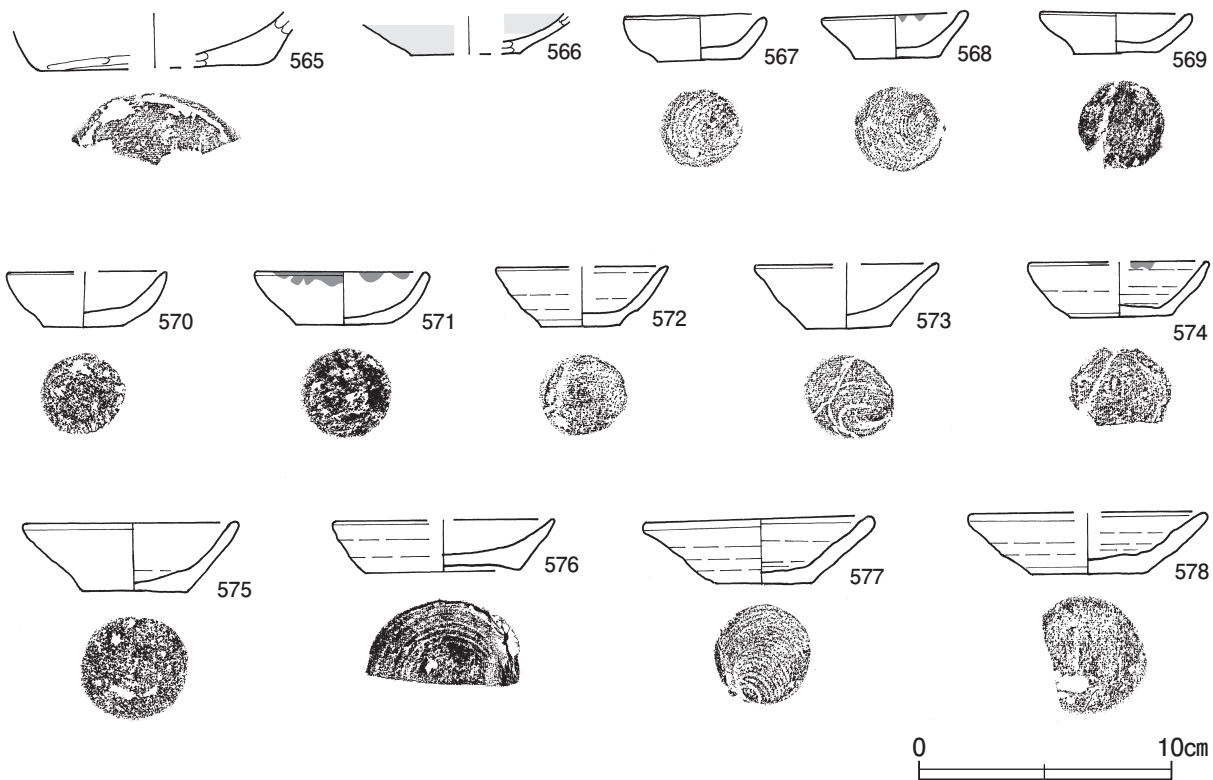
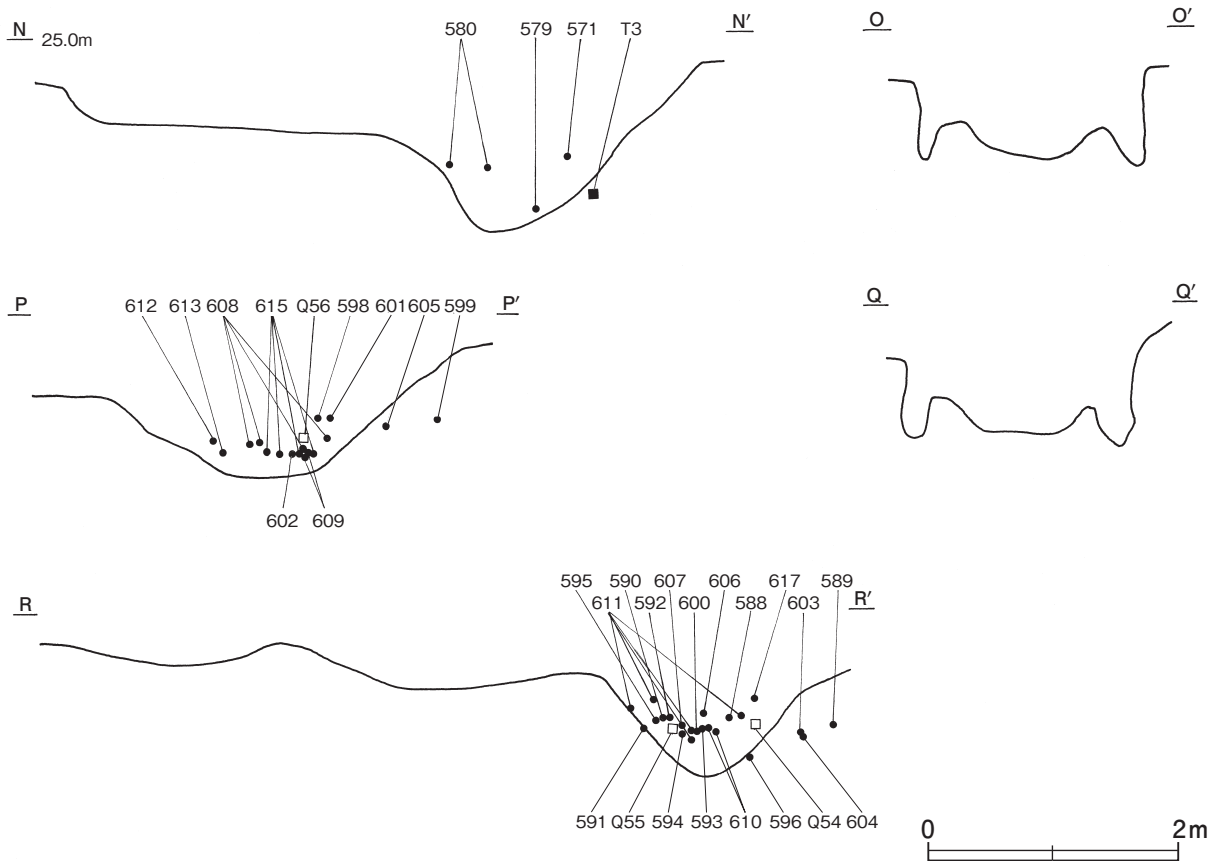
所見 第185号溝と同様, 中央部の最も低い所に位置し, 重複する各溝から集まった雨水等を東の谷津に排水する機能を果たしていたと考えられる。また, 屋敷域を区画する機能を持ち, 掘り方の規模と水を常時溜めておくための障子堀の掘り方と木橋跡の柱穴痕が確認されている。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



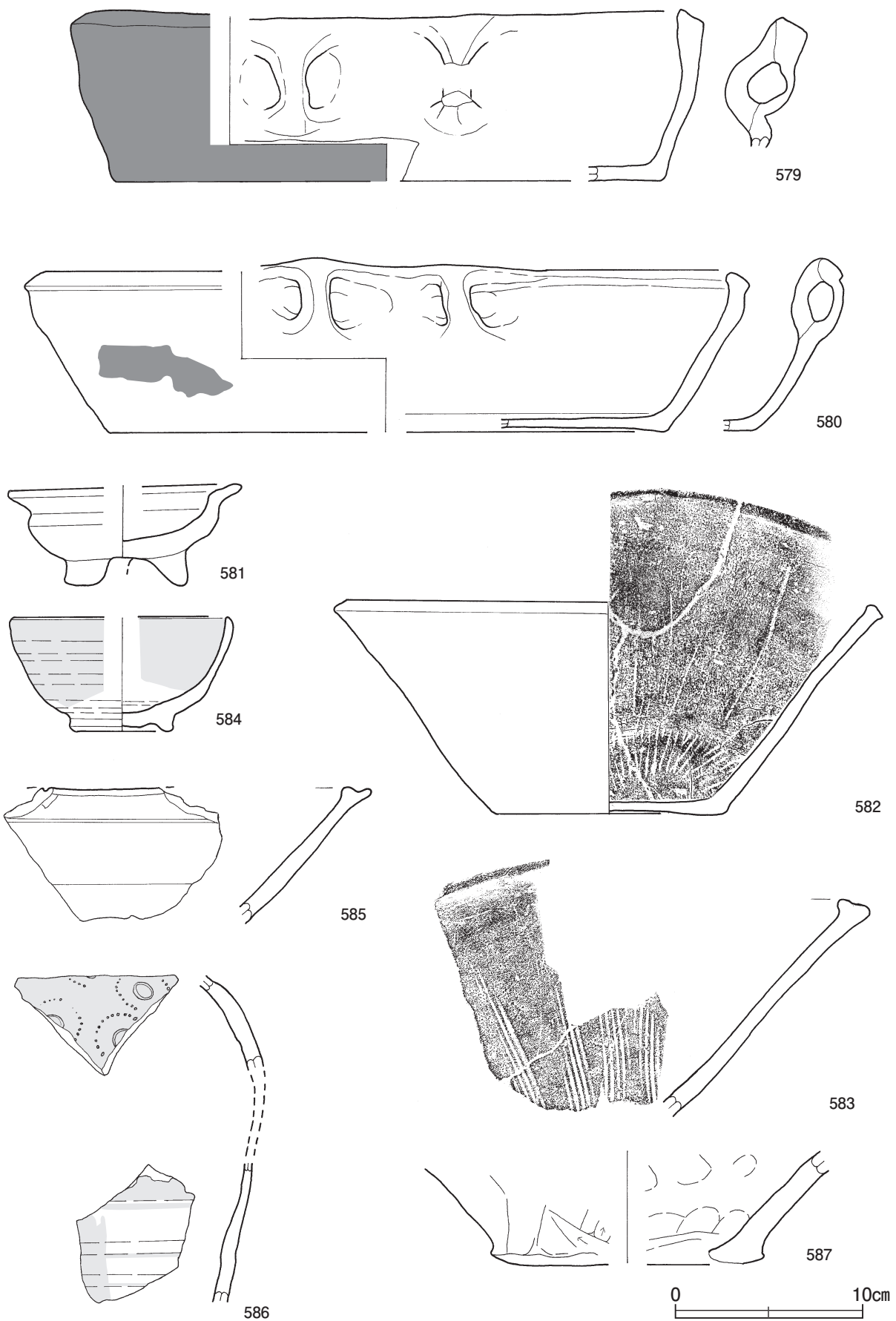
第392图 第187 ~ 189 · 326 · 327 · 329 A · 329 B · 329 C · 337 · 338号沟迹实测图(1)



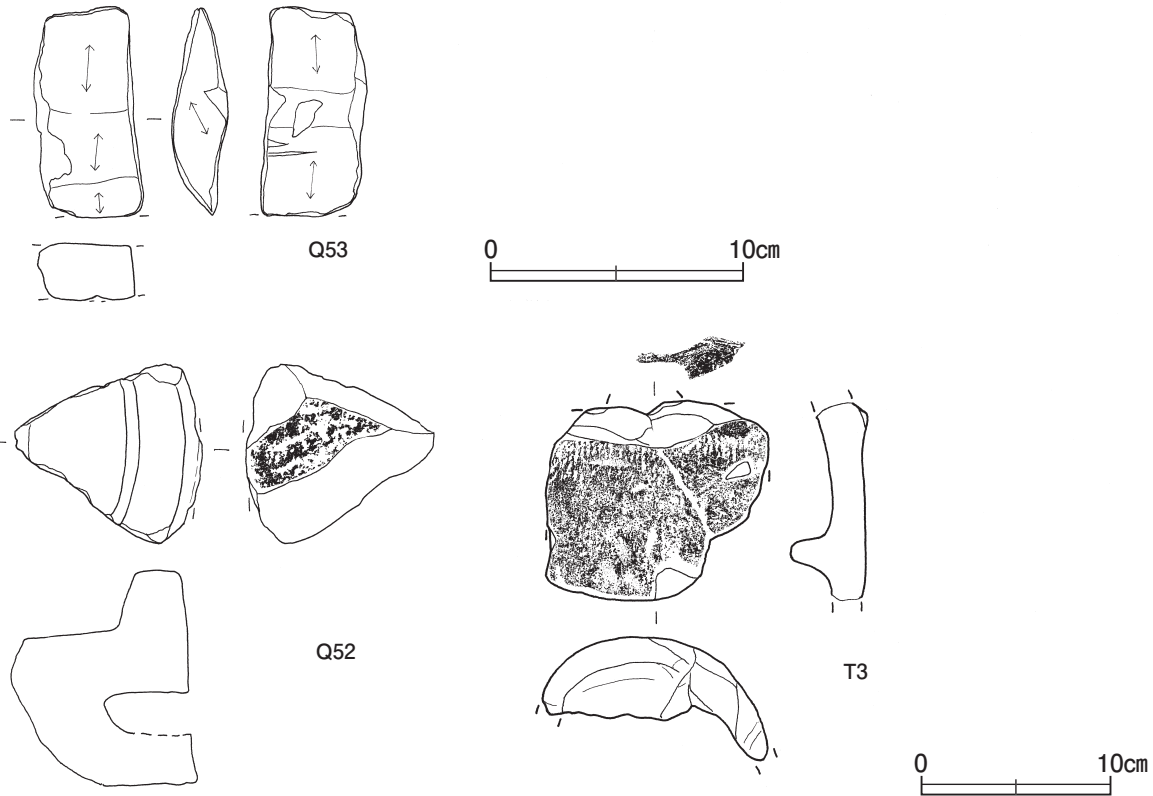
第393图 第187 ~ 189 · 326 · 327 · 329 A · 329 B · 329 C · 337 · 338号沟迹实测图(2)



第394図 第189・326・327・329A・329B号溝跡，第187～189号溝跡出土遺物実測図



第395图 第189号沟迹出土遗物实测图(1)



第396図 第189号溝跡出土遺物実測図(2)

第187号溝跡出土遺物観察表 (第394図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|----|-------|-------|---------------|----|----|-------------------------------|------|-----|
| 565 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.1) | [8.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 下端ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 20% |

第188号溝跡出土遺物観察表 (第394図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|----|-------|-------|-------|----------|----|-------------------------|------|-----|
| 566 | 陶器 | 皿 | — | (1.5) | [4.2] | 精良 灰釉 | 灰白・灰オリーブ | 普通 | ロクロ成形 底面回転糸切り 内・外面施釉 貫入 | 覆土中 | 10% |

第189号溝跡出土遺物観察表 (第394～396図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|-----------------|-------|----|--------------------------------|------|-------------------|
| 567 | 土師質土器 | 皿 | 5.7 | 1.7 | 3.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り痕を残すナデ | 底面 | 95%口辺部にゆがみ |
| 568 | 土師質土器 | 皿 | 5.9 | 1.8 | 3.4 | 石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り痕を残すナデ | 覆土下層 | 95%口唇部油煙付着 |
| 569 | 土師質土器 | 皿 | 6.1 | 1.8 | 3.4 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 85% |
| 570 | 土師質土器 | 皿 | [6.5] | 2.2 | 3.2 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 75% |
| 571 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 3.6 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%口唇部油煙付着 PL109 |
| 572 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.4 | 3.2 | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 45% |
| 573 | 土師質土器 | 皿 | [7.1] | 2.6 | 3.4 | 長石・石英・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り痕を残すナデ | 覆土中 | 80% |
| 574 | 土師質土器 | 皿 | [7.3] | 2.2 | 4.2 | 長石 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 50%口唇部油煙付着 |
| 575 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 2.8 | 4.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙・黒褐色 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 60%外面変色 |
| 576 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.0 | 6.0 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 50% |
| 577 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 2.7 | 3.9 | 長石・石英・赤色粒子 | にふい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 100% PL109 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----------|--------|--------|--------|------------------|----------|----|--------------------------------|--------|----------------------|
| 578 | 土師質土器 | 皿 | [9.4] | 2.3 | 4.6 | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 50% |
| 579 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.6] | 9.2 | [29.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙・灰褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 底面 | 15%焙烙カ外面煤付着 |
| 580 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [37.0] | 9.4 | [30.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫 | 灰褐 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 覆土中・下層 | 25%焙烙カ外面煤付着 |
| 581 | 土師質土器 | 香炉 | [12.6] | 5.5 | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 脚部貼り付け 3足脚 | 覆土下層 | 75% PL114 |
| 582 | 土師質土器 | 播鉢 | 28.3 | 11.5 | 12.2 | 長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 4条1単位の播り目 外面強いナデ | 底面 | 70%UPI0出土破片と接合 PL113 |
| 583 | 土師質土器 | 播鉢 | [35.0] | (11.6) | — | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 断面T字状 4条1単位の播り目 | 覆土下層 | |
| 584 | 陶器 | 碗 | [11.4] | 6.2 | [5.2] | 精良 黒色粒子・土灰釉 | 明赤褐・オリーブ | 良好 | ロクロ成形 削り出し高台 釉を漬掛け | 覆土下層 | 45%唐津系カ PL115 |
| 585 | 陶器 | 深皿 (鉤皿カ) | — | [7.1] | — | 精良 長石・灰釉 | 灰白・灰白 | 良好 | ロクロ成形 口唇部内側につまみ出し 外面に沈線 釉剥離 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |
| 586 | 陶器 | 瓶子 (古瀬戸) | — | [17.5] | — | 精良 長石・鉄釉 | 灰白・オリーブ黒 | 良好 | ロクロ成形 内面自然釉 外面上位印花文 下位3条の筋文 釉掛 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |
| 587 | 陶器 | 片口鉢カ | — | (6.1) | [14.8] | 長石・石英 | 灰・灰黄 | 良好 | 内面滑らか ヘラ状工具と指頭痕を残すナデ 外面ヘラ削り | 覆土中 | 常滑系 |

| 番号 | 器種 | 直径 | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|---------|--------|---|------|--------|-----|------------------|------|----|
| Q52 | 石臼 (上臼) | [29.6] | — | 11.2 | (1008) | 安山岩 | 下側に播り目 軸受け横打込孔残存 | 底面 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-------|-----|--------|-----|----------------------|------|----|
| Q53 | 砥石 | 8.3 | (4.3) | 2.2 | (96.4) | 凝灰岩 | 側面欠損 砥面3面 表面に鉄分(錆)付着 | 覆土下層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----------|--------|--------|---------|---------|---------------|-----------------|------|----|
| T3 | 丸瓦カ (玉縁付) | (10.5) | (12.1) | 1.7~4.0 | (393.3) | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 表面圧痕を残すナデ 胎土灰褐色 | 底面 | |

第326号溝跡 (第392～394・397～400区)

位置 調査区中央部のI 6f8～I 7e2区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第189・325号溝を切り、第236・241・327・337号溝に切られている。

規模と形状 I 6f8区から、東方向(N-77°-E)のI 7e2区まで直線的に伸び、第189号溝に連結している。長さは16.1mで、上幅1.68～2.76m、下幅0.2～1.36m、深さ70～81cmである。断面形はU字形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

木橋跡 1か所。4か所の柱穴痕の深さは23～50cmで、第325号溝と連結する西端部に確認されている。

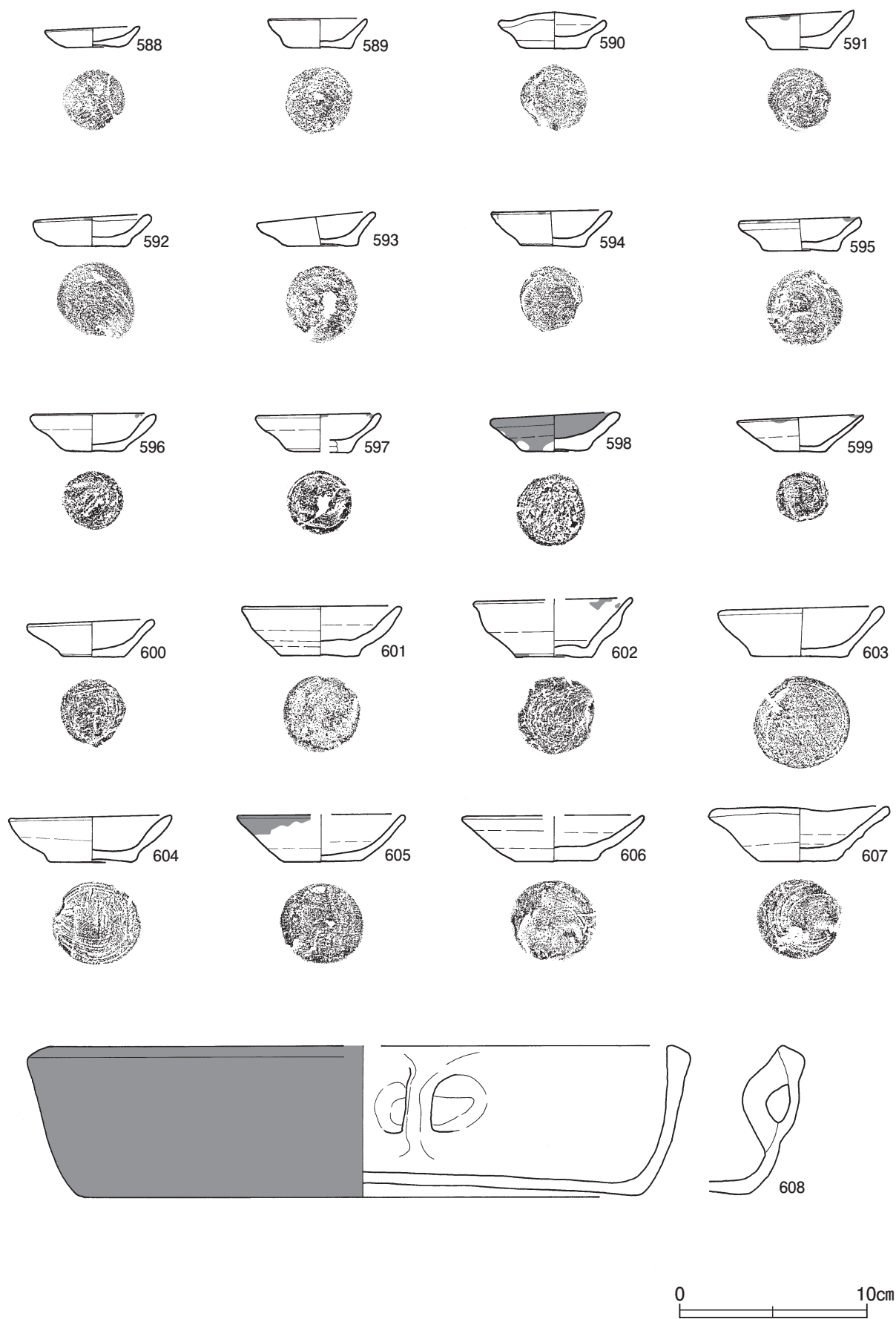
覆土 4層以下が相当し、5層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (H-H')

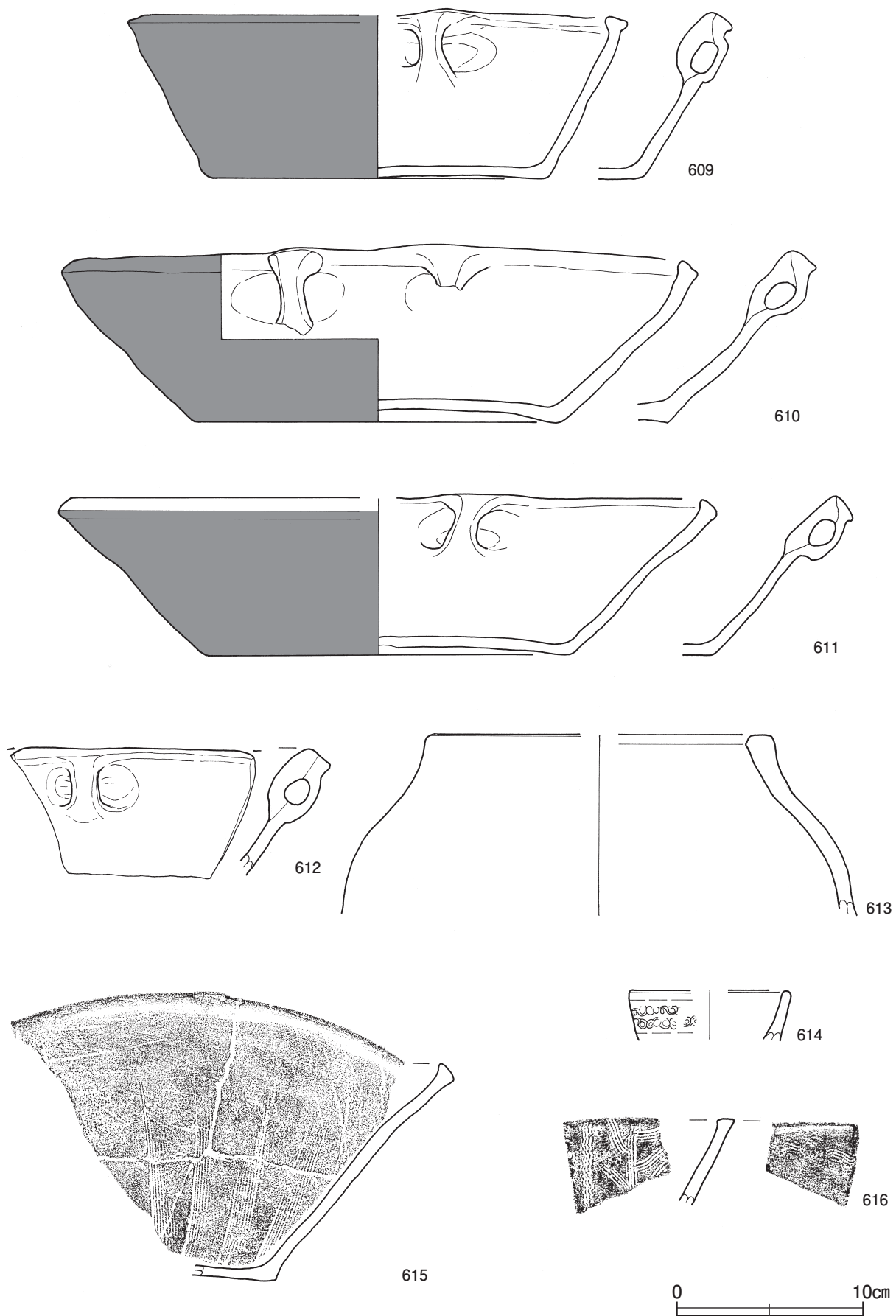
- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 黄褐色粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土粒子中量 |
| 2 黒褐色 黄褐色粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 黄褐色粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 褐灰色 褐色粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量 | 8 褐灰色 褐色粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片304点(皿60, 内耳鍋類227, 甕5, 播鉢12), 陶器片3点(皿, 常滑系甕, 常滑系片口鉢), 石器7点(石臼4, 茶臼1, 砥石2), 石塔3点(五輪塔), 木片1点, 粘土塊7点と、流れ込んだ縄文土器片2点, 土師器片2点, 須恵器片2点, 礫7点が出土している。586～619, Q54～Q56は覆土中・下層を中心に集中して出土しており、本溝の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

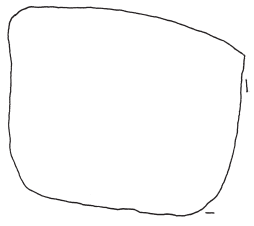
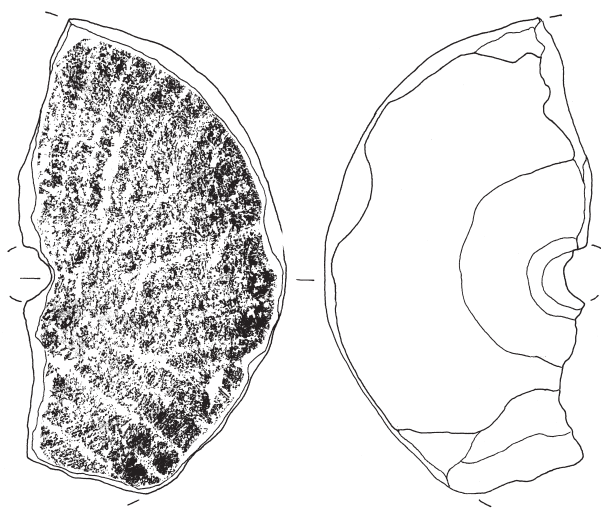
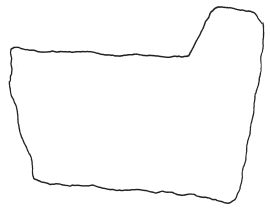
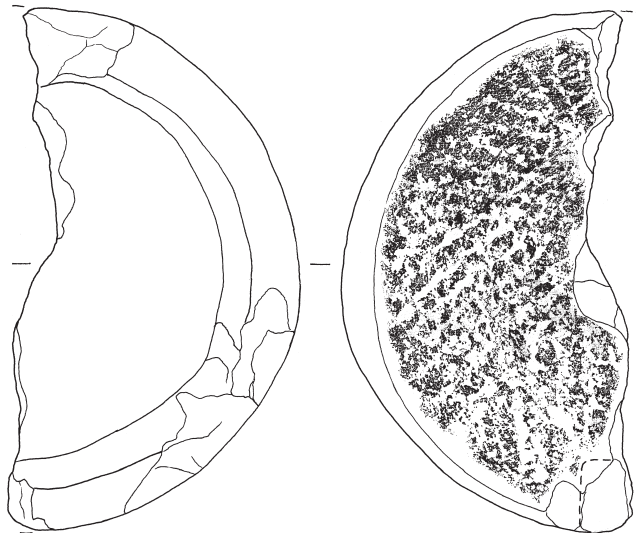
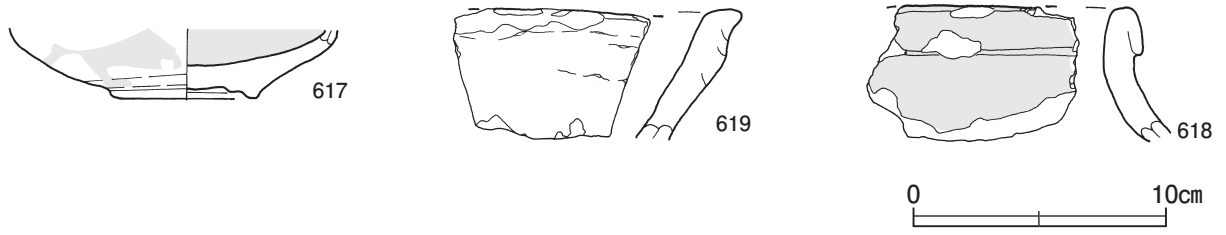
所見 第189号溝と第325号溝とを連結し、雨水等を第189号溝に排水する機能や区画と防御の役割を果たしていたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から、重複している溝跡と同時期の16世紀後半と考えられる。



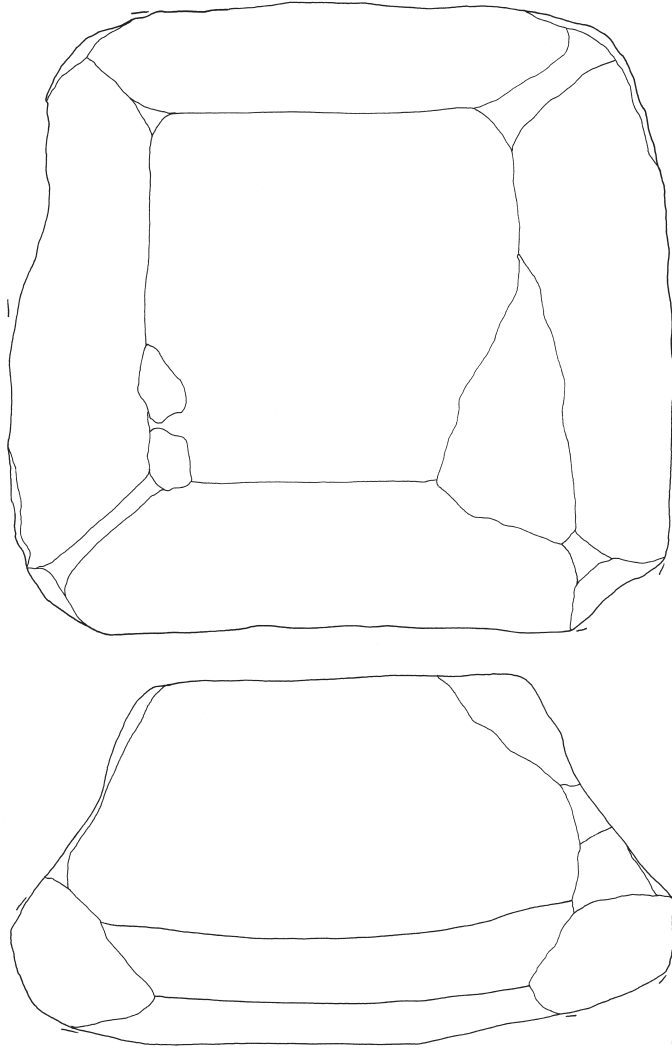
第397图 第326号溝跡出土遺物実測図(1)



第398图 第326号沟迹出土遗物实测图(2)



第399図 第326号溝跡出土遺物実測図(3)



Q56



第400図 第326号溝跡出土遺物実測図(4)

第326号溝跡出土遺物観察表 (第397 ~ 400図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|-----------------|-------|----|---------------------------|------|--------------------|
| 588 | 土師質土器 | 皿 | 5.2 | 1.1 | 3.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 90% |
| 589 | 土師質土器 | 皿 | 5.3 | 1.6 | 3.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 80% |
| 590 | 土師質土器 | 皿 | 5.7 | 1.9 | 3.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%成形にゆがみ 変色 |
| 591 | 土師質土器 | 皿 | 5.7 | 2.1 | 3.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%成形にゆがみ 口唇部油煙付着 |
| 592 | 土師質土器 | 皿 | 6.2 | 1.7 | 3.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95%成形にゆがみ 口唇部油煙付着 |
| 593 | 土師質土器 | 皿 | 6.3 | 1.9 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95%成形にゆがみ |
| 594 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 2.0 | 3.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95%口唇部油煙付着 |
| 595 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 1.8 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%口唇部油煙付着 PL111 |
| 596 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.0 | 3.2 | 長石・石英・雲母 | 黄灰 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 60%口唇部油煙付着 |
| 597 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.1 | 3.4 | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 95%口唇部油煙付着 |
| 598 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.1 | 3.6 | 長石・石英・雲母 | 灰褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 95%全面油煙付着 底部に木質付着 |
| 599 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.0 | 2.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95%口唇部油煙付着 PL111 |
| 600 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.0 | 3.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100% |
| 601 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 2.7 | 4.2 | 長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 75% |
| 602 | 土師質土器 | 皿 | [8.4] | 3.1 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 黄灰 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 70%口唇部・底部に油煙付着 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|--------|-----------------|---------|----|-----------------------------|------|-------------------|
| 603 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 2.8 | 5.3 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95% |
| 604 | 土師質土器 | 皿 | 8.7 | 2.4 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95% |
| 605 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 2.6 | 4.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% 口辺部油煙付着 |
| 606 | 土師質土器 | 皿 | [9.4] | 2.4 | 4.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 45% |
| 607 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 3.0 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 95% 成形にゆがみ |
| 608 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [33.2] | 8.1 | [30.4] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 灰褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 底面 | 20% 焙烙カ 体部外面煤付着 |
| 609 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [25.2] | 9.1 | [18.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 灰褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土下層 | 60% 体部外面煤付着 |
| 610 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 32.7 | 9.6 | 19.8 | 長石・雲母・赤色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土下層 | 45% 体部外面煤付着 PL113 |
| 611 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [34.0] | 8.7 | [19.4] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土中層 | 30% 体部外面煤付着 |
| 612 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (6.7) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土下層 | 5% 焙烙カ 体部外面煤付着 |
| 613 | 土師質土器 | 甕 | [17.2] | (9.7) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 灰白 | 普通 | 内・外面ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 614 | 土師質土器 | 香炉 | [8.6] | (2.2) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印一部剥離 | 覆土中 | 20% |
| 615 | 土師質土器 | 播鉢 | [33.6] | 11.8 | [15.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部上方につまみ出し 8条1単位の播り目 | 底面 | 25% |
| 616 | 土師質土器 | 播鉢カ | — | (4.7) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 内面4条1単位の播り目 外面4条1単位の波状文 | 覆土中 | |
| 617 | 陶器 | 皿 | — | (2.8) | 5.7 | 精良 土灰釉 | 灰白・にぶい橙 | 良好 | 削り出しの縮緬高台 釉漬掛け | 覆土下層 | 30% 肥前系 |
| 618 | 陶器 | 甕 | — | (5.4) | — | 長石・石英・礫 | 赤灰 | 良好 | 内・外面ナデ | 覆土中 | 常滑系 |
| 619 | 陶器 | 片口鉢 | — | (5.2) | — | 長石・石英・礫 | にぶい褐 | 良好 | 内面なめらか 外面ナデ 外面に輪積痕 | 覆土中 | 常滑系 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 口径・幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----------|--------|--------|------|---------|-----|-------------------------------|------|-------|
| Q54 | 石白(上白) | [28.6] | [3.0] | 10.3 | (5436) | 安山岩 | 軸受け横打込孔一部残存 裏側7条1単位の播り目 | 覆土下層 | PL117 |
| Q55 | 石白(下白) | [26.4] | [2.6] | 10.9 | (5380) | 安山岩 | 受け部7条1単位の播り目 | 底面 | PL116 |
| Q56 | 五輪塔(笠・火輪) | [33.0] | [34.9] | 19.2 | (31800) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 4方の軒部と稜線の一部欠損のため丸み | 覆土中 | |

第327号溝跡 (第392～394・401区)

位置 調査区中央部の I 6g9～I 7j0区で、標高25～26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第187・236・329A・329B・329C・345号溝に切られ、第189・241・326・337・338号溝を切っている。また、第14・15号井戸跡を掘り込み、第66号ピット群、第1543号土坑、第339号溝に掘り込まれている。

規模と形状 I 6g9区から、東方向 (N-66°-E, N-117°-E) の I 7e2区東の調査区域外まで鉤の手状に延びている。確認できた長さは56.7mで、上幅3.44～5.24m、下幅3.04～4.24m、深さ12～48cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 第189・326号溝との前述した重複部の土層 (D-D', F-F'～H-H') では、第4層に相当する。含有物から、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片158点 (皿25, 内耳鍋121, 甕6, 播鉢6), 陶器片4点 (碗1, 常滑系甕3), 石器2点 (石臼, 砥石) が出土している。620は、覆土中から出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片6点, 土師器片5点, 須恵器片7点, 礫2点と、混入した磁器片5点 (碗3, 瓶2), 近現代の瓦片4点が出土している。

所見 掘り方は浅いが、第189・326号溝を掘り込んで溝幅を拡張した溝跡と推測される。時期は、出土土器と重複関係から、重複する溝と同時期の16世紀後半と考えられる。

第329A号溝跡 (第392～394・401区)

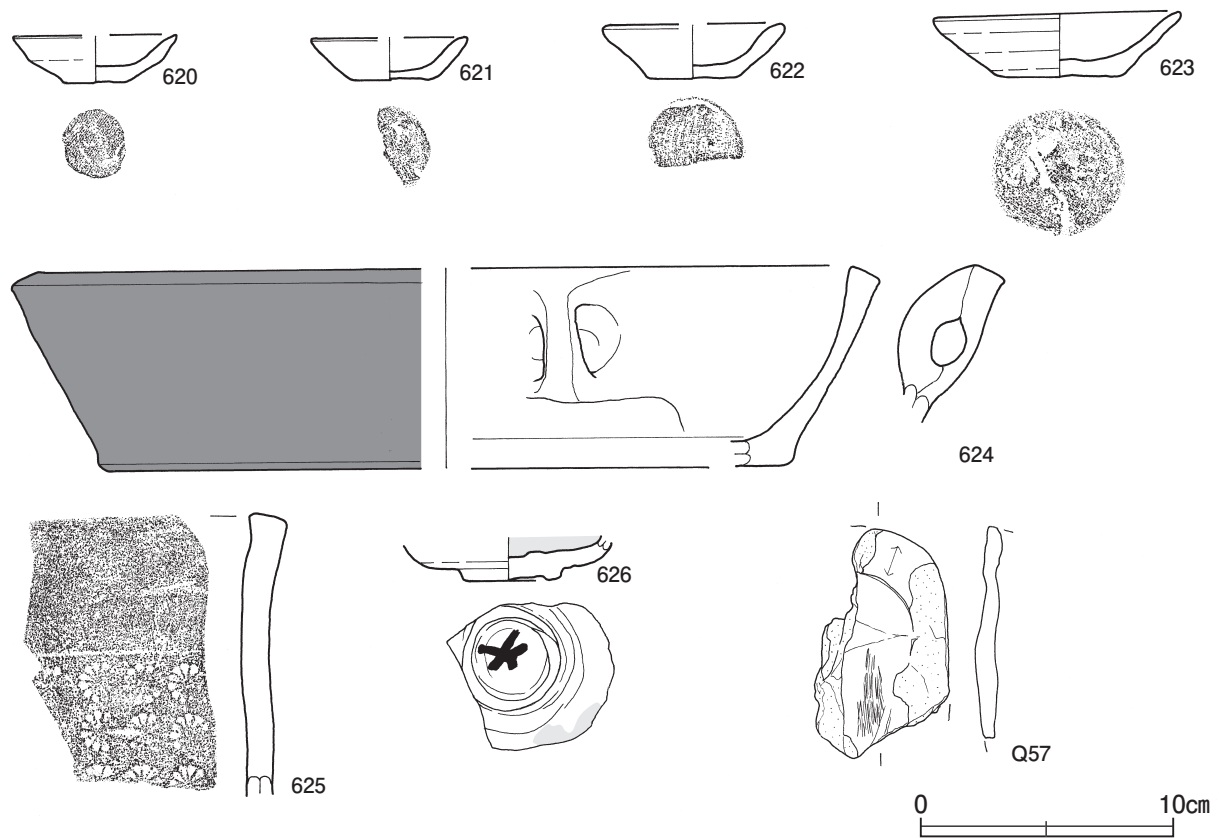
位置と規模 調査区中央部の I 6g9～I 7f2区に位置している。I 6h9区から、北東方向 (N-56°-E) へ直線的に I 7f2区まで延びている。確認できた長さは11.2mで、上幅1.24～2.42m、下幅0.56～1.20m、深さ

15cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 第241・326・327号溝との重複部の土層（H-H'）では、第1～3層に相当する。含有物から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片125点（皿23, 内耳鍋86, 甕9, 播鉢6, 火鉢1）、陶器片8点（皿2, 常滑系甕5, 瀬戸・美濃系播鉢1）、石器3点（石臼, 砥石, 硯）、壁土カ1点が出土している。621～626とQ57は、いずれも覆土中から出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片1点、埴輪片1点、礫7点と、混入した磁器片1点（瓶）、近現代の瓦片2点が出土している。

所見 第326号溝が掘削される前の溝跡と推定され、連結している第327・329B・329C・337号溝に雨水等を排水したと考えられる。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第401図 第327・329A号溝跡出土遺物実測図

第327号溝跡出土遺物観察表（第401図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|----------|-----|----|---------------------------|------|-----|
| 620 | 土師質土器 | 皿 | [6.4] | 1.9 | 2.6 | 長石・石英・雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60% |

第329A号溝跡出土遺物観察表（第401図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|------------------|-------|----|-----------------------------|------|-----|
| 621 | 土師質土器 | 皿 | [6.2] | 1.7 | 3.2 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 50% |
| 622 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.2 | 3.6 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 50% |
| 623 | 土師質土器 | 皿 | 9.9 | 1.6 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 55% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|----------|----|---------------------------------|------|---------------------|
| 624 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.5] | 8.0 | [26.8] | 長石・石英・雲母・礫 | 灰褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土中 | 15%焙格カ 体部外面煤付着 |
| 625 | 土師質土器 | 香炉 | — | (11.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 内・外面ナデ 外面に菊花のスタンプ文 押印一部剥離 | 覆土中 | |
| 626 | 陶器 | 灰釉皿 | — | (1.7) | 3.9 | 精良 灰釉 | 灰白・オリーブ黄 | 良好 | 雑な削りだし高台 見込にトチン痕 内・外面釉に貫入 外面に墨痕 | 覆土中 | 25%瀬戸・美濃系 底部に墨書「大」カ |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-------|-------|--------|-----|------------------------------|------|----|
| Q57 | 硯 | (9.2) | (5.5) | (1.1) | (44.9) | 粘板岩 | 海部と陸部が確認できる破片 長楕円形カ 陸部に擦り痕有り | 覆土中 | |

第337号溝跡 (第392・393・402・403図)

位置と規模 調査区中央部のI 7e2～I 7g1区に位置している。I 7e1区から、北東方向(N-24°-E)へ直線的にI 7e2区へ延びている。確認できた長さは8mほどで、上幅0.96～1.41m、下幅0.16～0.68m、深さ58～103cmである。断面形はU字形状で、壁は緩斜または外傾して立ち上がっている。

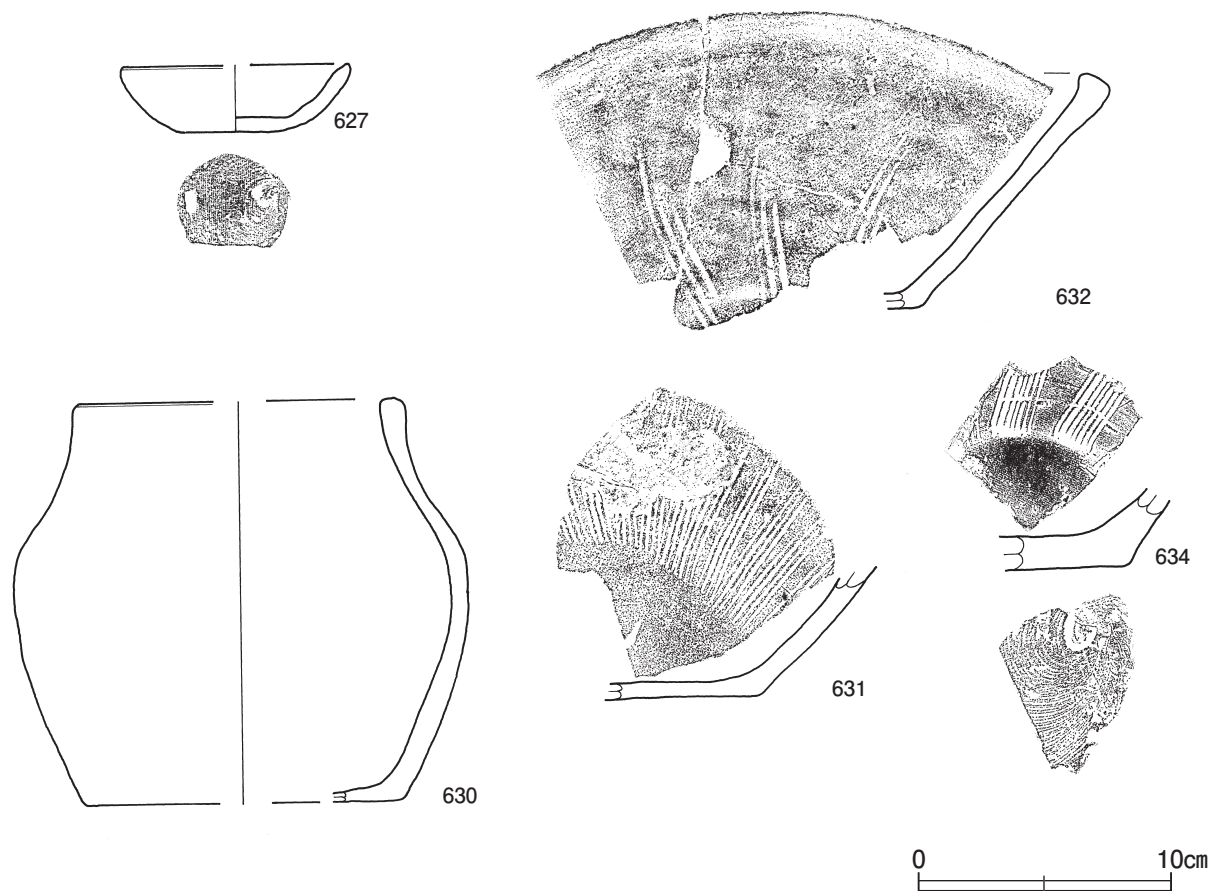
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (L-L')

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 黄灰色 黄褐色粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 褐色粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 黄褐色粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 褐色粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片150点(皿7, 内耳鍋125, 香炉1, 壺5, 甕5, 挿鉢7)が出土している。627～634は、いずれも覆土中から出土している。その他、流れ込んだ土師器片1点, 須恵器片1点も出土している。

所見 第189号溝に雨水等を排水していたと想定され, 時期は出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第402図 第337号溝跡出土遺物実測図(1)



第403図 第337号溝跡出土遺物実測図(2)

第337号溝跡出土遺物観察表 (第402・403図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|------------------|------|----|----------------------------------|------|------------|
| 627 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 2.7 | 4.3 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 覆土中層 | 55% |
| 628 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (6.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 外面に縦位のハケ目調整痕 | 覆土中 | |
| 629 | 土師質土器 | 香炉 | — | (3.9) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印 | 覆土中 | |
| 630 | 土師質土器 | 壺 | [12.8] | 16.0 | [12.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内・外面ナデ | 底面 | 40% |
| 631 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.2) | [14.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 内面4条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 632 | 土師質土器 | 播鉢 | — | 9.2 | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内面指頭痕を残すナデ 内面3条1単位の播り目 外面横ナデ | 覆土下層 | 20% |
| 633 | 瓦質土器 | 火鉢 | — | (11.7) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 内・外面ナデ 外面沈線による区画内に菊花文押印 | 覆土中 | |
| 634 | 陶器 | 播鉢 | — | (3.2) | [12.5] | 精良 長石 | 浅黄橙 | 良好 | 内面7条1単位の播り目 外面ナデ 底面糸切り | 覆土中 | 10% 瀬戸・美濃系 |

第338号溝跡 (第392・393図)

位置と規模 調査区中央部の I 7 f3 ~ I 7 g2区に位置している。I 7 g2区から、北東向 (N-24°-E) の I 7 f3区まで直線的に延びている。長さは7.1mほどで、上幅1.08 ~ 1.36m, 下幅0.52 ~ 1.06m, 深さ29cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (K-K')

- 1 暗褐色 褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 褐色粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点 (甕) が出土している。

所見 第189号溝に雨水等を排水していたと想定され、時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第198号溝跡 (第404図)

位置 調査区中央部の I 7 e8 ~ I 7 f0区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第199A・247号溝を切っている。

規模と形状 I 7 e8区から、東方向 (N-102°-E) へ直線的に延び、I 7 f0区で第199A号溝に連結している。長さは11mほどで、上幅1.36 ~ 1.84m, 下幅0.44 ~ 0.8m, 深さ66 ~ 75cm, 断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

木橋跡 1か所。4か所の柱穴痕の深さは11 ~ 28cmで、ほぼ中央部に確認されている。覆土は3層に分層される。土層断面を調査したピットは、橋脚の架け替えをしたものと考えられる。

木橋跡土層解説 (D-D')

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1 におい褐色 砂粒・褐色粘土粒子中量 | 3 オリーブ黒色 褐色粘土粒子中量, 炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 灰黄褐色 砂粒・褐色粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | |

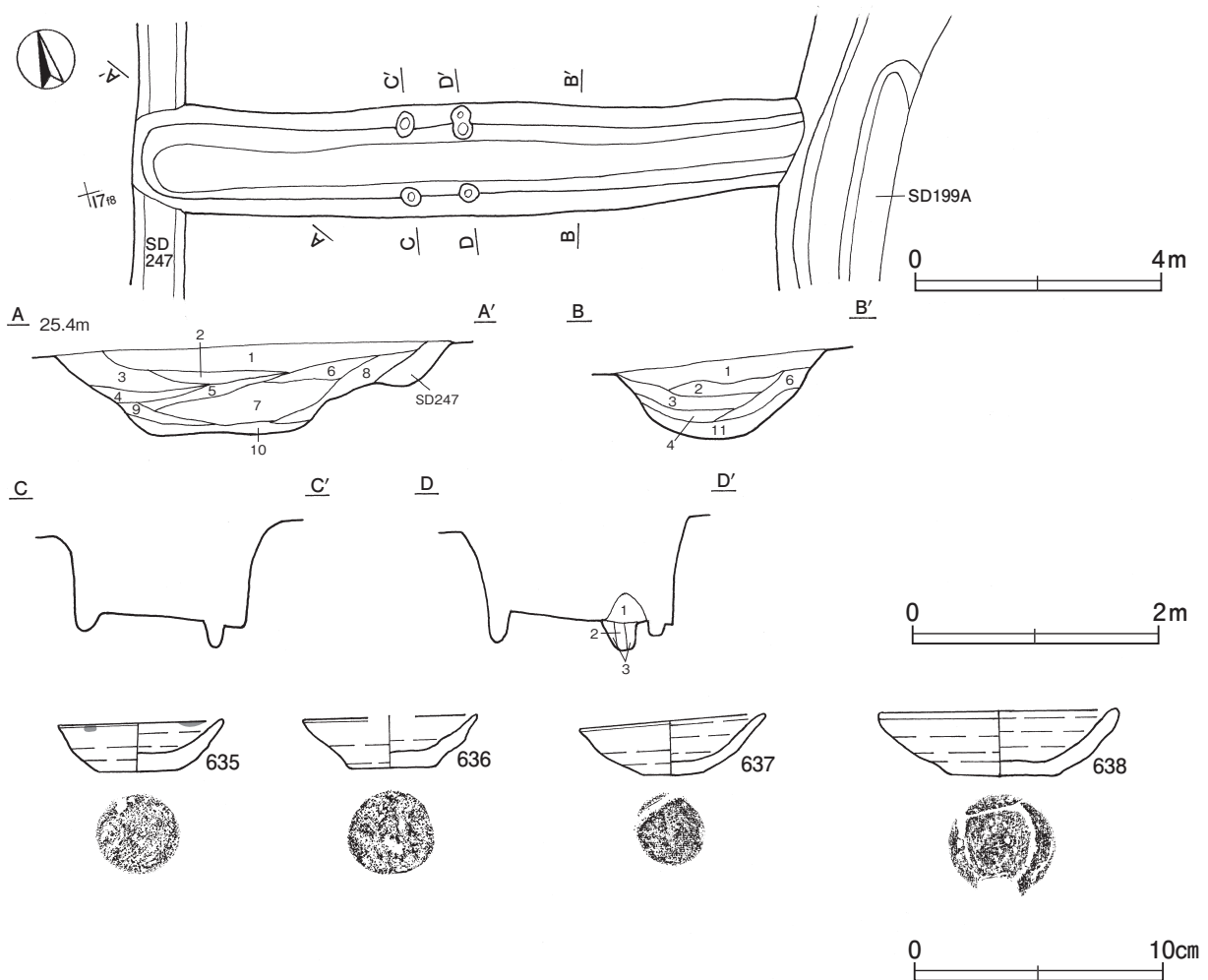
覆土 11層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。第11層以下の底面は、橙色に酸化した硬質の土層を呈し、常時水が溜まっていたことを示している。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 におい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | 9 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 褐灰色 粘土粒子多量, ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | |

遺物出土状況 土師質土器片46点（皿24, 内耳鍋20, 甕1, 挿鉢1）と、流れ込んだ縄文土器片1点, 埴輪片1点, 土師器片2点, 礫8点が出土している。底面から出土している土器片は4点と少なく, 635～638を含む多くの土器片は, 覆土上層から下層にかけて出土しており, 本跡の廃絶に伴って埋土と共に廃棄されたものと考えられる。

所見 第199A号溝と第247号溝を連結し, 雨水を第199A号溝に排水する機能と, 屋敷域と想定される第54号ピット群を区画していたと考えられる。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第404図 第198号溝跡・出土遺物実測図

第198号溝跡出土遺物観察表（第404図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|----------------|----|----|--|------|-----------------|
| 635 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.0 | 3.2 | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ り後糸切り痕を残すナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 85% 口唇部油 煙付着 |
| 636 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.0 | 3.4 | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ り後ナデ | 覆土中層 | 65% |
| 637 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.4 | 2.4 | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ り後ナデ | 覆土中層 | 55% 成形にゆ がみ |
| 638 | 土師質土器 | 皿 | 9.6 | 2.6 | 4.2 | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ り後ナデ | 覆土下層 | 85% PL1005 |

第199A号溝跡（第405～407図）

位置 調査区中央部のH 8 c1～I 7 i0区で、標高25～27mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第1号墳、第129・130号住居跡、第17号井戸跡を掘り込み、第2号不明遺構・第1187号土坑に掘り込まれている。また、第189・229A号溝を切り、第195～198・199B・251号溝に切られている。

規模と形状 H 8 c1区で第229A号溝から派生し、東方向（N-95°-E）へ直線的に延び、H 8 c4区でL字状に屈曲して、南方向（N-173°-W）へ直線的に延び、第189号溝に連結している。長さは76.3mほどで、上幅1.58～4.02m、下幅0.22～1.48m、深さ45～122cmである。断面形はU字状またはW字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層される。含有物から、人為堆積である。

土層解説（A-A'、C-C'、D-D' 共通）

| | | | |
|-----------|----------------------------|----------|------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 灰 黄 褐 色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘度粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片740点（皿113、内耳鍋類564、甕23、播鉢39、火鉢1）、陶器片15点（皿1、壺カ2、常滑系甕7、常滑系片口鉢カ2、播鉢1、瓶カ2）、石器3点（石臼2、砥石1）、石塔2点（五輪塔）、鉄滓3点、瓦片3点と、流れ込んだ縄文土器片16点、弥生土器片1点、土師器片68点、須恵器片29点、礫40点、粘土塊7点が出土している。確認された遺物の多くは、北部のL字状に屈曲する地点と、第199A号溝と第199B号溝とが重複する部分と北側に位置する長方形の落ち込みの部分に集中して出土している。北部からは、土師質土器片106点（皿94、内耳鍋8、甕3、播鉢1）、縄文土器片21点、弥生土器片1点、土師器片118点、須恵器片13点、礫2点が出土している。皿片は、北部から集中的に出土している。また、古墳時代以前の遺構と重複しているため、土師器片も多い。南部からは、土師質土器片634点（皿19、内耳鍋類556、甕20、播鉢38、火鉢1）、陶器片14点、石器4点、鉄滓3点、瓦片3点が出土している。煮沸具を中心とした多量の遺物が集中して出土していることから、建物跡と想定される第51・52号ピット群の廃絶に伴って投棄されたものと推測される。644・645・647～658・661～663は北部、639～643・646・659・660・664・665は中央部からそれぞれ出土している。

所見 調査区中央部の北部から東部を区分する大溝である。北東コーナー部は段状に屈曲し、雨水等を排水するとともに、規模と形状から区画と防御の機能があったものと考えられる。また、第199B号溝と重複する部分は、掘り方の形状が変化に富んでおり、溝幅が広く底面にくぼみがある。時期は、重複する溝と同時期と考えられ、集落の廃絶期とほぼ同時期の16世紀後半と考えられる。

第199B号溝跡（第405・406・408～410図）

位置 調査区中央部のH 8 i3～I 8 c2区で、標高25～27mほどの台地の緩斜面に位置している。

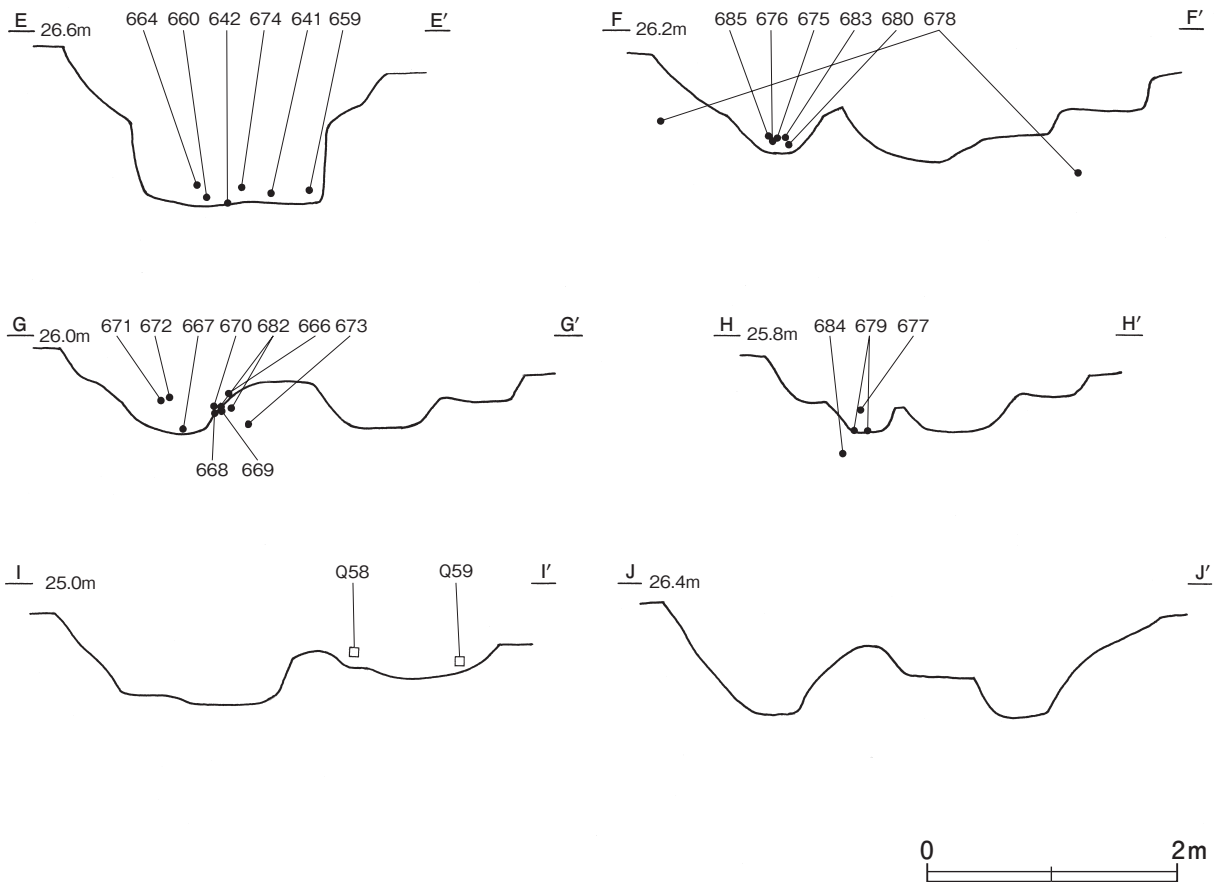
重複関係 第196A・199A号溝に切られ、第199A号溝に先行して掘られた溝と考えられる。

規模と形状 I 8 i3区で第199A号溝から派生し、南方向（N-170°-W）へ直線的に延び、再び第199A号溝に連結している。確認された長さは18.1mで、上幅0.64～1.52m、下幅0.14～0.4m、深さ66cmほど、断面形はU字またはV字状を呈し、壁は外傾または緩斜して立ち上がっている。

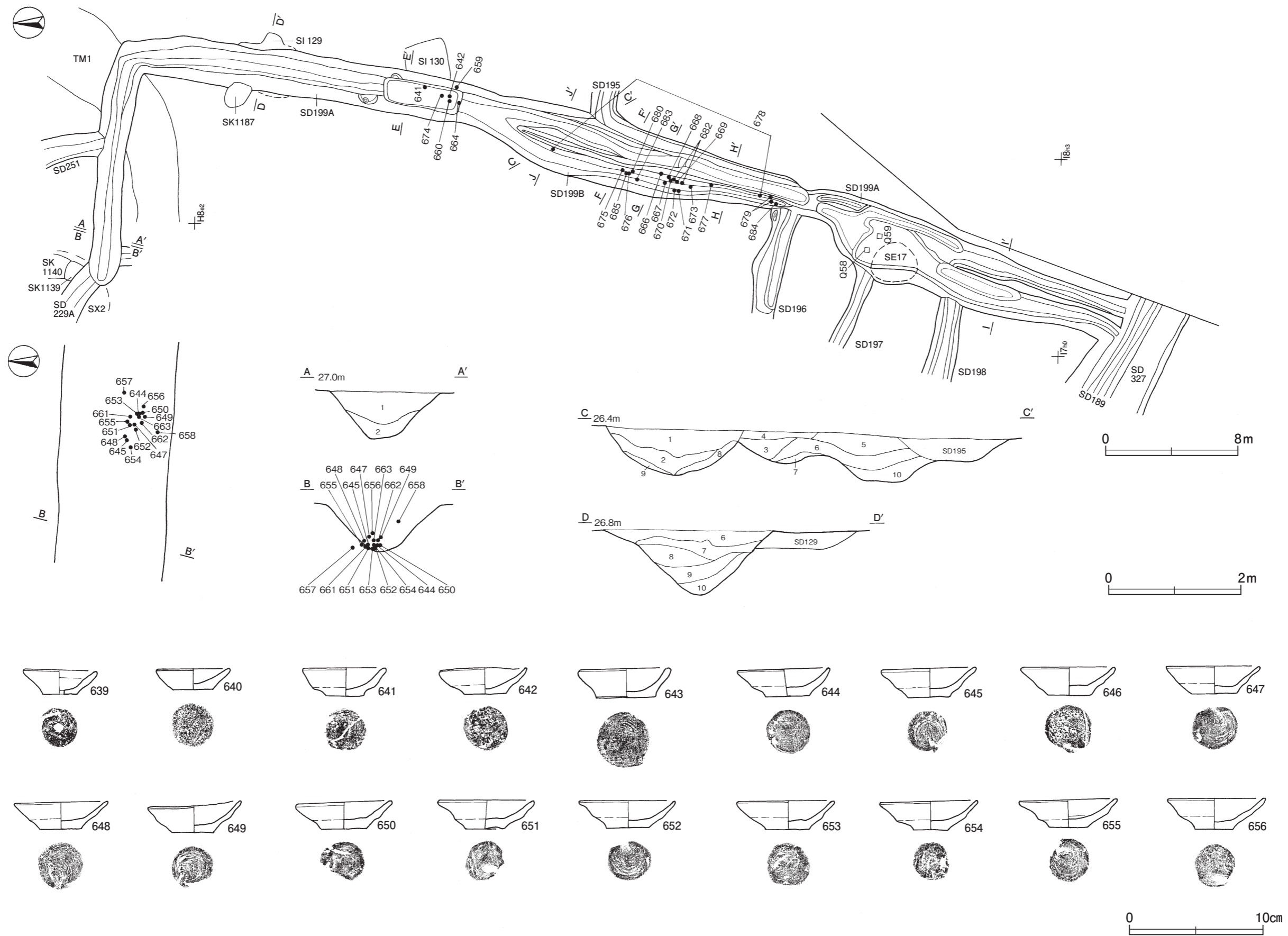
覆土 4層に分層される。含有物から、人為堆積と考えられる。第199A号溝の土層解説中（C-C'）の第1・2・8・9層が本溝の覆土に相当する。

遺物出土状況 土師質土器片212点（皿28, 内耳鍋類131, 香炉1, 甕19, 播鉢33）、陶器片1点（水瓶）、磁器片1点（染付皿）と、流れ込んだ縄文土器片1点、土師器片16点、磁器片1点（碗カ）、礫2点が出土している。遺物は第199A号溝と重複する部分から集中的に出土している。それらは、第199A号溝の出土土器と同じ様相であり、第51・52号ピット群の廃絶に伴って投棄されたものと推測される。666～686は、第199A号溝と重複する部分の覆土中層から底面にかけて出土している。

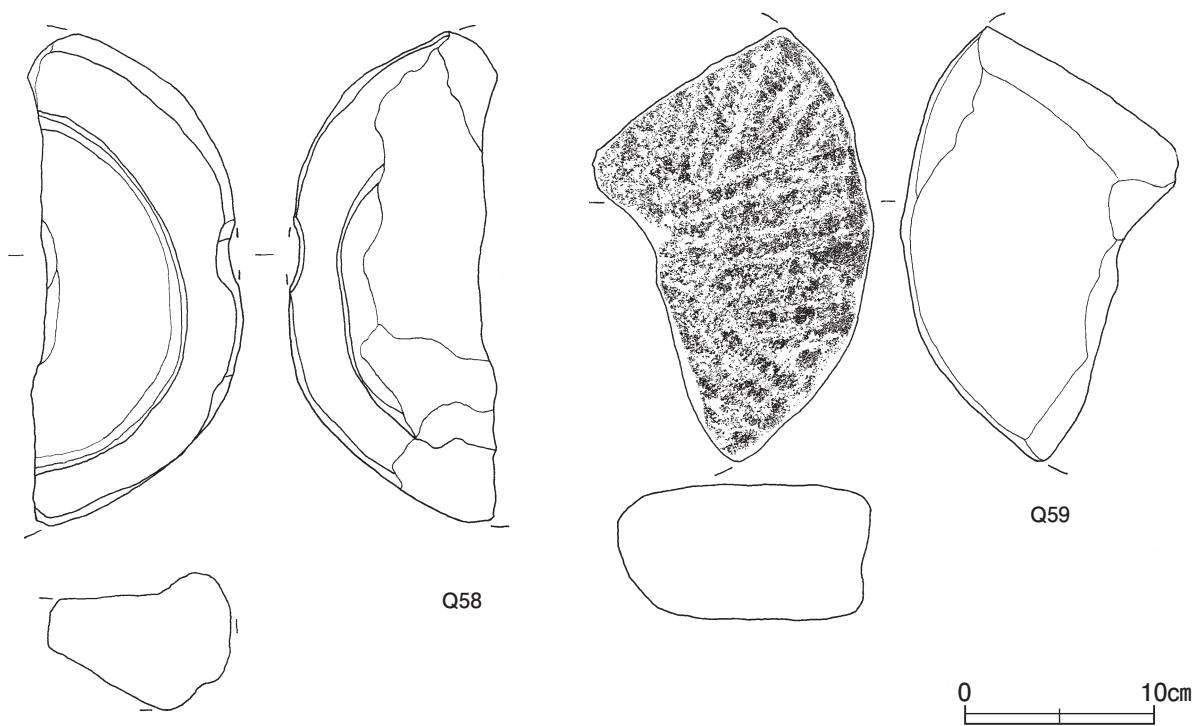
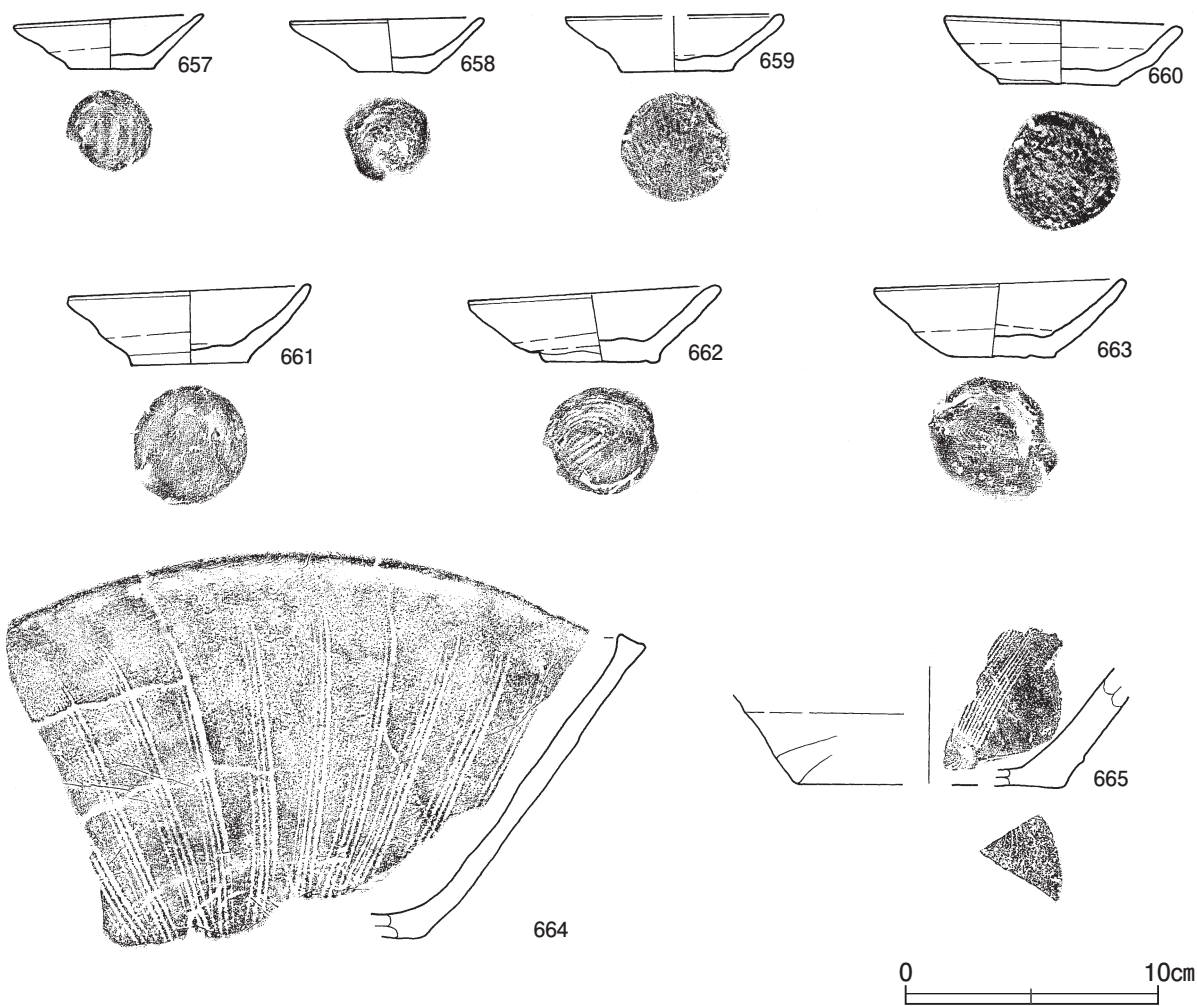
所見 第199A号溝と重複する掘り方の形状から、第199A号溝の掘り替えがされたことによって、流れ込んできた雨水等の水量を調整する機能をもっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から第199A号溝と同時期の16世紀後半と考えられる。



第405図 第199A・199B号溝跡実測図



第406图 第199A·199B号沟迹，第199A号沟迹出土遗物实测图

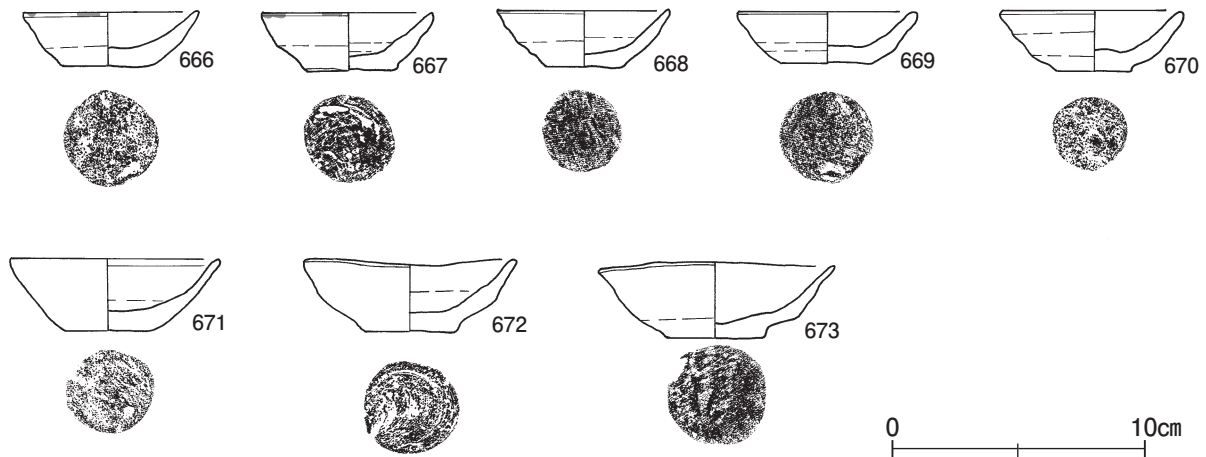


第407图 第199A号沟迹出土遗物实测图

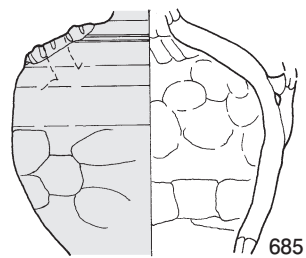
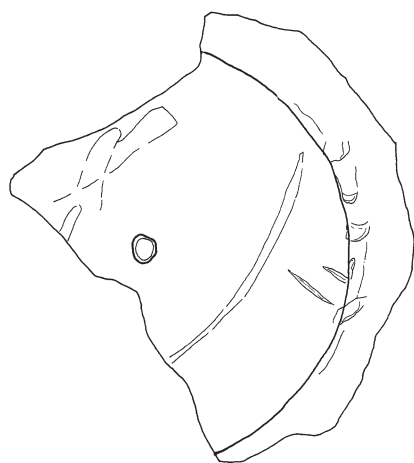
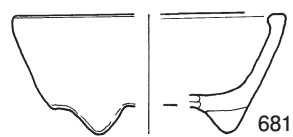
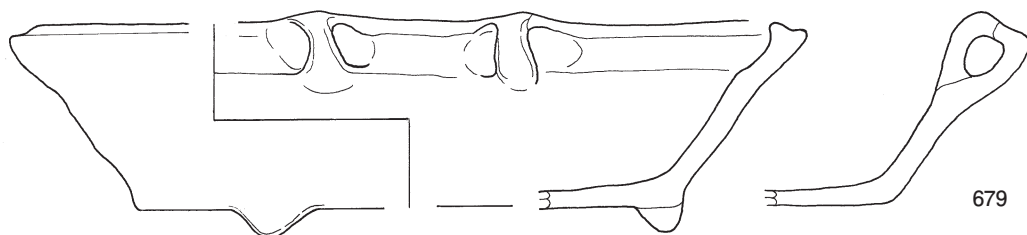
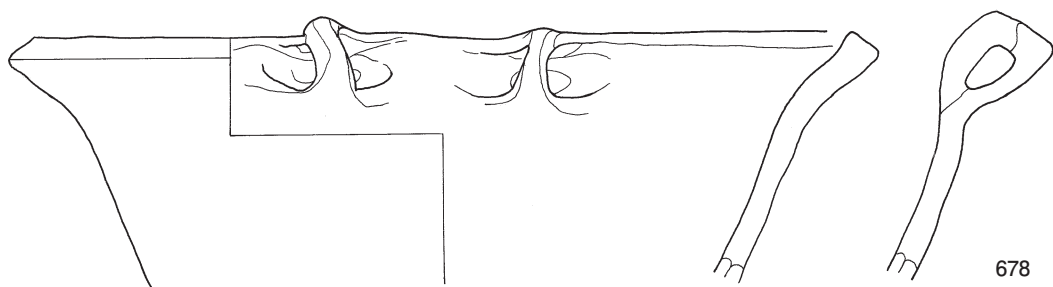
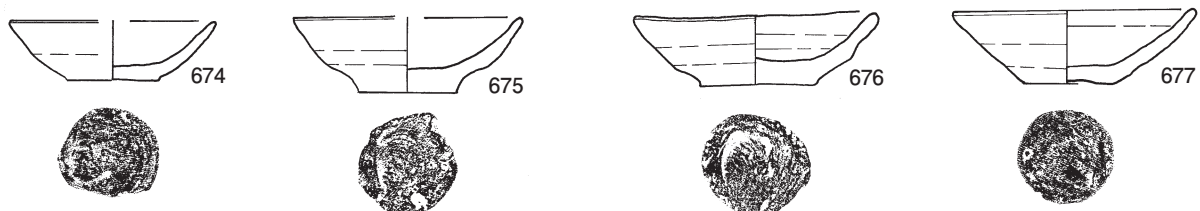
第199A号溝跡出土遺物観察表（第406・407図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|--------|--------------------|----------|----|-------------------------------------|------|-----------------|
| 639 | 土師質土器 | 皿 | 5.5 | 2.0 | 2.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 底部穿孔 | 覆土中 | 65% |
| 640 | 土師質土器 | 皿 | 5.6 | 1.6 | 3.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100%口唇部油煙付着 |
| 641 | 土師質土器 | 皿 | 6.1 | 2.2 | 3.0 | 雲母・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95%変色 |
| 642 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.0 | 3.2 | 長石・雲母・赤色粒子・小礫 | 黒褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100%成形にゆがみ 変色 |
| 643 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 4.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・砂 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90% PL110 |
| 644 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.1 | 3.3 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100% |
| 645 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.3 | 3.1 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 70% |
| 646 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.1 | 3.4 | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙・褐灰 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90%外面剝離変色 PL110 |
| 647 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.2 | 3.4 | 石英・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% |
| 648 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.1 | 3.2 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 糸切り痕を残すナデ | 覆土中層 | 100% |
| 649 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.4 | 3.1 | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 糸切り痕を残すナデ | 底面 | 80%成形にゆがみ |
| 650 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.2 | 3.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 70% |
| 651 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.2 | 2.9 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 70% |
| 652 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.1 | 3.2 | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 糸切り痕を残すナデ | 底面 | 80% |
| 653 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 2.2 | 3.2 | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 98% |
| 654 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.3 | 2.6 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 85%成形にゆがみ |
| 655 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.2 | 3.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100% |
| 656 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.4 | 3.0 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100% |
| 657 | 土師質土器 | 皿 | 7.5 | 2.2 | 3.2 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 圧痕を残すナデ | 底面 | 100%成形にゆがみ |
| 658 | 土師質土器 | 皿 | 7.6 | 2.2 | 3.2 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 80%成形にゆがみ |
| 659 | 土師質土器 | 皿 | [8.5] | 2.2 | 4.4 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 60% |
| 660 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 2.7 | 4.6 | 長石・雲母・赤色粒子・小礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 85% |
| 661 | 土師質土器 | 皿 | 9.5 | 3.0 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 75% |
| 662 | 土師質土器 | 皿 | 9.7 | 3.1 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 圧痕を残すナデ | 覆土下層 | 95%成形にゆがみ PL110 |
| 663 | 土師質土器 | 皿 | 9.9 | 3.3 | 4.7 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95%成形にゆがみ PL110 |
| 664 | 土師質土器 | 播鉢 | [32.2] | 12.0 | [16.6] | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 4条1単位の播り目カ 外面ナデ | 覆土下層 | 20% |
| 665 | 陶器 | 播鉢 | — | (4.7) | [10.8] | 精良 長石 | 灰白・褐灰 | 良好 | 12条1単位の播り目カ 外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 瀬戸系 |

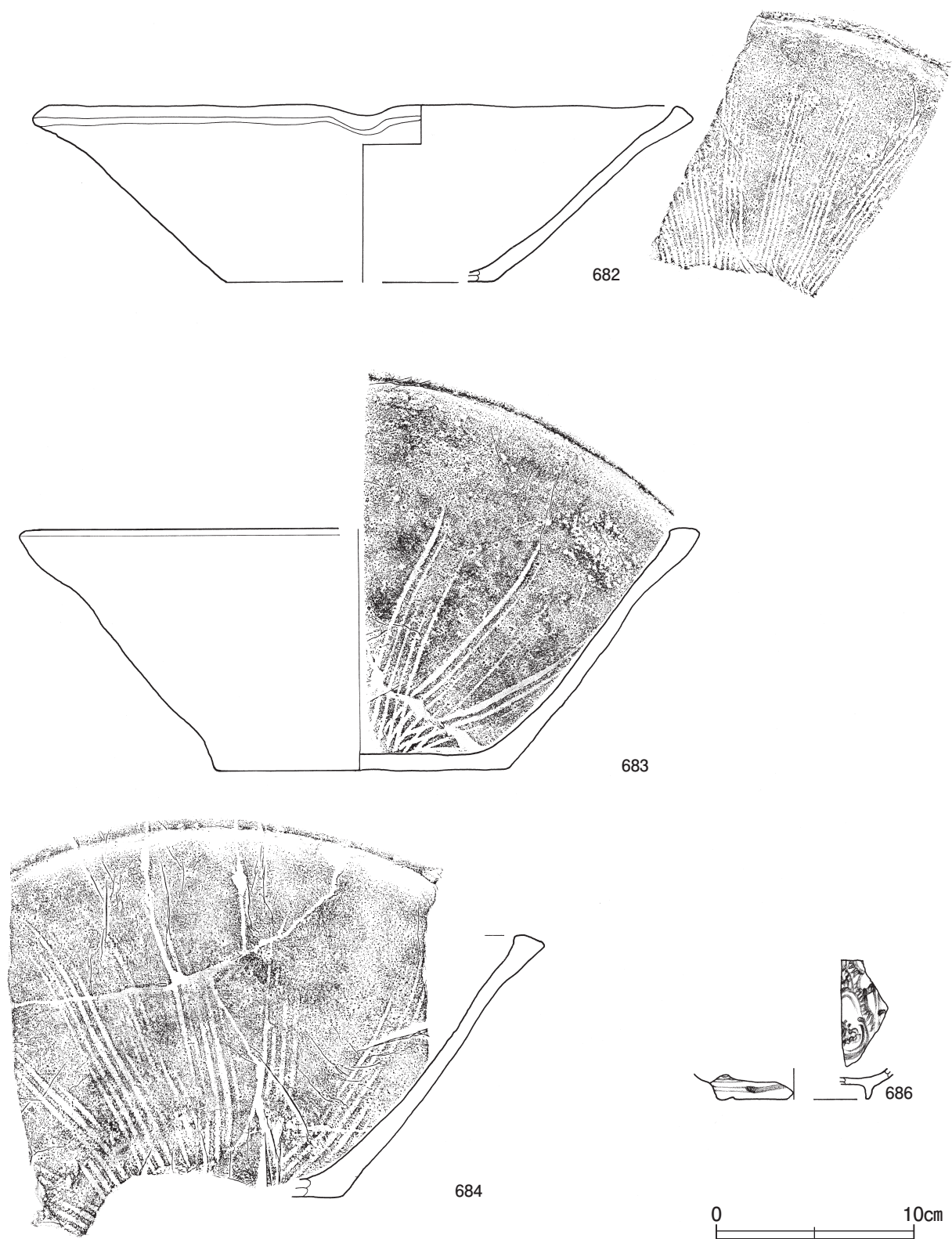
| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|--------|--------|----|-----|----------|-----|-------------------|------|----|
| Q58 | 石白(上白) | [28.4] | — | 7.1 | (2381.6) | 安山岩 | 下側磨面欠損のため播り目不明 | 覆土中層 | |
| Q59 | 石白(下白) | [27.6] | — | 7.0 | (2579) | 安山岩 | 上側磨面摩滅 7条1単位の播り目カ | 覆土下層 | |



第408図 第199B号溝跡出土遺物実測図(1)



第409图 第199B号沟迹出土遗物实测图(2)



第410図 第199B号溝跡出土遺物実測図

第199B号溝跡出土遺物観察表（第408～410図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 | |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|---------------|----|----|---------------------------|------|----|-----|
| 666 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.2 | 3.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ | 底部回 | 底面 | 95% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|--------------------|--------|----|--------------------------------------|----------|-------------------|
| 667 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.4 | 3.5 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100%口唇部油煙付着 PL110 |
| 668 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.3 | 3.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100% |
| 669 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.1 | 3.8 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 80% |
| 670 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.4 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子・小礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% |
| 671 | 土師質土器 | 皿 | 8.3 | 3.0 | 3.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 口唇部内面に沈線一条 | 覆土中層 | 80% |
| 672 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 2.9 | 3.6 | 赤色粒子 | 浅黄橙・黒褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 90%成形にゆがみ変色 PL110 |
| 673 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 3.1 | 3.9 | 赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 90%成形にゆがみ PL110 |
| 674 | 土師質土器 | 皿 | [8.1] | 2.4 | 3.9 | 石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 50% |
| 675 | 土師質土器 | 皿 | [9.1] | 3.0 | 3.9 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 60% |
| 676 | 土師質土器 | 皿 | 9.7 | 2.9 | 4.7 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 85%成形にゆがみ PL110 |
| 677 | 土師質土器 | 皿 | 9.6 | 3.0 | 3.8 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 85% |
| 678 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.6] | (10.8) | 3.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | にぶい橙 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 覆土下層 | 25% |
| 679 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [29.8] | 8.8 | [21.6] | 長石・石英・雲母 | 褐 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ 2脚部残存 脚部貼り付け | 底面 | 30% PL113 |
| 680 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (3.3) | [17.3] | 長石・石英・雲母 | 褐 | 普通 | 底部片 内・外面ナデ 内面・外面下端にヘラナデと工具痕 底部中央に穿孔 | 底面 | 10% |
| 681 | 土師質土器 | 香炉 | [10.6] | 4.8 | [7.8] | 長石・石英・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 1脚部残存 脚部貼り付け 内・外面ナデ | 覆土中 | 20% |
| 682 | 土師質土器 | 播鉢 | [31.8] | 9.0 | [13.8] | 長石・雲母・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 外面ナデ 内面5条1単位の播り目・摩滅 | 覆土中層 | 20% |
| 683 | 土師質土器 | 播鉢 | [33.8] | 12.3 | 14.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 黄褐 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 外面ナデ 5条1単位の播り目 | 覆土中・覆土下層 | 40% |
| 684 | 土師質土器 | 播鉢 | [32.8] | 13.4 | [13.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 外面ナデ 5条1単位の播り目 | 底面 | 25%外面煤付着 |
| 685 | 陶器 | 水注 | — | [9.7] | — | 精良 長石 | 灰白・灰白 | 良好 | ロクロ成形 内面に指頭痕 外面下半削り痕 頸部に2条の沈線 外面に施釉 | 覆土下層 | 40%古瀬戸 PL115 |
| 686 | 磁器 | 染付皿 | — | (1.6) | [7.9] | 精良 透明釉 | 灰白・明青灰 | 良好 | 削りだし高台 畳付無釉 | 覆土中 | 10%青花 |

第202号溝跡 (第411図)

位置と規模 調査区西部の I 4 e0 ~ I 5 f1区に位置している。I 5 f1区から北西方向 (N-50°-W) へ直線的に伸び、I 4 e0区で第205号溝に連結している。長さは5.5mで、上幅0.46 ~ 0.56m、下幅0.14 ~ 0.22m、深さ9 ~ 15cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。覆土が薄いため堆積状況の判断は困難であるが、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 壁土と思われる焼土が、1点出土している。

所見 第205号溝に雨水等を排水していた溝で、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第205号溝跡 (第411・412図)

位置 調査区西部の H 5 g3 ~ I 4 f9区で、標高25mほどの台地端部の緩斜面に位置している。

重複関係 第202号溝と同時期と考えられ、第210号溝に掘り込まれている。

規模と形状 I 4 f9区から北東方向 (N-26°-E) へ直線的に伸び、H 5 g0区で第210号溝に掘り込まれた地点で調査区域外となっている。確認できた長さは35.6mで、上幅1.36 ~ 2.7m、下幅0.26 ~ 0.62m、深さ86 ~ 110cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

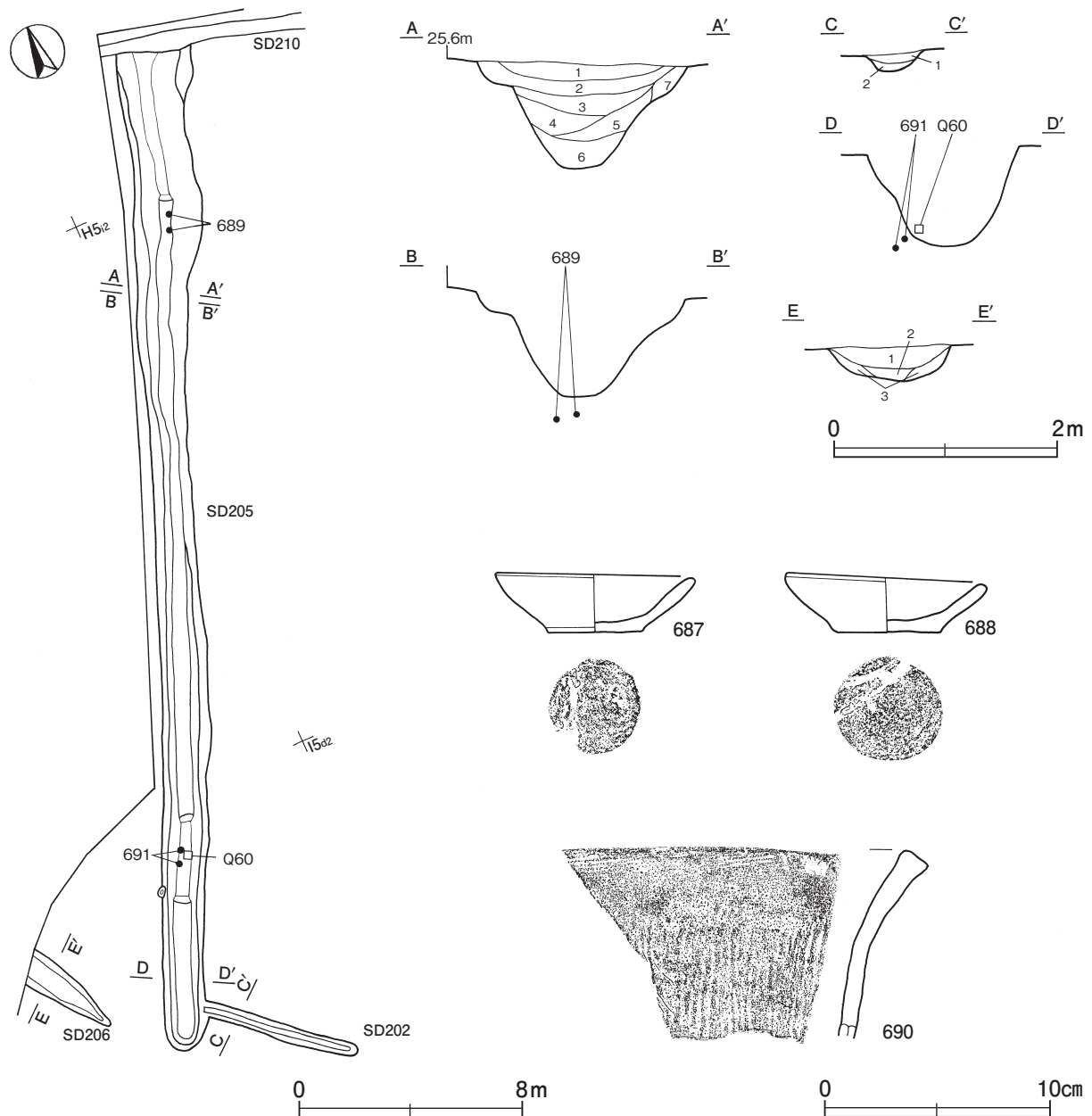
覆土 7層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

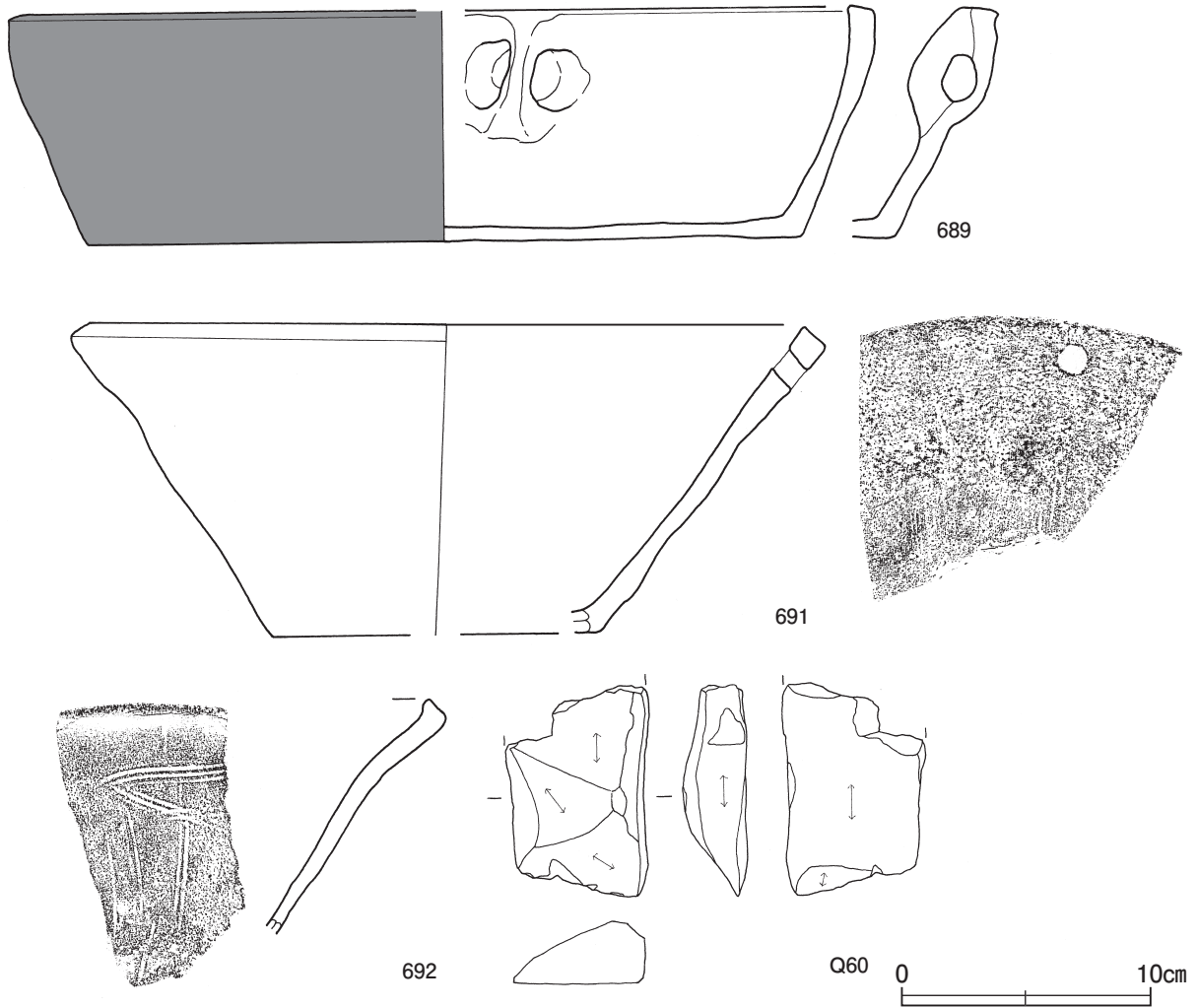
- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| | | 7 褐灰色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片164点(皿52, 内耳鍋70, 甕8, 挿鉢33, 火鉢1), 陶器片5点(碗1, 常滑系甕4), 石器2点(砥石), 鉄滓1点と, 流れ込んだ縄文土器片10点, 土師器片15点, 須恵器片3点, 礫3点が出土している。687・688・690・692は北部の覆土中, 689は北部の底面, 691・Q60は南部の底面からそれぞれ出土している。ほとんどが散在して破片で出土していることから, 埋土と共に廃棄されたと考えられる。

所見 北西側の谷津に雨水等を排水する機能をもっていたと考えられる。時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。



第411図 第202・205・206号溝跡, 第205号溝跡出土遺物実測図



第412図 第205号溝跡出土遺物実測図

第205号溝跡出土遺物観察表 (第411・412図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|--------|---------------|--------|----|------------------------------------|------|-----------------|
| 687 | 土師質土器 | 皿 | 8.7 | 2.6 | 4.3 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切後ナデ | 覆土中 | 55% |
| 688 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.7 | 4.8 | 長石・石英・雲母 | 淡黄 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切後ナデ | 覆土中 | 60% 成形にゆがみ |
| 689 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [33.0] | 9.2 | 28.9 | 長石・石英・雲母・礫 | 橙 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 底面 | 30% 焙烙カ 体部外面煤付着 |
| 690 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [26.8] | (8.5) | — | 長石・石英・雲母・礫 | 橙 | 普通 | 内面ナデ 外面ヘラナデ痕 | 覆土中 | 外面煤付着 |
| 691 | 土師質土器 | 播鉢 | 28.9 | 12.8 | [13.2] | 長石・石英・雲母・礫 | にぶい橙・褐 | 普通 | 摩滅と剥離のため播り目不明 外面ナデ一部剥離 片口部欠損 穿孔1か所 | 底面 | 70% PL113 |
| 692 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (9.7) | — | 長石・石英・雲母・礫 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部上位へつまみ上げ 播り目3条1単位カ 外面ナデ | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|---------|-----|-----------|------|----|
| Q60 | 砥石 | (8.5) | 5.8 | 2.5 | (120.3) | 凝灰岩 | 端部欠損 砥面5面 | 底面 | |

第206号溝跡 (第411図)

位置と規模 調査区西部縁辺部 I 4 d8 ~ I 4 e9区に位置している。I 4 d8区から直線的に北西方向 (N - 30° - W) へ延び、I 4 d8区で調査区域外となっている。確認できた長さは3.5mで、上幅0.26 ~ 1.15m、下幅0.16 ~ 0.72m、深さ10 ~ 30cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (E-E')

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿)と、流れ込んだ縄文土器片2点、須恵器片1点が出土している。

所見 谷津に雨水等を排水したと考えられる。時期は、隣接する遺構と比較して16世紀代と考えられる。

第203号溝跡 (第413・414図)

位置 調査区西部のI 5g0～J 5a0区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1199号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 I 5g9区から南方向(N-175°-W)へ緩やかに延び、J 5a0区で調査区域外へ向かっている。

確認できた長さは13.1mで、上幅0.95～1.52m、下幅0.3～1.08m、深さ21～38cmである。断面形は緩やかなU字状または逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

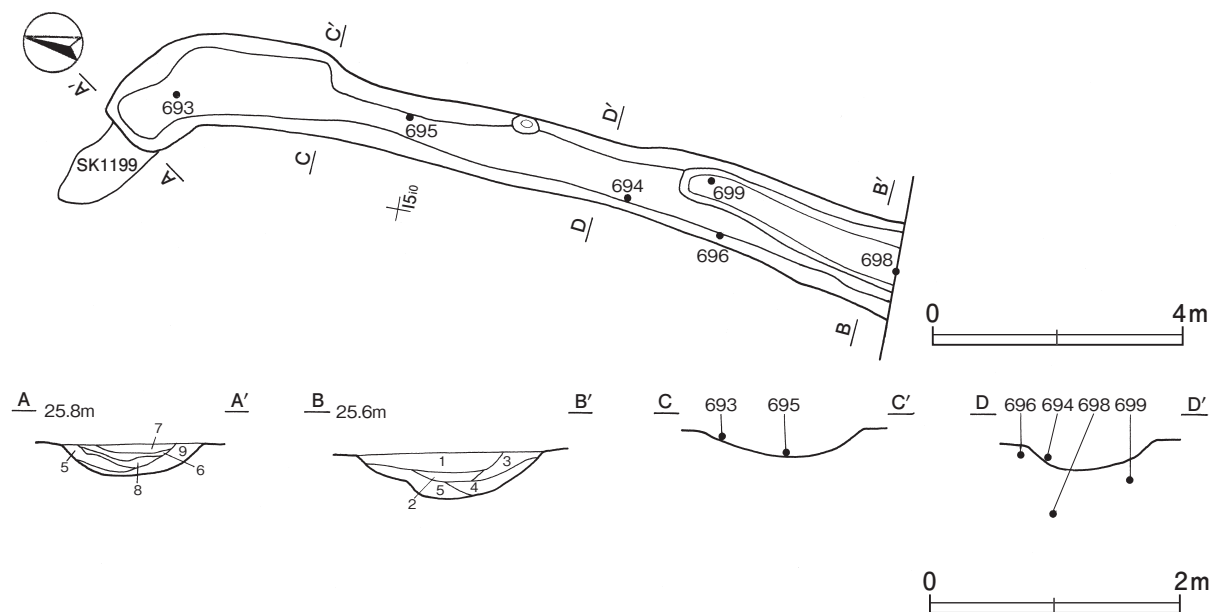
覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説

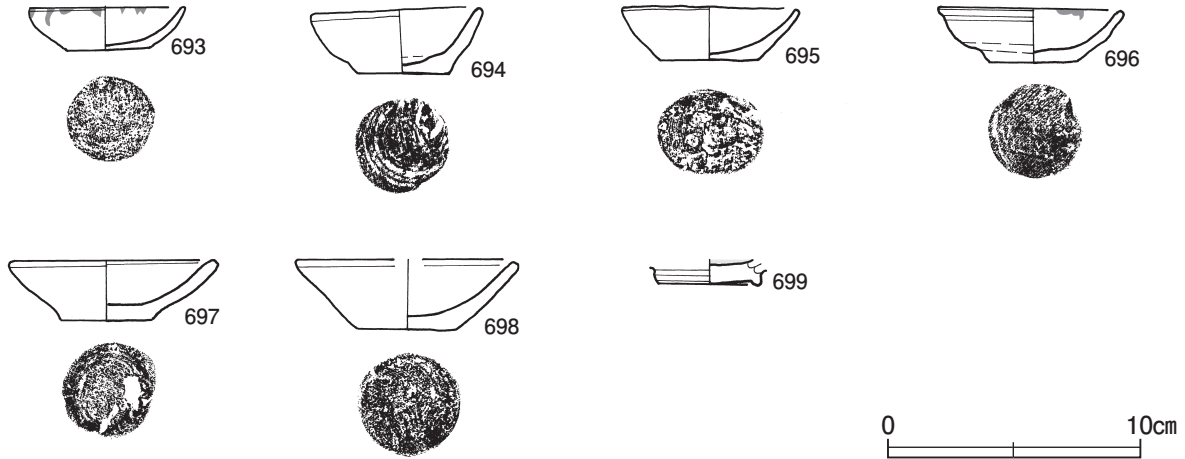
- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 灰黄褐色 粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| | 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片100点(皿68, 内耳鍋24, 挿鉢8), 陶器片2点(天目茶碗, 常滑系甕)と、流れ込んだ土製品8点(支脚), 礫5点が出土している。全体的に散在して出土していることから、隣接する屋敷域からの廃棄と考えられる。693・695は北部, 694・696・698・699は南部の底面から出土しており, 697は南部の覆土中から出土している。

所見 第36号掘立柱建物と第24号ピット群で構成される屋敷域を区画する溝の一つと考えられる。規模的にやや相違があるものの、調査区域外を挟んで第20号溝と連結していると推測される。時期は、出土土器から16世紀代後半と考えられる。



第413図 第203号溝跡実測図



第414図 第203号溝跡出土遺物実測図

第203号溝跡出土遺物観察表（第414図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|-------|-------|-----|---------------|----------|----|-----------------------------------|------|-----------------|
| 693 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 1.7 | 3.3 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ 内・外面摩滅 | 底面 | 100%口唇部油煙付着 |
| 694 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.7 | 3.6 | 雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 底面 | 90%成形にゆがみ PL110 |
| 695 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.2 | 3.8 | 雲母 | にぶい黄橙・黒褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 底面 | 80%成形にゆがみ 変色 |
| 696 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.3 | 3.6 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り | 底面 | 100%口唇部油煙付着 |
| 697 | 土師質土器 | 皿 | 8.1 | 2.3 | 3.6 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 覆土中 | 80%成形にゆがみ |
| 698 | 土師質土器 | 皿 | [8.8] | 2.7 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後糸切り痕を残すナデ | 底面 | 55% |
| 699 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (1.0) | 4.2 | 精良 鉄釉 | 褐灰・黒褐 | 良好 | 底部片 底部高台削りだし 内面施釉 | 底面 | 10%瀬戸・美濃系 |

第204号溝跡（第415・416図）

位置と規模 調査区西部の I 5 f0 ~ I 5 g0区に位置している。I 5 g0区から北東方向（N-14°-E）へ直線的に伸び、I 5 f0区で第300・348号溝に連結している。長さは4.1mほどで、上幅0.55 ~ 0.67m、下幅0.33 ~ 0.39m、深さ13cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層され、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説（A-A', B-B'）

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

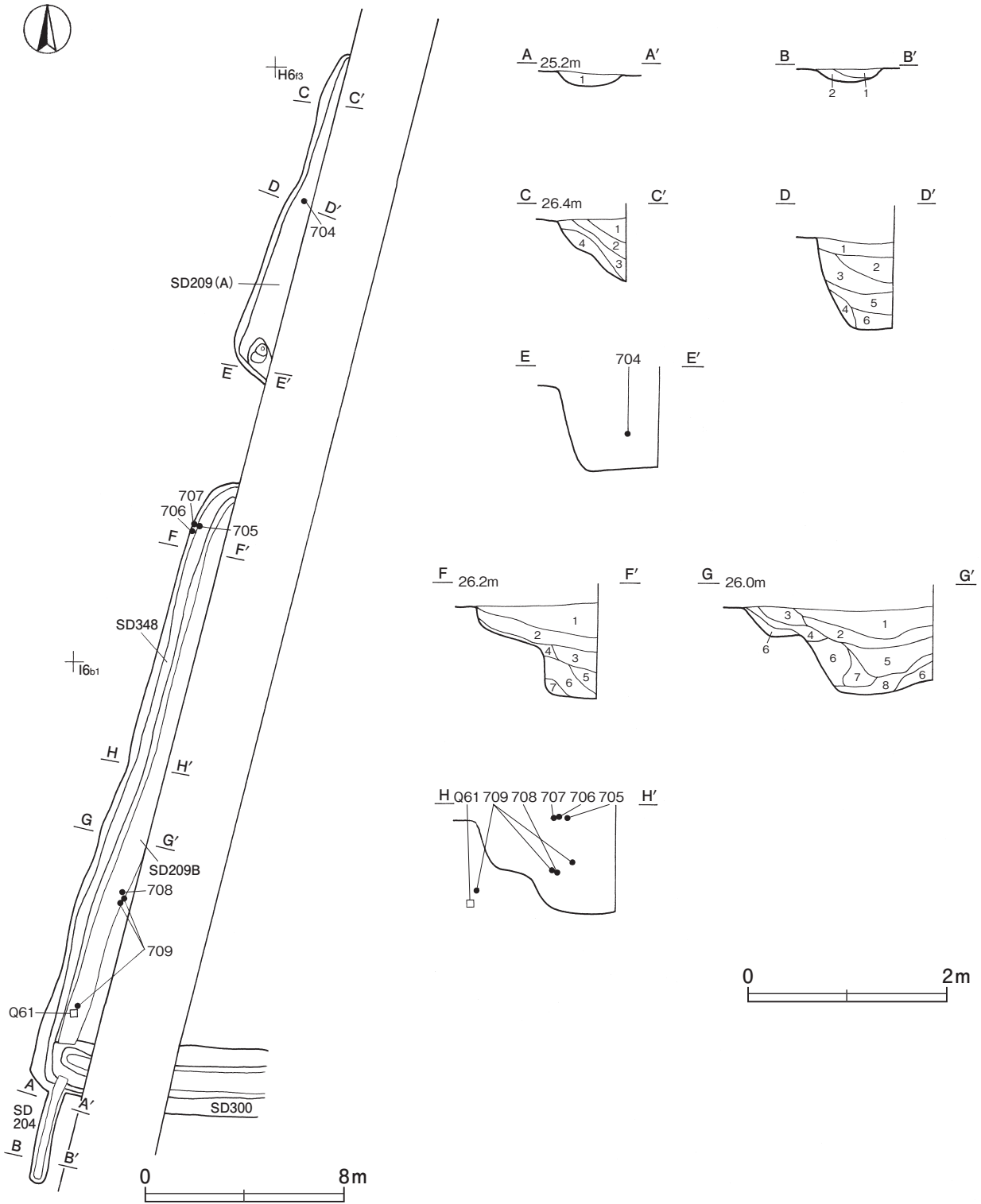
遺物出土状況 土師質土器片80点（皿9、内耳鍋47、香炉6、挿鉢18）、陶器片1点（天目茶碗）と、流れ込んだ縄文土器片1点、土師器片8点、須恵器片3点、礫1点が出土している。700・701は、覆土中から破片で出土している。

所見 第300号溝に雨水等を排水したと考えられる。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。

第209 A号溝跡（第415・416図）

位置 調査区西部の H 6 e3 ~ H 6 i2区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

規模と形状 調査区域外の H 6 e3区から南西方向（N-159°-W）へ直線的に伸び、H 6 j2区で立ち上がっている。確認された長さは13.3mで、上幅・下幅とも調査区域外に接するため明確ではないが、上幅0.6 ~ 1.1m、下幅0.1 ~ 0.9m、深さ64 ~ 86cmである。断面形は逆台形状と推定され、壁は外傾して立ち上がっている。



第415図 第204・209A・209B・348号溝跡実測図

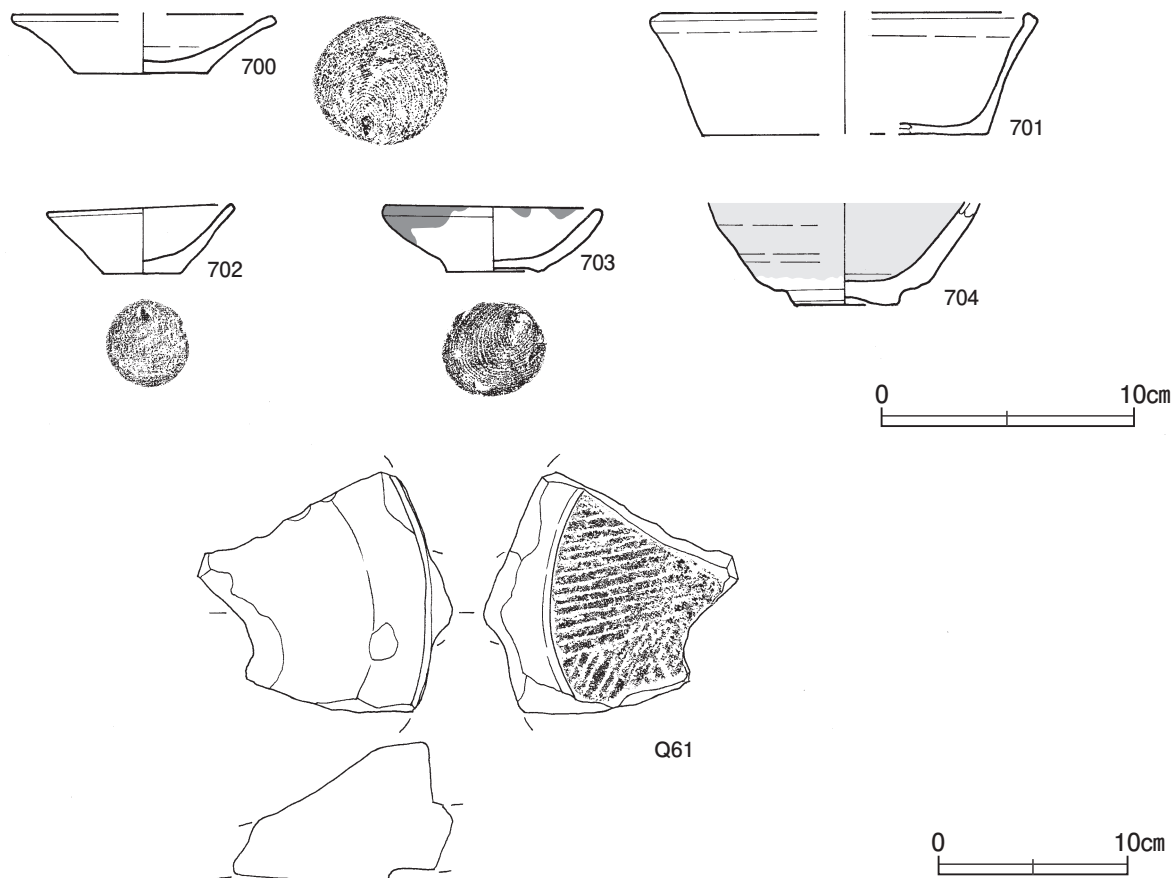
覆土 6層に分層される。含有物から1・2層は自然堆積であるが、第3層以下は人為堆積と考えられる。

土層解説 (C-C', D-D')

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片85点（皿23，内耳鍋35，甕9，播鉢18），陶器片3点（天目茶碗1，常滑系甕カ2），石器1点（茶臼）と，流れ込んだ縄文土器片5点，須恵器片1点，礫2点が出土している。704は中央部の覆土下層，702・703は覆土中からそれぞれ出土している。遺物は，遺構全体から散在するように出土しており，本跡の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 調査区域外の農道に接しているため，一部だけ調査された溝で，区画と雨水等を排水したと推測される。時期は，出土土器から16世紀代と考えられる。



第416図 第204・209A号溝跡出土遺物実測図

第204号溝跡出土遺物観察表（第416図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-----|--------|----------------|-------|----|----------------------------|------|----------|
| 700 | 土師質土器 | 皿 | [10.4] | 2.3 | 5.1 | 長石・雲母・赤色 粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り | 覆土中 | 60% |
| 701 | 土師質土器 | 香炉 | [14.6] | 4.9 | [11.4] | 石英 | 赤褐 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底面ナデ | 覆土中 | 30% 2次焼成 |

第209A号溝跡出土遺物観察表（第416図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|-----|-------|-----|----------------|-------|----|--------------------------------|------|-----------------------|
| 702 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.8 | 3.2 | 石英・雲母・赤色 粒子 | 淡黄 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% PL110 |
| 703 | 土師質土器 | 皿 | 8.6 | 2.7 | 3.9 | 長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り | 覆土中 | 100%口辺部油 煙付着 PL110 |
| 704 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (4.1) | 4.4 | 精良 鉄釉 | 褐灰・暗褐 | 良好 | 底部高台削りだし 内・外面施釉 釉だ まり 露体に錆釉 | 覆土下層 | 20%瀬戸・美濃 系 |

| 番号 | 器種 | 直径 | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------------|--------|---|-----|--------|-----|----------------------|------|----|
| Q61 | 茶白 (下白) | [36.8] | — | 7.3 | (1081) | 安山岩 | 受け皿部の一部残存 播り目14条1単位カ | 底面 | |

第209B号溝跡 (第415・417・418図)

位置 調査区西部のH 6 j2 ~ I 5 e0区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第300・348号溝を切っている。

規模と形状 調査区域外のH 6 j2区から南西方向 (N-164°-W) へ直線的に伸び、I 5 e0区で第300号溝と重複している。確認できた長さは23mほどで、上幅・下幅とも調査区域外に接するため明確でないが、上幅0.6~1.3m, 下幅0.4~1.0m, 深さ90~92cmである。断面形は逆台形状と推定され、壁は緩やかに立ち上がっている。

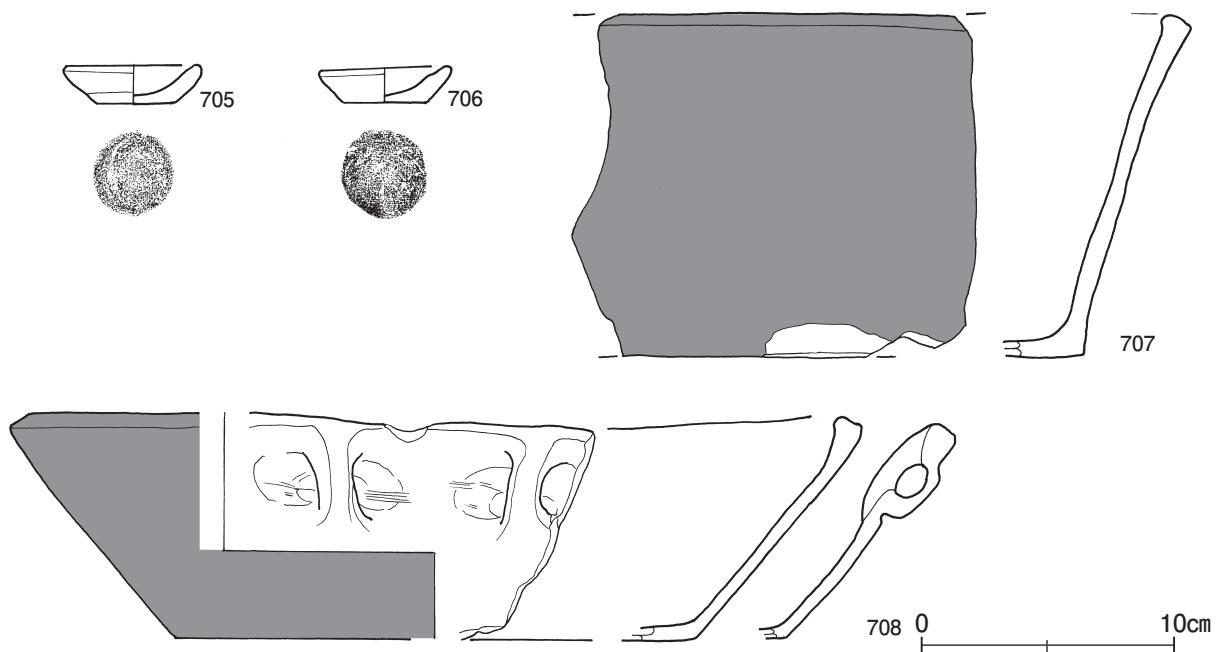
覆土 第348号溝の覆土と重複し、8層に分層される。含有物から第1~5層は自然堆積であるが、第6層以下は人為堆積と考えられる。

土層解説 (F-F', G-G')

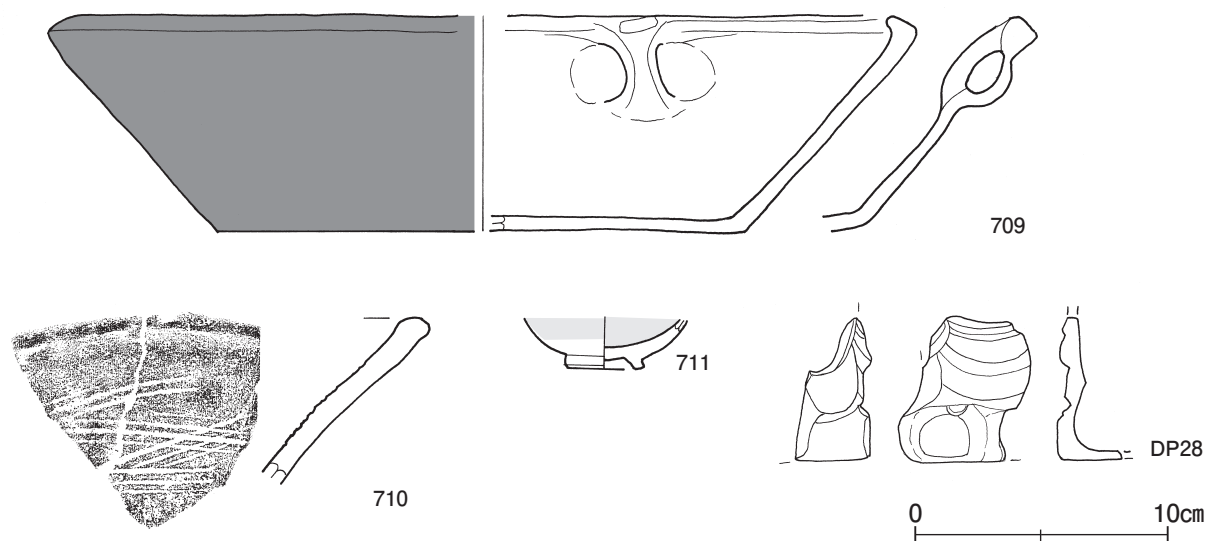
- | | | | |
|-------|-----------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 6 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 褐灰色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片89点 (皿16, 内耳鍋52, 甕1, 挿鉢20), 瓦質土器片8点 (火鉢カ), 陶器片1点 (碗), 土製品1点 (人形), 石器4点 (石臼, 茶臼, 砥石, 硯) と、流れ込んだ縄文土器片4点, 土師器片4点, 須恵器片5点, 礫1点が出土している。覆土第6層以下に相当する下層から出土している708・709, Q61と、覆土中層以上から出土している705~707・710・711とは時期差は認められず、全体的に散在して出土していることから、本跡の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。DP28は、混入したものと考えられる。

所見 調査区域外の農道に接しているため、一部だけが調査された溝跡である。農道下で調査区中央部で確認されている第300号溝と連結しており、形状的に大規模な溝と推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第417図 第209B号溝跡出土遺物実測図(1)



第418図 第209B号溝跡出土遺物実測図(2)

第209B号溝跡出土遺物観察表 (第417・418図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|-------------------|--------|----|-------------------------------|------|-----------------|
| 705 | 土師質土器 | 皿 | 5.4 | 1.5 | 3.2 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 100% |
| 706 | 土師質土器 | 皿 | 5.2 | 1.5 | 3.4 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 100% |
| 707 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (13.5) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 内・外面ナデ | 覆土上層 | 20% 体部外面 煤附着 |
| 708 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.2] | 9.0 | [20.4] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け 内・外面ナデ 耳部に掛け痕 | 覆土下層 | 30% 体部外面 煤附着 |
| 709 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.6] | 8.6 | [21.0] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内・外面ナデ | 覆土下層 | 30% 体部外面 煤附着 |
| 710 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.7) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい橙・褐 | 普通 | 口唇部丸み 3条1単位の播り目が交差 外面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 711 | 陶器 | 小碗 | — | (2.0) | 3.2 | 精良 灰釉 | 淡黄・灰白 | 良好 | 角高台に削り出し 内・外面施釉 露体 無釉 | 覆土中 | 15% 瀬戸・美濃 系カ |

| 番号 | 器種 | 高さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------------|-------|-------|-------|--------|----|------------|------|----|
| DP28 | 人形 (大黒カ) | (5.8) | (5.3) | (3.0) | (29.9) | 土製 | 型抜き成形 表面ナデ | 覆土中 | |

第348号溝跡 (第415図)

位置と規模 調査区西部のH 6 j2 ~ I 5 f0区に位置している。H 6 j2区から南西方向 (N-166°-W) へ直線的に延びている。第204・209B号溝に大きく掘り込まれているため確認できたのは、長さ25.4m、下幅0.18 ~ 0.4m、深さ34 ~ 50cmだけである。

覆土 第204・209B号溝に大きく掘り込まれているため不明である。

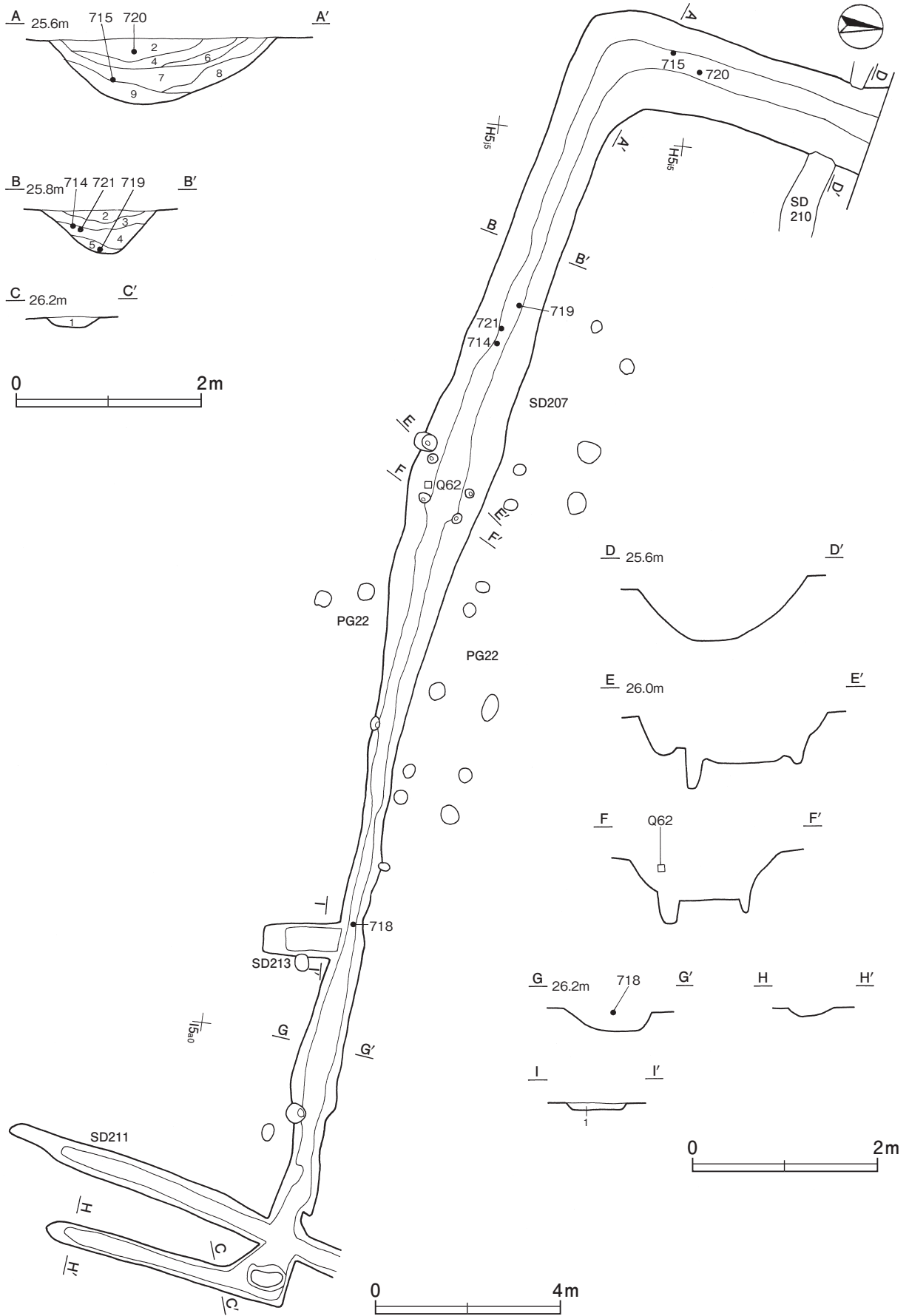
所見 第209B号溝に掘り返しを受けたと推測され、同時期に機能し、廃絶されたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代である。

第207号溝跡 (第419 ~ 421図)

位置 調査区西部の端H 5 g4 ~ I 6 a1区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第211・213号溝に切られ、第210号溝に掘り込まれている。

規模と形状 I 6 a1区から北方向 (N-10°-E) へ5mほど延び、その後西方向 (N-82°-W) へ29m、さらに北方向 (N-7°-E) へクランク状に屈曲して6mほど延び、H 5 g4区で調査区域外へと向かっている。確認できた長さは40mほどで、上幅0.48 ~ 1.74m、下幅0.1 ~ 0.66m、深さ10 ~ 70cmである。断面形は浅い部



第419图 第207·213号沟迹实测图

分で緩やかなU字状、深い部分で逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

木橋跡 1か所。5か所の柱穴痕の深さは10～41cmで、ほぼ中央部に確認されている。

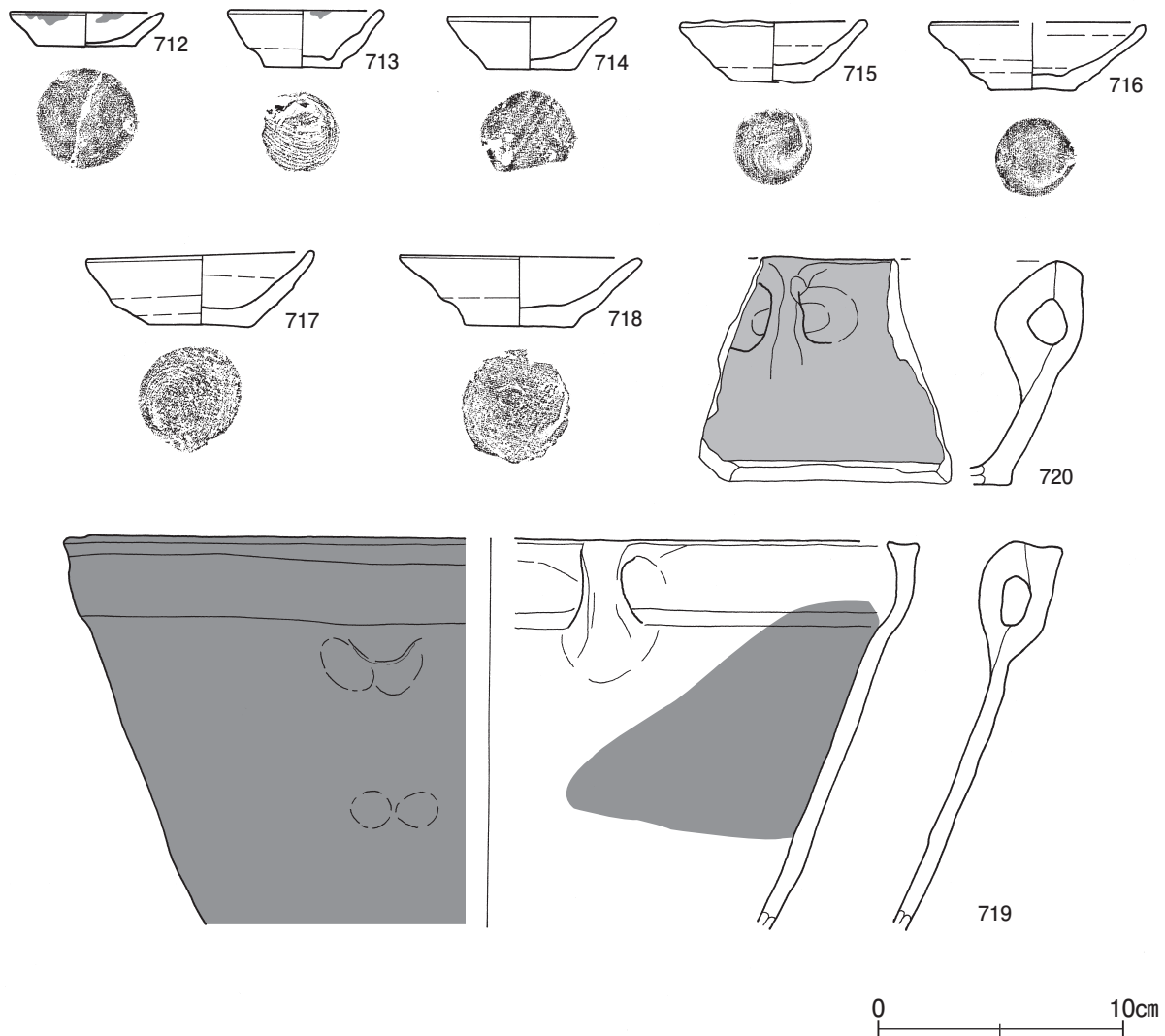
覆土 9層に分層される。含有物から南部の掘り方の浅い部分は自然堆積であるが、中央部から北部にかけての掘り方の深い部分では人為堆積である。

土層解説 (各層共通)

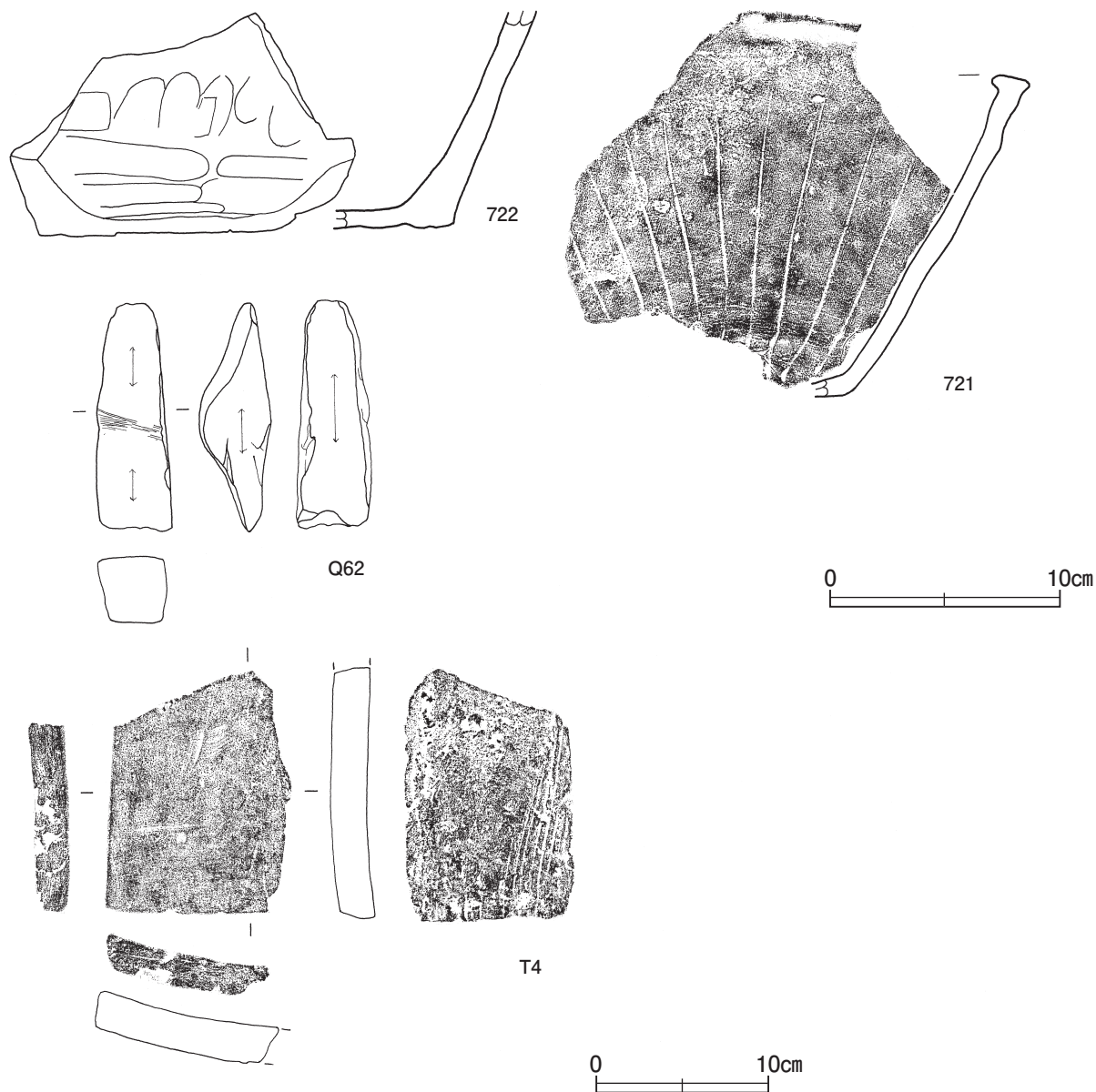
- | | |
|---------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子多量 | 6 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子多量, 焼土ブロック 中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量 | 7 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量 | 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子多量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土粒子中量 | 9 黒褐色 焼土ブロック多量, 粘土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック多量 | |

遺物出土状況 土師質土器片251点 (皿75, 内耳鍋類135, 香炉1, 甕9, 播鉢31), 陶器片6点 (常滑系甕カ), 石器8点 (磨石1, 石臼1, 砥石6点), 粘土塊6点, 木片3点と, 流れ込んだ縄文土器片12点, 土師器片10点, 須恵器片7点, 礫11点が出土している。714・715・718～721, Q62, T4は, 散在して覆土上層から底面にかけて出土しており, 本跡の廃絶に伴って埋土とともに廃棄されたと考えられる。

所見 第211・212号溝とともに屋敷域と想定される第22号ピット群を区画し, 西方向の谷津に向かっていることから, 雨水等の排水の機能ももっていたと考えられる。時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。



第420図 第207号溝跡出土遺物実測図(1)



第421図 第207号溝跡出土遺物実測図(2)

第207号溝跡出土遺物観察表 (第420・421図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|---------------------|-------|----|------------------------------------|------|--------------------------|
| 712 | 土師質土器 | 皿 | 6.2 | 1.4 | 4.0 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土中 | 65%口辺部油 煙付着 |
| 713 | 土師質土器 | 皿 | 6.2 | 2.4 | 3.2 | 長石・雲母・赤色 粒子・礫 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り | 覆土中 | 80%口唇部油 煙付着 |
| 714 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 3.6 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後圧痕を残すナデ | 覆土中層 | 55% |
| 715 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.6 | 3.3 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%口唇部に ゆがみ |
| 716 | 土師質土器 | 皿 | [8.8] | 2.7 | 3.5 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60% |
| 717 | 土師質土器 | 皿 | 9.1 | 3.1 | 4.2 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回 転糸切り後残すナデ | 覆土中 | 60% |
| 718 | 土師質土器 | 皿 | 9.8 | 2.9 | 4.6 | 雲母 | 浅黄 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 55% |
| 719 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.8] | (17.0) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内・外 面ナデ 指頭痕 | 底面 | 30%体部内・外 面煤付着 |
| 720 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | 9.2 | [30.2] | 長石・石英・雲母・ 赤色粒子・礫 | にぶい橙 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内・外 面ナデ | 覆土上層 | 15%焙烙カ 内面に炭 化物 外面に煤付着 |
| 721 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (14.0) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 1条1単位の 播り目 外面ナデ | 覆土中層 | 20% |
| 722 | 陶器 | 甕 | — | (9.5) | — | 精良 長石 | にぶい橙 | 良好 | 内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ | 覆土中 | 15%常滑系 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----|--------|-----|-----------------|------|----|
| Q62 | 砥石 | (10.0) | 3.3 | 3.0 | (95.2) | 凝灰岩 | 端部欠損 砥面4面 表面に擦痕 | 覆土中層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|--------|--------|-----|---------|-------|----------------------------|------|----|
| T4 | 平瓦 | (14.5) | (10.5) | 2.1 | (493.4) | 長石・雲母 | 表面ナデ 裏面調整痕カ 表面にぶい黄橙色 胎芯灰黄色 | 覆土中層 | |

第213号溝跡 (第419図)

位置と規模 調査区西部のH5j9区に位置している。H5j9区から、北方向(N-6°-W)へ直線的に延び、第207号溝に繋がっている。長さは1.6mほどで、上幅0.66m、下幅0.52m、深さ8cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (I-I')

1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量

所見 第207号溝に雨水等を排水したと考えられ、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第226A号溝跡 (第422・423図)

位置 調査区中央部の北端H6e8～H7b7区で、標高27mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第233号溝を切り、第225・226B・251号溝に切られている。

規模と形状 H6e8区から、北方向(N-11°-E)へ直線的に延び、H6b8区で東方向(N-82°-E)へ屈曲して直線的にH7b7区まで延び、第251号溝に連結している。長さは44.2mで、上幅1.42～2.4m、下幅0.42～0.8m、深さ80～98cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面には、2か所段差が認められるほか、3か所障子堀状の掘り方が確認されている。

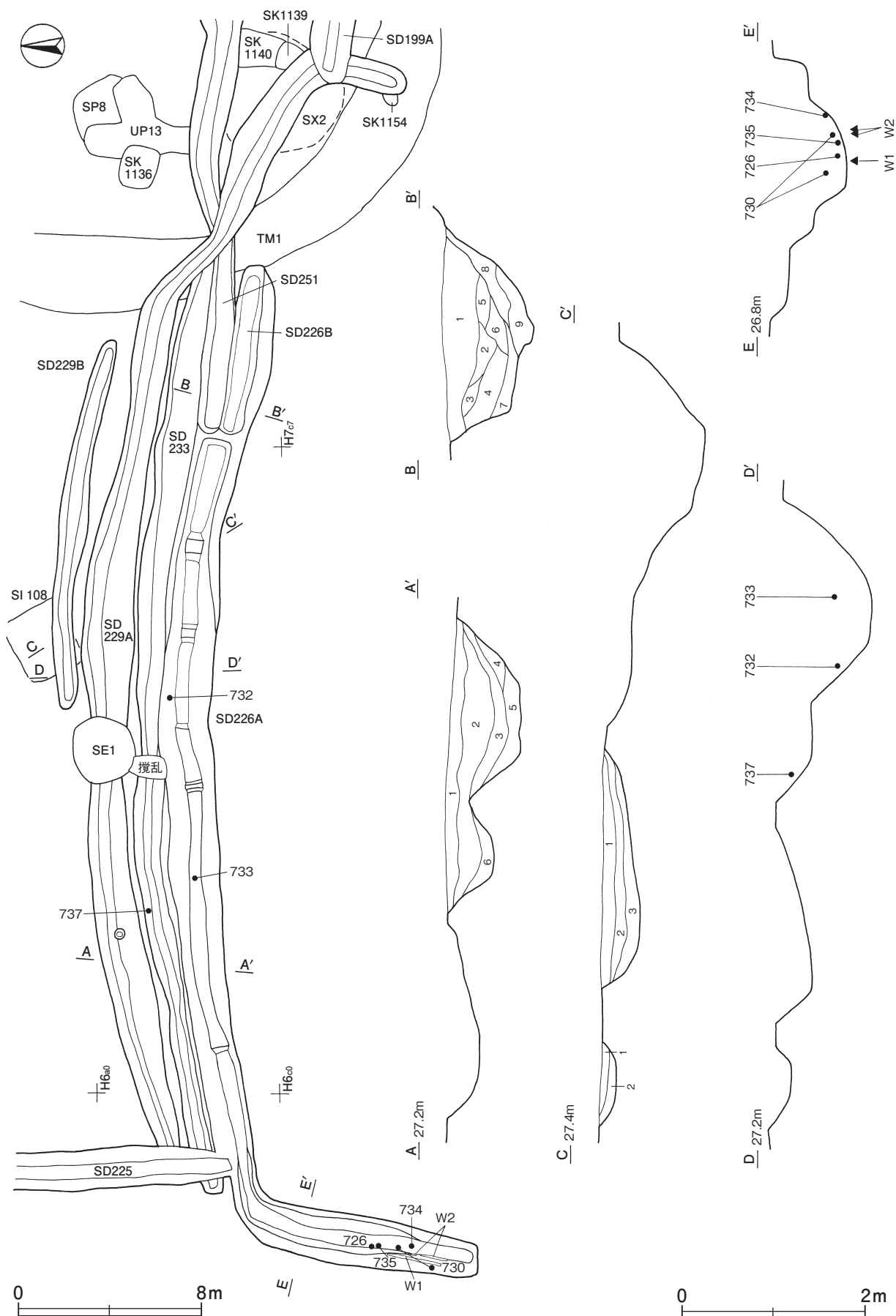
覆土 5層に分層される。遺物の出土状況から一部人為堆積の様相が認められるが、含有物から自然堆積である。

土層解説 (A-A' SD229A・233との重複部、1～5層が相当する。)

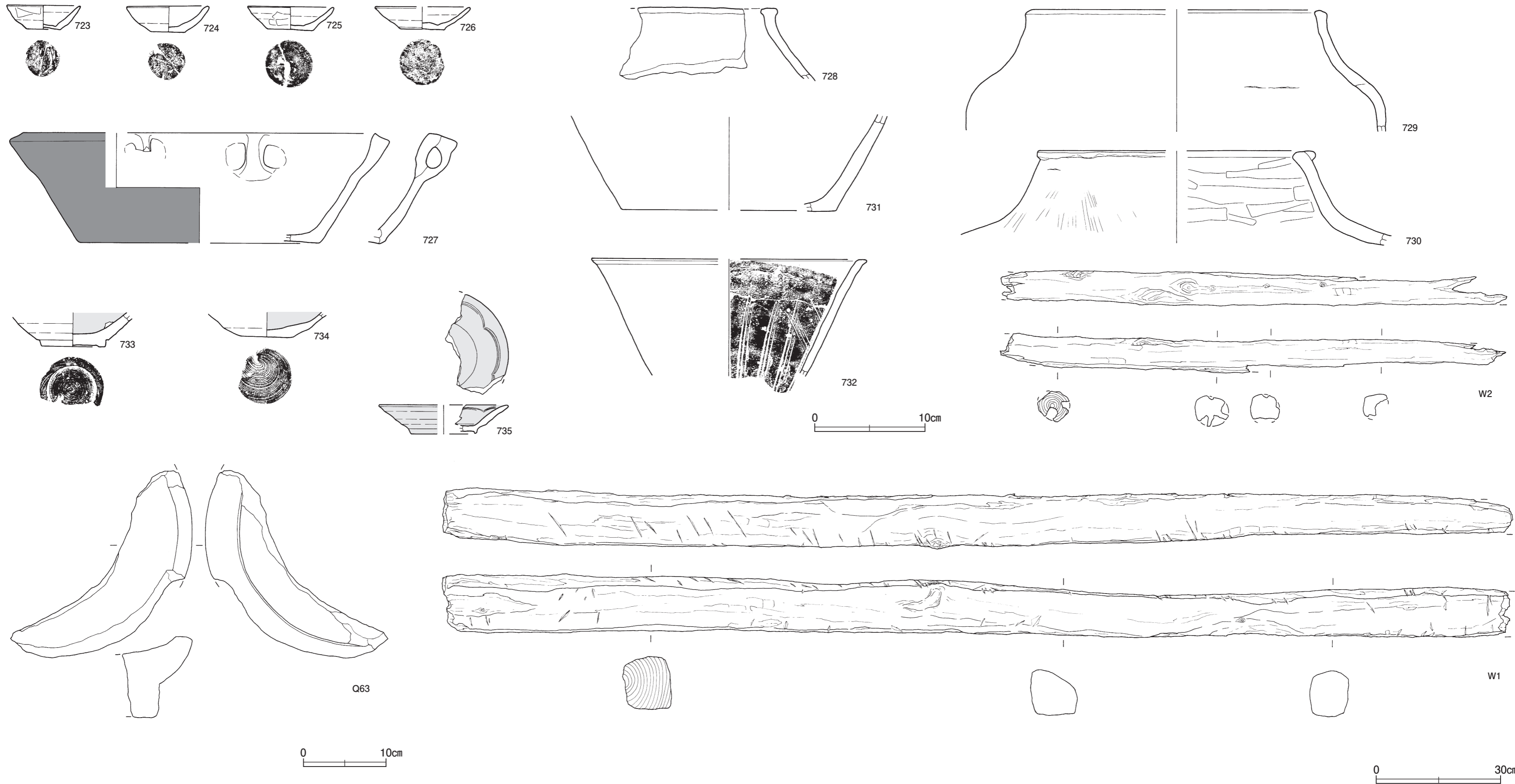
- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・小礫・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物少量 (SD233の覆土) |

遺物出土状況 土師質土器片276点(皿42, 内耳鍋99, 香炉カ1, 壺・甕類115, 播鉢19), 瓦質土器片1点(火鉢カ), 陶器片11点(碗1, 皿6, 常滑系甕4), 石器5点(磨石2, 石臼1, 茶臼1, 砥石1), 木製品2点(柱材カ)と、流れ込んだ縄文土器片11点, 土師器片22点, 須恵器片11点, 埴輪片1点, 鉄滓2点, 礫18点が出土している。732・733は、中央部から東部にかけての覆土中層から出土しており、726・730・734・735, W1・W2は、西部の覆土下層から底面にかけて集中して出土している。これらは、溝の内側に位置している屋敷域と想定される第26～28号ピット群の廃絶に伴って、廃棄されたと考えられる。

所見 調査区中央部の北側を、ほぼ東西に掘り込んでいる溝である。底面には段差や障子堀状の掘り方が認められ、防御の役割をもった溝と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第422图 第226A·226B·229A·229B·233号沟迹实测图



第423图 第226A号沟迹出土遗物实测图

第226 A号溝跡出土遺物観察表（第423図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|-------|----|------------------------------------|------|-----------------------|
| 723 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 3.2 | 石英・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 外面にヘラナデ痕 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70% |
| 724 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 2.5 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 85% |
| 725 | 土師質土器 | 皿 | 7.8 | 2.2 | 4.2 | 雲母・赤色粒子 | 淡橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 外面にヘラナデ痕 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 50% |
| 726 | 土師質土器 | 皿 | [8.6] | 2.1 | 4.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 30% |
| 727 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.2] | 10.0 | [21.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 覆土中 | 30%体部外面煤付着SD233の破片と接合 |
| 728 | 土師質土器 | 甕 | — | (6.6) | — | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 内・外面ナデ | 覆土中 | |
| 729 | 土師質土器 | 甕 | [26.4] | (11.0) | — | 石英・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 内・外面ロクロナデ後ナデ 体部内面輪積痕 | 覆土中 | |
| 730 | 土師質土器 | 甕 | [25.0] | (8.6) | — | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 内面ヘラナデ 外面ヘラナデ後ナデ 口唇部外面端部貼り付け | 覆土下層 | 10% |
| 731 | 土師質土器 | 甕 | — | (8.7) | [19.6] | 長石・石英・雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 内・外面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 732 | 土師質土器 | 播鉢 | [25.0] | (10.7) | — | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部丸く収める 3条1単位と4条1単位の播り目が交差 外面ナデ | 覆土中層 | 10% |
| 733 | 陶器 | 丸碗 | — | (3.1) | 5.8 | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 底部削りだし高台 内面施釉 底部内側にトチン痕 釉 | 覆土中層 | 10%瀬戸・美濃系 |
| 734 | 陶器 | 丸皿 | — | (2.3) | 5.0 | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 底部回転糸切り 内面施釉 底部内側にトチン痕 | 底面 | 15%瀬戸・美濃系 |
| 735 | 陶器 | 丸皿 | [11.7] | 2.7 | [5.9] | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 底部削りだし高台 口辺部内面に3条の輪花文の沈線 内・外面施釉 | 底面 | 15%瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|--------|--------|----|-----|--------|-----|--------------|-------|-------|
| Q63 | 茶白(下白) | [36.2] | — | 9.8 | (2224) | 安山岩 | 受け皿部を中心とした破片 | 覆土中底面 | PL116 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 最大幅 | 最大厚 | 手法の特徴 | | | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|---------|------|------|---------------------|--|--|------|----|
| W1 | 柱材カ | (259.4) | 13.7 | 14.1 | 鋸の引目痕 表面手斧か槍鉋による調整痕 | | | 底面 | |
| W2 | 柱材カ | (123.2) | 8.2 | 7.6 | 両端部欠損 表面手斧か鉋による調整痕 | | | 底面 | |

第226 B号溝跡（第422図）

位置と規模 調査区中央部H 7 b7～H 7 b9区に位置している。H 7 b7区から、東方向（N-98°-E）へ直線的に延びている。長さは7.6mで、上幅0.8～1.56m、下幅0.4～0.6m、深さ96～100cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第8・9層が相当し、2層に分層される。含有物から人為堆積であり、本跡がある程度埋没した後にほぼ同時期に機能していた第251号溝に、掘り替えされたと考えられる。

土層解説（B-B' SD251との重複部）

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | 褐色粒子中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・黒色ブロック・炭化粒子少量、 焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| | | 9 褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片33点（皿6, 内耳鍋23, 甕3, 播鉢1）と、流れ込んだ須恵器片1点が出土している。

所見 第226 A号溝と連結し、第251号溝と並行している溝で、排水と防御の機能を兼ねていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代後半と考えられる。

第229 A号溝跡（第422・424図）

位置と規模 調査区中央部のH 6 a9～H 8 c1区に位置している。H 8 c1区から、西方向（N-75°-W）へ緩やかに延び、H 6 a0区で第225号溝に連結し、中央部を第1号井戸に掘り込まれている。長さは54mほどで、上幅0.96～2.36m、下幅0.24～0.62m、深さ36～40cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層され、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿9, 内耳鍋2, 播鉢2), 陶器片1点(播鉢)と, 流れ込んだ縄文土器片6点, 土師器片5点, 須恵器片1点, 礫3点が出土している。

所見 第226A・251号溝の外側に位置している溝で, 排水と防御の機能を兼ねていたと考えられる。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第229B号溝跡 (第422図)

位置と規模 調査区中央部の北端G7j4～H7a8区に位置している。G7j4区から, 東方向(N-99°-E)へ直線的に延びている。長さ16.4mで, 上幅0.7～1.26m, 下幅0.28～0.54m, 深さ18cmほどである。断面形は緩やかなU字状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物から, 自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

所見 第229A号溝の北側に位置している溝で, 排水と防御の機能を兼ねていたと考えられる。時期は, 重複関係から16世紀代と考えられる。

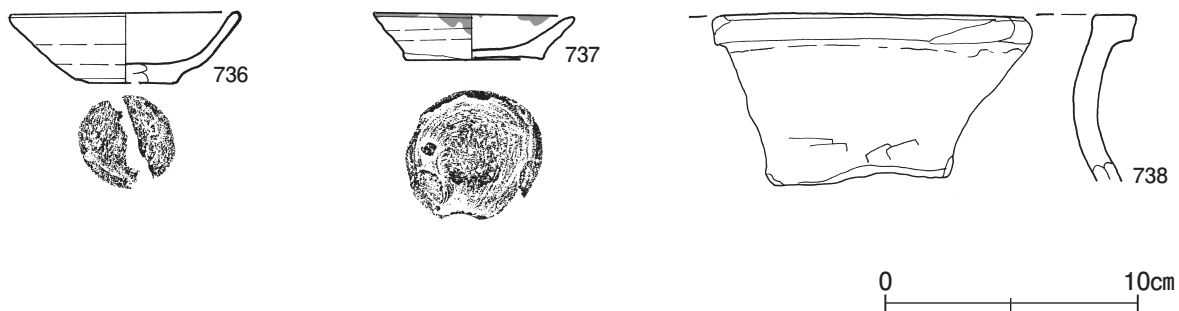
第233号溝跡 (第422・424・425図)

位置と規模 調査区中央部のH6b8～H7b9区に位置している。H6b8区から, 東方向(N-79°-E)へ直線的に延びている。長さ40.8mほどで, 上幅0.8～1.6m, 下幅0.2～1.2m, 深さ36～50cmである。断面形は逆台形状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

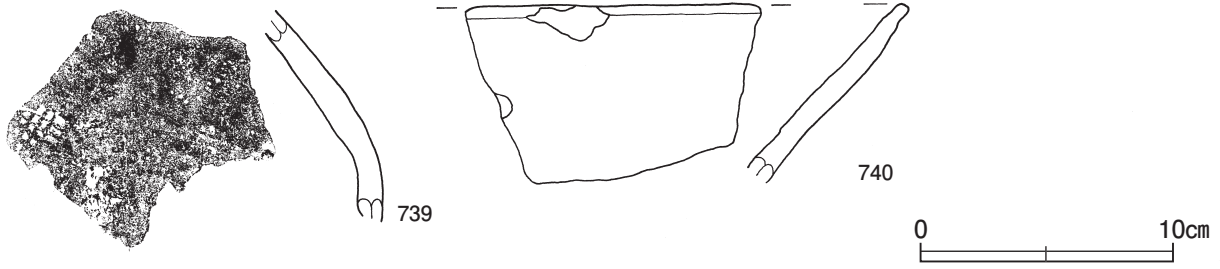
覆土 3層に分層される。第226A号溝との重複部(A-A')では, 第1・2・6層が相当し, 含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片107点(皿2, 内耳鍋22, 甕類82, 播鉢1), 陶器片4点(常滑系甕3, 常滑系捏鉢カ1)が出土している。737はほぼ中央部の底面, 738～740は覆土中からそれぞれ出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片7点, 土師器片22点, 須恵器片6点, 礫1点と, 混入した磁器片1点(碗カ)も出土している。

所見 第229A号溝の内側に位置している第226A・B号溝に掘り込まれている溝で, 排水と防御の機能を兼ねていたと考えられる。時期は, 重複関係から16世紀代と考えられる。



第424図 第229A・233号溝跡出土遺物実測図



第425図 第233号溝跡出土遺物実測図

第229 A号溝跡出土遺物観察表 (第424図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|---------------------|----|----|------------------------|------|-----|
| 736 | 土師質土器 | 皿 | 9.1 | 2.8 | 4.1 | 長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60% |

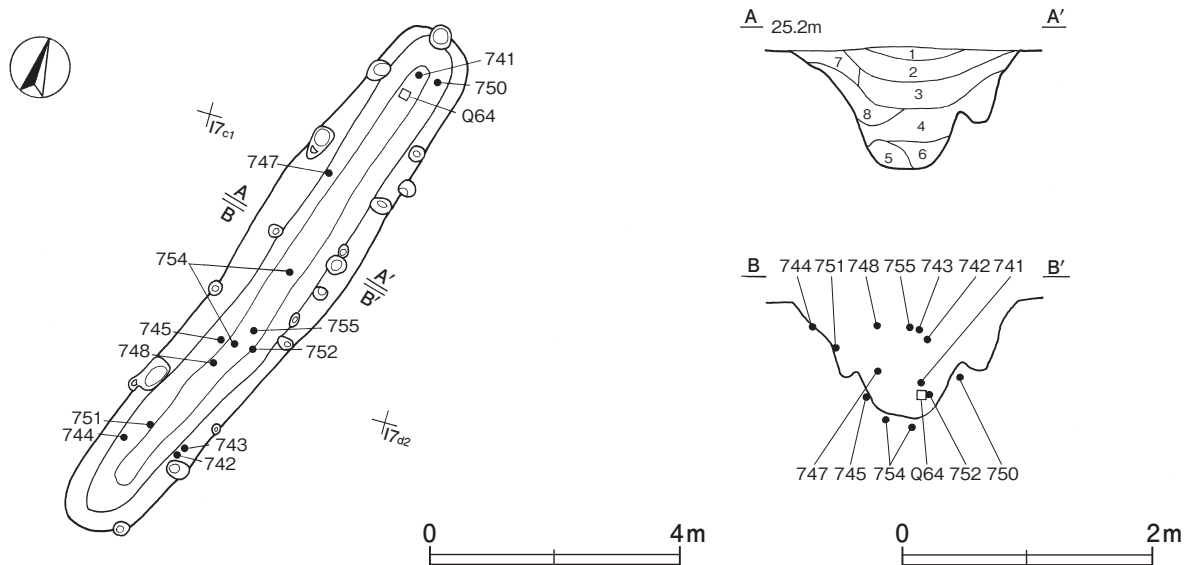
第233号溝跡出土遺物観察表 (第424・425図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|-----|---------------------|--------------|----|---------------------------|------|-------------|
| 737 | 土師質土器 | 皿 | 7.9 | 1.9 | 5.7 | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 70% 口唇部油煙付着 |
| 738 | 土師質土器 | 甕 | [22.6] | (6.8) | — | 長石・石英・雲母・ 赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 口辺部破片 内・外面ヘラナデ後ナデ | 覆土中 | |
| 739 | 陶器 | 甕 | — | (8.4) | — | 長石・石英・礫 | 暗オリーブ・ 淡黄 | 良好 | 体部上位の破片 内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印 | 覆土中 | 常滑系カ |
| 740 | 陶器 | 捏鉢カ | [32.0] | (7.1) | — | 長石・石英・雲母・ 赤色粒子・礫 | にぶい褐 | 良好 | 口辺部破片 口唇部丸み 内・外面ナデ | 覆土中 | 10% 常滑系カ |

第243溝跡 (第426 ~ 428図)

位置 調査区中央部の I 7 b1 ~ I 6 d0区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

規模と形状 I 6 d0区から、北東方向(N-21°-E)へ直線的に I 7 b1区まで延びている。長さは9.7mほどで、上幅1.38 ~ 1.8m, 下幅0.24 ~ 0.44m, 深さ98cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。壁際に17か所の小ピットが確認されているが、性格は不明である。



第426図 第243号溝跡実測図

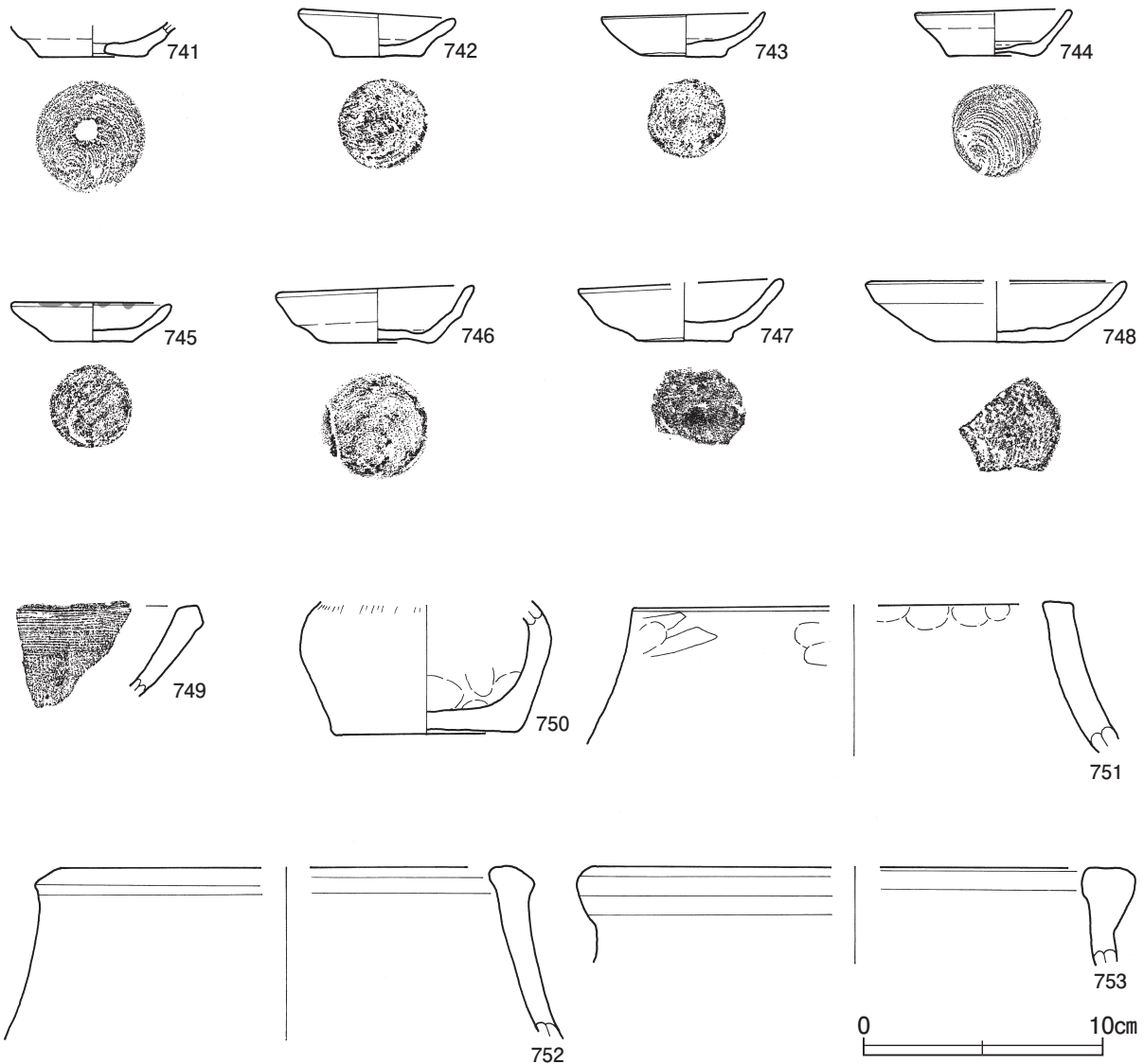
覆土 8層に分層される。含有物から、人為堆積である。

土層解説

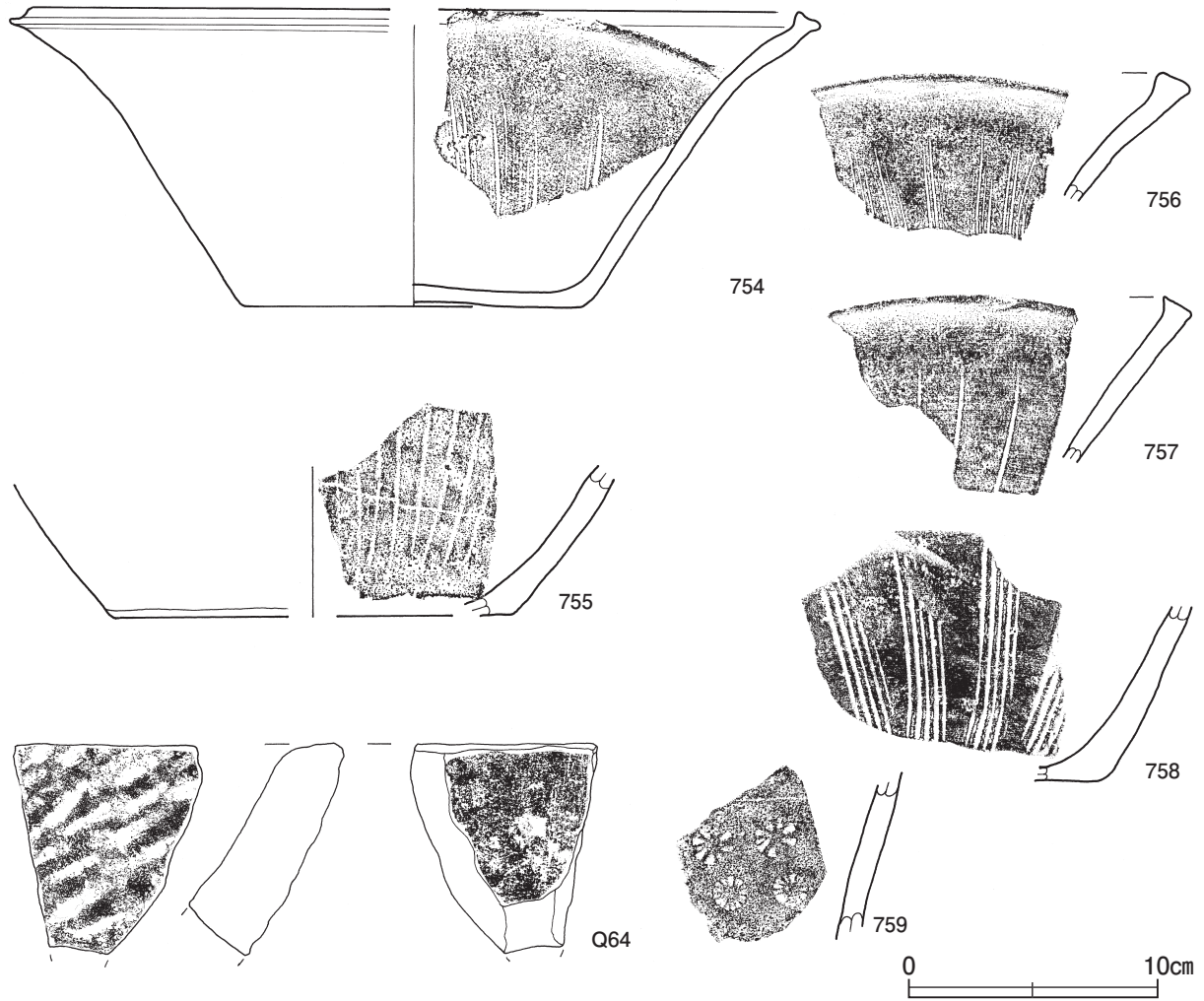
- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1 黒 褐 色 粘土ブロック多量 | 5 褐 灰 色 砂質粘土ブロック多量 |
| 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 褐 灰 色 砂質粘土ブロック中量 |
| 3 にぶい黄橙色 砂質粘土ブロック多量, 炭化物少量 | 7 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物中量 |
| 4 黒 褐 色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐 灰 色 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片198点(皿55, 内耳鍋類112, 香炉カ1, 壺カ1, 甕5, 播鉢24), 陶器片2点(常滑系甕), 石器4点(磨石1, 石臼1, 砥石2)と, 流れ込んだ縄文土器片13点, 土師器片10点, 須恵器片4点, 礫11点が出土している。741～759・Q64を含むこれらの遺物は, 埋土とともに覆土の上層から底面まで一様に確認されていることから, 屋敷域と想定される第67号ピット群の廃絶に伴って, 一括投棄されたものと考えられる。

所見 掘り方の形状から, 区画溝または水場的な作業場跡と推測される。時期は, 出土土器から16世紀後半と考えられる。



第427図 第243号溝跡出土遺物実測図(1)



第428図 第243号溝跡出土遺物実測図(2)

第243号溝跡出土遺物観察表 (第427・428図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|--------|-----------------|-------|----|--------------------------------------|------|-------------|
| 741 | 土師質土器 | 皿 | — | (1.4) | 4.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り 底部中央に穿孔 | 覆土下層 | 50% |
| 742 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 2.1 | 3.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 65% 成形にゆかみ |
| 743 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 1.9 | 3.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 90% |
| 744 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 1.9 | 3.8 | 長石・石英 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 100% |
| 745 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 1.6 | 3.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95% 口唇部油煙付着 |
| 746 | 土師質土器 | 皿 | 8.2 | 2.4 | 4.6 | 長石・雲母・赤色粒子・小礫 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% PL110 |
| 747 | 土師質土器 | 皿 | [8.6] | 2.7 | 4.0 | 長石・石英・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 55% 成形にゆかみ |
| 748 | 土師質土器 | 皿 | [10.8] | 2.6 | 5.6 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土上層 | 25% |
| 749 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (3.9) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口辺部破片 内面ナデ 外面に縦位と横位のヘラナデ痕 | 覆土中 | |
| 750 | 土師質土器 | 香炉 | — | (5.5) | 8.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面指頭痕を残すナデ 外面肩部縦位の沈線 中位から底部ナデ | 覆土下層 | 45% 鉢カ |
| 751 | 土師質土器 | 甕 | [18.4] | (6.3) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口辺部破片 内面ヘラナデ後ナデ 口辺部外面・口唇部内面に指頭痕を残すナデ | 覆土下層 | 壺カ |
| 752 | 土師質土器 | 甕 | [19.2] | (7.2) | — | 長石・雲母・小礫 | 橙 | 普通 | 口辺部破片 内・外面横ナデ | 底面 | 壺カ |
| 753 | 土師質土器 | 甕 | [22.2] | (4.1) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口辺部破片 内・外面横ナデ | 覆土中 | |
| 754 | 土師質土器 | 播鉢 | [31.2] | 12.0 | 14.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 断面T字状 6条1単位の播り目 外面ナデ | 底面 | 30% |
| 755 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.1) | [16.2] | 長石・石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 1条1単位の播り目 底面播り目なし 外面ナデ | 覆土中層 | |
| 756 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.3) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 4条1単位の播り目カ 外面ナデ | 覆土中 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|----|-------|----|---------------|------|----|--------------------------|------|----|
| 757 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.6) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | |
| 758 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (7.0) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 5条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | |
| 759 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (6.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内・外面ナデ 外面沈線区画し菊花のスタンプ文押印 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|----|-------|-------|----|----------------------------|------|----|
| Q64 | 石鍋 | — | — | (8.5) | (283) | 砂岩 | 口辺部の破片 内面播り目 外面調整痕 内面炭化物付着 | 底面 | |

第300号溝跡（第429～434図）

位置 調査区中央部の I 5e0～J 6j3区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第304号溝を切り、第10・11号井戸跡を掘り込んでいる。また、第204・209B・303・306・343・348号溝に切られているが、ほぼ同時期に廃絶されたと考えられる。

規模と形状 I 5e0区から、東方向（N-97°-E）の I 6f3区へ直線的に延び、さらに鉤の手状に南方向（N-176°-W）の J 6j3区まで直線的に延びて、第303号溝と連結している。確認できた長さは67.2mで、上幅1.44～2.88m、下幅0.44～0.88m、深さ98～138cmである。断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14層、9層、12層に分層される。断面ごとの差違と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（B-B'）

| | | | | | |
|---|------|--------------------------------|----|-----|---------------------------|
| 1 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 7 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量、炭化粒子少量 | 9 | 灰褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 | 黒褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 | 灰褐色 | 粘土ブロック多量、炭化粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 | 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 | 極暗褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 12 | 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 |
| | | | 13 | 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| | | | 14 | 灰褐色 | 粘土ブロック多量、炭化粒子微量 |

土層解説（C-C'）

| | | | | | |
|---|------|--------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 5 | 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 | 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 8 | 暗褐色 | 褐色酸化粒子多量、炭化粒子中量（2次底面） |
| | | | 9 | 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量 |

土層解説（D-D' SD306との重複部）

| | | | | | |
|---|-----|--------------------------|----|-----|---------------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・微量 | 7 | 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 | 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 9 | 黒褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 | 暗褐色 | 褐色酸化粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、砂粒微量（2次底面） |
| 5 | 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 | 褐色 | 粘土ブロック多量、砂粒中量、ローム粒子微量 |
| 6 | 黒色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 | 褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1437点（皿160、内耳鍋類845、香炉3、壺・甕263、播鉢156、火鉢10）、瓦質土器片2点（火鉢）、陶器片13点（天目茶碗2、皿2、常滑系甕3、常滑系鉢3、鉢カ2、瀬戸・美濃系播鉢1）、磁器片1点（皿）、瓦片2点（平瓦）、石器14点（石臼5、砥石9）、石塔2点（五輪塔）、木片7点（杭材片カ）、鉄滓6点が出土している。内耳鍋片を中心とした多量の土師質土器は、屋敷域と想定される隣接する第71・75号掘立柱建物と第61・63号ピット群の廃絶に伴って、廃棄されたものと考えられる。760～781、Q65

～Q70, M11も、一括廃棄されたものと考えられ、覆土の上層から底面まで混在して確認されている。この他、流れ込んだ縄文土器片13点、土師器片202点、須恵器片33点、手捏土器片6点、礫89点も出土している。

所見 連結している第306号溝と同様に障子堀の掘り方から、屋敷域を区画して防御する機能をもち、さらに雨水等を第306号溝方向に排水する機能を合わせもっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第301号溝跡 (第429・430・435図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 b2～J 6 c3区に位置している。J 6 c3区から、北方向(N-5°-W)へ直線的に延び、第1508号土坑に掘り込まれているが、第304号溝に連結していると想定される。長さ2.4mで、上幅0.72～0.82m、下幅0.3～0.5m、深さ25cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 含有物から人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿3, 内耳鍋4, 甕1, 播鉢1)が出土している。782は、覆土中から出土している。

所見 雨水等を第304号溝に排水していたと考えられ、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第304号溝跡 (第429・430・435図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 j2～J 6 b6区に位置している。J 6 j2区から、北西方向(N-61°-W)へ直線的に延び、第1507～1509号土坑に掘り込まれているクランク状部分で屈曲したのち、第300号溝と交差して調査区域外へと向かっている。確認できた長さは19mほどで、上幅0.76～1.35m、下幅0.36～0.9m、深さ13～36cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説(1-1')

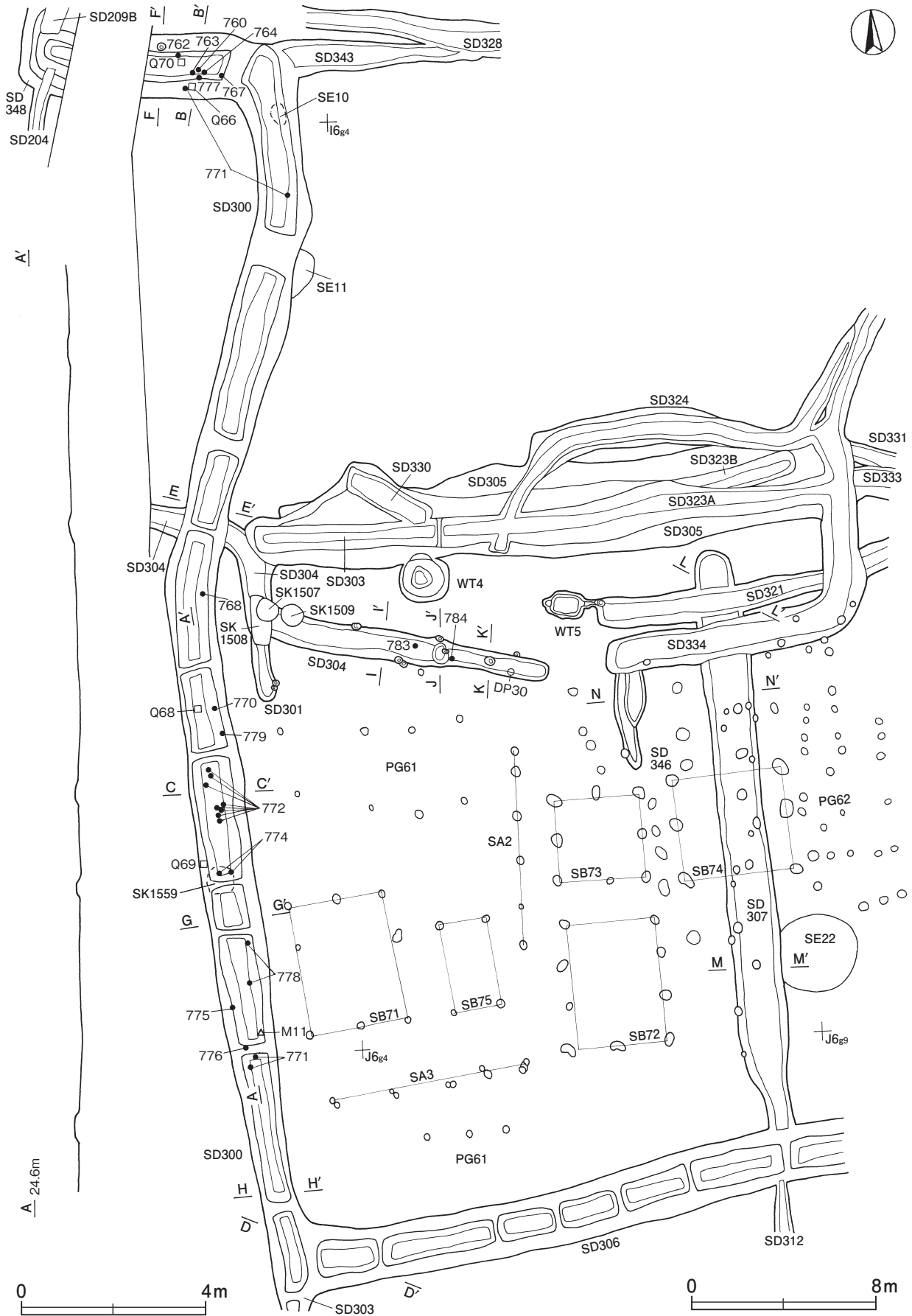
- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・灰褐色粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | 灰褐色粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片105点(皿7, 内耳鍋90, 甕5, 播鉢3), 陶器片5点(皿1, 常滑系甕2, 花瓶カ1, 瓶1), 土製品1点(不明), 石器2点(石臼, 砥石)と、流れ込んだ縄文土器片3点, 土師器片5点, 須恵器片5点, 礫5点が出土している。783・784・DP30は、それぞれ底面と覆土下層から出土している。

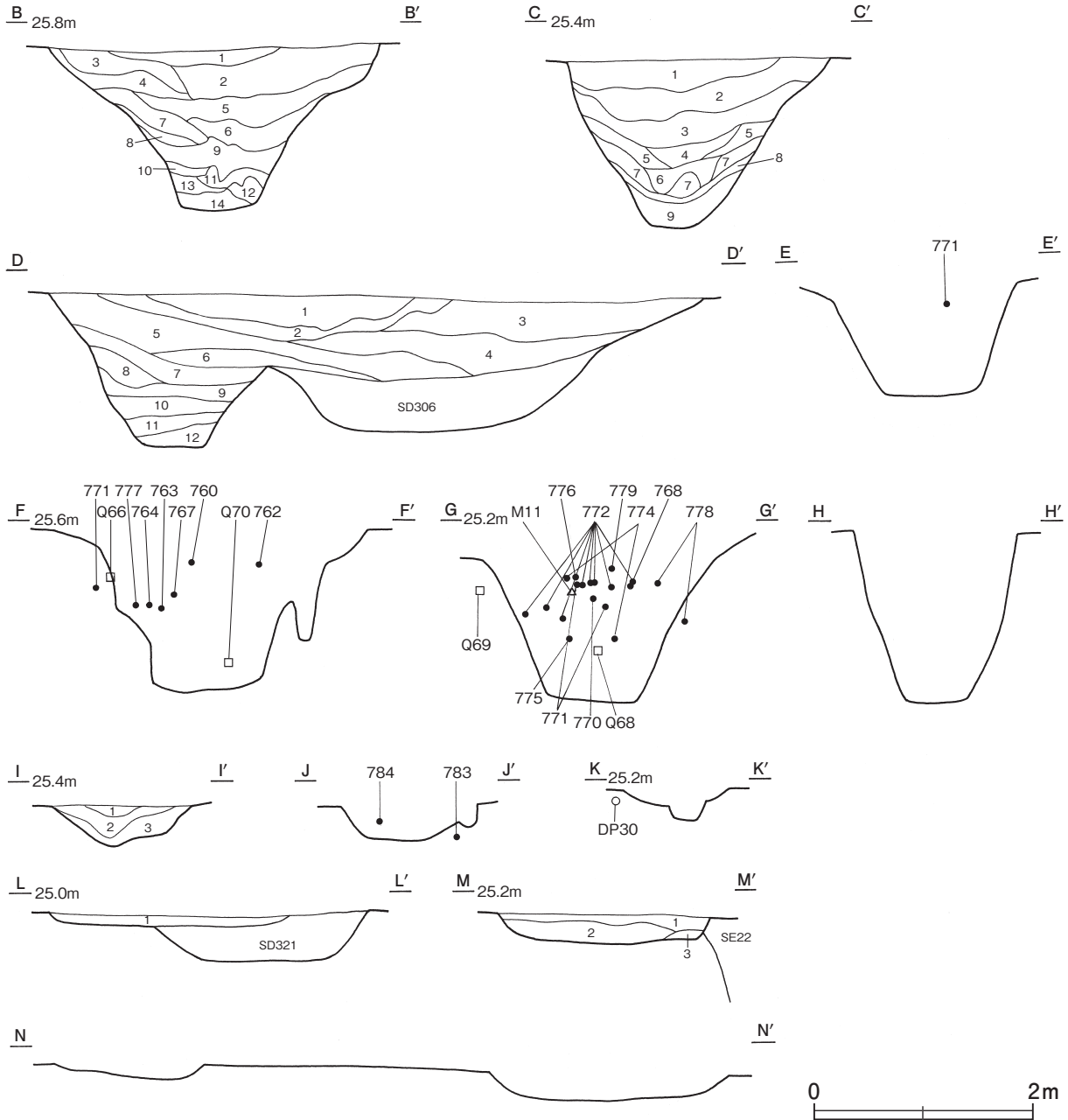
所見 雨水等を第300号溝の方向へ排水していたと推測され、時期は出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第307号溝跡 (第429・430・435図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 a7～J 6 b8区に位置している。J 6 a7区から、南方向(N-5°-W)へ直線的に延び、第306号溝と連結している。長さ25.4mで、上幅1.08～2.22m、下幅0.6～1.6m、深さ16～20cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。



第429图 第300・301・304・307・346号溝跡実測図(1)



第430図 第300・301・304・307・346号溝跡実測図(2)

覆土 3層に分層され、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (L-L', M-M')

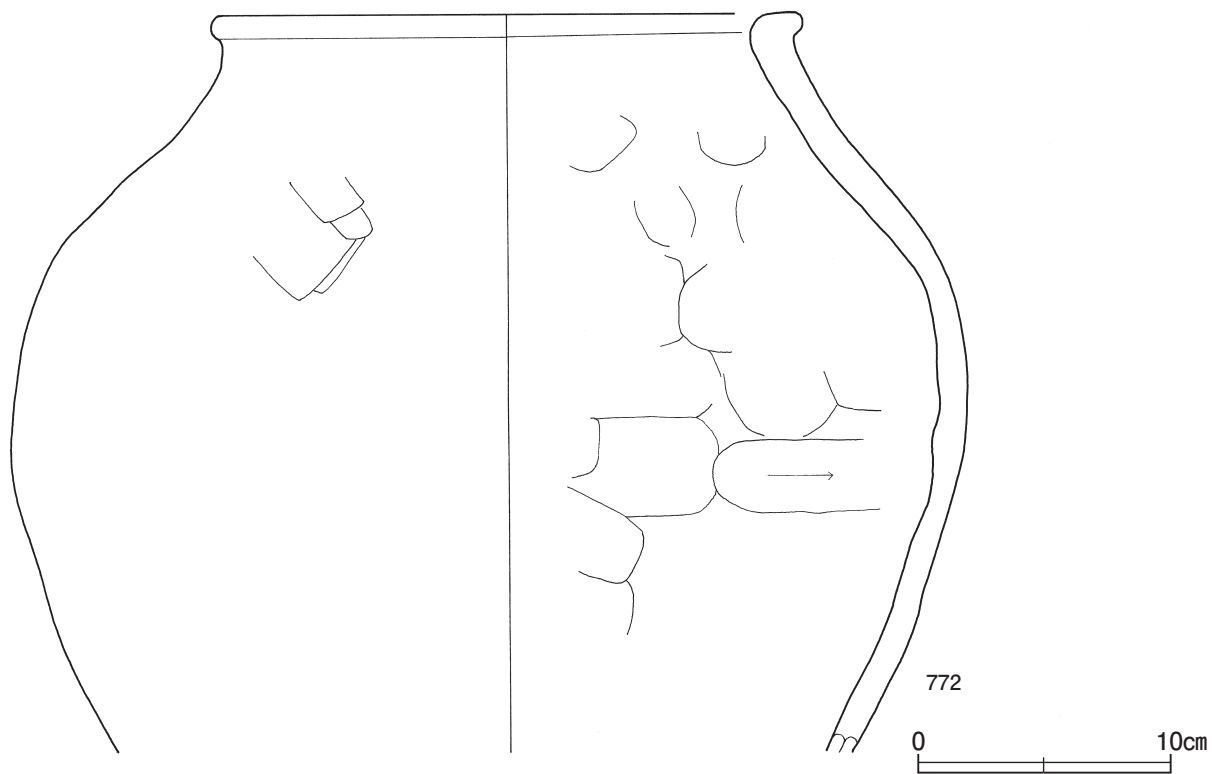
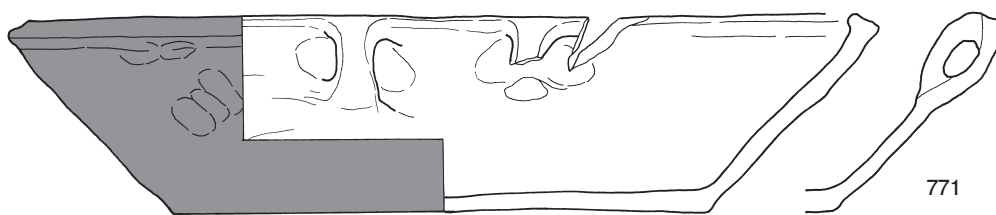
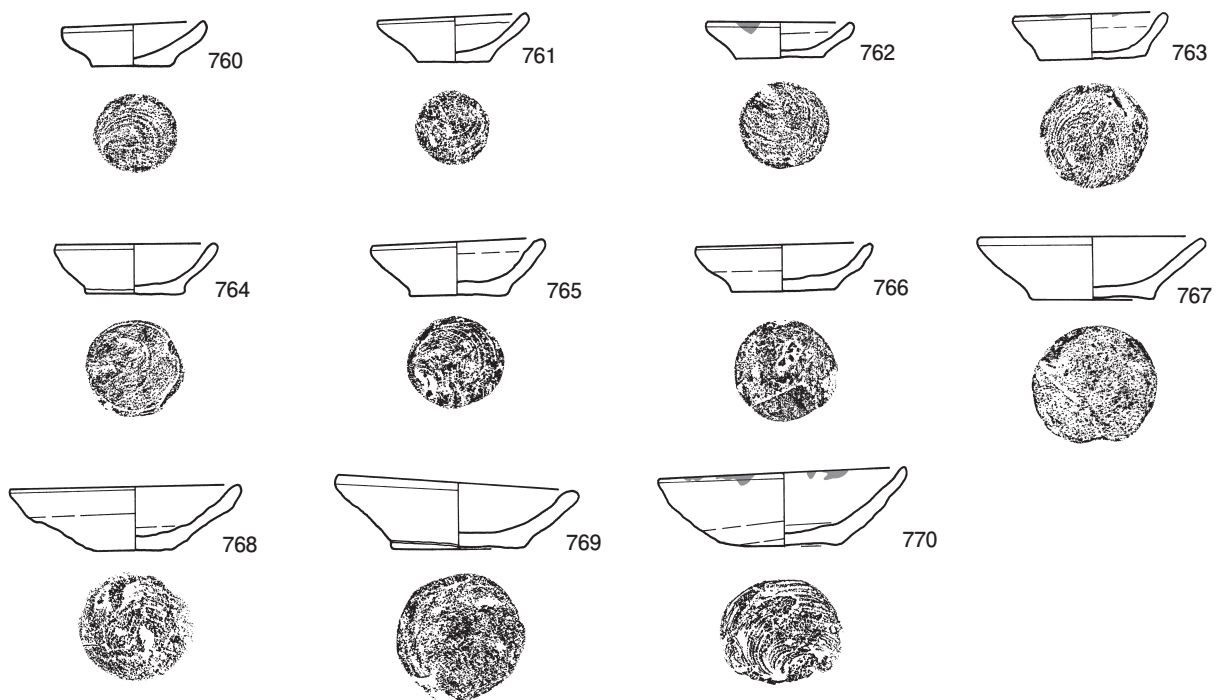
1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐色 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

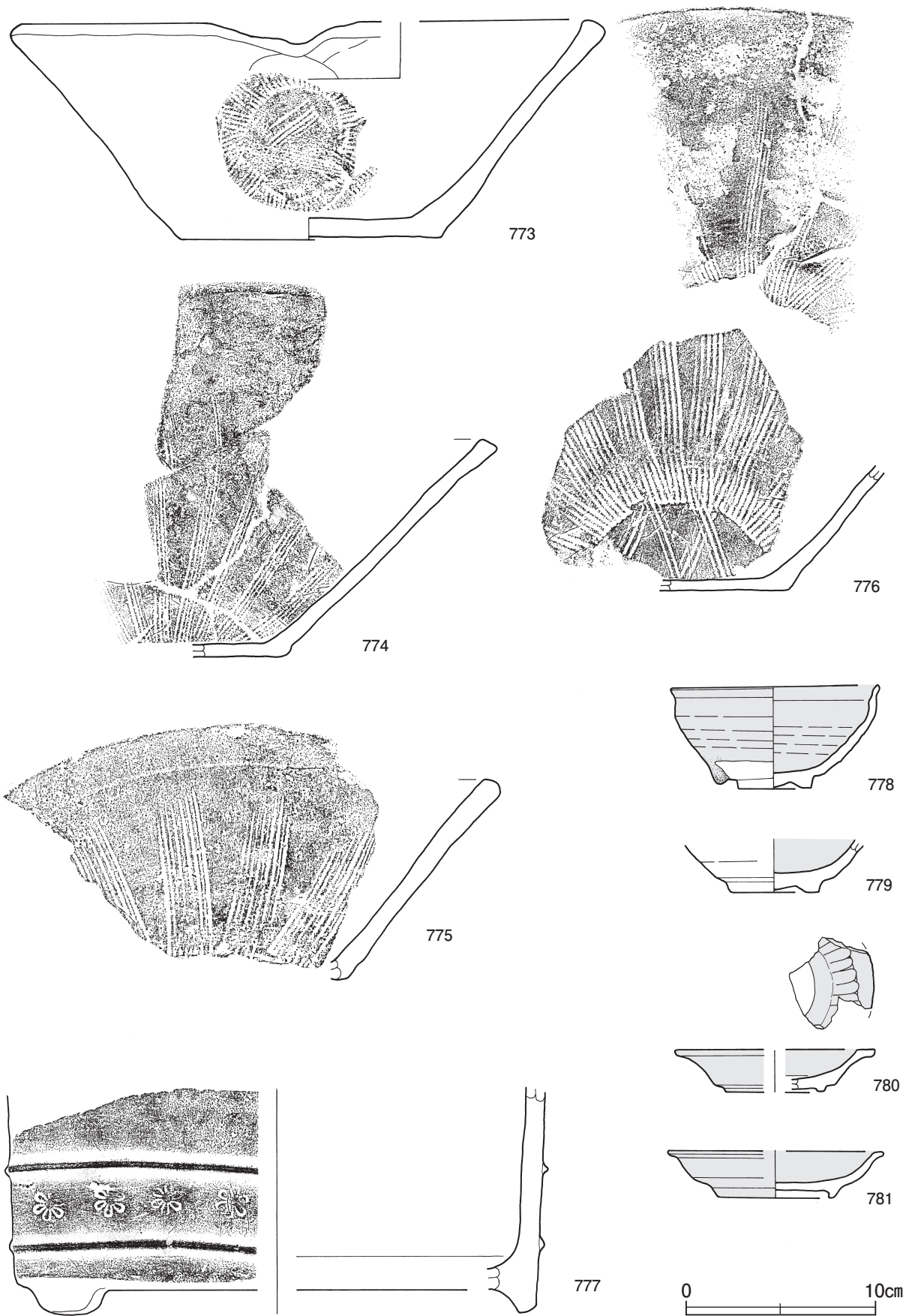
2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片101点(皿30, 内耳鍋63, 播鉢8), 陶器片4点(碗, 常滑系甕, 常滑系片口鉢, 瓶カ), 石器1点(石臼), 鉄滓5点, 炭化材4点と, 流れ込んだ須恵器片5点, 礫20点, 混入した土師質土器1点(鏝), 磁器片2点, 近現代の瓦片4点が出土している。785・786は, いずれも覆土中から出土している。

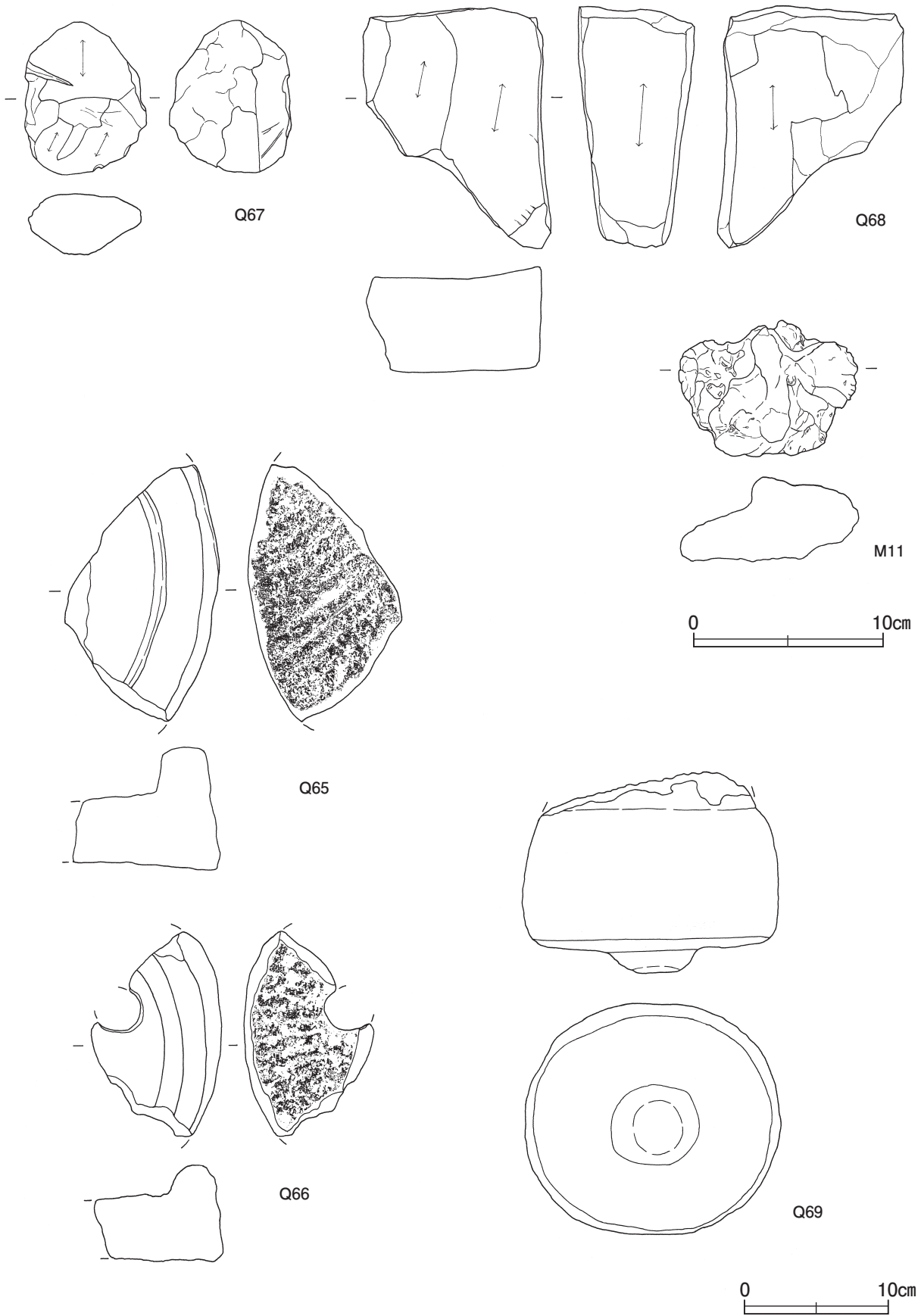
所見 第300号溝と第306号溝で区画された区域を, さらに東西に区画している溝である。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



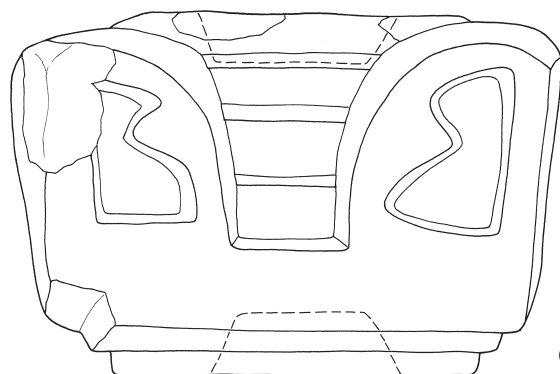
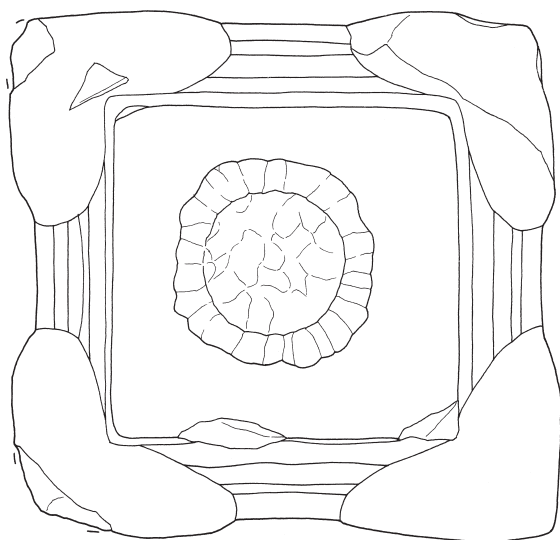
第431图 第300号溝跡出土遺物実測図(1)



第432图 第300号沟迹出土遗物实测图(2)



第433図 第300号溝跡出土遺物実測図(3)



Q70

0 10cm

第434図 第300号溝跡出土遺物実測図(4)

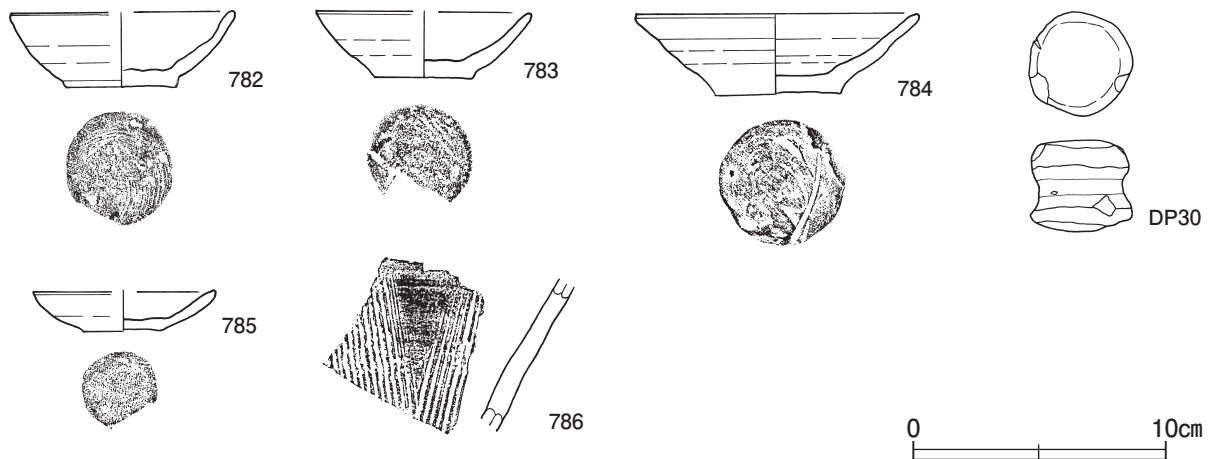
第300号溝跡出土遺物観察表 (第431 ~ 434図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|------------------|-------|----|---------------------------------|--------|--------------|
| 760 | 土師質土器 | 皿 | 5.7 | 1.8 | 3.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土上層 | 95% |
| 761 | 土師質土器 | 皿 | 5.9 | 2.0 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 95% PL110 |
| 762 | 土師質土器 | 皿 | 5.8 | 1.5 | 3.4 | 長石・石英・雲母 | 明褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土上層 | 95% 口唇部油煙附着 |
| 763 | 土師質土器 | 皿 | 6.1 | 1.8 | 4.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 100% 口唇部油煙附着 |
| 764 | 土師質土器 | 皿 | 6.3 | 1.5 | 3.9 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 95% |
| 765 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.2 | 3.8 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 100% PL110 |
| 766 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 1.9 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 80% |
| 767 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.5 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 65% |
| 768 | 土師質土器 | 皿 | 9.1 | 2.6 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% |
| 769 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 3.0 | 5.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 85% 成形にゆがみ |
| 770 | 土師質土器 | 皿 | 9.6 | 3.1 | 4.7 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 70% 口唇部油煙附着 |
| 771 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 32.6 | 7.9 | [21.4] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 1 内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ 外面に指頭痕 | 覆土上・中層 | 45% 体部外面煤附着 |
| 772 | 土師質土器 | 甕 | 23.2 | (29.6) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫 | 橙 | 普通 | 内面ヘラナデ後抑え目痕を残すナデ 外面ヘラナデ後ナデ | 覆土中層 | 40% PL113 |
| 773 | 土師質土器 | 播鉢 | [30.0] | 11.5 | 14.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫 | にぶい褐 | 普通 | 片口部残存 口唇部丸み 5条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | 45% |
| 774 | 土師質土器 | 播鉢 | [35.0] | 11.4 | [13.8] | 長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 内・底面5条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土上・中層 | 30% |
| 775 | 土師質土器 | 播鉢 | [30.8] | 10.5 | [15.8] | 長石・石英・雲母・小礫 | 橙 | 普通 | 口唇部丸く取める 9条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中層 | 10% |
| 776 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (6.5) | [15.4] | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内面5条1単位の播り目 内底面3条1単位の播り目 底部ナデ | 覆土中層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|------|--------|--------|--------|-----------------|----------|----|--------------------------------------|------|-----------------|
| 777 | 瓦質土器 | 火鉢 | — | (11.9) | [24.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 褐灰 | 普通 | 2条の突帯貼り付け 突帯間に菊花文押捺 | 覆土中層 | 15% |
| 778 | 陶器 | 天目茶碗 | 10.9 | 5.5 | 3.8 | 精良 長石・鉄釉 | 浅黄橙・赤黒 | 良好 | ロクロ成形 削り出しによる輪高台 体部下端と見込に釉だまり 内・外面施釉 | 覆土中層 | 75%瀬戸・美濃系 PL114 |
| 779 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (2.8) | 4.6 | 精良 長石・鉄釉 | 淡黄・オリープ黒 | 良好 | ロクロ成形 削り出し高台 内面施釉 | 覆土上層 | 15%瀬戸・美濃系 |
| 780 | 陶器 | 折縁皿 | [10.6] | 2.2 | [5.2] | 精良 長石・灰釉 | 灰白・オリープ黄 | 良好 | 削り出し高台 内面に菊花状のしのぎトチン痕1か所 内・外面施釉 | 覆土中 | 15%瀬戸・美濃系 |
| 781 | 陶器 | 端反皿 | [11.3] | 2.5 | 6.1 | 精良 長石・灰釉 | 灰白・オリープ | 良好 | 削り出し高台 内・外面に施釉 貫入接合面断面に漆繋ぎ痕 | 覆土中 | 50%瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 器種 | 径・長さ | 孔径・幅 | 厚さ・高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----------|--------|--------|--------|---------|-----|--------------|------|-------|
| Q65 | 石白(上白) | [34.2] | — | 8.5 | (1613) | 安山岩 | 下側7条1単位の播り目カ | 覆土中 | |
| Q66 | 石白(上白) | [24.6] | [3.2] | 6.6 | (755) | 安山岩 | 下側7条1単位の播り目カ | 覆土中層 | |
| Q67 | 砥石 | (8.0) | (6.5) | 3.2 | (128.2) | 凝灰岩 | 側面欠損 砥面4面 | 覆土中 | |
| Q68 | 砥石 | (12.7) | (9.5) | 6.1 | (819.8) | 砂岩 | 両端部欠損 砥面4面 | 覆土下層 | |
| Q69 | 五輪塔(空風輪) | 17.9 | 16.0 | (13.9) | (4820) | 花崗岩 | 空輪部欠損 風輪部片 | 覆土中層 | |
| Q70 | 宝篋印塔(笠) | (28.7) | (27.7) | 19.0 | (26000) | 花崗岩 | 隅飾突起三方欠損 | 覆土下層 | PL118 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|-----|-------|----|------------------|------|----|
| M11 | 鉄滓 | 7.1 | 9.6 | 4.5 | 245.0 | 鉄 | 碗状滓 硬く締まる 一部表面泡状 | 覆土下層 | |



第435図 第301・304・307号溝跡出土遺物実測図

第301号溝跡出土遺物観察表 (第435図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|-------|-------|----|---------------------|------|-----|
| 782 | 土師質土器 | 皿 | [8.8] | 3.0 | 4.4 | 長石・石英 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 40% |

第304号溝跡出土遺物観察表 (第435図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|------------|----|----|-----------------------------|------|-----|
| 783 | 土師質土器 | 皿 | [8.5] | 2.6 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 60% |
| 784 | 土師質土器 | 皿 | 11.2 | 3.2 | 5.0 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 70% |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|----|-----|--------|----|-------------------|------|----|
| DP30 | 不明 | 3.7 | — | 4.1 | (57.1) | 土製 | 一部欠損 中央部にくびれ 全面ナデ | 覆土下層 | |

第307号溝跡出土遺物観察表（第435図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-------|-----|----------------|--------------|----|-------------------------------|------|-----|
| 785 | 土師質土器 | 皿 | [7.2] | 1.6 | 3.1 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土中 | 30% |
| 786 | 陶器 | 播鉢 | — | (5.5) | — | 長石・石英・鎳釉 | 灰白・ にぶい赤褐 | 普通 | 12条1単位の播り目カ 外面ナデ | 覆土中 | 瀬戸系 |

第346号溝跡（第429・430図）

位置と規模 調査区中央部のJ 6c6～J 6d7区に位置している。J 6d7区から、北方向（N-5°-E）へ直線的に延び、第334号溝に繋がっている。長さ4.3mで、上幅0.9～1.2m、下幅0.44～0.54m、深さ13cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で判然としないが、ローム粒子を少量含む自然堆積と考えられる。

所見 雨水等を第334号溝の方向へ排水していたと推測され、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第331号溝跡（436～438図）

位置 調査区中央部のI 6j9～J 7c3区で、標高25～26mの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第321・333・334号溝に切られている。

規模と形状 I 6j0区で第333号溝に切られているが、I 6j9区から南東方向（N-114°-E）へ曲線状にJ 7c3区まで延びている。確認できた長さは15.9mで、上幅0.54～1.3m、下幅0.24～0.94m、深さ20～40cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物から、人為堆積と考えられる。

土層解説（A-A'）

- 4 黒褐色 灰白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量 6 にぶい褐灰色 黄褐色粘土ブロック中量
5 黒褐色 粘土粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片108点（皿52、内耳鍋類47、甕1、播鉢8）、瓦片1点（平瓦）と、流れ込んだ須恵器片1点、瓦1点（古代瓦）、礫1点が出土している。787～794、Q71、T6は、全体から散在して出土しており、隣接している屋敷域と想定される第61・62号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。古代瓦のT5は、流れ込んだものである。

所見 第333号溝が掘削される以前に第306号溝に連結していた溝と推測される。時期は、出土土器と重複関係を含めて16世紀代と考えられる。

第333号溝跡（436・439・440図）

位置 調査区中央部のI 6j9～I 7e3区で、標高25～26mほどの台地の緩斜面に位置している。

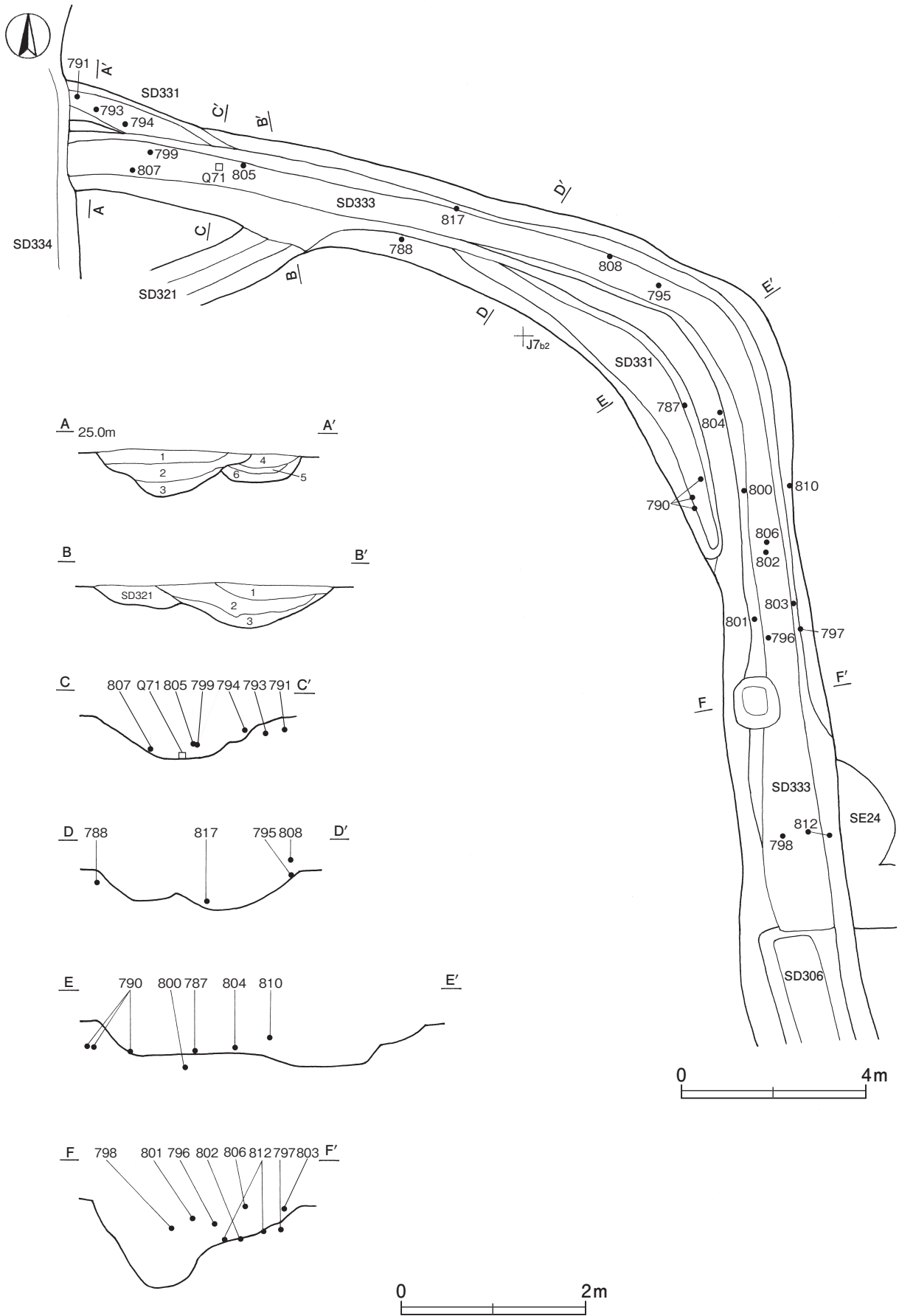
重複関係 第24号井戸跡を掘り込んでいる。また、第306・321・331・334号溝を切っている。

規模と形状 I 6j9区で第334号溝から分岐し、南東方向（N-103°-E、N-172°-E）に屈曲してI 7e3区まで延び、第306号溝に連結している。長さは28.6mで、上幅1.74～2.4m、下幅0.48～1.12m、深さ34～48cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説（A-A'、B-B'）

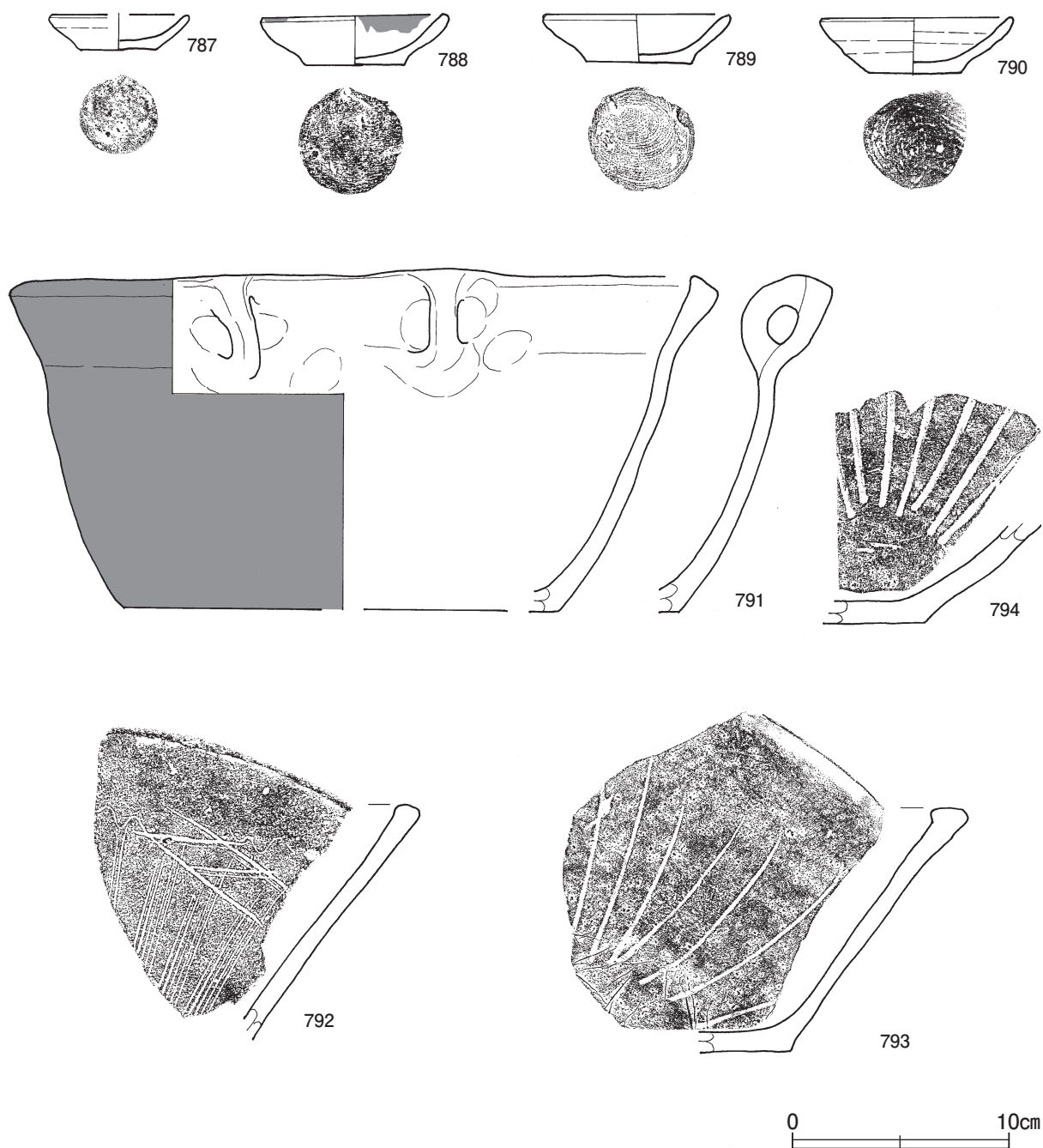
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 黒褐色 褐色粘土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・
炭化粒子微量



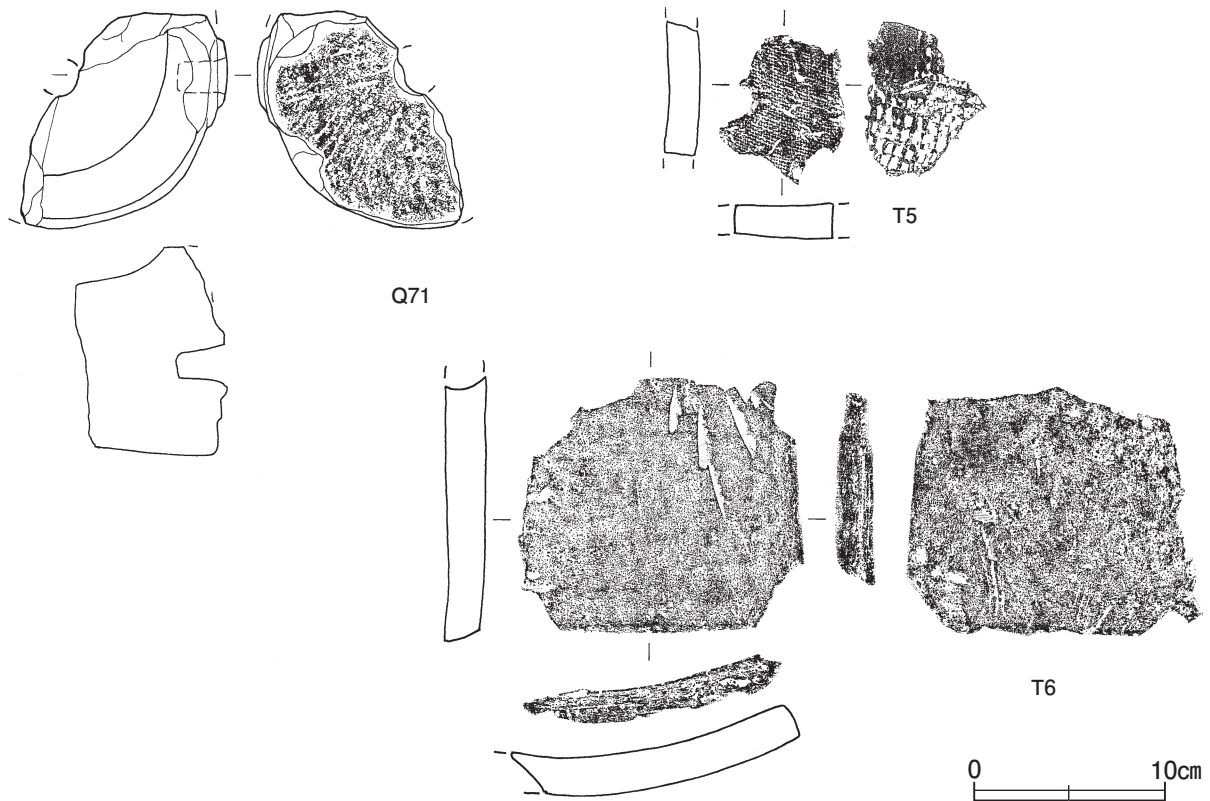
第436图 第331·333号沟迹实测图

遺物出土状況 土師質土器片656点（皿101，内耳鍋類492，甕15，挿鉢47，茶釜カ1），陶器片8点（天目茶碗2，皿5，常滑系片口鉢1），石器6点（石臼2，茶臼2，砥石1，鍋1），石塔1点（五輪塔），瓦片6点（平瓦），鉄滓6点と，流れ込んだ土師器片2点，須恵器片4点，瓦片1点（布目瓦），礫20点が出土している。795～817は，第331号溝と同様に全体から散在して出土しており，隣接している屋敷域と想定される第61号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 第331号溝を掘削し，第306号溝と第334号溝を連結していることから，第331・334号溝からの雨水等を第306号溝へ排水する機能をもった溝で，廃棄された土器片が第331号溝の土器片と接合関係にあることから，掘り返しの際に流れ込んだものと推測される。時期は，出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第437図 第331号溝跡出土遺物実測図(1)



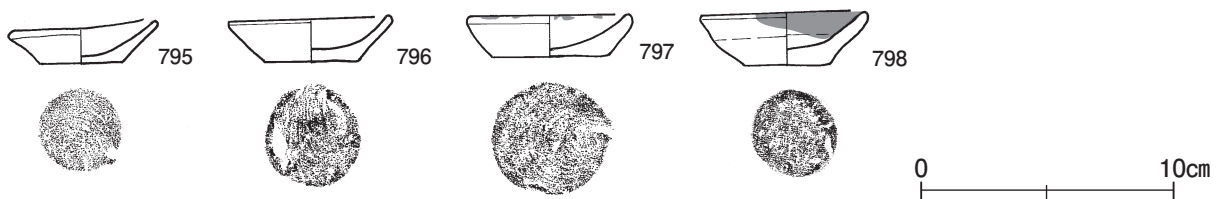
第438図 第331号溝跡出土遺物実測図(2)

第331号溝跡出土遺物観察表 (第437・438図)

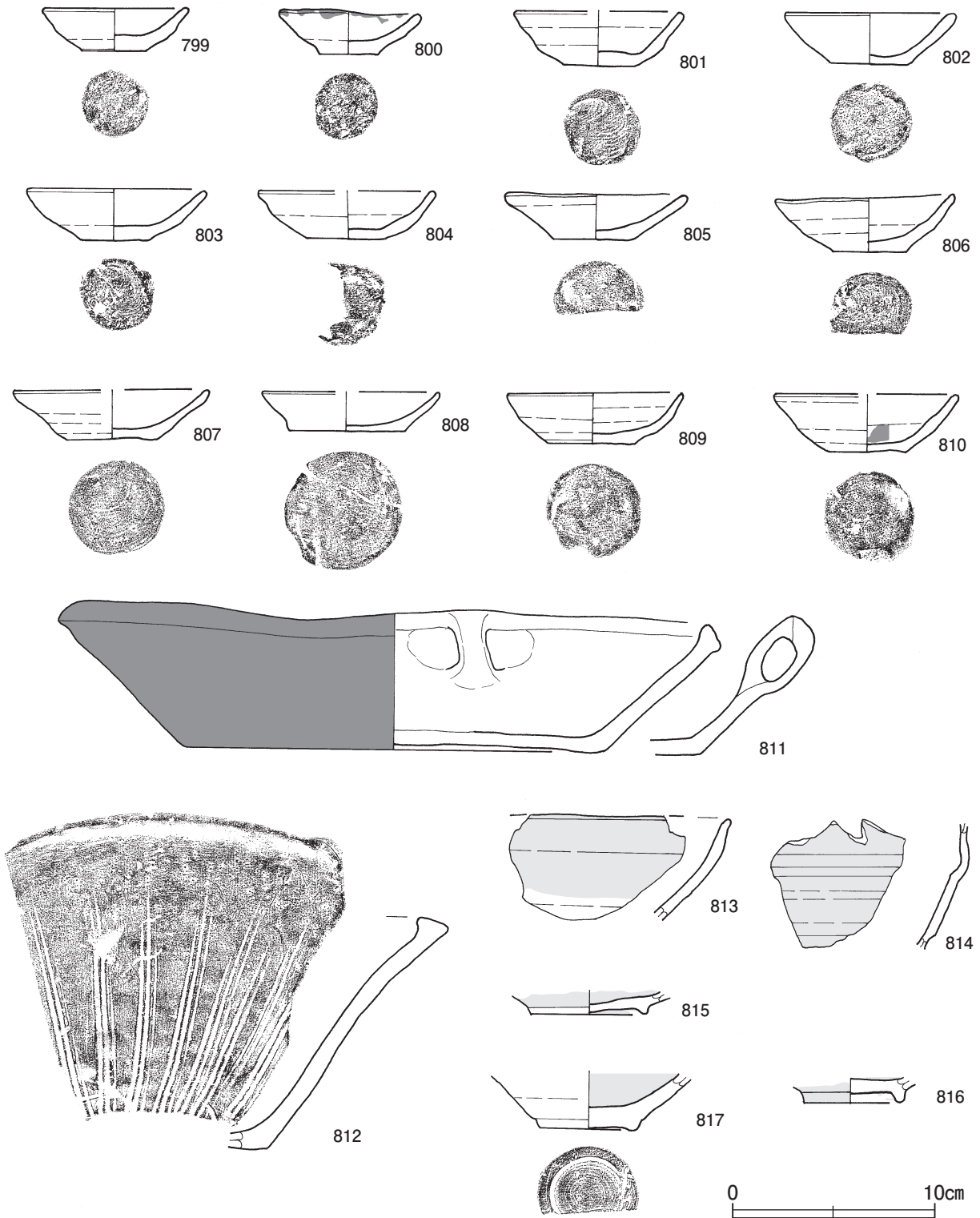
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-------|--------|--------|---------------|--------|----|-----------------------------------|---------|-------------|
| 787 | 土師質土器 | 皿 | [6.4] | 1.6 | 3.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 55% |
| 788 | 土師質土器 | 皿 | 8.6 | 2.5 | 4.8 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 80% 口辺部油煙付着 |
| 789 | 土師質土器 | 皿 | 8.6 | 2.4 | 5.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 95% PL111 |
| 790 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.6 | 4.4 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層・底面 | 90% |
| 791 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 30.8 | 15.9 | [20.3] | 長石・石英・雲母・砂粒 | 明赤褐 | 普通 | 3内耳残存 耳貼り付け後指頭痕を残すナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 底面 | 60% PL113 |
| 792 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (10.9) | — | 長石・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 内面5条1単位と交差の播り目 波線を施す 外面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 793 | 土師質土器 | 播鉢 | — | 11.2 | [13.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 内面1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | 20% |
| 794 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (4.6) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰褐・明赤褐 | 普通 | 内面1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | 10% |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|--------|--------|-------|------|--------|-----|------------------------|------|-------|
| Q71 | 茶臼(上臼) | [17.6] | [2.8] | 10.9 | (1248) | 安山岩 | 下側8条1単位の播り目カ 軸受け横打込孔残存 | 底面 | PL116 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|--------|--------|-----|---------|-------|---------------------------------|------|-----------|
| T5 | 平瓦 | (7.3) | (5.3) | 1.9 | (1188) | 長石・雲母 | 凸面に格子の叩き 凹面に布目痕 外面・胎芯灰色 | 覆土中 | 古代瓦 PL124 |
| T6 | 平瓦 | (13.9) | (15.3) | 2.2 | (673.7) | 長石・雲母 | 凸面と側面に筋状の圧痕 凹面に後世の擦痕 外面橙色 胎芯灰褐色 | 覆土中 | 中世瓦 |



第439図 第333号溝跡出土遺物実測図(1)



第440図 第333号溝跡出土遺物実測図(2)

第333号溝跡出土遺物観察表 (第439・440図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|---------------|-----|----|---------------------------|------|--------------------|
| 795 | 土師質土器 | 皿 | 5.8 | 1.7 | 3.3 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 100% |
| 796 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 1.8 | 3.8 | 赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% PL111 |
| 797 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 1.7 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100%口唇部油煙付着 成形にゆがみ |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|--------|------|--------------------|----------|----|-------------------------------|------|---------------------|
| 798 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 2.0 | 3.4 | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 100%口唇部油煙付着 成形にゆがみ |
| 799 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.2 | 3.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100% |
| 800 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.3 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95%口唇部油煙付着 PL111 |
| 801 | 土師質土器 | 皿 | [8.1] | 2.8 | 3.7 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 65% |
| 802 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 2.6 | 3.9 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95% PL111 |
| 803 | 土師質土器 | 皿 | 8.7 | 2.7 | 3.5 | 長石・石英 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 95% |
| 804 | 土師質土器 | 皿 | [8.6] | 2.4 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% |
| 805 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.3 | 4.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% |
| 806 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 2.9 | 3.7 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 55% 成形にゆがみ |
| 807 | 土師質土器 | 皿 | [9.9] | 2.5 | 4.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% |
| 808 | 土師質土器 | 皿 | [8.8] | 2.0 | 5.9 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 60% |
| 809 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.5 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 80% |
| 810 | 土師質土器 | 皿 | [9.3] | 2.9 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 45% 底部内面油煙付着 |
| 811 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 31.6 | 7.3 | 21.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土中 | 60% 体部外面煤付着 口唇部にゆがみ |
| 812 | 土師質土器 | 挿鉢 | — | (11.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 暗褐 | 普通 | 内・外面ナデ 3条1単位の挿り目 | 底面 | 15% |
| 813 | 陶器 | 天目茶碗 | [13.0] | (5.2) | — | 精良 鉄釉 | 灰白・黒褐 | 良好 | 口辺部から体部下位の破片 内・外面施釉 | 覆土中 | 10% 瀬戸・美濃系 |
| 814 | 陶器 | 段天目碗 | — | (6.2) | — | 精良 灰白釉 | 灰白・灰白 | 良好 | 体部破片 内・外面施釉 細かく貫入が入る | 覆土中 | 10% 瀬戸・美濃系 |
| 815 | 陶器 | 丸皿カ | — | (1.2) | 5.7 | 精良 灰釉 | 灰白・オリーブ黄 | 良好 | 削り出し高台 内・外面釉掛 内面に貫入 高台内にトチン痕カ | 覆土中 | 20% 瀬戸・美濃系 |
| 816 | 陶器 | 丸皿カ | — | (1.3) | 4.8 | 精良 灰釉 | 灰白・灰オリーブ | 良好 | 削り出し高台 内・外面釉掛 貫入 | 覆土中 | 20% 瀬戸・美濃系 |
| 817 | 陶器 | 碗 | — | (2.8) | 5.0 | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 削り出し高台 内面釉掛 | 覆土下層 | 15% 瀬戸・美濃系 |

第303号溝跡 (441 ~ 443図)

位置 調査区中央部の J 6 j3 ~ J 6 i7区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第1501号土坑を掘り込み、第300号溝を切っている。

規模と形状 J 6 i7区から、南西方向 (N - 97° - W) へ直線的に J 6 j3区まで延び、第300号溝に連結している。長さは16.4mで、上幅0.74 ~ 1.18m、下幅0.42 ~ 0.92m、深さ14cmである。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積しているものの、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (J - J')

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片75点 (皿13, 内耳鍋47, 挿鉢3, 甕5, 火鉢7), 陶器片4点 (碗1, 瀬戸系挿鉢3), 石器2点 (砥石, 硯), 鉄滓1点が出土している。818 ~ 821, Q72・Q73など遺物の多くは、北側に隣接している屋敷域の第71・75号掘立柱建物、第61号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。その他、流れ込みの土師器片7点、礫4点も出土している。

所見 雨水を第300号溝に排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第306号溝跡 (441・442・444・445図)

位置 調査区中央部の J 6 h3 ~ J 7 e3区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第300・311・318A号溝を切り、第307・312・333号溝に切られている。近世以降の根切り溝と考えられる第340号溝と第1540号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 J 7 e3区から、南東方向 (N - 18° - W) へ直線的に J 7 f3区まで短く延びたのち、鉤の手状に屈

曲して南西方向（N-97°-W）へ直線的にJ 6 h3区まで延び、第300号溝に連結している。長さは49.4mで、上幅1.52～2.6m、下幅0.36～0.9m、深さ88～13cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層と11層に分層される。レンズ状に堆積しているものの、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（C-C' SD307との重複部）

| | | | |
|--------|-----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 7 明褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、粘土ブロック少量 |

土層解説（D-D' SD318Aとの重複部）

| | | | |
|--------|-----------------------------|---------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 褐灰色 | 砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 9 褐色 | 褐色粒子中量、褐灰粘土粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | 褐灰色粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 明褐灰色 | 明褐灰粘土粒子多量、褐色粒子少量 |
| | | 11 褐灰色 | 明褐灰粘土粒子中量、褐色粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片1017点（皿139、内耳鍋類668、香炉1、甕類128、罌1、挿鉢72、火鉢6、茶釜1、羽釜カ1）、陶器片11点（天目茶碗1、皿2、瀬戸系大皿1、常滑系甕5、常滑系片口鉢1、香炉カ1）、石器7点（磨石1、砥石2、石臼4）、石塔2点（五輪塔）、瓦片1点（平瓦）、種子10点、粘土塊1点、炭化材2点が出土している。内耳鍋片を中心とした多量の土師質土器は、第307号溝と切り合う付近に集中して出土している。822～837、Q74を含むこれらは、屋敷域と想定される第71～75号掘立柱建物と第61・62号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。この他、縄文土器片3点、土師器片39点、須恵器片17点、礫26点も出土している。

所見 連結している第300号溝と同様に障子堀の掘り方から、防御性の強い区画溝と考えられ、雨水等を第300号溝に排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から、16世紀後半と考えられる。

第309号溝跡（441・442・446図）

位置と規模 調査区中央部のK 6 c4～K 6 a7区に位置している。第310号溝に大きく掘り込まれているが、K 6 a7区から南西方向（N-137°-W）へ緩やかな曲線状に延び、K 6 c4区で第320号溝に繋がっている。確認できた長さは13.5mで、上幅1.18～1.70m、下幅0.56～1.14m、深さ44～65cmである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

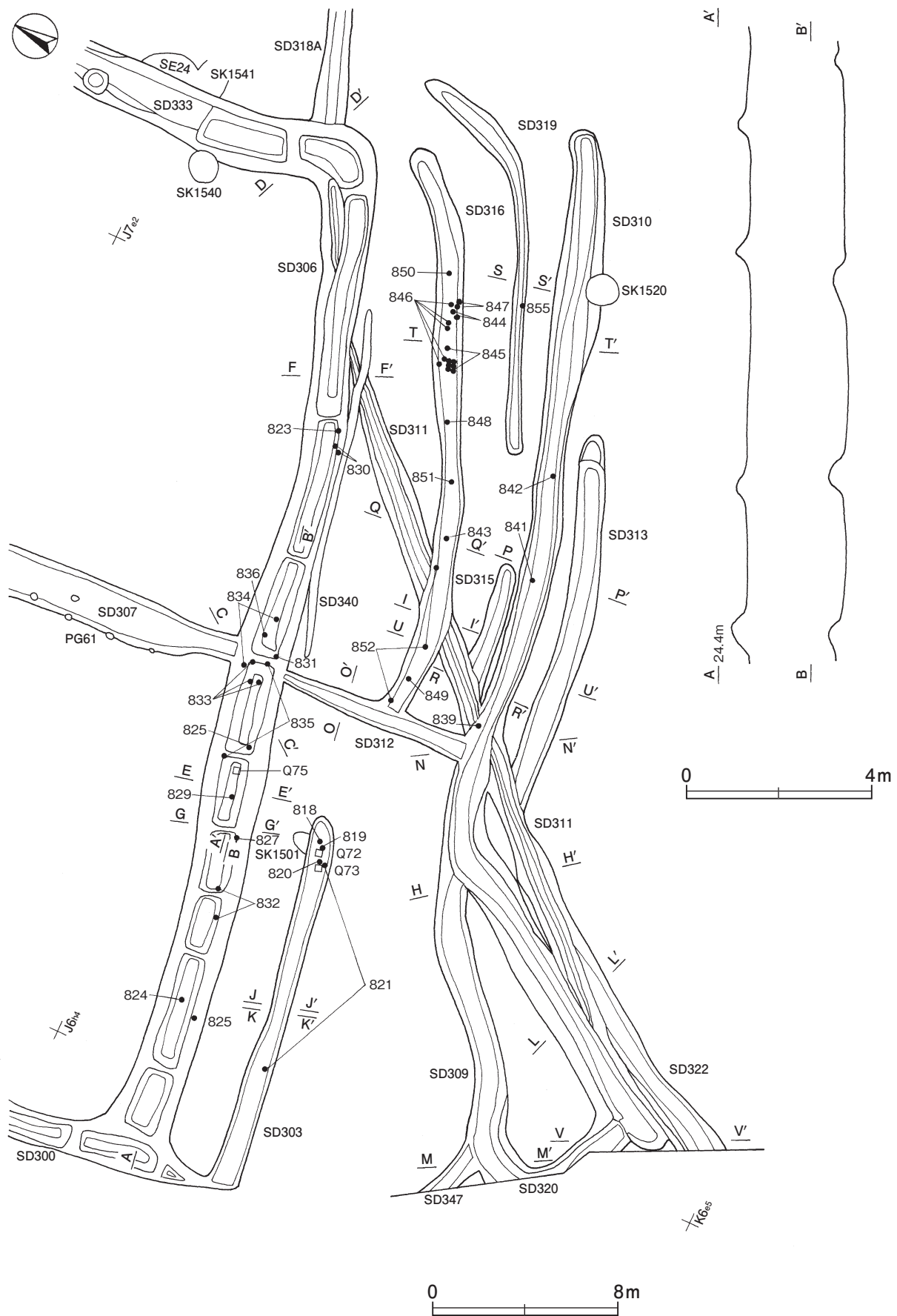
覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（H-H'）

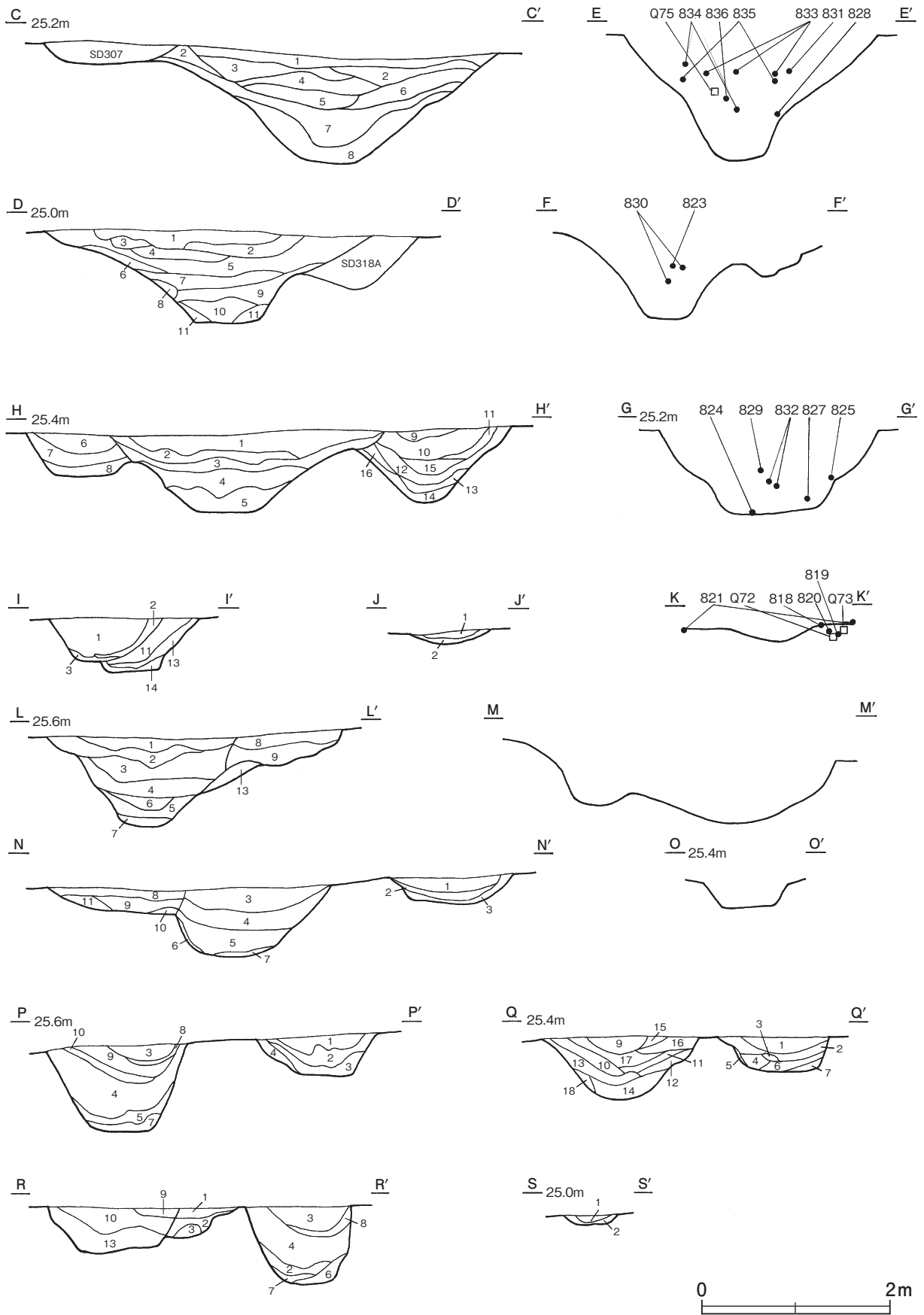
| | | | |
|--------|----------------------------|-------|--------------------------|
| 6 極暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片12点（皿2、内耳鍋9、甕1）、陶器片3点（碗、皿、常滑系片口鉢）、石塔1点（五輪塔）と、流れ込んだ須恵器片1点、礫1点が出土している。854は、覆土中から出土している。

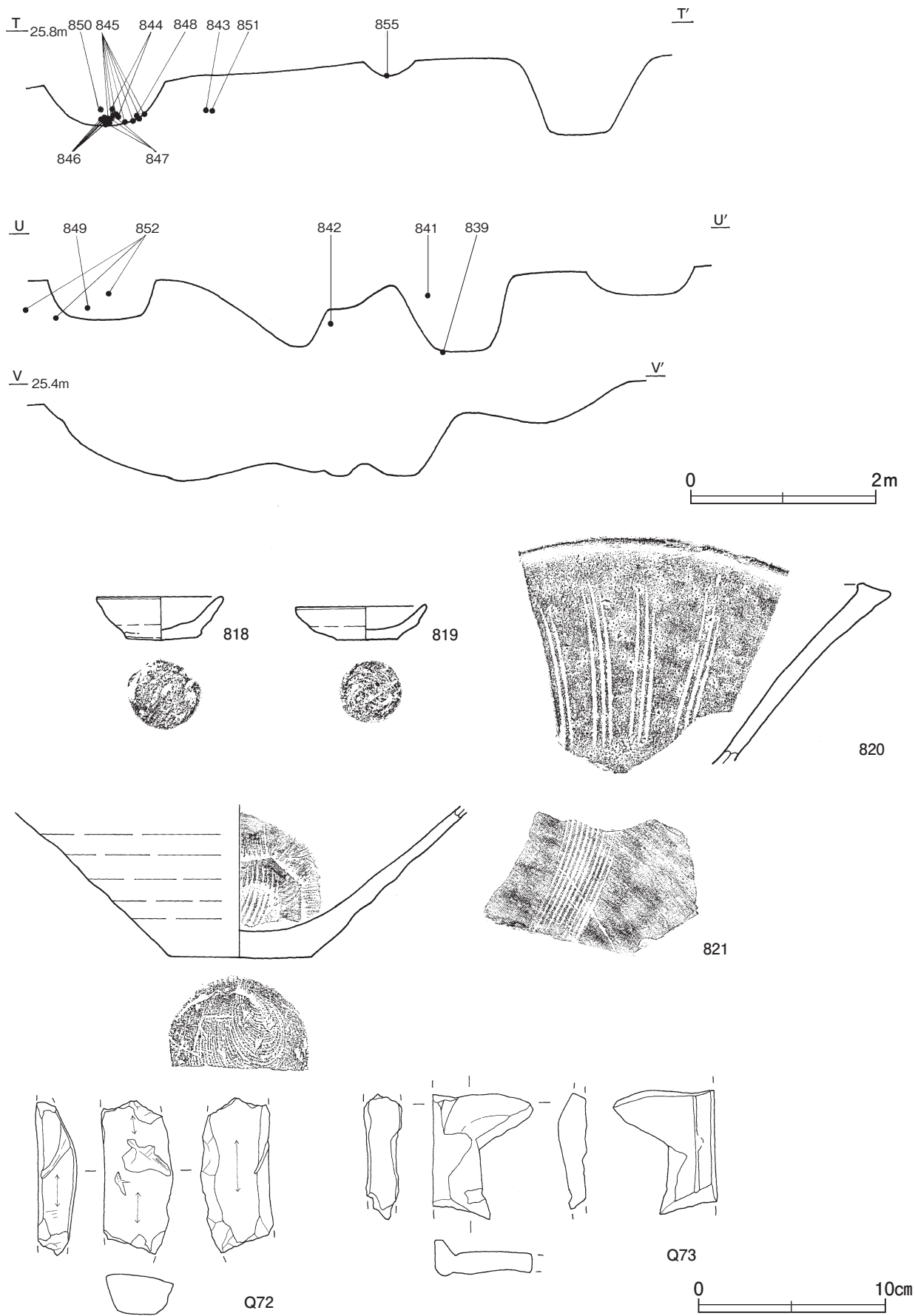
所見 第310号溝が掘削される前から機能していた溝と推測され、第320号溝に雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第441图 第303·306·309~313·315·316·319·320·322·347号沟迹实测图



第442图 第303·306·309~313·315·316·319·322·347号沟迹实测图

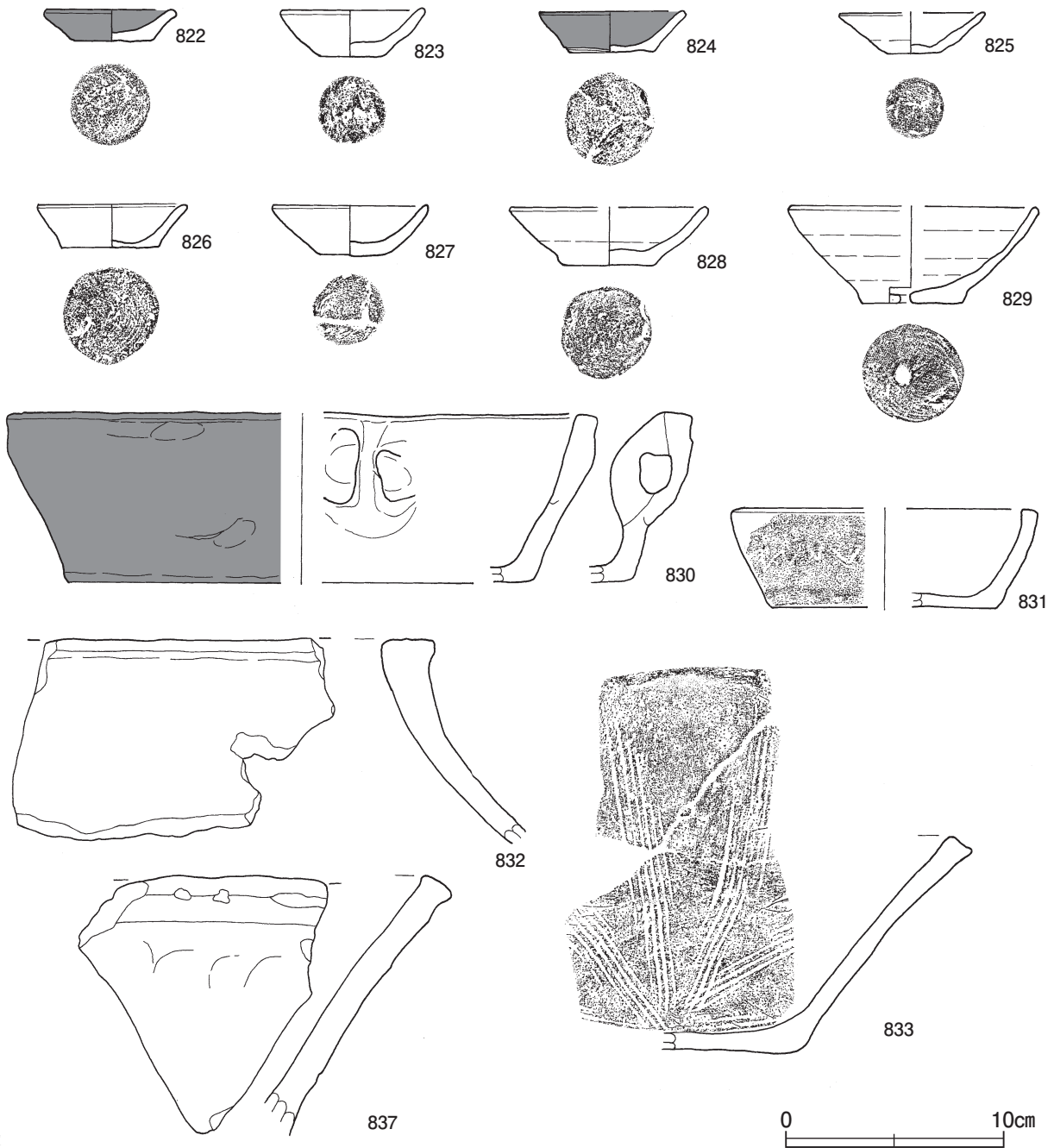


第443图 第310·311·313·315·316·319·320·322号沟迹，第303号沟迹出土遗物实测图

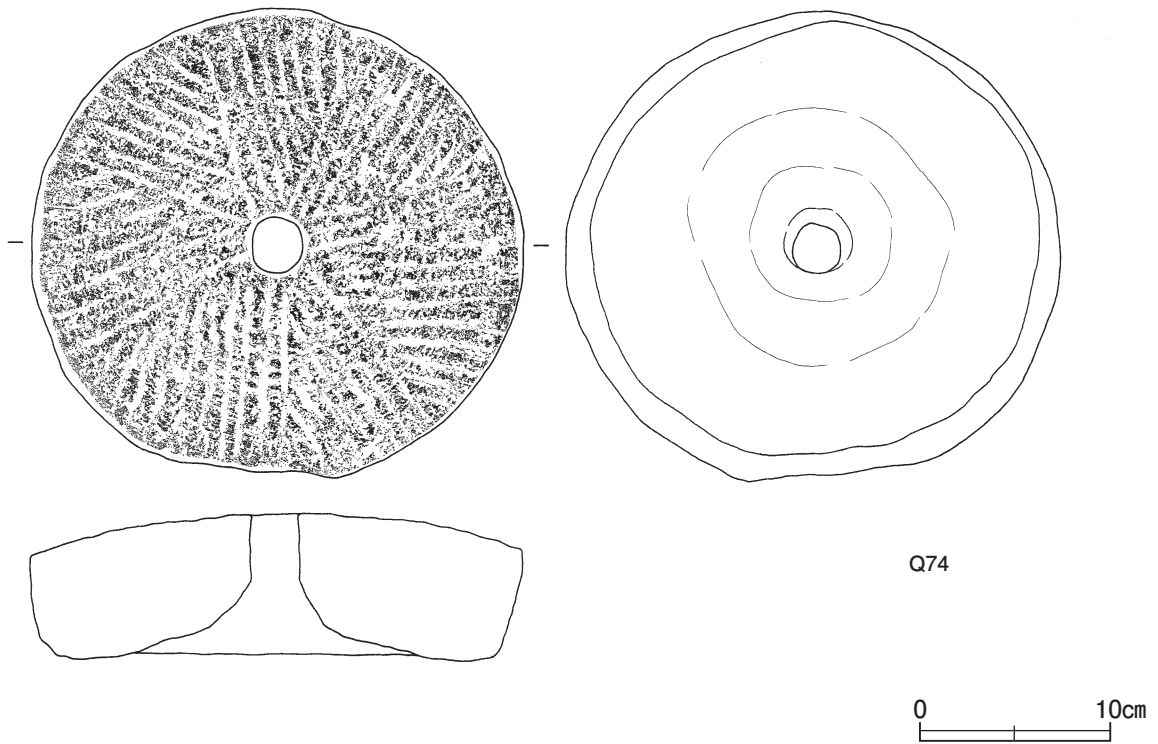
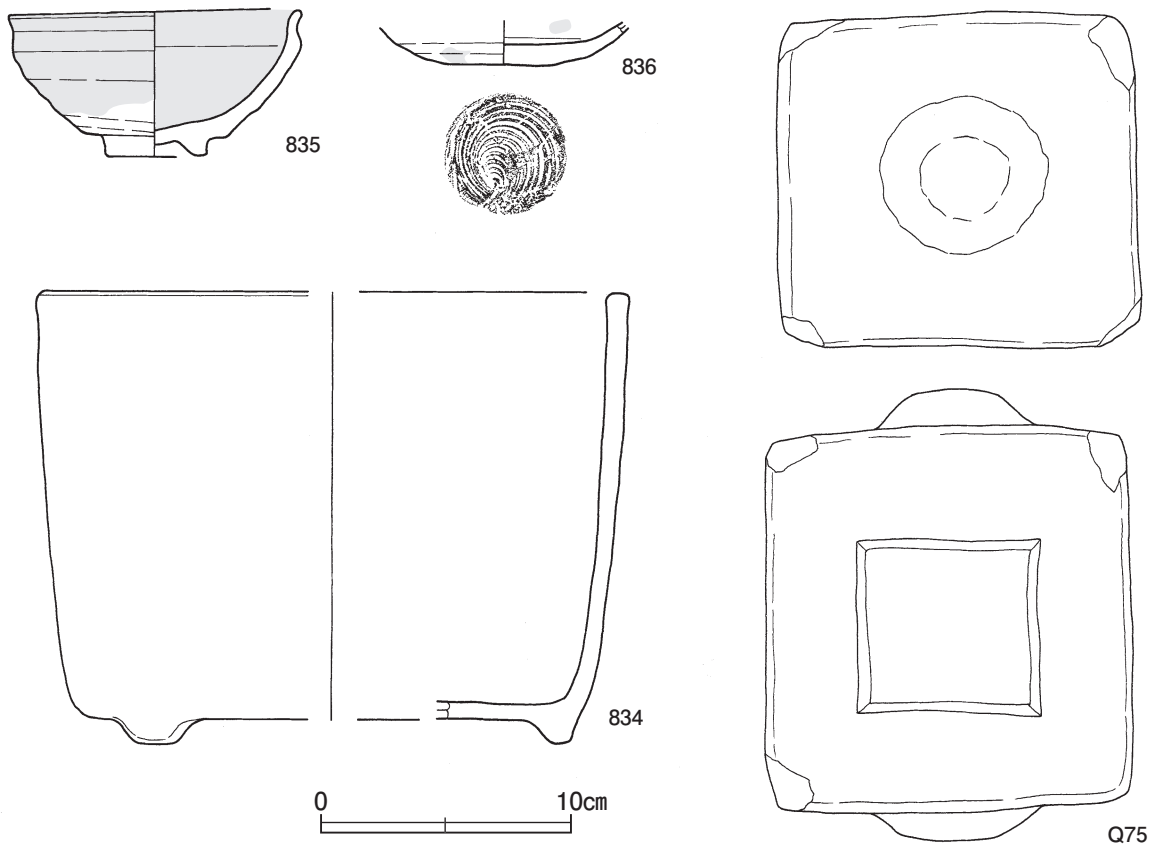
第303号溝跡出土遺物観察表（第443図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|-----|-----------------|-----|----|--------------------------------|------|----------------|
| 818 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.4 | 3.8 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% |
| 819 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 1.9 | 3.1 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り | 底面 | 95% PL110 |
| 820 | 土師質土器 | 播鉢 | [28.8] | (9.7) | — | 長石・石英・ 雲母・小礫 | 橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 3条1単位の 播り目 外面ナデ | 覆土下層 | 15% |
| 821 | 陶器 | 播鉢 | — | (8.2) | 7.6 | 精良 長石 | 暗赤褐 | 良好 | ロクロ成形 11条1単位の播り目 底部 回転糸切り | 覆土下層 | 10% 瀬戸・美濃 系 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-------|-----|--------|-----|---------------|------|----|
| Q72 | 砥石 | (8.3) | 3.8 | 2.3 | (77.5) | 凝灰岩 | 両端部欠損 砥面3面 | 覆土下層 | |
| Q73 | 硯 | (6.7) | (5.5) | 2.0 | (52.4) | 粘板岩 | 海部と陸部が確認できる破片 | 覆土下層 | |



第444図 第306号溝跡出土遺物実測図(1)



第445図 第306号溝跡出土遺物実測図(2)

第306号溝跡出土遺物観察表（第444・445図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|--------|--------|-----------------|----------|----|--------------------------------|-------|------------------|
| 822 | 土師質土器 | 皿 | 5.8 | 1.5 | 3.6 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中下層 | 80% 口唇部油煙附着 |
| 823 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 2.2 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 90% |
| 824 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 1.9 | 3.9 | 長石・雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 60% 口唇部油煙附着 |
| 825 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 1.9 | 2.6 | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 60% |
| 826 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.0 | 4.4 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% PL110 |
| 827 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.3 | 3.0 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 70% |
| 828 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 2.7 | 4.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% |
| 829 | 土師質土器 | 皿 | [11.4] | 4.5 | 4.6 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 50% 底部に穿孔 |
| 830 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [25.8] | 7.8 | [21.4] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ 外面に指頭痕 | 底面 | 15% 体部外面煤附着 |
| 831 | 土師質土器 | 香炉 | [13.0] | 4.6 | [10.4] | 長石・石英・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 内・外面ナデ 外面に波状スタンプ文押捺 | 覆土中層 | 30% |
| 832 | 土師質土器 | 甕 | [24.8] | (9.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ | 覆土中層 | 10% |
| 833 | 土師質土器 | 播鉢 | [29.2] | 10.0 | [15.4] | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | にぶい橙 | 普通 | 6条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中層 | 20% |
| 834 | 瓦質土器 | 火鉢 | [23.6] | 18.0 | [19.6] | 長石・石英・雲母 | 褐 | 普通 | 脚部1か所残存 内・外面ナデ | 覆土中層 | 20% |
| 835 | 陶器 | 天目茶碗 | 11.4 | 5.9 | 4.0 | 精良・長石・石英・鉄釉 | 淡黄・極暗褐 | 良好 | ロクロ成形 削りだしによる輪高台 体部下端に釉だれ | 覆土中層 | 90% 瀬戸・美濃系 PL114 |
| 836 | 陶器 | 丸皿カ | — | (1.8) | 4.6 | 精良・長石・石英・鉄釉 | 灰白・オリーブ黄 | 良好 | 底部回転糸切り 緑釉袖溜まり状に附着 | 底面 | 30% 瀬戸・美濃系 |
| 837 | 陶器 | 片口鉢 | [22.8] | (12.0) | — | 長石・石英・雲母 | 赤褐 | 良好 | 内面滑らか 外面指頭痕を残すナデ | 覆土中 | 常滑系 |

| 番号 | 器種 | 径・長さ | 孔径・幅 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----------|------|------|------|---------|-----|----------------------------|------|-------|
| Q74 | 石白(下白) | 25.6 | 2.6 | 7.8 | 6980 | 安山岩 | 受け部7～9条1単位の播り目 | 覆土中 | PL116 |
| Q75 | 宝篋印塔(塔身) | 19.4 | 17.5 | 23.7 | (14800) | 花崗岩 | 角部一部欠損 表面風化による剥離 梵字風化により不明 | 覆土下層 | PL118 |

第310号溝跡（441・442・446図）

位置と規模 調査区中央部のK 6 d5～J 7 i5区に位置している。J 7 i5区から南西方向（N-103°-W）へ鉤の手状に延び、K 6 d5区で第320号溝に繋がっている。確認できた長さは47mほどで、上幅1.12～2.0m、下幅0.32～0.8m、深さ72～95cmである。断面形は浅い部分は緩やかなU字状、深い部分は逆台形で、壁は緩斜または外傾して立ち上がっている。

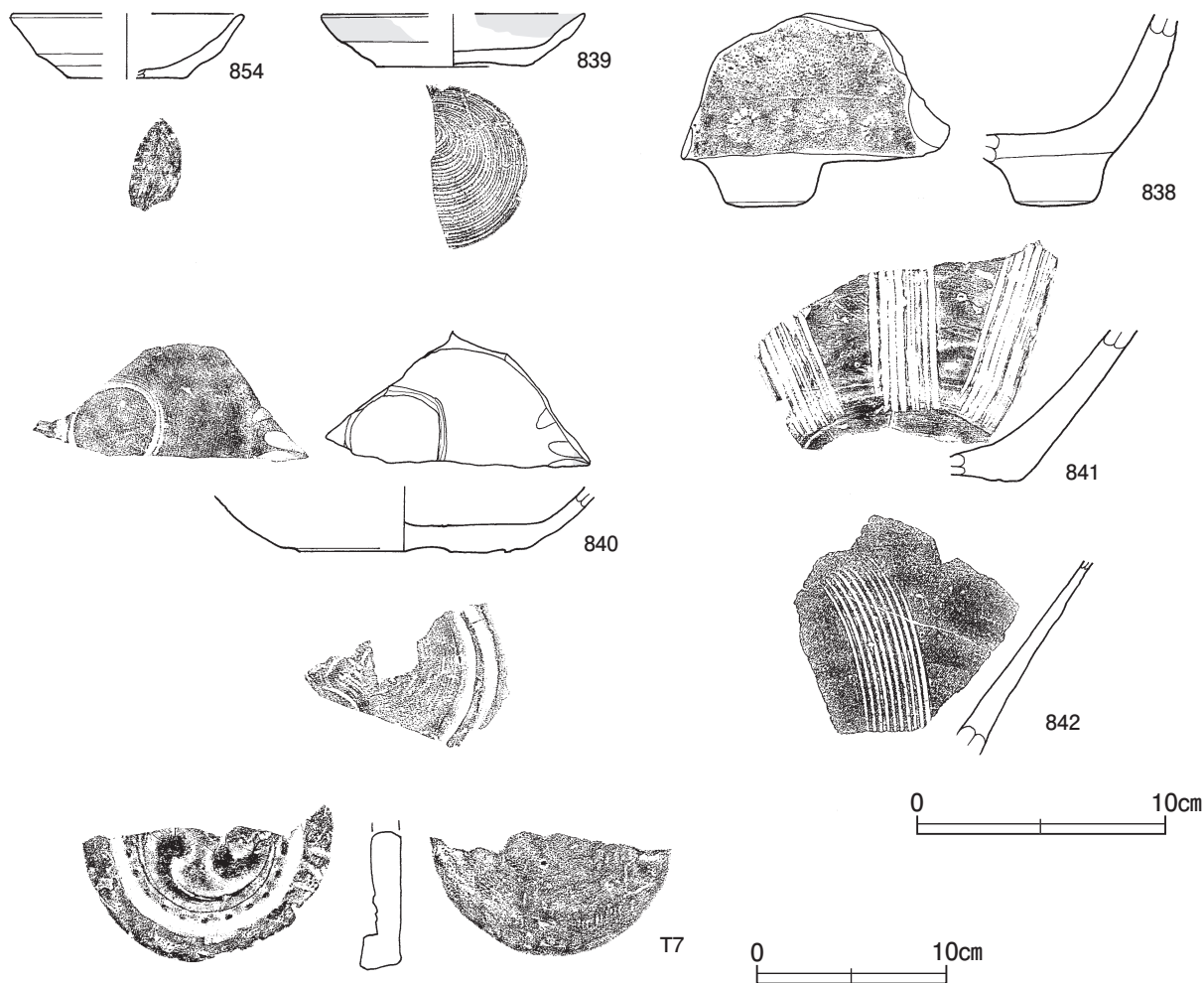
覆土 10層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（H-H'、L-L'、P-P'、N-N'、R-R' 各層共通）

| | | | |
|---------|-----------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 暗 褐 色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐 色 | 粘土ブロック、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 極 暗 褐 色 | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 8 極 暗 褐 色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗 褐 色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 10 暗 褐 色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片187点（皿26、内耳鍋類151、甕4、播鉢3、火鉢3）、陶器片19点（天目茶碗1、皿3、常滑系甕12、常滑系片口鉢1、播鉢2）、石器3点（石白1、砥石2）、石塔1点（五輪塔）、瓦片1点（軒丸瓦）、木片1点と、流れ込んだ土師器片1点、須恵器片8点、礫7点が出土している。838～842、T 7は、散在して出土しており、本溝の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 第309・311・322号溝を切り、第320号溝に雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第446図 第309・310号溝跡出土遺物実測図

第309号溝跡出土遺物観察表（第446図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|----------------|----|----|-----------------------|------|-----|
| 854 | 土師質土器 | 皿 | [9.4] | 2.6 | [4.8] | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面 底面回転 後ナデ | 覆土中 | 25% |

第310号溝跡出土遺物観察表（第446図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 | |
|-----|-------|------|--------|-------|-------|-----------------------|------------------|----|--------------------------------------|------------------------------|------|----------|
| 838 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (7.6) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 脚部1か所 残存 端菊文 押印 | 内・外面ナデ 外面下 | 覆土中 | 10% |
| 839 | 陶器 | 縁釉皿 | [10.6] | 2.1 | 6.2 | 精良 灰釉 | 灰白・ オリーブ 灰 | 良好 | 底部回転 糸切り | 口辺部内・ 外面に 施釉 | 底面 | 30%瀬戸・美濃 |
| 840 | 陶器 | 縁釉皿カ | — | (2.6) | [8.4] | 長石・灰釉 | 灰白・ オリーブ 灰 | 良好 | 底部回転 糸切り 口辺部 内面 凌ぎ 削り | 底部低い 削り 出し 高台 | 覆土中 | 30%瀬戸・美濃 |
| 841 | 陶器 | 擂鉢 | — | (6.1) | — | 精良 長石 | 褐灰 | 良好 | 内・外面 ナデ | 内面8条 1単位 の 播り 目 | 覆土上層 | 丹後系カ |
| 842 | 陶器 | 擂鉢 | — | (7.8) | — | 精良 長石・ 錆釉 | 褐灰 | 良好 | 内・外面 ナデ | 内面10条 1単位 の 播り 目 | 覆土中層 | 瀬戸系カ |

| 番号 | 器種 | 長さ | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|----|--------|-----|---------|-------|---|------|-------|
| T7 | 軒丸瓦 | — | (13.4) | 2.3 | (223.9) | 長石・雲母 | 外面巴文・ ナデ 内面ナデ 表面・胎 芯黄 橙色 | 覆土中 | PL122 |

第311号溝跡（441・442図）

位置と規模 調査区中央部のK 6 d5～J 7 h1区に位置している。J 7 h1区から南西方向（N-132°-W）へ

直線的に延び、K 6 c6区で第310号溝に切られている。確認できた長さは31.8mで、上幅0.22～1.52m、下幅0.08～0.32m、深さ40～92cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (H-H', I-I', L-L', Q-Q', R-R' 各層共通)

| | | | |
|---------|-----------------------------------|---------|------------------------------|
| 9 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 10 極暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 | 焼土粒子多量、粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 16 極暗褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 17 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 13 黒褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 18 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片66点（皿11、内耳鍋45、甕7、挿鉢3）、陶器片3点（碗1、常滑系甕2）と、流れ込んだ縄文土器片4点、須恵器片2点、礫10点が出土している。

所見 第320号溝に雨水等を排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第312号溝跡 (441・442図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 h8～J 6 j8区に位置している。J 6 h8区から南方向(N-3°-W)へ直線的に延び、J 6 j8区で第309・310号溝に繋がっている。長さは8.3mで、上幅0.4～1.12m、下幅0.3～0.78m、深さ24～36cmである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (N-N')

| | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 8 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片12点（皿5、内耳鍋7）、陶器片1点（常滑系甕）、礫6点が出土している。

所見 第306号溝と第309・310号溝を繋いで、雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第313号溝跡 (441・442図)

位置と規模 調査区中央部のK 6 a8～J 7 j2区に位置している。J 7 j2区から西方向(N-80°-W)へ緩やかな曲線状に延び、K 6 a8区で第311号溝に繋がっている。長さは16.2mで、上幅0.9～1.3m、下幅0.5～0.86m、深さ30cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (N-N', P-P')

| | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | 3 褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量、粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片13点（皿1、内耳鍋12）と流れ込んだ須恵器片1点、礫1点が出土している。

所見 雨水等を排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第315号溝跡 (441・442・447図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 j9～J 6 j0区に位置している。J 6 j0区から西方向(N-82°-W)へ直線的に延び、J 6 j9区で第311号溝に繋がっている。長さは5.2mで、上幅0.82～0.96m、下幅0.4～0.5m、深さ30

cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているものの、含有物から人為堆積と考えられる。



DP31



土層解説 (R-R')

- 1 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿5, 内耳鍋4), 土製品1点(管状土錘), 須恵器片1点, 礫3点が出土している。DP31は

第447図 第315号溝跡出土遺物実測図 覆土中から出土しており、流れ込みの可能性が高い。

所見 第311号溝に切られているが、方向性から第309号溝の続きであったと推測できる。雨水等を排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第315号溝跡出土遺物観察表 (第447図)

| 番号 | 器種 | 長さ | 孔径 | 幅 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-------|-----|-----|--------|----|--------------|------|----|
| DP31 | 管状土錘 | (4.1) | 0.9 | 3.4 | (31.5) | 土製 | 約半分欠損 ヌ 全面ナデ | 覆土中 | |

第316号溝跡 (441・442・448～450図)

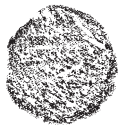
位置 調査区中央部のJ 6 i8～J 7 g4区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第311・312号溝を切っており、ほぼ同時期に廃絶されたと考えられる。

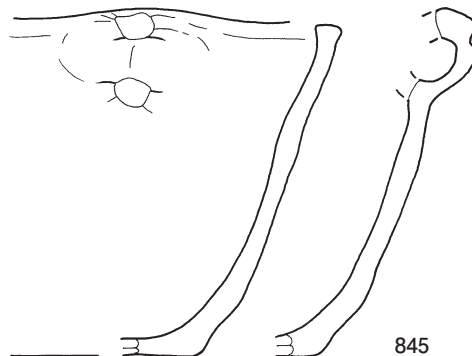
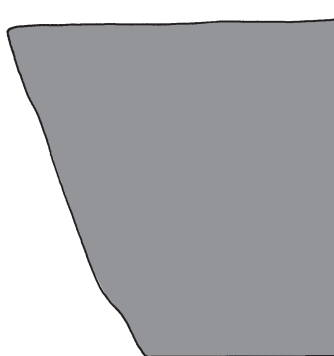
規模と形状 J 7 g4区から、ほぼ西方向(N-115°-W)へ直線状に延び、J 6 i8区で第312号溝に繋がっている。長さは24.8mで、上幅0.76～1.52m、下幅0.52～1.0m、深さ32～45cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。



843



844



845



第448図 第316号溝跡出土遺物実測図(1)

覆土 3層と7層に分層される。レンズ状に堆積しているものの、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (I-I' SD311との重複部)

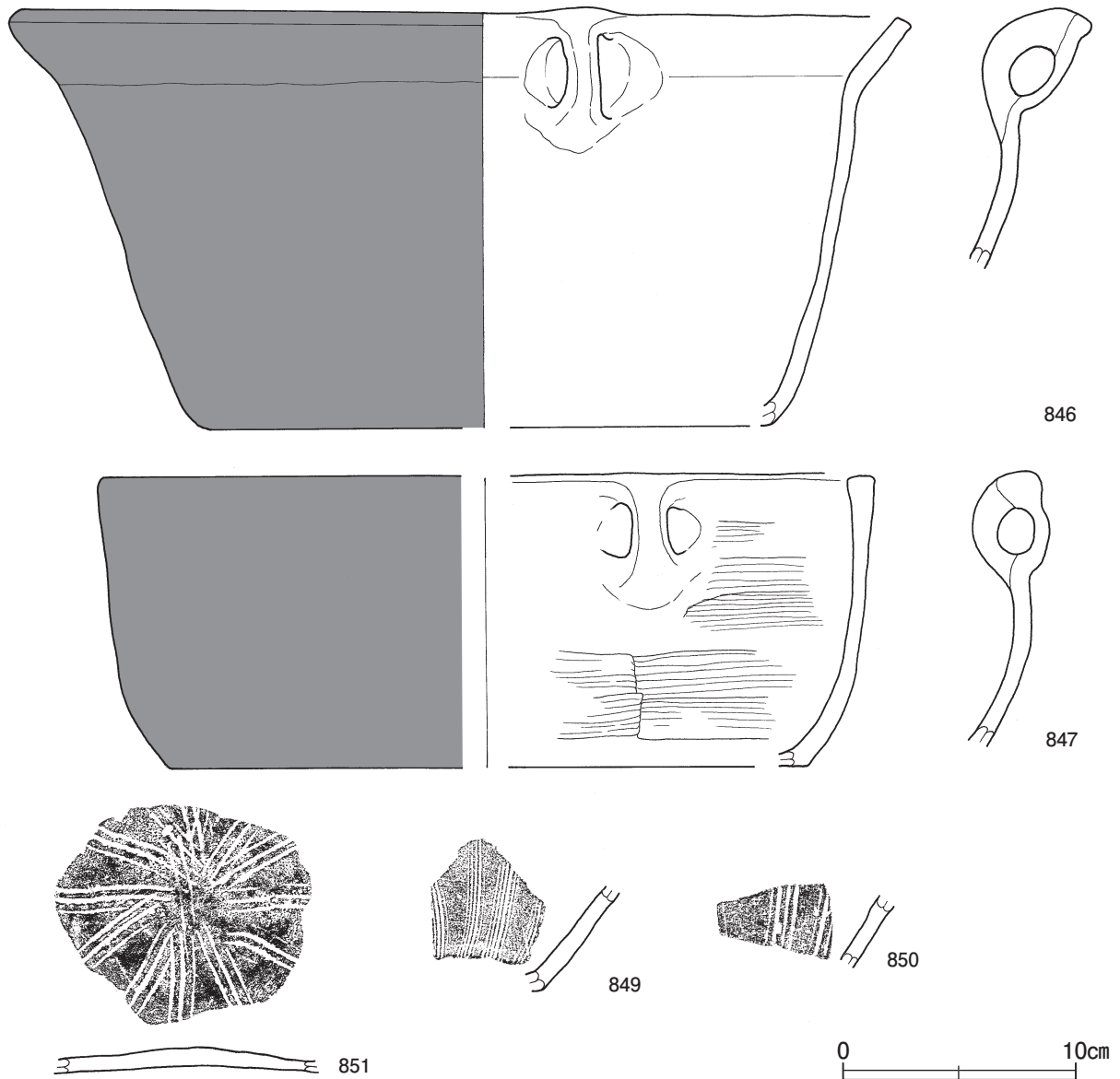
- | | | | |
|-------|-----------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 極暗褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

土層解説 (Q-Q')

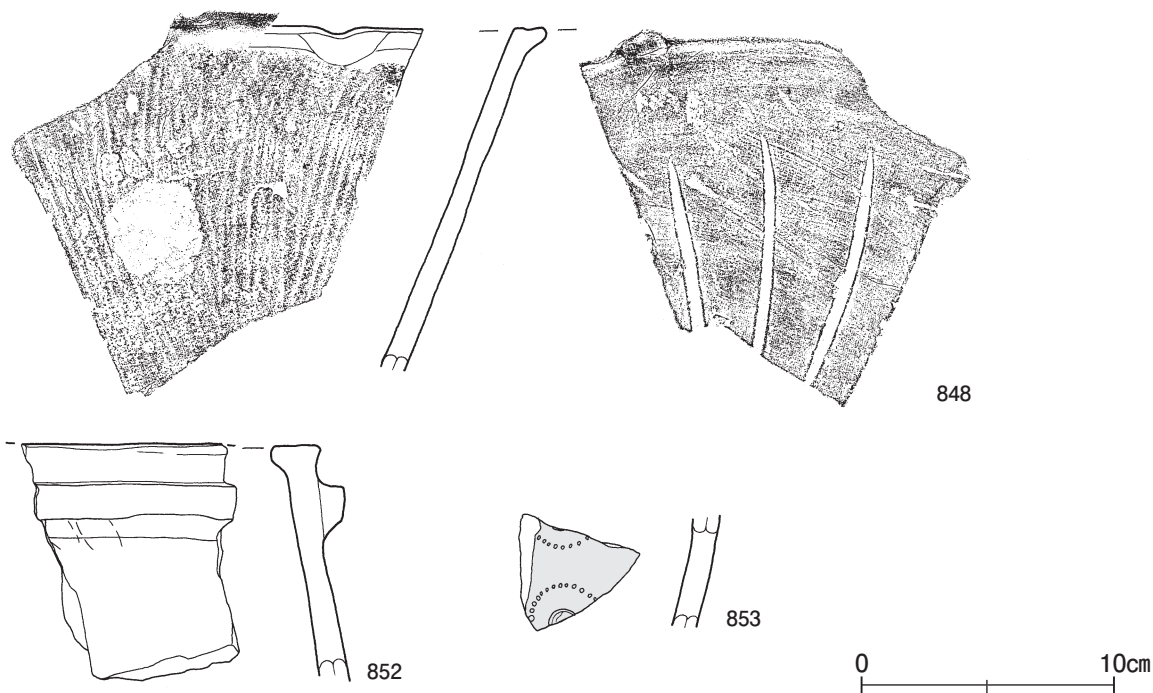
- | | | | |
|--------|-------------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子多量, 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片465点 (皿39, 内耳鍋類385, 甕13, 播鉢22, 火鉢6), 陶器片6点 (常滑系甕4, 瓶子2), 石器2点 (石臼, 砥石), 石塔1点 (五輪塔), 粘土塊1点と, 流れ込んだ縄文土器片7点, 須恵器片9点, 礫9点が出土している。843～853は, 西部から中央部にかけて集中して出土している土器片の一部で, 本溝の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。

所見 雨水等を第312号溝へ排水していたものと推測され, 時期は出土土器から16世紀代と考えられる。



第449図 第316号溝跡出土遺物実測図(2)



第450図 第316号溝跡出土遺物実測図(3)

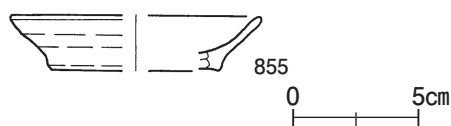
第316号溝跡出土遺物観察表 (第448 ~ 450図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|-------------|----|------------------------------------|---------|-------------------|
| 843 | 土師質土器 | 皿 | [7.6] | 1.9 | 4.2 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 65% 口唇部油煙付着 |
| 844 | 土師質土器 | 皿 | 9.6 | 3.5 | 4.2 | 長石・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層・底面 | 75% 成形にゆがみ |
| 845 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [28.4] | 13.8 | [17.0] | 長石・石英 | にぶい褐 | 普通 | 内面から口縁部外面ナデ | 覆土下層 | 30% 体部外面煤付着 |
| 846 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 37.8 | 18.2 | [24.6] | 長石・石英・雲母・礫 | 橙 | 普通 | 1 内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 覆土下層 | 50% 体部外面煤付着 PL113 |
| 847 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [33.4] | 12.8 | [27.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 1 内耳残存 耳貼り付け 内面ヘラナデ 痕を残すナデ 外面ナデ | 覆土下層 | 50% 体部外面煤付着 |
| 848 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (13.7) | — | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 片口部残存 内面1条1単位の播り目 外面縦位のヘラ状の工具によるナデ | 覆土下層 | 10% |
| 849 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (4.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐灰 | 普通 | 体部破片 内面5条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | |
| 850 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (3.1) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部破片 内面4条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | |
| 851 | 土師質土器 | 播鉢 | — | — | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 底面の破片 内面3条1単位の播り目が放射状に延びる | 覆土下層 | 底部厚さ(1.2) |
| 852 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (9.3) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口辺部突帯貼り付け 内面横ナデ 外面指頭痕を残すナデ | 覆土中層・底面 | |
| 853 | 陶器 | 瓶子 | — | (4.4) | — | 精良 灰釉 | にぶい黄褐・暗オリーブ | 良好 | 内・外面ヘラナデ後ナデ 外面押印文施釉 | 覆土中 | 古瀬戸 |

第319号溝跡 (441・442・451図)

位置と規模 調査区中央部のJ 7i1 ~ J 7g4区に位置している。J 7g4区から、西方向 (N-74°-W) へ緩やかな曲線状に延びている。長さは17.8mで、上幅0.46 ~ 1.15m, 下幅0.26 ~ 0.72m, 深さ10cmほどである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積と考えられる。



土層解説 (S-S')

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

第451図 第319号溝跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿3, 内耳鍋2, 甕1)と, 流れ込んだ須恵器片1点が出土している。855は, 破片で覆土下層から出土している。

所見 方向性から第309・315号溝の続きであった可能性が推測され, 雨水等を排水していたと想定される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第319号溝跡出土遺物観察表 (第451図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|----------------|----|----|-----------------------------------|------|-----|
| 855 | 土師質土器 | 皿 | [9.9] | 2.2 | [6.8] | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ後ナデ ナデ 底部回転糸切りカ 外面ロクロ | 覆土下層 | 20% |

第322号溝跡 (441・442図)

位置と規模 調査区中央部のK 6 d5 ~ K 6 a8区に位置している。K 6 a8区から西方向 (N - 152° - W) へ直線的に伸び, K 6 d5区で調査区域外となっている。確認できた長さは10.6mで, 上幅0.78 ~ 0.85m, 下幅0.6 ~ 0.7m, 深さ30cmほどである。断面形は緩やかなU字状で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物とレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説 (L - L')

8 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 9 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量

所見 第311号溝に大きく切られているため全容は不明であるが, 第310・311号溝と同様に雨水等を排水していたと想定される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第305号溝跡 (452・453図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 a2 ~ J 6 a8区に位置している。J 6 a2区から, 東方向 (N - 88° - E) へほぼ直線的にJ 6 a8区まで延びている。確認できた長さは24mほどで, 上幅1.6 ~ 5.7m, 下幅0.8 ~ 1.08m, 深さ36 ~ 56cmである。断面形は逆台形で, 壁は緩斜して立ち上がっている。

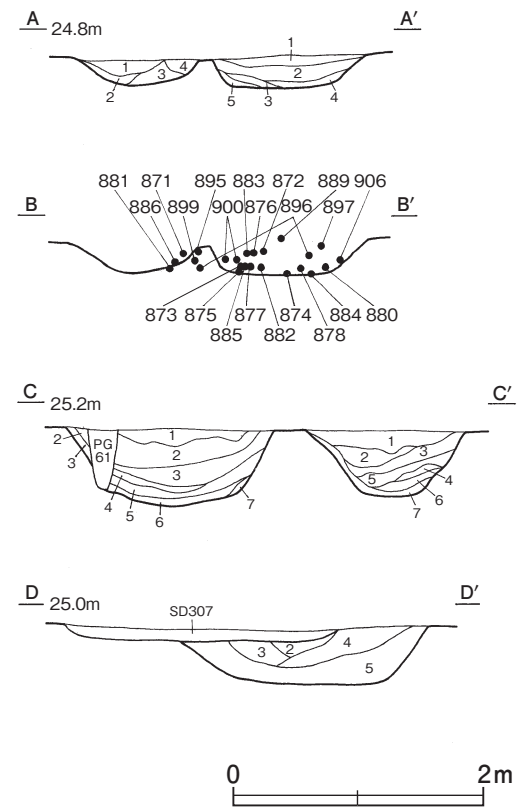
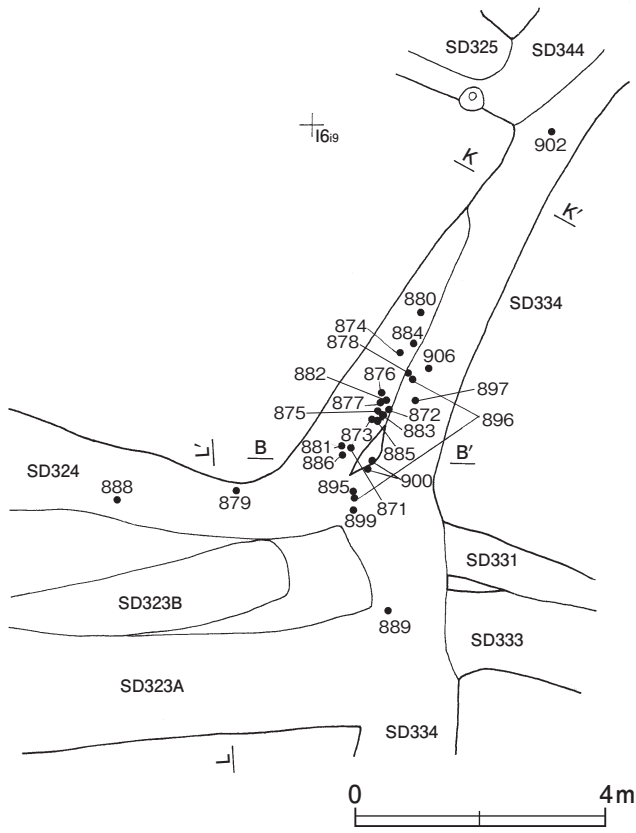
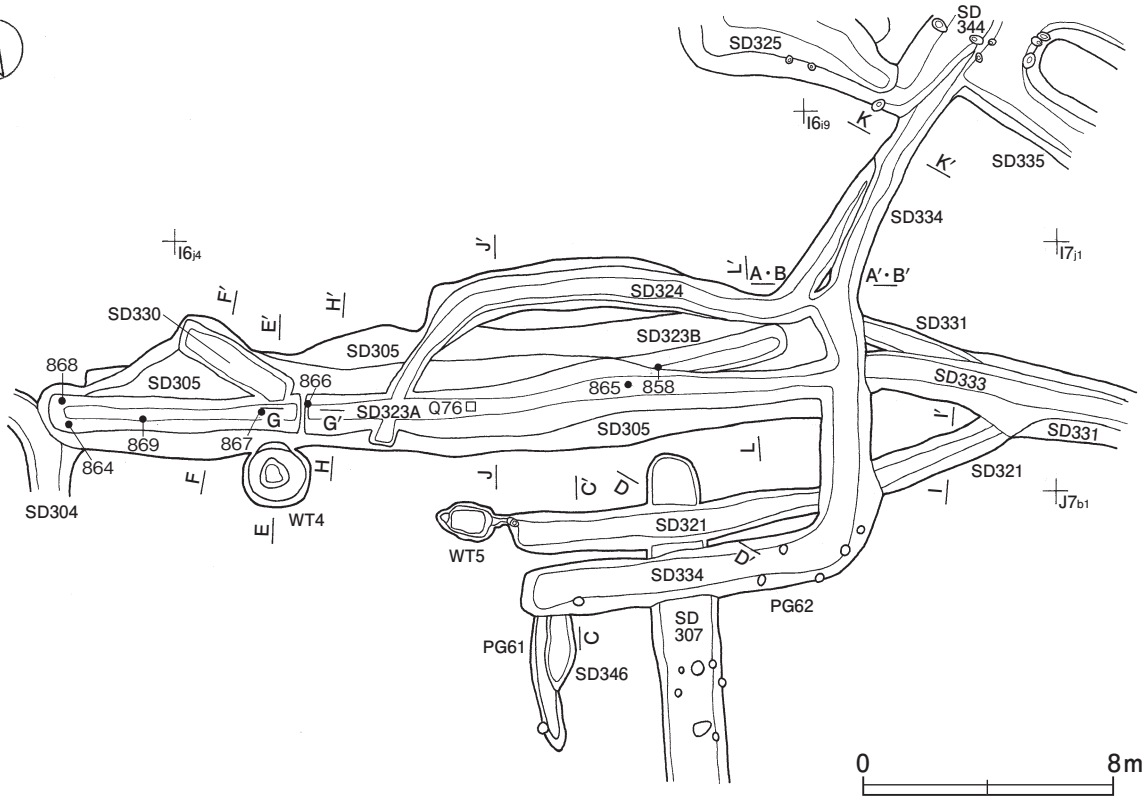
覆土 5層に分層される。一部, 含有物から人為堆積と認められる部分があるものの, レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説 (E - E')

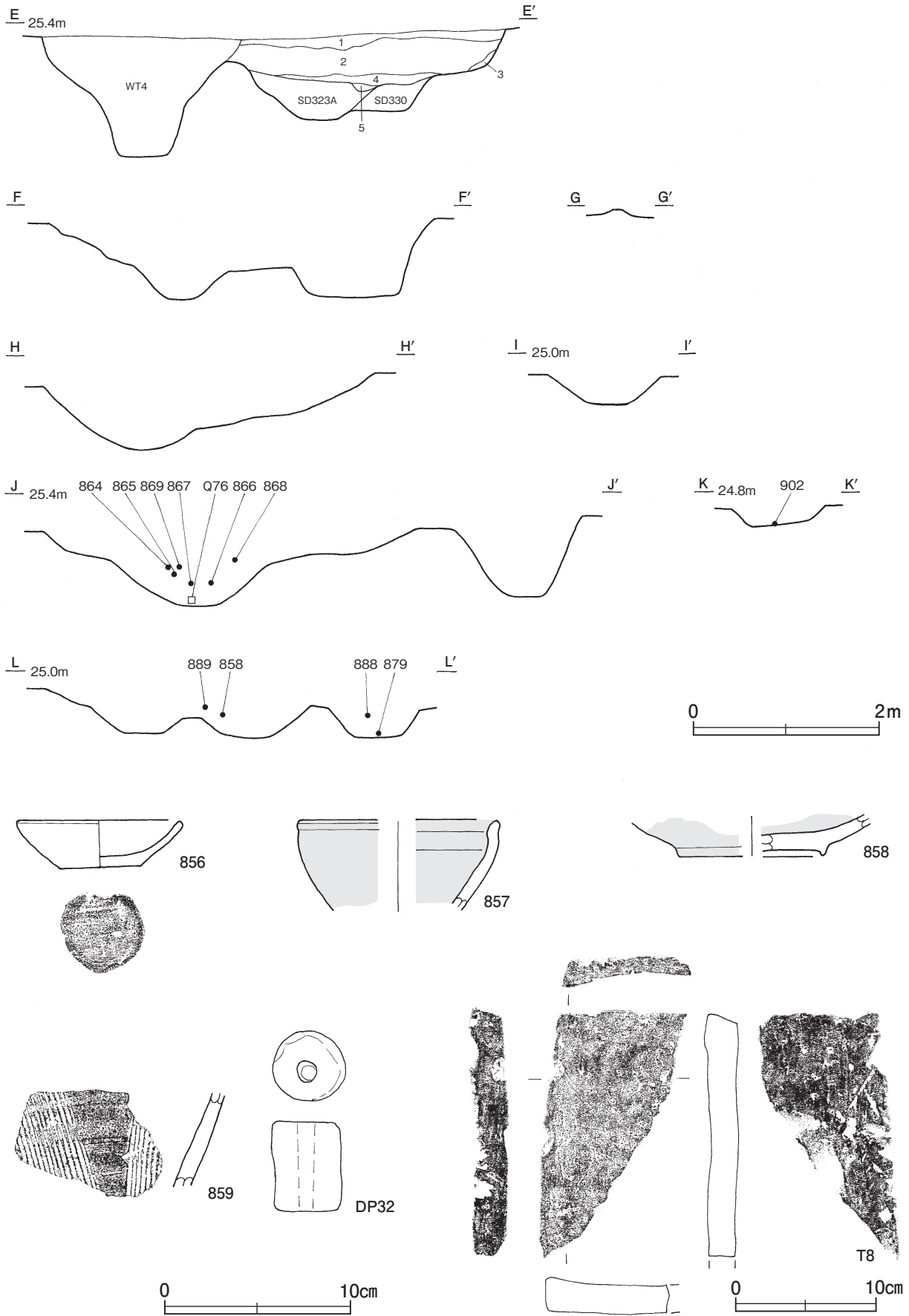
1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 4 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片161点(皿34, 内耳鍋110, 甕10, 挿鉢6, 火鉢1), 陶器片6点(天目茶碗1, 皿1, 常滑系甕2, 常滑系片口鉢カ1, 瀬戸系挿鉢1), 石器5点(石臼2, 砥石3), 瓦片2点(平瓦)と, 流れ込んだ須恵器片4点, 礫3点が出土している。858が第323B号溝との境の覆土下層から出土している以外は, 856・857・859, DP32, T 8は, いずれも覆土中から散在して出土している。

所見 第323A・323B・330号溝を拡張した溝と推定される。時期は, 出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第452图 第305・321・323A・323B・324・330・334号沟迹实测图



第453图 第305·321·323A·323B·324·330·334号沟迹, 第305号沟迹出土遗物实测图

第305号溝跡出土遺物観察表（第453図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|-------|-------|----------|----------|----|---------------------------------|------|------------|
| 856 | 土師質土器 | 皿 | 8.3 | 2.7 | 4.4 | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 95% PL110 |
| 857 | 陶器 | 天目茶碗 | [10.5] | (4.9) | — | 精良 長石・鉄釉 | 淡黄・暗褐 | 良好 | 口クロ成形露体に錆釉 内・外面に発色の悪い鉄釉割れ目に漆繫ぎ痕 | 覆土中 | 20% 瀬戸・美濃系 |
| 858 | 陶器 | 丸皿 | — | (2.2) | [7.8] | 精良 灰釉 | 灰白・オリープ黄 | 良好 | 削り出し高台 内・外面釉掛け 貫入 | 覆土下層 | 15% 瀬戸・美濃系 |
| 859 | 陶器 | 播鉢 | — | (5.0) | — | 精良 長石 | 暗赤褐 | 良好 | 12条1単位の播り目カ | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 孔径 | 幅 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|-----|-----|------|----|------|------|----|
| DP32 | 管状土錘カ | 4.9 | 0.9 | 3.9 | 91.4 | 土製 | 外面ナデ | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-------|-----|---------|---------------|------------------------------|------|----|
| T 8 | 平瓦 | (17.7) | (8.8) | 2.4 | (418.5) | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 表面ナデ裏面ヘラナデ痕を残すナデ 胎芯褐灰色 ぶい黄橙色 | 覆土中 | |

第321号溝跡（452～454図）

位置と規模 調査区中央部のJ 6 b6～J 6 a0区に位置している。J 6 b6区から、東方向（N-83°-E）へほぼ直線的に延び、J 6 a0区で第331号溝に繋がっている。長さは16mほどで、上幅0.8～1.42m、下幅0.3～0.74m、深さ32～52cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（C-C'）

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐灰色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 褐色粘土粒子多量（雨水のため酸化した粘土） |
| 4 褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片102点（皿32, 内耳鍋68, 播鉢2）、陶器片3点（常滑系甕2, 壺カ1）、青磁片1点（皿）、石器4点（石臼1, 茶臼1, 砥石2）、石塔1点（五輪塔）、瓦片3点（平瓦）と、流れ込んだ縄文土器片1点、須恵器片3点、粘土塊1点、混入した陶器片1点（灯明皿）が出土している。860～863は覆土中から出土している。

所見 第300号溝と第306号溝で区画された区域を、東西に区画している溝で、西端は第5号水溜遺構に切られている。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第454図 第321号溝跡出土遺物実測図

第321号溝跡出土遺物観察表（第454図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|------------|------|----|----------------------------|------|-----|
| 860 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.3 | 3.3 | 長石・石英・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り 圧痕を残す | 覆土中 | 80% |
| 861 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 3.2 | 3.6 | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り 痕を残すナデ | 覆土中 | 95% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-------|----|---------------|--------|----|------------------------------|------|----|
| 862 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (7.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部丸く収める 内面摩滅5条1単位の播り目カ 外面ナデ | 覆土中 | |
| 863 | 青磁 | 碗 | [8.4] | (2.2) | — | 精良・長石・青磁釉 | 灰白・明緑灰 | 普通 | 口辺部片 蓮弁文 | 覆土中 | |

第323A号溝跡 (452・453・455・456図)

位置 調査区中央部のJ 6 a3～J 6 a9区に位置している。

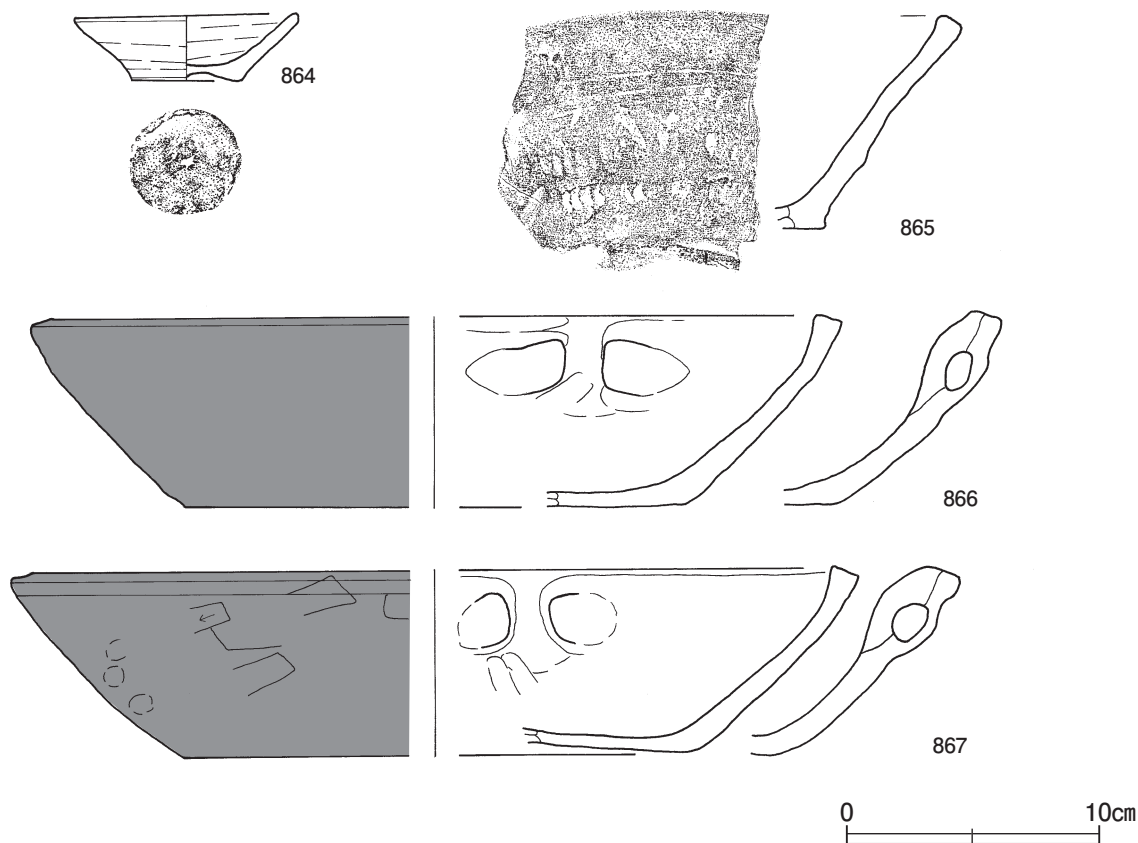
重複関係 第304・323B号溝を切り、第305・324・330・334号溝に切られている。

規模と形状 J 6 a3区から、東方向(N-87°-E)へほぼ直線的に延び、J 6 a9区で第334号溝に繋がっている。長さは26.3mで、上幅0.94～1.86m、下幅0.36～0.64m、深さ30～44cmである。断面形は浅い部分は緩やかなU字状、深い部分は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

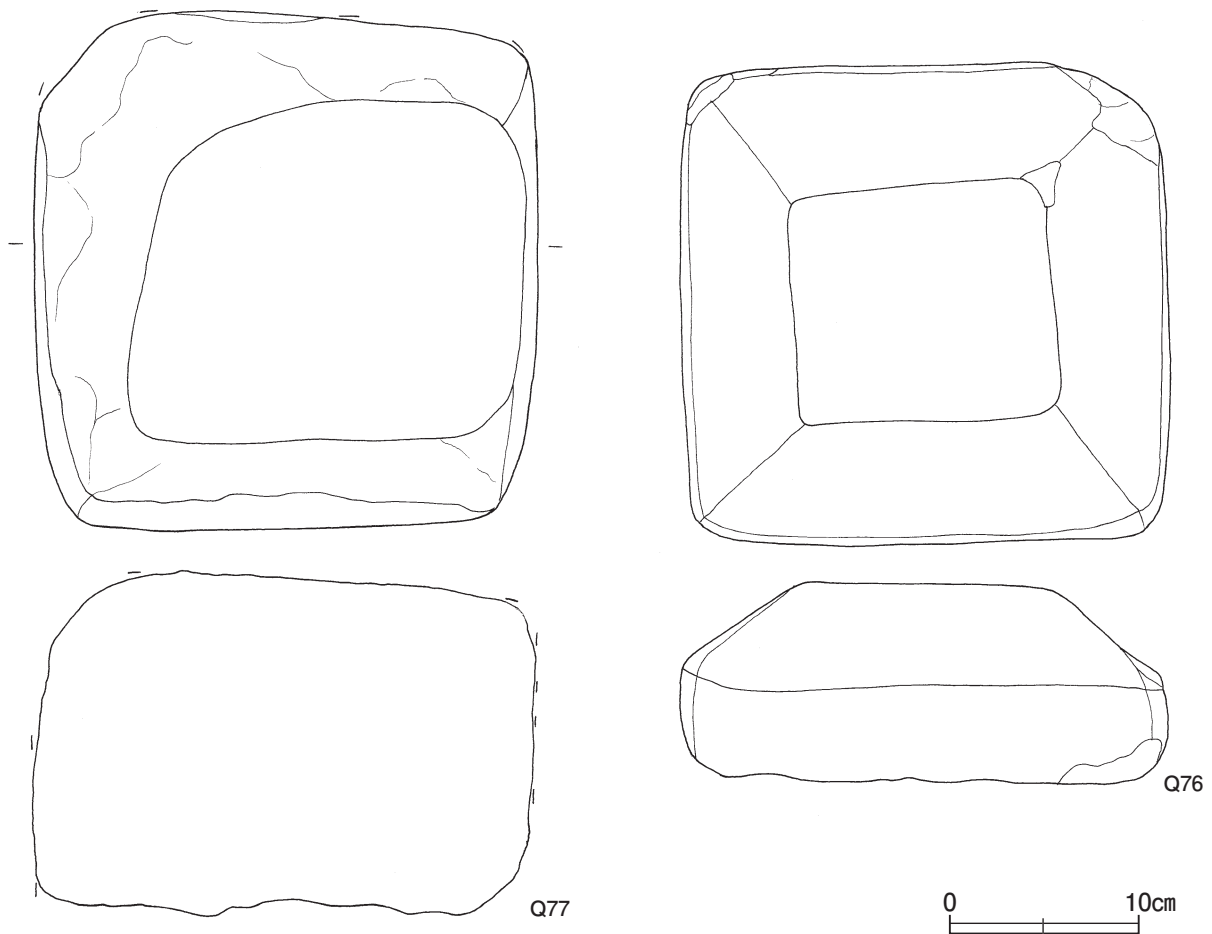
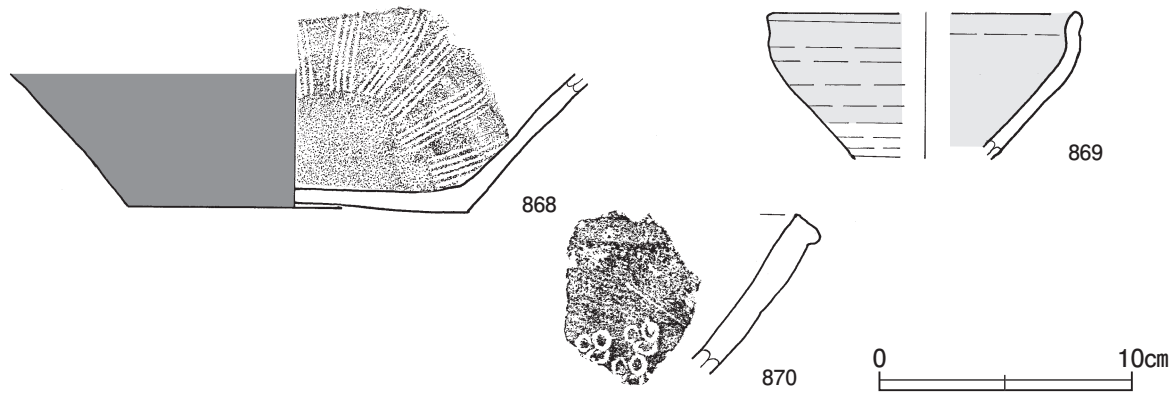
覆土 遺物の出土状況から、人為堆積である(E-E')。

遺物出土状況 土師質土器片348点(皿50, 内耳鍋254, 甕14, 播鉢26, 火鉢3, 茶釜1), 陶器片9点〔碗5(天目茶碗3, 不明2), 皿1, 常滑系甕2, 常滑系片口鉢1〕, 石器4点(磨石1, 石臼1, 砥石2), 石塔2点(五輪塔), 鉄製品1点(不明)と、流れ込んだ縄文土器片2点, 土師器片8点, 須恵器片2点, 礫8点が出土している。864～870, Q76・77は、覆土中層を中心に散在して出土していることから、本溝の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 第323B号溝を掘り込んで、第334号溝に連結している溝で、雨水等を排水していたと推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第455図 第323A号溝跡出土遺物実測図(1)



第456図 第323A号溝跡出土遺物実測図(2)

第323A号溝跡出土遺物観察表 (第455・456図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|-------|--------|--------------------|-------|----|----------------------------------|------|----------------|
| 864 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 2.7 | 4.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 85% |
| 865 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | 8.6 | — | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 内面ナデ 外面工具痕を残すナデ | 覆土中層 | 体部外面煤付着 |
| 866 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.4] | 7.6 | [20.2] | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナデ | 覆土下層 | 15% 体部外面煤付着 |
| 867 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.0] | 7.4 | [20.0] | 長石・石英・雲母 | 褐灰 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面ナデ 外面へラ削り後指頭痕を残すナデ | 覆土下層 | 20% 体部外面煤付着 |
| 868 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.5) | 13.7 | 長石・石英 | にぶい赤褐 | 普通 | 内面5条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土上層 | 20% 体部外面・底部煤付着 |
| 869 | 陶器 | 天目茶碗 | [12.2] | (5.8) | — | 精良 鉄釉 | 灰白・黒褐 | 良好 | 内・外面鉄釉 底部内面茶筌痕 | 覆土中層 | 20% 瀬戸・美濃系 |
| 870 | 陶器 | 片口鉢 | — | (6.5) | — | 長石・石英 | 赤褐 | 良好 | 口辺部外側に張り出し 内面にスタンプ文押印 外面ナデ | 覆土中 | 常滑系9型式カ |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|---------------|--------|--------|--------|---------|-----|-----------------------------|------|-------|
| Q76 | 五輪塔 (笠・火鉢) | 25.7 | 25.3 | 10.6 | (11200) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 二方の軒部欠損 | 覆土下層 | PL118 |
| Q77 | 五輪塔 (地輪) | (27.4) | (26.7) | (18.3) | (23400) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 角部が風化と欠損のため丸みをもつ | 覆土中 | |

第323B号溝跡 (452・453図)

位置と規模 調査区中央部のI 6j7～I 6j8区に位置している。I 6j7区から、東方向(N-75°-E)へ直線的にI 6j8区まで延びている。確認できた長さは5.2mほどで、上幅0.88～1.1m、下幅0.3～0.48m、深さ28cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

所見 第323A号溝に大きく掘り込まれており、全容は不明であり、雨水等を排水していたと推測される。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第324号溝跡 (452・453・457・458図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6a5～I 6i9区に位置している。J 6a5区から、北東方向(N-36°-E)へ曲線状にI 6i9区まで延びている。確認できた長さは21.5mほどで、上幅0.54～1.4m、下幅0.15～0.6m、深さ16～90cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

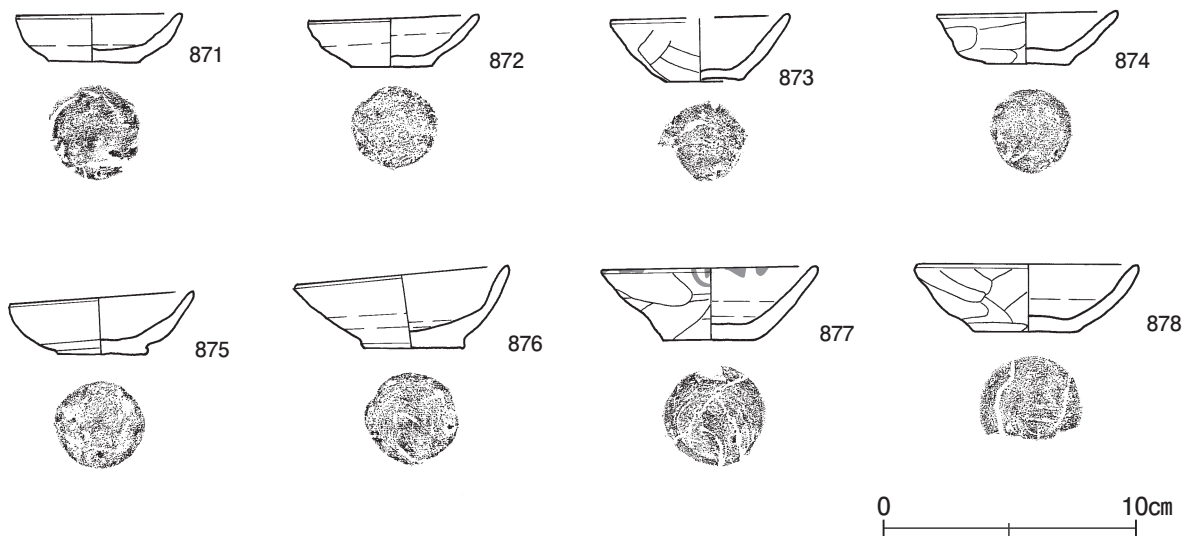
覆土 4層に分層される。不規則な堆積状況と含有物から人為堆積である。

土層解説 (A-A')

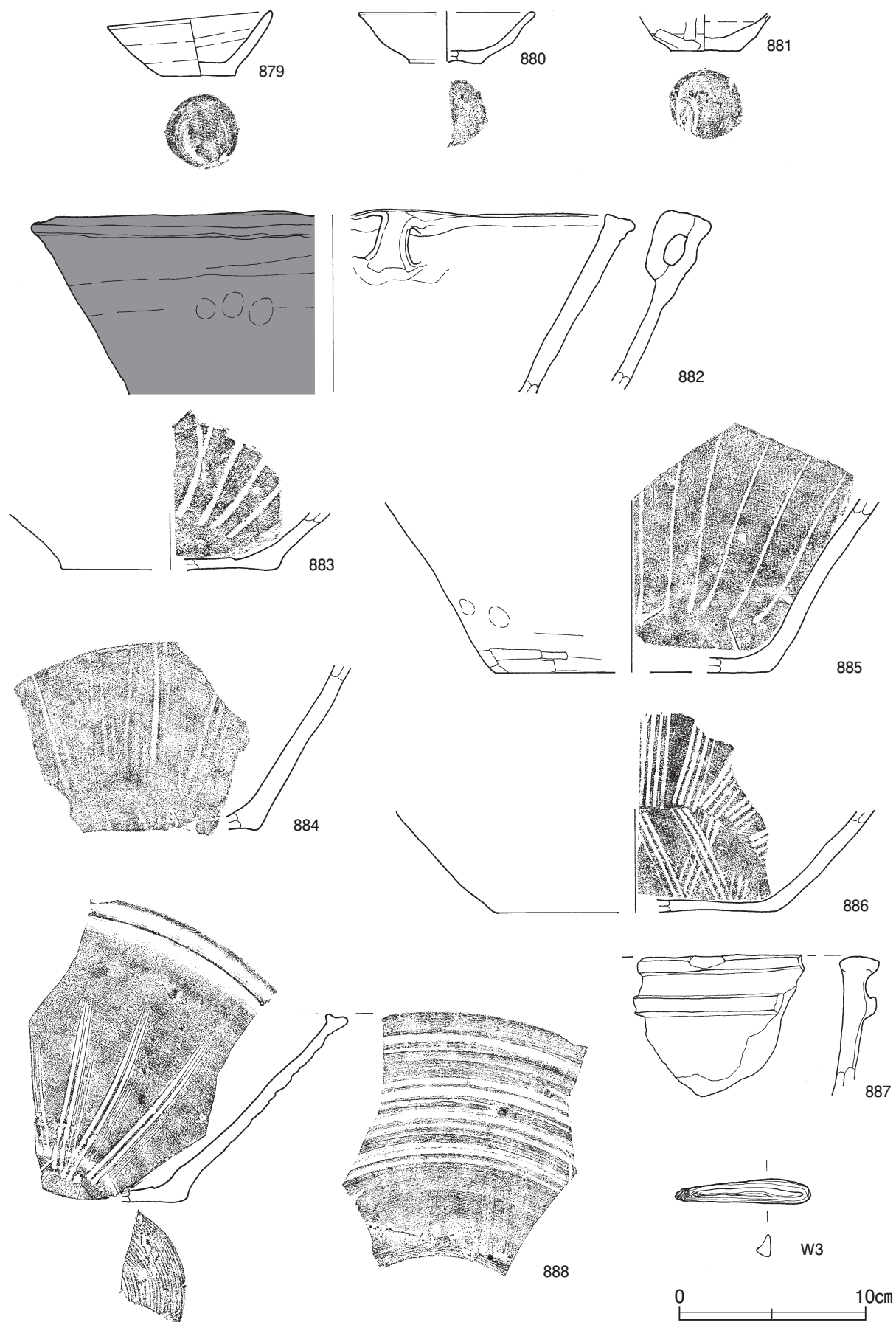
- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 におい黄褐色 黄褐色粘土ブロック多量 | 3 灰黄褐色 黄褐色粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐灰色 白色粘土粒子少量 | 4 暗褐色 黄褐色粘土ブロック少量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片246点(皿65, 内耳鍋149, 甕8, 播鉢23, 火鉢1), 瓦質土器片1点(火鉢), 陶器片5点(常滑系甕3, 瀬戸系播鉢1, 瓶1), 木製品1点(つけ木)と, 流れ込んだ縄文土器片1点, 石器2点(磨石1, 石皿1), 礫3点が出土している。871～888, W3は, 第334号溝との重複地点から集中して出土している。

所見 第334号溝に掘り込まれているが, 雨水等を第335号溝の方向に排水していたと推測される。時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。



第457図 第324号溝跡出土遺物実測図(1)



第458图 第324号沟迹出土遗物实测图(2)

第324号溝跡出土遺物観察表（第457・458図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|--------|-------|--------|---------------|----------|----|-----------------------------------|------|------------------|
| 871 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 2.0 | 3.5 | 長石・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 90% |
| 872 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.0 | 3.3 | 長石・石英・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 95% |
| 873 | 土師質土器 | 皿 | [7.2] | 2.6 | 3.2 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 40% |
| 874 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.1 | 3.2 | 石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 90% |
| 875 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 2.5 | 3.6 | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95%成形にゆがみ |
| 876 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 3.4 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子・小礫 | 黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 100%成形にゆがみ PL110 |
| 877 | 土師質土器 | 皿 | 8.6 | 2.9 | 3.8 | 長石・石英 | 灰白 | 普通 | 体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 75%口唇部油煙付着 |
| 878 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.7 | 4.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 淡橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% |
| 879 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 3.4 | 3.9 | 長石・石英 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100%成形にゆがみ PL110 |
| 880 | 土師質土器 | 皿 | [9.4] | 2.7 | [4.0] | 長石・石英・雲母・微礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 35% |
| 881 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.0) | 3.8 | 長石・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 60% |
| 882 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [29.9] | (9.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面ナデ 外面指頭痕を残すナデ | 覆土下層 | 体部外面煤付着 |
| 883 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (3.0) | [11.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 内面1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中層 | |
| 884 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (8.8) | [20.0] | 長石・石英・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 内面摩滅5条1単位の播り目カ 外面ナデ | 底面 | 10% |
| 885 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (9.3) | [14.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 内面1条1単位の播り目 外面下端ヘラ削り 指頭痕を残すナデ | 覆土下層 | 10% |
| 886 | 土師質土器 | 播鉢 | — | 5.5 | [15.3] | 長石・石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 内面4条1単位の播り目 底面は播り目が交差 外面ナデ | 覆土下層 | 15% |
| 887 | 瓦質土器 | 火鉢 | [37.8] | (7.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 突帯貼り付け 内・外面ナデ | 覆土中 | |
| 888 | 陶器 | 播鉢 | [26.4] | 10.1 | [10.6] | 精良 長石・錆釉 | 灰白・にぶい赤褐 | 普通 | 内面4条1単位の播り目 外面強いロクロ目 底部糸切り 内・外面施釉 | 覆土中層 | 15%瀬戸系 PL115 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|-----|-----|-----|-----|------------|------|-----------|
| W3 | つけ木 | 7.2 | 1.3 | 0.8 | 細い棒状 先端部炭状 | 覆土中 | 杉材カ PL124 |

第334号溝跡（452・453・459図）

位置と規模 調査区中央部のJ 6 b6～I 6 h0区に位置している。J 6 b6区から、東方向（N-78°-E）へ直線的に10m延びたのち、L字状に屈曲して北方向（N-15°-E）のI 6 h0区まで延びている。確認できた長さは26.6mで、上幅1.50～1.80m、下幅0.28～1.20m、深さ20～60cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 5層と7層に分層される。土層断面ごとに層の違いがあり、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（A-A'）

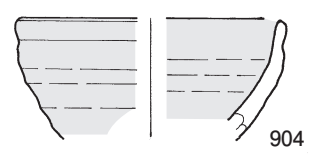
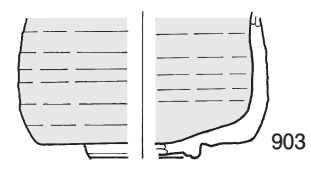
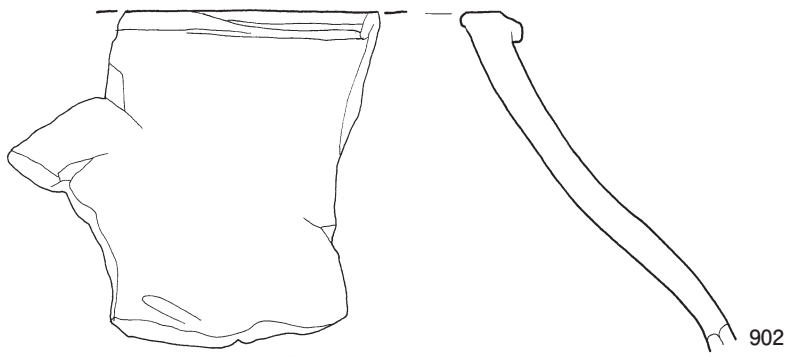
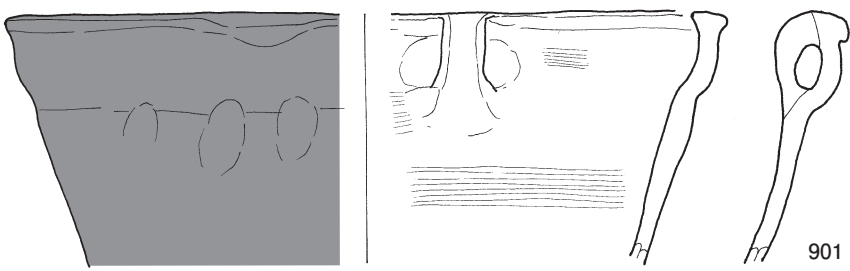
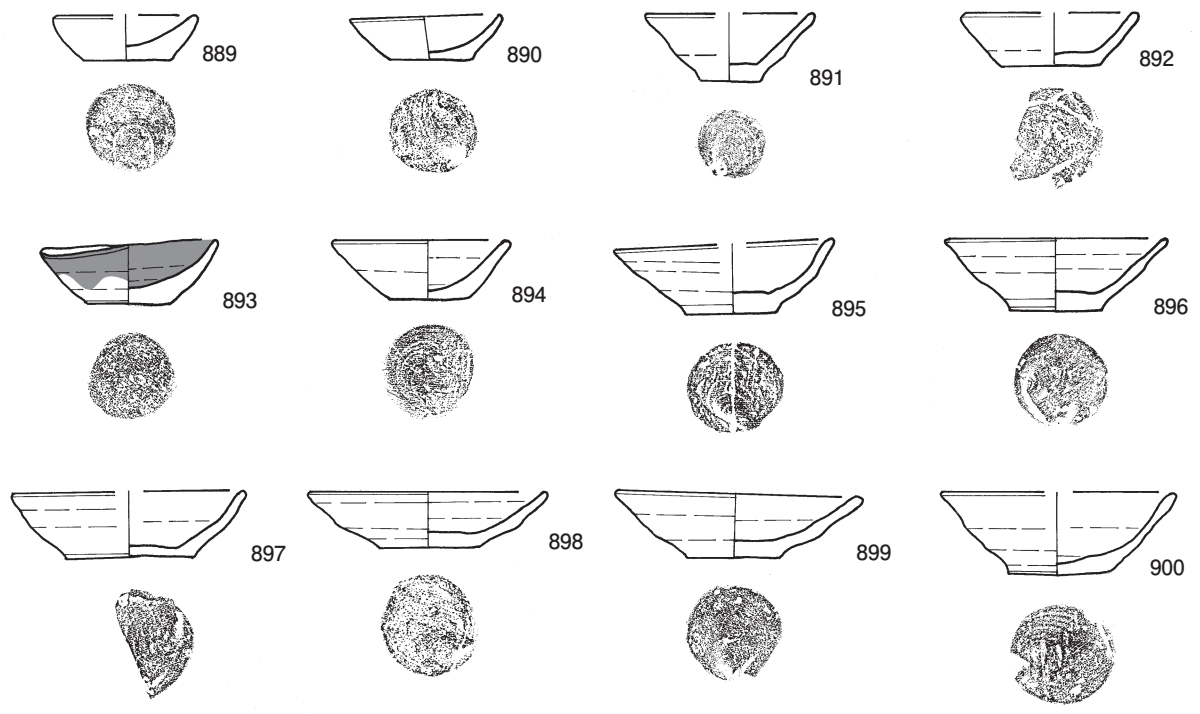
- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1 黒 褐 色 黄褐色粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 褐 灰 色 黄褐色粘土ブロック中量 |
| 2 黒 褐 色 黄褐色粘土ブロック・炭化物微量 | 5 褐 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量 |
| 3 褐 灰 色 黄褐色粘土ブロック少量 | |

土層解説（C-C'）

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1 極暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 粘土ブロック多量 |
| 3 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 明褐色粘土粒子多量（粘土が変色し、底面に雨水が溜まっていたことを示す） |
| 4 暗褐色 ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片164点（皿45、内耳鍋95、甕12、播鉢12）、陶器片6点〔碗5（天目茶碗3、不明2）、皿1〕、木製品1点（つけ木）と、流れ込んだ土師器片1点が出土している。889～906は、第324号溝との重複部に集中して出土しており、第324号溝と同時期に廃絶され、その時に廃棄されたものと考えられる。

所見 覆土と出土土器から、第324号溝と同時期に機能していたと考えられ、雨水等を第335号溝の方向に排水していたと推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第459図 第334号溝跡出土遺物実測図

第334号溝跡出土遺物観察表（第459図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|--------|-------|-----------------|--------|----|--------------------------------|------|----------------------|
| 889 | 土師質土器 | 皿 | [5.8] | 1.9 | 3.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ後ナデ 外面ロクロナデ 底部静止糸切りカ | 覆土中層 | 95% |
| 890 | 土師質土器 | 皿 | 6.1 | 1.9 | 3.4 | 長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% 成形にゆがみ |
| 891 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 2.8 | 2.7 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 80% |
| 892 | 土師質土器 | 皿 | [6.9] | 2.2 | 3.8 | 長石・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ヘラ削り | 覆土中 | 50% |
| 893 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.6 | 3.3 | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後丁寧なナデ | 覆土中 | 100% 内・外面油塵付着 成形にゆがみ |
| 894 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.4 | 3.2 | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 80% |
| 895 | 土師質土器 | 皿 | [8.3] | 3.0 | 3.9 | 長石・雲母・赤色粒子 | 明褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ | 覆土下層 | 50% |
| 896 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 2.9 | 3.7 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 65% |
| 897 | 土師質土器 | 皿 | [9.3] | 2.7 | [5.0] | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 30% |
| 898 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 2.3 | 4.0 | 長石・雲母・微塵 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70% |
| 899 | 土師質土器 | 皿 | 9.5 | 2.7 | 3.8 | 長石・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 60% |
| 900 | 土師質土器 | 皿 | [9.5] | 3.4 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 60% |
| 901 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [26.8] | (10.0) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 暗赤褐 | 普通 | 1内耳残存 内面ヘラナデ痕を残すナデ 外面指頭痕を残す横ナデ | 覆土中 | 10% 体部外面に煤付着 |
| 902 | 土師質土器 | 甕 | — | (13.6) | — | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 口辺部破片 内・外面横ナデ | 覆土中層 | |
| 903 | 陶器 | 碗 | — | (5.7) | [4.5] | 精良 長石・灰釉 | 灰白・長石釉 | 良好 | ロクロ成形 削り出し高台 灰白色の釉を施釉 志野碗 | 覆土中 | 15% 瀬戸・美濃系 |
| 904 | 陶器 | 天目茶碗 | [10.4] | (4.8) | — | 精良 鉄釉 | 灰黄褐・黒褐 | 良好 | 内・外面鉄釉 露体に錆釉 底部内面茶笕痕 | 覆土中 | 15% 瀬戸・美濃系 |
| 905 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (1.3) | 5.2 | 精良 鉄釉 | 灰黄褐・黒褐 | 良好 | 高台部破片 削り出し高台 内面鉄釉 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |
| 906 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (1.1) | [4.4] | 精良 鉄釉 | 灰白・黒褐 | 良好 | 高台部破片 削り出し高台 内面鉄釉 | 覆土中層 | 瀬戸・美濃系 |

第325号溝跡（第460～466図）

位置 調査区中央部のH 6 g0～I 6 h9区で、標高26～25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第334・344号溝跡、第1562・1563号土坑、第3号不明遺構を掘り込み、第1534号土坑に掘り込まれている。また、第258・326・328・329C号溝を切り、第241号溝に切られている。

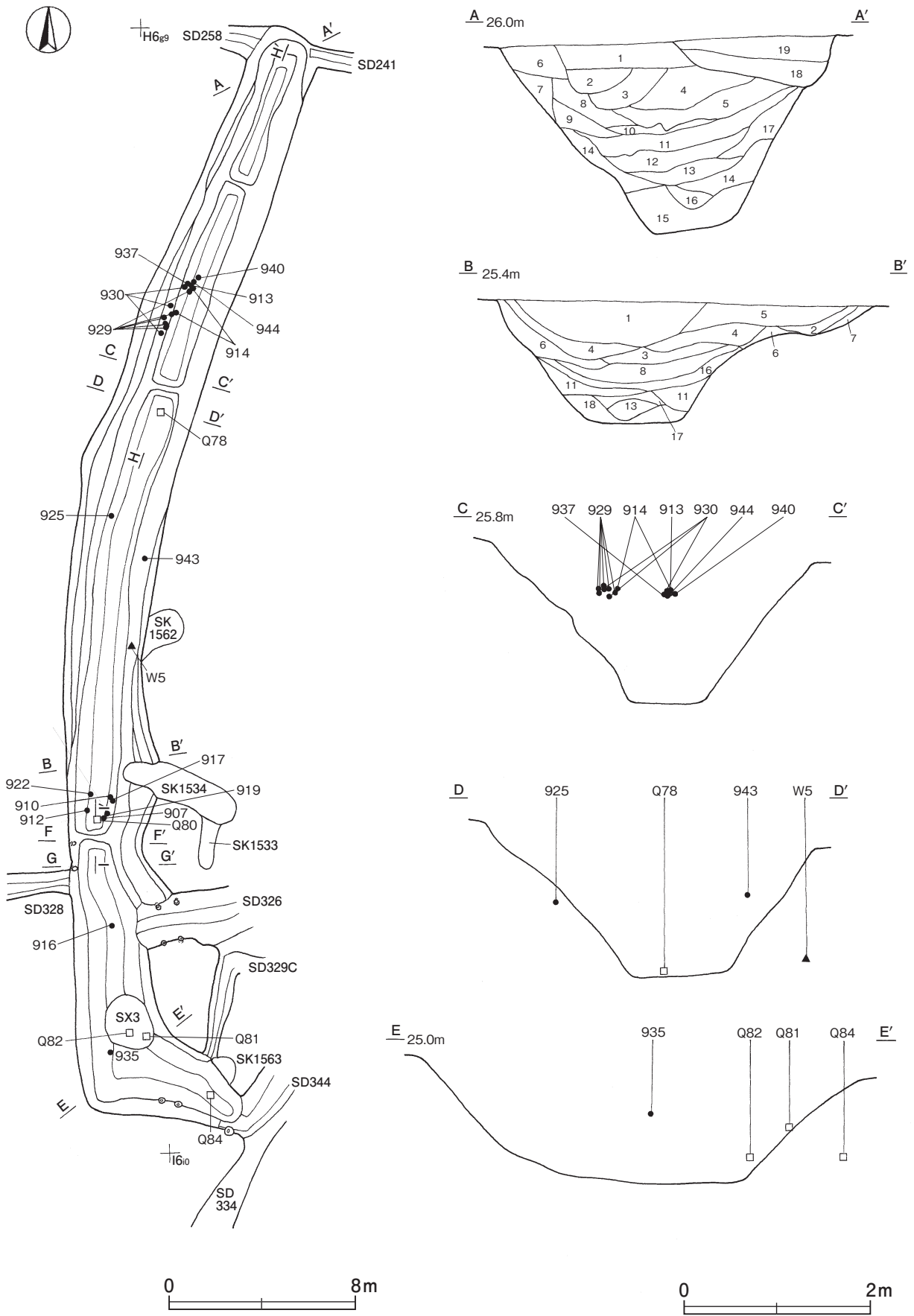
規模と形状 H 6 g0区から、南方向（N-16°-E）へほぼ直線的にI 6 h8区まで延び、さらに鉤の手状に東方向（N-84°-W）へ屈曲し、I 6 h9区で第329C・344号溝跡と連結している。長さは54.60mで、上幅2.76～4.20m、下幅0.40～1.12m、深さ80～180cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 19層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・褐色粘土粒子微量 | 11 褐 灰 色 褐色粘土粒子少量 |
| 2 灰 黄 褐 色 焼土粒子・褐色粘土粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 褐色粘土粒子中量 |
| 3 褐 灰 色 褐色粘土粒子少量 | 13 黄 灰 色 褐色粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 暗 褐 色 褐色粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 14 黄 灰 色 褐色粘土ブロック・炭化物微量 |
| 5 褐 色 褐色粘土ブロック多量 | 15 褐 色 褐色粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒 褐 色 炭化粒子・褐色粘土粒子微量 | 16 褐 灰 色 褐色粘土ブロック・炭化物微量 |
| 7 にぶい黄褐色 褐色粘土ブロック多量、ローム粒子微量 | 17 黄 灰 色 褐色粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐 灰 色 ロームブロック・褐色粘土ブロック微量 | 18 黄 灰 色 褐色粘土粒子微量 |
| 9 褐 色 褐色粘土ブロック中量、炭化物微量 | 19 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・褐色粘土粒子微量 |
| 10 褐 灰 色 褐色粘土ブロック少量、炭化物微量 | |

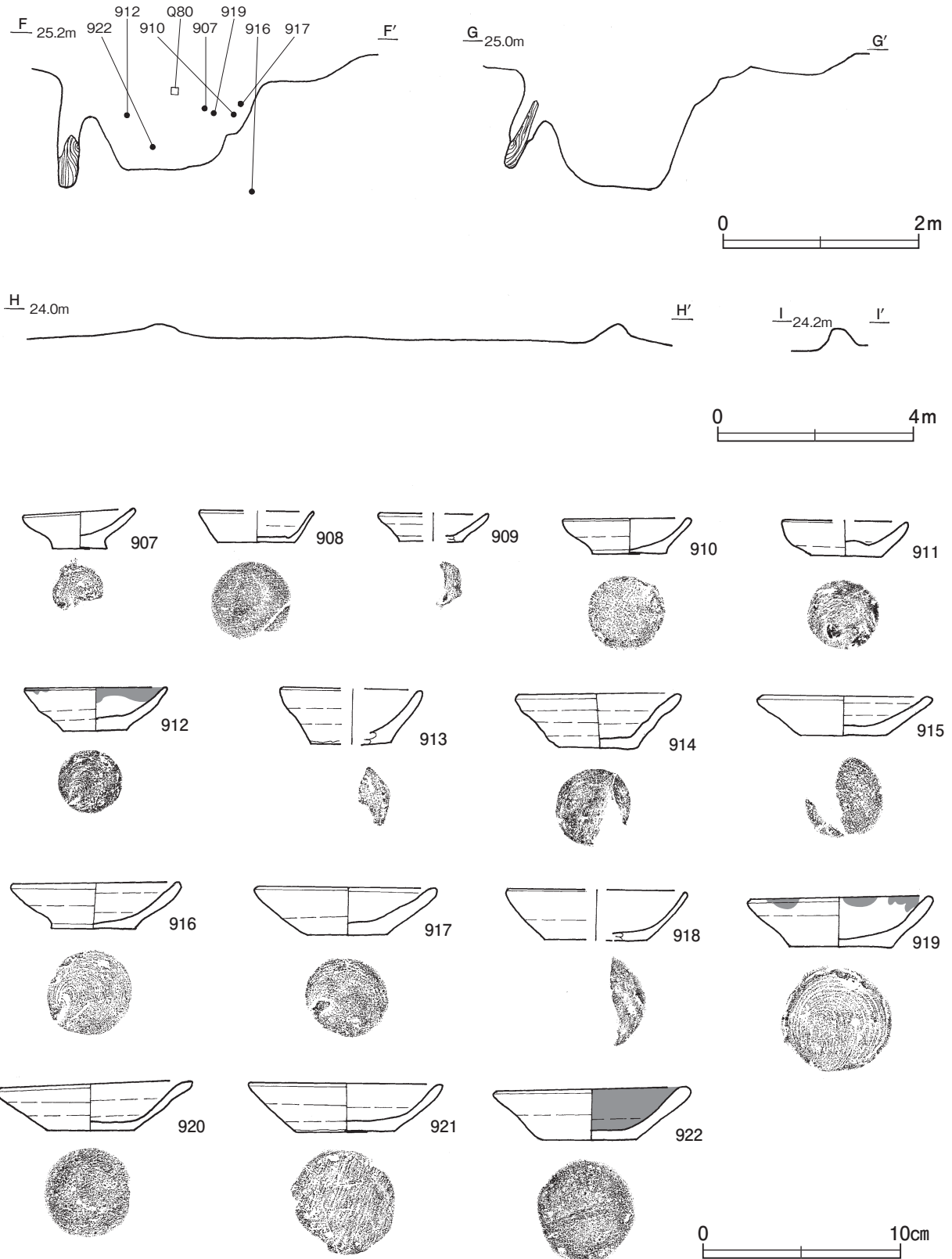
遺物出土状況 土師質土器片936点（皿193、内耳鍋類595、香炉2、甕66、播鉢74、火鉢6）、陶器片14点（皿3、常滑系甕10、常滑系片口鉢1）、青磁片1点（皿）、土製品1点（管状土錘）、石器34点（磨石2、凹石1、茶臼3、石臼11、砥石16、台石1）、石塔5点（五輪塔3、宝篋印塔2）、瓦片2点（平瓦）、漆器片2点（漆碗）、木製品3点（下駄2、不明1）、鉄滓6点、壁土片10点、粘土塊10点、木片6点、炭化材1点が出土している。この他、流れ込みや混入した縄文土器片16点、土師器片7点、須恵器片13点、近・現代瓦片4点、礫23点も出土している。907～946、DP33、Q78～84、W4～W8は、覆土下層と底面を中心とした覆土中全体から出



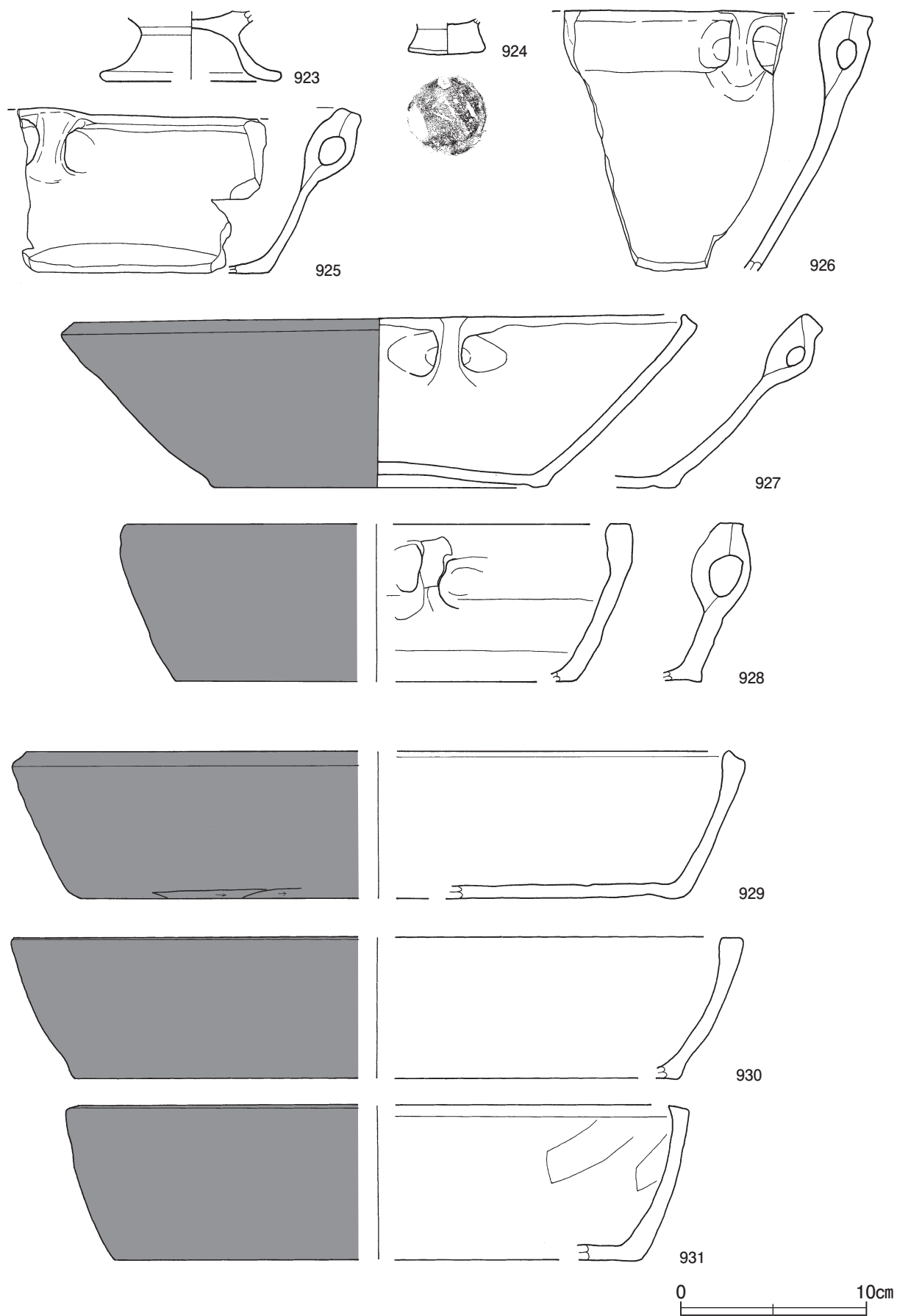
第460图 第325号溝跡実測図

土しており、屋敷域と想定される第23A・64号ピット群等の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

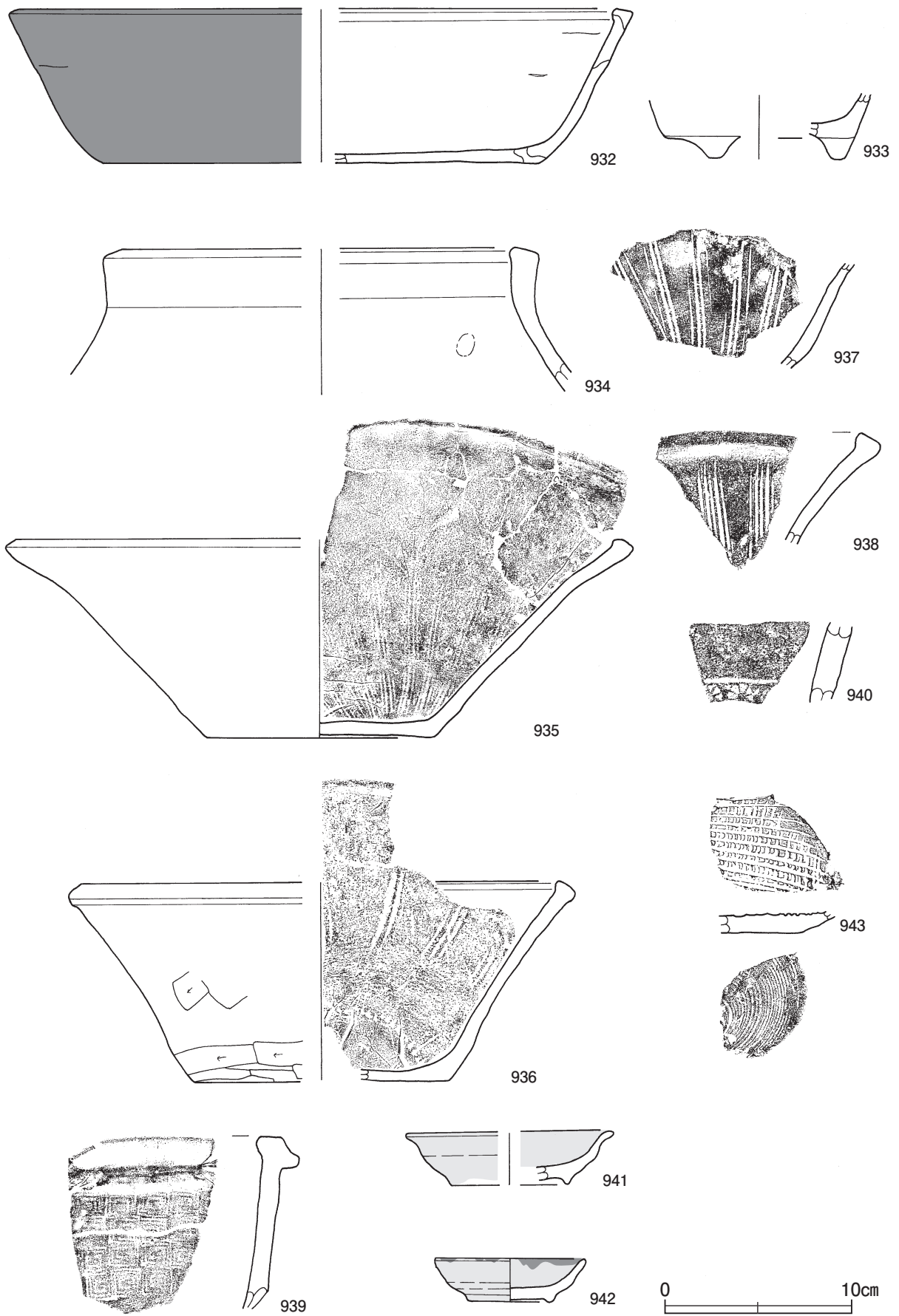
所見 中央部の西側を東西に区画する大溝で、底面には障子堀の掘り方が確認されており、排水とともに防御の機能もあったと推測される。時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



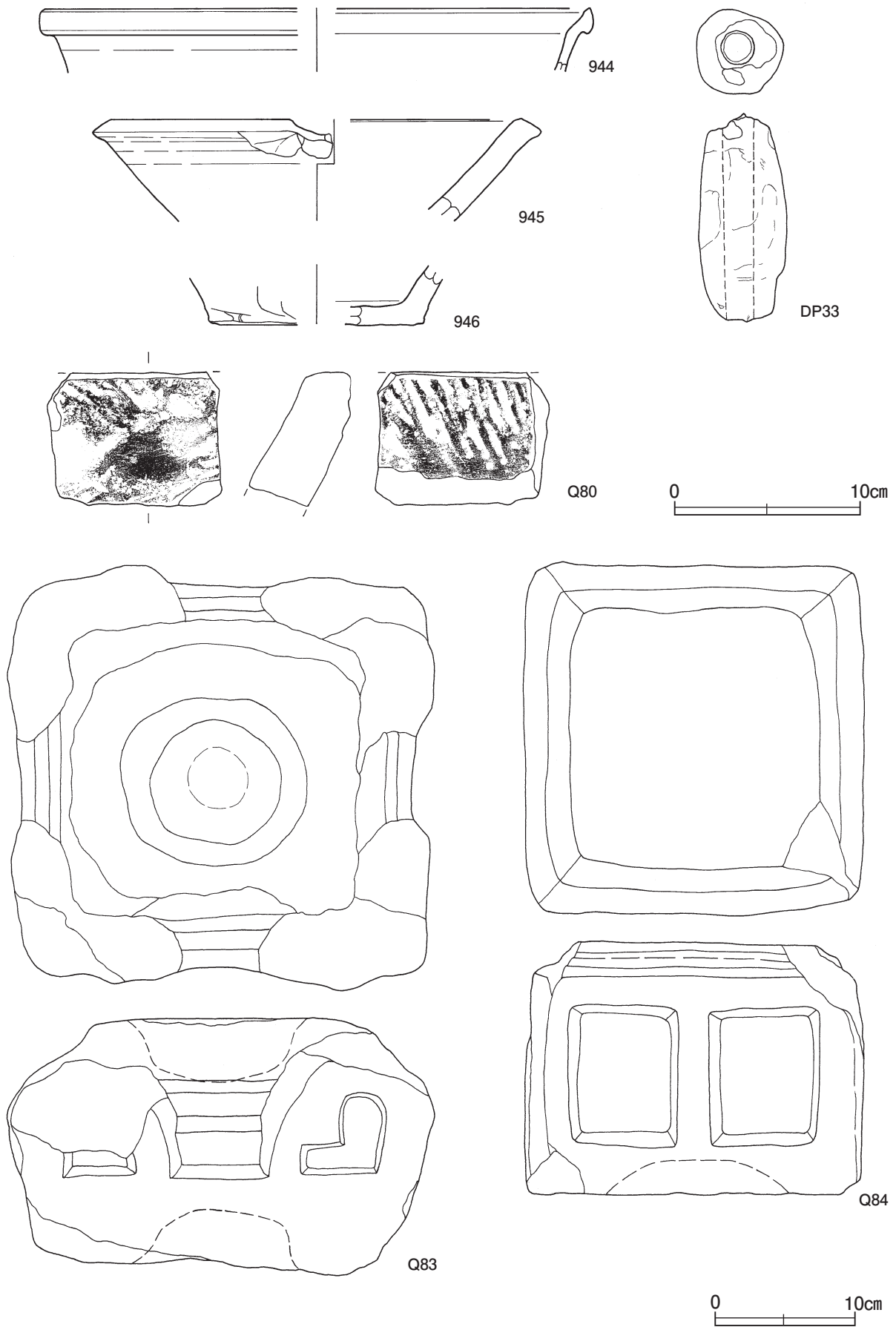
第461図 第325号溝跡・出土遺物実測図



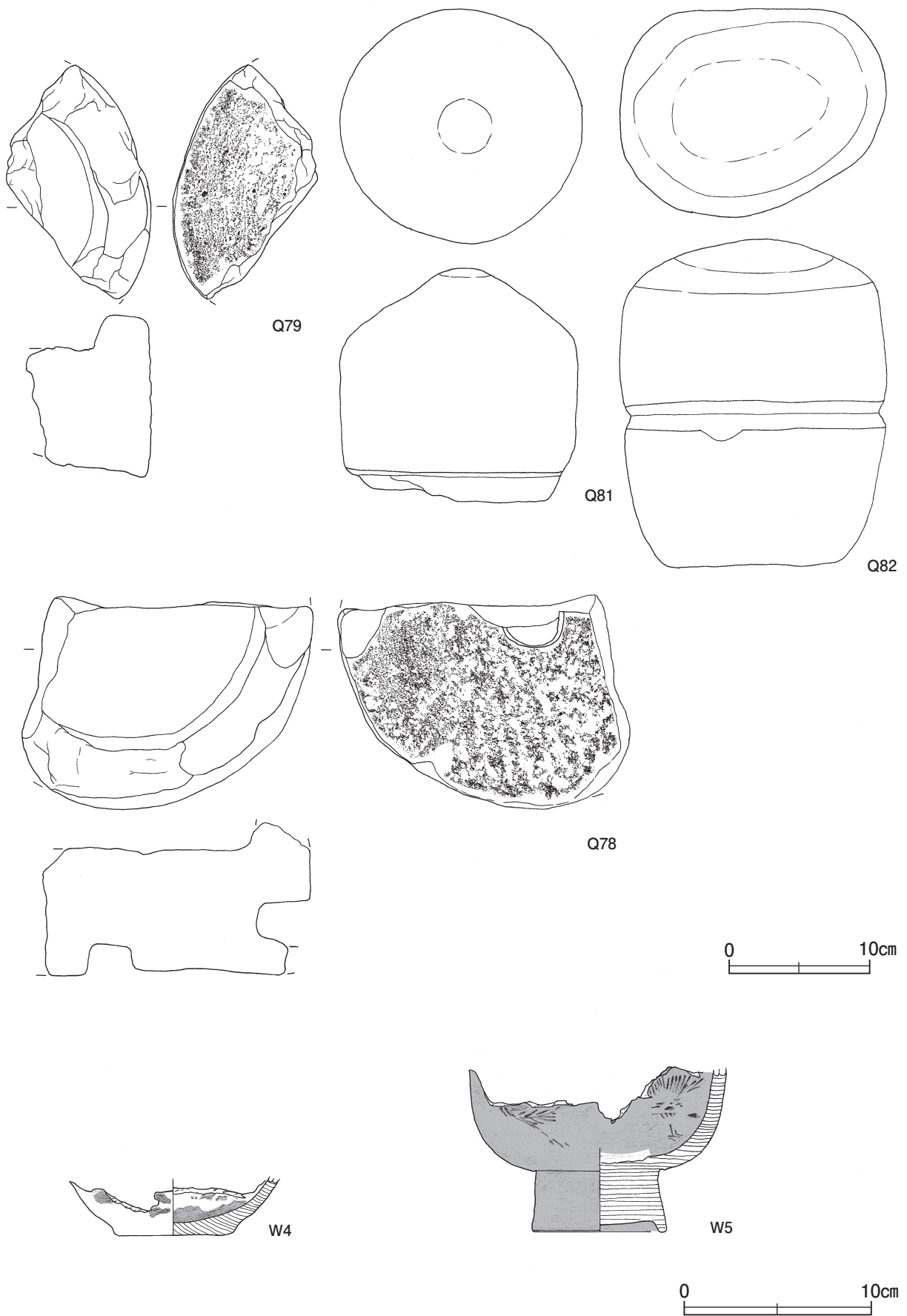
第462図 第325号溝跡出土遺物実測図(1)



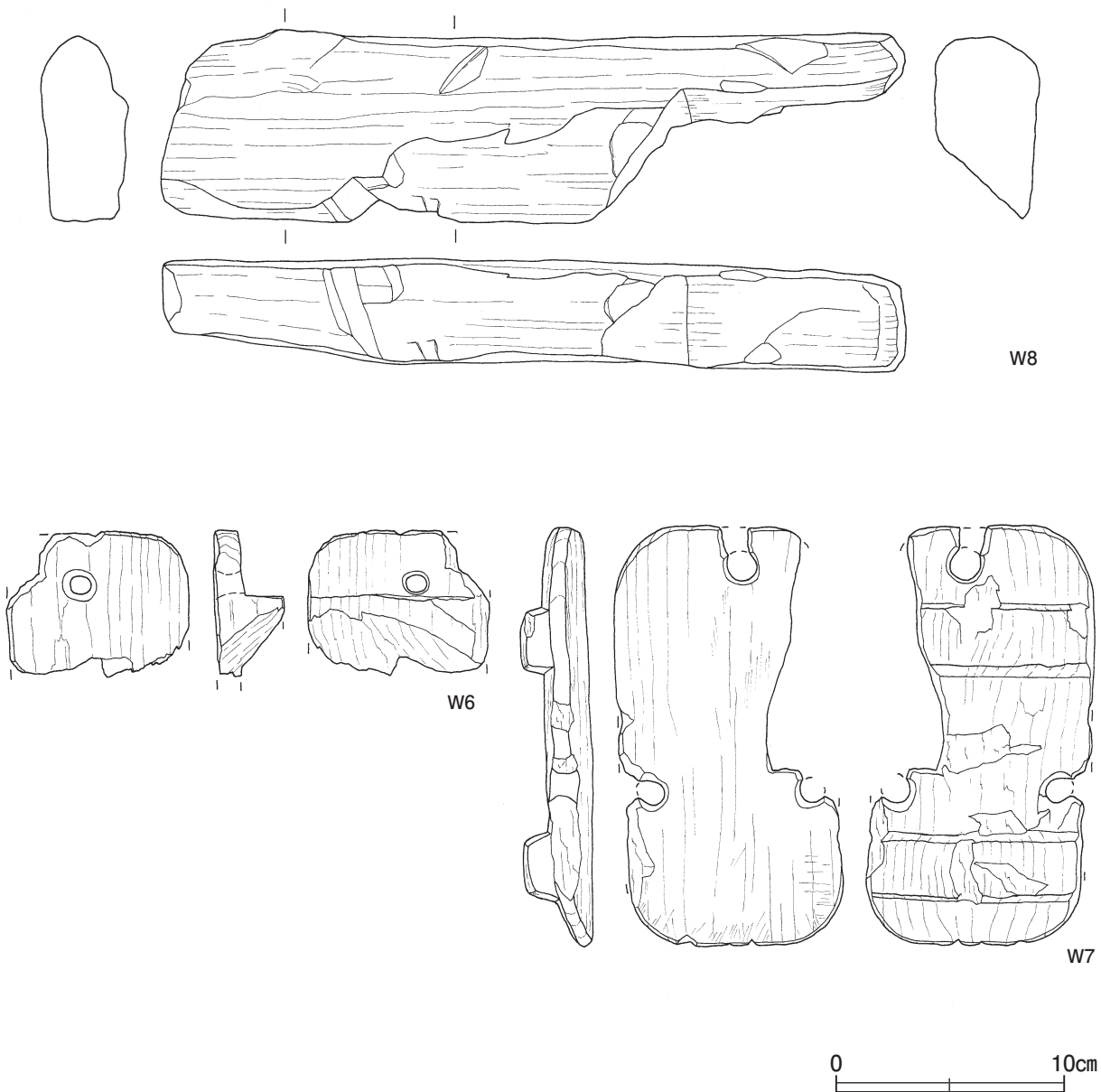
第463图 第325号沟迹出土遗物实测图(2)



第464図 第325号溝跡出土遺物実測図(3)



第465图 第325号沟迹出土遗物实测图(4)



第466図 第325号溝跡出土遺物実測図(5)

第325号溝跡出土遺物観察表 (第461 ~ 466図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|---------------|------|----|----------------------------------|-------|-------------|
| 907 | 土師質土器 | 皿 | 5.6 | 2.1 | 2.7 | 長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 成形にゆがみ | 覆土中下層 | 95% |
| 908 | 土師質土器 | 皿 | [5.7] | 1.6 | 3.8 | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 55% |
| 909 | 土師質土器 | 皿 | [5.8] | 1.5 | [3.2] | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 20% |
| 910 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 1.9 | 3.8 | 長石・雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95% |
| 911 | 土師質土器 | 皿 | [6.4] | 1.9 | 3.6 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70% |
| 912 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.3 | 3.3 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 90% 口唇部油煙付着 |
| 913 | 土師質土器 | 皿 | [7.2] | 2.8 | [4.2] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面ロクロナデ後ナデ 外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 15% |
| 914 | 土師質土器 | 皿 | 8.2 | 2.9 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 55% 成形にゆがみ |
| 915 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 2.0 | 4.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60% |
| 916 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 2.4 | 4.4 | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 底面 | 100% PL111 |
| 917 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 2.5 | 4.1 | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中下層 | 80% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----------|--------|--------|--------|----------------------|-------|----|-------------------------------------|-------------|-----------------------------|
| 918 | 土師質土器 | 皿 | [9.2] | 2.6 | [5.0] | 長石・石英・赤色 粒子・小礫 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 30% |
| 919 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 2.7 | 5.3 | 長石・石英・赤色 粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100%口唇部油 煙付着 PL111 |
| 920 | 土師質土器 | 皿 | 9.8 | 2.6 | 4.4 | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60% |
| 921 | 土師質土器 | 皿 | 10.0 | 2.5 | 5.2 | 長石・雲母・赤色 粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 75% |
| 922 | 土師質土器 | 皿 | 10.2 | 2.8 | 5.0 | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100% PL111 |
| 923 | 土師質土器 | 高台付皿 カ | — | (3.8) | [9.3] | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 高台部破片 高台部貼り付け 内・外面ナデ | 覆土中 | 30% |
| 924 | 土師質土器 | 柱状高台 皿 | — | (2.0) | 4.2 | 石英・赤色粒子 | 淡黄 | 普通 | 底部破片 外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 10% 体部内面 煤付着 |
| 925 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [34.0] | 8.9 | [30.0] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土中 | 15% 体部外面 煤付着 |
| 926 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [33.4] | (14.0) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土中 | 10% 体部外面 煤付着 |
| 927 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 33.0 | 9.4 | [17.7] | 長石・石英・雲母・ 赤色粒子・小礫 | にぶい褐 | 普通 | 2内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土中 | 45% 体部外面 煤付着 |
| 928 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [27.5] | 8.6 | [21.7] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土中 | 10% 体部外面 煤付着 |
| 929 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [38.2] | 8.0 | [32.4] | 長石・石英・ 雲母・小礫 | 橙・褐 | 普通 | 内面ナデ 外面ナデ 下端ヘラ削り 底部ナデ | 覆土下層 | 20%焙烙カ 体 部外面煤付着 |
| 930 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [39.6] | 7.7 | [32.9] | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 内・外面ナデ | 覆土下層・ 底面 | 10%体部外面煤 付着 焙烙カ |
| 931 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.0] | 8.4 | [28.8] | 長石・石英・ 雲母・小礫 | 暗褐 | 普通 | 内面から口縁部外面ヘラナデ後横ナデ | 覆土中 | 10% 体部外面 煤付着 |
| 932 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.0] | 8.3 | [23.5] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 内面から口縁部外面輪積み痕を残すナデ | 覆土中 | 20% 体部外面 煤付着 |
| 933 | 土師質土器 | 香炉 | — | (3.5) | [10.4] | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 底部破片 3足脚カ 1足残存 底部貼り付け後ナデ | 覆土中 | 10% |
| 934 | 土師質土器 | 甕 | [21.2] | (7.8) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内・外面ナデ 内面に指頭痕を残す | 覆土中 | |
| 935 | 土師質土器 | 播鉢 | [32.6] | 10.7 | 12.4 | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 4条1単位の 播り目 外面ナデ | 覆土中下層 | 25% |
| 936 | 土師質土器 | 播鉢 | [25.7] | 10.7 | [13.8] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 3条1単位の 播り目 外面ヘラ削り後ナデ | 覆土中 | 20% |
| 937 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.6) | — | 雲母・赤色粒子・ 小礫 | 灰褐 | 普通 | 体部破片 4条1単位の播り目 | 底面 | |
| 938 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.9) | — | 雲母・赤色粒子・ 小礫 | 灰褐 | 普通 | 体部破片 口唇部内側につまみ出し 5 条1単位の播り目 | 覆土中 | |
| 939 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (9.2) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面に菱形文押印 | 覆土中 | |
| 940 | 瓦質土器 | 火鉢 | — | (4.0) | — | 長石・石英・ 雲母・礫 | 褐灰 | 普通 | 体部外面にスタンプ文押印 | 覆土中 | 2次焼成 |
| 941 | 陶器 | 灰釉皿 | [10.9] | 2.9 | [6.3] | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 底部削り出し高台 内・外面施釉 貫入 | 覆土中 | 20%瀬戸・美濃 系 |
| 942 | 陶器 | 皿 | 8.1 | 2.4 | 4.6 | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 削り出し高台 畳付を除き全面に施釉 底部内面にトチン付着 | 底面 | 95%口唇部全面付着物 瀬戸・美濃系 PL115 |
| 943 | 陶器 | 卸目付皿 | — | (1.2) | [8.4] | 精良 | 灰オリーブ | 良好 | 卸目の破片 底部糸切り | 覆土中中層 | 瀬戸・美濃系 PL114 |
| 944 | 陶器 | 甕 | [29.2] | (3.3) | — | 長石・砂粒 | 灰褐・褐釉 | 良好 | 口辺部片 内・外面ナデ | 底面 | 常滑系カ |
| 945 | 陶器 | 片口鉢 | [22.1] | (5.5) | — | 長石・石英 | にぶい赤褐 | 良好 | 内外面ロクロナデ 口辺部破片 片口 残存 内面滑らか 外面ナデ | 覆土中 | 常滑系 |
| 946 | 陶器 | 片口鉢 | — | (3.3) | [11.6] | 長石 | 暗赤褐 | 良好 | 底部破片 内面滑らか 外面下端横位の 調整痕 | 覆土中 | 常滑系カ |

| 番号 | 器種 | 長さ | 孔径 | 幅 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|--------|-----|-----|---------|----|-----------|------|----|
| DP33 | 管状土錘 | (11.1) | 1.5 | 4.6 | (220.5) | 土製 | 全面ナデ 一部欠損 | 底面 | |

| 番号 | 器種 | 径・長さ | 孔径・幅 | 厚さ・高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|--------------|--------|--------|-------------|---------|-----|-----------------------------------|-------|-------|
| Q78 | 石臼 (上臼) | [26.2] | [3.8] | 11.9 | (3304) | 安山岩 | 軸受け横打込孔残存 裏側 条 単位の播り目 | 底面 | PL116 |
| Q79 | 石臼 (上臼) | [27.4] | — | 11.5 | (1462) | 安山岩 | 裏側6条1単位の播り目 くぼみに酸化第二鉄(ベンガラ) 付着 | 底面 | |
| Q80 | 石鍋 | — | (7.2) | 2.6~ 3.4 | (485) | 砂岩 | 口辺部の破片 内面播り目 外面調整痕 砥面2面 | 底面 | 砥石転用 |
| Q81 | 五輪塔 (空輪) | 17.2 | 16.5 | (16.6) | (6200) | 花崗岩 | 頭頂部・風輪部欠損 空輪部片 | 底面 | |
| Q82 | 五輪塔 (空風輪) | (14.8) | 18.9 | 23.2 | (9800) | 花崗岩 | 空輪と風輪のくびれ明瞭 風輪の一部欠損 断面楕円形 | 底面 | |
| Q83 | 宝篋印塔 (笠) | (30.2) | (30.3) | (18.2) | (21900) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 隅飾突起四方欠損 | 覆土中下層 | PL117 |
| Q84 | 宝篋印塔 (基礎) | 24.9 | 24.1 | 17.9 | (22300) | 花崗岩 | 風化により表面が脆い 角2か所欠損 | 底面 | PL117 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|----|----|-------|-------|-----|--|------|-------|
| W4 | 漆器 | 椀 | — | (3.1) | [6.1] | ブナ材 | 横木取り 高台をわずかに削り出す 外面黒漆に朱漆の文 様痕カ 内面黒漆塗布後朱漆を塗布 | 覆土中 | PL126 |
| W5 | 漆器 | 椀 | — | (8.8) | 7.3 | ブナ材 | 横木取り 削りだし高台設置面摩滅 外面黒漆を塗布後線 刻と朱漆の文様 内面黒漆塗布後朱漆を塗布 | 底面 | PL126 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|----|----|-------|-------|-----|--|------|----------|
| W6 | 下駄 | (6.5) | (8.1) | 3.1 | 連歯下駄の前歯部分破片 鼻緒孔の口径1.3cm | 覆土中 | 右足 |
| W7 | 下駄 | 18.6 | 10.2 | 3.2 | 連歯下駄 鼻緒孔の口径1.5cm 横緒孔の口径1.3cm 前歯・後歯とも磨減 | 覆土中 | 左足 PL124 |
| W8 | 不明 | 32.8 | 8.6 | 4.6 | 鋸の引目痕 手斧か槍鉋による調整痕 | 底面 | 杉材カ |

第335号溝跡（第467～470図）

位置 調査区中央部の I 7j3～I 7i4区で、標高25～26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第334・344号溝を切り、第339号溝に切られている。

規模と形状 I 7j3区から、北西方向（N-55°-W）へ直線的に I 6h0区まで延び、U字状に屈曲して I 6g0区から東方向（N-116°-E）の I 7i4区まで直線的に延びている。長さは32.7mで、上幅1.5～2.38m、下幅0.46～1.7m、深さ48～82cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

木橋跡 2か所。西端の屈曲した部分に確認されている木橋跡は、柱穴が6か所で確認され、深さは18～65cmである。北東部に確認されている木橋跡は、柱穴が4か所で確認され、深さは38～48cmである。

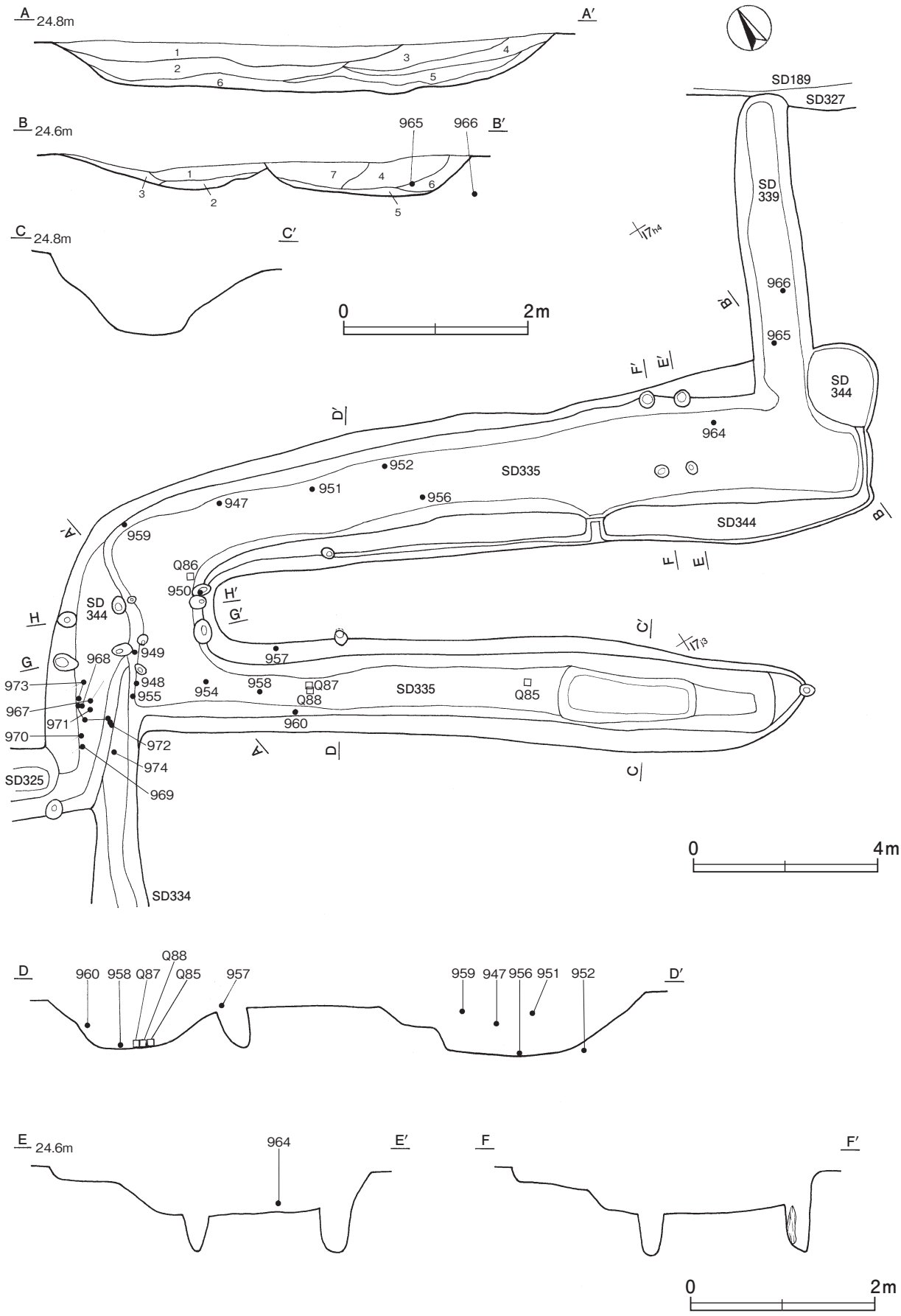
覆土 6層に分層される。含有物と遺物の出土状況から、人為堆積と考えられる。重複する第399号溝と覆土が類似していることから、同時期に埋没したと考えられる。

土層解説（A-A'，B-B'）

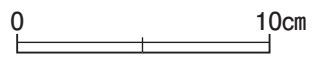
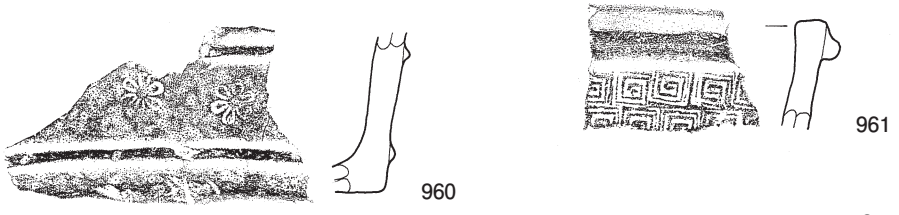
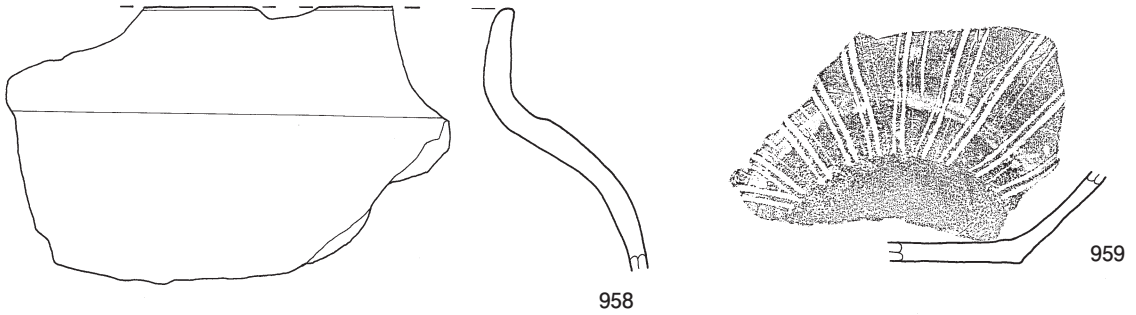
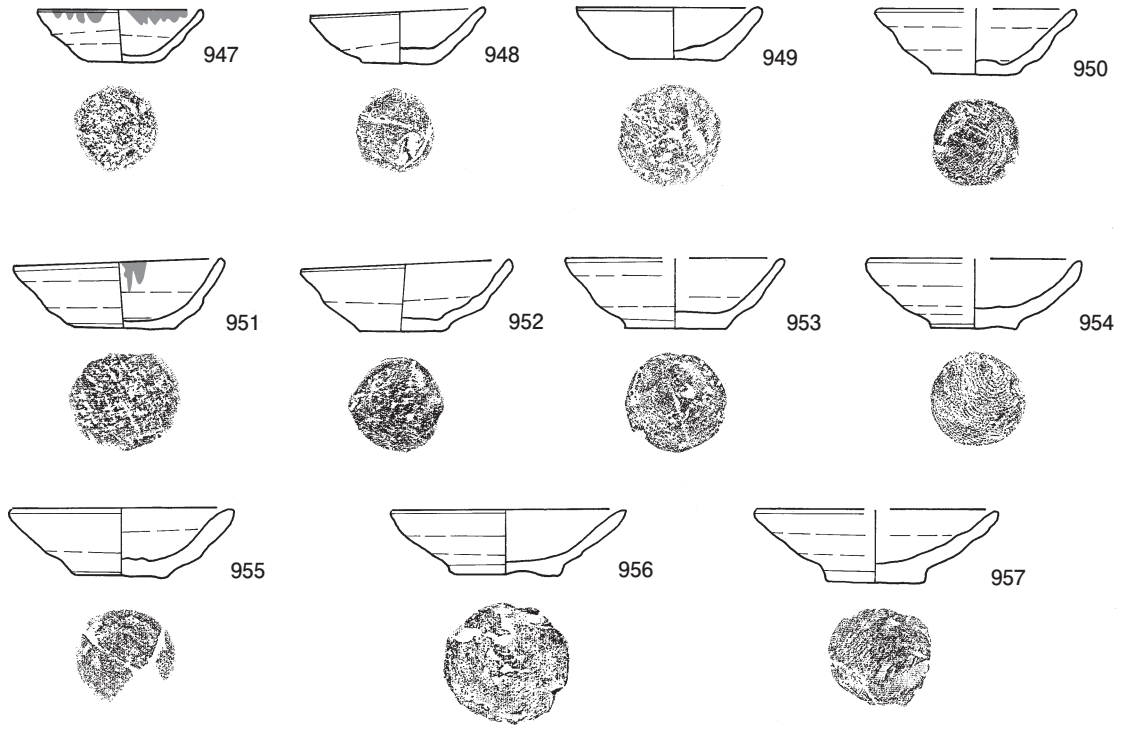
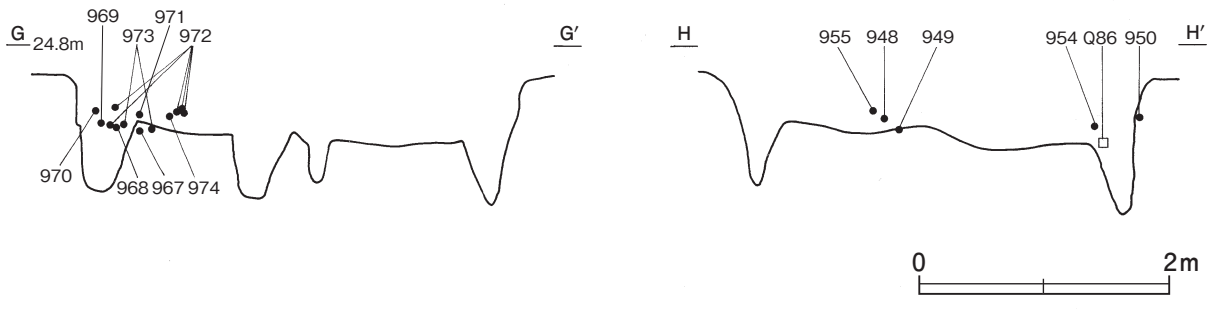
- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 褐色粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 褐色粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 6 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒微量 |

遺物出土状況 土師質土器片643点（皿146，内耳鍋類422，香炉5，甕25，播鉢39，火鉢5，茶釜1），陶器片14点（天目茶碗2，皿5，常滑系甕5，常滑系口鉢1，瀬戸系播鉢1），石器21点（磨石3，石臼10，砥石8），石塔8点（五輪塔6，宝篋印塔2），炉石カ1点，鉄製品1点（不明），粘土塊3点，木片5点が出土している。この他、流れ込んだ縄文土器片27点，須恵器片6点，礫66点も出土している。U字状に屈曲した部分から北部と南部に分けて出土状況を見ると、北部からは土師質土器片427点，陶器片9点，石器9点，石塔1点，鉄製品1点，粘土塊3点，木片2点と，流れ込みの縄文土器片10点，礫15点が出土している。一方，南部からは土師質土器片216点，陶器片5点，石器12点，石塔7点，炉石カ1点，木片3点と，流れ込みの縄文土器片17点，須恵器片6点，礫51点が出土している。土師質土器の破片数に差があるものの，土器と遺物の様相は類似しており，本溝の廃絶に伴って一括廃棄されたものと考えられる。全体から散在して出土している 947～964，Q85～Q88も，同様に廃棄されたと想定される。

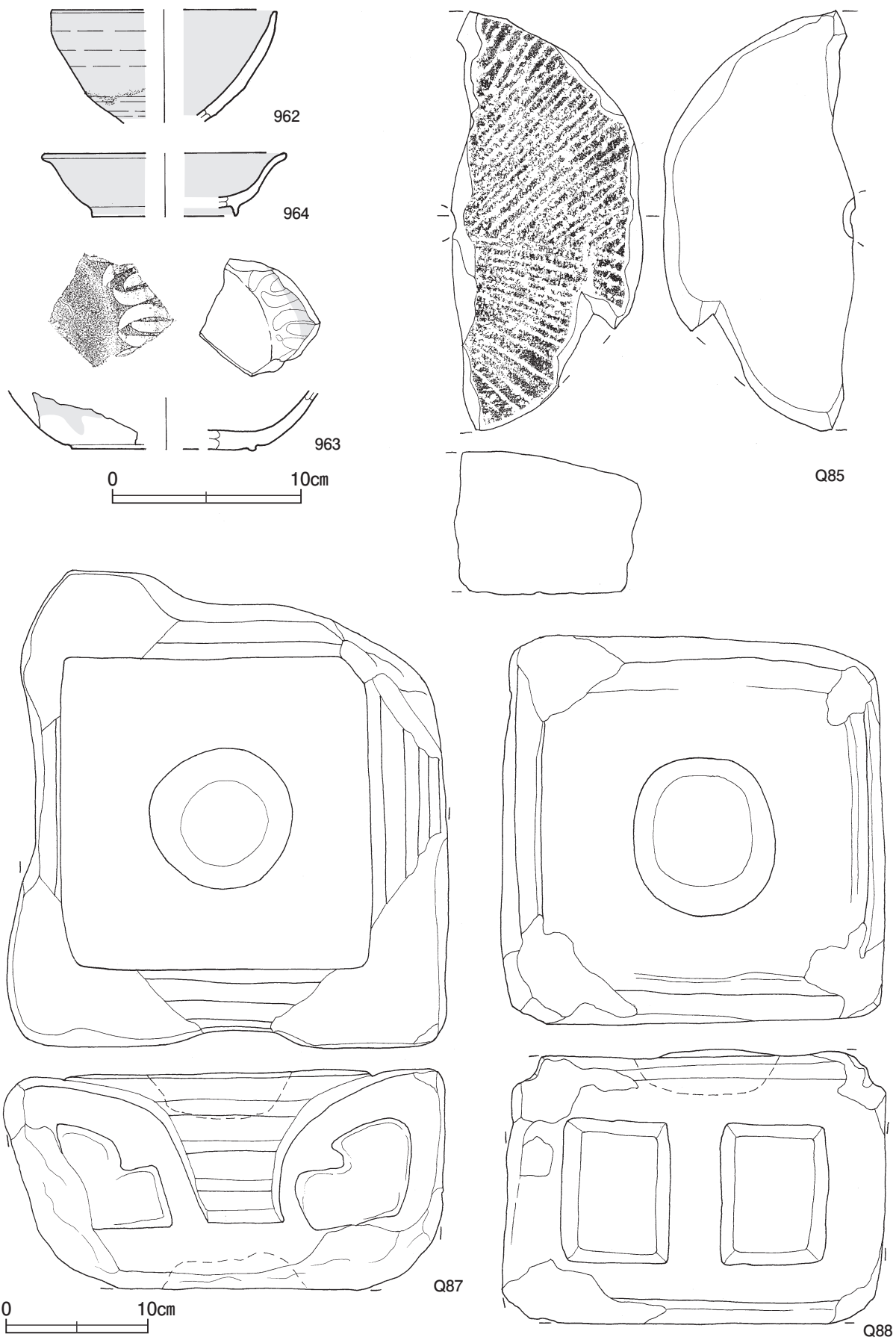
所見 第344号溝を全体的に掘削しており，掘り返しをしたものと推測される。形状は，M6e2区に位置している第135号溝やJ7a0区に位置している第185号溝と酷似しており，木橋跡からも，防御性の機能を持った溝と考えられる。また，本溝と同様に第135・185号溝からも石塔が複数確認されており，周辺に関連する遺構が存在する可能性が想定される。時期は，覆土土層から第334・344号溝と同時期と推察され，出土土器から16世紀後半と考えられる。



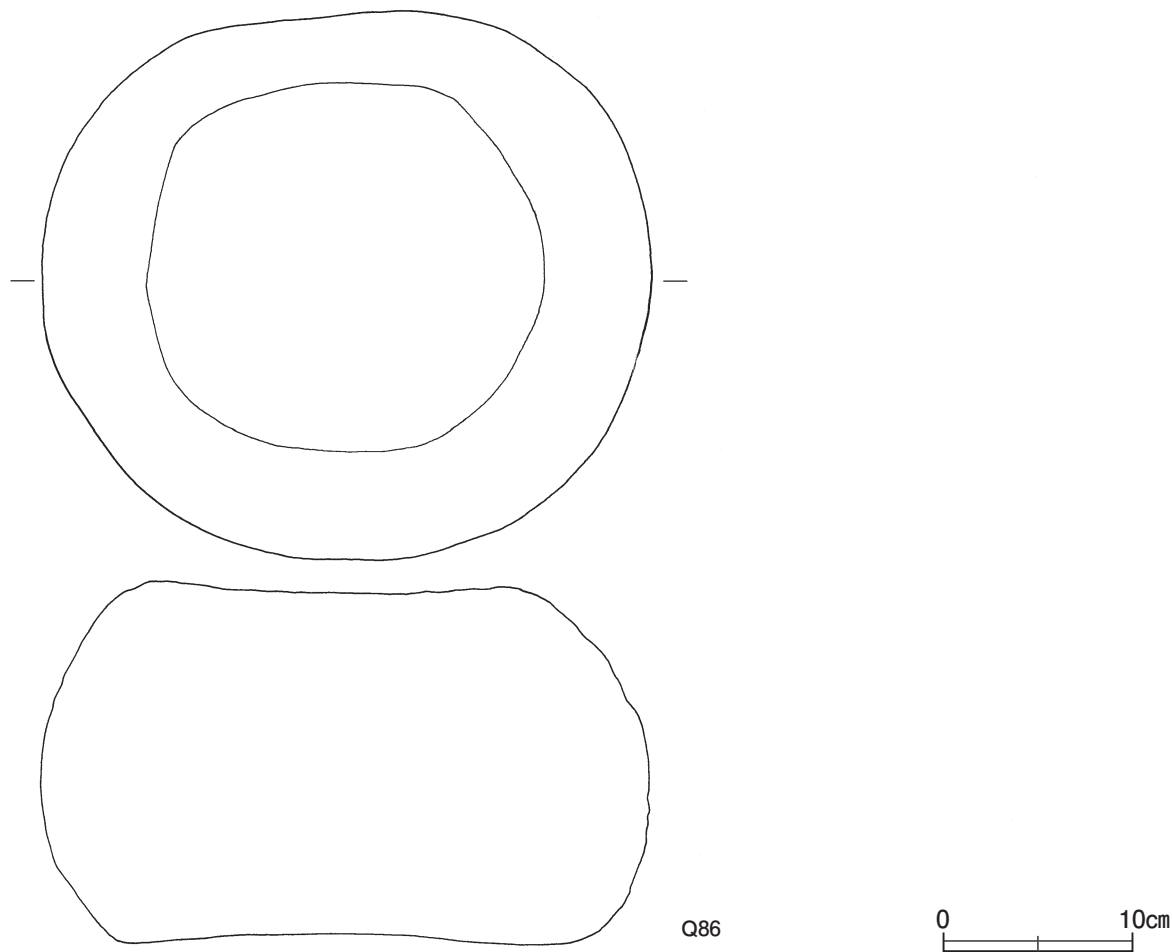
第467图 第335·339·344号沟迹实测图



第468图 第335·344号溝跡，第335号溝跡出土遺物実測図



第469图 第335号沟迹出土遗物实测图(1)



第470図 第335号溝跡出土遺物実測図(2)

第335号溝跡出土遺物観察表 (第418 ~ 470図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|--------|--------|--------------------|-------|----|--------------------------------------|-------|--------------------|
| 947 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 2.2 | 2.8 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 80% 口辺部油煙付着 PL111 |
| 948 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.4 | 3.0 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 80% 成形にゆがみ |
| 949 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.2 | 3.8 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 80% |
| 950 | 土師質土器 | 皿 | [7.8] | 2.6 | 3.4 | 長石・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 80% |
| 951 | 土師質土器 | 皿 | 8.2 | 2.9 | 4.0 | 長石・石英・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 50% 口辺部油煙付着 成形にゆがみ |
| 952 | 土師質土器 | 皿 | 8.3 | 2.9 | 3.4 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 75% |
| 953 | 土師質土器 | 皿 | [8.6] | 2.8 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中下層 | 35% |
| 954 | 土師質土器 | 皿 | [8.6] | 2.8 | 3.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 60% |
| 955 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 2.7 | 3.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 50% |
| 956 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 2.6 | 4.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 100% PL111 |
| 957 | 土師質土器 | 皿 | [9.6] | 2.9 | 3.8 | 長石・石英・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 60% |
| 958 | 土師質土器 | 壺 | — | (10.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口辺部から体部の破片 内・外面ナデ | 覆土下層 | |
| 959 | 土師質土器 | 搦鉢 | — | (3.6) | [14.2] | 長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底面ヘラナデ痕を残すナデ 4条1単位の搦り目 外面ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 960 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (6.4) | [29.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐灰 | 普通 | 内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印 | 覆土下層 | |
| 961 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (4.4) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印 | 覆土中 | |
| 962 | 陶器 | 天目茶碗 | [12.1] | (5.9) | — | 精良 鉄釉 | 灰白・黒褐 | 良好 | 内・外面に施釉 露体に錆釉 | 覆土中 | 35% 瀬戸・美濃系 |
| 963 | 陶器 | 緑釉皿 | — | (3.3) | [9.8] | 精良 透明釉 | 灰白・透明 | 良好 | 低い削りだし高台 内面口辺部花文の削りだしに施釉 底部の割れ口に砥面あり | 覆土中 | 10% 瀬戸・美濃系 転用砥石カ |
| 964 | 白磁 | 皿 | [13.0] | 3.4 | [7.6] | 精良 透明釉 | 灰白・透明 | 良好 | 削りだし高台 内・外面施釉 | 覆土下層 | 10% PL126 |

| 番号 | 器種 | 径・長さ | 孔径・幅 | 厚さ・高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----------------|--------|--------|-------|---------|-----|------------------|------|-------|
| Q85 | 石臼 (下臼) | [29.6] | [3.6] | 9.9 | (4600) | 安山岩 | 受け部播り目の単位不規則 | 底面 | |
| Q86 | 五輪塔 (塔身・水輪) | 32.0 | 28.8 | 19.1 | (25800) | 花崗岩 | 表面風化 上下が平らな扁平な球形 | 底面 | PL117 |
| Q87 | 宝篋印塔 (笠) | (33.5) | (31.0) | 15.6 | (23400) | 花崗岩 | 隅飾突起1か所欠損 | 覆土下層 | PL117 |
| Q88 | 宝篋印塔 (基礎) | (27.2) | (27.1) | 19.4 | (27700) | 花崗岩 | 全ての角欠損 | 覆土下層 | PL117 |

第339号溝跡 (第467・471図)

位置と規模 調査区中央部の I 7 g5 ~ I 7 i4区に位置している。I 7 g5区から、南西方向 (N-154°-W) へ直線的に I 7 i4区まで延び、第335号溝を切っている。長さは7.1mで、上幅1.2 ~ 1.35m、下幅0.6 ~ 0.94m、深さ44 ~ 58cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

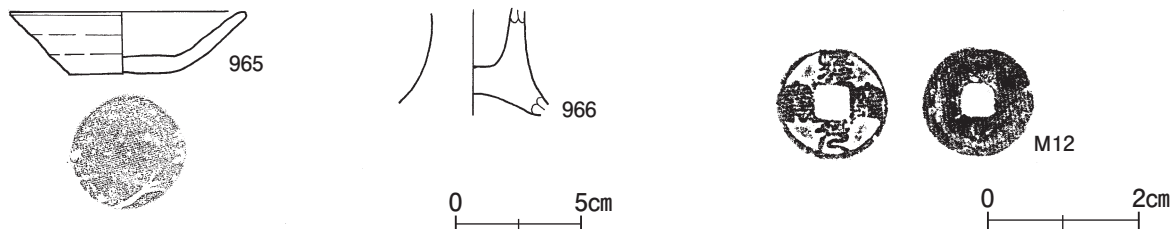
覆土 4層に分層される。含有物と遺物の出土状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説 (B-B')

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 4 褐 色 褐色粘土ブロック中量, ローム粒子微量 | 6 黒 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 5 黒 褐 色 褐色粘土ブロック・ローム粒子少量 | 7 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片76点 (皿18, 内耳鍋類54, 甕3, 花瓶カ1), 陶器片2点 (常滑系甕), 磁器片1点 (皿), 石器1点 (石臼), 古銭1点 (熙寧元寶) が出土している。その他、縄文土器片3点, 礫2点も出土している。

所見 第335号溝に雨水等を排水していたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第471図 第339号溝跡出土遺物実測図

第339号溝跡出土遺物観察表 (第471図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-----|-------|-----|---------------|-----|----|---------------------------|------|-----|
| 965 | 土師質土器 | 皿 | 9.3 | 2.6 | 4.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土下層 | 90% |
| 966 | 土師質土器 | 花瓶カ | — | (4.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 脚部片カ 体部内・外面ナデ | 底面 | 15% |

| 番号 | 銭種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|------------|------|-------|
| M12 | 熙寧元寶 | 2.2 | 0.6 | 2.0 | 1068 | 銅 | 北宋銭 篆書 無背銭 | 覆土中 | PL123 |

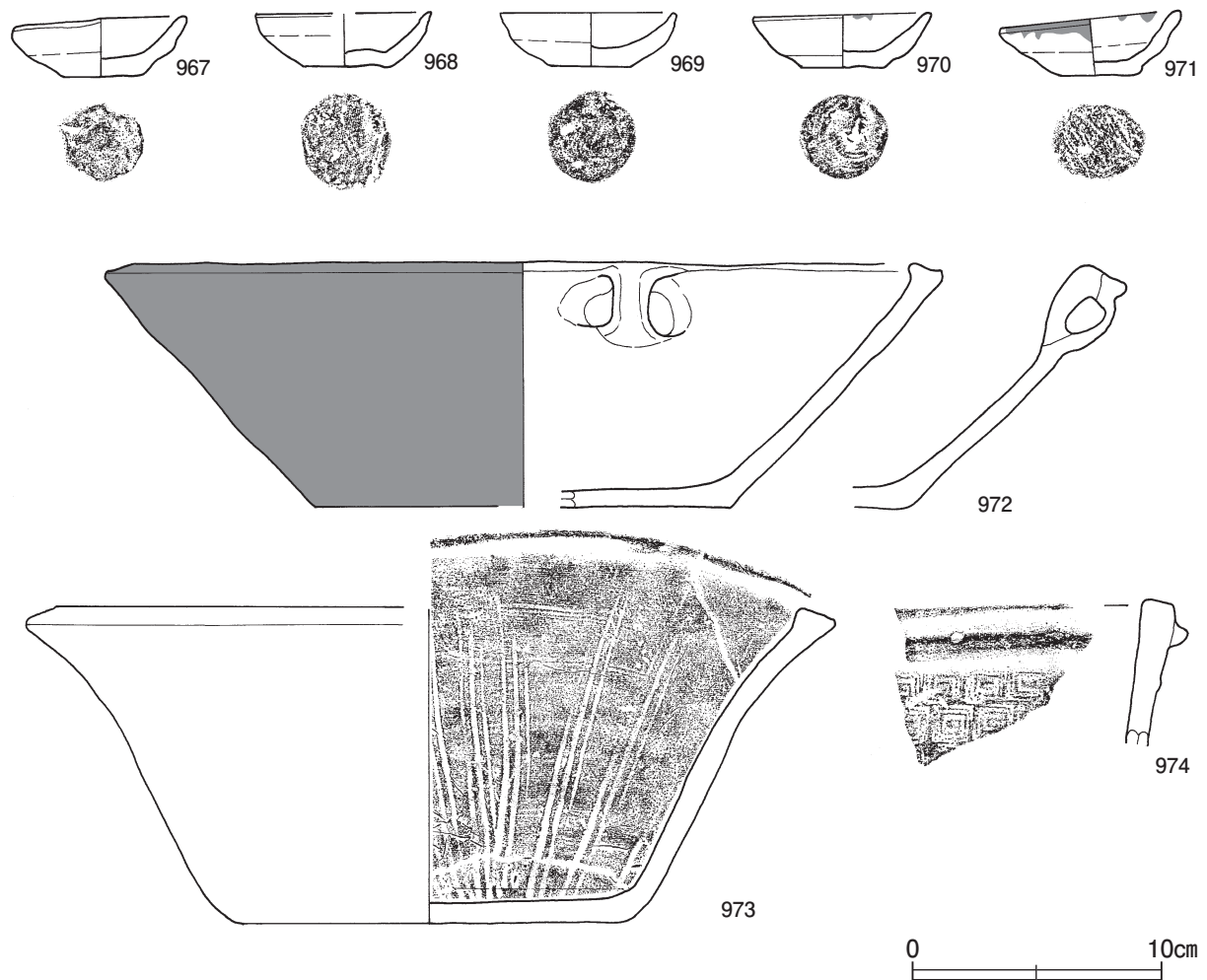
第344号溝跡 (第467・468・472図)

位置と規模 調査区中央部の I 7 i4 ~ I 6 h9区に位置している。I 7 i4区から、西方向 (N-65°-W) へ直線的に延びたのち、鉤の手状に屈曲して I 6 h9区で、第325号溝に繋がっている。確認できた長さは23.5mで、上幅1.6 ~ 3.84m、下幅は確認できず不明、深さ16 ~ 40cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 第335号溝との重複部土層（A - A'）の第4～6層と共通し，3層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片91点（皿25，内耳鍋60，播鉢5，火鉢1），陶器片1点（瓶カ），石器1点（砥石）が出土している。この他，土師器片1点，礫1点も確認されている。967～974は，第335号溝に掘り込まれた西端の地点に集中的に出土しており，本跡の廃絶に伴って一括投棄されたものと考えられる。

所見 大きく第335号溝に掘り込まれており，掘り返しがなされたと推測される。第335号溝で確認された木橋跡は本溝との重複部で確認されていることから，溝が同時期に機能していたことを示している。時期は，出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



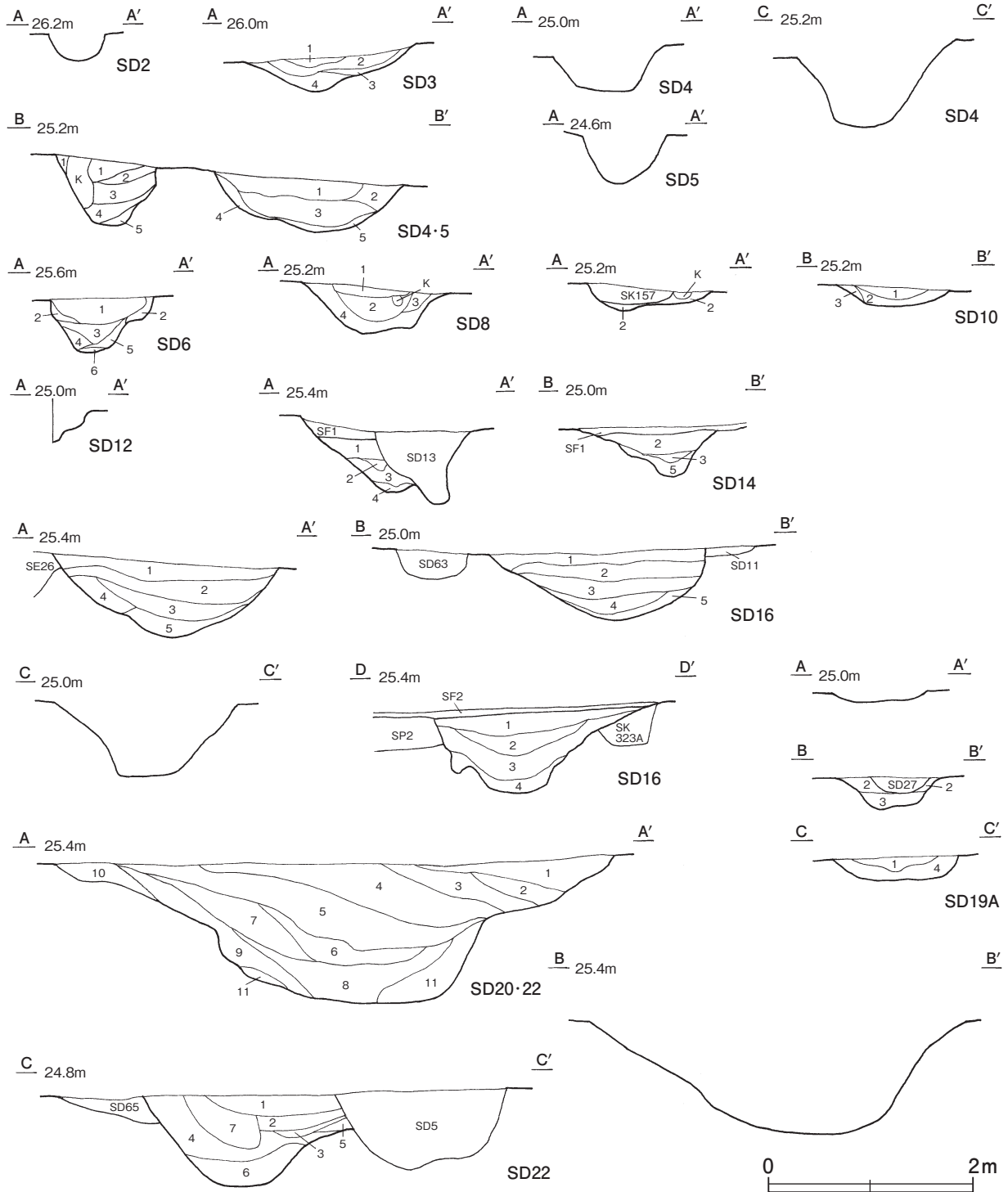
第472図 第344号溝跡出土遺物実測図

第344号溝跡出土遺物観察表（第472図）

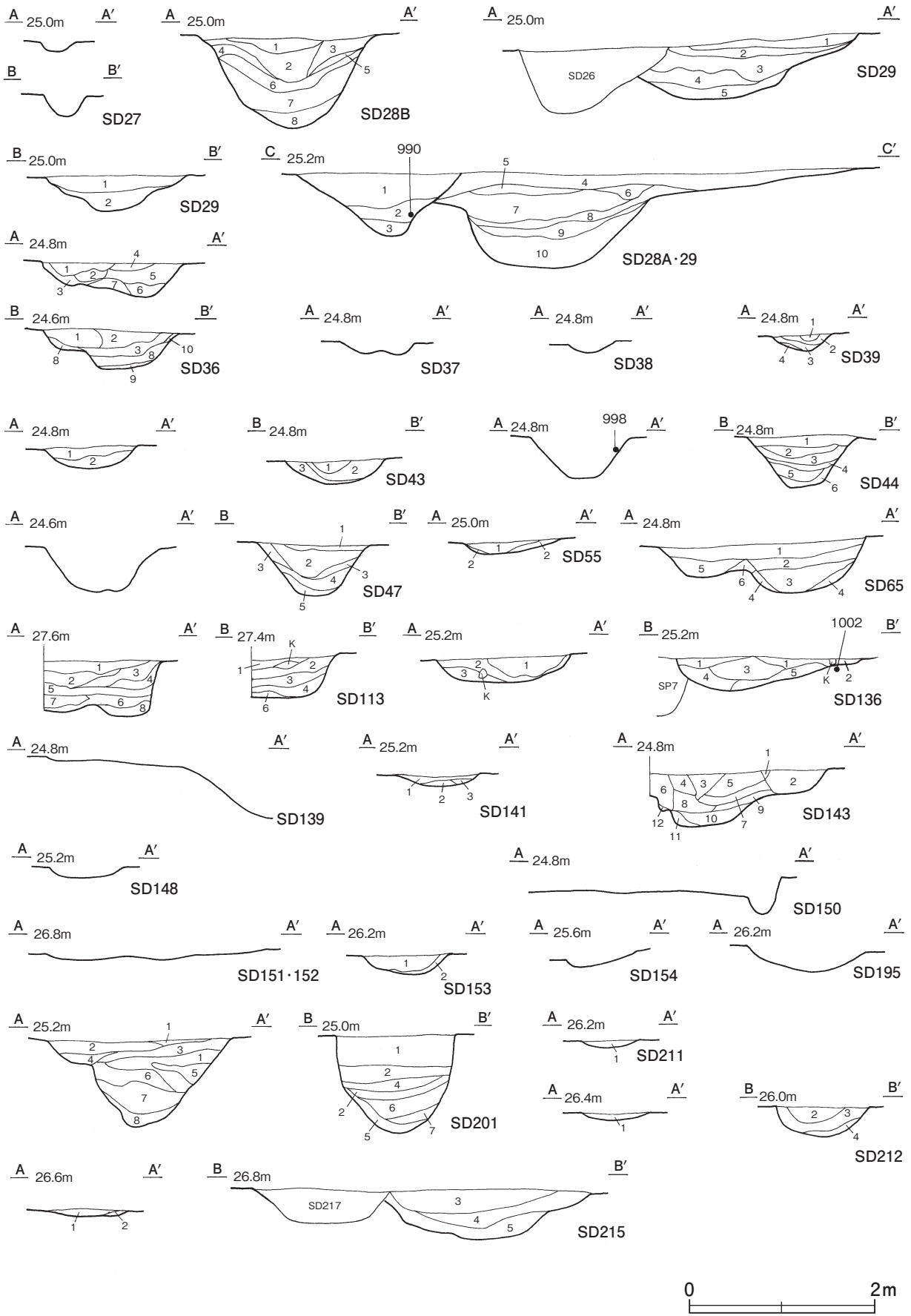
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-------|-----|--------|---------------|----------|----|------------------------------|------|--------------------|
| 967 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.4 | 3.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰黄・にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ 底部回 | 底面 | 95% 成形にゆがみ |
| 968 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.2 | 3.8 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄・浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ 底部回 | 底面 | 70% |
| 969 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.3 | 3.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰黄・にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ 底部回 | 覆土下層 | 90% |
| 970 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.2 | 3.3 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ 底部回 | 覆土下層 | 75% 口唇部油煙附着 |
| 971 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.6 | 3.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 転糸切り後ナデ 底部回 | 覆土下層 | 95% 成形にゆがみ 口辺部油煙附着 |
| 972 | 土師質土器 | 内耳鍋 | 31.5 | 9.9 | [16.9] | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい褐・褐 | 普通 | 1 内耳残存 耳部貼り付け後ナデ 内面から口縁部外面ナデ | 覆土下層 | 40% 体部外面煤附着 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|------|---------------|-------|----|-------------------|------|-----|
| 973 | 土師質土器 | 播鉢 | [30.2] | 12.8 | 15.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 内面3条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | 40% |
| 974 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (5.7) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印 | 覆土下層 | |

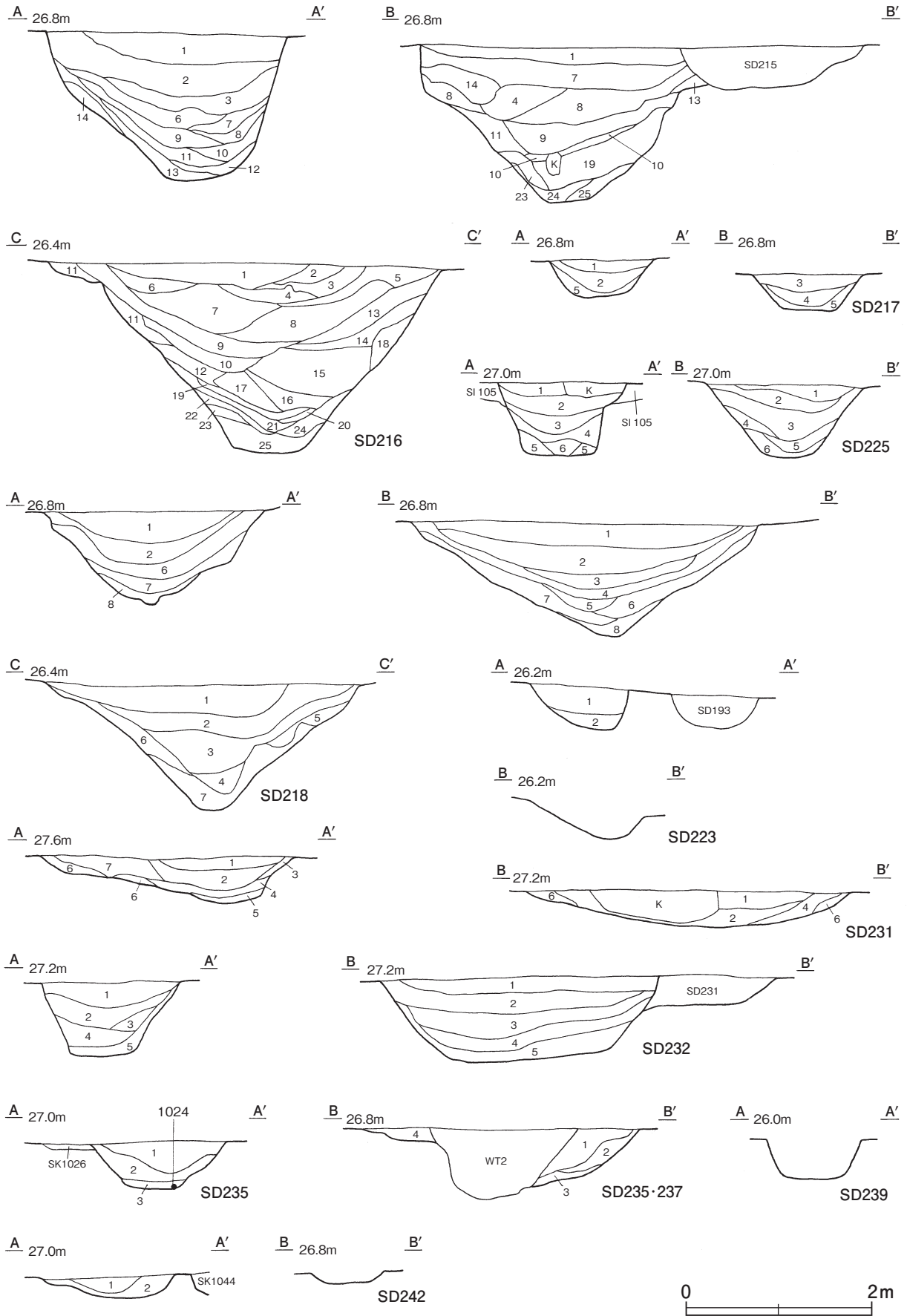
イ その他の溝跡



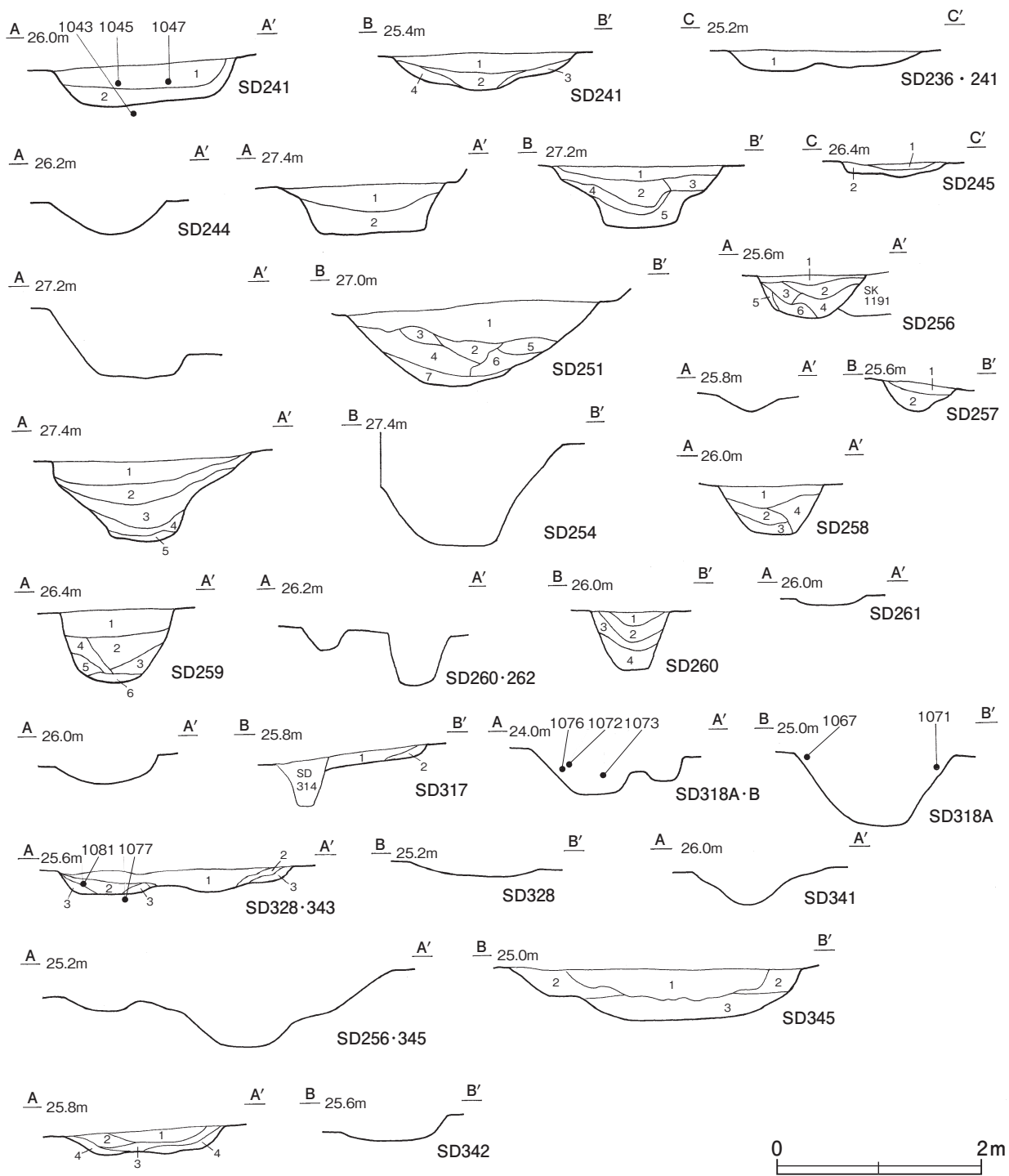
第473図 その他の溝跡実測図(1)



第474図 その他の溝跡実測図(2)



第475図 その他の溝跡実測図(3)



第476図 その他の溝跡実測図(4)

第3号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・褐色酸化粒子中量, 粘土ブロック少量

第5号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・褐色酸化粒子中量, 粘土ブロック少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中少量, 炭化粒子微量

第6号溝跡土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第8号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第10号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂礫微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第14号溝跡土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第16号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第19A号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量

第22号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 6 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量
- 8 灰 褐 色 粘土粒子多量, ロームブロック微量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 10 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 11 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子微量

第28A号溝跡土層解説 (SD29との重複部)

- 4 黒 褐 色 ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 9 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 10 褐 色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量

第28B号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 7 褐 色 ローム粒子中量, 褐色酸化粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 黒 褐 色 ローム粒子・褐色酸化粒子少量

第29号溝跡土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・砂粒少量
- 2 黄 褐 色 ロームブロック中量, 砂粒少量
- 3 にぶい黄褐色 白色粘土ブロック・褐色酸化粒子中量, ロームブロック微量
- 4 灰 褐 色 白色粘土ブロック・褐色酸化粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 灰 褐 色 褐色酸化粒子中量, ローム粒子微量

第36号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 粘土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 炭化物・粘土粒子微量
- 7 灰 黄 褐色 粘土粒子多量
- 8 にぶい褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 褐 色 粘土粒子多量, ローム粒子中量
- 10 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第39号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 砂粒微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 粘土粒子微量

第43号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量

第44号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・砂粒少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量

第47号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

第55号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

第65号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量, 炭化物微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック多量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 灰 褐 色 粘土ブロック中量

第113号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 7 極 暗 褐色 ロームブロック多量
- 8 極 暗 褐色 ロームブロック中量

第136号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 灰 褐 色 粘土ブロック中量・ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第141号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第143号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量
- 6 極暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 黒褐色 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量

第153号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第201号溝跡土層解説 (共通)

- 1 にぶい褐色 砂質粘土ブロック多量
- 2 極暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ローム粒子多量, 粘土ブロック中量
- 5 暗褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子・砂粒少量
- 6 にぶい褐色 粘土ブロック多量, 砂粒少量
- 7 褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量
- 8 暗褐色 粘土ブロック中量, 砂粒少量

第211号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第212号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化物少量
- 3 灰褐色 粘土粒子多量, 炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量

第215号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 にぶい橙色 褐色酸化粒子多量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第216号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子・褐色酸化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 褐色酸化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 褐色酸化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・褐色酸化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・褐色酸化粒子微量
- 10 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子・褐色酸化粒子微量
- 11 灰褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 12 灰褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック・褐色酸化粒子微量
- 13 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 褐色酸化粒子微量
- 14 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 褐色酸化粒子微量
- 15 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子・褐色酸化粒子微量
- 16 黒褐色 ローム粒子・褐色酸化粒子微量
- 17 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 18 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 19 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 20 灰褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量

- 21 にぶい褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック・炭化物・褐色酸化粒子微量
- 22 灰褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 23 にぶい褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化物・褐色酸化粒子微量
- 24 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 粘土ブロック微量
- 25 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化物微量

第217号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第218号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 粘土粒子多量, ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化物・褐色酸化粒子微量
- 8 黒褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子・褐色酸化粒子中量

第223号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・粘土ブロック微量

第225号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・褐色酸化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・褐色酸化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・褐色酸化粒子微量

第231号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第232号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第235号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量

第236・241号溝跡土層解説 (重複部)

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量

第237号溝跡土層解説 (SD235, WT 2との重複部)

- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量

第241号溝跡土層解説 (共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック中量

第242号溝跡土層解説 (共通)

- 1 黒褐色 炭化物・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子・粘土粒子微量

第245号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第251号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 極 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 灰 褐 色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 褐色酸化粒子中量, ローム粒子少量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック多量

第254号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック多量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第256号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量, 炭化物微量
- 5 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第257号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土粒子中量, 炭化粒子微量

第258号溝跡土層解説

- 1 灰 黄 褐 色 粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐 色 粘土粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 褐 灰 色 粘土粒子多量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第259号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 灰 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量
- 6 褐 灰 色 粘土粒子多量, ローム粒子微量

第260号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
- 2 灰 黄 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量

第317号溝跡土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第328・343号溝跡土層解説 (重複部)

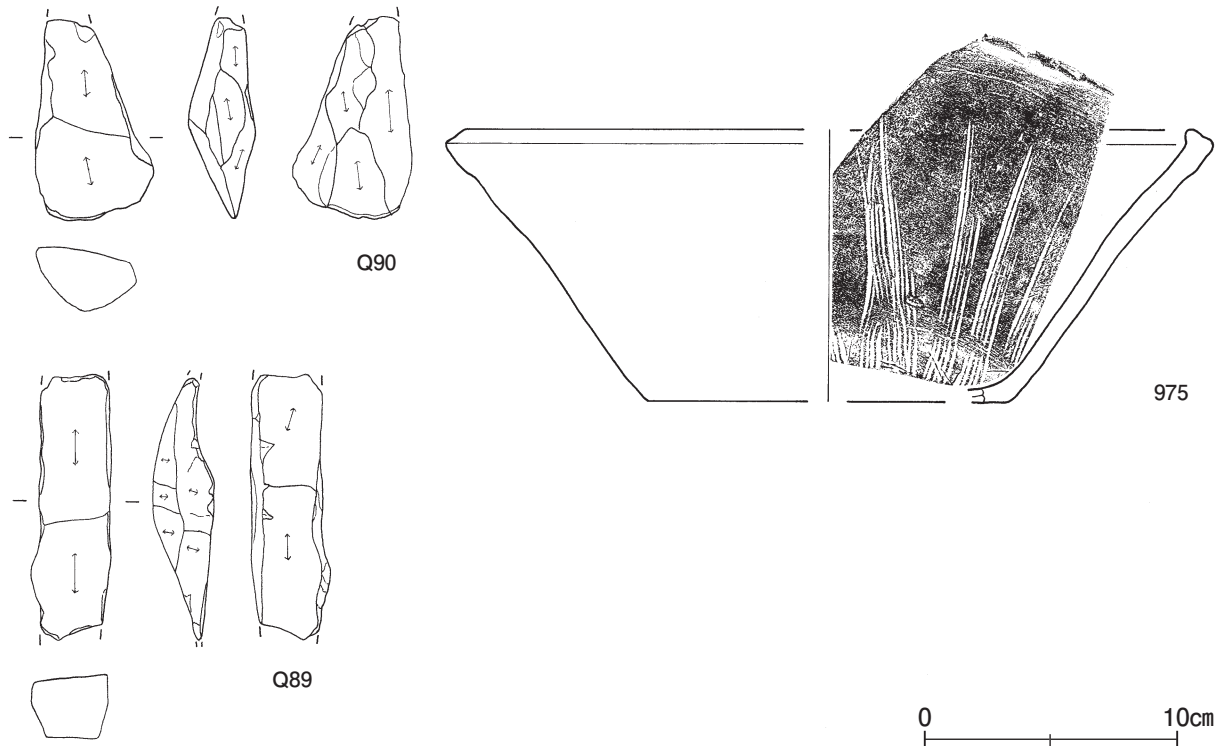
- 1 暗 褐 色 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰 褐 色 粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量

第342号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
- 3 灰 黄 褐 色 粘土ブロック少量, ローム粒子・砂粒微量
- 4 に ぶ い 褐 色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量

第345号溝跡土層解説

- 1 灰 褐 色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量



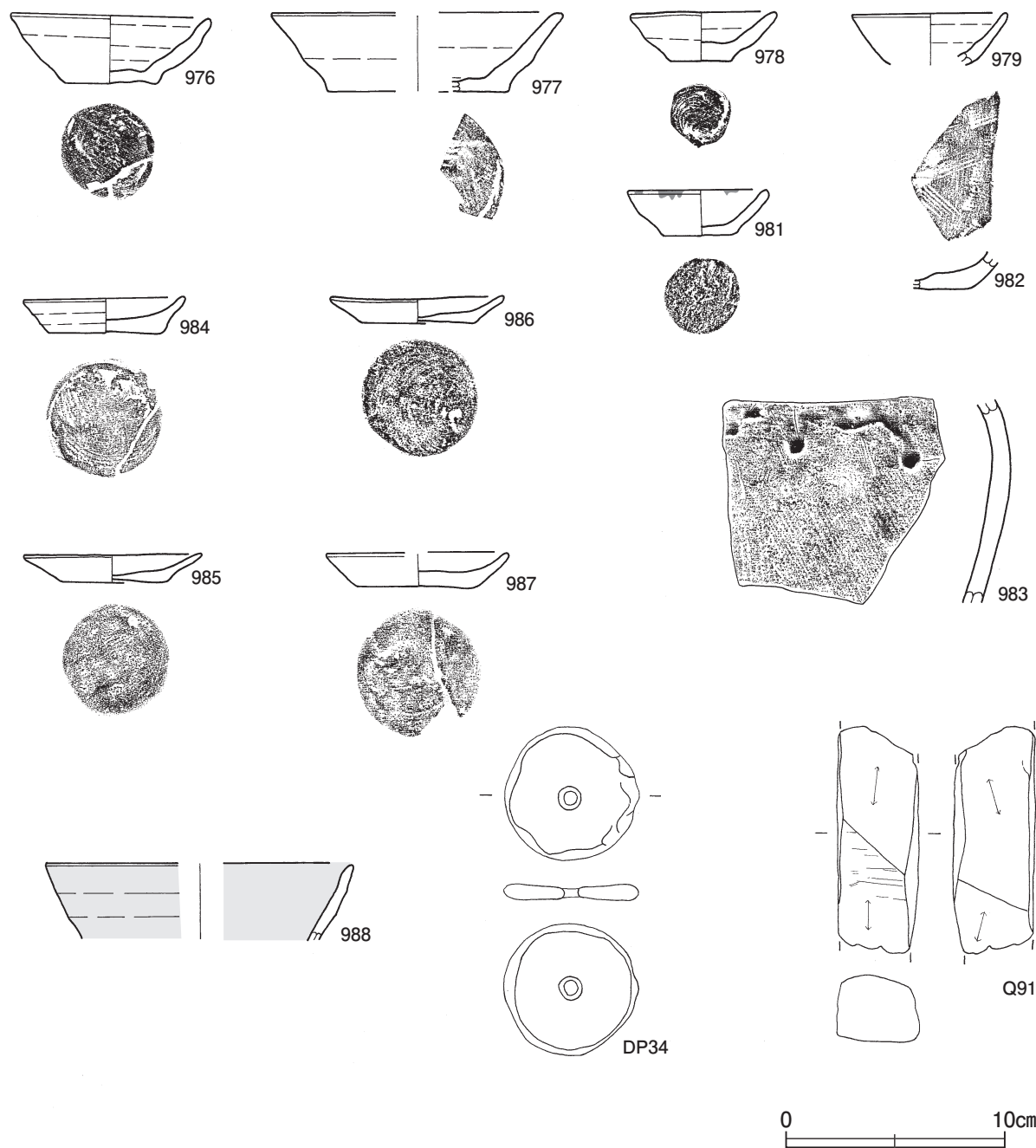
第477図 第4・10号溝跡出土遺物実測図

第4号溝跡出土遺物観察表（第477図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----|--------|-----|-----------|------|----|
| Q89 | 砥石 | (10.6) | 3.2 | 2.4 | (84.0) | 凝灰岩 | 端部欠損 砥面9面 | 覆土中 | |
| Q90 | 砥石 | (8.0) | 4.7 | 2.7 | (81.5) | 凝灰岩 | 端部欠損 砥面9面 | 覆土中 | |

第10号溝跡出土遺物観察表（第477図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|------|--------|---------|------|----|------------------|------|-----|
| 975 | 土師質土器 | 播鉢 | [28.8] | 10.8 | [14.6] | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 5条1単位の播り目 体部外面ナデ | 覆土中 | 10% |



第478図 第14・16・19A・22・28A号溝跡出土遺物実測図

第14号溝跡出土遺物観察表（第478図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|---------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 976 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 3.2 | 4.2 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90% |

第16号溝跡出土遺物観察表（第478図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-----|-------|------|----|----|--------------------------|------|-----|
| 977 | 土師質土器 | 皿 | [13.4] | 3.6 | [8.4] | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ハラナデ | 覆土中 | 20% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----|---------|-----|-----------|------|----|
| Q91 | 砥石 | (10.4) | 3.9 | 3.1 | (127.1) | 凝灰岩 | 端部欠損 砥面4面 | 覆土中 | |

第19A号溝跡出土遺物観察表（第478図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-------|-----|---------|----|----|---------------------|------|------------------|
| 978 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.3 | 2.8 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 90% 成形にゆがみ PL108 |
| 979 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | (2.4) | — | 長石・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ | 覆土中 | 50% |

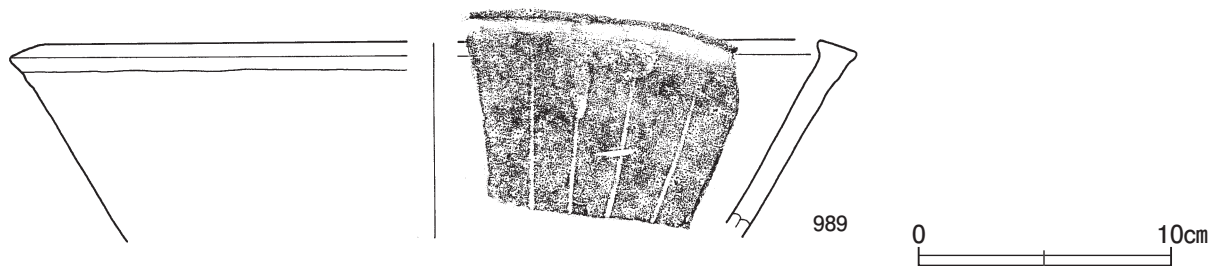
第22号溝跡出土遺物観察表（第478図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-------|-----|----------|---------|----|---------------------------|------|-------------------|
| 981 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 2.2 | 3.4 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90% 口唇部油煙付着 PL108 |
| 982 | 瓦質土器 | 播鉢 | — | (1.7) | — | 長石・石英・雲母 | 黄灰 | 普通 | 内面5条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | |
| 983 | 陶器 | 甕 | — | (9.3) | — | 長石・雲母 | にぶい褐・赤褐 | 良好 | 外面敲き痕 灰オリーブの自然釉 | 覆土中 | 常滑系 |

第28A号溝跡出土遺物観察表（第478図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|-----|------------|----------|----|---------------------|------|------------|
| 984 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 1.7 | 5.2 | 砂粒・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 90% PL108 |
| 985 | 土師質土器 | 皿 | 8.2 | 1.4 | 4.8 | 砂粒・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% |
| 986 | 土師質土器 | 皿 | 7.9 | 1.2 | 5.1 | 長石・砂粒・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 95% PL108 |
| 987 | 土師質土器 | 皿 | 8.4 | 1.5 | 5.6 | 赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 80% |
| 988 | 磁器 | 碗 | [14.3] | (3.5) | — | 精良 灰釉 | 灰白・灰オリーブ | 良好 | ロクロ成形 内・外面施釉 | 覆土中 | 10% 瀬戸・美濃系 |

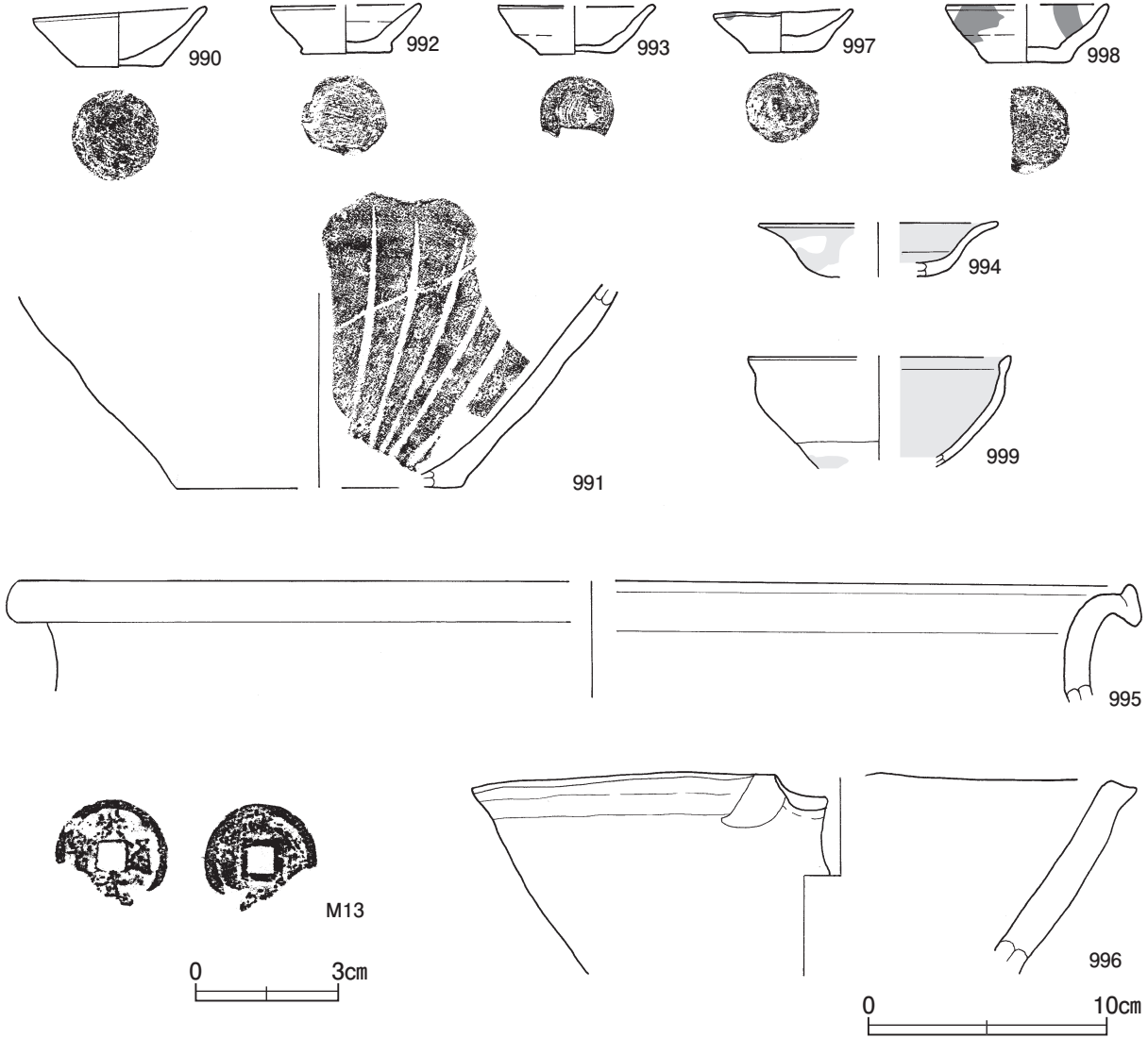
| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|------|----|--------------------|------|----|
| DP34 | 紡錘車カ | 6.2 | 0.7 | 0.8 | 31.2 | 土製 | 平面形は円形 断面形は板状 全面ナデ | 覆土中 | |



第479図 第28B号溝跡出土遺物実測図

第28B号溝跡出土遺物観察表（第479図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|--------|-------|----|-------|----|----|--|------|-----|
| 989 | 土師質土器 | 播鉢 | [30.4] | (7.8) | — | 長石・石英 | 褐 | 普通 | 口唇部内側につまみ出し 位の播り目 外面ナデ 内面1条1単 | 覆土中 | 10% |



第480図 第29・36・43・44号溝跡出土遺物実測図

第29号溝跡出土遺物観察表（第480図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-----|-------|--------|-------------------|----|----|---------------------|------|----------------------|
| 990 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.5 | 3.8 | 長石・赤色粒子・ 白色粒子 | 橙 | 普通 | 底部回転糸切り 体部内・外面摩滅 | 覆土中層 | 90% 成形にゆ がみ PL108 |
| 991 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (8.6) | [12.2] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 内面1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | |

第36号溝跡出土遺物観察表（第480図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-----|----------------|--------------|----|--------------------------------|------|-----|
| 992 | 土師質土器 | 皿 | [6.2] | 2.0 | 3.6 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 外面摩滅 底部回転糸切り | 覆土中 | 70% |
| 993 | 土師質土器 | 皿 | [6.6] | 2.0 | 3.2 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 黒褐・ にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 内面摩滅 底部回転糸切り | 覆土中 | 70% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|--------|-------|----|-------------------|-------|----|--------|------|-----------|
| 994 | 陶器 | 縁反皿 | [10.2] | (2.3) | — | 精良 黒色粒子・ 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 内・外面施釉 | 覆土中 | 30%瀬戸・美濃系 |

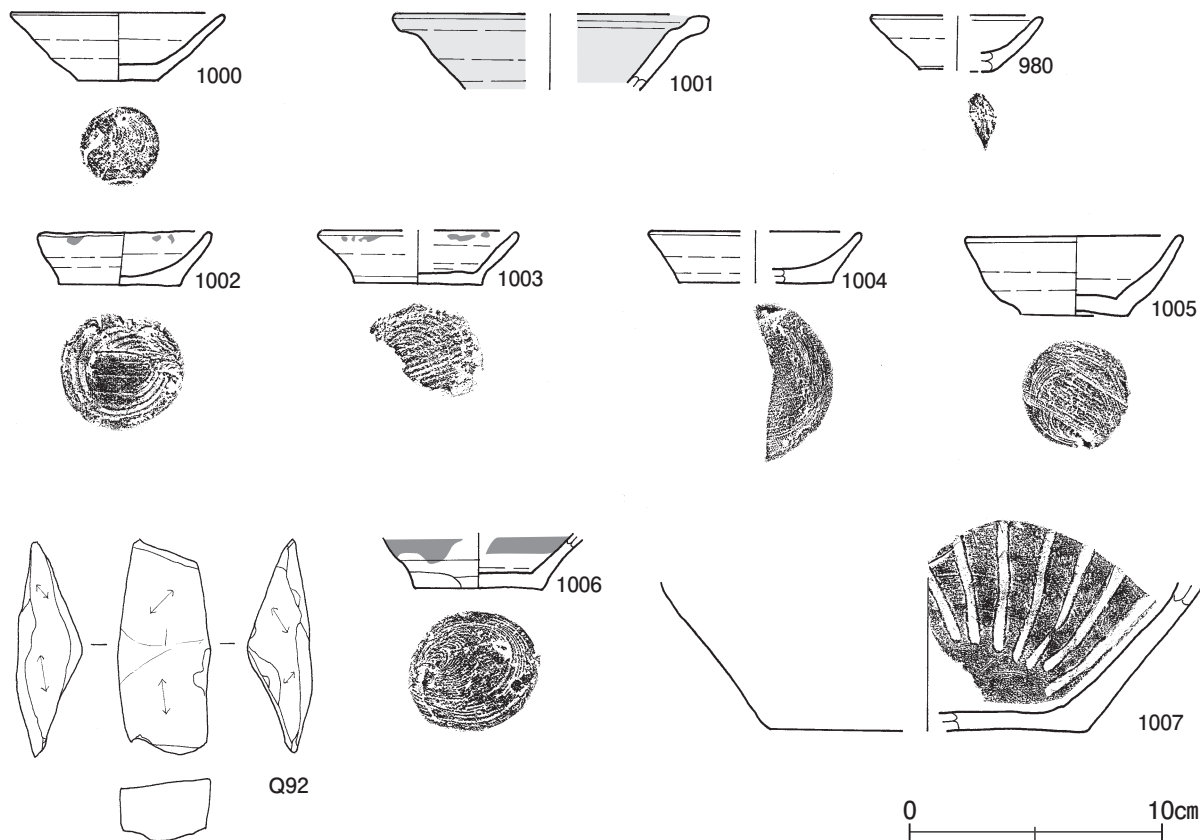
| 番号 | 銭種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-----|-------|------|----|---------------------|------|-------|
| M13 | 洪武通寶カ | 2.3 | 0.6 | (1.5) | 1368 | 銅 | 鑄により3分の1ほど欠損 明銭 模鑄銭 | 覆土中 | PL123 |

第43号溝跡出土遺物観察表 (第480図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|--------|-------|----|-------|----|----|--------------------|------|--------|
| 995 | 陶器 | 甕 | [47.1] | (4.9) | — | 長石 | 赤褐 | 良好 | 口辺部片 内・外面横ナデ | 覆土中 | 5%常滑系 |
| 996 | 陶器 | 片口鉢 | [26.0] | (8.2) | — | 長石・石英 | 赤褐 | 良好 | 片口部一部残存 内面滑らか 外面ナデ | 覆土中 | 10%常滑系 |

第44号溝跡出土遺物観察表 (第480図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|------|--------|-------|-----|-------------------|------------|----|---------------------|------|------------|
| 997 | 土師質土器 | 皿 | 5.8 | 1.9 | 3.0 | 赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90%口唇部油煙付着 |
| 998 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 2.4 | 3.8 | 雲母 | 灰褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 50%口辺部油煙付着 |
| 999 | 陶器 | 天目茶碗 | [11.0] | (4.5) | — | 精良 黒色粒子・ 褐釉 | 浅黄橙・ 赤褐 | 良好 | 内・外面施釉 外面摩滅 | 覆土中 | 20%瀬戸・美濃系 |



第481図 第47・63・136号溝跡出土遺物実測図

第47号溝跡出土遺物観察表 (第481図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|-----|------------------|----------------|----|-----------------------|------|-----------|
| 1000 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 2.7 | 3.0 | 雲母・赤色粒子・ 白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内面摩滅外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 90% PL108 |
| 1001 | 陶器 | 折縁皿 | [12.6] | (3.0) | — | 精良 灰釉 | にぶい黄・ にぶい黄橙 | 良好 | 内・外面施釉 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |

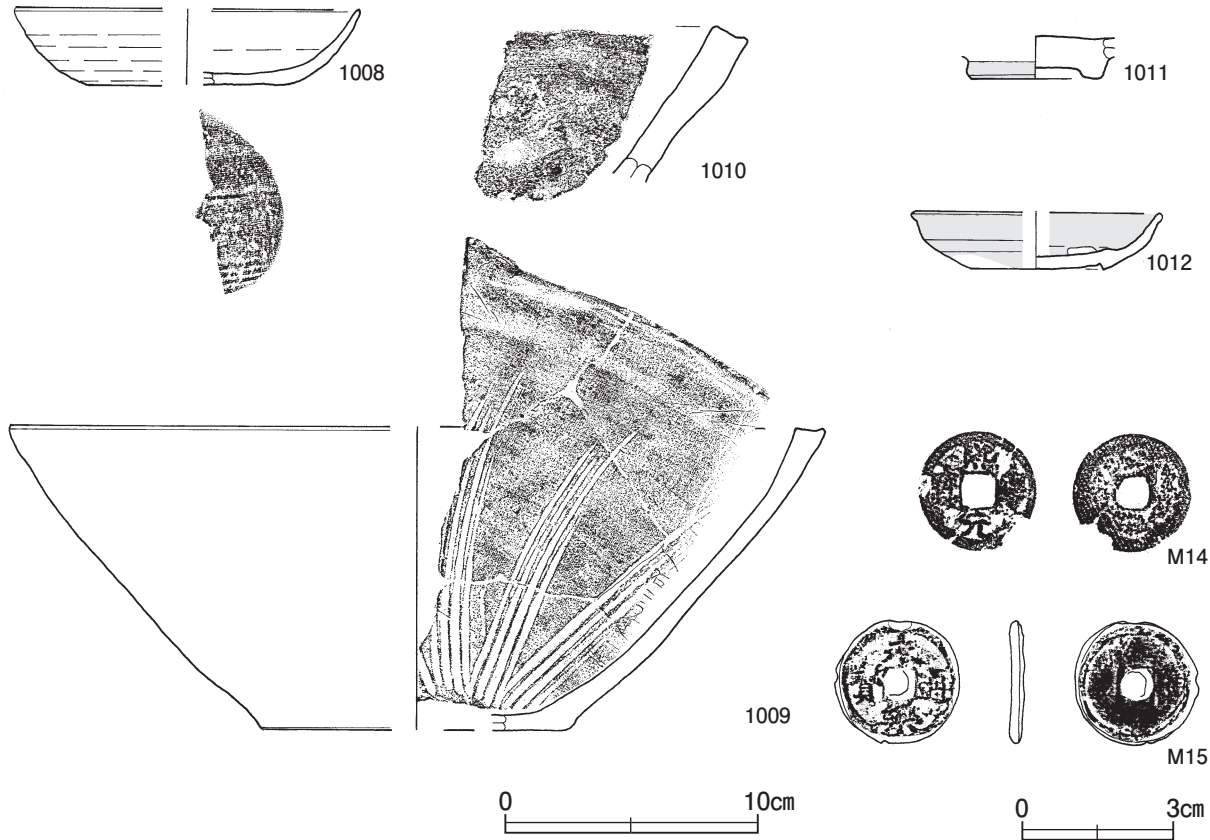
第63号溝跡出土遺物観察表（第481図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 980 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 2.1 | [3.0] | 赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 20% |

第136号溝跡出土遺物観察表（第481図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-------|--------|------------|------|----|----------------------------|------|--------------|
| 1002 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.1 | 4.9 | 長石・石英 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り スノコ状圧痕 | 底面 | 95% 口唇部油煙附着 |
| 1003 | 土師質土器 | 皿 | [7.8] | 2.2 | [5.2] | 雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り スノコ状圧痕 | 覆土中 | 20% 口唇部油煙附着 |
| 1004 | 土師質土器 | 皿 | [8.6] | 2.0 | [6.2] | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 30% |
| 1005 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 3.3 | 4.2 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り スノコ状圧痕 | 覆土中 | 90% PL109 |
| 1006 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.2) | 5.2 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 下端横ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 65% 内・外面油煙附着 |
| 1007 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (5.8) | [12.8] | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 1条1単位の播り目 外面ナデ 底部ナデ | 覆土中 | 15% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|-----|--------|-----|------------|------|----|
| Q92 | 砥石 | 8.5 | 3.7 | 2.5 | (77.7) | 凝灰岩 | 端部角欠損 砥面4面 | 覆土中 | |



第482図 第143・201・211号溝跡出土遺物実測図

第143号溝跡出土遺物観察表（第482図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|--------|---------------|-------|----|-------------------------|------|-----------|
| 1008 | 土師質土器 | 皿 | [13.8] | 3.1 | [8.2] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 淡黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 20% |
| 1009 | 土師質土器 | 播鉢 | [32.5] | 12.1 | [12.2] | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面4条1単位の播り目 外面ナデ 底部ナデ | 覆土中 | 15% |
| 1010 | 陶器 | 片口鉢 | — | (6.2) | — | 長石・石英 | にぶい赤褐 | 普通 | 口辺部破片 体部内・外面ナデ 外面に指頭圧痕 | 覆土中 | 常滑系 個体破片有 |

第201号溝跡出土遺物観察表（第482図）

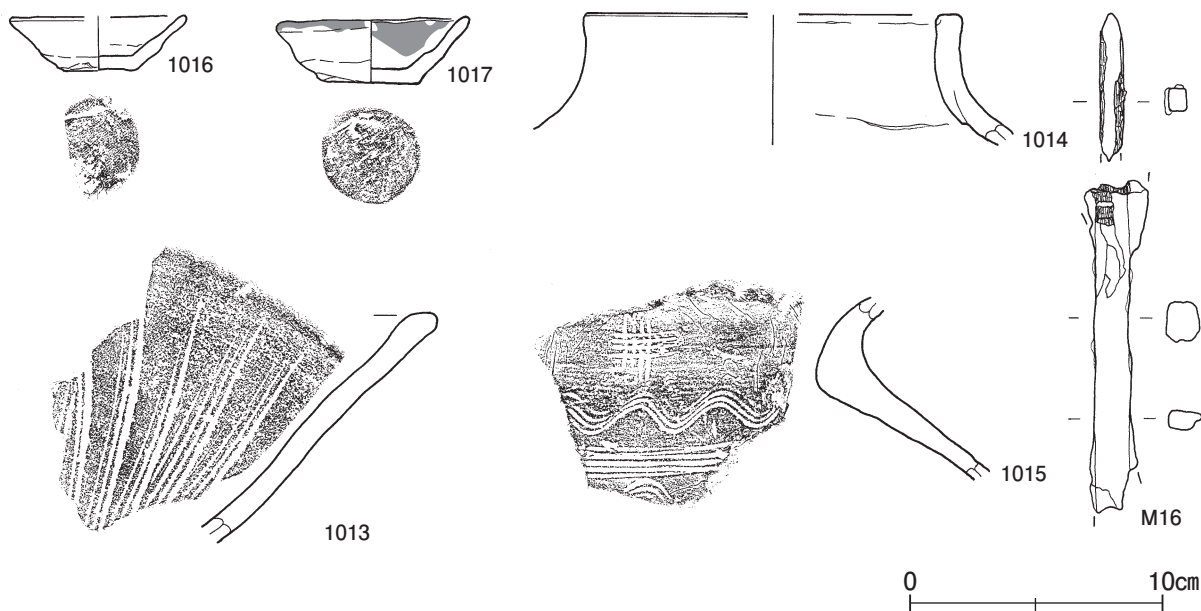
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|----|----|-------|-----|--------|--------|----|--------------------|------|----------|
| 1011 | 青磁 | 碗カ | — | (1.8) | 5.1 | 精良 青磁釉 | 灰白・明緑灰 | 良好 | 底部高台削り出し 内・外面施釉 貫入 | 覆土中 | 10% 竜泉窯カ |

| 番号 | 銭種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-----|-----|------|----|--------------|------|-------|
| M14 | 熙寧元寶カ | 2.3 | 0.6 | 1.8 | 1068 | 銅 | 4片に破砕 北宋銭 真書 | 覆土中 | PL123 |

第211号溝跡出土遺物観察表（第482図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-------|-----|-----|-------|---------|----|-----------------------------|------|-----|
| 1012 | 陶器 | 褐釉皿 | [9.8] | 2.3 | 5.4 | 精良 褐釉 | 灰白・にぶい橙 | 良好 | 底部わずかに削り出し 内・外面施釉 内面底部にトチン痕 | 覆土中 | 30% |

| 番号 | 銭種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-------|-----|-------|------|----|-------------------------------|------|-------|
| M15 | 永楽通寶 | (2.4) | 0.6 | (6.6) | 1408 | 銅 | 鑄により2枚接合 鑄・摩滅により残存状況不良 明銭 模鑄銭 | 覆土中 | PL123 |



第483図 第212・215・216・217号溝跡出土遺物実測図

第212号溝跡出土遺物観察表（第483図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|----|-------|----|-------|----|----|-------------------|------|-----|
| 1013 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (9.0) | — | 長石・雲母 | 橙 | 普通 | 内面4条1単位の播り目カ 外面ナデ | 覆土中 | 10% |

第215号溝跡出土遺物観察表（第483図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-------|----|---------------|----|----|-----------------------------------|------|----|
| 1014 | 土師質土器 | 壺 | [14.8] | (5.1) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 黄白 | 普通 | 口辺部片 内面輪積痕を残すナデ 外面ナデ | 覆土中 | |
| 1015 | 土師質土器 | 甕カ | — | (7.2) | — | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 頸部片 内面ナデ 外面に4条の波状文と5条の横走文 編目文は目印カ | 覆土中 | |

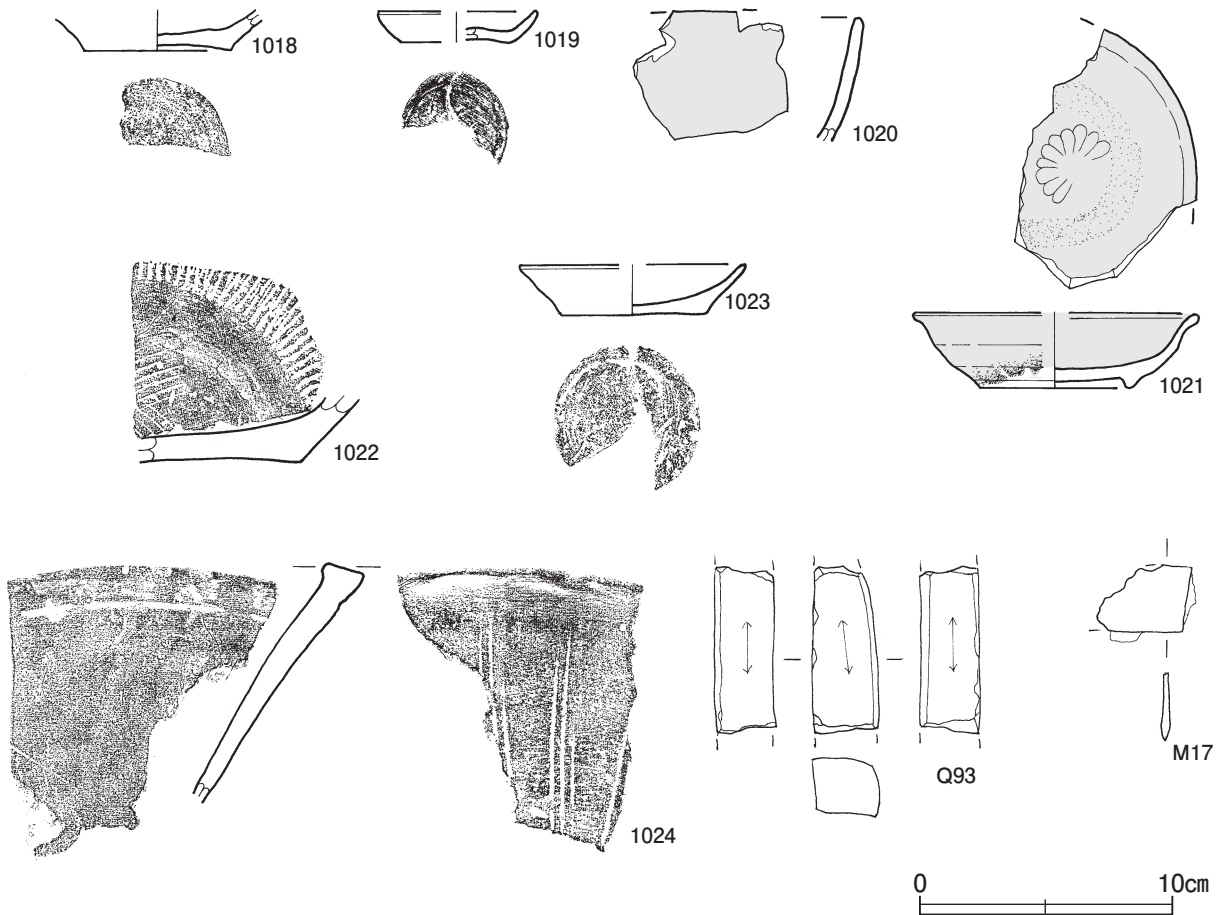
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-----|-----------|--------|----|---------------------|------|----|
| M16 | 鑿カ | (19.9) | 1.4 | (0.8~1.5) | (83.3) | 鉄 | 刃先欠損 差し込み部にわずかに木質残存 | 覆土中 | |

第216号溝跡出土遺物観察表（第483図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|----------------|----|----|--------------------------------|------|-----|
| 1016 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 2.2 | 3.0 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後雑なナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 40% |

第217号溝跡出土遺物観察表（第483図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|----------------|----|----|--------------------------------|------|------------------|
| 1017 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.7 | 4.0 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後雑なナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100%内・外面 油煙付着 |



第484図 第218・223・225・231・232・235号溝跡出土遺物実測図

第218号溝跡出土遺物観察表（第484図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|----|-------|-------|-------------------|----|----|------------------------------|------|-----|
| 1018 | 土師質土器 | 皿 | — | (1.6) | [5.8] | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 10% |

第223号溝跡出土遺物観察表（第484図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|------|--------|-------|-------|---------|-------|----|---------------------------------|------|----------|
| 1019 | 土師質土器 | 皿 | [6.2] | 1.2 | [4.4] | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 45% |
| 1020 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (5.1) | — | 精良 白釉 | 黄褐・灰白 | 良好 | 口片部片 透明釉を施釉した後白釉を口 辺部内・外面に施釉 | 覆土中 | 15%瀬戸・美濃 |
| 1021 | 陶器 | 皿 | [11.4] | 3.0 | 6.2 | 精良 灰釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 削り出し高台 高台内に二重の丸印文 | 覆土中 | 50%瀬戸・美濃 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|----|----|-------|----|----|-------|----|---------------------|------|------|
| 1022 | 陶器 | 播鉢 | — | (2.5) | — | 長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 内面7条1単位の播り目 外面丁寧なナデ | 覆土中 | 丹波系カ |

第225号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-------|-----|-----|--------|----|---------------|------|----|
| M17 | 刃物片カ | (3.9) | 2.6 | 0.3 | (10.7) | 鉄 | 刀身の一部カ 鍛錬され硬質 | 覆土中 | |

第231号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

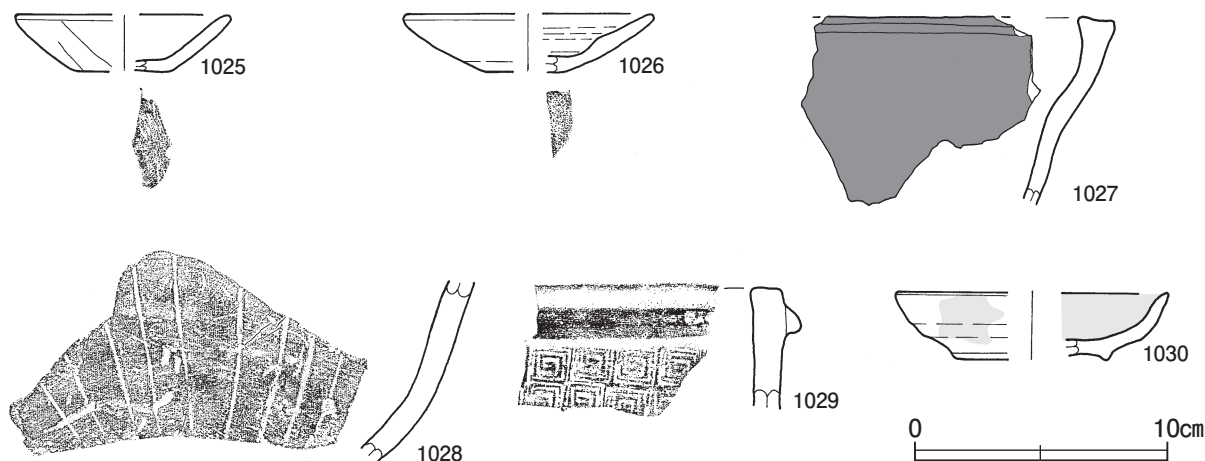
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|----------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 1023 | 土師質土器 | 皿 | [9.0] | 2.0 | 6.0 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70% |

第232号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|--------|-----|------------|------|----|
| Q93 | 砥石 | (6.6) | 2.7 | 2.4 | (68.9) | 凝灰岩 | 両端部欠損 砥面3面 | 覆土中 | |

第235号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-------|----|-------|------|----|---------------------------------|------|-----|
| 1024 | 土師質土器 | 播鉢 | [30.8] | (9.4) | — | 長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 内面3条1単位の播り目カ 外面ナデ 口辺部外面に1条の沈線施文 | 底面 | 15% |



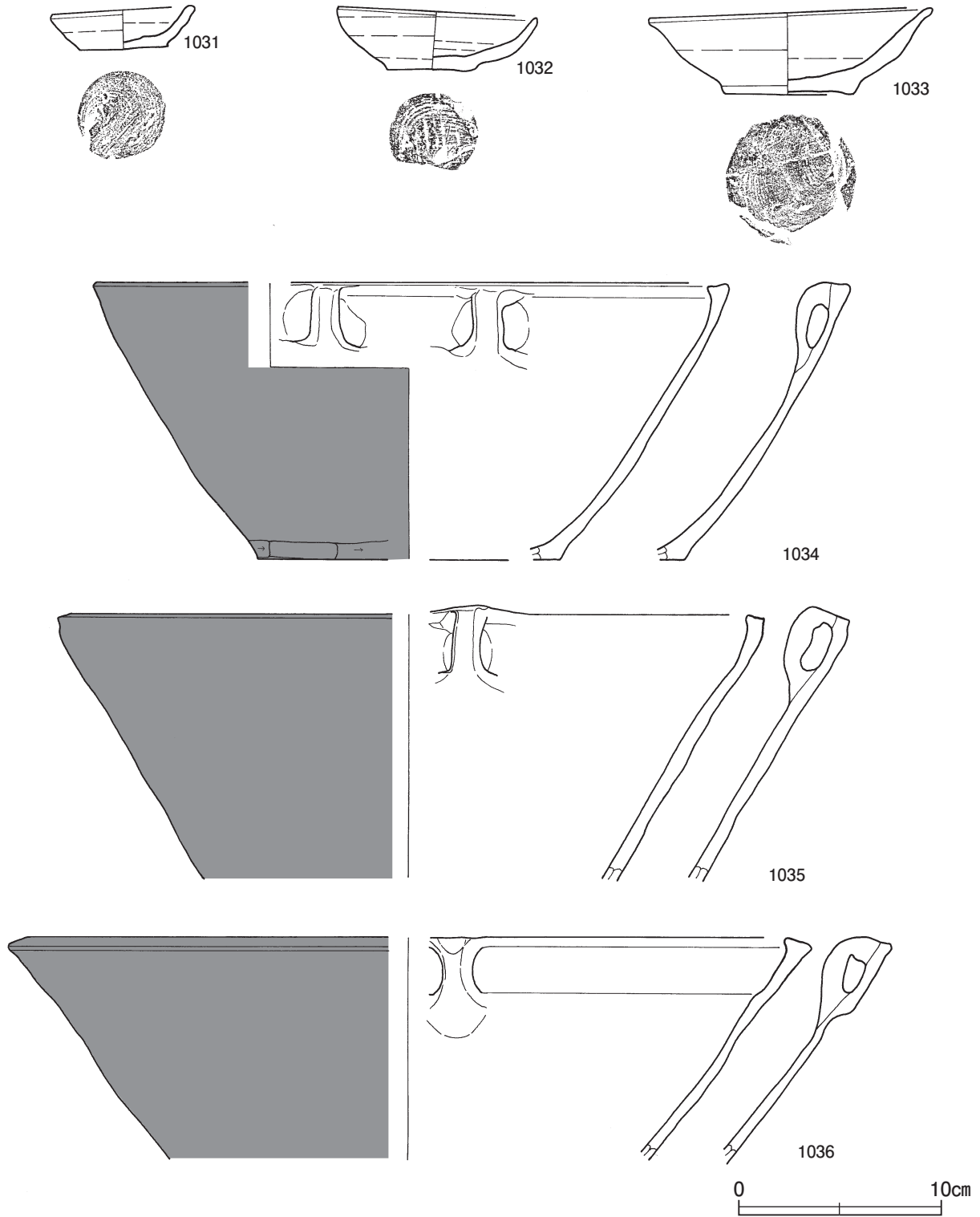
第485図 第236・244号溝跡出土遺物実測図

第236号溝跡出土遺物観察表 (第485図)

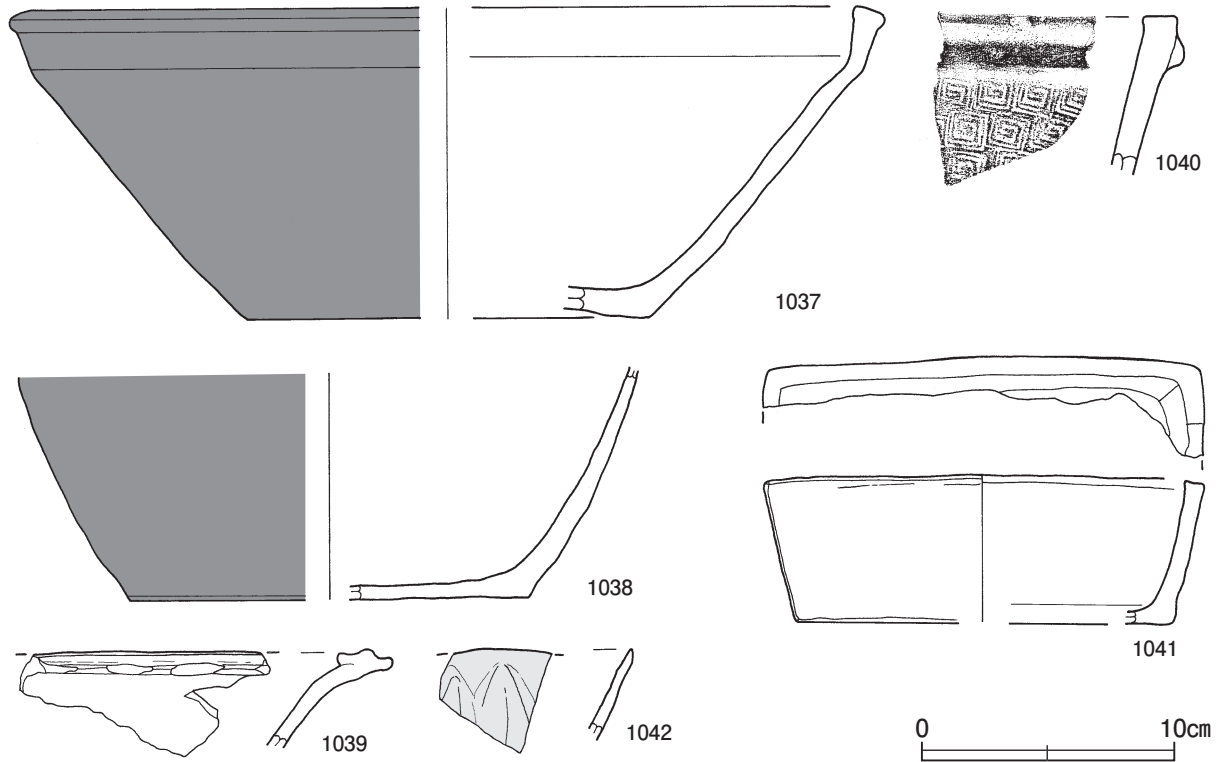
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|-------|-------|-------|-------------------|------|----|---------------------------------|------|---------|
| 1025 | 土師質土器 | 皿 | [8.7] | 2.3 | [4.0] | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 外面にヘラナデ痕 底部回転糸切り | 覆土中 | 20% |
| 1026 | 土師質土器 | 皿 | [9.9] | 2.4 | [3.5] | 長石・石英・赤色 粒子・小礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデカ | 覆土中 | 15% |
| 1027 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (7.5) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 内面から口縁部外面ナデ | 覆土中 | 体部外面煤付着 |
| 1028 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (7.2) | — | 長石・石英・ 雲母・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 内面1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | |

第244号溝跡出土遺物観察表（第485図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-------|-------|----------|--------------|----|---------------------------|------|----------------|
| 1029 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (4.8) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 内面横ナデ 外面スタンプ文押印 | 覆土中 | |
| 1030 | 陶器 | 丸皿 | [10.8] | 2.7 | [6.0] | 精良 灰釉 | 淡黄・ オリーブ黄 | 良好 | 削り出し高台 内面全面施釉 外面釉漬 け掛け | 覆土中 | 20% 濃系 瀬戸・美 |



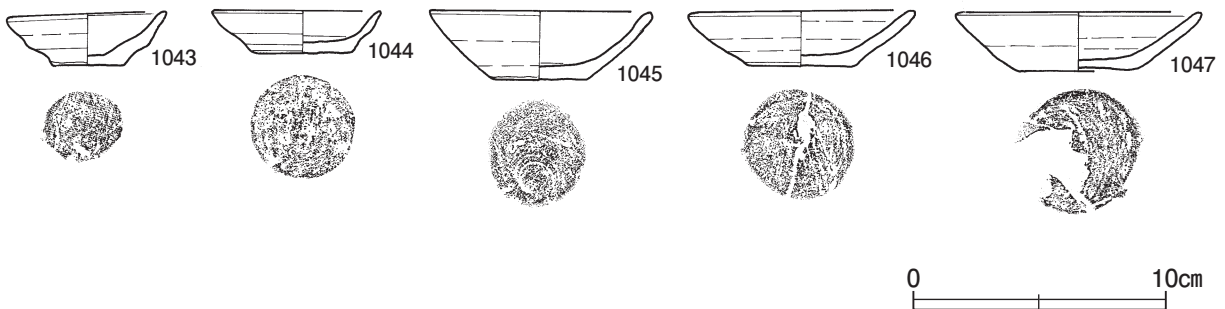
第486図 第239号溝跡出土遺物実測図(1)



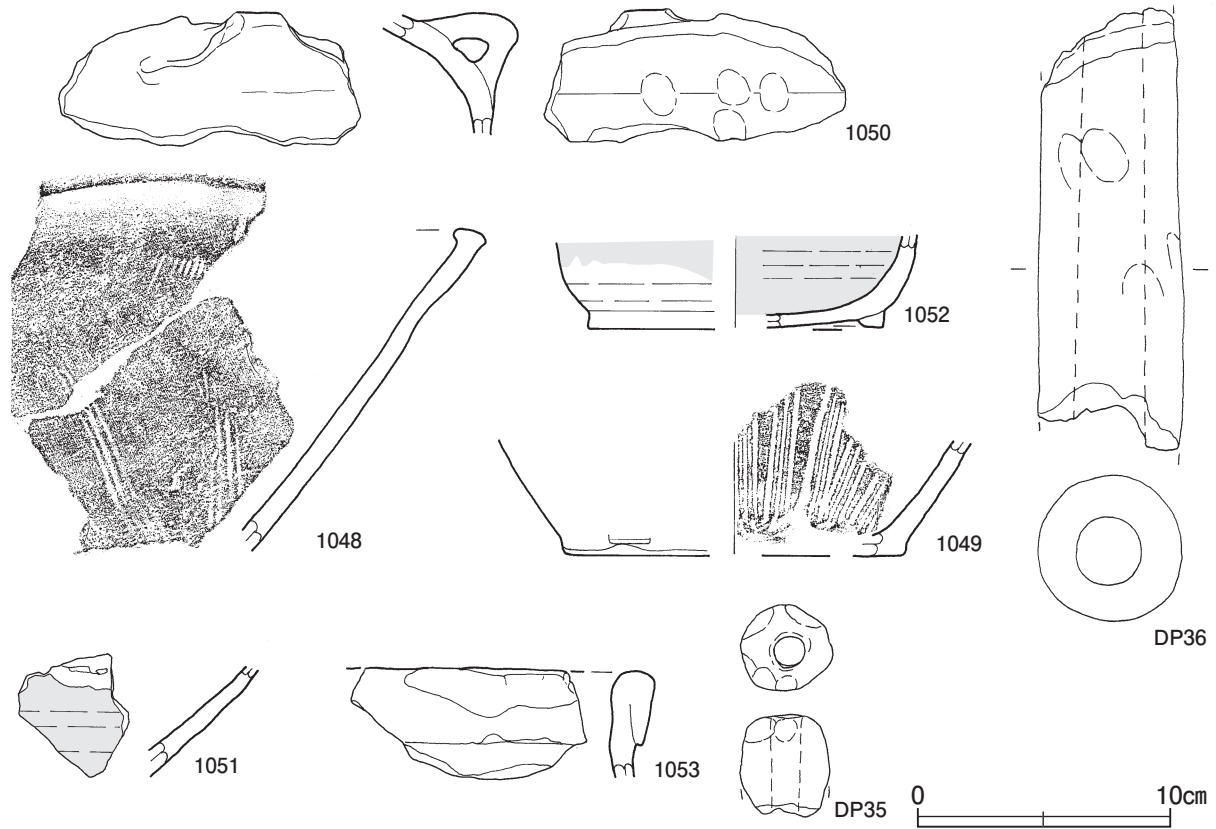
第487図 第239号溝跡出土遺物実測図(2)

第239号溝跡出土遺物観察表 (第486・487図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|-----------|----|-------------------------------------|------|--------------|
| 1031 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.2 | 4.4 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面クロナテ 底部回転糸切り | 覆土中 | 55% 成形にゆがみ |
| 1032 | 土師質土器 | 皿 | 9.9 | 3.2 | 4.4 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面クロナテ 底部回転糸切り | 覆土中 | 55% 成形にゆがみ |
| 1033 | 土師質土器 | 皿 | 14.0 | 4.3 | 6.4 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面クロナテ 底部回転糸切り | 覆土中 | 70% 成形にゆがみ |
| 1034 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.2] | 13.9 | [15.0] | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 2内耳残存 ナテ 体部下端横位のヘラ削り 耳貼り付け 内・外面雑なナテ | 覆土中 | 20% 体部外面 煤付着 |
| 1035 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [35.1] | (13.7) | — | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 1内耳残存 ナテ 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナテ | 覆土中 | 30% 体部外面 煤付着 |
| 1036 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [37.8] | (11.1) | — | 長石・石英・雲母 | 灰褐 | 普通 | 1内耳残存 ナテ 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナテ | 覆土中 | 15% 体部外面 煤付着 |
| 1037 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [33.0] | 12.4 | [16.0] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 内面から口縁部外面ナテ | 覆土中 | 20% 体部外面 煤付着 |
| 1038 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (9.0) | [16.0] | 長石・石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 内・外面ナテ | 覆土中 | 15% 体部外面 煤付着 |
| 1039 | 土師質土器 | 播鉢カ | [24.6] | (3.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部内外側につまみ出し 断面T字状 播り目不明 外面ナテ | 覆土中 | |
| 1040 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (6.3) | — | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 内・外面横ナテ 外面スタンプ文押印 | 覆土中 | |
| 1041 | 土師質土器 | 火鉢 | 17.5 | 5.9 | [14.9] | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 内・外面横ナテ | 覆土中 | 10% |
| 1042 | 青磁 | 碗 | — | (3.7) | — | 精良 青磁釉 | オリープ灰・明緑灰 | 良好 | 口辺部片 蓮弁文 内・外面施釉 | 覆土中 | 竜泉窯カ |



第488図 第241号溝跡出土遺物実測図(1)



第489図 第241号溝跡出土遺物実測図(2)

第241号溝跡出土遺物観察表 (第488・489図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-------|--------|--------|--------|---------------|----------|----|-----------------------------|------|-------------|
| 1043 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 2.2 | 2.8 | 長石・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土中 | 95% 成形にゆがみ |
| 1044 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 1.8 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土中 | 85% |
| 1045 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 2.8 | 3.7 | 石英・赤色粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土中 | 100% PL110 |
| 1046 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 2.3 | 4.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転条切り | 覆土中 | 95% |
| 1047 | 土師質土器 | 皿 | 9.8 | 2.4 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 淡赤橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転条切り | 覆土中 | 70% |
| 1048 | 土師質土器 | 搦鉢 | [31.2] | (12.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 3条1単位の搦り目が交差 | 覆土中 | 体部外面煤付着 |
| 1049 | 土師質土器 | 搦鉢 | — | (4.7) | [13.6] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 3条1単位の搦り目 外面下端工具痕 | 覆土中 | |
| 1050 | 土師質土器 | 茶釜カ | — | (4.9) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 耳部貼付け後ナデ 内面指頭痕を残すナデ 外面ナデ | 覆土中 | |
| 1051 | 陶器 | 折縁深皿カ | — | (4.4) | — | 精良 灰釉 | 灰白・オリープ黄 | 良好 | 体部破片 外面オリープ黄色の灰釉施釉 釉剥落 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |
| 1052 | 陶器 | 鉄釉鉢 | — | (3.8) | [11.8] | 緻密 鉄釉 | 灰白・オリープ褐 | 良好 | 高台部貼り付け 体部内・外面オリープ褐色の鉄釉施釉 | 覆土中 | 15% 瀬戸・美濃系カ |
| 1053 | 陶器 | 甕 | [21.5] | (4.3) | — | 長石・石英・砂粒 | 灰赤 | 良好 | 内・外面ナデ | 覆土中 | 常滑系 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 孔径 | 幅 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|--------|-----|-----|---------|----|---|------|-------|
| DP35 | 管状土錘 | (4.1) | 1.1 | 3.6 | (45.4) | 土製 | 一部欠損 棗玉形 全面ナデ | 覆土中 | |
| DP36 | 羽口 | (17.7) | 2.7 | 5.8 | (370.3) | 土製 | 両端部欠損 片端部火熱を受け赤変 外面指頭痕を残すナデ 一部煤付着で黒色に変色 | 覆土中 | PL122 |

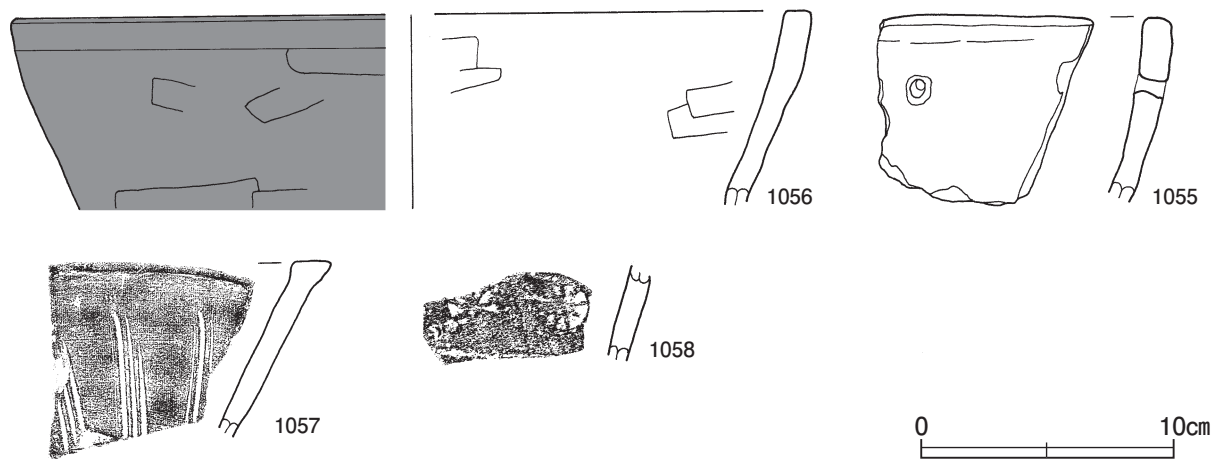


第490図 第245号溝跡出土遺物実測図

第245号溝跡出土遺物観察表（第490図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|----|-------|-------|---------|-------|----|---------------------|------|-----|
| 1054 | 土師質土器 | 皿 | — | (1.2) | [7.0] | 長石・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 25% |

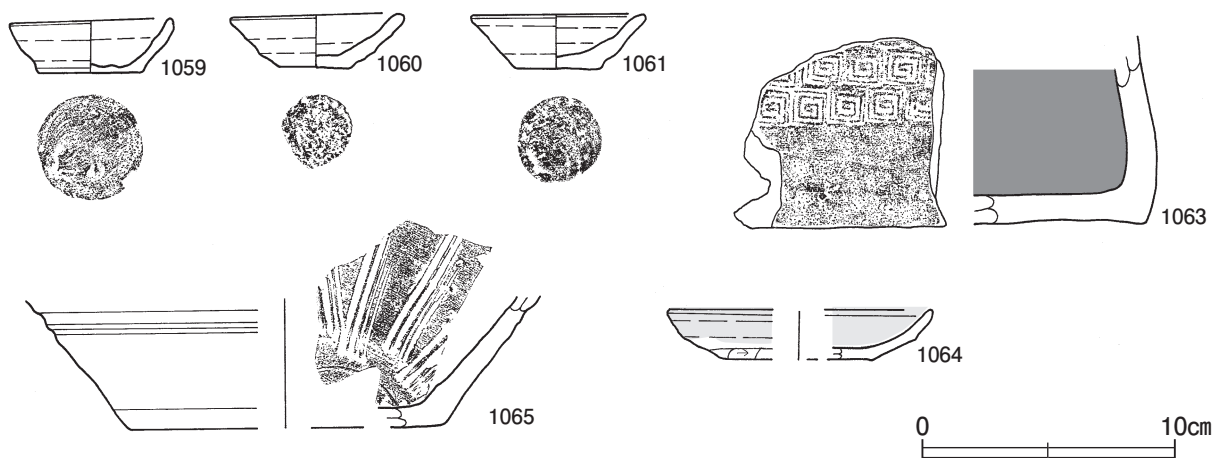
| 番号 | 器種 | 長さ | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-------|-----|-----|-------|----|----------------|------|----|
| DP37 | 管状土錘 | (4.7) | 0.4 | 1.4 | (9.0) | 土製 | 両端部欠損 紡錘形 全面ナデ | 覆土中 | |



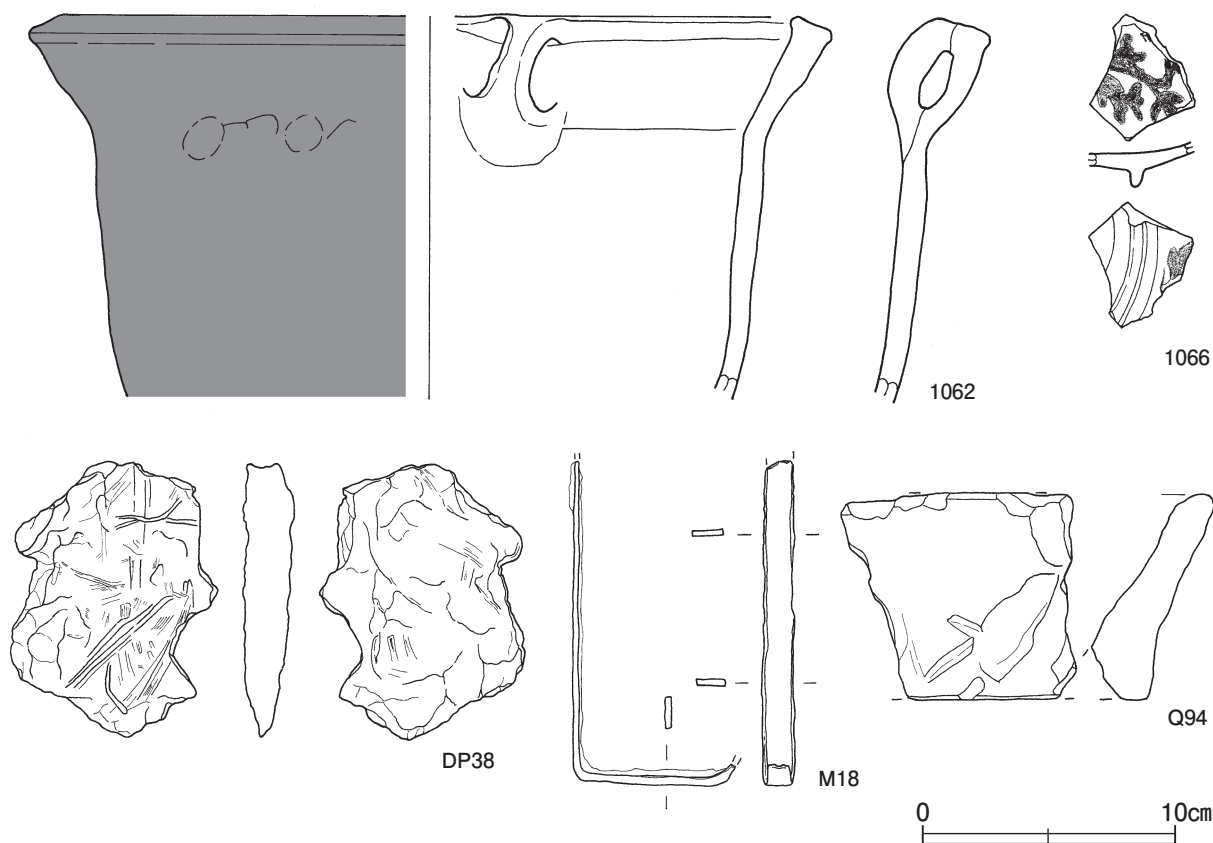
第491図 第251号溝跡出土遺物実測図

第251号溝跡出土遺物観察表（第491図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|----|---------------|-----|----|---------------------|------|----------|
| 1055 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (7.3) | — | 長石・石英・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口唇部丸み 内・外面ナデ 外側から穿孔 | 覆土中 | 外面煤付着 |
| 1056 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.6] | (7.7) | — | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 内・外面ヘラナデ後ナデ | 覆土中 | 10%外面煤付着 |
| 1057 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (7.0) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内面3条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中 | |
| 1058 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (3.4) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内・外面ナデ 外面スタンプ文押印 | 覆土中 | |



第492図 第258号溝跡出土遺物実測図



第493図 第258・260号溝跡出土遺物実測図

第258号溝跡出土遺物観察表（第492・493図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|---------|----|---------------------------------|------|------------|
| 1059 | 土師質土器 | 皿 | 6.3 | 2.2 | 4.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% |
| 1060 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 2.8 | 長石・石英・雲母 | 淡橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 100% PL110 |
| 1061 | 土師質土器 | 皿 | 6.8 | 2.2 | 3.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 淡黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 80% |
| 1062 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [29.4] | (15.3) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 1内耳残存 耳貼り付け 内面ナデ 外面指頭痕を残すナデ | 覆土中 | 10% 外面煤付着 |
| 1063 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (7.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 底部破片 内面ナデ 外面スタンプ文押印 | 覆土中 | 10% 内面煤付着 |
| 1064 | 陶器 | 丸皿 | [10.4] | 2.0 | [5.8] | 精良 長石・石英・褐釉 | 橙・にぶい赤褐 | 良好 | 低い削り出し高台 外面下位横位の削り内面全面施釉 外面釉漬掛け | 覆土中 | 20% 瀬戸・美濃系 |
| 1065 | 陶器 | 搦鉢 | — | (5.2) | [12.4] | 精良 長石・黒色粒子 | 橙・灰オリーブ | 良好 | 4条1単位の搦り目 外面下位に沈線 | 覆土中 | 瀬戸・美濃系 |

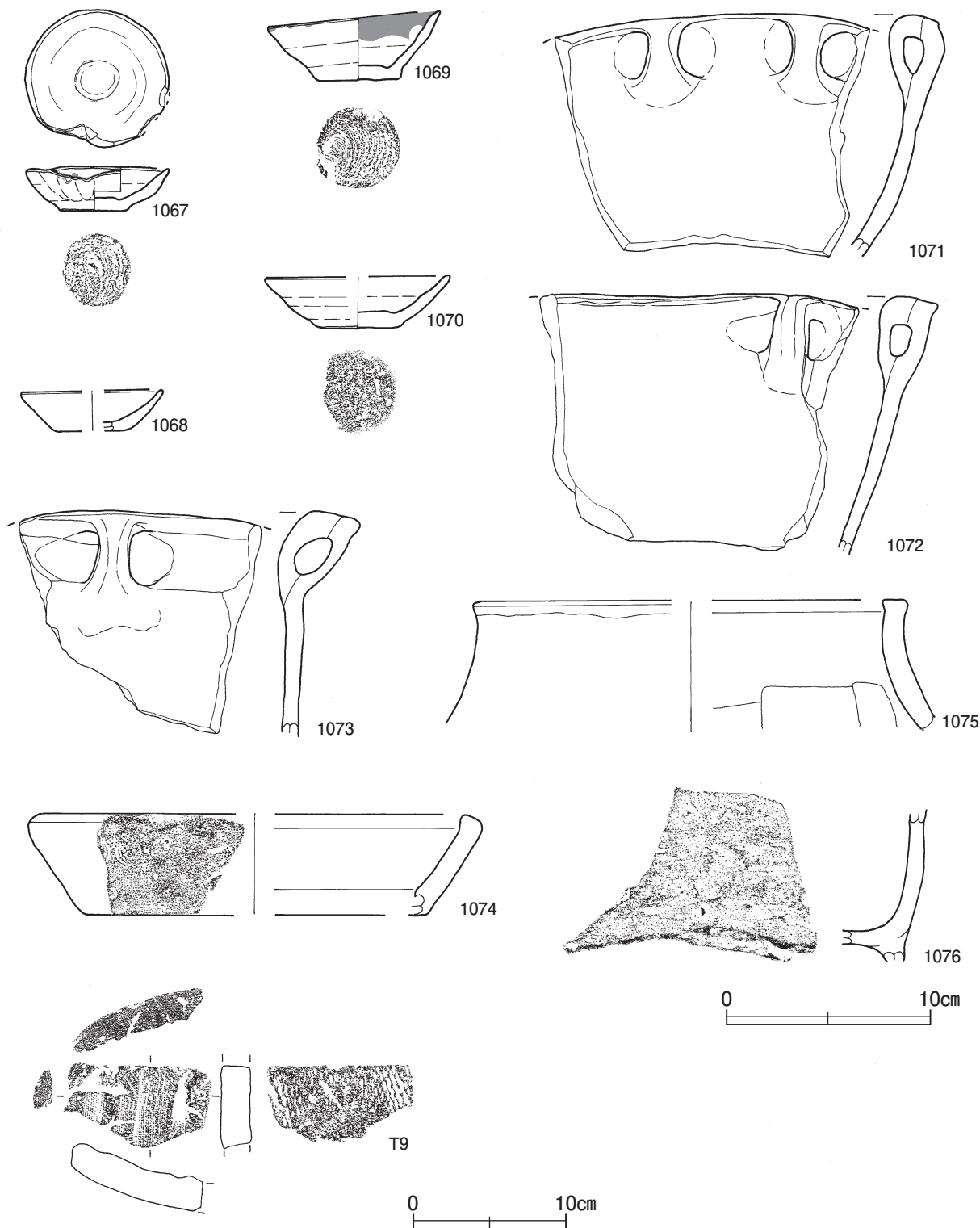
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|--------|-------|-------|---------|----|----------------|------|----|
| DP38 | 壁土カ | (11.5) | (8.3) | (2.2) | (173.4) | 土製 | わら状の茎痕 硬化した粘土塊 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----------|--------|-------|-----|--------|----|---------------------|------|----|
| M18 | 不明(止金具カ) | (12.9) | (6.5) | 0.3 | (36.9) | 鉄 | 端部欠損 L字状の破片 高さ1.3cm | 覆土中 | |

第260号溝跡出土遺物観察表（第493図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|----|-------|--------|--------|--------|----|---------|------|-----|
| 1066 | 磁器 | 染付皿 | — | (1.8) | [12.8] | 精良 透明釉 | 灰白・明緑灰 | 良好 | 内・外面草花文 | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 器種 | 径 | 高さ | 底径 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|--------|-------|--------|---------|-----|---------------------|------|----|
| Q94 | 捏鉢カ | [18.8] | (8.2) | [13.8] | (163.0) | 安山岩 | 口辺部の破片 内面磨り面状 外面調整痕 | 覆土中 | |



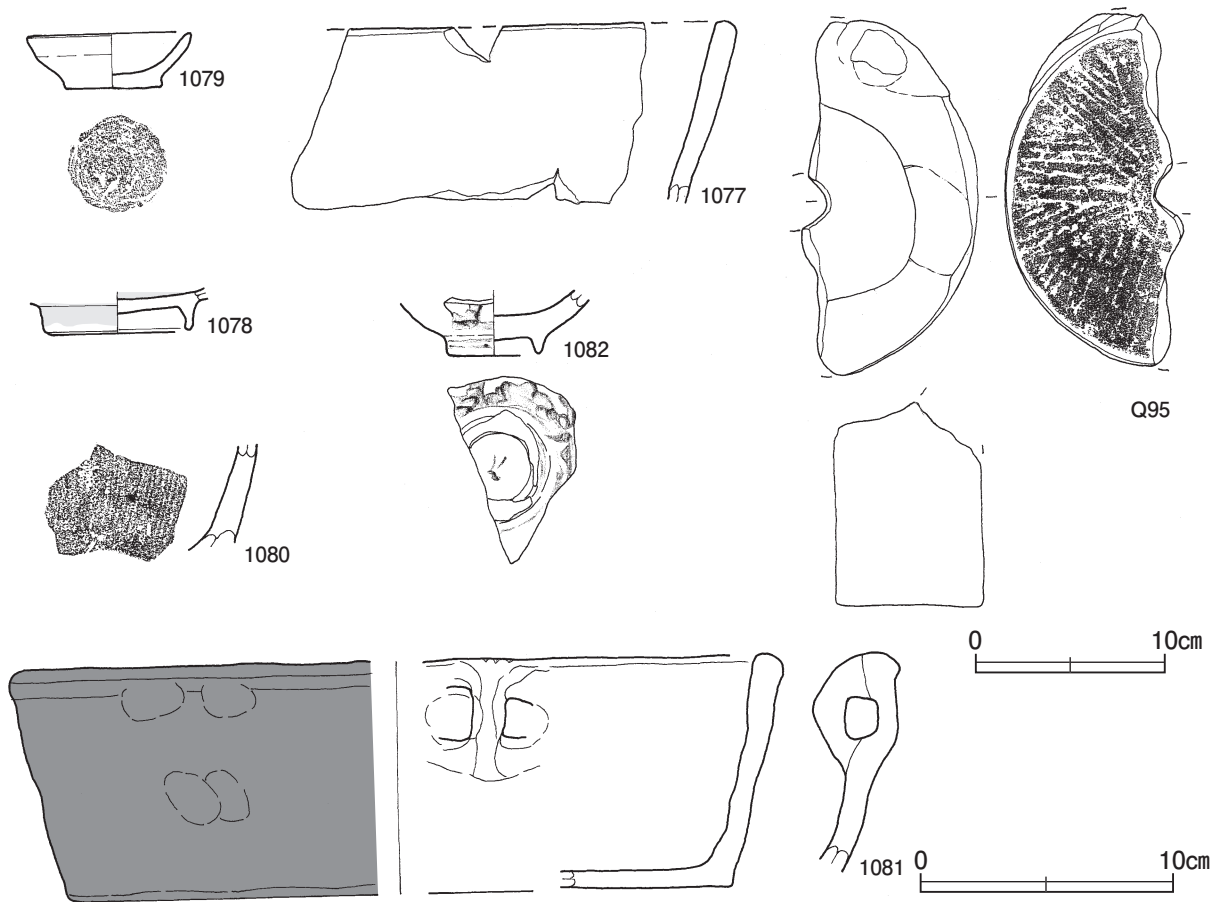
第494図 第318A号溝跡出土遺物実測図

第318A号溝跡出土遺物観察表（第494図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-------|-------------------|----|----|------------------------|------|------------------|
| 1067 | 土師質土器 | 皿 | 7.0 | 2.2 | 3.4 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 90% 欠損部に油煙付着 |
| 1068 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.0 | [3.2] | 長石・雲母・赤色 粒子・砂礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 30% |
| 1069 | 土師質土器 | 皿 | 8.5 | 3.4 | 4.2 | 長石・石英・赤色 粒子 | 灰白 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 70% 成形にゆがみ口辺部煤付着 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|--------|--------|---------------|-------|----|---------------------------|------|-------------|
| 1070 | 土師質土器 | 皿 | [9.1] | 2.6 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後丁寧なナデ | 覆土中 | 40% |
| 1071 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [34.0] | (12.0) | — | 長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 2内耳残存部外面ナデ 耳貼り付け 内面から口縁 | 覆土中 | 15% 体部外面爆付着 |
| 1072 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.4] | (12.6) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 1内耳残存部外面ナデ 耳貼り付け 内面から口縁 | 覆土中層 | 15% 体部外面爆付着 |
| 1073 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (11.1) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 1内耳残存部外面ナデ 耳貼り付け 内面から口縁 | 覆土中 | 10% 体部外面爆付着 |
| 1074 | 土師質土器 | 香炉カ | [22.4] | 5.0 | [16.8] | 長石・石英・雲母・少礫 | にぶい赤褐 | 普通 | 内・外面ナデ 外面にスタンプ文 | 覆土中 | 10% |
| 1075 | 土師質土器 | 甕 | [21.6] | (6.6) | — | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ | 覆土中 | |
| 1076 | 土師質土器 | 火鉢 | — | (7.5) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部下位の破片 内面横ナデ 外面摩滅 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-------|-----|---------|---------------|-------------------------------|------|----------|
| T 9 | 平瓦 | (5.4) | (8.4) | 2.3 | (138.8) | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 凸面に縄状の叩き 凹面に布目痕 一部摩滅痕 外面・胎志灰色 | 覆土中 | 古代 PL124 |



第495図 第342・343・345号溝跡出土遺物実測図

第342号溝跡出土遺物観察表（第495図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|-----|-------|-----|---------------|-----|----|---------------------------|------|-----|
| 1079 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 2.2 | 3.8 | 雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 65% |
| 1080 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (4.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 体部破片 内面ナデ 外面縦位の叩き目 | 覆土中 | |

第343号溝跡出土遺物観察表（第495図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|----|-------|----|-----------------|-------|----|------------------------------|------|---------|
| 1077 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (7.2) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙・暗赤褐 | 普通 | 口辺部片 口唇部を丸くおさめる 内面から口縁部外面横ナデ | 覆土下層 | 10% 焙烙カ |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|--------|----------------|-------|----|---|------|--------------------|
| 1081 | 土師質土器 | 内耳罎 | [29.4] | 9.3 | [26.4] | 石英・雲母・赤色 粒子 | 明赤褐 | 普通 | 1 内耳残存 内面から口縁部外面指頭を を残す横ナデ 耳上部に3条の刻目 | 覆土中層 | 15%焙烙カ 体 部外面煤付着 |
| 1078 | 陶器 | 丸皿カ | — | (1.6) | 5.6 | 精良 灰釉 | 灰白・灰白 | 良好 | 削りだし高台 内・外面釉掛 内面貫入 | 覆土中 | 20%瀬戸・美濃 系 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------------|--------|-------|-------|--------|-----|-----------------------|------|-------|
| Q95 | 石臼 (上臼) | [19.6] | [2.4] | (7.8) | (2098) | 安山岩 | 下側8条1単位の掘り目 軸受け横打込孔残存 | 覆土中 | PL116 |

第345号溝跡出土遺物観察表 (第495図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|----|-------|-------|--------|-------|----|-----------------------------|------|--------|
| 1082 | 陶器 | 染付皿 | — | (2.6) | [3.6] | 精良 透明釉 | 灰白・灰白 | 良好 | 外面草文 削りだし高台 畳付を除き 内・外面施釉 | 覆土中 | 10%肥前系 |

表24 中世溝跡一覧表

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 (m, 深さはcm) | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係 旧→新 同列は同時期) |
|-----|---------------|----------------------|------------|---------------|-------------|-------------|--------|----|-----------|-----------|---|--|
| | | | | 長さ | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | | |
| 2 | K 3 a0~K 4 a1 | N-84°-E | ほぼ直線状 | 7.0 | 0.34~1.12 | 0.12~0.59 | 15~50 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | S14→本跡→SK25 |
| 3 | K 3 e0~K 4 b3 | N-45°-E | 直線状 | (16.4) | 1.17~2.40 | 0.25~1.40 | 30~34 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 石器 | UP1→本跡 |
| 4 | J 4 i2~K 4 b6 | N-57°-W | 緩曲線状 | (22.6) | 1.02~2.00 | 0.26~0.62 | 43~74 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡, SD5→SD13 |
| 5 | J 4 i3~J 4 j0 | N-97°-E | 直線状 | (32.0) | 0.76~2.38 | 0.22~1.19 | 46~77 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | SD4・19A・22, 本跡→SD13, SK327 |
| 6 | K 4 d2~K 4 e4 | N-107°-E | ほぼ直線状 | 9.8 | 0.58~2.32 | 0.44~2.10 | 23~51 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SK76 |
| 8 | K 3 f0~K 3 h9 | N-29°-E | 直線状 | (9.0) | 0.94~1.75 | 0.46~1.20 | 45 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | UP5→本跡, SD14 →SK75・104, SD13 |
| 9 | L 3 d8~L 4 j2 | N-38°-W | 直線状 | (27.6) | 2.00~5.40 | 0.40~0.80 | 38~62 | 緩斜 | 皿状・ 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 管状 土鏝, 砥石, 鏡カ, 鉄滓 | 本跡, SE28→ 第1号土坑群 |
| 10 | L 3 e7~L 3 g9 | N-132°-E | 直線状 | (11.2) | 0.45~1.08 | 0.07~0.48 | 20~25 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡→SK157 |
| 11 | K 5 c2~K 5 d4 | N-70°-W | 直線状 | (7.6) | 0.78~0.84 | 0.14~0.36 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡, SD25・55→ SD16 |
| 12 | K 3 j8~L 3 a7 | N-37°-E | 直線状カ | (5.2) | (0.37~0.45) | (0.26~0.32) | 32 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 鉄滓 | 本跡→SK59 |
| 14 | K 3 f0~L 4 a7 | N-128°-E | 直線状 | (33.7) | 0.92~1.18 | 0.20~0.69 | 43~45 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SE29, SD66, SF3→SF1, SD13 |
| 16 | K 4 d6~K 6 g2 | N-94°-W N-73°-W | 緩曲線状 | (67.9) | 1.64~2.60 | 0.30~0.80 | 68~90 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 石器 | SD11, SE28, SP2, SK323A, 323B, 330- 331→本跡, SD19A・25A・55A→57A |
| 19A | J 4 j8~L 5 b7 | N-37°-W | 直線状 | (60.4) | 0.36~1.32 | 0.20~0.84 | 10~33 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 石器 | 本跡, SD5・16・25・28B・55→SD12・13, SK45・47・53A, SD26・27, SP2 |
| 19B | L 5 e9~M 6 b4 | N-35°-W | 直線状 | (33.0) | 0.76~1.72 | 0.20~0.60 | 24~56 | 緩斜 | 皿状・ 平坦 | 自然・ 人為 | 土師質土器 | 本跡, SE39, WT9, SD120・131A・144・170 |
| 20 | J 5 a9~K 6 b2 | N-165°-E | 直線状 | (41.0) | 1.47~2.71 | 0.42~1.29 | 60~74 | 緩斜 | 皿状 | 自然・ 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 石器, 石 製品, 砥石, 鉄滓, 鉄製品, 木片, 鉄滓 | SK401・402→本跡, SE21, SD21・ 22, PG11→SK300・301・308・310 |
| 21 | J 6 j1~K 6 a1 | N-7°-E | 直線状 | 2.40 | 0.54~0.69 | 0.19~0.22 | 26 | 外傾 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD20 |
| 22 | J 4 j0~K 6 b2 | N-77°-W | 直線状 | (49.8) | 2.74~4.56 | 0.76~1.64 | 84~153 | 外傾 | 平坦 | 自然・ 人為 | 土師質土器, 瓦質土 器, 陶器, 瓦, 石器 | SD5・65→本跡, SD20・64 |
| 25 | K 5 d3~K 5 h1 | N-150°-W | 直線状 | (21.3) | 1.40~2.04 | 0.16~0.42 | 46~56 | 緩斜 | 皿状・ 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石臼, 砥石, 火打金カ, 瓦片 | 本跡, SD11・16・19A・ 55・56・57→SK372 |
| 26 | K 5 h1~L 5 d9 | N-59°-W | 蛇行・ 直線状 | (36.0) | 1.70~3.45 | 0.10~0.20 | 40~59 | 緩斜 | 弧状 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 不明土 製品, 磨石, 石臼, 鉄滓 | SD19A・28B・29→本 跡, SD42・54・56・57 |
| 27 | K 5 g2~K 5 i7 | N-67°-W | 直線状 | 22.3 | 0.20~0.48 | 0.10~0.24 | 16~21 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SD19A→本跡→ SB12 |
| 28A | K 6 e4~L 5 a0 | N-45°-E | 直線状 | (28.2) | 1.58~6.00 | 0.38~1.10 | 106 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 石器, 粘土塊 | SE26→本跡, SD16・ 28B・29, SK467・468 |
| 28B | L 5 b8~K 5 j0 | N-136°-W N-141°-E | 鉤の手状 | (14.4) | 1.60~2.26 | 0.30~1.00 | 116 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD28A・29, SK470→ SD19A・26→SK466 |
| 29 | K 6 f3~L 5 c8 | N-38°-E | 直線状 | (35.3) | 1.04~2.22 | 0.10~0.74 | 38~66 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | 土師質土器, 石器 | 本跡, SD28AB, SK467→SD26 |
| 31 | M 4 e2~M 4 h5 | N-40°-W N-115°-W | 鉤の手状 | 19.4 | 1.26~[2.14] | 0.36~0.72 | 24~46 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SE41・43 |
| 32 | M 4 d2~M 4 g5 | N-54°-W N-150°-W | 鉤の手状 | 12.1 | 0.40~1.70 | 0.19~0.62 | 9~16 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SE41・43 |
| 33 | M 4 c4~M 4 g7 | N-41°-W | ほぼ直線 | (17.6) | 0.94~1.68 | 0.40~1.24 | 17~52 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | WT14→本跡, SD156 →SF4→ST3~5 |
| 34 | M 4 e7~M 4 f8 | N-39°-W | 鉤の手状 | (7.4) | 0.44~0.96 | 0.15~0.68 | 6~12 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, WT14→PG3 |

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 (m, 深さはcm) | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係 旧→新 同列は同時期) |
|------|---------------|----------------------|-------|---------------|-------------|-------------|-------|-------|-------|-------|------------------------------|--|
| | | | | 長さ | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | | |
| 36 | L 5 c3~L 5 h1 | N-156°-W | 直線状 | 18.3 | 1.30~1.62 | 0.20~0.55 | 30~42 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, WT6, SD47 |
| 37 | L 4 c5~L 4 d6 | N-120°-E | 直線状 | (6.5) | 0.32~1.20 | 0.14~0.36 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD66 |
| 38 | L 4 d5~L 4 f7 | N-47°-W | 直線状 | 11.2 | 0.10~0.52 | 0.08~0.26 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | 本跡, SD66 |
| 39 | K 4 h8~K 4 i9 | N-132°-E | 直線状 | (7.0) | 0.61~0.80 | 0.27~0.45 | 14~17 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | 土師質土器 | 本跡, SD56→SK394 |
| 42 | K 5 j3~L 5 b2 | N-20°-E | 直線状 | (6.5) | 0.65~1.03 | 0.12~0.60 | 20~22 | 緩斜 | 弧状 | 自然 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器 | 本跡, SD26・66 |
| 43 | M 3 a9~M 4 c1 | N-133°-E | 直線状 | (11.8) | 0.70~1.14 | 0.35~0.60 | 15~22 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SE40 |
| 44 | L 5 a5~L 5 d8 | N-52°-W | 直線状 | (15.3) | 0.62~1.16 | 0.22~0.48 | 30~52 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | |
| 45 | L 4 b0~L 4 c8 | N-49°-E | 直線状 | (8.8) | 0.60~0.90 | 0.18~0.62 | 7~15 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD58・67, SE31 |
| 46A | L 4 j0~M 5 b2 | N-38°-W | 直線状 | (16.0) | 0.85~3.80 | 0.20~0.90 | 28~40 | 緩斜 | 平坦 | 自然・人為 | 土師質土器, 瓦質土器 | 本跡, SD46B・50A・51・52・53・145, SK 482 |
| 46B | M 5 c2~M 5 d1 | N-24°-E | 直線状 | (6.5) | 1.04~1.12 | 0.60~0.70 | 26~42 | 緩斜 | 皿状 | 自然・人為 | 土師質土器, 陶器, 磨石, 剥片, 鉄滓 | 本跡, SD46A・146 |
| 47 | L 5 g1~L 5 j3 | N-34°-W | ほぼ直線 | (11.7) | 1.12~1.28 | 0.26~0.48 | 46~55 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD36 |
| 50A | M 4 b4~L 4 i0 | N-138°-W N-52°-W | 鉤の手状 | 34.5 | 1.16~2.64 | 0.24~1.14 | 33~54 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 砥石, 古銭, 木片 | SE30・42→本跡, SD46A・50B・51~53→SF7 |
| 50B | M 4 c2~M 4 c4 | N-135°-W | 直線状 | (6.8) | 2.20 | 1.60 | 110 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD50A, SE41 |
| 51 | L 4 i0~M 5 a2 | N-39°-W | 直線状 | (11.7) | 1.65~2.00 | 0.52~1.19 | 62~74 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 磁器, 石器 | SE44→本跡, SD46A・50A・53 |
| 52 | L 4 j9~M 4 a0 | N-35°-W | 曲線状 | 9.3 | 1.20~2.80 | 0.54~1.15 | 32~44 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 青磁, 石器, 石製品 | ST10→本跡, SD46A・50A→SK 480 |
| 53 | L 4 i0~M 5 a2 | N-39°-W | 直線状 | (11.3) | 0.60~1.15 | 0.20~0.34 | 22~30 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 石器 | 本跡, SD46A・50A・51 |
| 54 | K 5 i1~L 4 a0 | N-150°-W | 直線状 | (11.6) | 0.74~0.92 | 0.21~0.48 | 14~25 | 緩斜 | 弧状 | 自然 | 土師質土器, 瓦 | 本跡, SD26・57・60・66 |
| 55 | K 5 c2~K 5 h1 | N-154°-W N-130°-E | 鉤の手状 | (24.3) | 0.42~1.00 | 0.18~0.55 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SD16・19A→本跡, SD11・25・56 |
| 56 | K 5 h1~L 4 a7 | N-55°-E | 弓状 | (1.9) | 0.50~1.20 | 0.10~0.90 | 36~40 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD25・26・39・55・57・66 |
| 57 | K 5 h1~L 4 a8 | N-127°-W | 直線状 | (16.4) | 0.95~1.66 | 0.50~0.90 | 18~35 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 磨石, 砥石, 石臼, 不明鉄製品 | 本跡, SD25・26・54・56・60・66 |
| 58 | L 4 c9~L 5 e1 | N-55°-W | 直線状 | (14.1) | 1.18~1.54 | 0.44~0.98 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD45→SB18・19 |
| 60 | L 4 j9~L 4 j0 | N-114°-W | 曲線状 | (4.2) | 0.70~0.80 | 0.38~0.62 | 40 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD54・57 |
| 63 | K 5 c4~K 6 f2 | N-74°-W | ほぼ直線状 | (35.0) | 0.66~1.36 | 0.36~1.04 | 26 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | 本跡→SD16 |
| 65 | J 4 g0~J 4 j0 | N-178°-W | 曲線状 | (11.2) | 2.16~2.42 | 0.38~0.54 | 55 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | 本跡→SD22 |
| 66 | L 4 f7~L 5 d8 | N-75°-W N-20°-W | 直線・曲線 | (67.0) | 0.85~1.60 | 0.20~1.05 | 50~65 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | SP45, WT7→本跡, WT19, SD4・37・38・42・54・56・57・67→SF5, SK 459 |
| 67 | L 4 a8~L 5 c4 | N-75°-W | ほぼ直線状 | (23.0) | 0.98~[1.30] | 0.20~0.35 | 35~45 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD45・66, WT17・8, SK 459 |
| 100 | L 5 g8~L 5 h8 | N-47°-E | 直線状 | (2.7) | 0.31~0.47 | 0.10~0.25 | 9~21 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD149 |
| 113 | G 8 f9~G 9 h3 | N-118°-E | 直線状 | (16.1) | (0.88~1.44) | (0.32~0.84) | 38~58 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 陶器, 磁器 | SI53→本跡 |
| 120 | M 6 c3~L 6 i6 | N-147°-W | 直線状 | (24.6) | 1.20~1.25 | 0.20~0.45 | 60~66 | 緩斜 | 平坦 | 自然・人為 | 土師質土器 | 本跡, SD19B・121・122・124・125, SK1291 |
| 121 | L 6 g7~L 6 i6 | N-140°-W | 直線状 | (6.8) | 1.14~1.36 | 0.22~0.36 | 48 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡, SD120・122・123A |
| 122 | L 6 e2~L 6 i6 | N-135°-E | ほぼ直線状 | (22.0) | 0.82~1.26 | 0.30~0.50 | 36~58 | 緩斜 | 皿状 | 自然・人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD121~123B・127 |
| 123A | L 6 d4~L 6 j9 | N-155°-W N-136°-E | 鉤の手状 | (30.0) | 1.24~2.12 | 0.18~0.54 | 40~62 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD121・123B, SK900・901 |
| 123B | L 6 b1~L 6 d4 | N-53°-W | 直線状 | (14.4) | 1.70~1.96 | 0.36~0.56 | 88 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 自然・人為 | 土師質土器 | 本跡, SD123A・131A |
| 124 | L 6 f2~L 6 j5 | N-160°-E | 曲線状 | (23.3) | 0.40~1.04 | 0.12~0.44 | 16~20 | 緩斜 | 平坦 | 自然・人為 | — | 本跡, SD120・127 |
| 125 | L 6 f2~M 6 a5 | N-157°-E | 曲線状 | (24.1) | 0.50~0.68 | 0.18~0.38 | 20~30 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 人為 | — | SK905→本跡, SD120・127→SK922 |
| 126 | L 6 f2~L 6 j5 | N-40°-W | 曲線状 | (24.0) | 0.50~0.68 | 0.18~0.38 | 20~30 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 自然 | — | 本跡, SD127, WT13→SK922 |
| 127 | L 5 c0~L 6 f2 | N-34°-W | 直線状 | (14.0) | 0.92~1.80 | 0.18~0.90 | 44~60 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 青磁, 石塔, 木片 | 本跡, SD122・124・125・126・131A |
| 128 | L 5 i9~M 5 b7 | N-137°-W | 直線状 | 13.4 | 0.60~0.96 | 0.12~0.36 | 10~18 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 弥生土器 | SE38→本跡, SD130, PG46 |
| 129 | M 5 a8~M 5 b7 | N-136°-W | 直線状 | 4.2 | 0.56~0.66 | 0.13~0.27 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD130, SK974 |
| 130 | L 5 j4~M 5 b7 | N-61°-W | 直線状 | (12.6) | 1.80~2.06 | 0.43~0.71 | 29~71 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD128・129・133 |
| 131A | L 6 b1~L 5 f9 | N-142°-W | 直線状 | (13.4) | 1.18~1.56 | 0.64~1.22 | 30~58 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD19B・123B・127, WT9→SK972 |
| 131B | L 5 h7~L 5 f9 | N-142°-W | 直線状 | (10.6) | 0.42~0.74 | 0.12~0.42 | 6~10 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD144・149・171 |
| 133 | M 5 a5~M 5 b5 | N-28°-E | 直線状 | 3.5 | 0.98~1.29 | 0.54~0.76 | 41~46 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD130 |
| 134 | M 5 d2~M 5 h6 | N-55°-W | 直線状 | (22.4) | 1.60~2.10 | 0.40~0.80 | 45~48 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器, 石器, 鉄滓 | SK944・945→本跡, SD138→SK934, PG43 |
| 135 | M 6 e2~M 6 f1 | N-41°-E | U字状 | (6.0) | 2.12~3.84 | 0.40~0.79 | 60~90 | 緩斜・外傾 | 皿状・平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 瓦, 石器・石製品・石塔 | 本跡, SD137・147 |

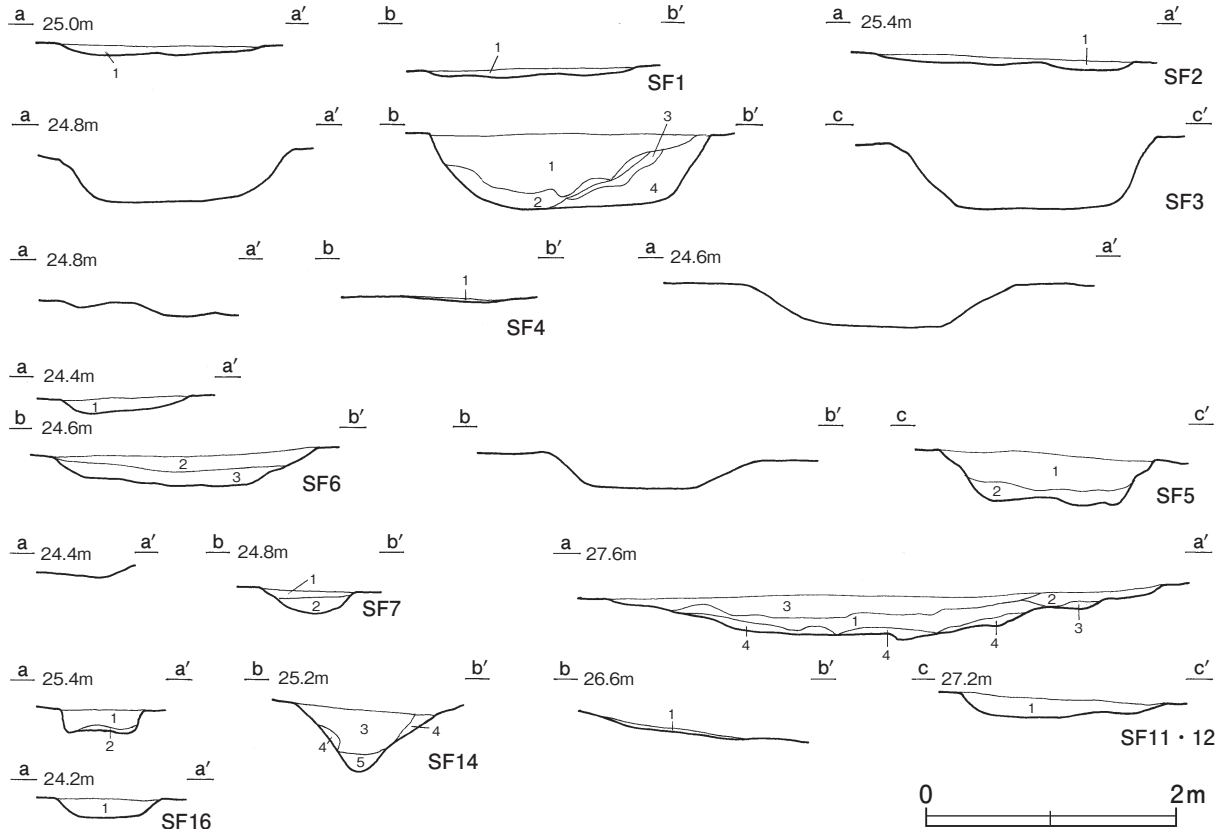
| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 (m, 深さはcm) | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土物 | 備考 (新旧関係 旧→新 同列は同時期) |
|------|---------------|----------------------|-------|---------------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|-----------|---|---|
| | | | | 長さ | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | | |
| 136 | M 5 h8~N 5 a6 | N-45°-E N-6°-E | 曲線状 | (14.0) | 1.30~1.80 | 0.18~0.60 | 20~38 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | SP7→本跡 |
| 137 | M 6 d2~M 6 e1 | N-149°-W | 直線状 | (3.2) | 0.60~0.84 | 0.10~0.50 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD135 |
| 138 | M 5 d2~N 5 b5 | N-42°-W N-57°-E | L字状 | (48.0) | 1.50~2.30 | 0.20~0.60 | 60~84 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 磁器, 鉄滓 | ST16→本跡, SD134・ 139-143A-145 |
| 139 | M 5 i3~N 5 a1 | N-43°-E | 直線状 | (10.3) | 0.90~1.60 | 0.20~1.40 | 10~18 | 緩斜・ 外傾 | 平坦 | 自然 | — | 本跡, SD138・150 |
| 141 | M 5 d7~M 5 h0 | N-45°-W N-8°-W | 直線・緩曲 | (16.8) | 0.50~1.30 | 0.14~0.68 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, WT15 |
| 143A | M 4 e0~M 4 h7 | N-40°-E | 直線状 | (13.7) | 2.13~2.15 | 0.50~0.80 | 58~75 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD138→ SK1331-1332 |
| 143B | M 5 a4~M 5 b3 | N-48°-E | 直線状 | (4.4) | (0.46~0.64) | (0.09~0.30) | — | — | — | — | — | 本跡→SD145, SK1473 |
| 144 | L 5 e9~L 5 f0 | N-54°-W | 直線状 | (6.5) | 1.60~1.96 | 0.72~1.16 | 46 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 凹石 | 本跡, SD19B・131B |
| 145 | M 5 b3~M 5 d2 | N-14°-W | 直線状 | (8.8) | 0.70~1.60 | 0.40~1.10 | 30~40 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | SD143B→本跡, SD46A・138→SK1249 |
| 146 | M 5 c2~M 5 d1 | [N-38°-E] | [直線状] | (6.6) | — | — | (24) | — | — | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD46B |
| 147 | M 6 d2~M 6 e2 | N-151°-W | 直線状 | (3.0) | 0.12~0.62 | 0.04~0.32 | 4 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD135 |
| 148 | M 6 c2~M 6 d1 | N-45°-E | 緩曲線 | 4.50 | 0.30~1.01 | 0.15~0.92 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | |
| 149 | L 5 g2~L 5 h9 | N-55°-W | 直線状 | (8.9) | 0.29~0.57 | 0.15~0.29 | 8~24 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | 土師質土器 | 本跡, SD100-131B |
| 150 | M 4 j0~N 5 a1 | N-46°-E | — | (3.1) | 1.40~6.10 | 1.00~5.50 | 20 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | 本跡, SD139 |
| 151 | K 7 g2~K 7 g3 | N-70°-W | 直線状 | (8.0) | 0.76~1.32 | 0.44~0.60 | 4 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD152・153 |
| 152 | K 7 g2~K 7 g4 | N-60°-W | 直線状 | (10.2) | 0.36~0.90 | 0.14~0.40 | 4 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD151・153 |
| 153 | K 6 d6~K 7 f1 | N-65°-W | 直線状 | (24.2) | 0.46~3.00 | 0.38~1.90 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | SI115→本跡, SD151 ~ 154 |
| 154 | K 6 b7~K 6 e6 | N-35°-E | 直線状 | (13.5) | 0.50~0.86 | 0.24~0.35 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD153, SE27 |
| 156 | M 4 d5~M 4 b8 | N-116°-W | ほぼ直線状 | (14.6) | 0.60~1.80 | 0.20~0.68 | 7~15 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD33→SF7 |
| 170 | L 6 g1~L 5 h0 | N-44°-E | 直線状 | (4.0) | 0.25~0.41 | 0.07~0.20 | 5 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | 本跡, SD19B, WT11 |
| 171 | L 5 g8~L 5 h0 | N-62°-W | 直線状 | (8.7) | 0.40~0.74 | 0.15~0.32 | 5~8 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | WT10→本跡, SD131B→SB57 |
| 182 | I 7 c6~I 7 c8 | N-68°-W | 直線状 | 8.9 | 0.90~1.20 | 0.50~0.62 | 55~66 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 砥石 | 本跡, SD196A |
| 183 | J 7 a6~J 7 a8 | N-80°-W | 直線状 | (8.8) | 0.52~0.84 | 0.24~0.58 | 22~30 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | 本跡, SD185 |
| 185 | J 7 a0~J 7 b8 | N-94°-W N-110°-E | U字状 | (31.0) | 1.30~3.80 | 0.28~1.40 | 50~118 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 砥石, 石塔 | 本跡, SD183・187 |
| 187 | I 7 i7~I 7 j6 | N-150°-W | 直線状 | (9.0) | 1.20~1.28 | 0.76~1.00 | 16~36 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 石臼 | 本跡, SD185・327 |
| 188 | I 7 h6~I 7 j6 | N-154°-W | 直線状 | (7.1) | 1.04~1.40 | 0.56~0.88 | 52 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 磨石, 砥石 | 本跡, SE15 |
| 189 | I 7 e2~I 7 i0 | N-115°-E | 曲線状 | (39.0) | 1.36~2.80 | 0.16~0.68 | 58~103 | 緩斜・ 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 石器, 石塔, 不明鉄製品, 木片, 鉄滓 | 本跡, SE15, SD187-199A, 326-327, 338-345-SE14, SD339, SK1543 |
| 190 | I 7 a7~I 7 b4 | N-162°-W N-71°-W | L字状 | (11.2) | 0.26~0.75 | 0.10~0.30 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD193・ 196AB・345 |
| 191 | I 7 c6~I 7 e4 | N-30°-E | 緩曲線状 | (12.0) | 1.30~1.94 | 0.30~0.72 | 45~55 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器, 砥石 | 本跡, SD196A |
| 193 | H 7 h4~I 7 b6 | N-112°-E N-170°-W | L字状 | (26.3) | 0.82~2.40 | 0.36~0.90 | 20~55 | 緩斜・ 外傾 | 皿状・ 平坦 | 自然・ 人為 | 土師質土器, 陶器, 青磁, 石器, 石製品, 古銭, 不明鉄製品 | 本跡, SD190・ 256・261 |
| 195 | I 8 d2~I 8 b5 | N-19°-E N-60°-W | 鉤の手状 | (23.2) | 1.16~1.52 | 0.28~0.56 | 20~26 | 緩斜 | 皿状・ 平坦 | 自然カ | 土師質土器 | 本跡, SD199A・245 |
| 196A | I 7 b4~I 8 d2 | N-97°-E | 直線状 | (29.4) | 1.04~2.26 | 0.16~0.86 | 16~48 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器, 砥石, 鋤先 | 本跡, SD182-190-191・ 196B-199AB-247-345 |
| 196B | I 7 b6~I 7 c8 | N-100°-E | 直線状 | (7.0) | 0.60~0.72 | 0.24~0.40 | 24 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡, SD190-196A |
| 197 | I 7 d9~I 8 e1 | N-116°-E | 直線状 | (9.0) | 0.72~0.98 | 0.28~0.50 | 35 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SE17→本跡, SD199 |
| 198 | I 7 e8~I 7 f0 | N-102°-E | 直線状 | (11.0) | 1.36~1.84 | 0.44~0.80 | 66~75 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD199A・247 |
| 199A | H 8 c1~I 7 i0 | N-173°-W N-9°-E | L字状 | (36.3) | 1.58~4.02 | 0.22~1.48 | 45~122 | 緩斜 | 皿状・ 凸凹 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 瓦, 砥石, 石臼, 石塔 | SD29-33, TMI, SE17→本跡, SD189-195, 196A-197, 198, 199A, 220A-251-SD187, SD2 |
| 199B | H 8 i3~I 8 c2 | N-17°-W | 直線状 | 18.1 | 0.64~1.52 | 0.14~0.40 | 66 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 磁器 | 本跡, SD196A・ 199A |
| 201 | I 4 f7~I 5 i1 | N-48°-E N-21°-E | コの字状 | (25.3) | 1.24~2.30 | 0.12~0.36 | 60~105 | 緩斜 | 皿状・ 平坦 | 人為 | — | SE7→本跡 |
| 202 | I 4 e0~I 5 f1 | N-50°-W | 直線状 | (5.5) | 0.46~0.56 | 0.14~0.22 | 9~15 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | 本跡, SD205 |
| 203 | I 5 g0~J 5 a0 | N-175°-W | ほぼ直線状 | (13.1) | 0.95~1.52 | 0.30~1.08 | 21~38 | 緩斜 | 皿状・ 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | SK1199→本跡 |
| 204 | I 5 f0~I 5 g0 | N-14°-E | 直線状 | (4.1) | 0.55~0.67 | 0.33~0.39 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD300-348 |
| 205 | H 5 g3~I 4 f9 | N-26°-E | 直線状 | 35.6 | 1.36~2.70 | 0.26~0.62 | 86~110 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 砥石, 鉄滓 | 本跡, SD202→ SD210 |
| 206 | I 4 d8~I 4 e9 | N-30°-W | 直線状 | (3.5) | 0.26~1.15 | 0.16~0.72 | 10~30 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | |
| 207 | H 5 g4~I 6 a1 | N-10°-E N-8°-E | クランク状 | (40.2) | 0.48~1.74 | 0.10~0.66 | 10~70 | 緩斜 | 皿状・ 平坦 | 人為・ 自然 | 土師質土器, 陶器, 木片 | 本跡, SD211・213→ SD210 |
| 209A | H 6 e3~H 6 i2 | N-159°-W | 直線状 | (13.3) | (0.60~1.10) | (0.10~0.90) | 64~86 | 外傾 | 平坦 | 人為・ 自然 | 土師質土器, 陶器, 茶臼 | |

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 (m, 深さはcm) | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係 旧→新 同列は同時期) |
|------|-------------------|-------------------------------|-------|---------------|-------------|-------------|---------|-------|-------|-------|---|--|
| | | | | 長さ | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | | |
| 209B | H 6 j 2 ~ I 5 e 0 | N-164°-W | ほぼ直線状 | (23.0) | (0.60~2.20) | (0.40~1.00) | 90~92 | 緩斜 | 平坦 | 人為・自然 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 土製品, 石器, 石製品 | 本跡, SD300・348 |
| 211 | H 6 g 1 ~ I 5 a 0 | N-164°-W | Y字状 | (20.0) | 0.48~0.66 | 0.24~0.62 | 6~10 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD207・212→SF18 |
| 212 | H 5 e 8 ~ H 6 g 2 | N-80°-W | ほぼ直線状 | 20.4 | 0.30~1.52 | 0.06~0.50 | 6~34 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 石器 | 本跡, SD211・244→SD210 |
| 213 | H 5 j 9 | N-6°-W | 直線状 | (1.6) | 0.66 | 0.52 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD207 |
| 215 | G 6 g 4 ~ H 6 d 2 | N-10°-E | 直線状 | (32.0) | 0.40~1.90 | 0.10~0.80 | 8~52 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD216・217, WT1 |
| 216 | G 5 i 9 ~ G 6 j 5 | N-83°-W | 直線状 | (21.0) | 2.20~4.54 | 0.28~0.78 | 155~200 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 磁器 | 本跡, SD215→SD210・220 |
| 217 | G 5 g 1 ~ G 6 h 5 | N-73°-W | 直線状 | (18.4) | 1.14~1.64 | 0.34~0.80 | 34~38 | 緩斜 | 平坦 | 人為・自然 | 土師質土器 | 本跡, SD215→SD220 |
| 218 | G 5 f 0 ~ G 6 f 8 | N-82°-W N-80°-E | 緩曲線状 | (34.6) | 1.92~3.90 | 0.16~0.58 | 98~134 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SI103→本跡, SD215 |
| 223 | H 7 g 2 ~ H 7 h 5 | N-70°-W N-51°-E | 屈折 | (14.2) | 0.50~1.16 | 0.12~0.42 | 26~32 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 不明 | 土師質土器 | 本跡, SD241・256 |
| 225 | G 6 g 8 ~ H 6 b 9 | N-3°-W | 直線状 | (21.4) | 0.66~0.95 | 0.52~0.70 | 78~82 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | SI105→本跡, SD226・229A・231・233 |
| 226A | H 6 e 8 ~ H 7 b 7 | N-11°-E N-82°-E | L字状 | (44.2) | 1.42~2.40 | 0.42~0.80 | 80~98 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 石器, 石製品, 木製品 | 本跡, SD225・226B・233・251 |
| 226B | H 7 b 7 ~ H 7 b 9 | N-98°-E | 直線状 | (7.6) | 0.80~1.56 | 0.40~0.60 | 96~100 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | TMI→本跡, SD226A・251 |
| 229A | H 6 b 8 ~ H 8 c 1 | N-75°-W | 緩曲線状 | (54.0) | 0.96~2.36 | 0.24~0.62 | 36~40 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | TMI・SK113→本跡, SD199A・225・233・251・SE1, SX2, SK112H・29 |
| 229B | G 7 j 4 ~ H 7 a 8 | N-99°-E | 直線状 | (16.4) | 0.70~1.26 | 0.28~0.54 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SI108→本跡 |
| 231 | G 6 h 6 ~ G 8 i 3 | N-78°-W N-82°-E N-80°-W | ほぼ直線状 | (68.4) | 0.90~2.80 | 0.30~1.10 | 34~48 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 瓦, 石器 | TMI→本跡, D225・232・242→SK1123 |
| 232 | G 7 f 2 ~ G 7 h 2 | N-45°-W | 直線状 | 8.9 | 1.50~1.74 | 0.65~1.00 | 78~98 | 外傾・緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD23 |
| 233 | H 6 b 8 ~ H 7 b 9 | N-79°-E | 直線状 | (40.8) | 0.80~1.60 | 0.20~1.20 | 36~50 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | TMI→本跡, SD225・226A・229A・251 |
| 235 | H 6 c 0 ~ H 7 c 2 | N-86°-W | 直線状 | (7.0) | 1.10~1.62 | 0.45~0.60 | 48~52 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 石器 | SK1030・1206→本跡, SD23, WT2→SK1023・1037 |
| 236 | I 6 c 0 ~ I 7 e 1 | N-10°-E | ほぼ直線状 | (12.0) | — | 0.14~0.50 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 石器 | 本跡, SD241・326 |
| 237 | H 7 c 2 ~ H 7 e 2 | N-11°-E | ほぼ直線状 | (6.6) | 0.32~1.00 | 0.15~0.65 | 15 | 緩斜 | — | 自然 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, WT2→SK1033・1034 |
| 239 | H 6 j 7 ~ I 6 c 5 | N-156°-W | 直線状 | 13.4 | 0.78~1.06 | 0.39~0.70 | 44 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | |
| 241 | H 6 g 0 ~ I 6 f 9 | N-15°-E N-75°-W | 鉤の手状 | (41.0) | 0.74~1.44 | 0.44~1.28 | 36 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD223・236・257・260・325・326→SE6, WT3 |
| 242 | G 6 h 6 ~ H 6 c 5 | N-116°-W | 直線状 | (20.0) | 0.66~1.90 | 0.36~1.20 | 12~23 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡, SD231 |
| 243 | I 7 b 1 ~ I 6 d 0 | N-21°-E | 直線状 | 9.7 | 1.38~1.80 | 0.24~0.44 | 98 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器, 石製品 | |
| 244 | H 5 e 8 ~ H 6 f 1 | N-77°-W | 直線状 | (15.0) | 0.46~0.68 | 0.08~0.18 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD212→SD210 |
| 245 | G 8 j 5 ~ I 8 c 2 | N-72°-W N-9°-E N-13°-E | 屈曲状 | (61.4) | 0.60~1.90 | 0.28~1.60 | 22~60 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | SI120・125, TMI→本跡, SD195→ST45, SK1527 |
| 247 | H 7 g 0 ~ I 7 g 7 | N-170°-W | 直線状 | 42.0 | 1.38~1.80 | 0.24~0.44 | 35 | 緩斜 | 平坦 | 自然・人為 | 土師質土器, 陶器, 磨石 | SE16→本跡, SD196A・198→SK1186, PGS2 |
| 251 | H 7 b 7 ~ H 8 c 3 | N-82°-W N-8°-W | 緩屈曲 | (28.1) | 0.80~2.20 | 0.36~1.02 | 68~72 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | TMI→UPI3・4, SK1140→本跡, SD119A・226B・229A・233→SX2 |
| 254 | G 7 f 9 ~ G 9 i 3 | N-77°-W | 直線状 | (6.1) | 1.94~2.34 | 0.48~0.72 | 80~98 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | |
| 256 | H 7 h 5 ~ I 7 c 3 | N-22°-E | 直線状 | (28.0) | 0.48~1.20 | 0.22~0.48 | 4~52 | 緩斜・外傾 | 皿状・平坦 | 人為 | — | SK1191→本跡, SD193・223・257・260・261・262・345 |
| 257 | H 7 i 1 ~ H 7 j 4 | N-75°-W | 直線状 | (11.9) | 0.54~0.80 | 0.12~0.28 | 14~30 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 人為 | — | 本跡, SD241・256→SE6 |
| 258 | H 6 e 7 ~ H 6 g 0 | N-50°-W | ほぼ直線状 | (12.0) | 0.70~1.10 | 0.30~0.44 | 46 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD325→SK1604 |
| 259 | H 6 e 5 ~ H 6 e 7 | N-86°-E N-73°-W | 緩屈曲 | (10.3) | 0.90~1.32 | 0.28~0.68 | 70 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1604 |
| 260 | H 7 i 5 ~ H 7 h 7 | N-85°-W | 直線状 | (12.0) | 0.42~0.82 | 0.14~0.42 | 54~60 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD241・256・262 |
| 261 | H 7 i 5 ~ H 7 j 6 | N-74°-W | 直線状 | (7.0) | 0.64~1.10 | 0.42~0.80 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | 本跡, SD193・256 |
| 262 | H 7 h 5 ~ H 7 h 3 | N-86°-W | ほぼ直線状 | (6.7) | 0.36~0.46 | 0.10~0.20 | 22 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡, SD256・260 |
| 300 | I 5 e 0 ~ J 6 j 3 | N-176°-W N-97°-E | 鉤の手状 | (67.2) | 1.44~2.88 | 0.44~0.88 | 98~138 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器, 砥石, 石臼, 石碓, 木片, 鉄滓 | SE10・11, SK1550→本跡, SD204・209B・303・304・306・343・348 |
| 301 | J 6 b 2 ~ J 6 c 3 | N-5°-W | ほぼ直線状 | (2.4) | 0.72~0.82 | 0.30~0.50 | 25 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD304→SK1508 |
| 303 | J 6 j 3 ~ J 6 i 7 | N-97°-W | 直線状 | (16.4) | 0.74~1.18 | 0.42~0.92 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK1501→本跡, SD300 |
| 304 | J 6 a 2 ~ J 6 c 6 | N-61°-W N-2°-E N-78°-W | クランク状 | (19.0) | 0.76~1.35 | 0.36~0.90 | 13~36 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 土製品, 石臼, 砥石 | 本跡, SD300・301・305・323A→SK1507→1509 |
| 305 | J 6 a 2 ~ J 6 a 8 | N-88°-E | ほぼ直線状 | (10.0) | 0.98~2.80 | — | 36~56 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD304・323A・323B・324・330, WT4 |
| 306 | J 6 h 3 ~ J 7 e 3 | N-97°-W | 鉤の手状 | (49.4) | 1.52~2.60 | 0.36~0.90 | 88~130 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD300・307・311・312・318A・333→SD340, SK1540 |
| 307 | J 6 a 7 ~ J 6 h 8 | N-175°-E | 直線状 | (25.4) | 1.08~2.22 | 0.60~1.60 | 16~25 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石臼, 鉄滓 | SE22→本跡, SD306・321・334, SEB74, PG62 |
| 309 | K 6 a 7 ~ K 6 c 4 | N-137°-W | 緩曲線状 | (13.5) | 1.18~1.70 | 0.56~1.14 | 44~65 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD310・312・320・347 |
| 310 | K 6 d 5 ~ J 7 i 5 | N-103°-W N-148°-W | 鉤の手状 | (47.0) | 1.12~2.00 | 0.32~0.80 | 72~95 | 外傾・緩斜 | 皿状・平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD309・311・312・320→SK1520 |

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 (m, 深さはcm) | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係 旧→新 同列は同時期) |
|------|----------------|-------------------------------|-------|---------------|-------------|-------------|---------|-------|-------|-------|------------------------|--|
| | | | | 長さ | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | | |
| 311 | K 6 d5~ J 7 h1 | N-132°-W | 直線状 | (31.8) | 0.22~1.52 | 0.08~0.32 | 40~92 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡, SD306・310・313・315・316・322→SD340 |
| 312 | J 6 h8~ J 6 j8 | N-3°-W | 直線状 | (8.3) | 0.40~1.12 | 0.30~0.78 | 24~36 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡, SD306・309・310・316 |
| 313 | K 6 a8~ J 7 j2 | N-80°-W | ほぼ直線状 | (16.2) | 0.90~1.30 | 0.50~0.86 | 30 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD311 |
| 315 | J 6 j9~ J 6 j0 | N-82°-W | 直線状 | (5.2) | 0.82~0.96 | 0.40~0.50 | 30 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD311・312 |
| 316 | J 6 i8~ J 7 g4 | N-115°-W | ほぼ直線状 | 24.8 | 0.76~1.52 | 0.52~1.00 | 32~45 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD311・312 |
| 317 | J 7 j6~ K 6 b8 | N-100°-W | 直線状 | (30.4) | 0.60~(1.80) | 0.32~(1.80) | 12~20 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SK1542→本跡→SD314 |
| 318A | J 7 d9~ J 7 f4 | N-115°-W | 直線状 | (22.4) | 0.88~1.61 | 0.88~1.61 | 41~68 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD306・318B |
| 318B | J 7 e6~ J 7 f5 | N-120°-W | 直線状 | (7.5) | 0.26~0.44 | 0.26~0.44 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD318A |
| 319 | J 7 i1~ J 7 g4 | N-162°-W N-74°-W | 緩曲線状 | 17.8 | 0.46~1.15 | 0.26~0.72 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | |
| 320 | K 6 c4~ K 6 d5 | N-61°-W | ほぼ直線状 | (4.6) | (0.98) | 0.54~0.80 | 90 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡, SD309・310 |
| 321 | J 6 b6~ J 6 a0 | N-83°-E N-67°-E | 緩曲線状 | (16.0) | 0.80~1.42 | 0.30~0.74 | 32~52 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD307・331・333・334, WT5 |
| 322 | K 6 d5~ K 6 a8 | N-152°-W | 直線状 | (10.6) | 0.78~0.85 | 0.60~0.70 | 30 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD311 |
| 323A | J 6 a3~ I 6 j9 | N-87°-E | ほぼ直線状 | (26.3) | 0.94~1.86 | 0.36~0.64 | 30~44 | 緩斜 | 平坦・皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD304・305・323B・324・330・333・334 |
| 323B | I 6 j7~ I 6 j8 | N-75°-E | 直線状 | (4.5) | 0.88~1.10 | 0.30~0.48 | 28 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD305・323A |
| 324 | J 6 a5~ I 6 i9 | N-36°-E N-72°-W N-33°-E | 蛇行 | (21.5) | 0.54~1.40 | 0.15~0.60 | 16~90 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD305・323A・334 |
| 325 | H 6 g0~ I 6 h9 | N-16°-E N-84°-W | 鉤の手状 | 54.6 | 2.76~4.20 | 0.40~1.12 | 80~180 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 土製品, 石器, 鉄滓 | SK1562・1563, SK3-棟, SD24・25・26・28・29AC・334・344→SK1534 |
| 326 | I 6 f8~ I 7 e2 | N-77°-E | 直線状 | (16.1) | 1.68~2.76 | 0.20~1.36 | 70~81 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 石器, 石塔, 木片 | 本跡, SD189・236・241・325・327 |
| 327 | I 6 g9~ I 7 j0 | N-66°-E N-117°-E | 鉤の手状 | (56.7) | 3.44~5.24 | 3.04~4.24 | 12~48 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 石臼, 砥石 | SE145→本跡, SD189・236・241・237・239A~C・337~339・345→SK1543, PG 66 |
| 328 | I 6 e2~ I 6 f7 | N-84°-W | 直線状 | (21.6) | 0.83~1.60 | 0.17~0.90 | 11~21 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD325・343 |
| 329A | I 6 h9~ I 7 f2 | N-56°-E | 直線状 | 11.2 | 1.24~2.42 | 0.56~1.20 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD327・329BC・337 |
| 329B | I 6 g0 | N-30°-E | 直線状 | (4.5) | 1.12~1.22 | 0.70~0.80 | — | — | — | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD329AC |
| 329C | I 6 g9~ I 6 h9 | N-10°-E | 直線状 | (4.0) | 0.40~0.92 | 0.10~0.30 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK1563→本跡, SD325・329AB |
| 330 | I 6 j4~ J 6 a4 | N-57°-W | 直線状 | (4.0) | 1.10~1.16 | 0.66~0.92 | 30 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 自然・人為 | 土師質土器 | 本跡, SD305・323A |
| 331 | I 6 j9~ J 7 c3 | N-114°-E | 緩曲線状 | (15.9) | 0.54~1.30 | 0.24~0.94 | 20~40 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 石器, 瓦 | 本跡, SD321・333・334 |
| 333 | I 6 j9~ J 7 e3 | N-103°-W N-172°-W | 屈曲 | (28.6) | 1.74~2.40 | 0.48~1.12 | 34~48 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SE24→本跡, SD306・321・323A・331・334 |
| 334 | J 6 b6~ I 6 h0 | N-78°-E N-0°-E N-24°-E | 蛇行 | (26.6) | 1.50~1.80 | 0.28~1.20 | 20~60 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD307・321・323A・324・325・331・335・344・346 |
| 335 | I 7 j3~ I 7 i4 | N-55°-W | U字状 | (32.7) | 1.50~2.38 | 0.46~1.70 | 48~82 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器, 木片, 鉄滓 | 本跡, SD334・339・344 |
| 337 | I 7 e2~ I 7 g1 | N-24°-E | 直線状 | (8.0) | 0.96~1.47 | 0.16~0.68 | 58~103 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SE12→本跡, SD187・327・329A |
| 338 | I 7 f3~ I 7 g2 | N-28°-E | 直線状 | (7.1) | 1.08~1.36 | 0.52~1.06 | 29 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD189・327 |
| 339 | I 7 g5~ I 7 i4 | N-29°-E | 直線状 | (7.1) | 1.20~1.35 | 0.60~0.94 | 44~58 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 石器 | 本跡, SD189・327・335・344 |
| 341 | I 6 b2~ I 6 c6 | N-105°-E | 直線状 | (14.5) | 0.86~1.36 | 0.22~0.55 | 7~20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 石器, 鉄滓 | |
| 342 | I 6 e3~ I 6 e7 | N-90°-E | 直線状 | (15.1) | 0.98~1.58 | 0.60~1.06 | 16~45 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 石器, 鉄滓 | 本跡, SE9 |
| 343 | I 6 f3~ I 6 f5 | N-88°-E | 直線状 | (8.3) | 0.68~1.64 | 0.32~1.10 | 21~40 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 石器 | 本跡, SD300・328 |
| 344 | I 6 g9~ I 7 i4 | N-65°-W N-47°-E | 鉤の手状 | (23.5) | 1.60~3.84 | — | (16~40) | 緩斜 | — | 人為 | 土師質土器 | 本跡, SD325・334・335・339 |
| 345 | I 7 b4~ I 7 e3 | N-26°-E | 直線状 | (13.8) | 0.54~1.42 | 0.18~0.72 | 40~76 | 緩斜 | 皿状・平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SD190・196A・256・327 |
| 346 | J 6 c6~ J 6 d7 | N-5°-W | 直線状 | (4.3) | 0.62~1.36 | 0.38~0.73 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SD334 |
| 347 | K 6 b4 | N-67°-W | 直線状 | (2.3) | 0.90~1.20 | 0.44~0.54 | 60 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡, SD309 |
| 348 | H 6 j2~ I 5 f0 | N-166°-W | 直線状 | (25.4) | — | (0.18~0.40) | (34~50) | — | — | 不明 | — | 本跡, SD204・209B・300 |

(8) 道路跡

中世後半以降から機能していたと考えられる道路跡は、11条確認されている。いずれも当遺跡内で現在の土地境と一致している16世紀代の溝跡と同様に、近世以降も機能していた可能性が高いため、時期は中世とは断定できず、中・近世以降としておきたい。一覧表と全体図で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。また、図示した遺物については、出土遺物観察表に記載した。



第496図 第1～7・11・12・14・16号道路跡実測図

第1号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 砂粒微量

第2号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第3号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 灰褐色 ローム粒子・砂粒少量

第4号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量

第5号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第6号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第7号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 砂粒微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量

第11・12号道路跡土層解説 (共通)

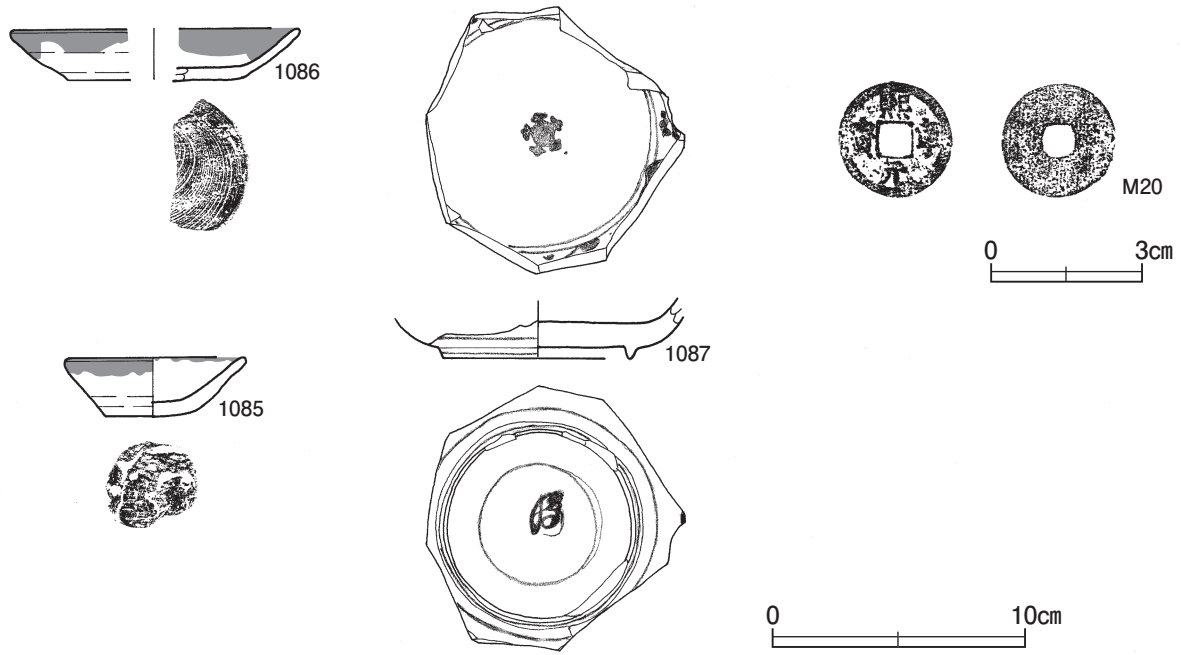
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 砂粒少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第14号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 褐色粘土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 褐色粘土粒子・炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子・褐色粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量

第16号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第497図 第3・5号道路跡出土遺物実測図

第3号道路跡出土遺物観察表（第497図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-----|-------|---------------|-------|----|---------------------------|------|------------|
| 1085 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.3 | 3.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい・橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ | 覆土中 | 50%口唇部油煙付着 |
| 1086 | 陶器 | 丸皿 | [11.4] | 2.0 | [7.0] | 精良 灰釉 | 灰白・淡黄 | 良好 | 底部糸切り 内面・外面に漬け釉 内面見込にトチン痕 | 覆土中 | 25%瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 器種 | 銭種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 材質 | 初鑄年 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|-----|-----|-----|----|------|-----------|------|-------|
| M20 | 古銭 | 熙寧元寶 | 2.3 | 0.7 | 2.3 | 銅 | 1068 | 北宋銭 真書 無背 | 覆土中 | PL123 |

第5号道路跡出土遺物観察表（第497図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|----|-------|-----|--------|-------|----|--------------------|------|--------|
| 1087 | 磁器 | 染付皿 | — | (2.5) | 7.5 | 精良 透明釉 | 灰白・透明 | 良好 | 砂目高台 内面に草花文 内・外面施釉 | 覆土中 | 30%肥前系 |

表25 中・近世道路跡一覧表

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係 旧→新) |
|----|---------------|--------------------|------|---------|-----------|-----------|--------|-------|----|-----|-----------------|--|
| | | | | 確認長(m) | 上幅(m) | 下幅(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 1 | K 4 g1~L 4 b6 | N-49°-W | 直線状 | (32.4) | 1.58~2.84 | 1.46~2.62 | 9 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SD14→本跡, SE29→SD13 |
| 2 | K 4 d5~K 5 c2 | N-90°-E N-48°-E | 蛇行状 | (29.2) | 1.93~2.35 | 1.42~2.21 | 8 | 外傾 | 平坦 | 不明 | — | SD16-19A, UP9, SP2, SK323A-323B-330-331→本跡→SD13 PC2-3號 |
| 3 | K 4 j5~L 3 f0 | N-45°-E | 直線状 | (31.7) | 1.66~2.36 | 1.14~1.52 | 37~57 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 縄文土器 | SP3→SD14, 本跡→SF1 PG4・5域 |
| 4 | M 4 e5~M 4 g7 | N-44°-W | 直線状 | (10.6) | 0.49~0.80 | 0.39~0.69 | 2 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | WT14, SD33→本跡→ST3~5 |
| 5 | L 4 e7~M 3 d0 | N-40°-E | 直線状 | (48.6) | 1.76~3.30 | 0.80~1.98 | 18~34 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 縄文土器 | WT19, SE41→本跡, SD66, SF6・7 |
| 6 | L 4 f8~L 5 j3 | N-59°-W | 直線状 | (25.8) | 1.01~2.20 | 0.6~1.42 | 16~34 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器 | 本跡, SF5→SK333・334 |
| 7 | L 4 j5~M 4 d9 | N-49°-W | 直線状 | (24.9) | 0.50~0.94 | 0.12~0.80 | 10~18 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 磁器 | SD50A→本跡, SD156, SF5 PG6・7・17・18域 |
| 11 | F11e1~G 9 j5 | N-50°-E | 直線状 | (19.0) | 1.46~3.04 | 1.12~2.68 | 11~30 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 土師器 | SI55→本跡, SF12, SF14 |
| 12 | G10f4~G10g8 | N-77°-W | 直線状 | (118.8) | 1.02~1.54 | 0.72~1.18 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡, SF11 |
| 14 | F11f1~F11b9 | N-23°-E N-82°-W | 鉤の手状 | (45.0) | 0.48~1.50 | 0.28~0.68 | 14~50 | 外傾・緩斜 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 土師器, 須恵器 | 本跡, SF11→SF13 |
| 16 | J 7 a8~J 7 b0 | N-82°-W | 直線状 | (10.0) | 0.44~0.96 | 0.30~0.80 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 自然カ | — | |

(9) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第498図)

位置 調査区南部のL 3 a0区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第61・119号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.04m, 短軸1.98mの方形で, 長軸方向はN-40°-Eである。壁高は50cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

底面 北東へ向かってなだらかに傾斜し, 硬化面は認められない。

ピット 深さ32cmで, 性格は不明である。

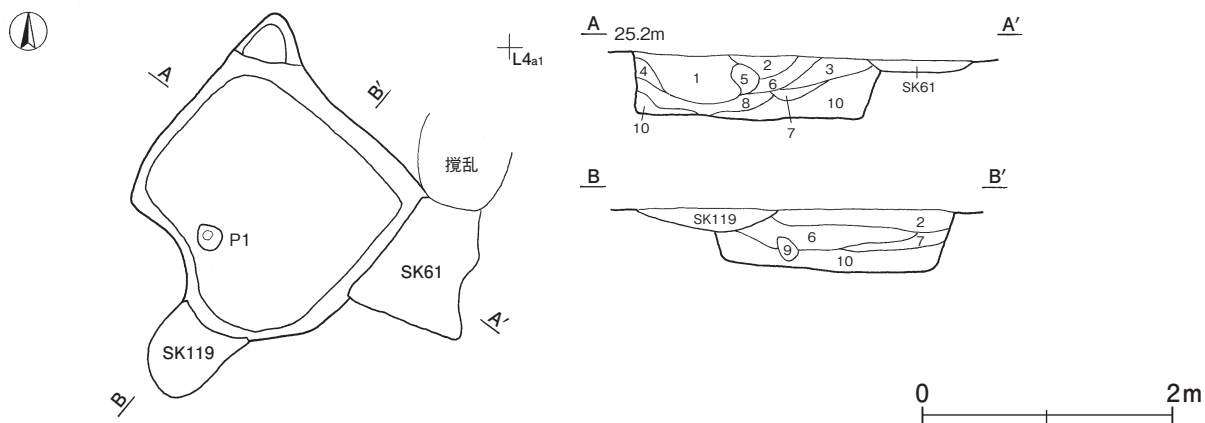
覆土 10層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量 | 9 褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋), 陶器片1点(瀬戸・美濃系小皿)のほか, 混入した縄文土器片7点も出土している。

所見 時期は, 第14号溝跡と第3号道路跡に囲まれ, 東へ12mほど離れて位置している第3号方形竪穴遺構との配置関係から15世紀中葉頃と考えられる。



第498図 第1号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構 (第499図)

位置 調査区南部のK 4 b8区, 標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第16号溝, 第2号道路に南壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.17m, 短軸1.70mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-88°-Wである。壁高は28~38cmで, 外傾して立ち上がっている。

底面 東へ向かってなだらかに傾斜し, 硬化面は認められない。

ピット 深さ32cmで, 性格は不明である。

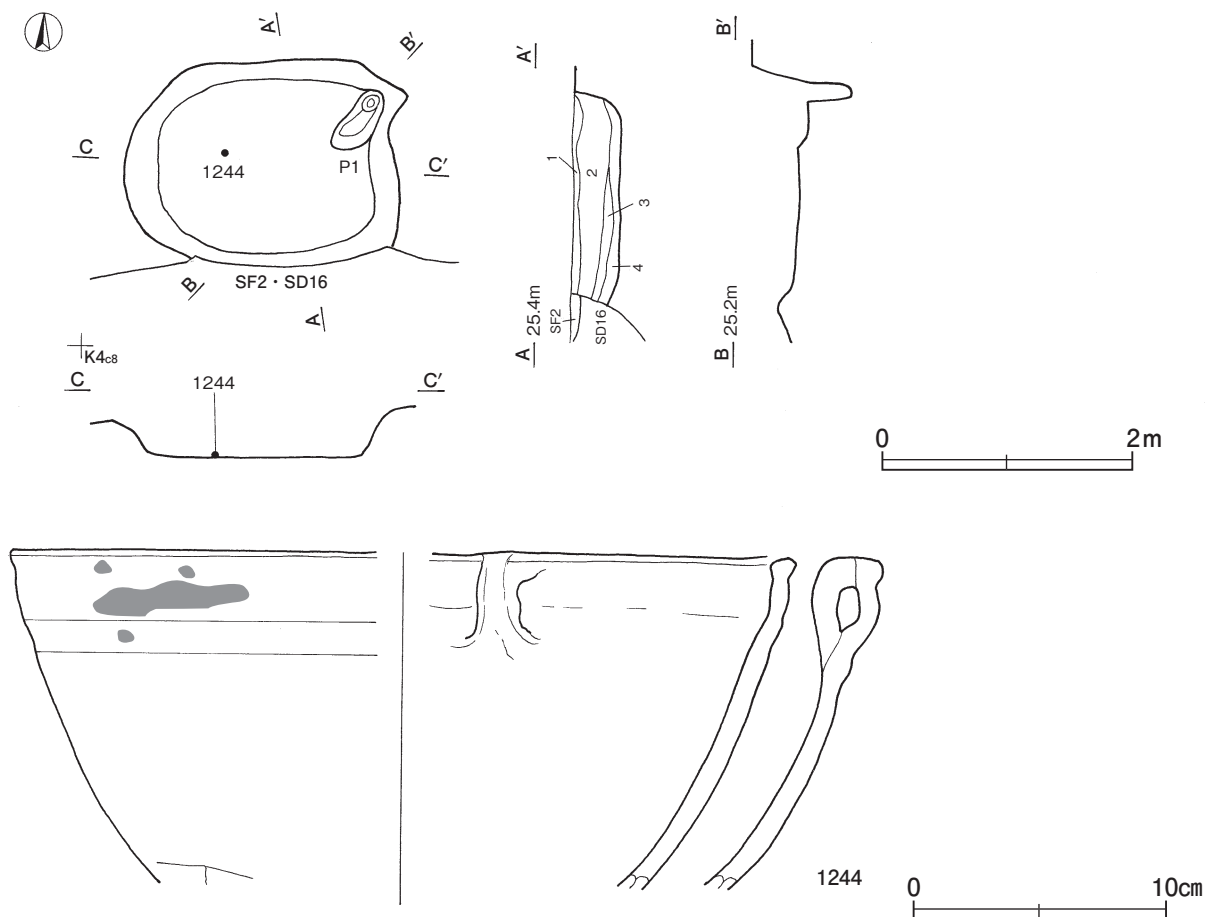
覆土 4層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片17点（皿5，内耳鍋11，播鉢1），陶器片1点（瀬戸・美濃系小皿），鉄製品1点（不明），磔1点のほか，混入した縄文土器片3点，土師器片4点も出土している。1244は底面からやや浮いた状態で出土し，その付近から破損した内耳鍋片や播鉢片が出土していることから，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，重複関係や出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第499図 第2号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第2号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第499図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|--------|----|---------------|------|----|--|------|-----------------|
| 1244 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.0] | (13.3) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面ナデ 1内耳残存 耳口唇部上端から体部上位に貼り付け幅広 内面つまみ出し | 覆土下層 | 10% 口辺部・体部外面煤付着 |

第3号方形竪穴遺構（第500図）

位置 調査区南部のL4 b3区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号道路に東壁を掘り込まれている。

規模と形状 長径2.32m，遺存している短径は1.53mで不定形である。長径方向はN-42°-Eである。壁高は45～50cmで，外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦であり，硬化面は認められない。

ピット 5か所。P1は深さ36cmで，位置的に柱穴と考えられる。P2～P5の深さは4～10cmで，性格は不明である。

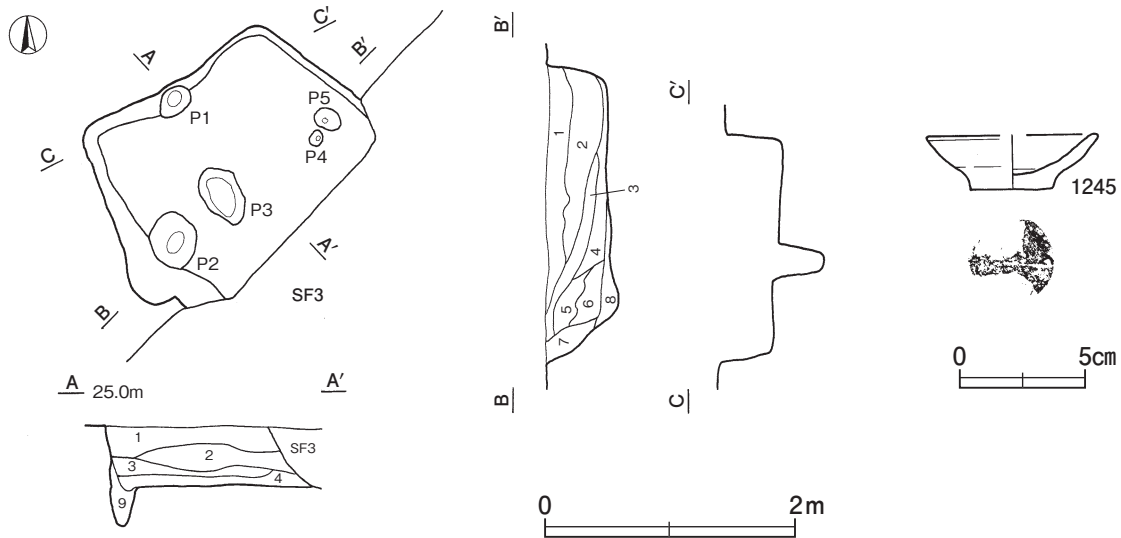
覆土 9層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 炭化物少量 | 6 灰 褐色 砂質粘土ブロック中量 |
| 2 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量 | 7 灰 白色 粘土ブロック多量 |
| 3 暗 褐色 砂質粘土粒子少量 | 8 褐色 色 ローム粒子中量 |
| 4 暗 褐色 色 ローム粒子少量 | 9 明 褐色 色 ローム粒子中量 |
| 5 灰 褐色 色 砂質粘土粒子中量 | |

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿，内耳鍋，播鉢），石器2点（砥石）が出土している。1245は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から15世紀中葉と考えられる。



第500図 第3号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第500図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|------------|-------|----|------------------------------------|------|-----|
| 1245 | 土師質土器 | 皿 | [6.8] | 2.2 | 3.3 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部外面ヘラ切り後丁寧なナデ 内面丁寧なナデ | 覆土中 | 45% |

第4号方形竪穴遺構（第501図）

位置 調査区南部のL5b1区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第66号溝，第5号方形竪穴遺構，第459号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.88m，遺存している短軸は1.23mで，隅丸長方形と考えられる。長軸方向はN-44°-Wである。壁高は30cmほどで，外傾して立ち上がっている。

底面 やや凸凹があり，硬化面は認められない。

ピット 2か所。深さは26・32cmで，規模と配置から柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒 褐色 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒 褐色 色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | |

所見 時期は，重複関係から13世紀代と考えられる。

第5号方形竪穴遺構（第501図）

位置 調査区南部のL5b1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号方形竪穴遺構を掘り込み、第66号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.68m、短軸1.52mの隅丸長方形で、長軸方向はN-37°-Eである。壁高は30cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

ピット 2か所。深さは22・36cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。

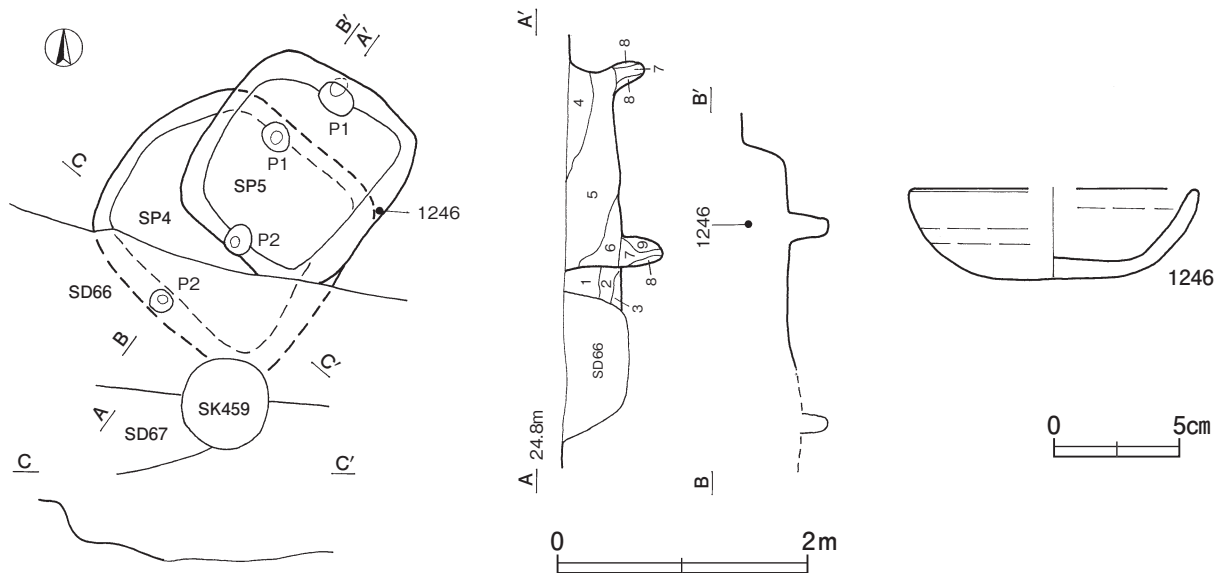
覆土 5層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|----------|---------------------|
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 におい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿）、礫1点が出土している。1246は東壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から13世紀後半と考えられる。



第501図 第4・5号方形竪穴遺構、第5号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第5号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第501図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-----|----|-----------|------|----|-----------------------------|------|-----|
| 1246 | 土師質土器 | 皿 | [11.4] | 3.6 | — | 赤色粒子・白色粒子 | におい橙 | 普通 | 体部外面2段ナデ・内面ナデ 底部回転糸切り後丁寧なナデ | 覆土上層 | 40% |

第6号方形竪穴遺構（第502図）

位置 調査区南部のL4f1区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸2.08m、短軸1.90mの隅丸長方形で、長軸方向はN-48°-Eである。壁高は18～26cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。南部の底面に炭化物が6cmほどの厚さで散在している。

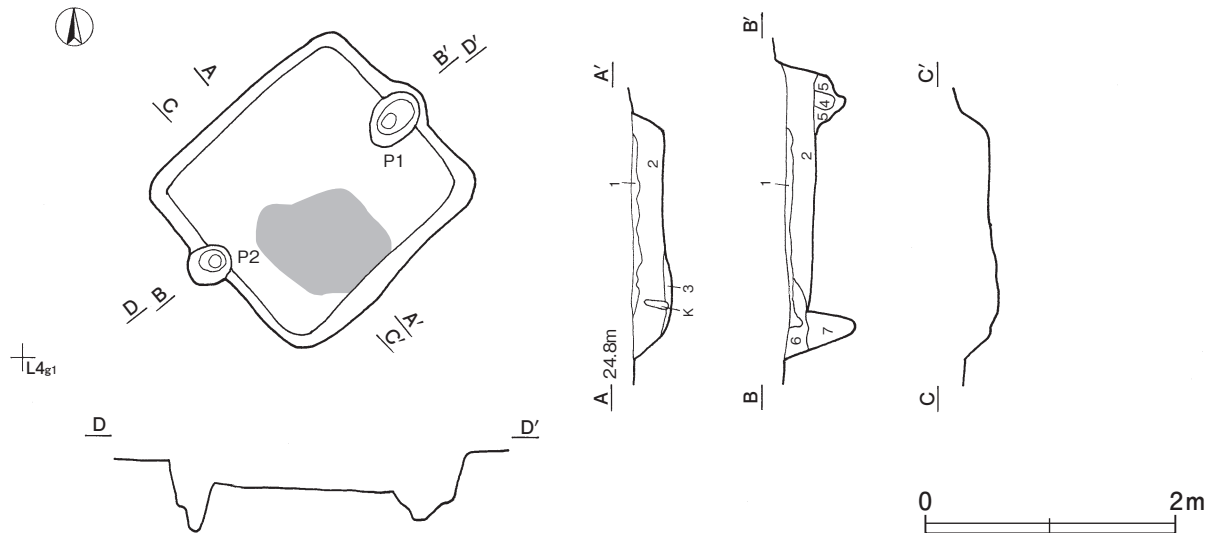
ピット 2か所。深さは22・40cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。

覆土 7層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 |

所見 時期は、第3号道路跡を挟んで北東へ20mほど離れて位置している第3号方形竪穴遺構との配置関係から15世紀中葉と考えられる。



第502図 第6号方形竪穴遺構実測図

第7号方形竪穴遺構 (第503図)

位置 調査区南東部のM5j6区, 標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第136号溝に東壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.28m, 短軸2.62mの長方形で, 長軸方向はN-54°-Wである。壁高は38~50cmで, 外傾して立ち上がっている。また, 西壁中央部の壁外へ130cmほど張り出している部分は, 出入り口部施設と考えられる。

底面 やや凸凹があり, 硬化面は認められない。南壁際の底面は, 長軸86cm, 短軸72cm, 深さ6cmほど掘りくぼめられている。

ピット 深さ30cmほどで, 出入り口部施設に伴うピットと考えられる。

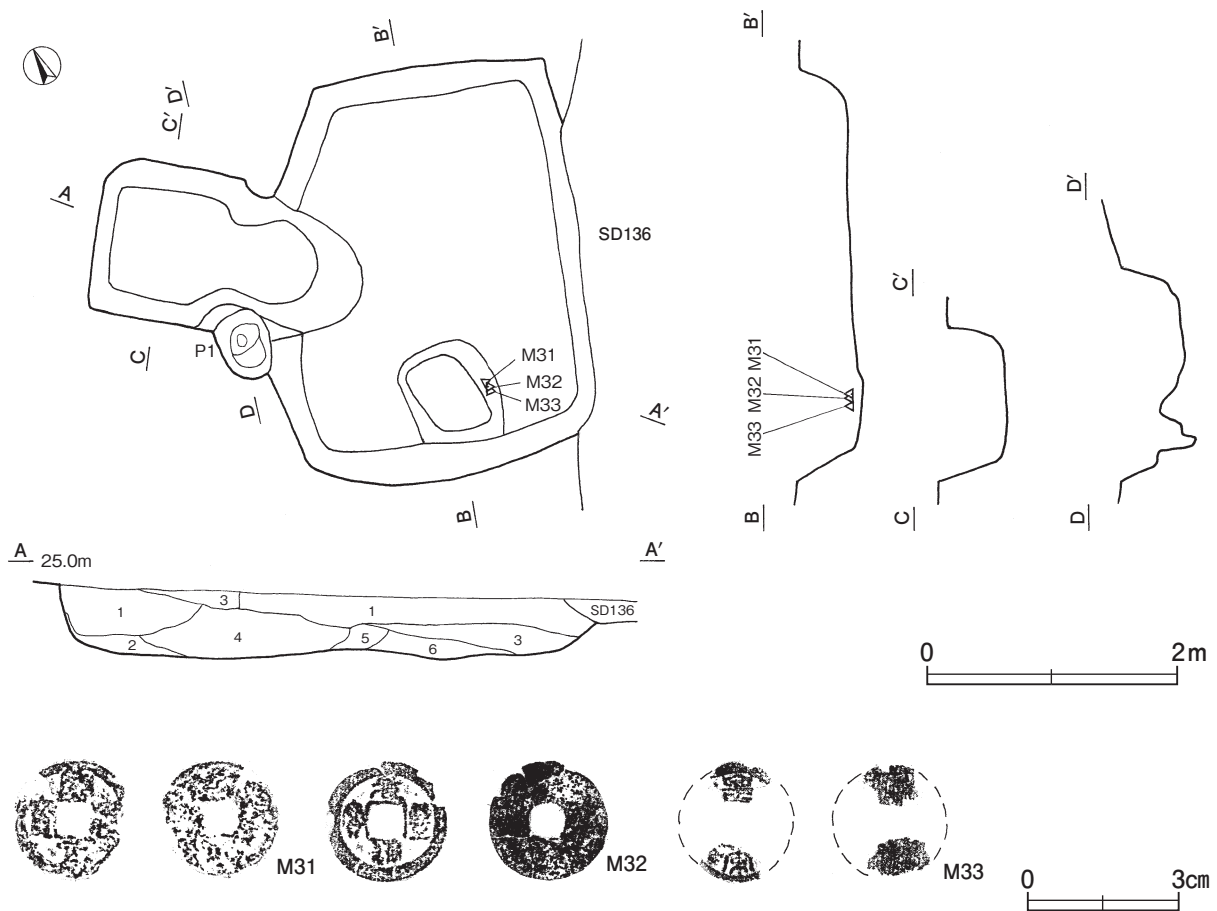
覆土 6層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | 粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿2, 内耳鍋3, 播鉢1), 古銭3点, 礫1点が出土している。M31~M33は南壁際の掘り込み部の底面より8cmほど上位から並んだ状態で出土している。

所見 時期は, 重複関係や, ロクロ成形で底部内面に丁寧なナデ調整が施されている皿から, 15世紀後半と考えられる。また, 南壁際の掘り込み部は, 古銭の出土状況から本跡を掘り込んだ墓坑の存在を想定させるが, 重複関係を示す土層の情報が欠落しているため詳細は不明である。



第503図 第7号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第7号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第503図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|-------|------|----|-----------|------|----|
| M31 | 開元通寶 | 2.4 | 0.6 | 1.5 | 621 | 銅 | 唐銭 無背 | 覆土下層 | |
| M32 | 元豊通寶 | 2.5 | 0.7 | 1.4 | 1078 | 銅 | 北宋銭 行書 無背 | 覆土下層 | |
| M33 | 皇宋通寶 | [2.3] | [0.8] | (0.5) | 1038 | 銅 | 北宋銭 篆書 無背 | 覆土下層 | |

第8号方形竪穴遺構（第504図）

位置 調査区中央部のH7 a0区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号墳を掘り込んで、第13号地下式坑に北西部から南東部にかけて掘り込まれている。

規模と形状 遺存している南北軸は1.95m、東西軸は1.87mで、隅丸長方形と考えられる。長軸方向はN-21°-Eである。壁高は60cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 西へ向かってなだらかに傾斜し、硬化面は認められない。

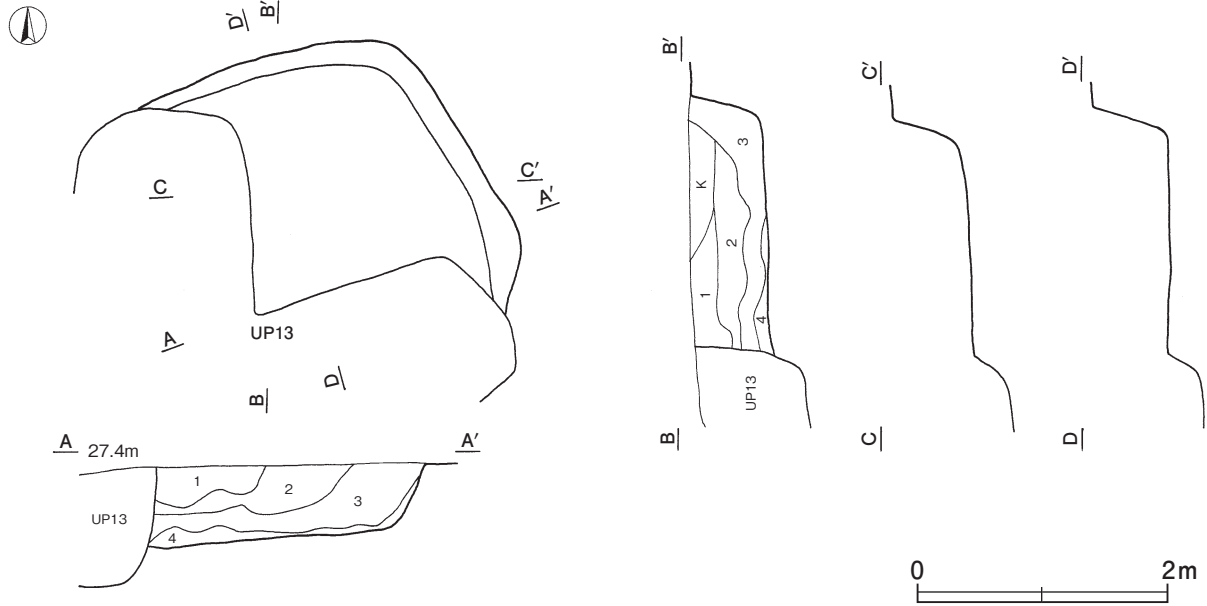
覆土 4層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物・ 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器片12点（皿1，内耳鍋11），陶器片1点（常滑系甕）のほか，混入した縄文土器片37点，弥生土器片6点，土師器片88点，須恵器片2点も出土している。

所見 時期は，重複関係から中世後半と考えられる。



第504図 第8号方形竪穴遺構実測図

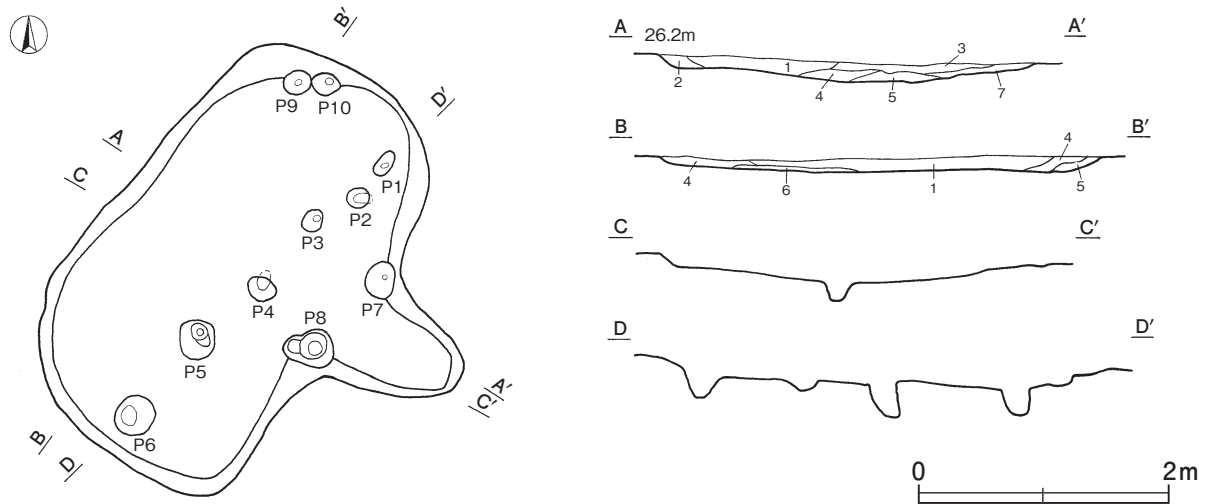
第9号方形竪穴遺構（第505図）

位置 調査区中央部のH6h6区，標高26mほどの緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸3.61m，短軸2.15mの長方形で，長軸方向はN-65°-Wである。壁高は6～12cmで，緩やかに立ち上がっている。また，東壁際の中央部には，壁外へ110cmほど張り出したスロープが確認されており，出入り口部施設と考えられる。

底面 南西へ向かってなだらかに傾斜し，硬化面は認められない。

ピット 10か所。P1～P6は深さ8～30cmで，規模と配置から柱穴と考えられる。P7・P8は，規模と配置から出入り口部施設に伴うピットと考えられる。P9・P10の性格は不明である。



第505図 第9号方形竪穴遺構実測図

覆土 7層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| | | 7 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)のほか, 混入した縄文土器片1点も出土している。

所見 時期は, 遺構の形態から中世と考えられる。

第10号方形竪穴遺構 (第506図)

位置 調査区中央部のH 8 a3区, 標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第110号住居跡, 第1号墳, 第12号地下式坑を掘り込み, 第35, 38～40号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 墓坑群に北壁などを掘り込まれており, 遺存している東西軸は2.81m, 南北軸は2.43mで隅丸長方形と考えられる。長軸方向はN-6°-Wである。壁高は62～70cmで, 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦であり, 硬化面は認められない。

ピット 深さ14cmで, 規模と配置から柱穴と考えられる。

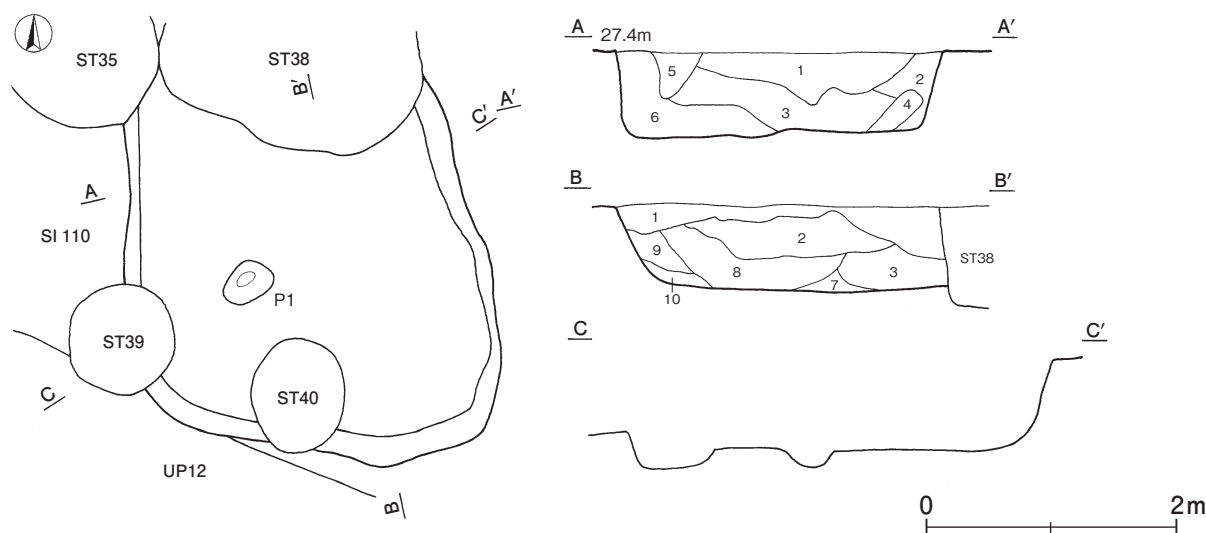
覆土 10層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 8 黒色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 流れ込んだ縄文土器片23点, 弥生土器片2点, 土師器片73点, 磁器片1点が出土している。

所見 時期は, 重複関係から中世後半と考えられる。



第506図 第10号方形竪穴遺構実測図

第11号方形竪穴遺構 (第507図)

位置 調査区南部のL 3 a9区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第113号土坑を掘り込み, 第62～65・122・140・150号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.45m, 短軸2.27mの隅丸方形で, 長軸方向はN-73°-Eである。壁高は50cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦であり, 硬化面は認められない。

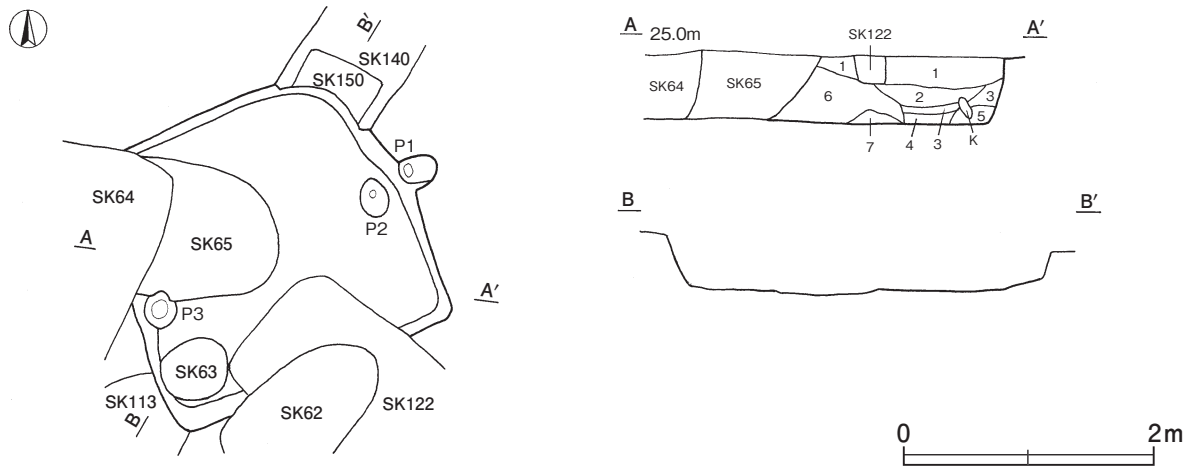
ピット 3か所。規模と配置から柱穴と考えられる。

覆土 7層に分層される。不自然な堆積状況を呈している人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

所見 時期は, 遺構の形態や重複関係から中世と考えられる。



第507図 第11号方形竪穴遺構実測図

第12号方形竪穴遺構 (第508図)

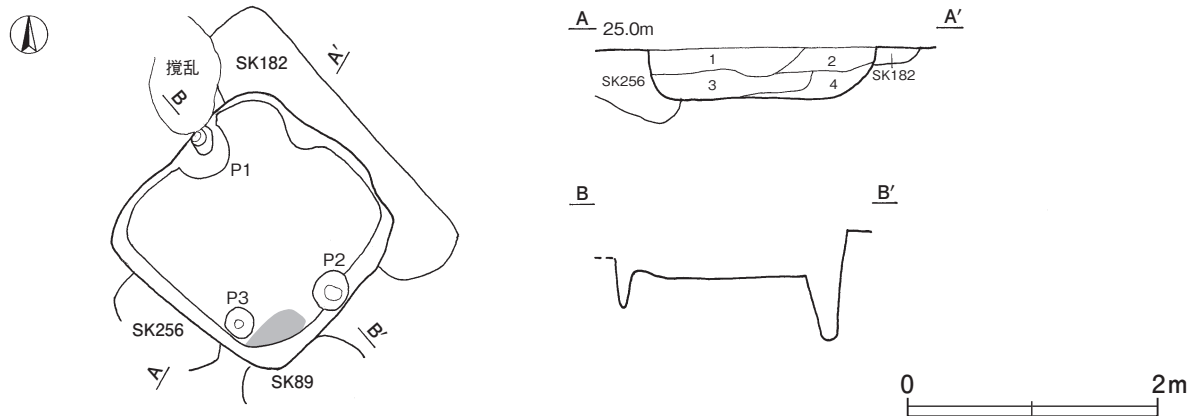
位置 調査区南部のL 3c8区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第89・182・256号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.85m, 短軸1.80mの隅丸方形で, 長軸方向はN-44°-Eである。壁高は40cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦であり, 硬化面は認められない。南コーナー部底面に炭化物が広がっている。

ピット 3か所。P1は深さ30cm, P2は深さ52cmで, 規模と配置から柱穴と考えられる。P3の深さは54cm



第508図 第12号方形竪穴遺構実測図

ほどで、性格は不明である。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 黒 褐 色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | | |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | | |

所見 時期は、遺構の形態や重複関係から中世と考えられる。

表26 方形竪穴遺構一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模(m) | | 壁高 (cm) | 壁面 | 底面 | 内部施設 | | | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 |
|----|--------|---------|---------|-----------------|-------|------------|------|----|------|-----|------|------------------|------------------------------|----|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | | | | | 柱穴 | ピット | 出入口部 | | | |
| 1 | L 3 a0 | N-40°-E | 方形 | 2.04 × 1.98 | 48~50 | 外傾 | 緩斜 | — | 1 | — | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡→SK61・SK119 | |
| 2 | K 4 b8 | N-88°-W | 隅丸長方形 | 2.17 × 1.70 | 28~38 | 外傾 | 緩斜 | — | 1 | — | 人為 | 土師質土器, 陶器, 不明鉄製品 | 本跡→SD16・SF2 | |
| 3 | L 4 b3 | N-42°-E | 不定形 | 2.32 × (1.53) | 42~50 | 外傾 | ほぼ平坦 | 1 | 4 | — | 人為 | 土師質土器, 砥石 | 本跡→SF3 | |
| 4 | L 5 b1 | N-44°-W | (隅丸長方形) | 1.88 × (1.23) | 30 | 外傾 | やや凸凹 | 2 | — | — | 人為 | — | 本跡→SP5→SD66→SK459 | |
| 5 | L 5 b1 | N-37°-E | 隅丸長方形 | 1.68 × 1.52 | 33 | 外傾 | ほぼ平坦 | 2 | — | — | 人為 | 土師質土器 | SP4→本跡→SD66 | |
| 6 | L 4 f1 | N-48°-E | 隅丸長方形 | 2.08 × 1.90 | 18~26 | 外傾 | ほぼ平坦 | 2 | — | — | 人為 | — | | |
| 7 | M 5 j6 | N-54°-W | 長方形 | 3.28 × 2.64 | 38~50 | 外傾 | やや凸凹 | — | 1 | 1 | 人為 | 土師質土器, 古銭 | 本跡→SD136 | |
| 8 | H 7 a0 | N-21°-E | [隅丸長方形] | (1.95) × (1.87) | 62 | 外傾 | 緩斜 | — | — | — | 人為 | 土師質土器, 陶器 | TM1→本跡→UP13 | |
| 9 | H 6 h6 | N-65°-W | 長方形 | 3.61 × 2.15 | 6~18 | 緩斜 | 緩斜 | 6 | 2 | 2 | 人為 | 土師質土器 | | |
| 10 | H 8 a3 | N-6°-W | [隅丸長方形] | (2.81) × (2.41) | 62~70 | 外傾 | ほぼ平坦 | 1 | — | — | 人為 | 磁器 | TM1・SH10→UP12→本跡→ST35・38~40 | |
| 11 | L 3 a9 | N-73°-E | 隅丸方形 | 2.45 × 2.27 | 52~54 | 外傾 | ほぼ平坦 | 3 | — | — | 人為 | — | SK113→本跡→SK62~65・122・140・150 | |
| 12 | L 3 c8 | N-44°-E | 隅丸方形 | 1.85 × 1.80 | 38~40 | 外傾 | ほぼ平坦 | 2 | 1 | — | 人為 | — | 第1号土坑群→本跡 | |

(10) 地下式坑

第1号地下式坑 (第509図)

位置 調査区南部のK 4 b3区, 標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

竪坑 主室東壁の南側に位置している。上面は、長軸1.13m, 短軸1.02mの隅丸長方形である。壁高は54~66cmで、外傾して立ち上がっている。底面は緩やかに傾斜して主室に繋がっている。

主室 東西径3.78m, 南北径1.97~2.34mの不定形である。竪坑と主室を通した軸線方向(以下主軸)はN-66°-Wであり、天井部が一部遺存している。壁は直立および外傾しており、確認面からの深さは66~90cmである。底面は西壁際付近が若干くぼみ、中央部は平坦である。

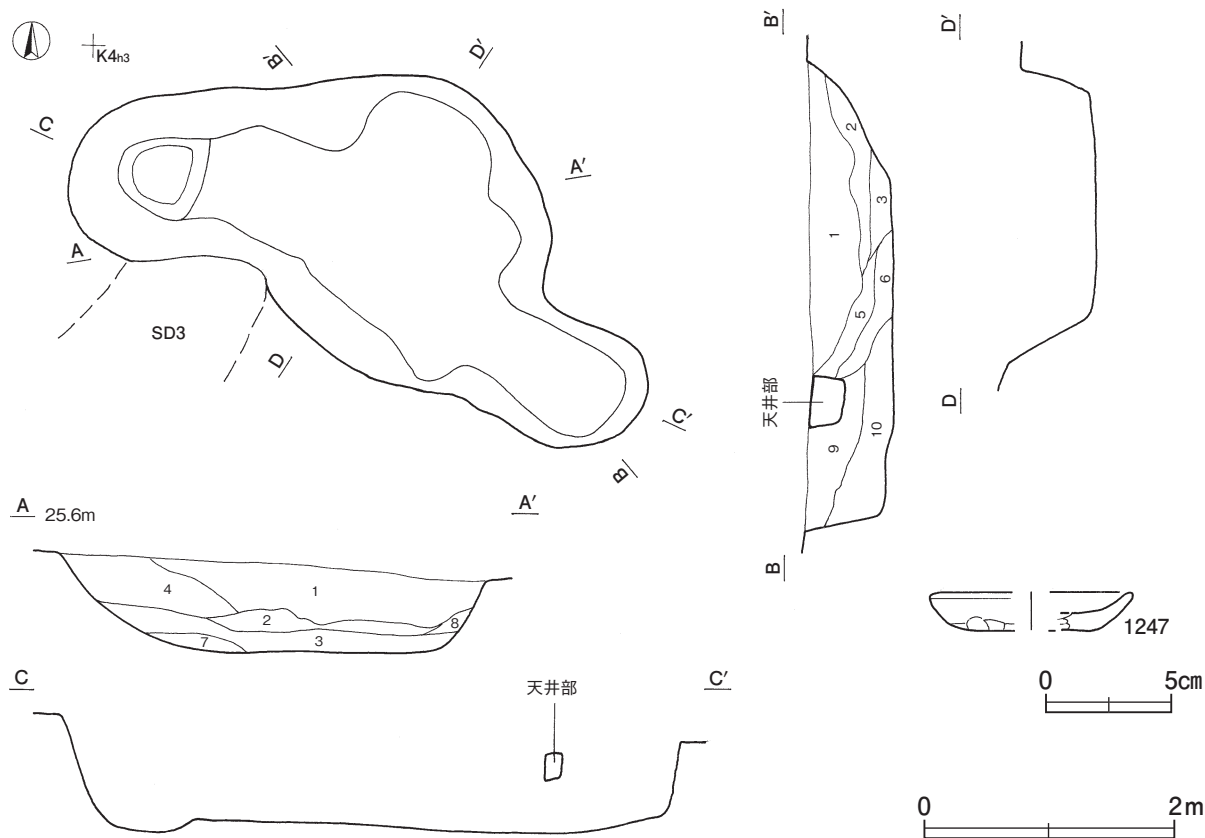
覆土 10層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------|---------|----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | 6 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 明 褐 色 | ローム粒子多量, 粘土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 明 褐 色 | ローム粒子多量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 5 褐 色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片5点(皿4, 内耳鍋1), 石器1点(砥石)のほか、流れ込んだ縄文土器片12点, 土師器片37点, 須恵器片8点も出土している。1247は北西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀中葉と考えられる。



第509図 第1号地下式坑・出土遺物実測図

第1号地下式坑出土遺物観察表（第509図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-------|----|---------|----|----|----------------------|---------|------|-----|
| | | | | | | | | | 口辺部内外面横ナデ 底部外面指頭痕 | 底部内外面ナデ | | |
| 1247 | 土師質土器 | 小皿 | [8.0] | (1.6) | — | 長石・黒色粒子 | 橙 | 普通 | | | 覆土下層 | 20% |

第2号地下式坑（第510図）

位置 調査区南部のJ 4j1区，標高26mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第4号住居跡を掘り込んでいる。

竪坑 主室東壁中央部に位置し，上面は長径1.79m，短径1.28mの楕円形である。壁高は100cmで，外傾して立ち上がっている。底面は段をなし，緩やかに傾斜してから主室に繋がっている。

主室 長軸2.87m，短軸2.68mの隅丸方形で，主軸方向はN-69°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり，確認面からの深さは148～158cmで，底面はほぼ平坦である。

覆土 14層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第13・14層はローム土を多く含む明褐色土であり，天井部の崩落土と考えられる。

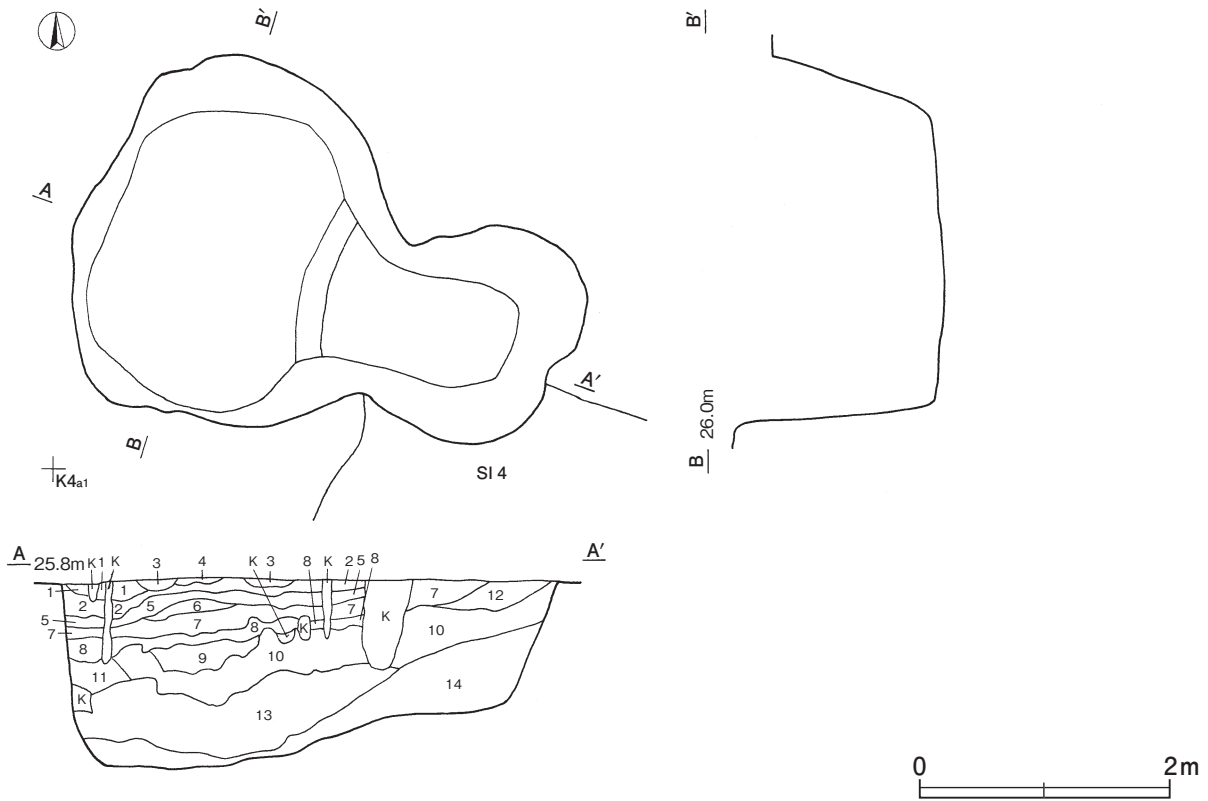
土層解説

| | | | |
|-------|----------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 炭化物微量 | 12 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 13 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・礫微量 | 14 明褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片10点（皿1，内耳鍋9），貝片1点のほか，流れ込んだ縄文土器42点，土師器片

8点、須恵器片6点も出土している。

所見 時期は、遺構の形状やロクロ成形の皿が出土していることから中世後半と考えられる。



第510図 第2号地下式坑実測図

第3号地下式坑（第511図）

位置 調査区南部のL 3 a9区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第245号土坑を掘り込み、第49号土坑に掘り込まれている。

竪坑 主室東壁のやや南側に位置し、上面は長径1.26m、短径1.22mの隅丸方形である。壁高は64cmで、外傾して立ち上がっている。底面は中央部に段を有し、主室まで20cmほどの傾斜を示している。

主室 長径2.98m、短径2.97mの不定形で、主軸方向はN-57°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは120～124cmで、底面は平坦である。

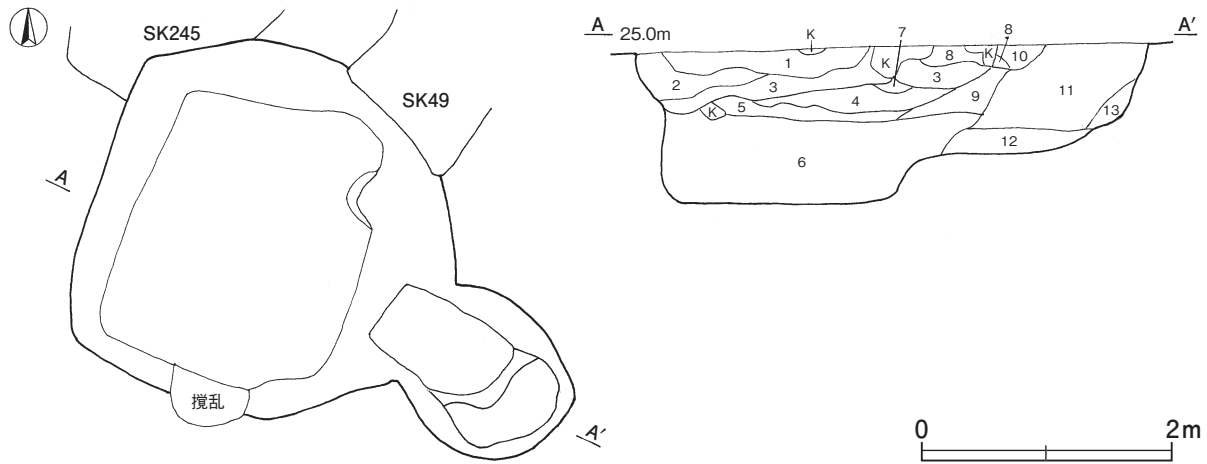
覆土 13層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黄褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | 粘土ブロック微量 | 11 黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 黄褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片19点（皿2、内耳鍋17）のほか、流れ込んだ縄文土器1点、土師器片3点も出土している。

所見 時期は、遺構の形状やロクロ成形で底の薄い皿と内耳鍋が出土していることから、中世後半と考えられる。



第511図 第3号地下式坑実測図

第4号地下式坑 (第512図)

位置 調査区南部のL3c7区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第131・218・230号土坑を掘り込んでいる。

竪坑 主室東壁のやや南側に位置し、上面は長軸0.82m、短軸0.80mの隅丸方形である。壁高は56cmで、ほぼ直立している。底面は緩やかに傾斜して主室に繋がっている。

主室 長軸2.28m、短軸2.24mの隅丸方形で、主軸方向はN-90°-Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、上面が削平されている確認面からの深さは50～68cmである。底面は竪坑との境に向かって緩やかに傾斜している。

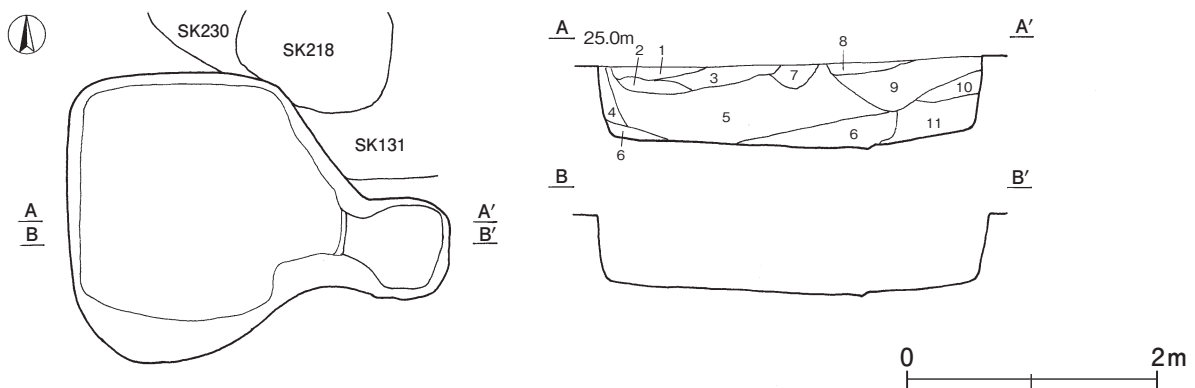
覆土 11層に分層される。含有物や不自然な堆積状況から人為堆積である。第5・6層はローム土を多く含む褐色土であり、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片1点(常滑系甕)が出土している。

所見 時期は、遺構の形状や内耳鍋片から中世後半と考えられる。



第512図 第4号地下式坑実測図

第5号地下式坑 (第513図)

位置 調査区南部のK3f0区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8号溝に掘り込まれており, 西部は調査区域外のため未調査である。

竪坑 主室東壁の中央に位置し, 上面は長軸1.48m, 短軸1.46mの隅丸方形である。壁高は53cmで, ほぼ直立している。底面はほぼ平坦である。

主室 主軸に直交する南北軸は3.70m, 東西軸は1.17mで, 隅丸長方形と考えられる。主軸方向はN-80°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり, 確認面からの深さは70cmほどである。底面はほぼ平坦で, 中央部から北部にかけて茅と考えられるイネ科植物の炭化材が広がっている。

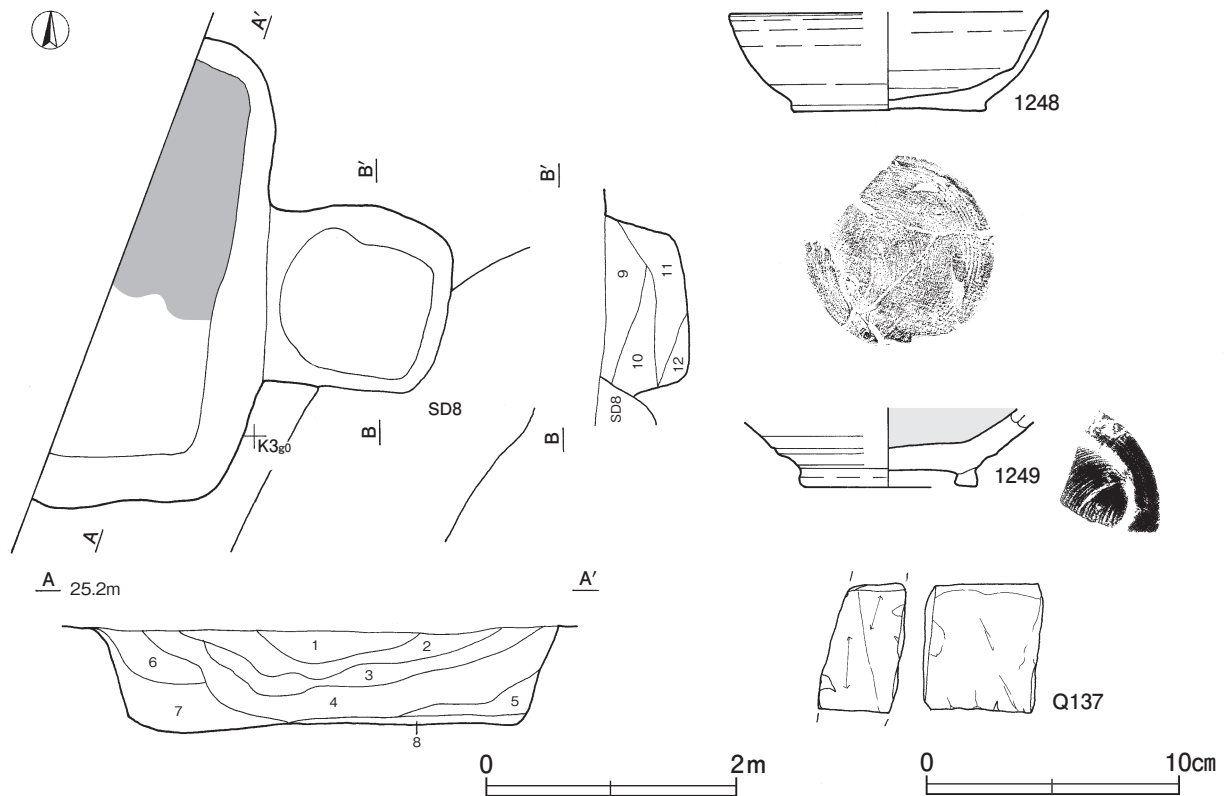
覆土 12層に分層される。主室は壁の崩落後(第5~7層)のくぼ地へレンズ状に自然堆積したと考えられる。竪坑は粘土ブロックを多く含むブロック状の堆積をしており, 第8号溝を構築するときに埋められたものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 黒色 | 炭化材多量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 12 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片17点(皿12点, 内耳鍋5), 陶器片1点(瀬戸美濃系小皿), 石器1点(砥石)のほか, 流れ込んだ縄文土器片4点, 土師器片3点, 須恵器片3点, 瓦片1点, 礫1点も出土している。1248・1249・Q137はそれぞれ覆土中から出土しており, 廃絶後の廃棄と考えられる。

所見 廃絶時期は, 重複関係や出土土器から15世紀末から16世紀前葉と考えられる。



第513図 第5号地下式坑・出土遺物実測図

第5号地下式坑出土遺物観察表 (第513図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-------|-------|----------|-------|----|---|------|-----|
| 1248 | 土師質土器 | 皿 | [12.8] | 3.9 | 7.6 | 長石・石英・小礫 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後丁寧なナデ 内底渦状のナデ | 覆土中 | 50% |
| 1249 | 陶器 | 平椀 | — | (3.2) | [7.0] | 砂粒・小礫・灰釉 | にぶい黄橙 | 良好 | 体部内面・内底施釉 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後高台貼り付け高台外面ロクロナデ | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-------|---------|-----|--------------------|------|----|
| Q137 | 砥石 | (5.2) | 4.8 | (3.6) | (119.3) | 凝灰岩 | 稜をもつ砥面と砥面の2面 他は破断面 | 覆土中 | |

第6号地下式坑 (第514・515図)

位置 調査区南部のL3b7区, 標高24mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第98・129・131・134号土坑を掘り込み, 第167号土坑に掘り込まれている。

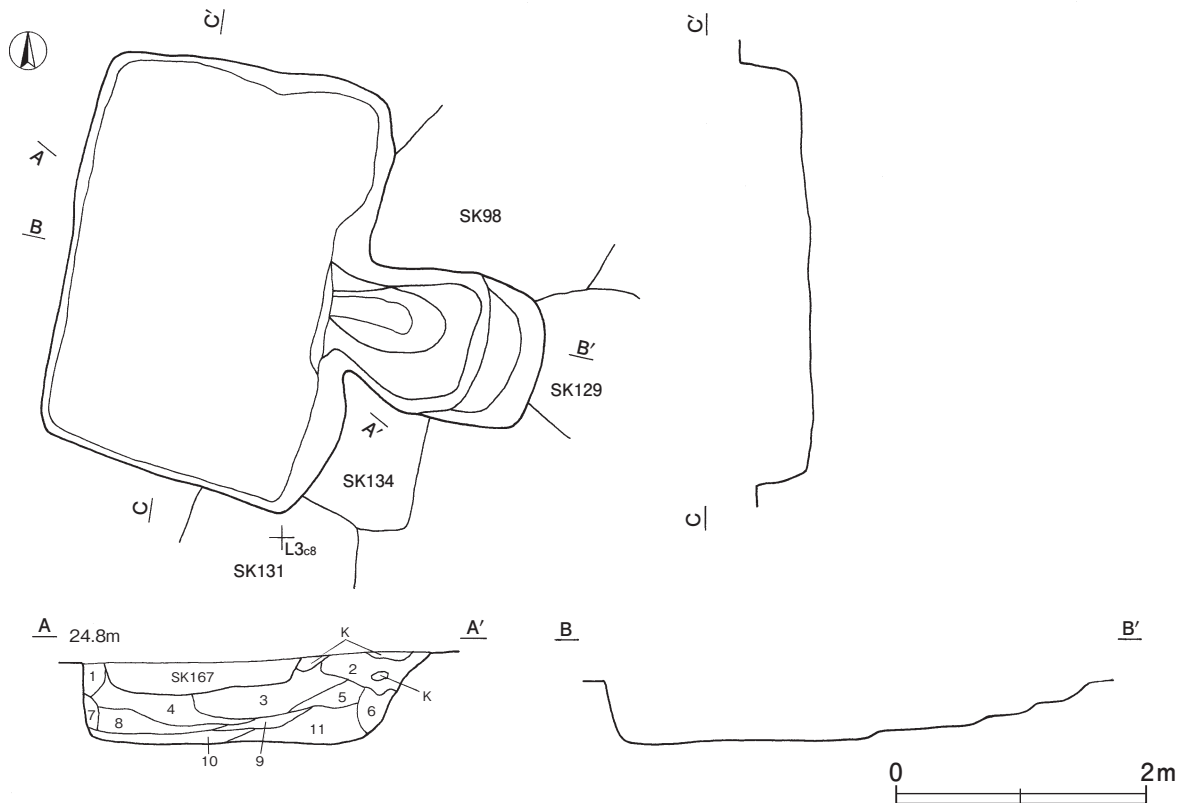
竪坑 主室東壁の中央に位置し, 上面は長軸1.49m, 短軸1.17mの隅丸長方形である。壁高は12~40cmで, ならかに傾斜して立ち上がっている。底面は階段状に主室に繋がっている。

主室 長軸3.34m, 短軸2.36mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-77°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し, 上面が削平されている確認面からの深さは50cmほどで, 底面はほぼ平坦である。

覆土 11層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

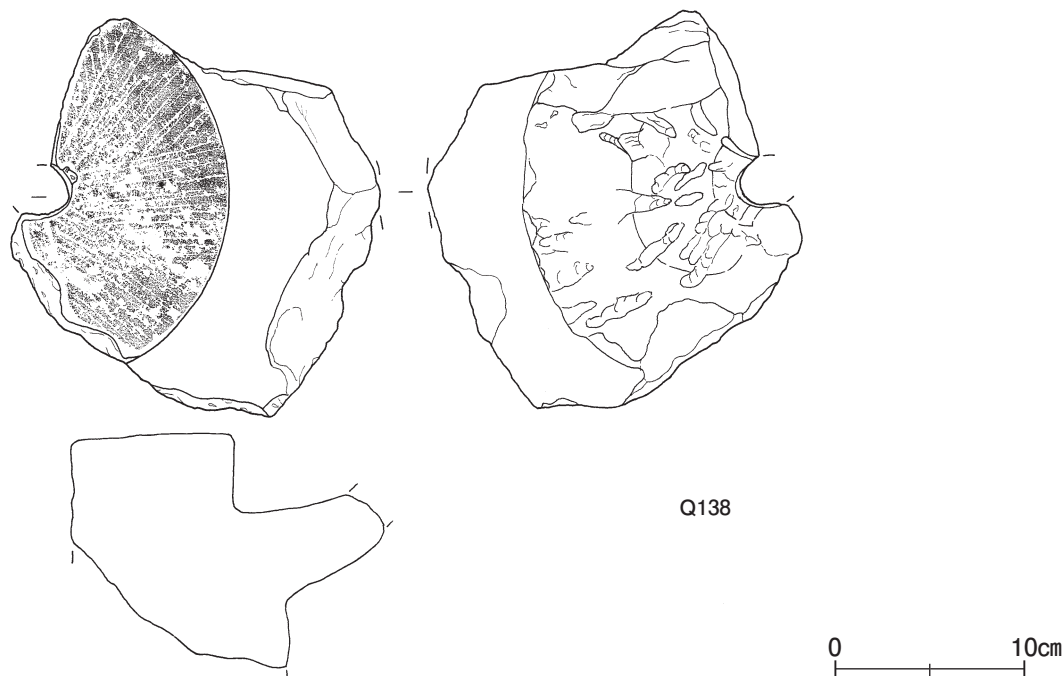
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック多量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 11 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子微量 | | |



第514図 第6号地下式坑実測図

遺物出土状況 陶器片2点（常滑系甕），石器1点（茶臼）が出土している。Q138は，主室南西部の覆土上層から出土しており，廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 本跡とほぼ同形体の地下式坑（第4・7号地下式坑）が南部にそれぞれ位置している。時期は，中世後半と考えられる。



第515図 第6号地下式坑出土遺物実測図

第6号地下式坑出土遺物観察表（第515図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------------|--------|-------|--------|--------|-----|--------------|------|----|
| Q138 | 茶臼 (下臼) | (16.3) | (2.7) | (12.3) | (3650) | 安山岩 | 上側16条1単位の播り目 | 覆土上層 | |

第7号地下式坑（第516図）

位置 調査区南部のL3d7区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第28号井戸に南壁部が掘り込まれている。

竪坑 主室東壁のやや北側に位置し，上面は長径1.78m，短径1.20mの楕円形である。壁高は60cmで，外傾して立ち上がっている。面は主室に向かってなだらかに傾斜し，主室との境で6cmほどの段をなしている。

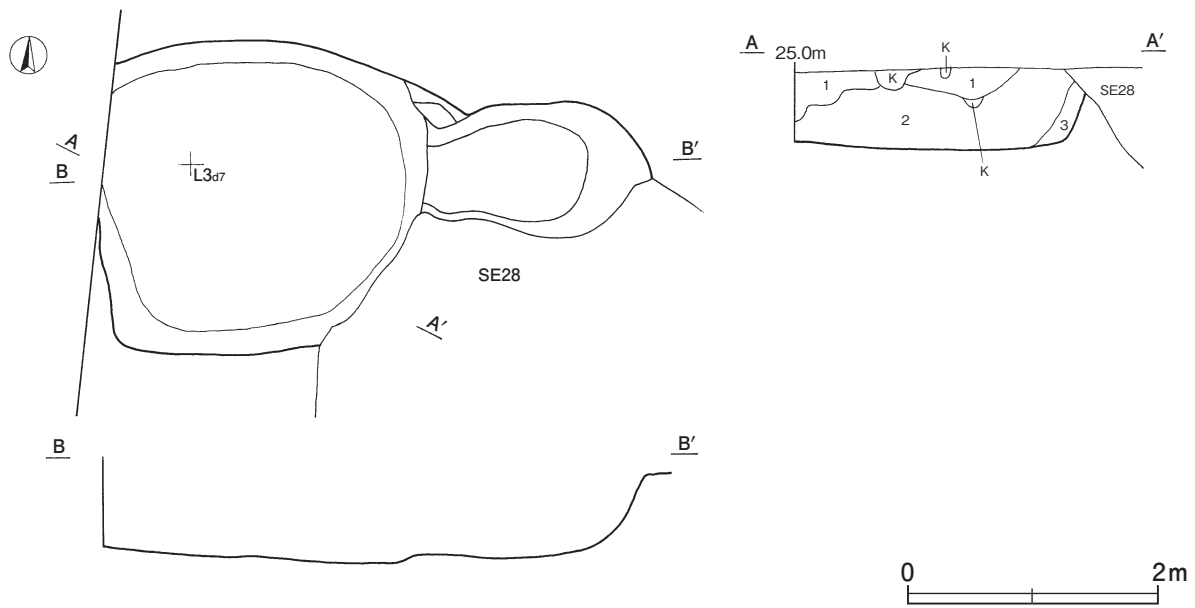
主室 長軸2.60m，短軸2.50mの方形で，主軸方向はN-88°-Eである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり，上面が削平されている確認面からの深さは56～76cmである。底面は竪坑との境までなだらかに傾斜している。

覆土 3層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第3層はローム土を多く含む褐色土であり，天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | |

所見 本跡とほぼ同形体の地下式坑（第4・6号地下式坑）が北部に位置している。時期は，中世後半と考えられる。



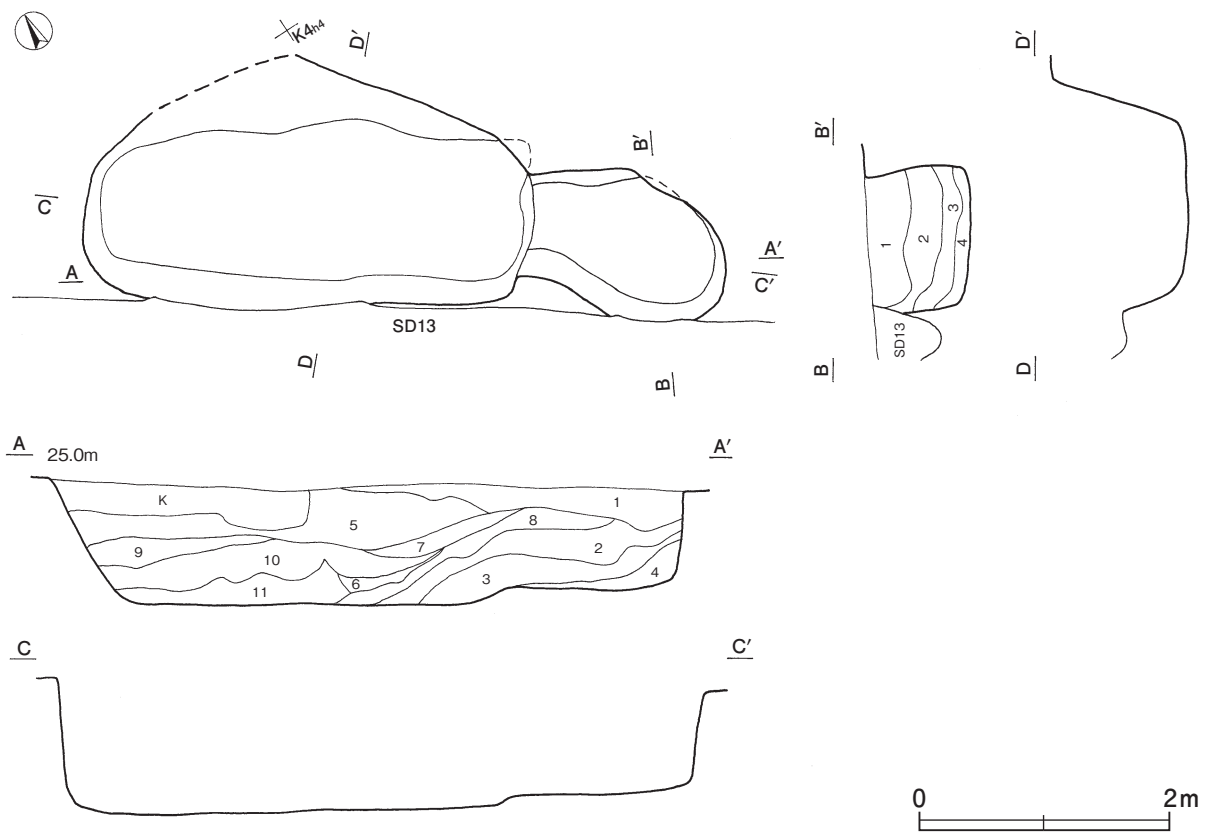
第516図 第7号地下式坑実測図

第8号地下式坑 (第517図)

位置 調査区南部のK 4h3区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第13号溝に南壁を掘り込まれている。

竪坑 主室南東壁の中央に位置し、長軸1.54m、短軸1.10mの不定形である。壁高は70cmで、外傾して立ち上



第517図 第8号地下式坑実測図

がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜し、主室との境で8cmほどの段をなしている。

主室 長径3.53m、短径1.82mの楕円形で、主軸方向はN-50°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは100～110cmで、底面は平坦である。

覆土 11層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第6・10・11層はローム土を多く含む褐色土であり、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 | 10 明褐色 | ロームブロック多量 |
| | | 11 明褐色 | ローム粒子多量, 粘土ブロック・炭化物少量 |

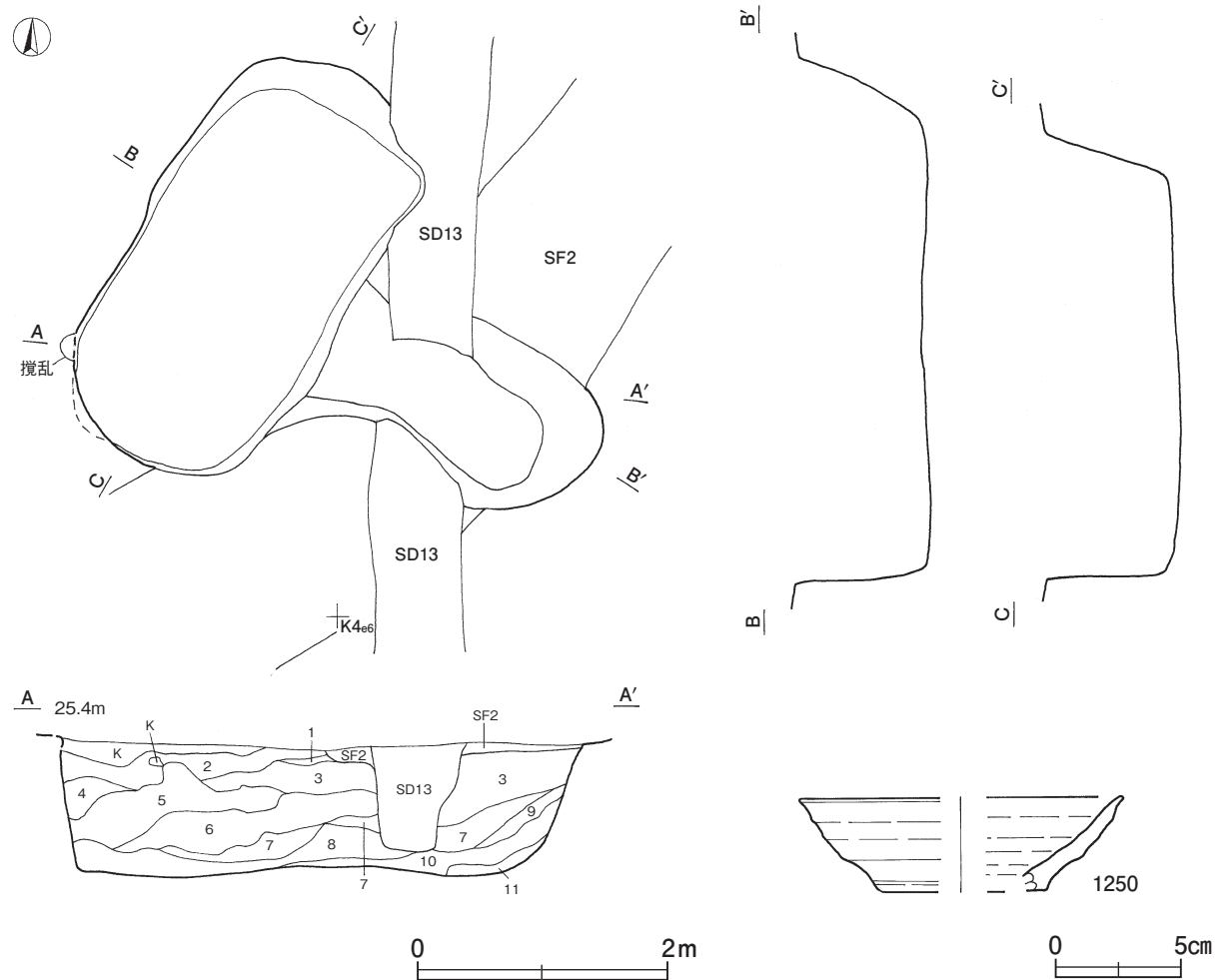
遺物出土状況 土師質土器片14点（皿11, 内耳鍋3）のほか、流れ込んだ須恵器片3点も出土している。

所見 時期は、遺構の形状や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第9号地下式坑（第518図）

位置 調査区南部のK 4 d5区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第13号溝、第2号道路に掘り込まれている。



第518図 第9号地下式坑・出土遺物実測図

竪坑 主室東壁の中央部に位置し、上面は長径2.30m、短径1.09mの楕円形である。壁高は100cmで、外傾して立ち上がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜し、主室との境で4cmほどの段をなしている。

主室 長軸3.53m、短軸1.81mの方形で、主軸方向はN-57°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは94～110cmで、底面は平坦である。

覆土 11層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第8層はローム土を多く含む褐色土で締めりがあることから、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿, 内耳鍋)が出土している。1250は覆土中から出土している。

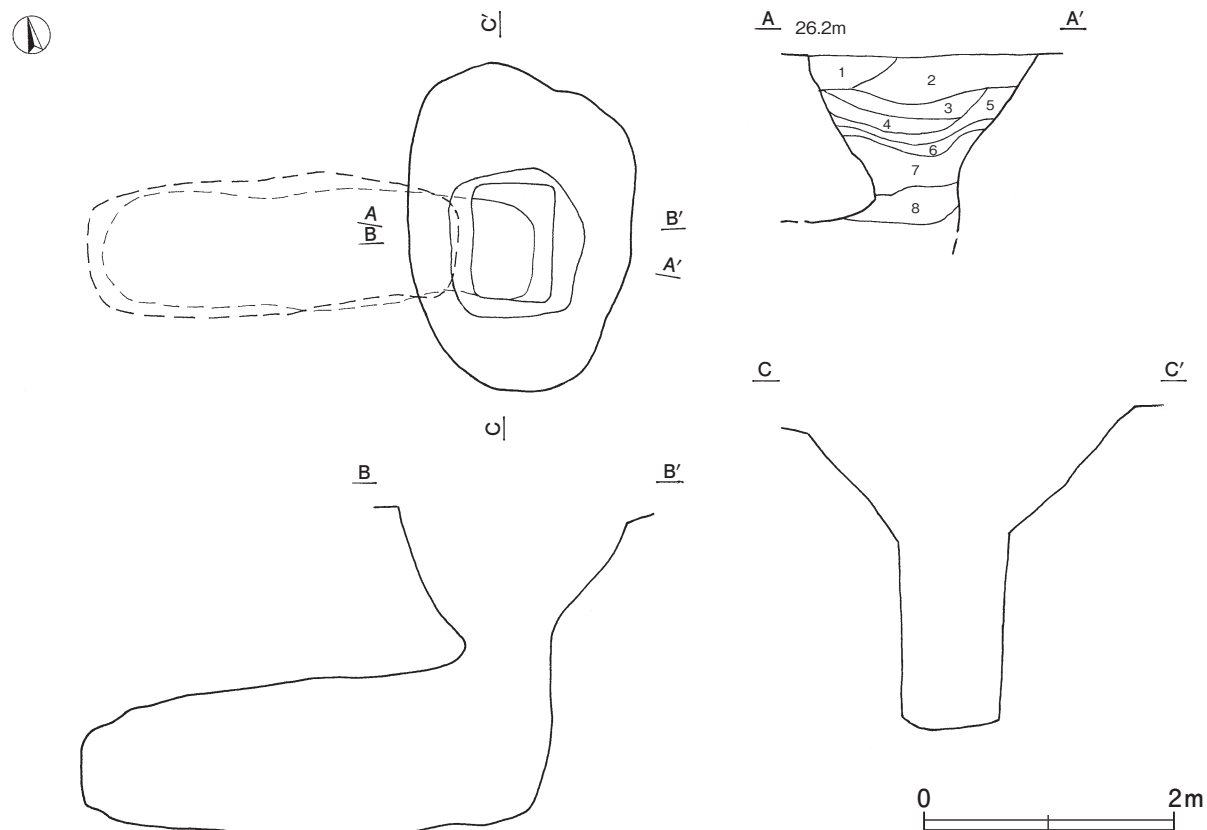
所見 時期は、重複関係や出土土器から15世紀後半と考えられる。

第9号地下式坑出土遺物観察表 (第518図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-----|-------|----------|-------|----|------------------------|------|-----|
| 1250 | 土師質土器 | 皿 | [12.8] | 3.8 | [6.6] | 長石・石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 40% |

第10号地下式坑 (第519・520図)

位置 調査区中央部のH6h7区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。



第519図 第10号地下式坑実測図

竪坑 主室西壁の中央に位置し、上面は長径2.59m、短径1.77mの楕円形である。壁高は230cmで、確認面から85～100cmを漏斗状に掘り込んだ後、下部を円筒状に掘り下げた構造となっている。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 長軸3.06m、短軸1.08mの隅丸長方形で、主軸方向はN-75°-Wである。天井部は厚さ120cmほどのローム土で構築されている。底面から天井部までの高さは竪坑部付近が140cm、奥壁の高さは54cmで、奥壁へ向かうほど低くなる構造であり、底面は奥壁に向かうスロープ状を呈している。

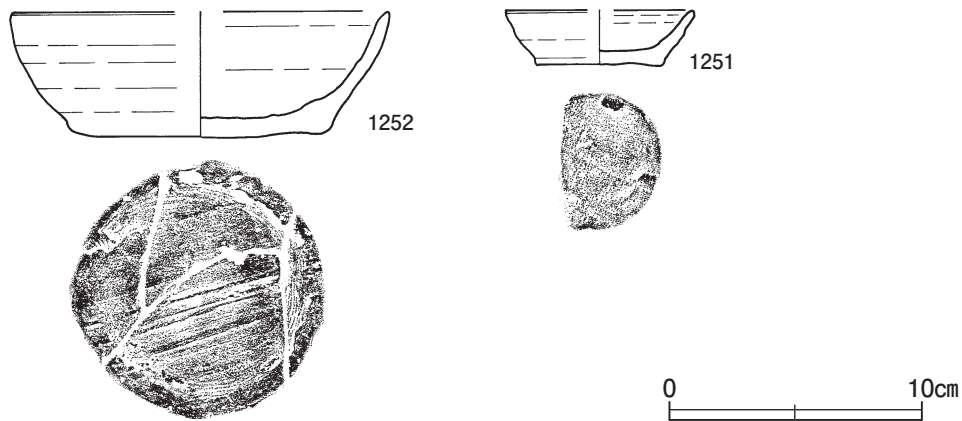
覆土 8層に分層される。ローム土や粘土がブロック状に堆積した後、レンズ状に堆積したと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片21点（皿9、内耳鍋12）、木片1点が出土している。1251・1252は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形状や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第520図 第10号地下式坑出土遺物実測図

第10号地下式坑出土遺物観察表（第520図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-----|-------|------------|-------|----|---|------|-----|
| 1251 | 土師質土器 | 皿 | [7.4] | 2.3 | [5.0] | 長石・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 後ナデ 内底指ナデ | 覆土中 | 30% |
| 1252 | 土師質土器 | 皿 | [15.0] | 5.0 | 10.0 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 体部内面指頭痕を残すナデ 底部回転糸切り後ナデ 底部外面スノコ状の圧痕 内底指ナデ | 覆土中 | 50% |

第11号地下式坑（第521図）

位置 調査区中央部のH 6 e0区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

竪坑 主室南西コーナー部に位置し、上面は長軸1.22m、短軸0.93mの長方形である。壁高は60cmで、ほぼ直立している。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 長軸2.71m、短軸1.89mで、二つの長方形をつなぎ合わせたような不定形で、主軸方向はN-41°-Eである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは70cmほどで、底面はやや凸凹である。

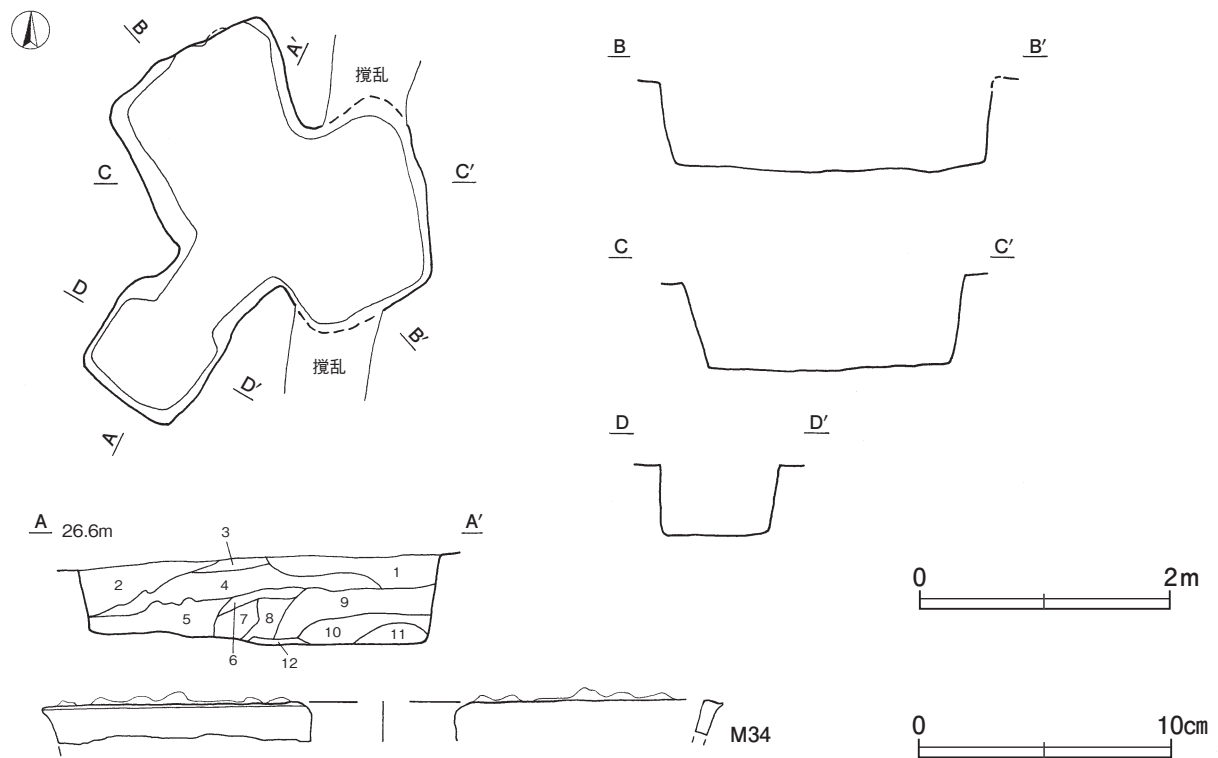
覆土 12層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 10 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| | | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 12 褐色 | 粘土ブロック多量, ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片 6 点 (皿 1, 内耳鍋 5), 鉄製品 1 点 (不明) のほか, 流れ込んだ縄文土器片 10 点, 土師器片 2 点, 須恵器片 1 点も出土している。M34は覆土中から出土している。

所見 時期は, 遺構の形状や須恵器坏の器形に近いロクロ成形の皿と内耳鍋が出土していることから中世後半と考えられる。また, 主室の形体や竪坑の位置より, 主室は東から北へ造り替えた可能性も考えられる。



第521図 第11号地下式坑・出土遺物実測図

第11号地下式坑出土遺物観察表 (第521図)

| 番号 | 器種 | 口径 | 器高 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|--------|-------|-----|--------|----|----------|------|----|
| M34 | 不明鉄製品 | [28.0] | (1.6) | 0.6 | (56.3) | 鉄 | 鉄鍋の口辺部分カ | 覆土中 | |

第12号地下式坑 (第522図)

位置 調査区中央部のH 8 a3区, 標高27mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第110号住居跡, 第1号墳を掘り込み, 第10号方形竪穴遺構, 第39・41・42号墓坑・第1613号土坑に掘り込まれている。

竪坑 主室南壁の東側に位置し, 上面は長径0.75m, 短径0.72mの楕円形である。壁高は55cmで, 外傾して立ち上がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。

主室 長軸4.97m, 短軸2.12mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-6°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり, 上面が削平されている確認面からの深さは56~70cmで, 底面は凸凹である。

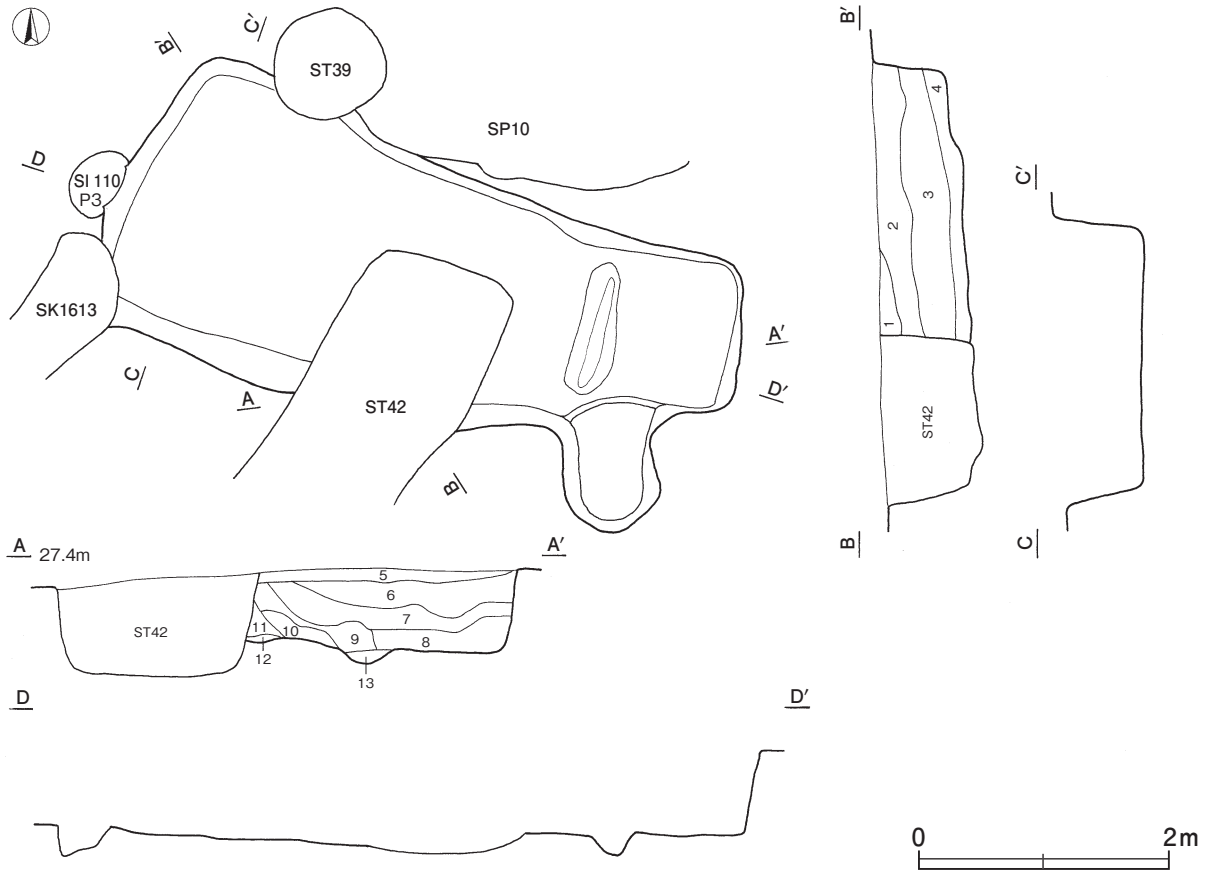
覆土 13層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

| | | | | | |
|---|--------|----------------------|----|-----|-------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子多量, 炭化物少量 | 8 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 | 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子多量 | 11 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 12 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック少量 | 13 | 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片26点, 弥生土器片1点, 土師器片102点, 須恵器片1点の細片が, 底面のやや上位から出土しており, 廃絶後に流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 遺構の形状や重複関係から中世後半と考えられる。



第522図 第12号地下式坑実測図

第13号地下式坑 (第523図)

位置 調査区中央部のH 7 a0区, 標高27mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第1号墳, 第8号方形竪穴遺構を掘り込み, 第251号溝, 第1136号土坑に掘り込まれている。

竪坑 主室東壁の中央部に位置し, 上面は長軸2.03m, 短軸1.52mの長方形である。壁高は70cmほどで, 外傾して立ち上がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。

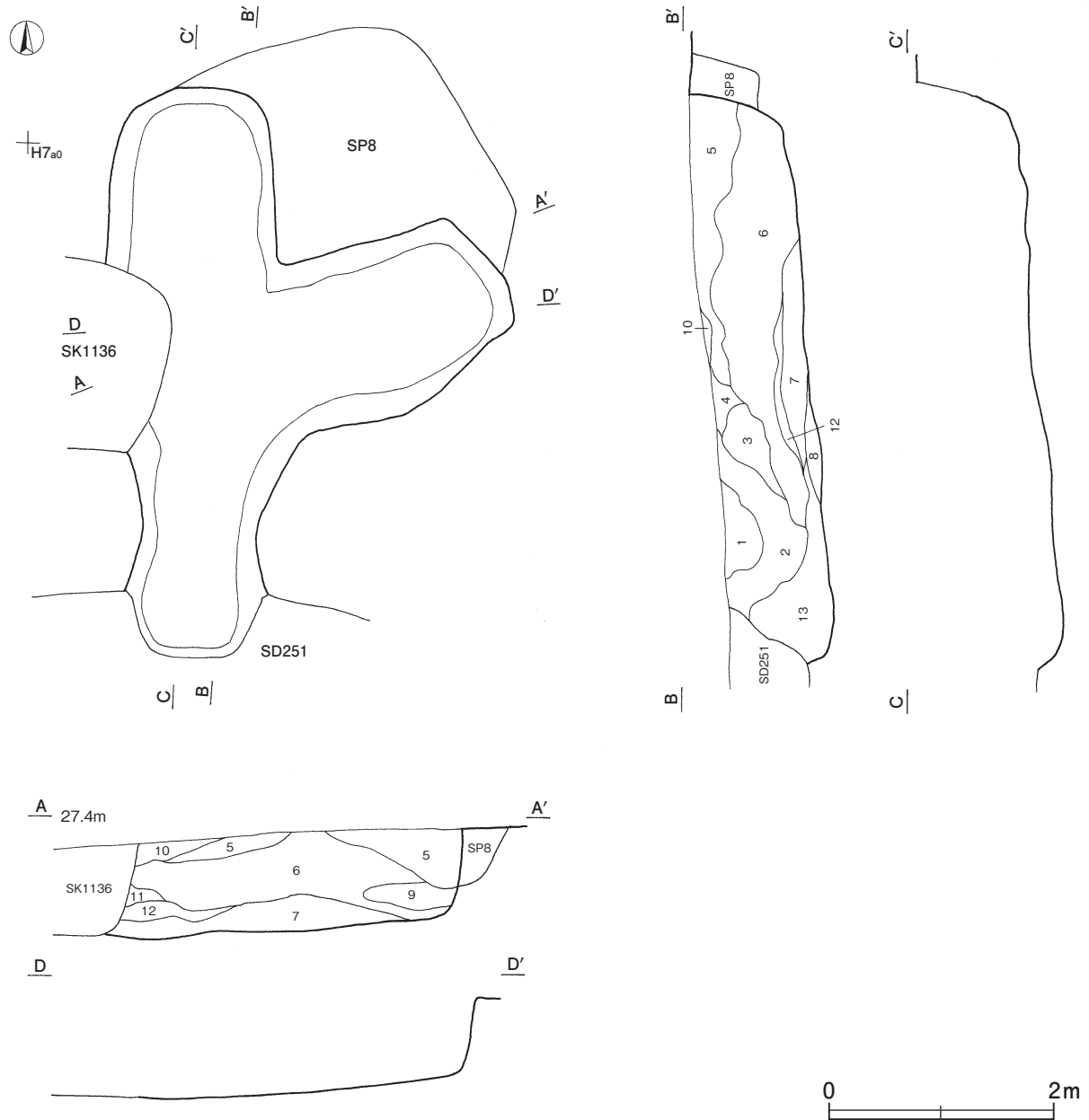
主室 遺存している長軸は5.05m, 短軸1.50mで, 長方形と考えられる。主軸方向はN-2°-Eである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり, 確認面からの深さは84~118cmで, 底面は凸凹である。

覆土 13層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | | |

所見 時期は、遺構の形状や重複関係から中世後半と考えられる。



第523図 第13号地下式坑実測図

第14号地下式坑（第524・525図）

位置 調査区中央部のH 8 a2区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第251号溝に掘り込まれている。

竪坑 主室西壁中央部に位置し、上面は長軸1.81m、短軸1.28mの隅丸方形である。壁高は60cmで、ほぼ直立している。底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。

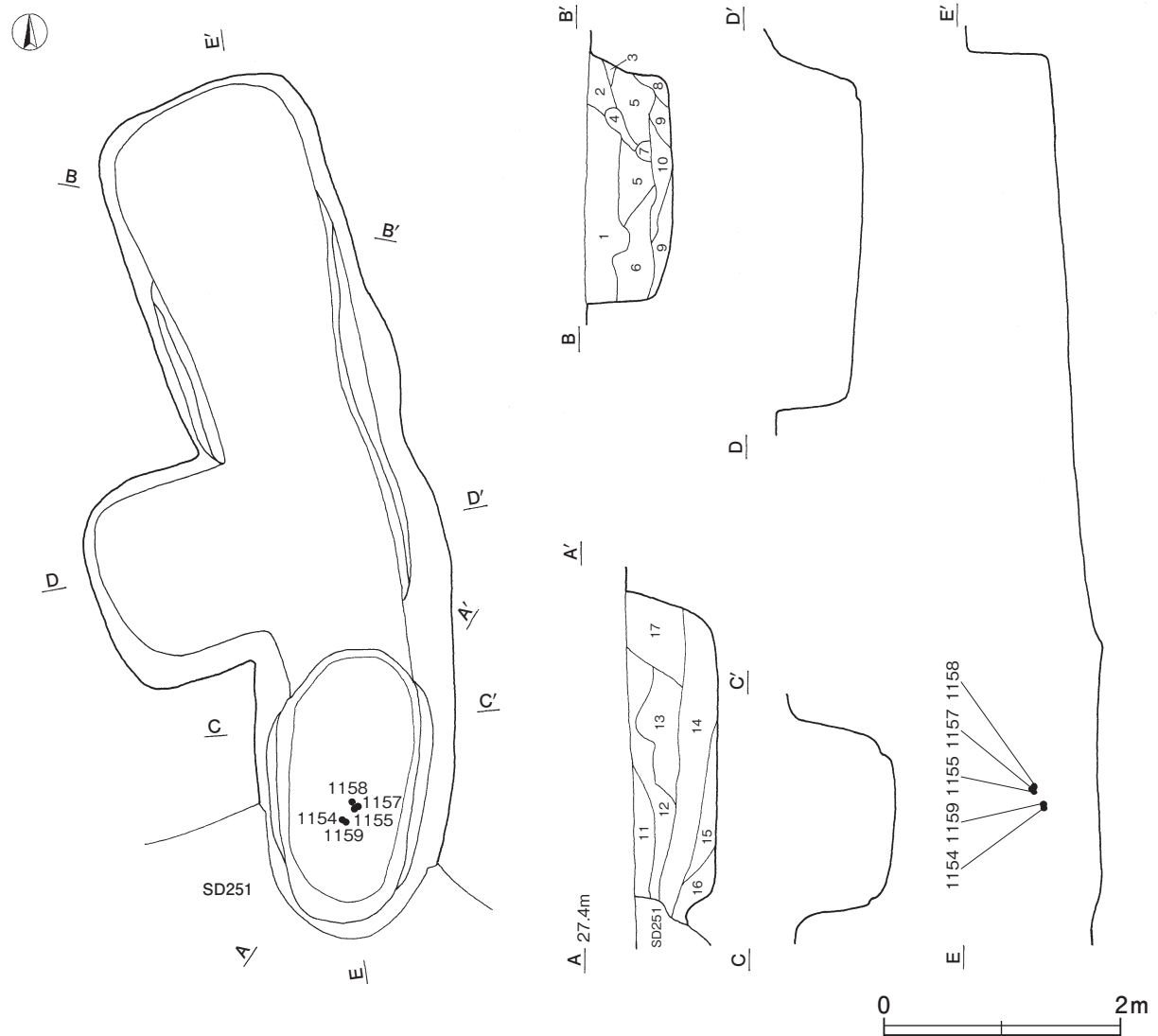
主室 遺存している長軸は6.88m、短軸1.68mの不定形で、主軸方向はN-13°-Wである。天井部は遺存せず、中央部に攪乱を受けている。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは70～110cmである。底面は南へ向かってなだらかに傾斜している。

覆土 17層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 明褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 15 明褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 16 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・礫微量 | | |

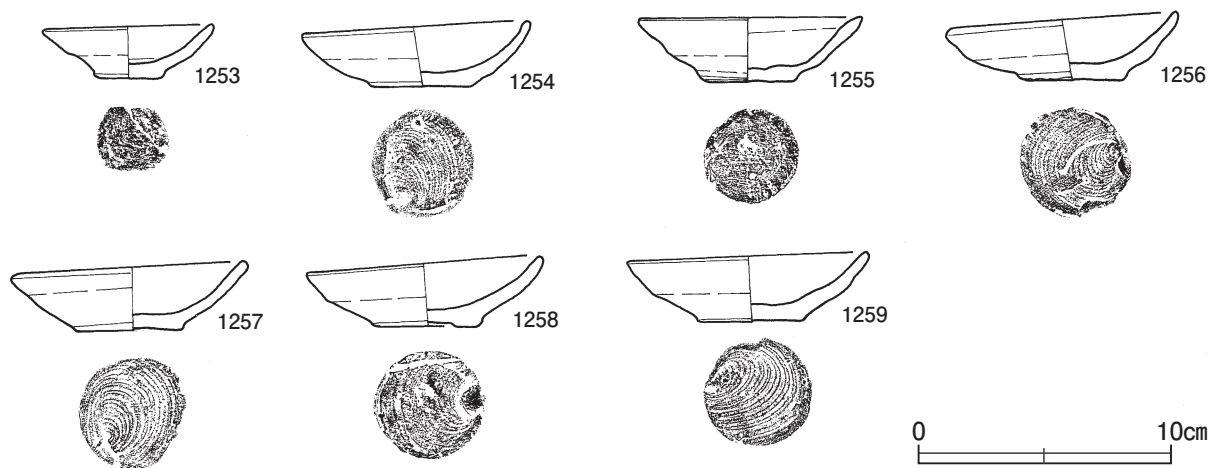
遺物出土状況 土師質土器片18点(皿12, 内耳鍋2, 甕4)のほか、流れ込んだ縄文土器片24点、土師器片



第524図 第14号地下式坑実測図

33点も出土している。1253～1259は主室南部の覆土中層（第12・13層との境目）から出土しており、1254と1259、1255と1257・1258がそれぞれ重なった状態で出土している。いずれもほぼ同位置で出土していることから、本土坑の廃絶後に一括して廃棄されたと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器や重複関係から16世紀中葉と考えられる。



第525図 第14号地下式坑出土遺物実測図

第14号地下式坑出土遺物観察表（第525図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|-----|----|------------------------------------|-------|------|
| 1253 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.1 | 2.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底丁寧なナデ・横ナデ | 覆土中中層 | 80% |
| 1254 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 2.6 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部若干突出 | 覆土中層 | 100% |
| 1255 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 2.2 | 3.6 | 長石・石英・赤色粒子・小礫 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部凹み・横ナデ | 覆土中層 | 95% |
| 1256 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 2.7 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部若干突出 | 覆土中中層 | 100% |
| 1257 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 2.7 | 4.4 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部若干突出 | 覆土中層 | 100% |
| 1258 | 土師質土器 | 皿 | 9.3 | 2.7 | 4.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部を若干突出 | 覆土中層 | 100% |
| 1259 | 土師質土器 | 皿 | 9.6 | 2.8 | 4.2 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部若干突出 | 覆土中層 | 100% |

第15号地下式坑（第526図）

位置 調査区南部のL 3 f7区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

竪坑 主室北東壁中央部に位置し、上面は一辺0.9mほどの隅丸方形である。壁高は48cmで、ほぼ直立している。底面は主室に向かって緩斜し、主室との境で8cmほどの段をなしている。

主室 長軸2.42m、短軸2.24mの隅丸方形で、主軸方向はN-48°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、上面が削平されている確認面からの深さは44～62cmである。底面は竪坑との境に向かって緩やかに傾斜している。

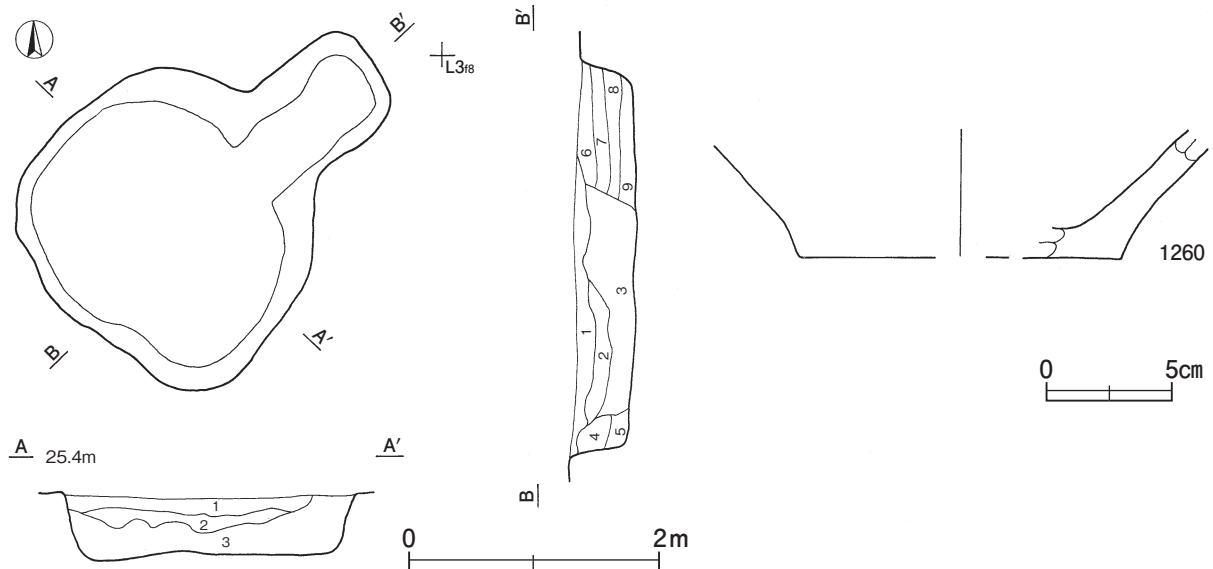
覆土 9層に分層される。ロームを含む土で埋めた人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|-----------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 黒 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 明 褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 常滑系甕の陶器片1点が覆土中から出土している。

所見 北部に本跡とほぼ同形体の4基の地下式坑が第1号土坑群を囲むように位置する様相から同時期に機能していたと想定され、時期は中世後半と考えられる。



第526図 第15号地下式坑・出土遺物実測図

第15号地下式坑出土遺物観察表 (第526図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | | | 出土位置 | 備考 |
|------|----|----|----|-------|--------|-------|----|----|----------|-------|------|------|---------|
| | | | | | | | | | 体部内・外面ナデ | 内面砥面化 | 底部ナデ | | |
| 1260 | 陶器 | 甕 | — | (5.2) | [13.0] | 長石・石英 | 灰褐 | 良好 | 体部内・外面ナデ | 内面砥面化 | 底部ナデ | 覆土中 | 10% 常滑系 |

表27 地下式坑一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 規 模 (m) | | | | | | | | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考(時期) |
|----|--------|---------|-------------|--------|-------|----|----------------------|---------|---------|----|----|---------------|-------------------------------------|
| | | | 坑 | | | | 室 | | | | | | |
| | | | 長軸(径)×短軸(径) | 壁高(cm) | 平面形 | 底面 | 長軸(径)×短軸(径) | 壁高(cm) | 平面形 | 底面 | | | |
| 1 | K 4 b3 | N-66°-W | 1.13 × 1.02 | 54~66 | 隅丸長方形 | 平坦 | 3.78 × 1.97 ~2.34 | 66~90 | 不定形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 砥石 | 本跡→SD3 |
| 2 | J 4 j1 | N-69°-W | 1.79 × 1.28 | 100 | 楕円形 | 平坦 | 2.87 × 2.68 | 148~158 | 隅丸方形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 貝片 | SI4→本跡 |
| 3 | L 3 a9 | N-22°-E | 1.26 × 1.22 | 64 | 楕円形 | 平坦 | 2.98 × 2.97 | 120~124 | 不定形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SK245→本跡→SK49 |
| 4 | L 3 c7 | N-90°-E | 0.82 × 0.80 | 56 | 隅丸方形 | 平坦 | 2.28 × 2.24 | 50~68 | 隅丸方形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | SK131→SK230→SK218→本跡 |
| 5 | K 3 f9 | N-80°-W | 1.48 × 1.46 | 53 | 隅丸方形 | 平坦 | 3.72 × (1.17) | 70 | (隅丸長方形) | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 陶器, 砥石 | 本跡→SD8 |
| 6 | L 3 b7 | N-77°-W | 1.49 × 1.17 | 12~40 | 隅丸長方形 | 段状 | 3.34 × 2.36 | 50 | 隅丸長方形 | 平坦 | 人為 | 陶器, 茶臼 | SK98・SK129・SK131・SK134→本跡→SK167 |
| 7 | L 3 d7 | N-88°-E | 1.76 × 1.20 | 60 | 楕円形 | 平坦 | 2.60 × 2.50 | 56~76 | 方形 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SE28 |
| 8 | K 4 h3 | N-50°-W | 1.54 × 1.10 | 70 | 不定形 | 平坦 | 3.53 × (1.82) | 100~110 | 楕円形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SD13 |
| 9 | K 4 d5 | N-57°-E | 2.30 × 1.09 | 100 | 楕円形 | 平坦 | 3.53 × 1.81 | 94~110 | 方形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SF2→SD13 |
| 10 | H 6 h7 | N-75°-W | 2.59 × 1.77 | 230 | 楕円形 | 平坦 | 3.06 × 1.08 | 124 | 隅丸長方形 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 木片 | |
| 11 | H 6 e0 | N-41°-E | 1.22 × 0.93 | 60 | 長方形 | 平坦 | 2.71 × 1.89 | 70 | 不定形 | — | 人為 | 土師質土器, 不明鉄製品 | 作り替えの可能性有り |
| 12 | H 8 a3 | N-6°-W | 0.75 × 0.72 | 55 | 楕円形 | 平坦 | 4.97 × 2.12 | 65 | 隅丸長方形 | 凸凹 | 人為 | — | SI110→TM1→SP10→本跡→ST39・41・42・SK1613 |
| 13 | H 7 a0 | N-2°-E | 2.03 × 1.52 | 70 | 長方形 | 平坦 | (5.05) × 1.50 | 84~118 | 長方形 | 凸凹 | 人為 | — | TM1→SP8→本跡→SD251・SK1136 |
| 14 | H 8 a2 | N-13°-W | 1.81 × 1.28 | 60 | 隅丸方形 | 平坦 | 6.88 × 1.68 | 70~110 | 不定形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SD251 |
| 15 | L 3 f7 | N-48°-W | 0.92 × 0.90 | 48 | 隅丸方形 | 平坦 | 2.42 × 2.24 | 44~62 | 隅丸方形 | 平坦 | 人為 | 陶器 | |

(11) 墓坑

今回の調査で本調査区全域にわたって47基の墓坑が検出されている。墓坑の年代については2つの観点から中世と近世とに分けた。1つは鈴木公雄氏の『銭の考古学』による古銭の年代観から、「宋銭や明銭などの渡来銭からなる六道銭を使用」を中世後半、「寛永通寶発行（1636年）から渡来銭の使用が禁止される期間（1670年）まで」以後を近世のものとした。もう1つは埋葬形式で、早桶と称される円筒形の桶を使用されている可能性があるものを選び分けた。それらの観点から、中世の墓坑27基、近世の墓坑20基となる。以下、それらの年代観による分類を基準として墓坑について記載していく。

第1号墓坑（第527図）

位置 調査区南部のK 3j9区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第52号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.17m、短径0.72mの不定形で、長径方向はN-42°-Eである。深さ16cm、底面は平坦であり、北東部の底面にロームと粘土が貼られている。壁は外傾して立ち上がっている。

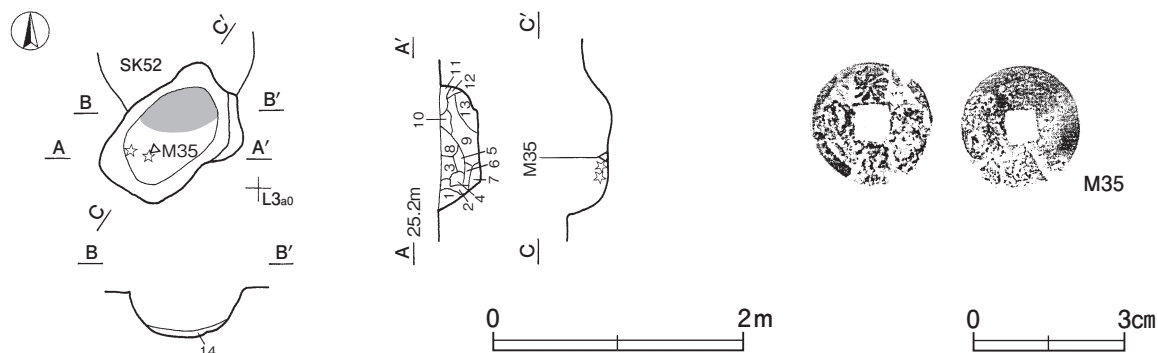
覆土 14層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。また、底面に貼られた土は第14層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|---------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | 炭化物微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・礫微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 灰黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 埋銭と考えられる古銭1点（熙寧元寶）が中央部の底面から出土し、古銭の西側に脚部と腰部の骨片の一部が検出されている。その他、流れ込んだと考えられる土師器片と須恵器片も出土している。

所見 時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第527図 第1号墓坑・出土遺物実測図

第1号墓坑出土遺物観察表（第527図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|-----------|------|----|
| M35 | 熙寧元寶 | 2.4 | 0.6 | 1.9 | 1068 | 銅 | 北宋銭 篆書 無背 | 底面 | |

第2号墓坑（第528図）

位置 調査区南部のK 4g0区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第370号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.08m, 短径0.65mの不定形で, 長径方向はN-37°-Eである。深さ26cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

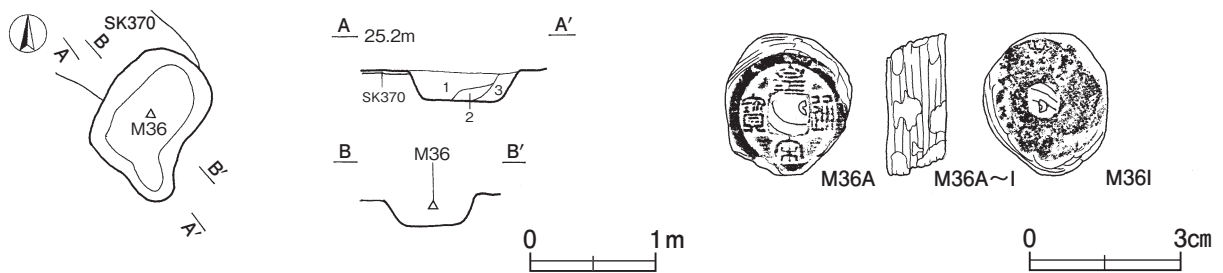
覆土 3層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 明褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 古銭9点（皇宋通寶1, 不明8）が錆び付いて出土している。M36は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から中世後半と考えられる。出土銭貨は9枚であるが, 六道銭として埋銭されていたと想定される。



第528図 第2号墓坑・出土遺物実測図

第2号墓坑出土遺物観察表（第528図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初铸年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------------|------------|-------|-------|--------|------|----|------------------|------|----|
| M36A | 皇宋通寶 | (2.4) | 0.7 | (24.7) | 1068 | 銅 | 北宋銭 篆書 Iまで付着 | 覆土上層 | |
| M36B ~H | 古銭 (不明) | (2.5) | — | | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 覆土上層 | |
| M36I | 古銭 (不明) | (2.4) | (0.6) | | 不明 | 銅 | 錆による付着のため判読不能 無背 | 覆土上層 | |

第3号墓坑（第529図）

位置 調査区南部のM4e5区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第33号溝跡と第4号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.09m, 短軸0.76mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-50°-Eである。深さ39cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

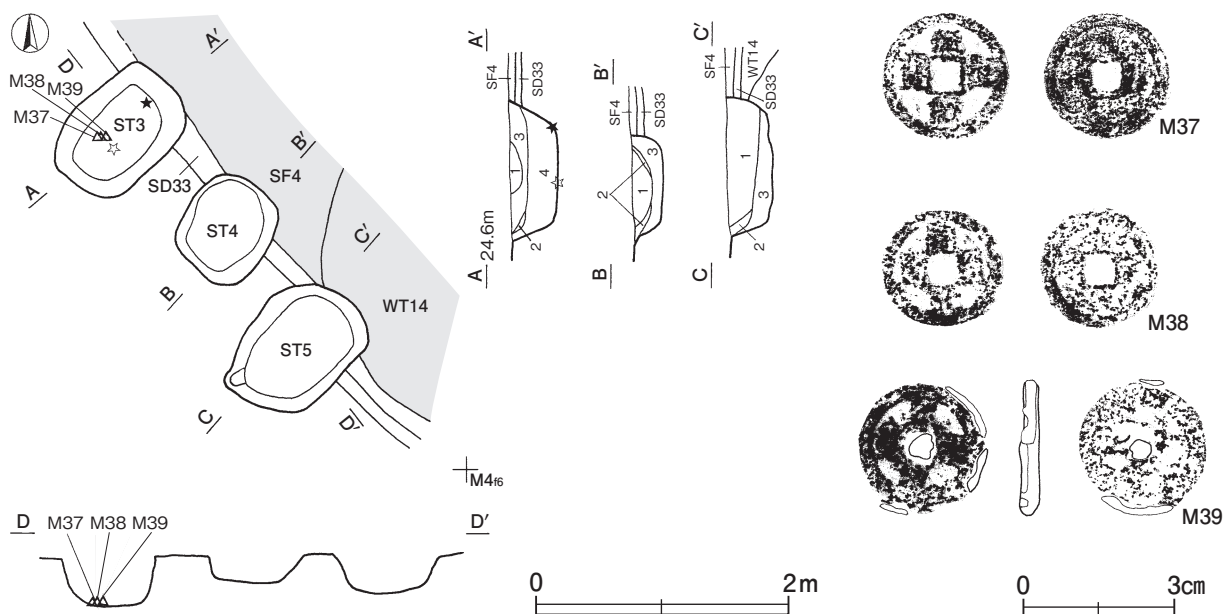
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 灰黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック・骨片中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 古銭4点（開元通寶, 皇宋通寶, 熙寧元寶カ, 不明）が中央部南西寄りの底面から, 損傷が激しく凶化できない古銭2点（不明）が覆土中から出土している。古銭の北側には並んだ歯, 東側には脚部一部の骨片, 覆土中からは骨片や骨粉が多く検出している。

所見 時期は, 重複関係や出土遺物から中世末と考えられる。



第529図 第3～5号墓坑，第3号墓坑出土遺物実測図

第3号墓坑出土遺物観察表（第529図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------------|-----|-----|-------|--------|----|-----------------------|------|----|
| M37 | 熙寧元寶カ | 2.6 | 0.6 | 1.9 | [1068] | 銅 | 宋銭カ 無背 | 底面 | |
| M38 | 開元通寶 | 2.4 | 0.6 | 2.8 | 845 | 銅 | 唐銭 無背 | 底面 | |
| M39A | 皇宋通寶 | 2.6 | 0.6 | (7.8) | 1038 | 銅 | 北宋銭 篆書 M39Bと付着のため背面不明 | 底面 | |
| M39B | 古銭 (不明) | 2.6 | 0.6 | | 不明 | 銅 | 錆による付着と損傷が激しいため判読不能 | 底面 | |

第4号墓坑（第529図）

位置 調査区南部のM4e5区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第33号溝跡と第4号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.82m，短軸0.73mの隅丸方形で，長軸方向はN-40°-Eである。深さ21cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ローム土や粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，粘土ブロック微量 3 灰黄褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
2 灰褐色 粘土粒子多量，ローム粒子少量

所見 時期は，重複関係や，第3号墓坑と同軸方向で同様の堆積状況から中世末と考えられる。骨片が検出されていないため明らかではないが，隣り合わせに位置している第3・5号墓坑より一回り小さい形態をしていることから，子どもを埋葬していたのではないかと推測される。

第5号墓坑（第529図）

位置 調査区南部のM4e5区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第33号溝跡，第4号道路跡，第14号水溜遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.15m，短軸0.83mの隅丸長方形で，長軸方向はN-44°-Eである。深さ33cm，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ローム土や粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

所見 時期は、重複関係や、第3号墓坑と同軸方向で同様の堆積状況から中世末と考えられる。

第6号墓坑 (第530図)

位置 調査区南部のL4d3区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸0.90m、短軸0.72mの隅丸長方形で、長軸方向はN-23°-Eである。深さ22cm、底面にはやや凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

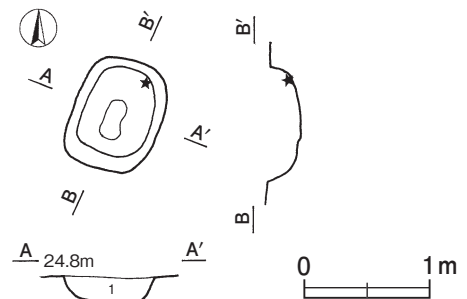
土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 北壁付近の底面から25点の歯が検出されている。

所見 西側に第1号墓坑や地下式坑5基に囲まれた土坑群が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成された

と考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。



第530図 第6号墓坑実測図

第7号墓坑 (第531図)

位置 調査区南部のL3f0区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.38m、短軸0.74mの隅丸長方形で、長軸方向はN-36°-Wである。深さ30cm、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ローム土や粘土で一気に埋めている。

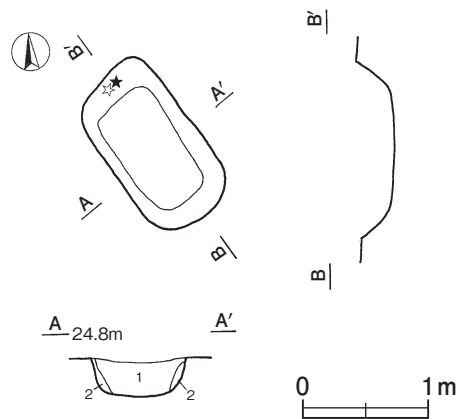
土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 粘土粒子中量
- 2 明褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 北壁付近の覆土中から下顎骨と歯が西側を向いた状態で検出されている。

所見 北側に第1号墓坑や地下式坑5基に囲まれた土坑群が確認

されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。



第531図 第7号墓坑実測図

第8号墓坑 (第532図)

位置 調査区南部のL4a7区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.98m、短径0.69mの楕円形で、長径方向はN-34°-Eである。深さ22cm、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

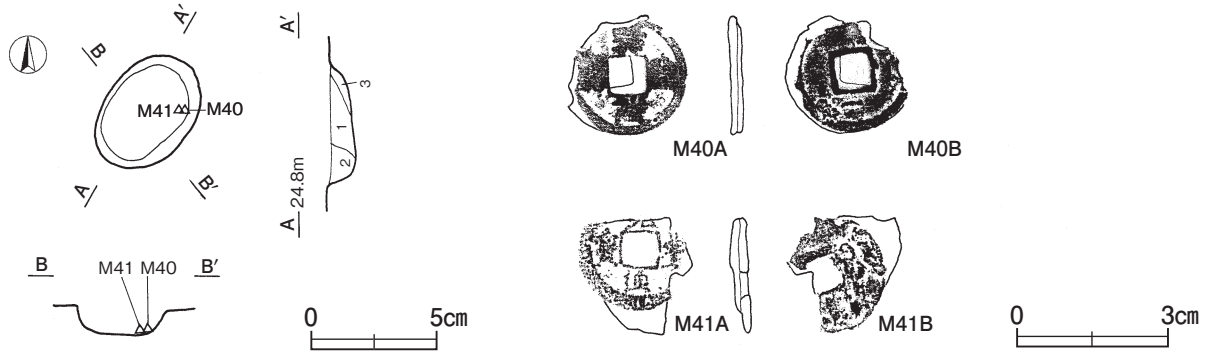
覆土 3層に分層される。北側からローム土や焼土で埋めている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量

遺物出土状況 錆び付いた古銭4点（漢元通寶カ 1, 元豊通寶 1, 不明 2）が, 東壁付近の底面付近から炭化材とともに出土している。

所見 覆土に焼土や炭化材が含まれ, 南東10mに第5号火葬土坑が確認されていることから, 火葬後に本跡へ埋葬されたと想定される。時期は, 出土遺物から中世後半と考えられる。



第532図 第8号墓坑・出土遺物実測図

第8号墓坑出土遺物観察表（第532図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|--------|-------|------|-------|-------|----|---------------------|------|----|
| M40A | 漢元通寶カ | (2.4) | 0.7 | (3.2) | [948] | 銅 | 後漢銭カ M40Bと付着 | 覆土下層 | |
| M40B | 古銭(不明) | (2.4) | 0.75 | | 不明 | 銅 | 背月星または下月カ | 覆土下層 | |
| M41A | 元豊通寶 | (2.4) | 0.7 | (2.5) | 1078 | 銅 | 北宋銭 行書 M41Bと付着 | 覆土下層 | |
| M41B | 古銭(不明) | (2.5) | 0.6 | | 不明 | 銅 | 錆による付着と損傷が激しいため判読不能 | 覆土下層 | |

第9号墓坑（第533図）

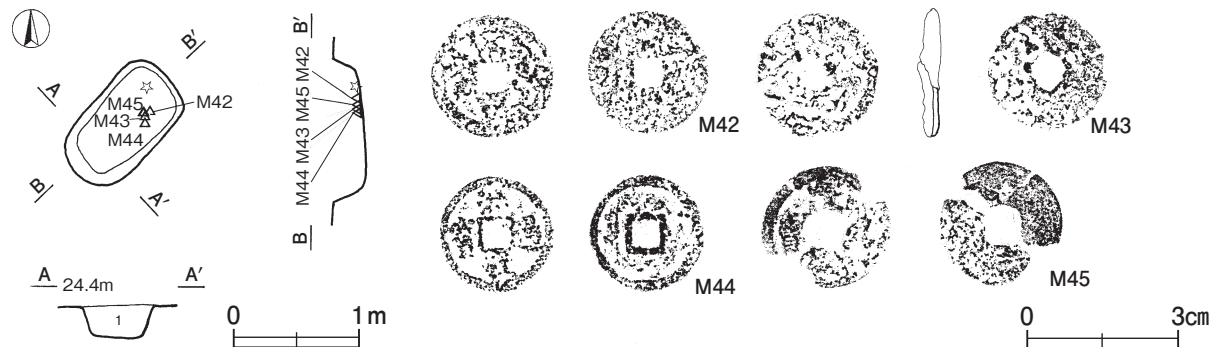
位置 調査区南部のM4b5区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.04m, 短軸0.62mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-44°-Eである。深さ22cm, 底面は平坦であり, 壁はほぼ直立している。

覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量



第533図 第9号墓坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 古銭5点（洪武通寶1，皇□□寶1，不明3）が東壁付近の底面から，骨片が北壁付近の底面からそれぞれ出土している。M43は，2枚の古銭が錆び付いた状態で出土している。

所見 時期は，出土遺物から中世後半と考えられる。出土銭貨は5枚であるが，六道銭として埋銭されていたと想定される。

第9号墓坑出土遺物観察表（第533図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鋳年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------------|-------|-------|-----|------|----|-----------------------|------|----|
| M42 | 古銭 (不明) | 2.4 | 0.5 | 1.6 | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 底面 | |
| M43 | 古銭 (不明) | 2.4 | 0.6 | 4.2 | 不明 | 銅 | 錆により1枚付着し損傷が激しいため判読不能 | 底面 | |
| M44 | 洪武通寶 | 2.3 | 0.6 | 3.0 | 1368 | 銅 | 明銭 無背 | 底面 | |
| M45 | 皇□□寶 | [2.4] | [0.8] | 1.5 | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 無背カ | 底面 | |

第10号墓坑（第534図）

位置 調査区南部のM4a0区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第52号溝に上端を掘り込まれている。

規模と形状 確認されている長径は0.84m，短径は0.70mの楕円形で，長径方向はN-54°-Eである。地表面からの深さは50cmほどで，底面は皿状であり，壁は緩斜して立ち上がっている。

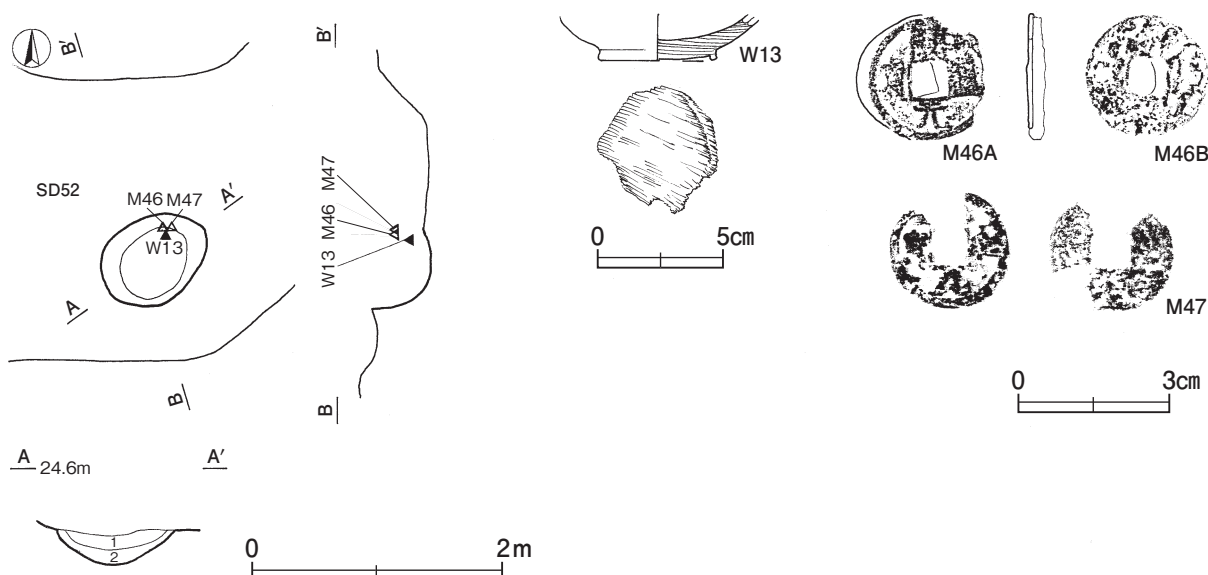
覆土 2層に分層される。ローム土や粘土で埋めている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒 2 におい黄褐色 粘土粒子多量，ロームブロック少量
子・炭化粒子微量

遺物出土状況 古銭3点（開元通寶，□元通寶，不明），木製品1点（漆器椀）が出土している。M46・M47は北東壁付近の覆土上層，W13は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係や出土遺物から14～15世紀頃と考えられる。



第534図 第10号墓坑・出土遺物実測図

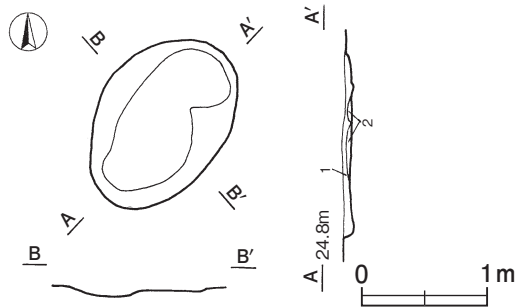
第10号墓坑出土遺物観察表（第534図）

| 番号 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|-------|-----|--------|----|--------|------|----|
| W13 | 漆器 | — | (1.8) | 4.7 | (54.8) | 木 | 高台削りだし | 覆土中層 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------------|-------|-----|-------|-----|----|------------------|------|----|
| M46A | 開元通寶 | 2.4 | 0.7 | (4.8) | 845 | 銅 | 唐銭 無背 M46Bと付着 | 覆土上層 | |
| M46B | 古銭 (不明) | 2.4 | 0.7 | | 不明 | 銅 | 錆による付着のため判読不能 無背 | 覆土上層 | |
| M47 | □元通寶 | (2.3) | 0.7 | 1.5 | 不明 | 銅 | 無背 | 覆土上層 | |

第11号墓坑 (第535図)

位置 調査区南部のL 5 e5区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。



第535図 第11号墓坑実測図

確認状況 削平を受けているため、遺存状態は悪い。

規模と形状 長径1.50m, 短径1.02mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さ2~8cmで底面には凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子・骨片微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片5点(内耳鍋), 第1層から骨片が微量混入した状態で検出されている。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。また、西側8mに第6号火葬土坑が位置し、本跡には若干の焼土が含まれていることを考慮すると、火葬後に拾骨した遺骨を埋納した可能性がある。

第12号墓坑 (第536図)

位置 調査区南東部のM 5 e7区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第55号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.57m, 短軸1.03mの隅丸長方形で、長軸方向はN-45°-Wである。深さ29cm, 底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

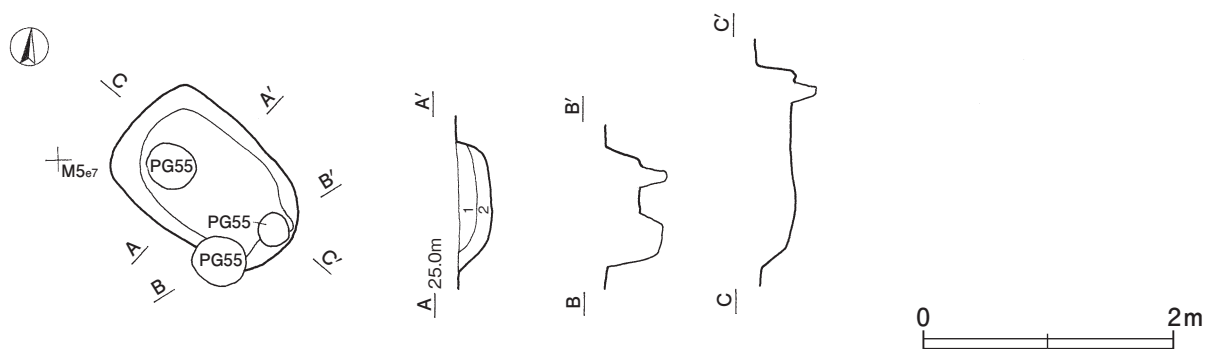
覆土 2層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片10点(皿2, 内耳鍋8)が出土している。

所見 時期は、重複関係や第18号墓坑と同軸方向を示すことから中世後半と考えられる。



第536図 第12号墓坑実測図

第13号墓坑 (第537図)

位置 調査区南東部のM5g2区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第42号ピット群域に位置し、第138号溝にP5を掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.24m、短軸0.88mの隅丸長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。深さ20cmほど、底面は中央へ向かってくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 5か所のピットを確認しているが、性格は不明である。周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。また、第1層はP1の抜き取り痕と考えられる。

土層解説 (I-I')

- | | | | |
|-------|------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 灰黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点(内耳鍋)が出土している。

所見 第42号ピット群との位置関係や、周囲に4基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世と考えられる。

第14号墓坑 (第537図)

位置 調査区南東部のM5g2区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第42号ピット群域に位置している。

規模と形状 長軸1.48m、短軸1.00mの隅丸長方形で、長軸方向はN-46°-Eである。深さ14~22cmで底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所のピットを確認しているが、性格は不明である。周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 3層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (C-C')

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 | | |

所見 第42号ピット群との位置関係や、周囲に4基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世と考えられる。

第15号墓坑 (第537図)

位置 調査区南東部のM5g3区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第42号ピット群域に位置している。

規模と形状 長軸1.36m、短軸0.82mのやや形が崩れた隅丸長方形で、長軸方向はN-44°-Eである。深さ10cmほど、底面には凸凹があり、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
|--------|-------------------|-------|-------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片の内耳鍋1点が出土している。

所見 第42号ピット群との位置関係や、周囲に4基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世と考えられる。

第16号墓坑 (第537図)

位置 調査区南東部のM5g1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第42号ピット群域に位置し、第138号溝に掘り込まれている。

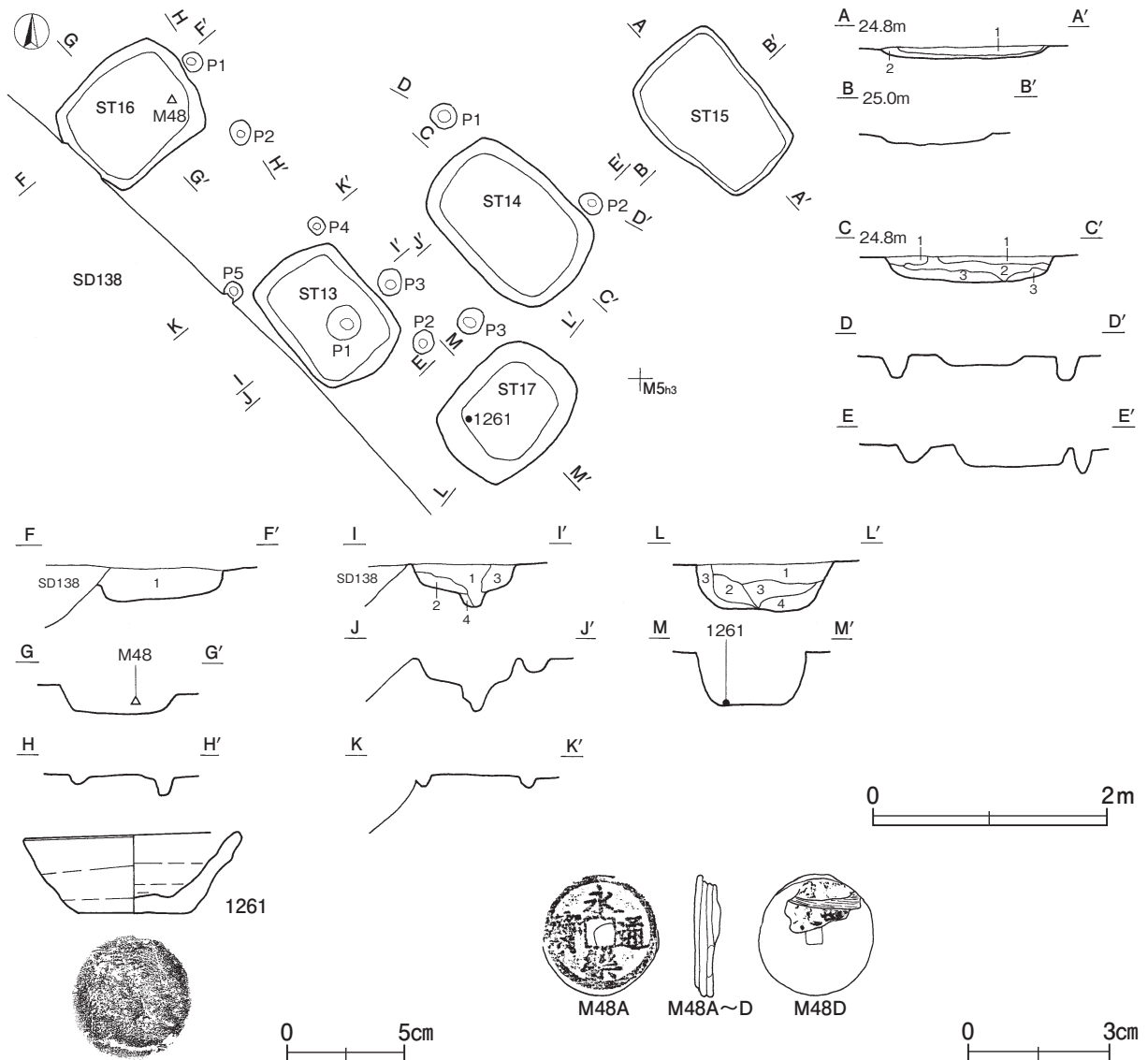
規模と形状 長軸1.24m、短軸0.98mの隅丸長方形で、長軸方向はN-50°-Eである。深さ18~28cmで底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所のピットを確認しているが、性格は不明である。周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (F-F')

1 暗褐色 ローム粒子多量



第537図 第13~17号墓坑、第16・17号墓坑出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点（皿1，内耳鍋3），古銭4点（永楽通寶1，不明3）が出土している。埋鏡と考えられるM48は，4枚が錆び付いた状態で北東壁付近の覆土中層から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。また，周囲に4基の墓坑が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。

第16号墓坑出土遺物観察表（第537図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鋳年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------------|------------|-------|---------------|-------|------|----|--------------------|------|----|
| M48A | 永楽通寶 | 2.4 | 0.5 | (6.6) | 1408 | 銅 | 明銭 Dまで付着 | 覆土中層 | |
| M48B ~D | 古銭 (不明) | (2.4) | (0.3~ 0.4) | | 不明 | 銅 | 錆による付着のため判読不能 Dは無背 | 覆土中層 | |

第17号墓坑（第537図）

位置 調査区南東部のM5h2区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第42号ピット群域に位置している。

規模と形状 長軸1.18m，短軸0.92mの隅丸長方形で，長軸方向はN-42°-Eである。深さ45cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（L-L'）

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿）が出土している。1261は南西壁付近の底面から出土している。

所見 時期は，出土土器から15世紀後半と考えられる。

第17号墓坑出土遺物観察表（第537図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|----|----|--------------------------------------|------|-----|
| 1261 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 3.5 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後丁寧なナデ 内底ナデ 中央に凹み | 底面 | 80% |

第18号墓坑（第538図）

位置 調査区南東部のM5f7区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第55号ピット群の一部に掘り込まれ，中央部に攪乱を受けている。

規模と形状 長径1.82m，短径0.77mの不定形で，長径方向はN-37°-Wである。深さ15cmほど，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

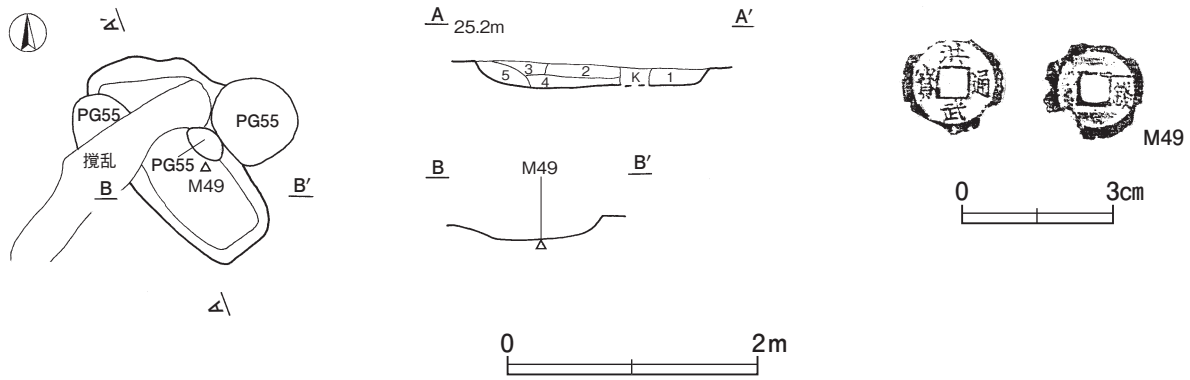
覆土 5層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物少量，ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿2，内耳鍋1），古銭1点（洪武通寶）が出土している。M49は東壁付近の底面から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。



第538図 第18号墓坑・出土遺物実測図

第18号墓坑出土遺物観察表（第538図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|--------|------|----|
| M49 | 洪武通寶 | 2.1 | 0.5 | 2.0 | 1368 | 銅 | 明銭 背一銭 | 底面 | |

第19号墓坑（第539図）

位置 調査区南東部のM5e6区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第55号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.70m，短軸0.82mの隅丸長方形で，長軸方向はN-32°-Eである。深さ10cmほど，底面にはやや凸凹があり，壁は外傾して立ち上がっている。

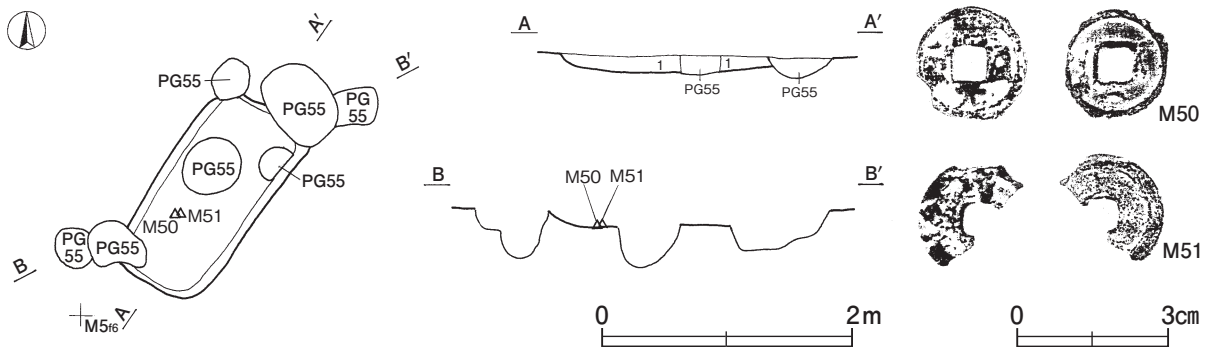
覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量，炭化材微量

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿），古銭2点（開元通寶，不明）が出土している。M50・M51は中央部の底面から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。



第539図 第19号墓坑・出土遺物実測図

第19号墓坑出土遺物観察表（第539図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|----|----------------------|------|----|
| M50 | 開元通寶 | 2.3 | 0.7 | 2.3 | 621 | 銅 | 唐銭 背下月カ | 覆土下層 | |
| M51 | □□□□ | 2.3 | 0.6 | 0.9 | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 無背カ | 覆土下層 | |

第20号墓坑（第540図）

位置 調査区南東部のM 4 j0区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.32m，短軸0.64mの隅丸長方形で，長軸方向はN-48°-Eである。深さは50cmほどで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（A-A'）

- | | | | |
|---------|------------------|---------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，粘土ブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，粘土ブロック微量 | 5 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量，ローム粒子少量 | | |

所見 本跡の東側に接して第21号墓坑が位置し，北側に5基の墓坑や土坑群が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると，本跡も中世と考えられる。

第21号墓坑（第540図）

位置 調査区南東部のM 5 j1区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.13m，短軸0.73mの隅丸長方形で，長軸方向はN-44°-Eである。深さは50cmほどで，底面は平坦であり，壁はほぼ直立している。

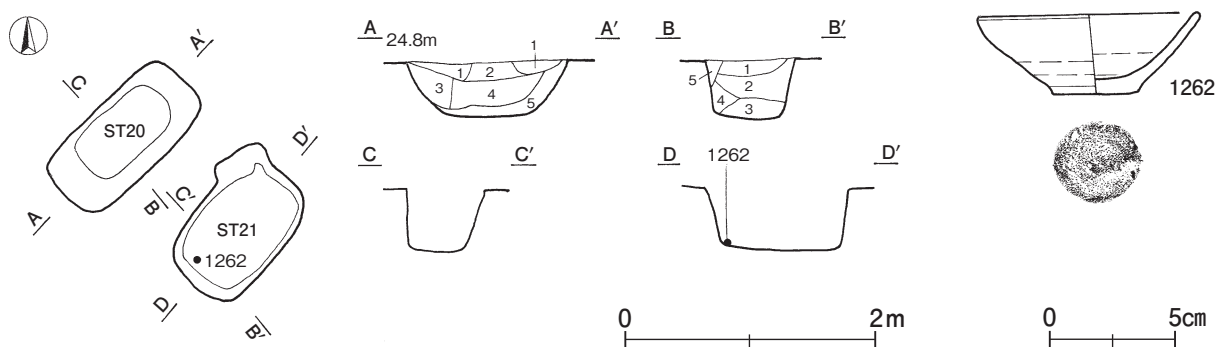
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（B-B'）

- | | | | |
|---------|------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量，粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿1，内耳鍋2）が出土している。1262が南壁際の底面から出土している。

所見 本跡の西側に接して第20号墓坑が位置し，北側に5基の墓坑や土坑群が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。時期は，出土遺物から15世紀後半と考えられる。



第540図 第20・21号墓坑，第21号墓坑出土遺物実測図

第21号墓坑出土遺物観察表（第540図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|----|----|--------------------------------|------|-----|
| 1262 | 土師質土器 | 皿 | 8.8 | 3.2 | 3.5 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後丁寧なナデ 内底ナデ | 底面 | 80% |

第22号墓坑（第541図）

位置 調査区南東部のM 6 b1区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第45号ピット群の一部に南コーナー部の上端を掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.06m、短軸0.86mの隅丸長方形で、長軸方向はN-29°-Eである。深さは20cmほどで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

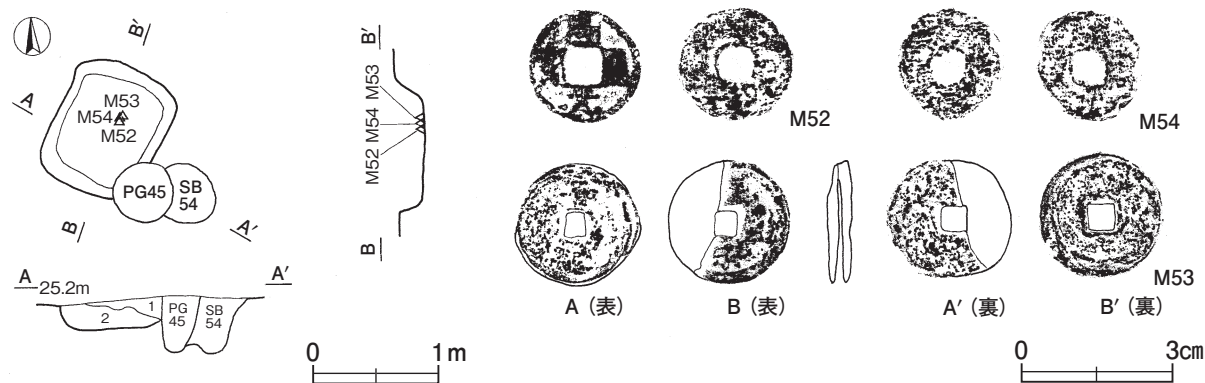
覆土 2層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(播鉢)、陶器片1点(常滑系甕)、古銭4点(開元通寶1、□宋通□1、不明2)のほか、流れ込んだ須恵器片1点も出土している。M52～M54は、中央部北寄りの底面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。



第541図 第22号墓坑・出土遺物実測図

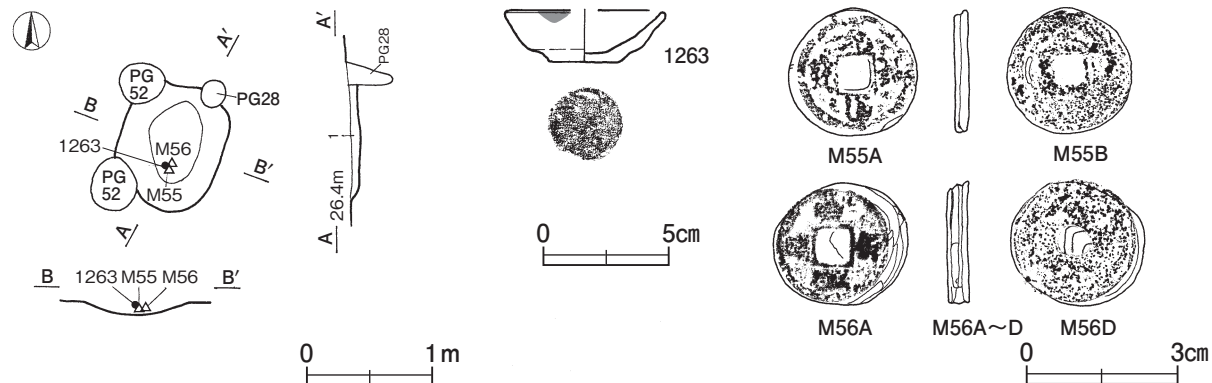
第22号墓坑出土遺物観察表 (第541図)

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-------|-----|-----|-----|----|---------------------|------|----|
| M52 | 開元通寶 | 2.3 | 0.7 | 2.2 | 621 | 銅 | 唐銭 無背 | 底面 | |
| M53A | □□□□ | (2.5) | 0.5 | 5.7 | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 無背 | 底面 | |
| M53B | □宋通□ | 2.5 | 0.5 | | 不明 | 銅 | 北宋銭カ 無背 M53Aと付着 | 底面 | |
| M54 | □□□□ | (2.2) | 0.6 | 1.9 | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 底面 | |

第23号墓坑 (第542図)

位置 調査区中央部のH7g7区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第52号ピット群の一部に掘り込まれている。



第542図 第23号墓坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径1.00m, 短径0.83mの楕円形で, 長径方向はN-25°-Eである。深さ9cm, 底面は皿状を呈し, 壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿), 古銭6点(元祐通寶1, 皇宋通寶1, 不明4)のほか, 流れ込んだ土師器片3点も出土している。1263は中央部の覆土中層, M55・M56は底面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から15世紀後半と考えられる。

第23号墓坑出土遺物観察表(第542図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|----------------|----|----|-----------------------------------|------|-----------------|
| 1263 | 土師質土器 | 皿 | (6.2) | 2.1 | 2.8 | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底ナデ | 覆土中層 | 70% 口辺部油 煙付着 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------------|------------|---------|-----|------|------|----|------------------|------|----|
| M55A | 元祐通寶 | 2.3 | 0.7 | 5.5 | 1086 | 銅 | 北宋銭 M55Bと付着 | 底面 | |
| M55B | 古銭 (不明) | 2.5 | 0.6 | | 不明 | 銅 | 錆による付着のため判読不能 無背 | 底面 | |
| M56A | 皇宋通寶 | 2.3 | 0.6 | 11.0 | 1038 | 銅 | 北宋銭 真書 M56Dまで付着 | 底面 | |
| M56B ~C | 古銭 (不明) | 2.3~2.4 | — | | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 底面 | |
| M56D | □□□□ | 2.4 | 0.6 | | 不明 | 銅 | 錆による付着のため判読不能 無背 | 底面 | |

第24号墓坑(第543図)

位置 調査区中央部のJ7e1区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第62号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.05m, 短軸0.68mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-30°-Wである。深さ18cm, 底面は平坦であり, 壁は緩斜して立ち上がっている。

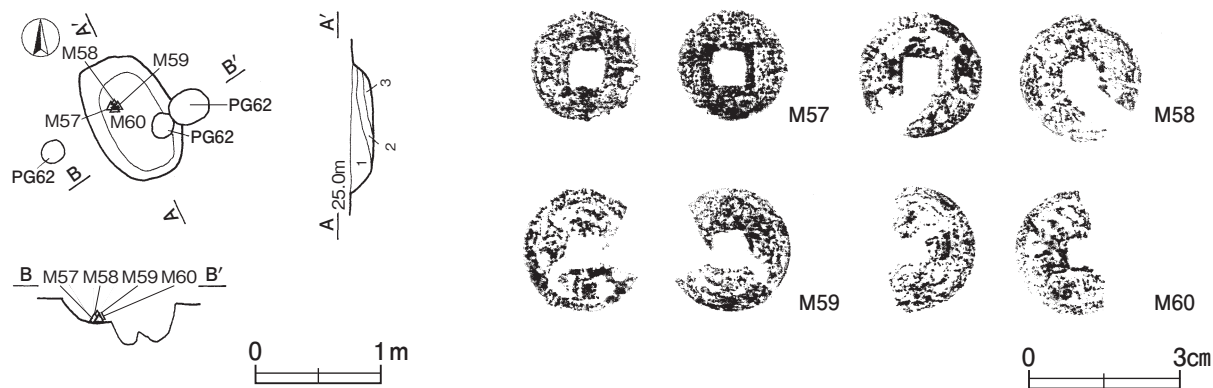
覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第543図 第24号墓坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿，内耳鍋），古銭4点（咸淳元寶，元□□寶，□宋通□，不明）のほか，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。M57～M60は，中央部の底面から出土している。

所見 時期は，出土遺物から中世後半と考えられる。

第24号墓坑出土遺物観察表（第543図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|------------------|------|----|
| M57 | 咸淳元寶 | 2.3 | 0.6 | 3.3 | 1265 | 銅 | 南宋銭 無背 | 底面 | |
| M58 | 元□□寶 | 2.5 | 0.6 | 1.9 | 不明 | 銅 | 無背 | 底面 | |
| M59 | □宋通□ | 2.5 | 0.6 | 1.5 | 不明 | 銅 | 無背 | 底面 | |
| M60 | □□□□ | 2.5 | 0.5 | 1.5 | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 底面 | |

第25号墓坑（第544図）

位置 調査区中央部のI7a3区，標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第67号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.52m，短軸1.60mの不整長方形で，北西コーナー部の一部が張り出している。長軸方向はN-65°-Wである。深さ12～16cmで底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

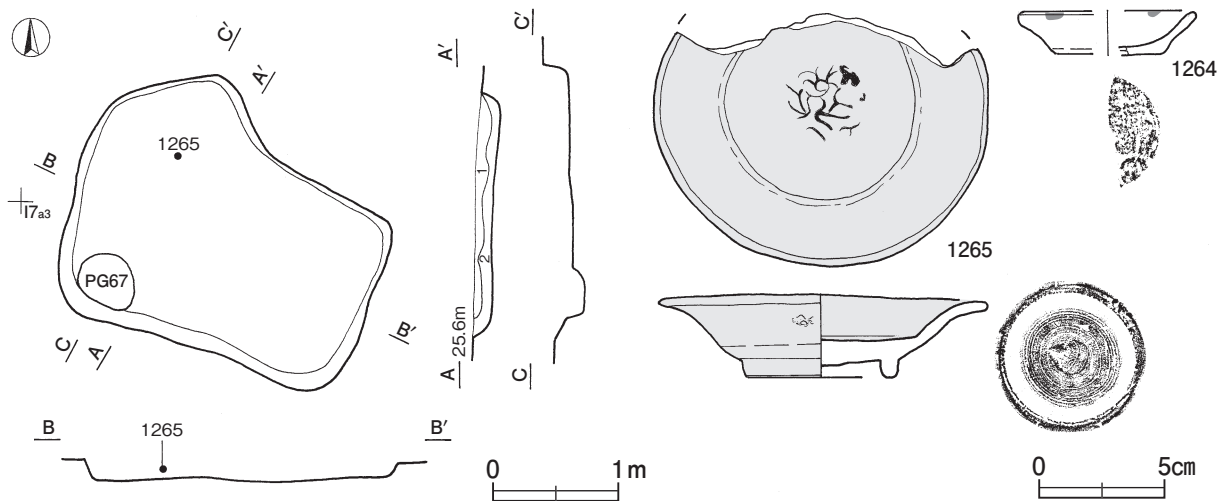
覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 オリーブ黒色 粘土ブロック多量，炭化粒子・砂粒微量
- 2 灰 色 粘土ブロック多量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片20点（皿14，内耳鍋5，甕1），磁器片1点（皿），鉄製品2点（不明）のほか，流れ込んだ石器1点（磨石カ）も出土している。1264は覆土中，1265は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。



第544図 第25号墓坑・出土遺物実測図

第25号墓坑出土遺物観察表（第544図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-------|------------|-------|----|-----------------------------|------|----------------|
| 1264 | 土師質土器 | 皿 | (7.0) | 1.7 | (4.0) | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底ナデ | 覆土中 | 40% 口辺部油煙付着 |
| 1265 | 青磁 | 皿 | 12.9 | 3.3 | 5.9 | 砂粒 青磁釉 | オリーブ灰 | 普通 | 体部内外面施釉 高台削り出し 内底中央部花文のスタンプ | 覆土中層 | 60% PL126 中国産カ |

第26号墓坑（第545図）

位置 調査区中央部のH 7 f4区，標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

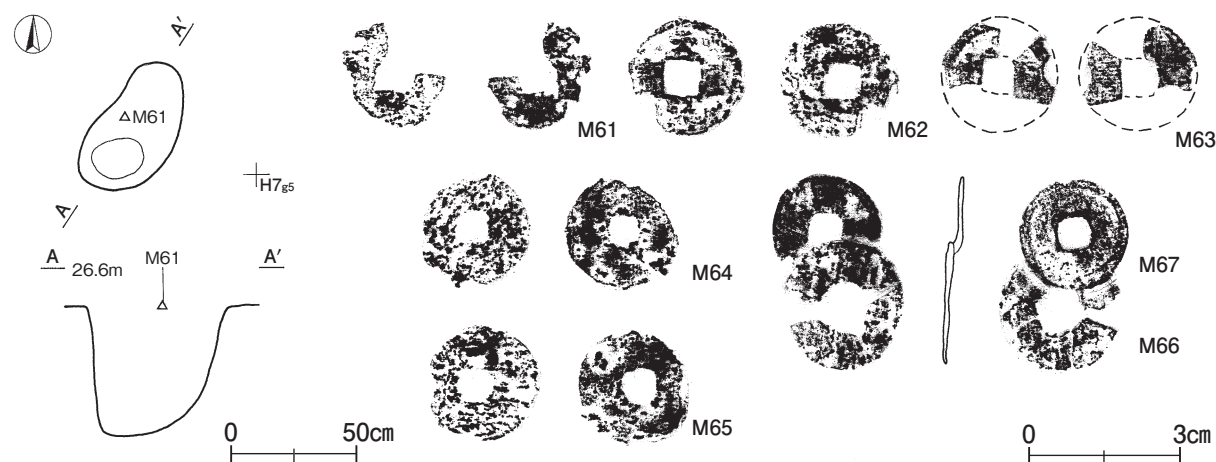
確認状況 第27号ピット群域に位置している。

規模と形状 長径0.55m，短径0.29mの不定形で，長径方向はN-25°-Eである。深さ51cmで，底面はほぼ平坦である。南壁はほぼ直立し，北壁はなだらかに外傾して立ち上がっている。

覆土 人為堆積と推測される。

遺物出土状況 古銭7点（天聖元寶1，□大通□1，不明5）が出土している。M61は覆土上層，他は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土遺物から中世後半と考えられる。



第545図 第26号墓坑・出土遺物実測図

第26号墓坑出土遺物観察表（第545図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|-------|------|----|------------------|------|-------|
| M61 | □□□□ | (2.0) | 0.7 | (0.9) | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 覆土上層 | |
| M62 | 天聖元寶 | 2.3 | 0.7 | 1.2 | 不明 | 銅 | 錆により1枚付着している | 覆土中 | PL123 |
| M63 | □大通□ | (2.4) | (0.6) | (0.5) | 1368 | 銅 | 明銭 無背 | 覆土中 | |
| M64 | □□□□ | 2.3 | 0.5 | 1.7 | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 覆土中 | |
| M65 | □□□□ | (2.3) | 0.7 | (1.7) | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 覆土中 | |
| M66 | □□□□ | (2.3) | (0.7) | (3.7) | 不明 | 銅 | M67と付着 | 覆土中 | PL123 |
| M67 | □□□□ | 2.1 | 0.6 | | 不明 | 銅 | 錆による損傷が激しいため判読不能 | 覆土中 | PL123 |

第27号墓坑（第546図）

位置 調査区中央部のI 6 d5区，標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

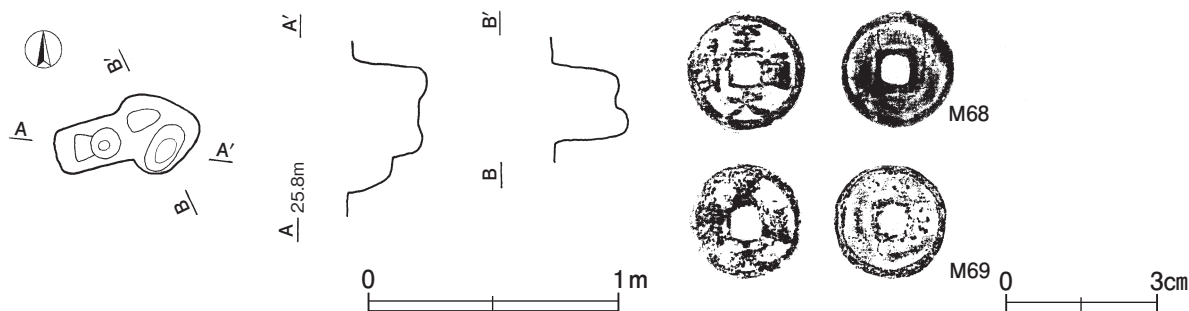
確認状況 第64号ピット群域に位置している。

規模と形状 長径0.58m，短径0.19mの不定形で，長径方向はN-79°-Eである。深さは17～31cmで，底面には凸凹があり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 人為堆積と推測される。

遺物出土状況 古銭2点（至大通寶）が出土している。M68・M69は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土遺物から中世後半と考えられる。



第546図 第27号墓坑・出土遺物実測図

第27号墓坑出土遺物観察表（第546図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|-----|-----|------|----|-------|------|----|
| M68 | 至大通寶 | 2.3 | 0.6 | 1.9 | 1310 | 銅 | 元銭 無背 | 覆土中 | |
| M69 | 至大通寶 | 2.2 | 0.5 | 2.9 | 1310 | 銅 | 元銭 無背 | 覆土中 | |

表28 墓坑一覽表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模(m) | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 人骨 (有・無) | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係 旧→新) |
|----|--------|---------|-------|-----------------|--------|----|-------|-----|-------------|------------------|------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ(cm) | | | | | | |
| 1 | K 3 j9 | N-42°-E | 不定形 | 1.17 × 0.72 | 16 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 有 | 古銭 | 第1号土坑群→本跡 |
| 2 | K 4 g0 | N-37°-E | 不定形 | 1.08 × 0.65 | 26 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 古銭 | SK370→本跡 |
| 3 | M 4 e5 | N-50°-E | 隅丸長方形 | 1.09 × 0.76 | 39 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 有 | 古銭 | SD33→SF4→本跡 |
| 4 | M 4 e5 | N-40°-E | 隅丸方形 | 0.82 × 0.73 | 21 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | — | SD33→SF4→本跡 |
| 5 | M 4 e5 | N-44°-E | 隅丸長方形 | 1.15 × 0.83 | 33 | 皿状 | 外傾 | 人為 | 無 | — | WT14・SD33→SF4→本跡 |
| 6 | L 4 d3 | N-23°-E | 隅丸長方形 | 0.90 × 0.72 | 22 | 凸凹 | 外傾 | 人為 | 有 | — | |
| 7 | L 3 f0 | N-36°-W | 隅丸長方形 | 1.38 × 0.74 | 30 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 有 | — | |
| 8 | L 4 a7 | N-34°-E | 楕円形 | 0.98 × 0.69 | 22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 古銭 | |
| 9 | M 4 b5 | N-44°-E | 隅丸長方形 | 1.04 × 0.62 | 22 | 平坦 | ほぼ直立 | 人為 | 有 | 古銭 | |
| 10 | M 4 a0 | N-54°-E | 楕円形 | (0.84) × (0.70) | 54 | 皿状 | 緩斜 | 人為 | 無 | 古銭, 漆器 | 本跡→SD52 |
| 11 | L 5 e5 | N-32°-E | 楕円形 | 1.50 × 1.02 | 2~8 | 凸凹 | 外傾 | 人為 | 有 | 土師質土器 | |
| 12 | M 5 e7 | N-45°-W | 隅丸長方形 | 1.57 × 1.03 | 29 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器 | 本跡→PG55 |
| 13 | M 5 g2 | N-40°-W | 隅丸長方形 | 1.24 × 0.88 | 18~22 | 凹状 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器 | 本跡→SD138 PG42域 |
| 14 | M 5 g2 | N-46°-E | 隅丸長方形 | 1.48 × 1.00 | 14~22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | — | PG42域 |
| 15 | M 5 g3 | N-44°-E | 隅丸長方形 | 1.36 × 0.82 | 8~10 | 凸凹 | 緩斜 | 人為 | 無 | 土師質土器 | PG42域 |
| 16 | M 5 g1 | N-50°-E | 隅丸長方形 | 1.24 × 0.98 | 18~28 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 古銭 | 本跡→SD138 PG42域 |
| 17 | M 5 h2 | N-42°-E | 隅丸長方形 | 1.18 × 0.92 | 45 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器 | PG42域 |
| 18 | M 5 f7 | N-37°-E | 不定形 | 1.82 × 0.77 | 14~20 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器, 古銭 | 本跡→PG55 |
| 19 | M 5 e6 | N-32°-E | 隅丸長方形 | 1.70 × 0.82 | 12 | 凹状 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器, 古銭 | 本跡→PG55 |
| 20 | M 4 j0 | N-48°-E | 隅丸長方形 | 1.32 × 0.64 | 48 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | — | |
| 21 | M 5 j1 | N-44°-E | 隅丸長方形 | 1.13 × 0.73 | 47 | 平坦 | ほぼ直立 | 人為 | 無 | 土師質土器 | |
| 22 | M 6 b1 | N-29°-E | 隅丸長方形 | 1.06 × 0.86 | 22 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器, 陶器, 古銭 | 本跡→PG45 |
| 23 | H 7 g7 | N-25°-E | 楕円形 | 1.00 × 0.83 | 9 | 皿状 | 緩斜 | 人為 | 無 | 土師質土器, 古銭 | 本跡→PG52 |
| 24 | J 7 e1 | N-30°-W | 隅丸長方形 | 1.05 × 0.68 | 18 | 平坦 | 緩斜 | 人為 | 無 | 土師質土器, 古銭 | 本跡→PG62 |
| 25 | I 7 a3 | N-65°-W | 不整長方形 | 2.52 × 1.60 | 12~16 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器, 磁器, 不明鉄製品 | 本跡→PG67 |
| 26 | H 7 f4 | N-25°-E | 不定形 | 0.55 × 0.29 | 51 | 平坦 | 直立・外傾 | 人為カ | 無 | 古銭 | PG27域 |
| 27 | I 6 d5 | N-79°-E | 不定形 | 0.58 × 0.19 | 17~31 | 凸凹 | 外傾 | 人為カ | 無 | 古銭 | PG64域 |

(12) 火葬土坑

火葬土坑については次のような基準を設けた。遺構の性格として、火葬後そのまま埋葬されたものと、拾骨をして別の場所に埋葬されたものとの両者の可能性を考慮して「火葬土坑」の名称を使用する。火葬土坑を構成している施設については、空気を取り込む坑を「開口部」、遺骸を火葬した坑を「燃焼部」、開口部底面から燃焼部底面に通気調整を促進させるために掘られたと考えられる溝を「通気溝」の3つに分けて説明する。主軸方向は、火葬を行う際に遺体を寝かせるために必要な長さや幅を掘られたであろう燃焼部の長軸方向とする。

第1号火葬土坑 (第547図)

位置 調査区南部のL4c3区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第4・5号ピット群の境に位置している。

開口部 東側に位置する長軸0.98m、短軸0.78mの隅丸長方形である。底面は北東部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜し、深さは19cmである。

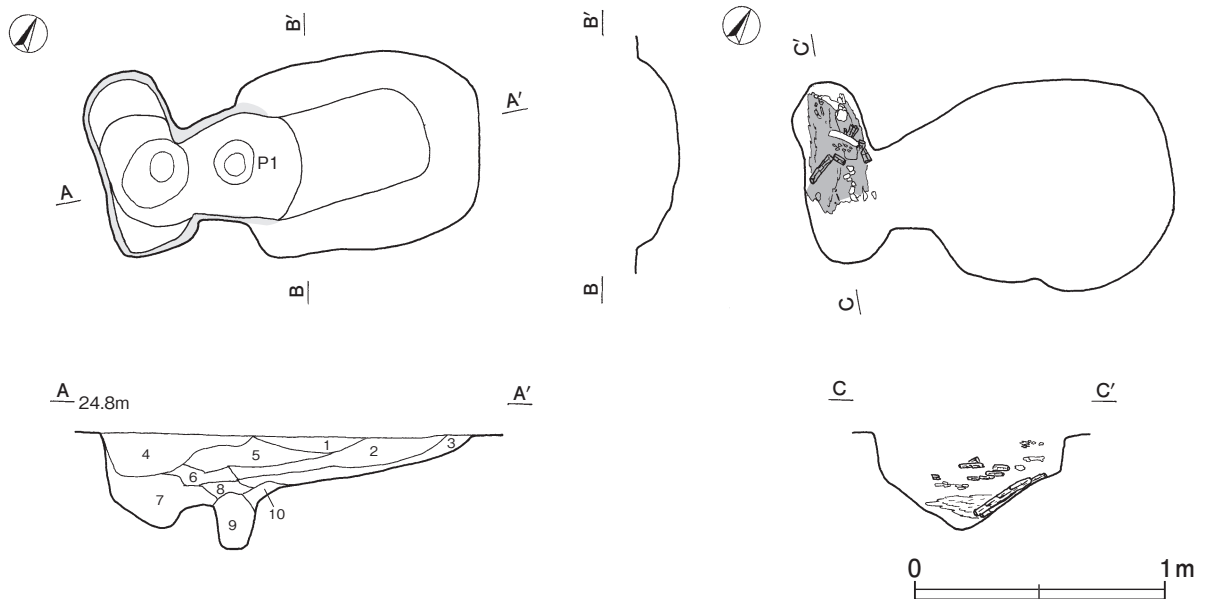
燃焼部 長軸0.73m、短軸0.35mの隅丸長方形で、深さは14～20cmである。長軸方向はN-40°-Wで、壁面は赤変している。燃焼部の底面には、長さ0.59m、上幅0.38～0.46m、下幅0.12m、深さ38cmの通気溝が掘られている。中央部から北壁にかけた底面と覆土上層に炭化材が出土し、その間から人骨が検出されている。

ピット 燃焼部との境にP1が確認されているが、周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 10層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。燃焼部の下層(第7層)から骨片が検出している。また、第10層はピットの覆土である。

土層解説

| | | | | | |
|---|--------|------------------|----|----|---------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 | 6 | 褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化材少量 |
| 2 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 7 | 黒色 | 炭化材多量, 骨片中量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 8 | 褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 | 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化材少量 | 9 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック多量 | 10 | 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |



第547図 第1号火葬土坑実測図

遺物出土状況 多量の人骨が検出しているほかに、流れ込みと考えられる土師器片2点も出土している。

所見 炭化材に混ざって人骨が多量に検出されているが、頭蓋骨や歯が確認されていないことから、拾骨後に残った人骨をそのまま埋めたと想定される。また、燃焼部の長軸が約0.7mであることや人骨の検出状況から、確認面より上の構造は2m内外の規模を有していたと想定される。西側へ20m地点に5基の地下式坑に囲まれた土坑群や3基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。

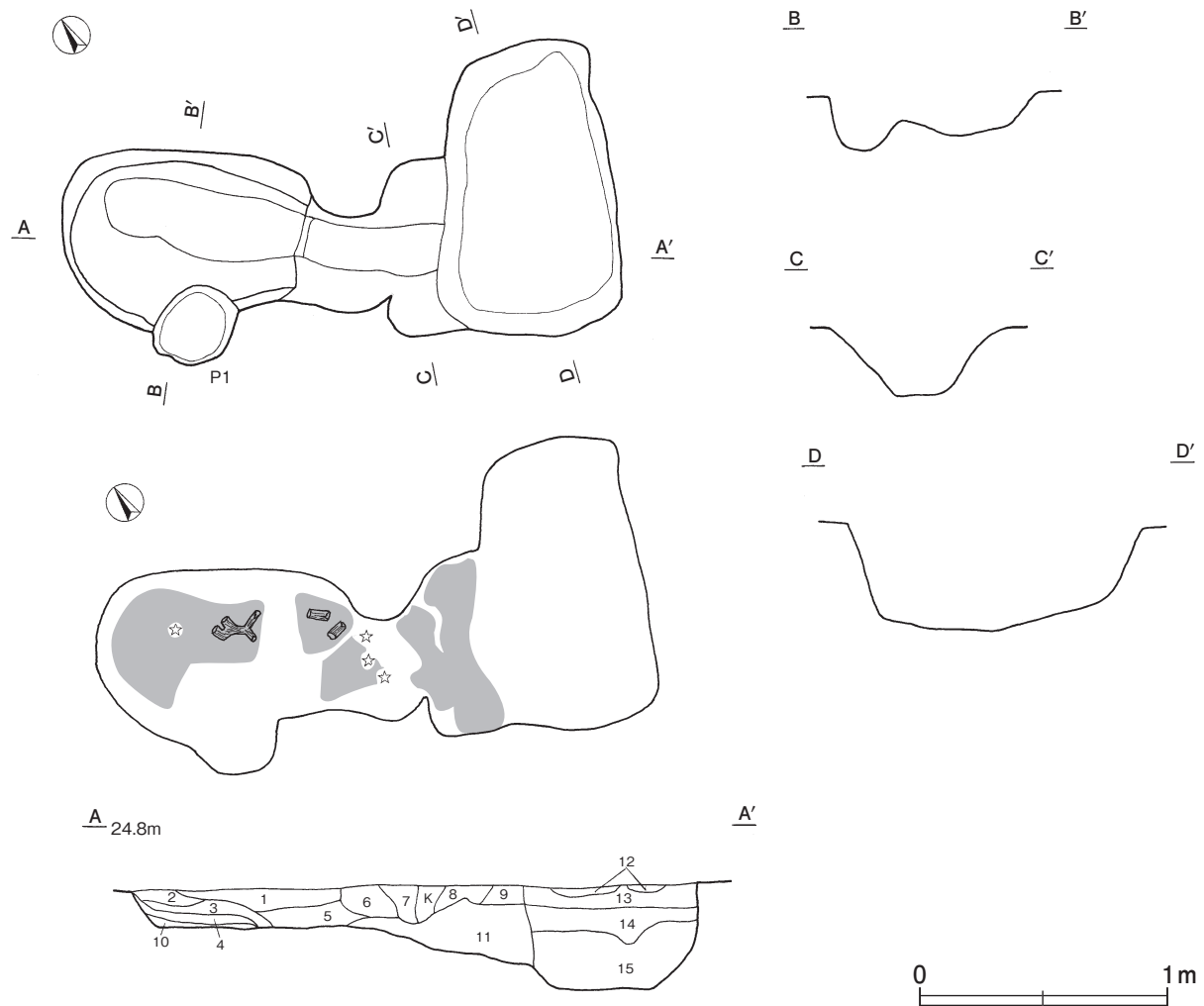
第2号火葬土坑（第548図）

位置 調査区南部のM4c9区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第6号ピット群域に位置している。

開口部 東側に位置する長軸1.18m、短軸0.69mの隅丸長方形である。底面は燃焼部前を深さ40cmほど平坦に掘り込んでいる。底面付近から、歯片や骨粉が検出されている。

燃焼部 長軸1.30m、短軸0.73mの隅丸長方形で、深さは11cmである。長軸方向はN-33°-Eである。開口部との境目から燃焼部の底面には、長さ1.36m、上幅0.48~0.71m、下幅0.18~0.27m、深さ18cmの通気溝が掘られている。底面には炭化粒子や炭化材が広がり、底面よりやや上位からは骨片や骨粉が検出されている。



第548図 第2号火葬土坑実測図

ピット 燃烧部の南壁にP1が確認されているが、周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 15層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。また、堆積状況から、拾骨後に燃烧部側を埋め、開口部を改めて埋めたと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック・砂粒少量, 炭化物微量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 10 黒褐色 | 粘土粒子多量, 炭化物中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化材中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 12 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・骨片少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 15 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック・菌片少量, 炭化粒子微量 |
| 8 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック・骨片少量 | | |

所見 覆土の堆積状況から、遺骸を焼いて拾骨した残りを開口部へ埋めた可能性がある。周囲には第3・4号火葬土坑や20mの同心円状内に11基の墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。

第3号火葬土坑 (第549図)

位置 調査区南部のM4b9区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号ピット群に開口部を掘り込まれている。

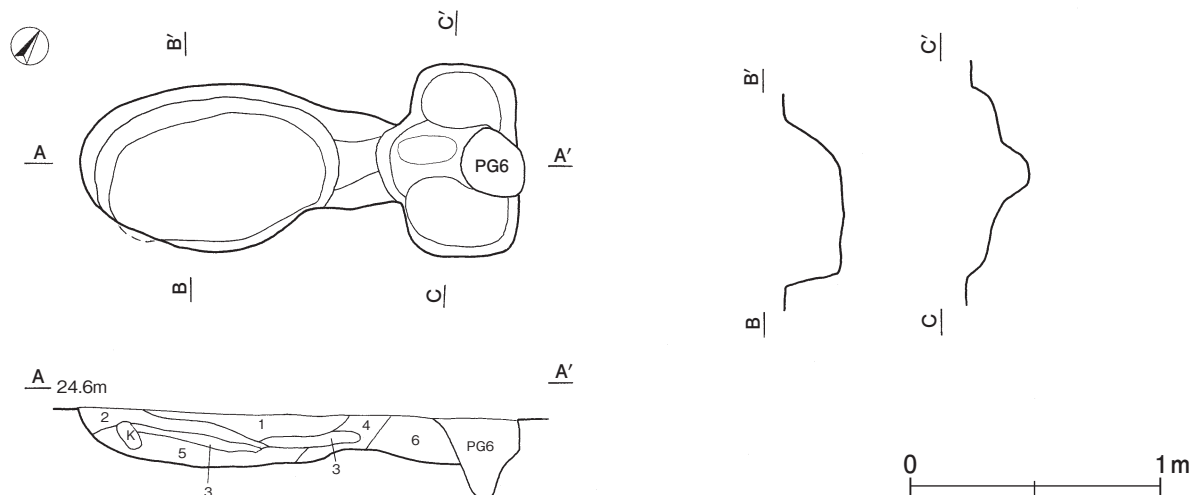
開口部 東側に位置する長軸0.77m、短軸0.46mの隅丸長方形である。底面には長さ0.48m、上幅0.20m、下幅0.10m、深さ18cmの通気溝が掘られており、燃烧部と連結部分で一段盛り上がっている。

燃烧部 長径1.30m、短径0.66mの楕円形で、深さは14～23cmである。長径方向はN-58°-Wであり、底面は中央部に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 5 灰黄褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |



第549図 第3号火葬土坑実測図

遺物出土状況 骨片3片のほかに、流れ込みと考えられる鉄滓8点も出土している。

所見 周囲には第2・4号火葬土坑や20mの同心円状内に10基の墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。

第4号火葬土坑（第550図）

位置 調査区南部のM5b1区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 燃焼部の東側は調査区域外である。

開口部 西側に位置する長径1.30m、短径0.48mの楕円形である。深さは6cmで、底面は燃焼部へ向かって緩やかに傾斜している。

燃焼部 長径0.76m、確認されている短径は0.40mで楕円形と考えられる。長径方向はN-47°-Eである。底面には長さ0.37m、上幅0.32m、下幅0.22m、深さ21cmの通気溝が掘られている。

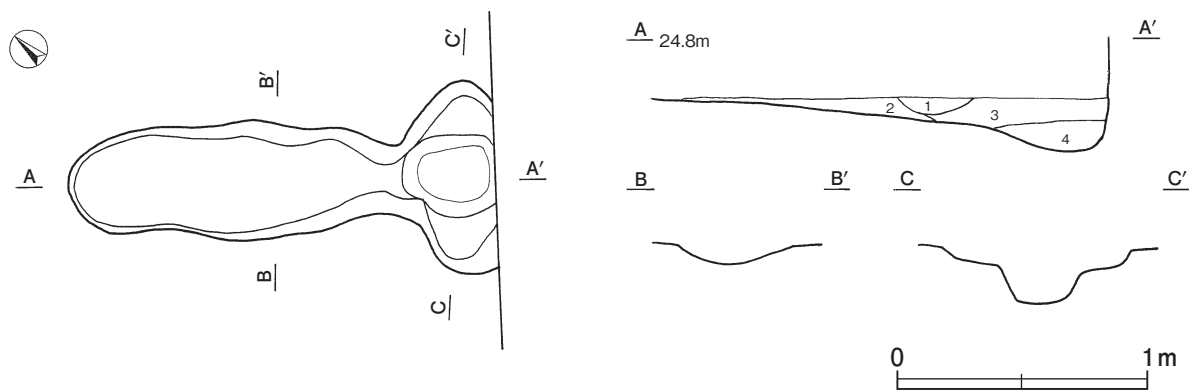
覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 | 炭化材中量、焼土ブロック・ローム粒子・骨片少量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 燃焼部の覆土から骨片や骨粉が検出されている。

所見 周囲には第2・4号火葬土坑のほか、墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。



第550図 第4号火葬土坑実測図

第5号火葬土坑（第551図）

位置 調査区南部のL4c8区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

開口部 西側に位置する長径0.75m、短径0.73mの円形である。深さは7cmで、底面は燃焼部へ向かって緩やかに傾斜している。

燃焼部 長径0.65m、短径0.35mの楕円形で、長径方向はN-44°-Wである。底面には長さ1.06m、上幅0.25m、下幅0.17m、深さ16cmの通気溝が開口部と連結して掘られている。また、北側の地表面に炭化材が広まっていることから、燃焼部自体が通気溝である可能性も考えられる。

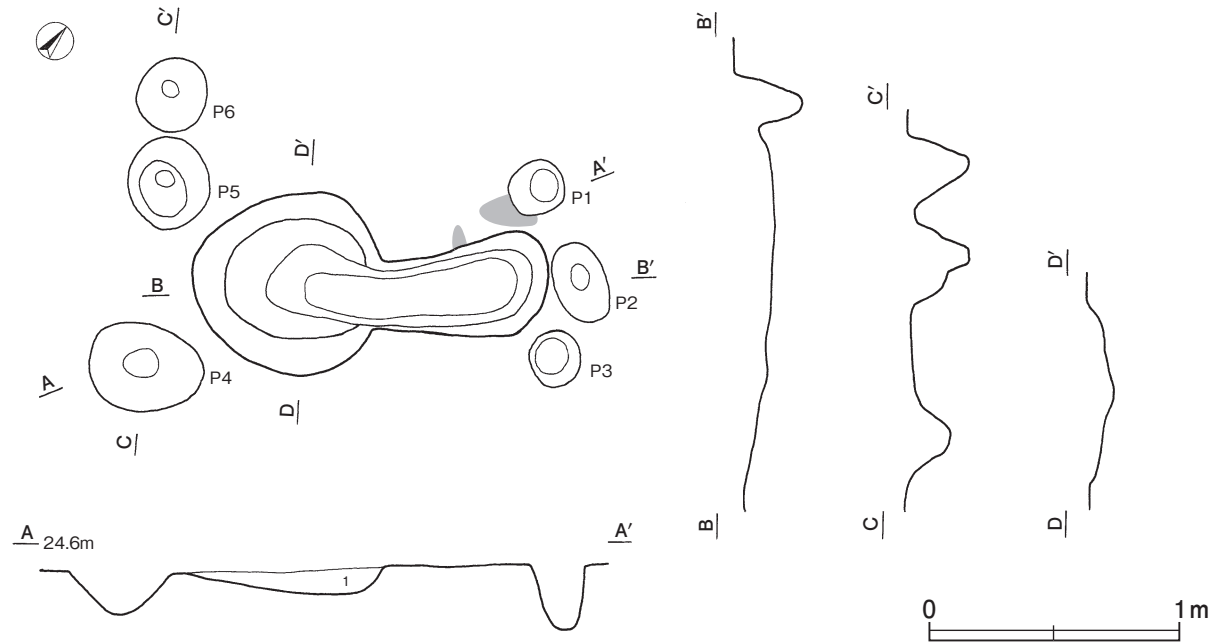
ピット 本跡を囲むように6か所のピットを確認しているが、性格は不明である。

覆土 単一層であり，含有物などから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

所見 覆土に骨片などは含まれていないが，当遺跡内の火葬土坑と似た形状をしていることから火葬土坑と考えられる。また，北西側10mに位置する第8号墓坑には焼土が含まれていることから，本跡から拾骨した遺骨を埋納したと想定される。時期は，遺構の形態や墓坑との関わりなどから中世後半と考えられる。



第551図 第5号火葬土坑実測図

第6号火葬土坑 (第552図)

位置 調査区南部のL5f3区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第14号ピット群域に位置している。

開口部 西側に位置する長軸1.16m，短軸0.65mの隅丸長方形である。深さは11cmで，底面は燃焼部へ向かってなだらかに傾斜している。

燃焼部 長軸0.52m，短軸0.35mの隅丸長方形で，長軸方向はN-41°-Wである。底面は東側に向かって緩やかに傾斜し，開口部側の壁は赤変硬化している。

ピット 10か所のピットを確認しているが，性格は不明である。周辺にピット群が確認されていることから，それらの遺構に属する可能性がある。

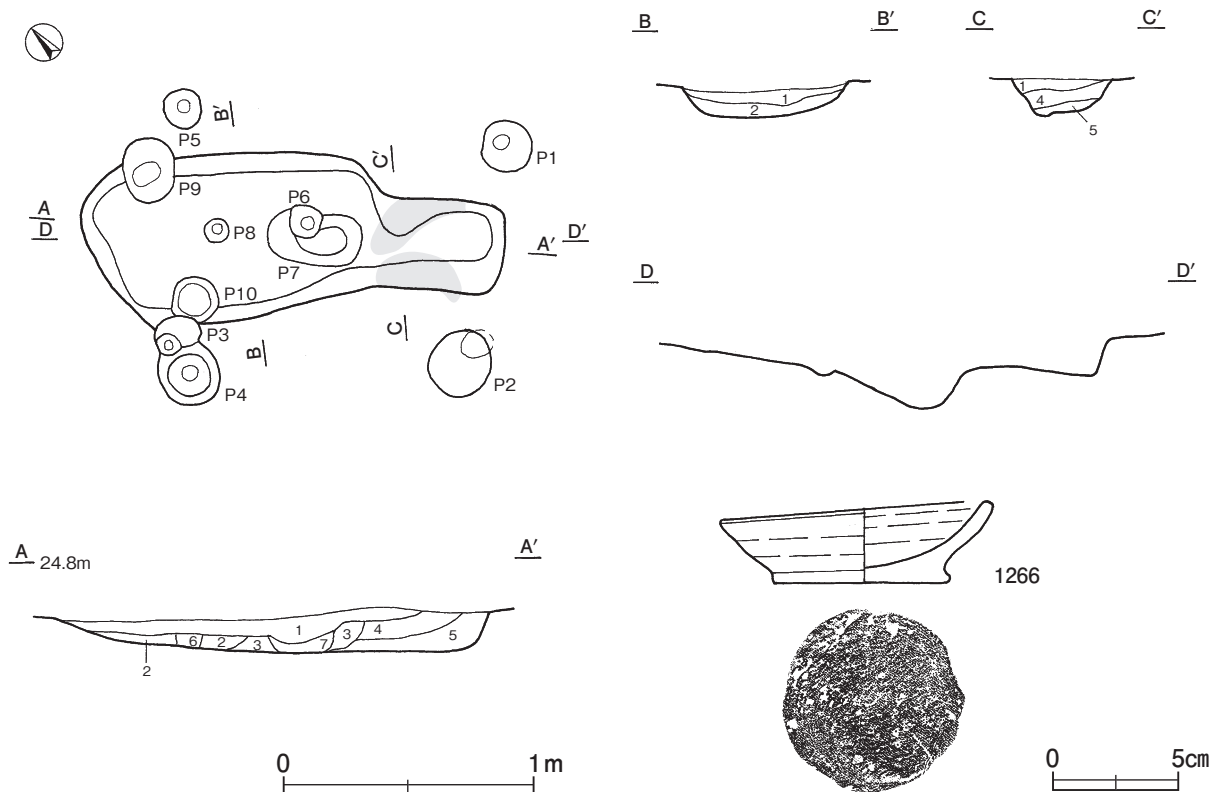
覆土 7層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒色 | 炭化物多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化物・骨片少量，ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 燃焼部の覆土から骨片や骨粉が検出され，P2の覆土中から1266が出土している。その他に，流れ込んだと考えられる縄文土器片4点，土師器片1点も出土している。

所見 時期は，遺構の形態などから中世と考えられる。また，東側8mに位置する第11号墓坑には若干の焼土が含まれていることを考慮すると，本跡から拾骨した遺骨を埋納した可能性がある。



第552図 第6号火葬土坑・出土遺物実測図

第6号火葬出土遺物観察表（第552図）

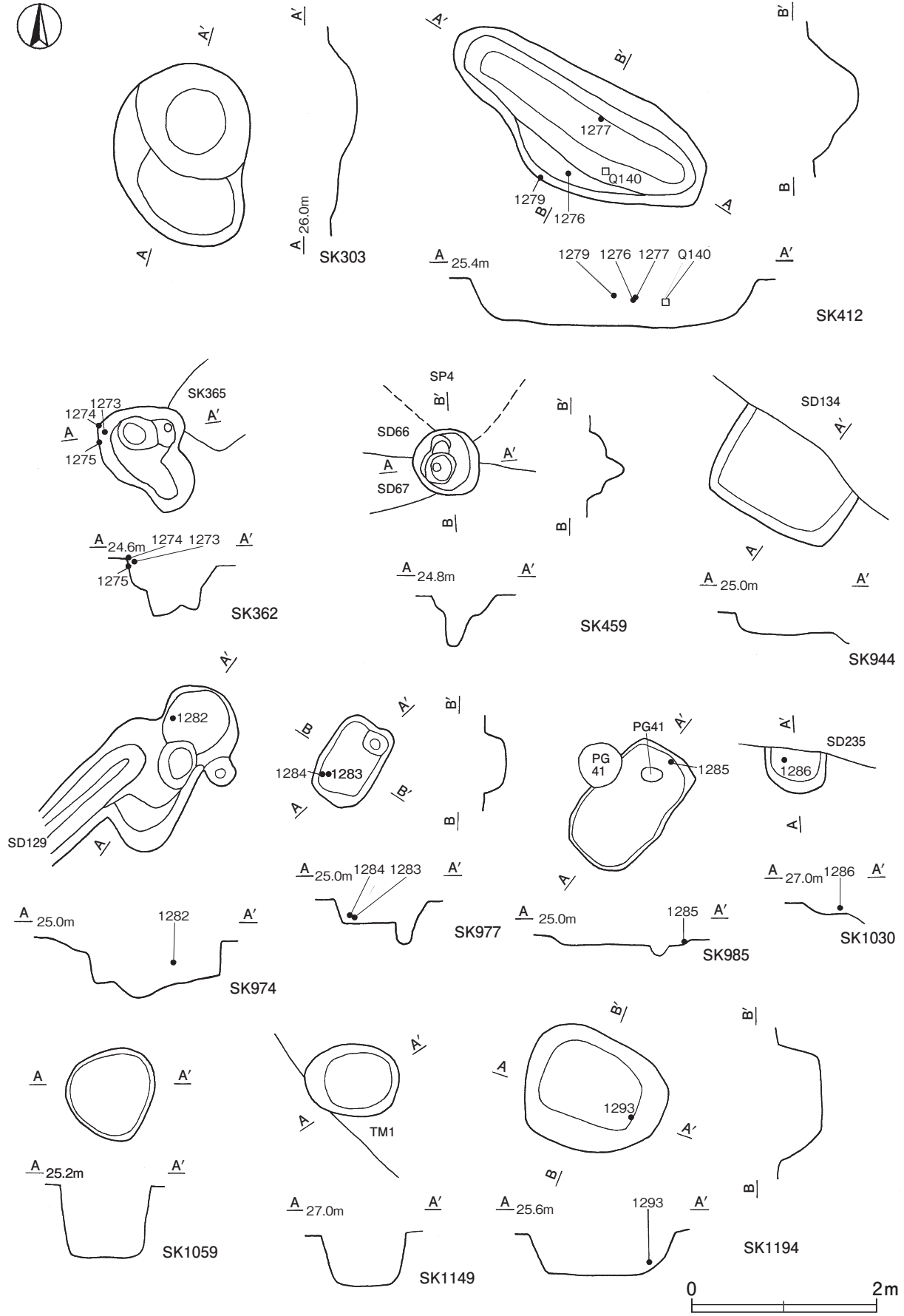
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|------|-----|-----|---------------|------|----|--|---------|-----|
| 1266 | 土師質土器 | 皿 | 10.7 | 3.3 | 6.9 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底ナデ 全面に熱を受けている | P 2 覆土中 | 70% |

表29 火葬土坑一覧表

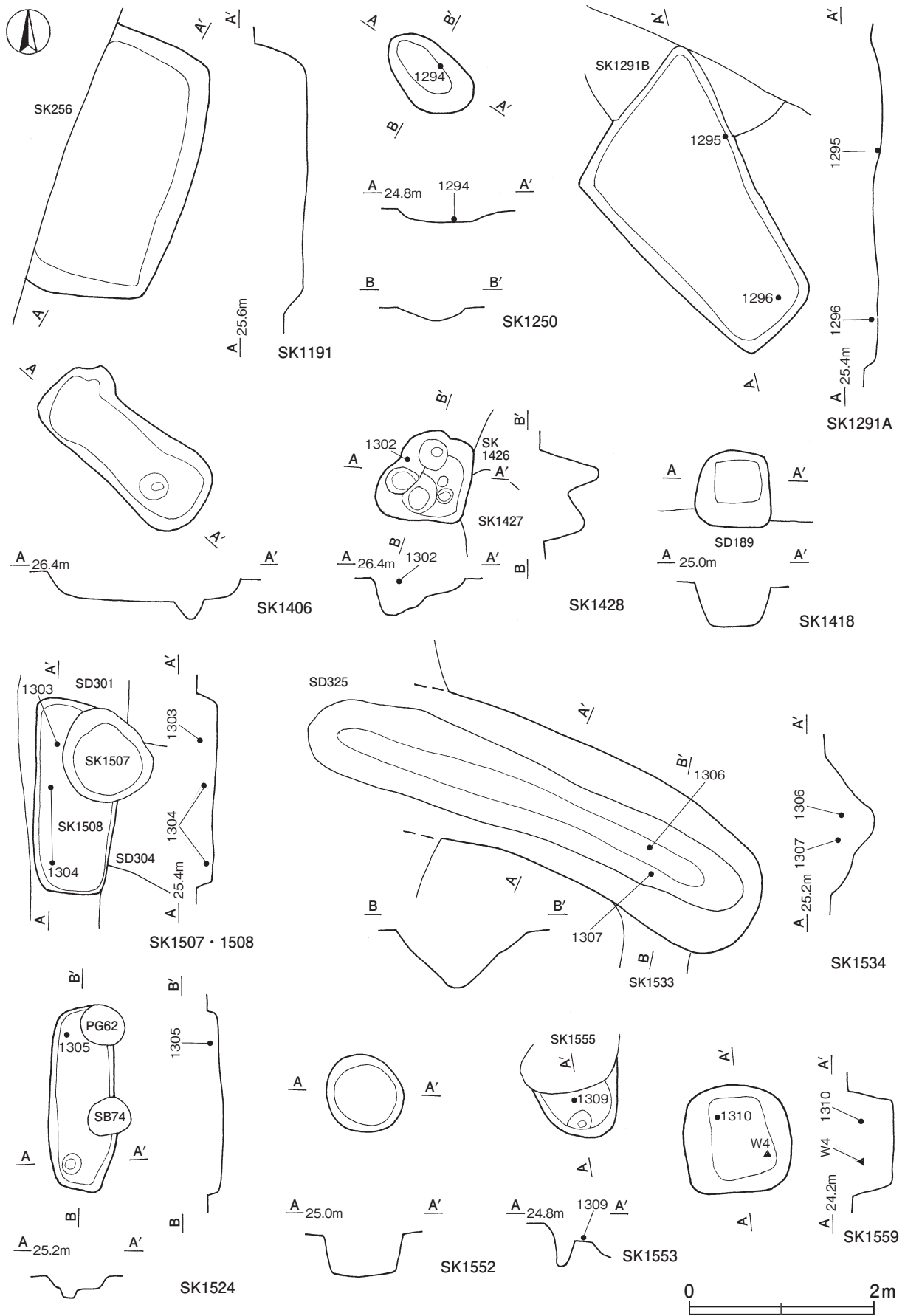
| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) | | | | | | | | 覆土 | 主な出土遺物及び人骨の有無 | | 備考 (新旧関係 旧→新) |
|----|--------|---------|-----|-------------|--------|-------|----|---------------|--------|-------|----|----|---------------|-----|------------------|
| | | | | 開口部 (m) | | | | 燃焼部 (m) | | | | | | | |
| | | | | 長軸(径)×短軸(径) | 深さ(cm) | 平面形 | 底面 | 長軸(径)×短軸(径) | 深さ(cm) | 平面形 | 底面 | | | | |
| 1 | L 4 d3 | N-40°-W | T字形 | 0.96 × 0.78 | 19 | 隅丸長方形 | 皿状 | 0.74 × 0.34 | 14~20 | 隅丸長方形 | 凹状 | 人為 | — | 人骨有 | PG4・5域 |
| 2 | M 4 c9 | N-33°-E | T字形 | 1.18 × 0.69 | 31~43 | 隅丸長方形 | 平坦 | 1.30 × 0.73 | 11 | 隅丸長方形 | 凹状 | 人為 | — | 人骨有 | PG6域 |
| 3 | M 4 b9 | N-58°-W | T字形 | 0.77 × 0.46 | 18 | 隅丸長方形 | 平坦 | 1.30 × 0.66 | 14~23 | 楕円形 | 皿状 | 人為 | — | 人骨有 | 本跡→PG6 |
| 4 | M 5 b1 | N-47°-E | T字形 | 1.30 × 0.48 | 6 | 楕円形 | 緩斜 | 0.76 × (0.40) | 21 | 楕円形 | 凹状 | 人為 | — | 人骨有 | |
| 5 | L 4 c8 | N-44°-E | T字形 | 0.75 × 0.73 | 7 | 円形 | 緩斜 | 0.65 × 0.35 | 16 | 楕円形 | 緩斜 | 人為 | — | 人骨無 | |
| 6 | L 5 f3 | N-41°-W | T字形 | 1.16 × 0.65 | 11 | 隅丸長方形 | 緩斜 | 0.52 × 0.35 | 17 | 隅丸長方形 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 人骨有 | PG14域 |

(13) 土坑（第553～558図，付図）

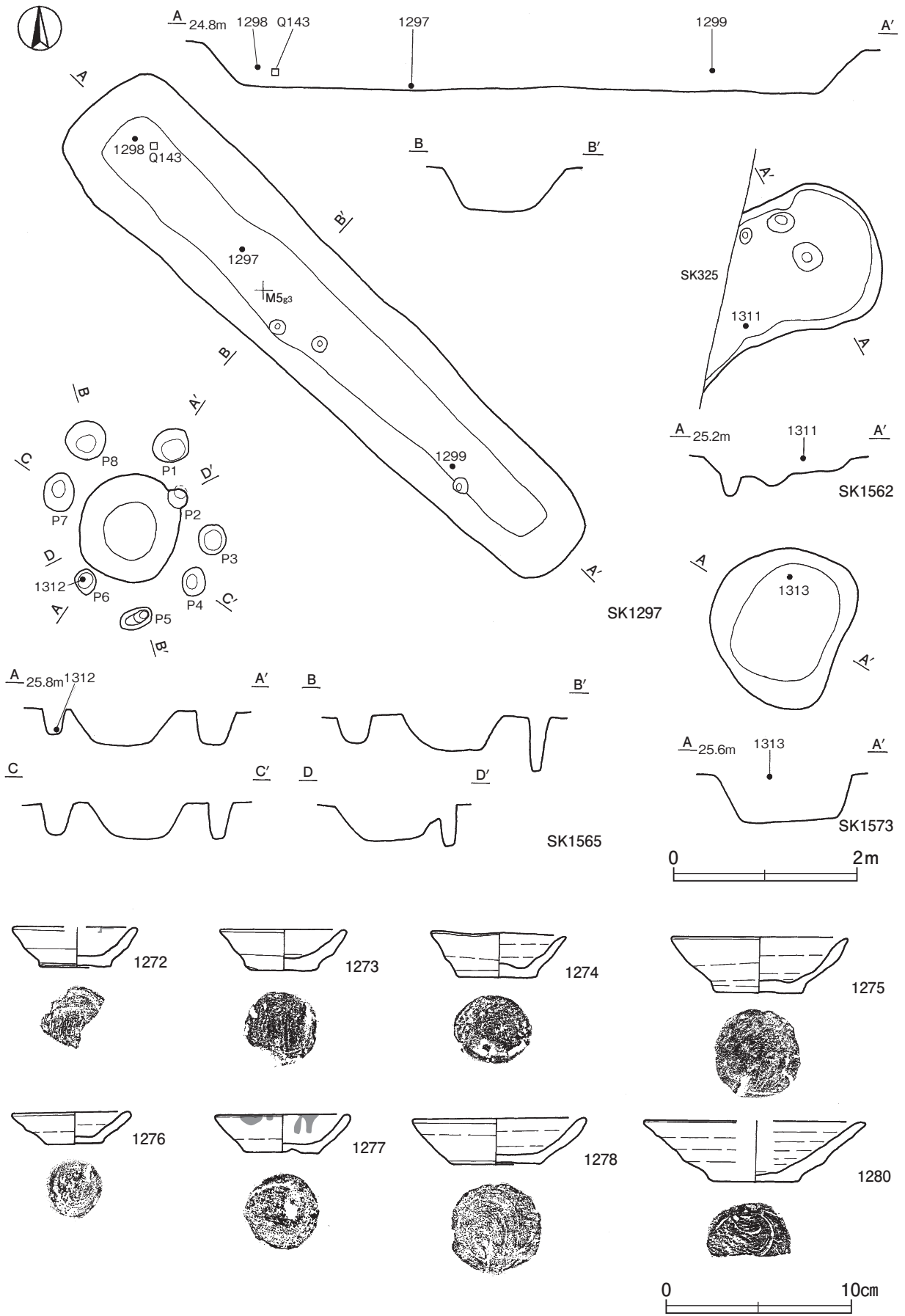
中世と考えられる土坑は、110基が確認されている。ここでは、それらの中で遺物を取り上げた土坑について、実測図と遺物及び出土遺物観察表を掲載した。その他は、全測図と一覧表で紹介した。



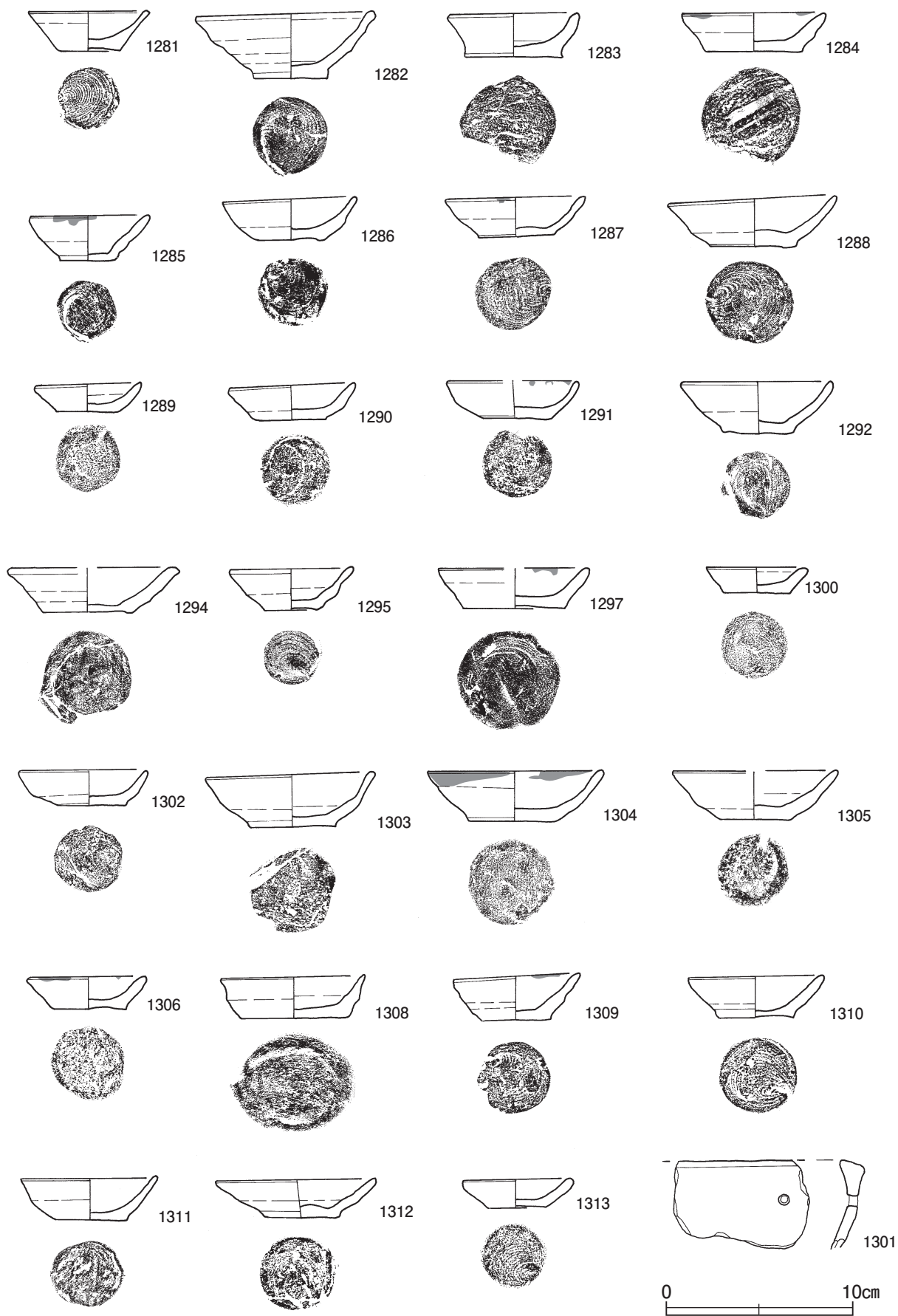
第553图 土坑实测图(1)



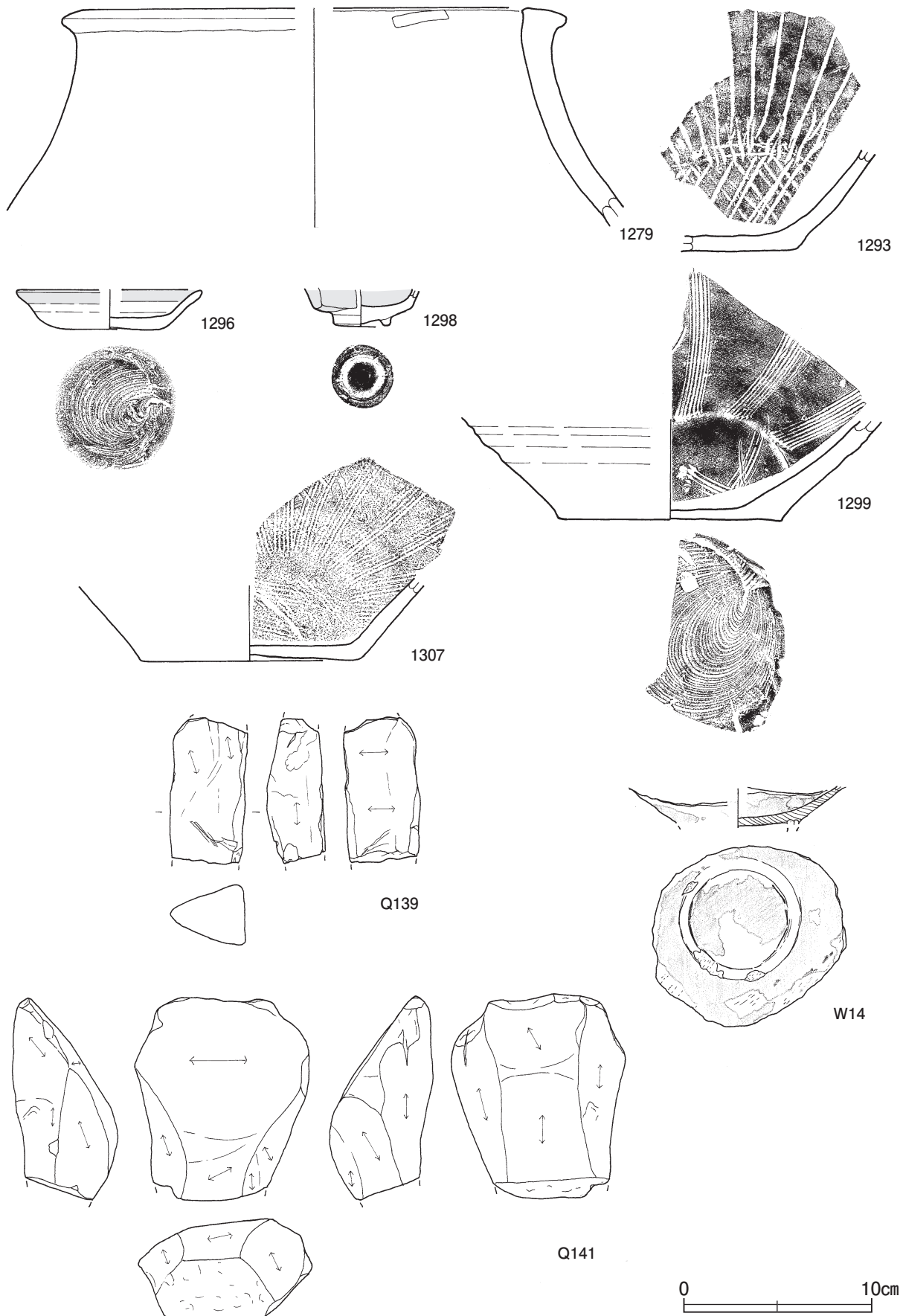
第554图 土坑实测图(2)



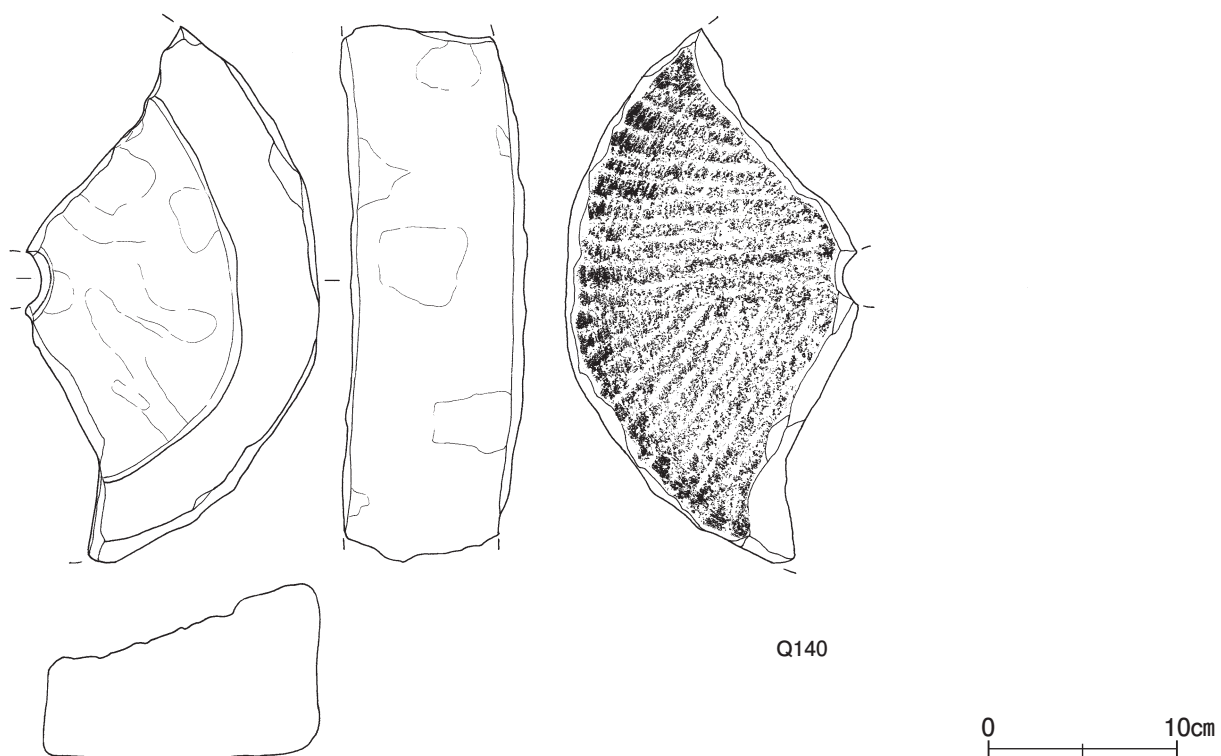
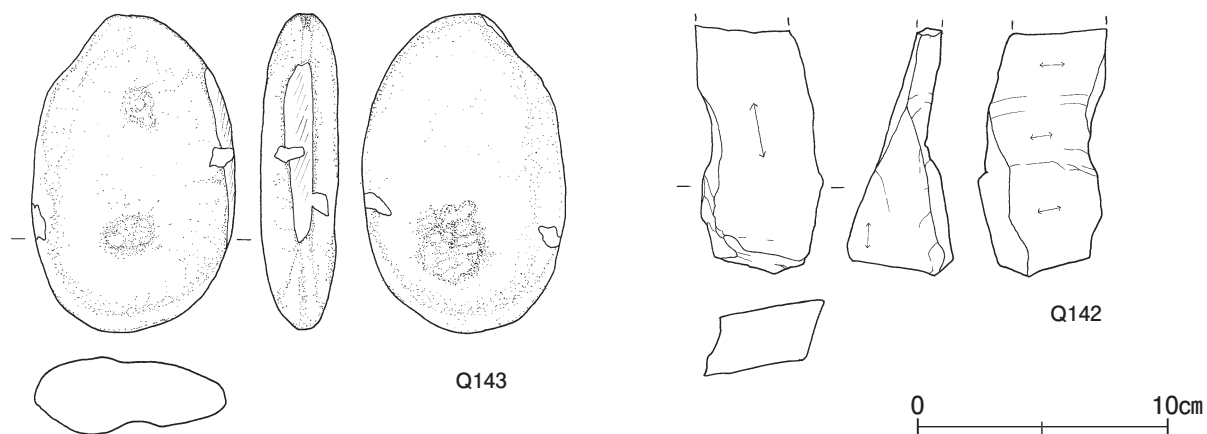
第555图 土坑·出土遗物实测图



第556图 土坑出土遺物実測図(1)



第557图 土坑出土遗物实测图(2)



第558図 土坑出土遺物実測図(3)

第303号土坑出土遺物観察表 (第555・557図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-------|-------|-----|-------|---------|------|-------|------------------------|------|------------|
| 1272 | 土師質土器 | 皿 | [6.5] | 2.2 | [3.8] | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土中 | 30%口唇部油煙付着 |
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | | | 出土位置 | 備考 |
| Q139 | 砥石 | (7.8) | 4.2 | 3.1 | (105) | 凝灰岩 | 端部破片 | 断面三角形 | 砥面3面 擦痕有り | 覆土中 | |

第362号土坑出土遺物観察表 (第555図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|-----------------|-------|----|---------------------------|------|------------------|
| 1273 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.3 | 3.8 | 石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土上層 | 90% |
| 1274 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 2.5 | 4.2 | 長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土上層 | 100% PL111成形にゆがみ |
| 1275 | 土師質土器 | 皿 | 9.6 | 3.1 | 4.8 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転条切り後ナデ | 覆土上層 | 100% |

第412号土坑出土遺物観察表（第555・557・558図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|--------|-----|---------------|-------|----|------------------------|-------|--------------|
| 1276 | 土師質土器 | 皿 | 6.5 | 1.8 | 3.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 100% |
| 1277 | 土師質土器 | 皿 | 7.5 | 2.2 | 4.1 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 100% 口辺部油煙付着 |
| 1278 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 2.6 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中中層 | 100% PL111 |
| 1279 | 土師質土器 | 甕 | [27.1] | (11.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内・外面丁寧な横ナデ | 覆土中層 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔径 | 高さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|--------|--------|-------|-----|----------|-----|-------------|------|----|
| Q140 | 石白(上白) | [29.8] | [3.0] | 9.7 | (4665.7) | 安山岩 | 12条1単位の播り目カ | 覆土中層 | |

第459号土坑出土遺物観察表（第555図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-----|-----|---------------|----|----|------------------------|------|-----|
| 1280 | 土師質土器 | 皿 | [12.2] | 3.3 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 20% |

第944号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|------------|-------|----|---------------------------|------|-----|
| 1281 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 2.2 | 3.3 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 95% |

第974号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|------------|------|----|------------------------|------|------------|
| 1282 | 土師質土器 | 皿 | 9.4 | 3.7 | 4.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 100% PL111 |

第977号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|------------|----|----|---------------------------|------|-------------|
| 1283 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.4 | 5.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 70% 成形にゆがみ |
| 1284 | 土師質土器 | 皿 | 7.6 | 2.1 | 5.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 70% 口唇部油煙付着 |

第985号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|-----|----|---------------------------|------|-------------|
| 1285 | 土師質土器 | 皿 | 6.4 | 2.4 | 3.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 底面 | 95% 口唇部油煙付着 |

第1030号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|------|----|------------------------|------|-------------|
| 1286 | 土師質土器 | 皿 | 7.1 | 2.3 | 3.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土下層 | 100% 成形にゆがみ |

第1059号土坑出土遺物観察表（第557図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-----|-----|---------|----|-----------|------|----|
| Q141 | 砥石 | (10.8) | 9.3 | 5.7 | (571.0) | 砂岩 | 端部破片 砥面8面 | 覆土中 | |

第1149号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|----|----|----------------------------------|------|-------------|
| 1287 | 土師質土器 | 皿 | 7.4 | 2.1 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 100%口唇部油煙付着 |
| 1288 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 2.8 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 成形にゆがみ | 覆土中 | 90% |

第1191号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|---------------|-----|----|---------------------------|------|------------|
| 1289 | 土師質土器 | 皿 | 5.7 | 1.6 | 3.3 | 長石・石英・赤色粒子 | 明褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 80% |
| 1290 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.0 | 3.6 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 100% |
| 1291 | 土師質土器 | 皿 | [7.0] | 2.1 | 3.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 70%口唇部油煙付着 |

第1194号土坑出土遺物観察表（第556～558図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|----|----|------------------------|------|-----|
| 1292 | 土師質土器 | 皿 | 8.0 | 2.9 | 3.8 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 90% |
| 1293 | 土師質土器 | 播鉢 | — | 5.1 | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 1条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土下層 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|---------|-----|-----------|------|----|
| Q142 | 砥石 | (9.9) | 5.1 | 4.3 | (162.5) | 凝灰岩 | 端部破片 砥面4面 | 覆土中 | |

第1250号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|---------------|----|----|------------------------|------|-----|
| 1294 | 土師質土器 | 皿 | [8.7] | 2.4 | 4.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 50% |

第1291A号土坑出土遺物観察表（第556・557図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|------|-------|-----|-----|------------|-----------|----|--------------------------|------|-----------|
| 1295 | 土師質土器 | 皿 | 6.6 | 2.2 | 3.0 | 長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 底面 | 70% |
| 1296 | 陶器 | 緑釉丸皿 | [9.8] | 2.2 | 5.8 | 精良 緑釉 | 暗灰黄・暗オリーブ | 良好 | 底部回転糸切り 口縁部に釉掛 見込と底面に墨付着 | 覆土下層 | 50%瀬戸・美濃系 |

第1297号土坑出土遺物観察表（第556～558図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|-------|-------|------|------------|-------|----|----------------------------------|------|------------|
| 1297 | 土師質土器 | 皿 | [8.1] | 2.2 | 5.5 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 70%口唇部油煙付着 |
| 1298 | 陶器 | 小杯カ | — | (2.1) | 2.9 | 精良 透明釉 | 灰白・淡黄 | 良好 | 削りだし高台 内・外面施釉 体部下位8面に面取 | 覆土中層 | 30%瀬戸・美濃系 |
| 1299 | 陶器 | 播鉢 | — | (5.4) | 12.0 | 精良 長石 | 橙 | 良好 | 底部回転糸切り 7条1単位の播り目 外面にロクロ目 下端に指頭痕 | 覆土中層 | 30%瀬戸・美濃系カ |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|------|-----|-----|-------|-----|-----------------|------|----|
| Q143 | 凹石 | 12.6 | 8.1 | 3.1 | 433.8 | 安山岩 | 一部欠損 両面に凹 側面に磨面 | 覆土中層 | |

第1406号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 1300 | 土師質土器 | 皿 | 5.4 | 1.4 | 3.6 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 90% |

第1418号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|------|--------|-------|----|----------|----|----|---------------------|------|----|
| 1301 | 土師質土器 | 内耳鍋カ | [34.0] | (4.8) | — | 長石・石英・雲母 | 褐 | 普通 | 体部内・外面ナデ 外面からの穿孔1か所 | 覆土中 | |

第1428号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|-----|----|---------------------------|------|------|
| 1302 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.0 | 3.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 100% |

第1508号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|----|----|---------------------------|------|-------------|
| 1303 | 土師質土器 | 皿 | 9.0 | 2.9 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 90% |
| 1304 | 土師質土器 | 皿 | 9.3 | 2.7 | 4.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 70% 口辺部油煙付着 |

第1524号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|---------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 1305 | 土師質土器 | 皿 | [8.9] | 2.7 | 3.9 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 70% |

第1534号土坑出土遺物観察表（第556・557図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-------|------|---------------|----|----|---------------------------|------|-------------|
| 1306 | 土師質土器 | 皿 | 6.3 | 1.8 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中層 | 95% 口唇部油煙付着 |
| 1307 | 土師質土器 | 播鉢 | — | (4.5) | 11.7 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 4条1単位の播り目 外面ナデ | 覆土中層 | 30% |

第1552号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|----|----|---------------------------|------|------------|
| 1308 | 土師質土器 | 皿 | 7.7 | 2.3 | 5.8 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土中 | 60% 成形にゆがみ |

第1553号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|------------|------|----|---------------------------|------|-------------|
| 1309 | 土師質土器 | 皿 | 6.7 | 2.5 | 3.7 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土下層 | 70% 口唇部油煙付着 |

第1559号土坑出土遺物観察表（第556・557図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------|------|----|------------------------|------|------|
| 1310 | 土師質土器 | 皿 | 7.2 | 2.3 | 4.0 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 100% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 材質 | 特徴 | | | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|----|----|-------|----|-----|----------|--------------------|---------------------|------|----|
| W14 | 漆器 | 椀 | — | (2.1) | — | ブナ材 | 横木取り文様痕カ | 削りだし高台内面黒漆塗布後朱漆を塗布 | 高台部欠損 外面黒漆に朱漆の剥落面あり | 覆土中層 | |

第1562号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|----------------|-----|----|------------------------------|------|-----|
| 1311 | 土師質土器 | 皿 | 7.3 | 2.3 | 4.0 | 長石・石英・赤色 粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | 覆土上層 | 90% |

第1565号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|---------------------|----|----|------------------------------|----------|----------------|
| 1312 | 土師質土器 | 皿 | 8.6 | 2.2 | 3.7 | 長石・石英・赤色 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ | P 6 覆土下層 | 60% 成形に ゆがみ |

第1573号土坑出土遺物観察表（第556図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|----------------|----|----|---------------------------|------|-----|
| 1313 | 土師質土器 | 皿 | 5.8 | 1.6 | 3.2 | 長石・石英・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り | 覆土上層 | 95% |

表30 中世土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|-----|--------|-------------|-------|-----------------|-------|-------|----|----|----------------|-----------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 6 | K 4 c2 | N-15°-W | 楕円形 | 1.16 × 0.64 | 40~52 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | |
| 11 | K 3 d9 | N-45°-E | 方形 | 1.08 × 0.76 | 40 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 26 | K 3 h0 | N-52°-W | 長楕円形 | 2.32 × 0.92 | 20 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | 本跡→SK39 |
| 29 | K 3 c8 | N-49°-W | 楕円形 | 1.60 × 1.44 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 31 | K 4 a1 | N-44°-W | 円形 | 0.64 × 0.62 | 54 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 33 | K 3 a0 | N-2°-E | 楕円形 | 1.20 × 0.96 | 72 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK34 |
| 35 | K 4 i1 | N-48°-W | 楕円形 | 1.52 × 1.00 | 16 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | |
| 75 | K 3 h9 | N-36°-W | 不定形 | 1.92 × 1.50 | 75 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SD8・SK104→本跡 |
| 76 | K 4 d2 | N-68°-E | 不定形 | 1.55 × 1.08 | 57~78 | 緩斜・外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | SD6→本跡 |
| 77 | K 3 h9 | N-25°-E | [不定形] | (1.47) × (1.02) | 33 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 剥片 | 本跡→SK104 |
| 104 | K 3 h9 | N-62°-W | 不定形 | (3.50) × 2.90 | 75 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SD8・77→本跡→SK75 |
| 300 | J 5 d0 | N-0° | 不定形 | 1.45 × 1.35 | 17 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 砥石 | SD20→本跡 |
| 301 | J 5 e0 | N-21°-W | 不整形 | 1.81 × 1.70 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 土師器 | SD20→本跡 |
| 302 | J 5 c9 | N-76°-E | 楕円形 | 0.86 × 0.78 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG11域 |
| 303 | J 5 c9 | N-7°-E | 不整楕円形 | 1.98 × 1.49 | 29 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 土師器, 砥石 | |
| 308 | J 5 b0 | N-19°-W | 不整楕円形 | 1.28 × 1.03 | 14 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 鉄滓 | SD20→本跡 PG11域 |
| 310 | J 5 f0 | N-25°-W | 不整楕円形 | 2.72 × 2.60 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 砥石 | SD20→本跡 |
| 314 | J 5 b9 | N-25°-W | 不整楕円形 | 1.46 × 1.21 | 27 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG11域 |
| 362 | M 4 b0 | N-42°-W | 不定形 | 1.22 × 0.98 | 56 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK365→本跡 |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|---------|-------------|---------|---------------|-------|-----------|----|----|----------------|-------------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 412 | J 5 j7 | N-57°-W | 楕円形 | 3.09 × 1.28 | 51 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 石白 | |
| 431 | J 5 e2 | N-85°-W | 隅丸長方形 | 1.25 × 0.89 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 焼土・炭化粒子 | |
| 459 | L 5 b1 | N-0° | 円形 | 0.75 × 0.70 | 56 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SP4→SD66・67→本跡 |
| 461 | L 5 b6 | N-33°-W | 円形 | 1.14 × 1.06 | 175 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 礫(雲母片岩) | |
| 682 | G 10 i6 | N-24°-W | 楕円形 | 1.60 × 0.94 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SB34→本跡 |
| 712 | G 9 f4 | N-5°-E | 円形 | 0.64 × 0.63 | 54 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK713→本跡 |
| 920 | L 6 j3 | N-25°-E | 楕円形 | 1.20 × 1.00 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 礫 | |
| 941 | M 5 f8 | N-54°-W | 楕円形 | 0.89 × (0.70) | 22 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK942 PG55域 |
| 942 | M 5 f8 | N-52°-W | 楕円形 | 0.84 × 0.74 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK941→本跡 PG55域 |
| 944 | M 5 g5 | N-54°-W | [隅丸長方形] | 1.56 × (1.04) | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SD134 |
| 945 | M 5 e3 | N-55°-W | [楕円形] | 0.48 × (0.16) | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SD134 PG43域 |
| 952 | M 5 f2 | N-44°-E | 楕円形 | 0.89 × 0.76 | 20 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG42域 |
| 954 | M 5 h3 | N-11°-W | 楕円形 | 0.66 × 0.46 | 50 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | PG42域 |
| 958 | M 5 f7 | N-16°-W | 不定形 | 0.90 × 0.65 | 57 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK960→本跡 PG55域 |
| 960 | M 5 f7 | N-42°-E | 不定形 | 1.12 × 0.88 | 62 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK958 PG55域 |
| 967 | M 5 f5 | N-62°-W | 不定形 | 1.20 × 1.15 | 45 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | PG55域 |
| 968 | M 5 f6 | 不明 | 不整楕円形 | 1.07 × 0.94 | 63 | 垂直 | 皿状 | 人為 | 礫 | PG55域 |
| 973 | M 5 a8 | N-40°-E | 長楕円形 | 1.03 × 0.57 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG45域 |
| 974 | M 5 a8 | N-39°-E | 不定形 | 1.90 × 1.06 | 62 | 垂直 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | 本跡・SD129 PG45域 |
| 976 | M 5 h5 | N-51°-W | 不定形 | 1.74 × 1.26 | 34・64 | 緩斜・ 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | |
| 977 | M 5 h5 | N-34°-E | 隅丸長方形 | 0.96 × 0.65 | 23 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 985 | M 5 j4 | N-34°-E | 隅丸長方形 | 1.51 × 0.92 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→PG41 |
| 989 | M 5 i1 | N-31°-W | 楕円形 | 1.00 × (0.88) | 7 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK1211→本跡→SB24 PG41域 |
| 992 | M 5 j3 | N-45°-E | 長楕円形 | 1.43 × 0.80 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 陶器 | PG41域 |
| 998 | M 5 j3 | N-40°-E | 長楕円形 | 1.67 × 0.96 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | PG41域 |
| 999 | M 5 i1 | N-2°-E | 円形 | 0.74 × 0.70 | 26 | 垂直 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG41域 |
| 1005 | I 5 f9 | N-83°-W | 溝状 | 2.90 × 0.37 | 5 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | 土師質土器 | |
| 1030 | H 7 c2 | N-85°-W | [楕円形] | 0.67 × (0.48) | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SD235 |
| 1044 | G 6 i7 | N-52°-E | 不整楕円形 | 3.03 × 1.55 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1059 | I 7 c2 | N-51°-E | 円形 | 1.00 × 0.95 | 82 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 砥石 | |
| 1064 | H 6 j0 | N-8°-E | 楕円形 | 1.46 × 1.15 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1065 | I 6 a0 | N-80°-W | 長楕円形 | 1.83 × 0.96 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1066 | I 6 a0 | N-28°-E | 楕円形 | 1.04 × 0.78 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 石白 | |
| 1067 | I 6 b0 | N-88°-W | 楕円形 | 1.04 × 0.74 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1068 | I 6 b9 | N-56°-W | 楕円形 | 1.72 × 1.10 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1070 | I 6 b9 | N-16°-E | 楕円形 | 1.27 × 0.85 | 19 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1071 | I 6 c9 | N-66°-W | 楕円形 | 0.99 × 0.88 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1072 | I 6 c9 | N-56°-E | 不整楕円形 | 1.49 × 0.77 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1073 | H 6 d9 | N-68°-W | [長楕円形] | (1.07) × 0.92 | 7・17 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | 本跡→SK1039 PG26域 |
| 1076 | H 7 d6 | N-83°-W | 楕円形 | 0.84 × 0.51 | 29 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | PG28域 |
| 1077 | H 7 d6 | N-17°-E | 隅丸長方形 | 1.71 × 0.89 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1104 PG28域 |
| 1078 | H 7 c7 | N-17°-E | 隅丸長方形 | 1.71 × 0.89 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG28域 |
| 1091 | H 7 e0 | N-70°-W | [楕円形] | (0.90) × 0.73 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1092 |
| 1115 | H 7 f0 | N-21°-E | 隅丸長方形 | 2.87 × 1.34 | 29 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1120 | G 8 g4 | N-21°-E | 隅丸長方形 | 1.77 × 1.08 | 22 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 礫 | |
| 1122 | H 8 a1 | N-58°-E | 楕円形 | 1.07 × 0.92 | 41 | 外傾・ 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | TM1→本跡 |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|-------|--------|-------------|---------|---------------|-------|-------|------|-----|-----------------------|--------------------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 1128 | H 7 b0 | N-20°-W | 楕円形 | 0.40 × 0.36 | 54 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | TM1・SD229(A)・SK1129 →本跡 |
| 1129 | H 7 b0 | N-72°-W | 隅丸長方形 | 1.50 × 0.57 | 11 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | TM1・SD229(A)→本跡→ SK1128 |
| 1136 | H 7 a0 | N-82°-W | 隅丸長方形 | 1.89 × 1.63 | 82 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | TM1・UPI3→本跡 |
| 1149 | H 7 c9 | N-81°-E | 楕円形 | 1.00 × 0.78 | 58 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | TM1→本跡 |
| 1178 | H 7 f6 | N-3°-E | [楕円形] | (0.75) × 0.72 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1179 PG28域 |
| 1180 | H 7 f6 | N-23°-E | [楕円形] | (0.54) × 0.54 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1179 PG28域 |
| 1184 | H 7 g5 | N-12°-E | 不定形 | 1.93 × 1.10 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | PG27域 |
| 1190 | H 7 f7 | N-69°-E | 長楕円形 | 2.06 × 1.03 | 34 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG28域 |
| 1191 | H 7 f7 | N-18°-E | [長楕円形] | 2.83 × (1.40) | 50 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 天目茶碗 | 本跡→SK256 |
| 1194 | I 7 a3 | N-65°-W | 楕円形 | 1.57 × 1.27 | 46 | 外傾 | 平坦 | 人為カ | 土師質土器, 砥石 | |
| 1195 | G 8 h7 | N-37°-W | 楕円形 | 1.11 × 1.02 | 114 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SI131→本跡 |
| 1211 | M 5 i1 | N-47°-E | 不定形 | 1.89 × 1.27 | 26 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 碟 | SK1212→本跡→ SK989・SB24 PG41域 |
| 1212 | M 5 i1 | N-32°-W | [長楕円形] | 1.04 × 0.56 | (10) | 緩斜 | [皿状] | 人為 | — | 本跡→SK1211・1213・SB24 PG41域 |
| 1250 | M 5 f2 | N-32°-W | 楕円形 | 1.10 × 0.66 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1291A | M 6 c3 | N-47°-W | 楕円形 | 2.79 × 1.54 | 15 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 本跡→1291B |
| 1297 | M 5 g3 | N-45°-W | 隅丸長方形 | 7.12 × 1.33 | 45 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 凹石 | |
| 1345 | L 5 j5 | N-42°-E | [楕円形] | 0.87 × (0.38) | 45 | 外傾・垂直 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1357 | L 6 g1 | N-25°-E | 楕円形 | 0.98 × 0.80 | — | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1372 | K 7 f3 | N-71°-E | 不定形 | 1.77 × 1.17 | 18 | 緩斜・外傾 | 凸凹 | 人為カ | 土師質土器 | PG50域 |
| 1388 | K 7 c3 | N-7°-E | 不整楕円形 | 1.10 × 0.59 | 31 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG50域 |
| 1406 | H 7 i0 | N-54°-W | 隅丸長方形 | 2.08 × 0.81 | 31 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1418 | I 7 g7 | N-5°-E | 不整形 | 0.84 × 0.79 | 45 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 不明 | 土師質土器 | SD189→本跡 |
| 1428 | H 7 h7 | N-45°-E | 不定形 | 1.00 × 1.95 | 30 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK1426→SK1427→本跡 |
| 1472 | L 6 g8 | N-47°-W | 長方形 | 0.82 × 0.63 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | |
| 1501 | J 6 i6 | N-19°-W | [長楕円形] | (0.85) × 0.77 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | 土師質土器, 陶器 | 本跡→SD303 |
| 1507 | J 6 b3 | N-25°-W | 楕円形 | 1.04 × 0.92 | 26 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器, 瓦片 | SD301・304→SK1508→本跡 |
| 1508 | J 6 b3 | N-0° | 隅丸長方形 | 2.08 × 0.90 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SD301・304→本跡→SK1507 |
| 1509 | J 6 b3 | N-0° | 円形 | 0.98 × 0.92 | 14 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SD304→本跡 |
| 1520 | J 7 i3 | N-0° | [円形] | 1.46 × 1.46 | 20 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | 土師質土器 | SD310→本跡 |
| 1524 | J 6 e8 | N-4°-E | 長楕円形 | 1.98 × 0.70 | 12 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SB74・PG62域 |
| 1529 | I 6 f6 | N-88°-W | 不整楕円形 | 0.71 × 0.45 | (165) | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | 土師質土器 | PG63域 |
| 1533 | I 6 e9 | N-10°-E | 長楕円形カ | (2.50) × 0.70 | 28 | 緩斜 | U字状 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1534 PG64域 |
| 1534 | I 6 e9 | N-69°-W | [長楕円形カ] | (5.22) × 1.40 | 62 | 緩斜 | U字状 | 人為 | 土師質土器, 石臼, 砥石 | SD325・SK1533→本跡 |
| 1542 | K 7 a3 | N-0° | 円形 | 1.10 × 1.09 | 42 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 瓦片 | 本跡→SD317 |
| 1543 | I 7 f4 | N-48°-E | [長方形] | (1.04) × 0.98 | 38 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | SD327→本跡→SD189 |
| 1547 | I 6 c7 | N-4°-E | 円形 | 1.25 × 1.24 | 28 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 碟 | PG64域 |
| 1552 | I 7 d3 | N-38°-W | 楕円形 | 0.91 × 0.82 | 44 | 外傾 | 平坦 | 人為カ | 土師質土器 | |
| 1553 | I 7 e3 | N-25°-W | [楕円形] | 0.90 × (0.55) | 20 | 外傾 | 緩斜 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1555 |
| 1559 | J 6 e2 | N-6°-W | 隅丸長方形 | 1.16 × 1.17 | 50 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為カ | 土師質土器, 漆器, 櫛片カ, 木片 | 本跡→SD300 |
| 1560 | I 7 j3 | N-25°-E | 不定形 | 3.27 × 1.26 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | 土師質土器 | |
| 1562 | J 6 c9 | N-70°-E | [不定形] | (1.75) × 1.47 | 20 | 緩斜 | 緩斜 | 自然カ | 土師質土器, 炭化米 | SD325→本跡 |
| 1563 | I 6 h9 | N-46°-W | [楕円形] | 1.30 × (0.94) | 62 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SD325 |
| 1565 | I 6 j3 | N-29°-E | 円形 | 1.17 × 1.07 | 40 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器 | |
| 1567 | H 7 j4 | N-52°-E | 不整楕円形 | 1.27 × 1.06 | 38 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG67域 |
| 1573 | I 7 a2 | N-25°-E | 不整楕円形 | 1.72 × 1.48 | 55 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為カ | 土師質土器 | |

(14) 土坑群

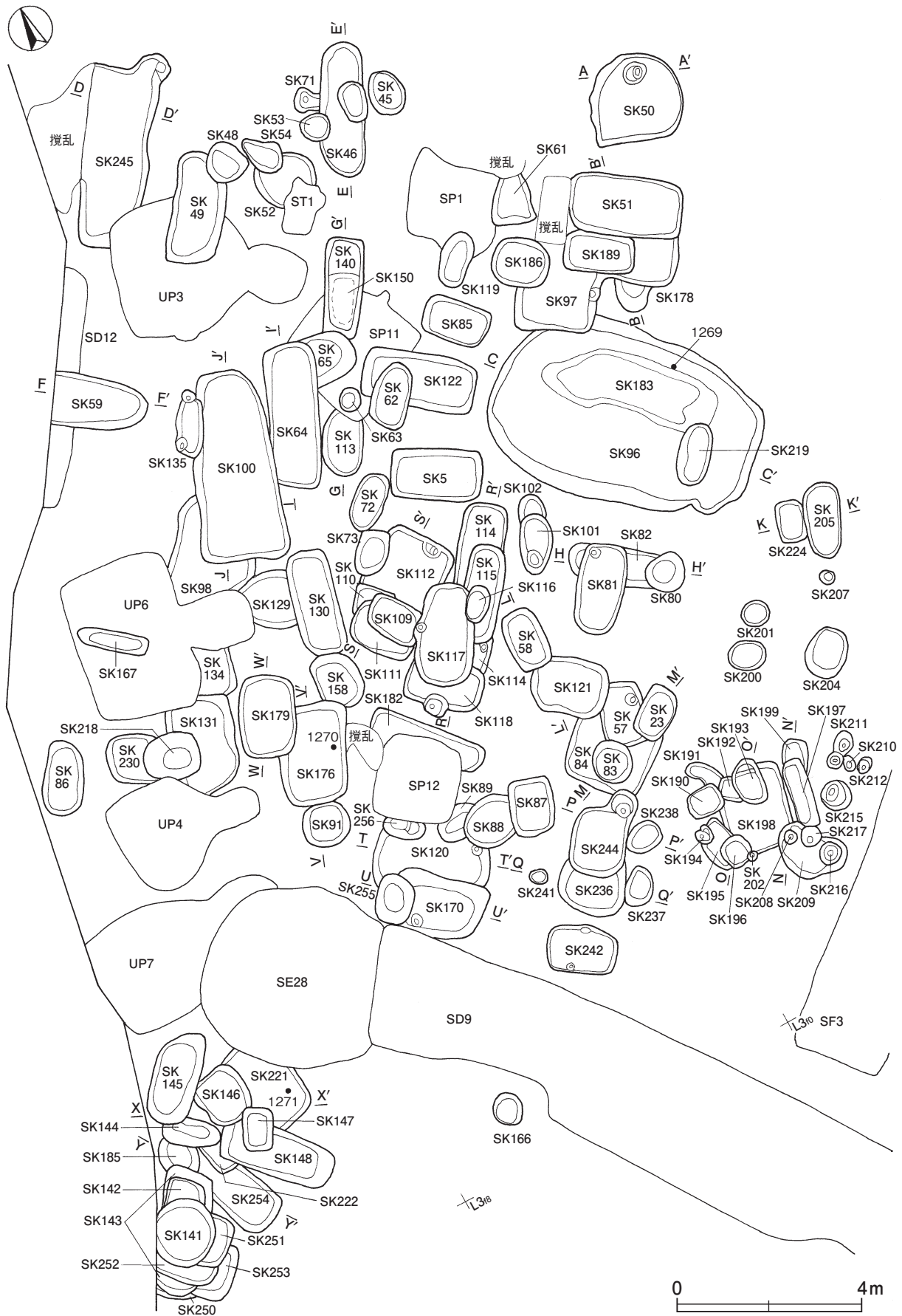
土坑が集中している地点は、3か所確認されている。第1の地点は調査区南部の西側の範囲、第2の地点は中央部の北側第1号墳の墳丘から南側にかけての範囲、第3の地点は調査区南東部の南側である。第3の地点はやや散漫な範囲で確認されており、多くは中世の墓坑と火葬土坑として取り上げて記載されている。ここでは土坑が重複している第1の地点を第1号土坑群、第2の地点の南部を第2号土坑群として説明し、実測図と図示した遺物及び出土遺物観察表、土坑一覧表を記載した。

第1号土坑群（第559～561図）

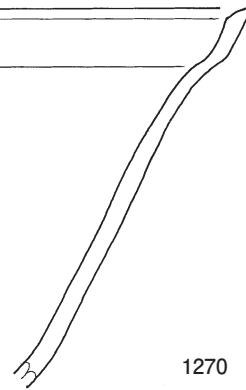
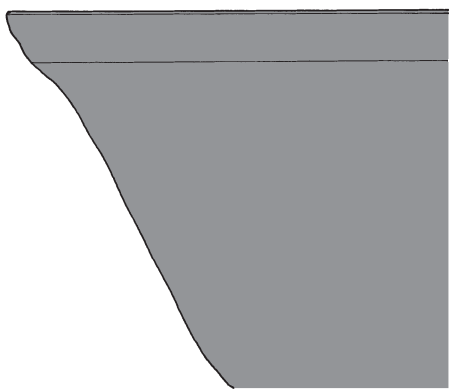
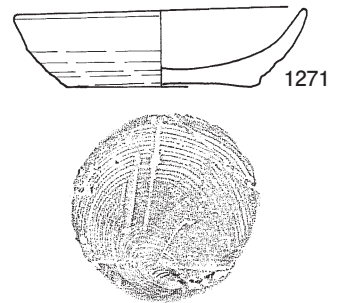
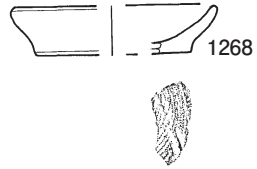
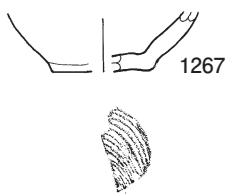
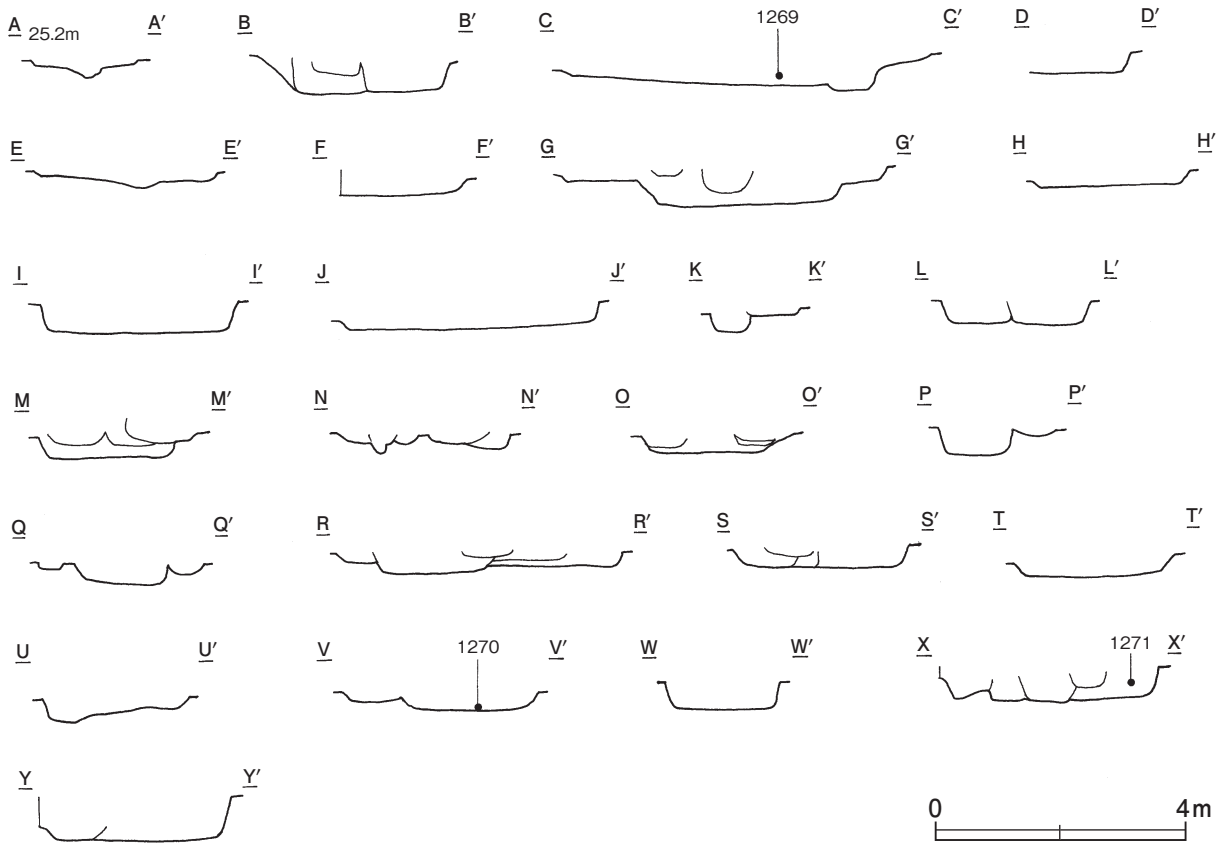
調査区南部の西側K3i6～L4e1区で、標高25～27mの台地上、南部では最も標高の高い緩斜面に位置している。確認されている土坑は124基で、平面形は隅丸長方形または楕円形が中心で、深さは重複関係が激しいため8～77cmと様々である。遺物は34基の土坑から確認されており、土師質土器片68点（皿19, 内耳鍋49）、陶器片7点（皿5, 甕1, 鉢1）、磁器片2点（皿）、石器3点（砥石）、鉄器1点（釘）、銅製品1点（銅）、瓦片1点（近代カ）、縄文土器片4点、土師器片26点、須恵器片9点、礫2点が覆土中から出土している。本群は第3号道路跡と第10・14号溝跡の範囲内にあり、形状と重複状況から中世の墓坑群の類と推測される。時期は、14世紀から15世紀前半と考えられる方形竪穴遺構を掘り込み、16世紀代と考えられる第28号井戸や第9号溝に掘り込まれている重複関係と出土土器から15世紀代と考えられる。

表31 第1号土坑群出土遺物集計表

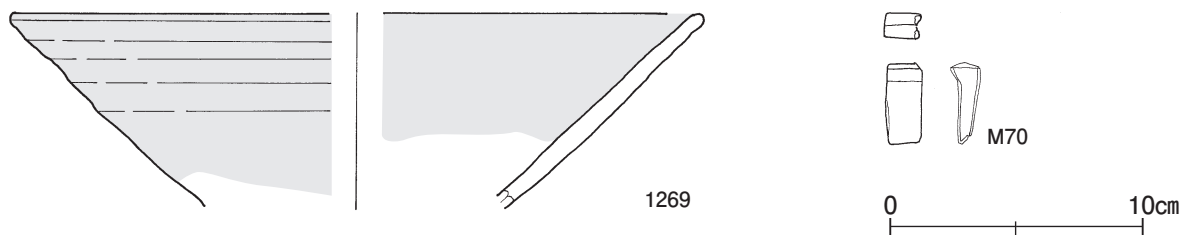
| 土坑 番号 | 土師質土器 | | 陶器 | | | 磁器 | 石製品 | 金属 製品 | 瓦 | 縄文 土器 | 土師器 | 須恵器 | 礫 | 集計 (点) |
|----------|-------|-----|----|---|-----|----|-----|----------|---|----------|-----|-----|---|-----------|
| | 皿 | 内耳鍋 | 皿 | 甕 | 片口鉢 | 皿 | 砥石 | 近代カ | | | | | | |
| 5 | 1 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | 4 |
| 23 | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 4 |
| 45 | 3 | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 46 | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 49 | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 |
| 50 | | | 1 | | | | | | | | 2 | | | 3 |
| 54 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | 2 |
| 57 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 58 | 1 | | | | | | | | | | | 4 | | 5 |
| 64 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 3 |
| 65 | | | | | | | | | | | 5 | | | 5 |
| 82 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 84 | | | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| 87 | | | | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| 88 | 1 | 3 | | | | | 1 | | | | | 1 | | 6 |
| 91 | 2 | | | | | | 1 | 1 | | | 6 | | | 10 |
| 96 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | 1 | | 5 |
| 98 | | 2 | | | | | | | | 1 | 1 | | | 4 |
| 112 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 2 |
| 120 | 1 | 7 | 1 | | | 1 | | | | 1 | | 1 | | 12 |
| 122 | 1 | 4 | | 1 | | | | | | | | | | 6 |
| 141 | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | 4 |
| 142 | | 2 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 144 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| 148 | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 158 | | 3 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | | 6 |
| 167 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 176 | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | 4 |
| 179 | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | 3 |
| 186 | 3 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | 6 |
| 200 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 218 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 221 | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | 4 |
| 224 | | 5 | | | | | | | | | | | | 5 |
| 集計 | 19 | 49 | 5 | 1 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 4 | 26 | 9 | 2 | 124 |



第559图 第1号土坑群实测图



第560图 第1号土坑群·出土遗物实测图



第561図 第1号土坑群出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表（第561図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----------|------|----|
| M70 | 鏝 | 3.2 | 1.3 | 1.0 | 6.4 | 銅 | 一部欠損 緑青付着 | 覆土中 | |

第58号土坑出土遺物観察表（第560図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|----|-------|-------|----------------|-------|----|---------------------|------|-----|
| 1267 | 土師質土器 | 皿 | — | (2.4) | [4.0] | 長石・石英・赤色 粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 30% |

第64号土坑出土遺物観察表（第560図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-------|-------|----|----|-------------------------------|------|-----|
| 1268 | 土師質土器 | 皿 | [8.0] | 1.9 | [6.2] | 長石・石英 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り 後板目状圧痕 | 覆土中 | 20% |

第96号土坑出土遺物観察表（第561図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|----|--------|-------|----|----------|--------------|----|-----------|------|---------|
| 1269 | 陶器 | 鉢カ | [27.3] | (7.7) | — | 精良 長石・灰釉 | 淡黄・ オリーブ黄 | 普通 | 内・外面上位に施釉 | 覆土下層 | 瀬戸・美濃系カ |

第176号土坑出土遺物観察表（第560図）

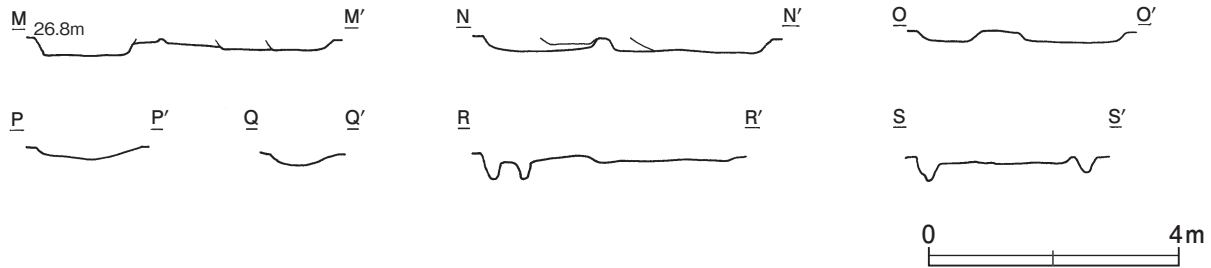
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|--------|----|----------|----|----|--------|------|-----------------|
| 1270 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [37.2] | (15.0) | — | 長石・石英・雲母 | 褐色 | 普通 | 内・外面ナデ | 底面 | 20% 体部外面 煤付着 |

第221号土坑出土遺物観察表（第560図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|------|-----|-----|----------------|----|----|---------------------|------|------|
| 1271 | 土師質土器 | 皿 | 11.5 | 3.2 | 7.6 | 長石・雲母・赤色 粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中層 | 100% |

第2号土坑群（第562・563図）

調査区中央部の北東側H 8 e1～H 8 i3区で、標高27mの台地上に位置している。確認されている土坑は41基で、平面形は隅丸長方形が中心で、深さは4～35cmである。遺物は15基の土坑から確認されており、土師質土器片33点（皿6、内耳鍋27）、縄文土器片19点、土師器片14点、須恵器片4点、礫1点が覆土中から出土している。本群の北側の第1号墳とその周辺には、方形竪穴遺構2基と地下式坑3基が認められるほか、近世の墓坑と現代の墓域も確認されている。本群は、かすみがうら市戸崎中山遺跡や阿見町実穀寺子古墳群など県南部で確認されている古墳周辺に確認された中世墓域の類と推測され、時期は出土土器から15世紀から16世紀にかけてと考えられる。



第563図 第2号土坑群実測図(2)

表33 第1号土坑群一覧表

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|----|--------|-------------|---------|---------------|----|-----------|----|----|--------------|----------------------------|
| | | | | 長径(軸) × 短径(軸) | 深さ | | | | | 遺構番号・新旧関係(古→新 同・同) |
| 5 | L 3 b9 | N-60°-W | 隅丸長方形 | 2.00 × 1.08 | 40 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 23 | L 3 d0 | N-50°-E | 隅丸長方形 | 1.20 × 0.74 | 16 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 鉄製品 | SK57・84→本跡 |
| 45 | K 3 j0 | N-4°-E | 楕円形 | 1.00 × 0.80 | 20 | 外傾 | 凸凹 | 自然 | 土師質土器 | |
| 46 | K 3 j0 | N-26°-E | 長楕円形 | 2.92 × 0.96 | 28 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師器 | SK71→本跡→SK53 |
| 48 | K 3 j9 | N-46°-W | 楕円形 | 1.08 × 0.90 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK49→本跡 |
| 49 | K 3 j9 | N-36°-E | 隅丸長方形 | 2.80 × 1.22 | 32 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 砥石 | UP3→本跡→SK48 |
| 50 | L 4 a1 | N-31°-E | 楕円形 | 2.04 × 1.88 | 12 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 陶器 | |
| 51 | L 4 a1 | N-53°-W | 隅丸長方形 | 2.48 × 1.24 | 58 | 垂直・ 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SK97・189→本跡 |
| 52 | K 3 j9 | N-72°-E | 円形 | 1.28 × 1.24 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK54・ST1 |
| 53 | K 3 j0 | N-20°-W | 楕円形 | 0.66 × 0.58 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SK46→本跡 |
| 54 | K 3 j9 | N-27°-W | 不定形 | 1.04 × 0.70 | 24 | 緩斜 | — | 人為 | 陶器, 磁器 | SK54→本跡 |
| 57 | L 3 d9 | N-27°-E | 隅丸長方形 | 1.24 × 0.94 | 22 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SK84→本跡→SK23・83・ 121 |
| 58 | L 3 c9 | N-0° | 隅丸長方形 | 1.36 × 0.86 | 44 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SK121→本跡 |
| 59 | L 3 a8 | N-52°-W | [楕円形] | (1.96) × 1.12 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SD12→本跡 |
| 61 | L 3 a0 | N-13°-E | [長方形] | [1.12] × 0.96 | 10 | 緩斜 | 平坦 | — | — | SP1→本跡 |
| 62 | L 3 a9 | N-50°-E | 楕円形 | 1.36 × 0.72 | 12 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SP11・SK122→本跡 |
| 63 | L 3 a9 | N-62°-E | 楕円形 | 0.56 × 0.48 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SP11→本跡 |
| 64 | L 3 a9 | N-24°-E | 隅丸長方形 | 3.04 × 1.08 | 58 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | SP11・SK65→本跡→SK100 |
| 65 | L 3 a9 | N-90°-E | 楕円形 | 1.12 × (1.04) | 58 | 外傾 | 平坦 | — | — | SP11・SK140・150→本跡→ SK64 |
| 71 | K 3 j0 | N-53°-W | [楕円形] | (0.60) × 0.32 | 10 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK46 |
| 72 | L 3 b9 | N-50°-E | 楕円形 | 1.28 × 0.72 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK73→本跡 |
| 73 | L 3 b9 | N-48°-E | 楕円形 | 1.02 × 0.72 | 26 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | SK112→本跡→SK72 |
| 80 | L 3 c0 | N-45°-E | 円形 | 0.88 × 0.84 | 34 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SK82→本跡 |
| 81 | L 3 c0 | N-48°-E | 楕円形 | 1.96 × 1.00 | 34 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK82→本跡 |
| 82 | L 3 c0 | N-55°-W | [隅丸長方形] | (2.00) × 0.80 | 32 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK80・81 |
| 83 | L 3 d9 | N-0° | 円形 | 0.88 × 0.84 | 24 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK57・84→本跡 |
| 84 | L 3 d9 | N-50°-W | 隅丸長方形 | 1.88 × 1.52 | 50 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK23・57・83・121・ 244 |
| 85 | L 3 a0 | N-43°-W | 隅丸長方形 | 1.46 × 0.92 | 12 | 外傾 | 平坦 | — | — | |
| 86 | L 3 b7 | N-30°-E | 楕円形 | 1.62 × 0.88 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 87 | L 3 d9 | N-22°-E | 隅丸長方形 | 1.28 × 0.96 | 40 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | SK88→本跡 |
| 88 | L 3 d9 | N-87°-E | 楕円形 | 1.48 × 1.06 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 砥石 | SK89・120→本跡→SK87 |
| 89 | L 3 d8 | N-78°-W | [楕円形] | 1.04 × (0.68) | 44 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK120→本跡→SP12・SK88 |
| 91 | L 3 c8 | N-27°-E | 円形 | 1.04 × 1.00 | 32 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 釘, 砥石 | |
| 96 | L 3 b0 | N-38°-W | 隅丸長方形 | 5.88 × 3.84 | 40 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | SK183→本跡→SK97・219 |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|-----|--------|-------------|---------|-----------------|----|-------|-------|----|---------------|--|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | 遺構番号・新旧関係(古→新 同・同) |
| 97 | L 4 a1 | N-45°-E | 不定形 | 2.18 × 1.12 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK96・178→本跡→SK51・186・189 |
| 98 | L 3 b8 | N-45°-E | [隅丸長方形] | (2.46) × 1.76 | 18 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→UP6・SK100 |
| 100 | L 3 a8 | N-27°-E | 隅丸長方形 | 3.94 × 1.74 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK64・98→本跡→SK135 |
| 101 | L 3 c0 | N-27°-E | 楕円形 | 1.24 × 0.80 | 22 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK102→本跡 |
| 102 | L 3 b0 | N-27°-E | [楕円形] | 0.60 × (0.48) | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK101 |
| 109 | L 3 c9 | N-36°-W | 隅丸長方形 | 1.20 × 0.84 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK110・111・112→本跡→SK117 |
| 110 | L 3 b9 | N-40°-W | [隅丸長方形] | [1.00] × [0.74] | 28 | — | 平坦 | 人為 | — | SK112→本跡→SK109・111 |
| 111 | L 3 c9 | N-35°-W | 隅丸長方形 | 1.48 × (0.96) | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK110→本跡→SK109 |
| 112 | L 3 b9 | N-58°-E | [隅丸長方形] | 1.68 × (1.48) | 24 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 礫 | 本跡→SK73・109・110・117 |
| 113 | L 3 b9 | N-30°-E | 楕円形 | 1.36 × 0.82 | 12 | 外傾 | 平坦 | — | — | 本跡→SP11 |
| 114 | L 3 c9 | N-41°-E | [隅丸長方形] | (3.44) × 0.96 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK115・116・117・118 |
| 115 | L 3 c9 | N-41°-E | 隅丸長方形 | 2.08 × 0.80 | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK114→本跡→SK116・117 |
| 116 | L 3 c9 | N-41°-E | 楕円形 | 0.80 × 0.50 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK114・115・117→本跡 |
| 117 | L 3 c9 | N-31°-E | 隅丸長方形 | 2.24 × 1.28 | 36 | 外傾 | 起伏 | 人為 | — | SK109・112・114・115・118→本跡→SK116 |
| 118 | L 3 c9 | N-45°-E | [隅丸長方形] | 1.72 × (1.04) | 16 | — | 平坦 | 人為 | — | SK114→本跡→SK117 |
| 119 | L 3 a0 | N-40°-E | 楕円形 | 1.08 × 0.60 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SP1→本跡 |
| 120 | L 3 d8 | N-51°-W | 不定形 | 2.52 × (1.10) | 32 | 外傾 | 凸凹 | — | 土師質土器, 陶器, 磁器 | 本跡→SP12・SK88・89・170・171・255・256 |
| 121 | L 3 c9 | N-40°-W | 隅丸長方形 | 1.68 × 1.20 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK57・84→本跡→SK58 |
| 122 | L 3 a9 | N-53°-E | 隅丸長方形 | 2.52 × 1.08 | 60 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 緑釉陶器 | SP11→本跡→SK62 |
| 129 | L 3 b8 | N-23°-E | [楕円形] | 1.20 × [1.04] | 36 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→UP6・SK130 |
| 130 | L 3 b8 | N-17°-E | 隅丸長方形 | 2.32 × 1.00 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK129→本跡→SK158 |
| 131 | L 3 c7 | N-30°-E | 隅丸長方形 | 2.00 × 1.44 | — | — | — | — | — | SK134→本跡→UP4・6, SK218 |
| 134 | L 3 b8 | N-25°-E | [方形] | (0.96) × (0.86) | — | 外傾 | 平坦 | — | — | 本跡→UP6, SK13 |
| 135 | L 3 a8 | N-33°-E | 楕円形 | 1.36 × 0.52 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK100→本跡 |
| 140 | L 3 a9 | N-30°-E | 隅丸長方形 | 2.18 × 0.84 | 26 | 外傾 | 平坦 | — | — | SP11, SK150→本跡→SK65 |
| 141 | L 3 e6 | N-12°-W | 楕円形 | 1.44 × 1.24 | 64 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SK142・143・251・252→本跡 |
| 142 | L 3 e6 | N-40°-E | [隅丸長方形] | (0.68) × 0.60 | 80 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK143→本跡→SK141 |
| 143 | L 3 e6 | N-30°-E | 隅丸長方形 | 2.72 × 1.04 | 80 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK185・250・253・254→本跡→SK141・142・251・252 |
| 144 | L 3 d6 | N-40°-W | 隅丸長方形 | 1.28 × 0.58 | 34 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK185・222・254→本跡→SK145 |
| 145 | L 3 d6 | N-49°-E | 隅丸長方形 | 2.08 × 1.00 | 36 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | SK144・146・222→本跡 |
| 146 | L 3 d7 | N-0° | 隅丸長方形 | 1.20 × 1.00 | 48 | — | 平坦 | 人為 | — | SK148・221・222→本跡→SK145・147 |
| 147 | L 3 e7 | N-28°-E | 隅丸長方形 | 0.96 × 0.68 | 48 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK146・148・221→本跡 |
| 148 | L 3 e7 | N-40°-W | 隅丸長方形 | 2.52 × 1.04 | 48 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 瓦 | SK221・222→本跡→SK146・147 |
| 150 | L 3 a9 | N-30°-E | 隅丸長方形 | 1.22 × 0.62 | 32 | 外傾 | 平坦 | — | — | SP11→本跡→SK65・140 |
| 158 | L 3 c8 | N-8°-E | 楕円形 | 1.24 × 1.00 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器 | SK130→本跡→SK176 |
| 166 | L 3 e8 | N-40°-E | 円形 | 0.68 × 0.68 | 28 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | |
| 167 | L 3 b7 | N-51°-W | 長楕円形 | 1.57 × 0.43 | 25 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | UP6→本跡 |
| 170 | L 3 d8 | N-46°-W | 隅丸長方形 | 2.04 × 1.24 | 20 | 外傾 | 平坦 | — | — | SK120→本跡→SD9・SK255 |
| 176 | L 3 c8 | N-28°-E | 隅丸長方形 | 2.12 × 1.44 | 44 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SK158→本跡→SK179 |
| 178 | L 4 b1 | N-44°-E | 不定形 | 0.88 × (0.59) | 63 | 緩斜 | (V字状) | — | — | 本跡→SK97 |
| 179 | L 3 c8 | N-28°-E | 隅丸長方形 | 1.80 × 1.22 | 44 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 礫 | SK176→本跡 |
| 182 | L 3 c8 | N-48°-W | 隅丸長方形 | 2.60 × 0.68 | 22 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SP12 |
| 183 | L 3 b0 | N-43°-W | 楕円形 | 3.86 × 1.22 | 72 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK96・219 |
| 185 | L 3 e6 | N-29°-E | [楕円形] | (0.84) × 0.80 | 56 | — | 平坦 | 人為 | — | SK254→本跡→SK143・144 |
| 186 | L 3 a0 | N-58°-W | 隅丸長方形 | 1.28 × 1.04 | 25 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK97→本跡 |
| 189 | L 4 a1 | N-50°-W | 隅丸長方形 | 1.48 × 0.80 | 36 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK97→本跡→SK51 |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|-----|--------|-------------|---------|-----------------|-------|----|-----|----|-------|--------------------------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 190 | L 3 d0 | N-90°-E | 隅丸方形 | 1.72 × 0.64 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK191・192・198→本跡 |
| 191 | L 3 d0 | N-31°-W | [楕円形] | (0.84) × 0.40 | 24 | — | 平坦 | — | — | 本跡→SK190・192 |
| 192 | L 3 d0 | N-52°-W | [楕円形] | (0.60) × 0.52 | 24 | 外傾 | 平坦 | — | — | SK191・198→本跡→SK190・193 |
| 193 | L 3 d0 | N-0° | 楕円形 | 1.04 × 0.68 | 16 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SK192・198→本跡 |
| 194 | L 3 d0 | N-0° | 不定形 | 0.44 × 0.40 | 19 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SK195→本跡 |
| 195 | L 3 d0 | N-11°-W | 隅丸方形 | 1.16 × 1.10 | 24 | — | 凸凹 | 自然 | — | SK198→本跡→SK194・196 |
| 196 | L 3 e0 | N-0° | 円形 | 0.76 × 0.70 | 18 | — | 凸凹 | 自然 | — | SK195・198→本跡→SK202 |
| 197 | L 3 d0 | N-10°-E | 隅丸長方形 | 1.48 × 0.50 | 16 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SK199→本跡→SK209・217 |
| 198 | L 3 d0 | N-12°-E | 隅丸長方形 | 1.88 × 1.50 | 28 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | 本跡→SK190・192・193・195・196・202・208・209 |
| 199 | L 3 d0 | N-35°-E | [隅丸長方形] | (0.68) × 0.54 | 26 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | 本跡→SK197 |
| 200 | L 3 d0 | N-50°-E | 楕円形 | 0.80 × 0.60 | 8 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | |
| 201 | L 3 d0 | N-55°-E | 楕円形 | 0.64 × 0.56 | 5 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 202 | L 3 e0 | N-0° | 円形 | 0.26 × 0.24 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK196・198→本跡 |
| 204 | L 4 d1 | N-45°-E | 楕円形 | 1.08 × 0.88 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 205 | L 4 c1 | N-21°-E | 楕円形 | 1.64 × 0.82 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK224→本跡 |
| 207 | L 4 d1 | N-62°-W | 楕円形 | 0.38 × 0.30 | 16 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 208 | L 3 e0 | N-0° | 円形 | 0.32 × 0.32 | 34 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK198・209→本跡 |
| 209 | L 3 e0 | N-40°-W | [楕円形] | 1.60 × (1.04) | 10 | — | 平坦 | 人為 | — | SK197・198→本跡→SK208・216・217 |
| 210 | L 3 d0 | N-0° | 楕円形 | 0.40 × 0.28 | 45 | — | — | — | — | 本跡→SK211 |
| 211 | L 3 d0 | N-61°-E | 不定形 | 0.85 × 0.45 | 77 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | SD210→本跡 |
| 212 | L 4 e1 | N-0° | 円形 | 0.36 × 0.36 | 45 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 215 | L 3 e0 | N-0° | 円形 | 0.70 × 0.70 | 66 | 外傾 | U字状 | 人為 | — | |
| 216 | L 3 e0 | N-55°-E | 楕円形 | 0.52 × 0.45 | 53 | 外傾 | U字状 | 人為 | — | SK209→本跡 |
| 217 | L 3 e0 | N-0° | 円形 | 0.42 × 0.40 | 54 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK197・209→本跡 |
| 218 | L 3 c7 | N-71°-W | 楕円形 | 1.24 × 1.04 | 60 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | SK131・230→本跡→UP4 |
| 219 | L 4 c1 | N-39°-E | 楕円形 | 1.34 × 0.76 | [76] | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK96・183→本跡 |
| 221 | L 3 d7 | N-90°-E | [隅丸長方形] | 2.20 × (1.20) | 58 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SE28, SK146・147・148 |
| 222 | L 3 e6 | N-0° | [隅丸長方形] | 1.52 × (0.70) | 42 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK254→本跡→SK144・145・146・148 |
| 224 | L 4 c1 | N-18°-E | 隅丸長方形 | 0.90 × 0.60 | 34 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK205 |
| 230 | L 3 c7 | N-71°-W | [楕円形] | 1.08 × (0.84) | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK218, UP4 |
| 236 | L 3 d9 | N-52°-E | 隅丸長方形 | 1.58 × 1.40 | 35~48 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK244 |
| 237 | L 3 d9 | N-40°-E | 隅丸長方形 | 0.84 × 0.58 | 19 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 238 | L 3 d9 | N-90°-E | 楕円形 | 0.80 × 0.64 | 9 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 241 | L 3 d9 | N-40°-W | 楕円形 | 0.40 × 0.32 | 10 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 242 | L 3 e9 | N-40°-W | 隅丸長方形 | 1.46 × 1.08 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 244 | L 3 d9 | N-50°-E | 不定形 | 1.84 × 1.20 | 28~60 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK84・236→本跡 |
| 245 | K 3 i9 | N-48°-E | 隅丸長方形 | 4.20 × 1.56 | 40 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | 本跡→UP3 |
| 250 | L 3 e6 | [N-52°-W] | [隅丸長方形] | (0.72) × (0.10) | — | — | — | — | — | 本跡→SK143・253 |
| 251 | L 3 e6 | [N-52°-E] | [隅丸長方形] | 1.12 × (0.34) | — | — | — | — | — | SK143・252・253→本跡→SK141 |
| 252 | L 3 e6 | [N-52°-W] | [隅丸長方形] | (1.26) × (0.44) | — | — | — | — | — | SK143・253→本跡→SK141・251 |
| 253 | L 3 e6 | [N-52°-E] | [隅丸長方形] | (1.30) × (0.70) | — | — | — | — | — | SK250→本跡→SK143・251・252 |
| 254 | L 3 e6 | N-23°-W | 隅丸長方形 | (2.28) × 1.00 | 66 | 外傾 | 平坦 | — | — | 本跡→SK143・144・185・222 |
| 255 | L 3 d8 | N-20°-E | 楕円形 | 1.12 × 0.90 | 36 | 外傾 | 平坦 | — | — | SK120・170, SD9→本跡 |
| 256 | L 3 d8 | N-47°-W | 楕円形 | 0.96 × (0.40) | 72 | 外傾 | 皿状 | — | — | SK120→本跡→SP12 |

表34 第2号土坑群一覽表

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 遺構番号・新旧関係(古→新) |
|------|--------|-------------|---------|-----------------|----|----|----|-----|----------|----------------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 1094 | H 8 e1 | N-15°-E | 隅丸長方形 | 1.70 × 1.14 | 22 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1106 |
| 1095 | H 8 f2 | N-17°-E | 隅丸長方形 | 1.72 × 1.05 | 19 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1096 | H 8 e3 | N-12°-E | 隅丸長方形 | 1.67 × 1.01 | 14 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 | |
| 1097 | H 8 e3 | N-51°-E | 楕円形 | 0.93 × 0.67 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1099 | H 8 e3 | N-4°-W | [隅丸長方形] | (1.26) × 0.84 | 5 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1100 |
| 1100 | H 8 f3 | N-76°-W | 隅丸長方形 | 1.30 × 1.10 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SK1099→本跡 |
| 1101 | H 8 f2 | N-74°-W | [隅丸長方形] | (1.05) × 0.98 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1102 |
| 1102 | H 8 f3 | N-78°-W | 隅丸長方形 | 2.22 × 1.18 | 35 | 緩斜 | 緩斜 | 人為 | 土師質土器 | SK1101・1116・1118→本跡 |
| 1106 | H 8 e1 | N-35°-E | 楕円形 | 1.08 × 1.05 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK1094 |
| 1107 | H 8 g3 | N-72°-W | 不整楕円形 | 1.86 × 1.27 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1108 | H 8 g2 | N-75°-W | 隅丸長方形 | 0.96 × 0.75 | 17 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1109 | H 8 h2 | N-64°-E | 長楕円形 | 1.62 × 0.87 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1110 | H 8 g2 | N-77°-W | 隅丸長方形 | 1.80 × 1.05 | 19 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1111 | H 8 g1 | N-27°-E | 隅丸長方形 | 1.45 × 0.78 | 30 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK1112・1125→本跡 |
| 1112 | H 8 g1 | N-2°-W | [長楕円形] | (1.33) × 0.79 | 4 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1111・1125 |
| 1116 | H 8 f3 | N-3°-E | [楕円形] | (0.99) × 0.98 | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | — | 本跡→SK1102・1118 |
| 1118 | H 8 f3 | N-10°-E | [長楕円形] | 1.30 × (0.67) | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | 本跡→SK1102・1116 |
| 1125 | H 8 g1 | N-24°-E | [楕円形] | 0.92 × (0.58) | 7 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | SK1112→本跡→SK1111 |
| 1159 | H 8 e2 | N-13°-E | 不整長方形 | 2.39 × 0.57 | 9 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1160 | H 8 f1 | N-75°-W | [隅丸長方形] | (1.80) × 1.02 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1161 |
| 1161 | H 8 f1 | N-13°-E | 隅丸長方形 | 1.65 × 0.89 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK1160→本跡 |
| 1162 | H 8 f1 | N-70°-W | 隅丸長方形 | 1.56 × 1.01 | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK1163→本跡 |
| 1163 | H 8 f1 | N-15°-E | 隅丸長方形 | 1.05 × 0.65 | 17 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1162 |
| 1164 | H 8 e1 | N-89°-W | 長楕円形 | 0.98 × 0.63 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1165 | H 8 f1 | N-13°-E | [隅丸長方形] | 2.80 × 1.27 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK1176→本跡→SK1166・1167 |
| 1166 | H 8 f1 | N-84°-E | 隅丸長方形 | 2.27 × 0.83 | 22 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK1165・1167→本跡→SK1169 |
| 1167 | H 8 f1 | N-6°-E | [隅丸長方形] | (2.10) × (0.78) | 17 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK1165・1176→本跡→SK1166・1169 |
| 1168 | H 8 e1 | N-11°-E | [隅丸長方形] | 1.34 × (0.64) | 7 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1169 |
| 1169 | H 8 e2 | N-4°-E | 隅丸長方形 | 5.18 × 1.11 | 21 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK1166・1167・1168・1170→本跡 |
| 1170 | H 8 e1 | N-10°-E | 隅丸長方形 | 1.69 × 1.45 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | 土師質土器 | 本跡→SK1169 |
| 1171 | H 8 e2 | N-15°-E | 隅丸長方形 | 1.32 × 1.04 | 11 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1176 | H 8 f1 | N-6°-E | [隅丸長方形] | (1.45) × 0.64 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1403 | H 8 i2 | N-64°-W | 隅丸長方形 | 1.23 × 0.94 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1404 | H 8 i2 | N-68°-W | 隅丸長方形 | 0.98 × 0.95 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | 本跡→SK1405 |
| 1405 | H 8 i3 | N-66°-W | 不整長方形 | 2.30 × 1.10 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | 土師質土器, 礫 | |
| 1422 | H 8 h3 | N-25°-E | 楕円形 | 1.26 × 1.05 | 19 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1429 | H 8 f2 | N-44°-E | 円形 | 0.48 × 0.45 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1430 | H 8 f2 | N-5°-E | [楕円形] | 0.44 × (0.38) | 12 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK1444 |
| 1444 | H 8 g2 | N-86°-E | 隅丸長方形 | 1.61 × 0.88 | 23 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1445 | H 8 g2 | N-2°-E | 隅丸長方形 | 1.58 × 0.79 | 17 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK1445→本跡 |
| 1446 | H 8 g2 | N-82°-W | [隅丸長方形] | (1.32) × 0.72 | 19 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1445 |

8 近世の遺構と遺物

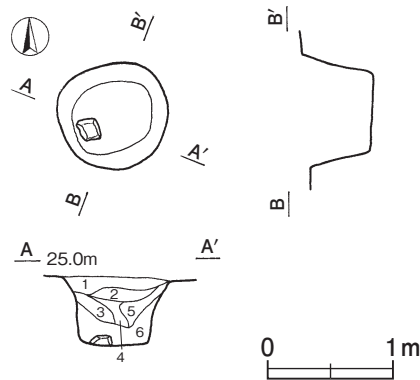
近世の遺構は、墓坑20基が確認されている。

墓坑

第28号墓坑 (第564図)

位置 調査区中央部の I 7 g8区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.92m, 短径0.86mの円形で, 長径方向はN-22°-Eである。深さ50~58cmで, 底面は北側へ向かってくぼんでおり, 壁は外傾して立ち上がっている。



覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 6 灰黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量

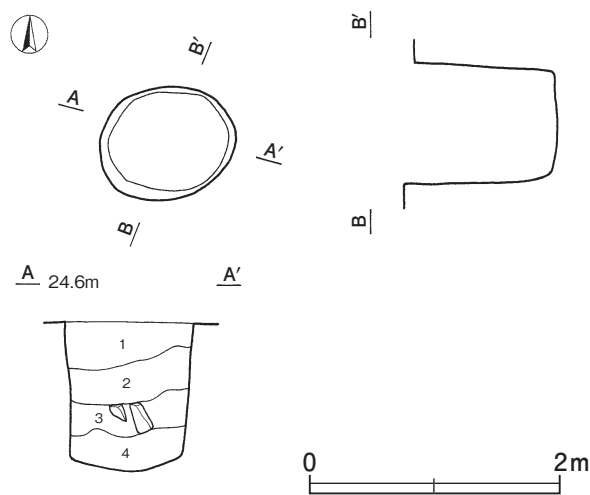
遺物出土状況 西部の底面から, 長さ約20cm, 厚さ約10cmの石が出土し, 棺の天井に載せていた石が底面に落ちたと考えられるが, 詳細は不明である。

第564図 第28号墓坑実測図

所見 時期は, 遺構の形態から近世と考えられる。また, 深さが58cmと浅いことから, 子どもが埋葬されていた可能性が高いと思われる。

第29号墓坑 (第565図)

位置 調査区南部の L 4 j8区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。



規模と形状 長径1.09m, 短径0.89mの楕円形で, 長径方向はN-66°-Eである。深さ118cm, 底面は平坦であり, 壁は直立している。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 4 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量

遺物出土状況 長さ7~30cm, 幅6~19cmの石7点が第3層から出土し, 棺の天井部に載せていた石が落ちたものと考えられるが, 詳細は不明である。

第565図 第29号墓坑実測図

所見 時期は, 遺構の形態から近世と考えられる。

第30号墓坑 (第566図)

位置 調査区北東部の F 11c5区, 標高25mほどの緩斜面に位置している。

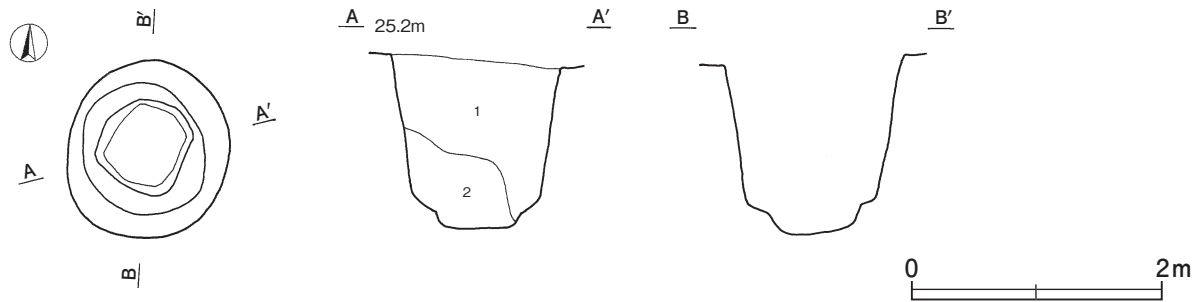
規模と形状 長径1.39m, 短径1.31mの円形で, 長径方向はN-3°-Eである。深さ114~137cmで, 底面の中央部を長方形に10cmほど掘りくぼめ, 壁は外傾して立ち上がっている。底面にある長方形のくぼみは, 早桶などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 2層に分層される。ロームや粘土で一気に埋めている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 砂粒少量 2 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 砂粒微量

所見 時期は, 遺構の形態から近世と考えられる。



第566図 第30号墓坑実測図

第31号墓坑 (第567図)

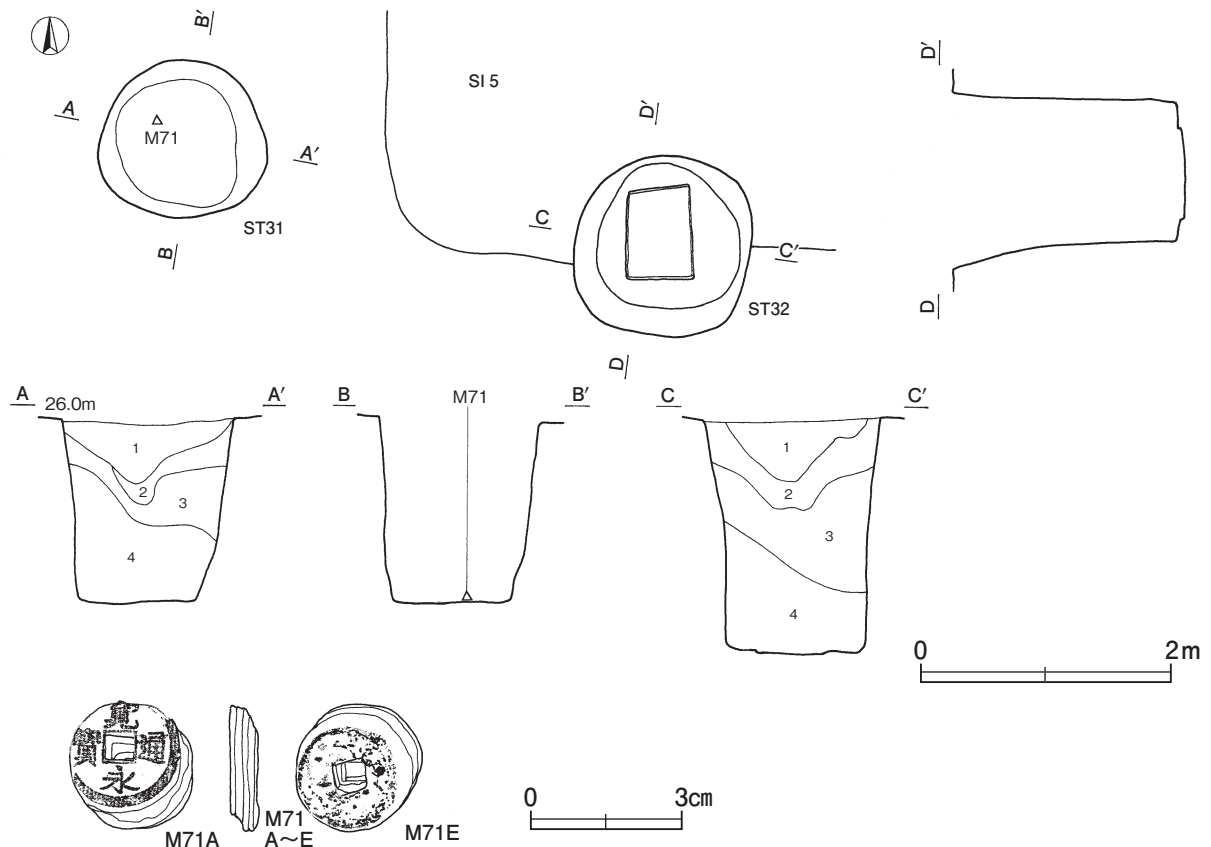
位置 調査区北東部のE10j0区, 標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.38m, 短径1.32mの円形で, 長径方向はN-75°-Wである。深さ142cm, 底面は平坦であり, 壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層される。ロームや粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

1 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 3 黒褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量



第567図 第31・32号墓坑, 第31号墓坑出土遺物実測図

遺物出土状況 古銭5点（古寛永通寶1，不明4）が錆び付いて出土している。M71は底面よりやや上位から出土している。

所見 時期は，出土遺物から17世紀代と考えられる。

第31号墓坑出土遺物観察表（第567図）

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------------|-------|-----|-------|------|----|---------------|------|----|
| M71A | 古寛永通寶 | (2.3) | 0.6 | (9.3) | 1636 | 銅 | M71Eまで錆のため付着 | 覆土下層 | |
| M71B | 古銭 (不明) | (2.2) | — | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | |
| M71C | 古銭 (不明) | 2.4 | — | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | |
| M71D | 古銭 (不明) | (2.3) | — | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | |
| M71E | 古銭 (不明) | (2.2) | 0.6 | | 不明 | 銅 | 無背 | 覆土下層 | |

第32号墓坑（第567図）

位置 調査区北東部のE11j1区，標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5号住居跡を掘り込んでいます。

規模と形状 長径1.44m，短径1.40mの円形で，長径方向はN-54°-Eである。深さ181～185cmで，底面の中央部を長方形に4cmほど掘りくぼめ，壁はほぼ直立している。底面にある長方形のくぼみは，早桶などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 4層に分層される。ローム土や粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（C-C'）

- 1 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック多量，ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック多量

所見 時期は，遺構の形態から近世と考えられる。

第33号墓坑（第568・569図）

位置 調査区北東部のH10e2区，標高25mほどの緩斜面に位置している。

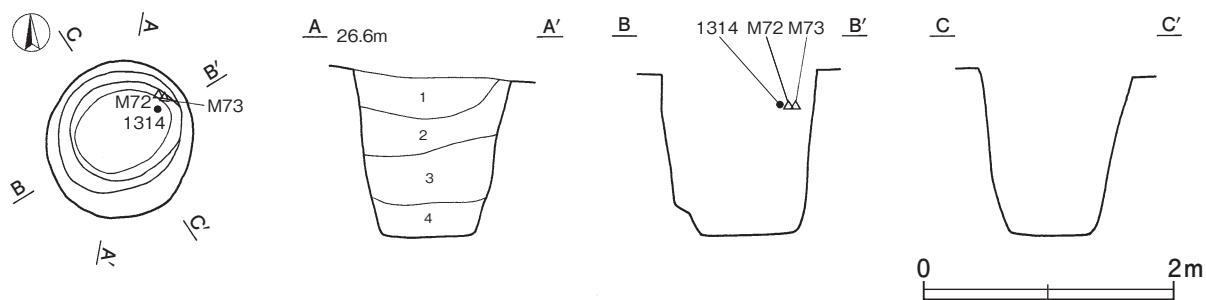
規模と形状 長径1.26m，短径1.17mの円形で，長径方向はN-17°-Eである。深さ108～128cmで，底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

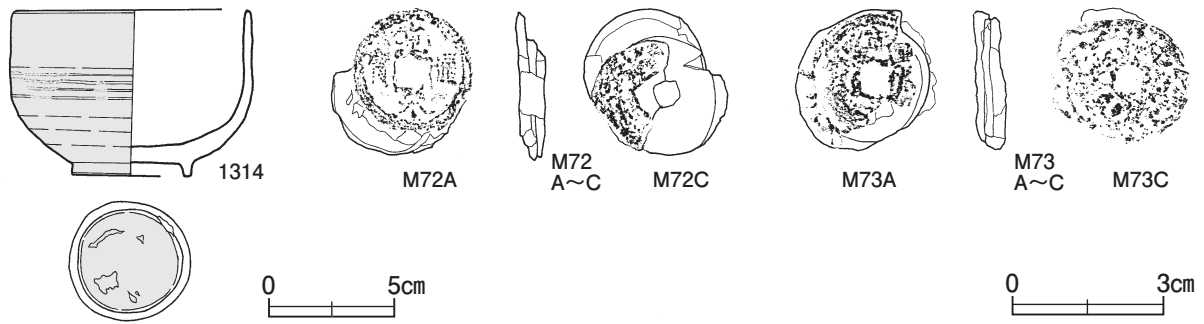
- 1 黒 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック中量，炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 粘土粒子多量，炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器1点（腰鏝碗），錆び付いた古銭6点（新寛永通寶1，寛永鉄銭カ2，不明3）が出土している。1314とM72・M73は覆土上層から出土している。



第568図 第33号墓坑実測図

所見 時期は、出土土器や出土銭貨から18世紀前半と考えられる。



第569図 第33号墓坑出土遺物実測図

第33号墓坑出土遺物観察表 (第569図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-------|------|----|-----------------------------|------|-------------------|
| 1314 | 陶器 | 腰鎗碗 | 9.3 | 6.7 | 4.6 | 灰釉 鉄釉 | 灰白・褐 | 良好 | ロクロ成形 体部外面中央上灰釉 中央下から底部鉄釉施釉 | 覆土上層 | 100% 瀬戸・美濃系 PL114 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|---------|-------|-----|-------|------|----|------------------|------|----|
| M72A | 新寛永通寶 | 2.4 | 0.5 | (6.3) | 1697 | 銅 | M72Cまで錆のため付着 | 覆土上層 | |
| M72B | 古銭 (不明) | 2.3 | 0.5 | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土上層 | |
| M72C | 古銭 (不明) | 2.2 | 0.5 | | 不明 | 銅 | 無背 付着しているため詳細は不明 | 覆土上層 | |
| M73A | 寛□□寶 | (2.0) | 0.6 | (7.7) | 不明 | 鉄 | M73Cまで錆のため付着 | 覆土上層 | |
| M73B | 古銭 (不明) | — | — | | 不明 | 鉄 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土上層 | |
| M73C | 古銭 (不明) | 2.4 | — | | 不明 | 銅 | 無背 付着しているため詳細は不明 | 覆土上層 | |

第34号墓坑 (第570図)

位置 調査区中央部のH 7 d2区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.84m、短軸1.07mの隅丸長方形で、長軸方向はN-87°-Eである。深さ28~50cmで、底面の中央部南側を長方形に20cmほど掘りくぼめ、壁は外傾して立ち上がっている。掘りくぼめた底面には、長さ約45cm、厚さ5cmほどの木片が確認されており、早桶などの木桶の底と考えられる。

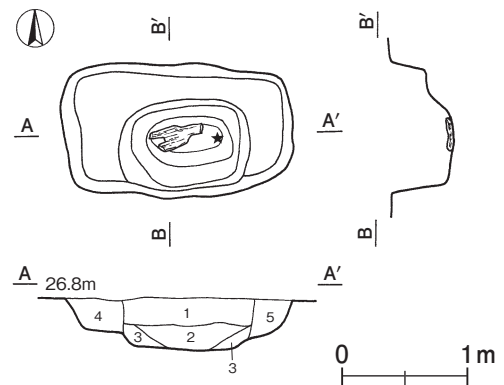
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 炭化材中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿1, 内耳2)のほか、流れ込んだ土師器片1点も出土している。また、掘りくぼめた底面の東側から、下顎部の歯がまとまって検出している。

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第570図 第34号墓坑実測図

第35号墓坑 (第571図)

位置 調査区中央部のG 8 j3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号方形竪穴遺構，第36・38号墓坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.37m，短径1.22mの楕円形で，長径方向はN-30°-Wである。深さ130cmほどで湧水のため，下部の調査を断念した。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| | | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋），陶器片1点（瓶類）のほか，流れ込んだ縄文土器片4点，土師器片4点も出土している。

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると，本跡も近世と考えられる。また，北側に位置する調査区域外には，調査当時まで墓が造立していたことから，近世から現在まで墓域が連綿と続いていた。

第36号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のG 8j3区，標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第37・38号墓坑を掘り込み，第35号墓坑に掘り込まれている。また，北側半分は調査区域外のため，未調査である。

規模と形状 長径1.75m，短径は0.61mが確認されており，平面形は楕円形と考えられる。長径方向はN-44°-Eである。深さ84cm，底面は平坦であり，壁はほぼ直立している。

覆土 単一層である。ロームブロックを主体とした黒褐色土で一気に埋めている。

土層解説 (D-D')

- 1 黒褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック微量

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると，本跡も近世と考えられる。

第37号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のG 8j3区，標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第38号墓坑を掘り込み，第36号墓坑に掘り込まれている。また，北側半分は調査区域外のため，未調査である。

規模と形状 長径は0.79m，短径は0.34mが確認されており，平面形は楕円形であると考えられる。長径方向はN-73°-Wである。深さ81cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームや粘土を含んだ黒褐色土で一気に埋めている。

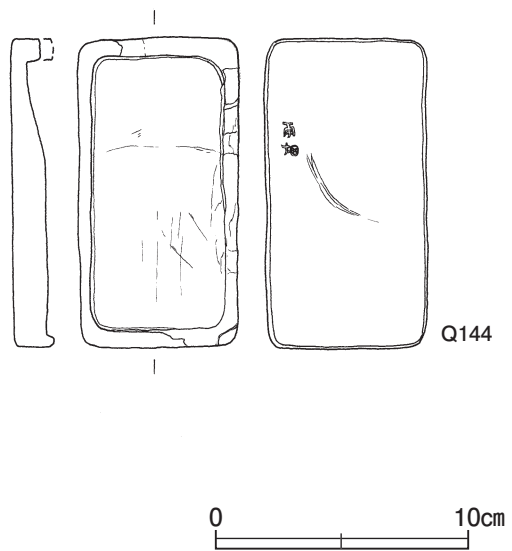
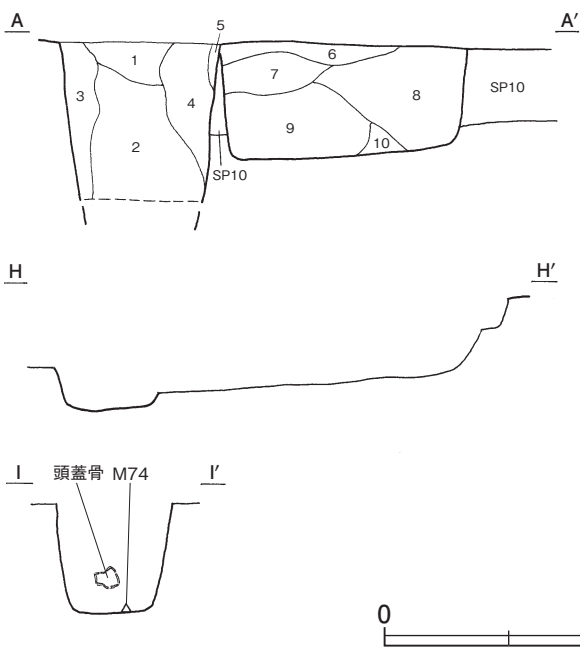
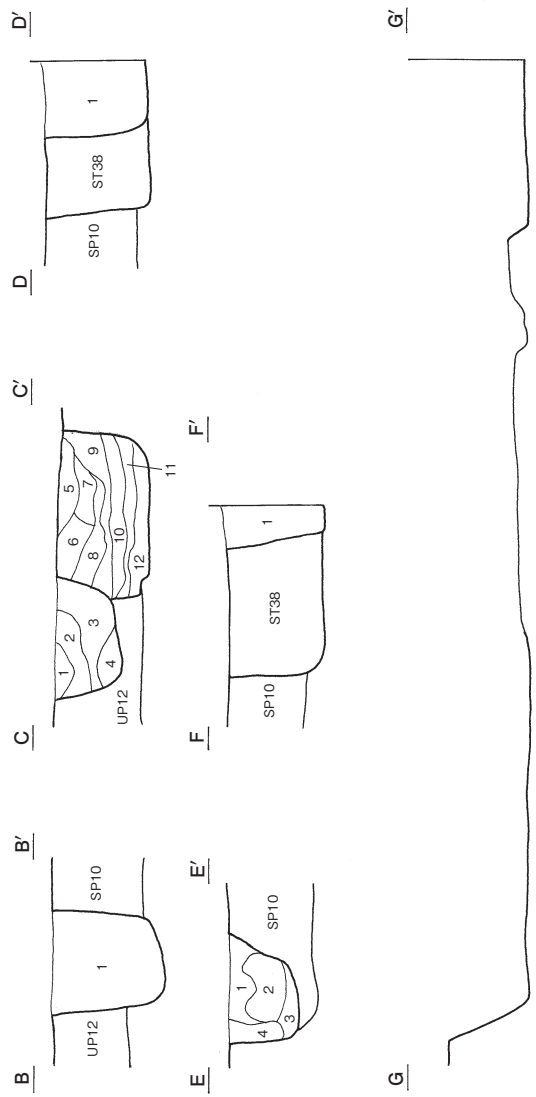
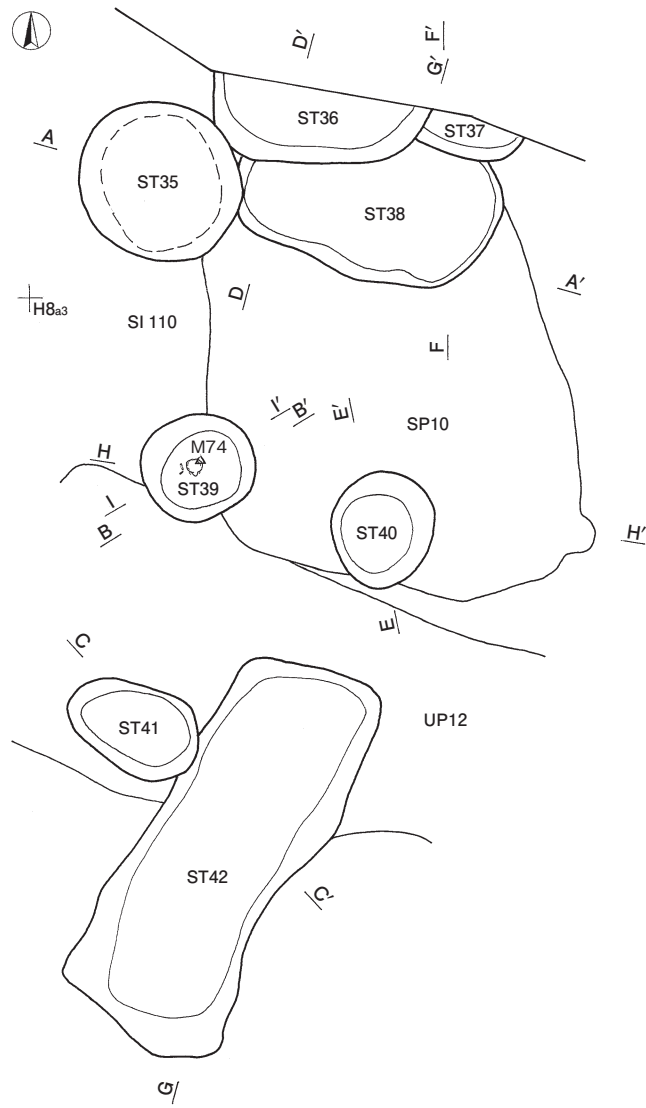
土層解説 (F-F')

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると，本跡も近世と考えられる。

第38号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のG 8j3区，標高27mほどの平坦な台地上に位置している。



0 2m

0 10cm

第571图 第35~42号墓坑, 第38号墓坑出土遺物实测图

重複関係 第10号方形竪穴遺構を掘り込み、第35～37号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.13m、短径は1.17mが確認されており、平面形は楕円形と考えられる。長径方向はN-71°-Wである。深さ84～98cmで底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

- | | | | |
|-------|-------------------------------|--------|-------------------------|
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 10 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |

遺物出土状況 磁器1点(碗)、石器1(硯)のほか、流れ込んだ縄文土器片4点、弥生土器片4点、土師器片1点も出土している。Q144は覆土中から出土している。

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。

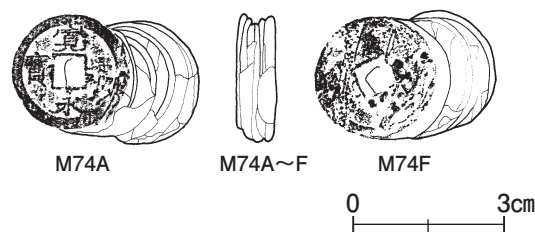
第38号墓坑出土遺物観察表 (第571図)

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|-------|-----|---------------------|------|----------------|
| Q144 | 硯 | 123 | 6.5 | 1.8 | 211.3 | 粘板岩 | 研磨痕 砥面縁部分に墨付着 硯背に刻書 | 覆土中 | 「雨畑」山梨県産 PL121 |

第39号墓坑 (第571・572図)

位置 調査区中央部のH 8 a3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第110号住居跡、第10号方形竪穴遺構、第12号地下式坑を掘り込んでいる。



規模と形状 径約0.9mの円形である。深さ88cm、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 単一層である。様々な含有物を含んだ黒褐色土で一気に埋めている。

土層解説 (B-B')

- 1 黒褐色 骨片多量、ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

第572図 第39号墓坑出土遺物実測図

遺物出土状況 中央部の底面よりやや上位から6枚が錆び

付いたM74(新寛永通寶1, 不明5)が出土し、覆土下層から人骨一体分が検出されている。

所見 時期は、出土銭貨から新寛永通寶発行(1697年)以降と考えられる。

第39号墓坑出土遺物観察表 (第572図)

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初铸年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|--------|-------|-----|--------|------|----|------------------|------|-------|
| M74A | 新寛永通寶 | 2.3 | 0.5 | (18.2) | 1697 | 銅 | M74Fまで錆のため付着 | 覆土下層 | PL123 |
| M74B | 古銭(不明) | (2.3) | — | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | PL123 |
| M74C | 古銭(不明) | 2.3 | — | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | PL123 |
| M74D | 古銭(不明) | — | — | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | PL123 |
| M74E | 古銭(不明) | 2.5 | — | | 不明 | 銅 | 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | PL123 |
| M74F | 古銭(不明) | 2.5 | 0.5 | | 不明 | 銅 | 無背 付着しているため詳細は不明 | 覆土下層 | PL123 |

第40号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のH 8 a3区，標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.94m，短径0.80mの楕円形で，長径方向はN - 6° - Eである。深さ50～56cm，底面には凸凹があり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（E-E'）

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると，本跡も近世と考えられる。

第41号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のH 8 a3区，標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第12号地下式坑・第42号墓坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.14m，短径0.66mの楕円形で，長径方向はN - 39° - Wである。深さ47～52cmで底面には凸凹があり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（C-C'）

- | | | | |
|------|-----------|-------|----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから，本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると，本跡も近世と考えられる。

第42号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のH 8 b3区，標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第12号地下式坑を掘り込み，第41号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.31m，短軸1.16mの不整長方形で，長軸方向はN - 32° - Eである。深さ68cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（C-C'）

- | | | | |
|--------|---------|--------|----------------------|
| 5 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 明褐色 | ローム粒子多量，炭化物少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子多量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子中量 | 12 明褐色 | ローム粒子多量 |

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから，本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると，本跡も近世と考えられる。

第43号墓坑（第573図）

位置 調査区中央部のG 8 i6区，標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.98m，短径0.94mの円形で，長径方向はN - 10° - Eである。深さ117cm，底面は平坦であり，壁はほぼ直立している。

覆土 8層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 におい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 におい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。

第44号墓坑 (第573図)

位置 調査区中央部のG 8 i6区, 標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第132号住居跡を掘り込んでいる。

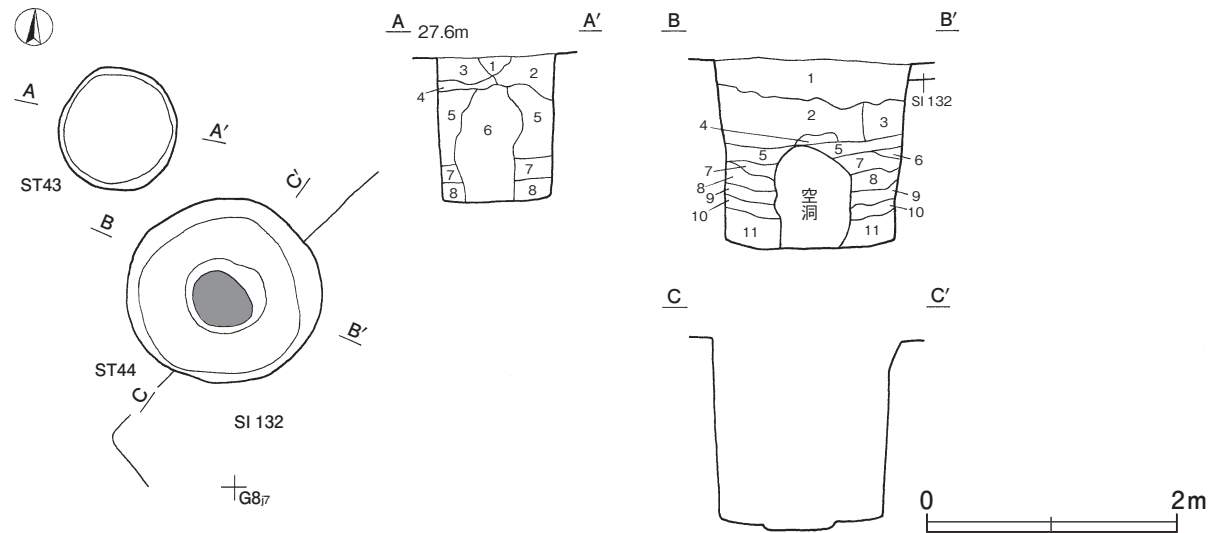
規模と形状 長径1.56m, 短径1.50mの円形で, 長径方向はN-66°-Wである。深さ148~152cmで, 底面の中央部を円形に5cmほど掘りくぼめ, 壁はほぼ直立している。底面にある円形のくぼみは, 早桶などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 11層に分層される。覆土中の空洞部分の存在から, 桶が入れられていたと考えられる。その空洞部分の脇を版築状に埋め, 桶の天井部まで埋め終わったところで一気に埋めている。

土層解説 (B-B')

- | | | | |
|-------|----------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 10 におい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| | | 11 におい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第573図 第43・44号墓坑実測図

第45号墓坑 (第574図)

位置 調査区中央部のG 8 i6区, 標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第245号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.83m, 短径1.74mの円形で, 長径方向はN-45°-Eである。深さ120~128cmで, 底面の

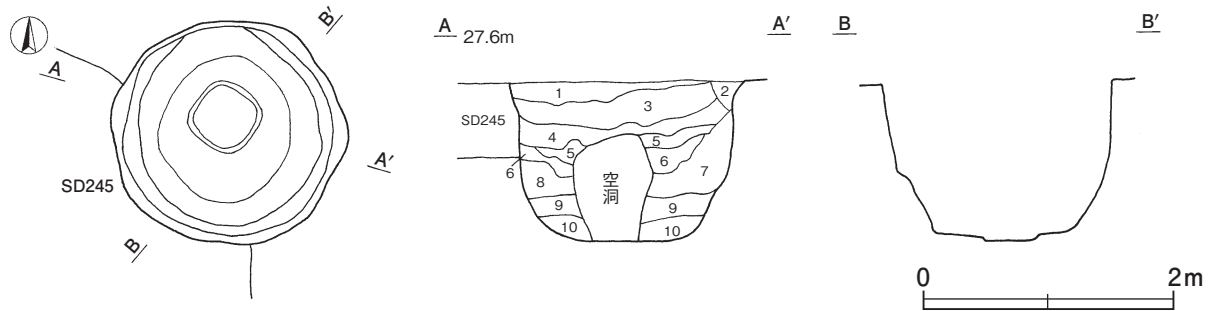
中央部を長方形に5cmほど掘りくぼめ、壁はほぼ直立している。底面にある長方形のくぼみは、早桶などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 10層に分層される。覆土中の空洞部分の存在から、桶が入れられていたと考えられる。納桶後、乱雑に埋めている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|----------|----------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 褐 色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量 |
| 3 明 褐 色 | ロームブロック多量, 炭化物微量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 5 灰 褐 色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | | |
| 6 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | | |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第574図 第45号墓坑実測図

第46号墓坑 (第575図)

位置 調査区南東部のK 7 e5区, 標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

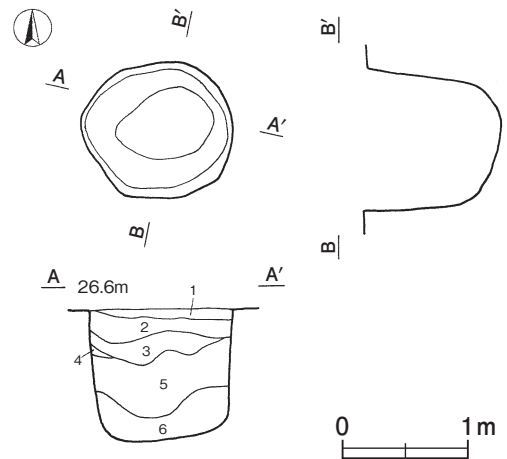
規模と形状 長径1.22m, 短径1.18mの円形で, 長径方向はN-80°-Wである。深さ110~120cmで, 底面は一部が北側へ掘り込まれ, 壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1 極 暗 褐 色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | 粘土ブロック微量 |
| 4 極 暗 褐 色 | 粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 橙 色 | 粘土ブロック多量 |
| 6 褐 色 | ロームブロック微量 |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第575図 第46号墓坑実測図

第47号墓坑 (第576図)

位置 調査区中央部のJ 6 d5区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.65m, 短径1.52mの円形で, 長径方向はN-30°-Wである。深さ112~126cm, 底面の中央部を10cmほど長方形に掘りくぼめ, 壁はほぼ直立している。掘りくぼめた部分から方形の木枠が出土し, その中から人の頭蓋骨が地下方向へ向いて検出されている。埋土後, 木枠の天井部が土の重みで潰れ, 頭の天地が逆転したと考えられる。

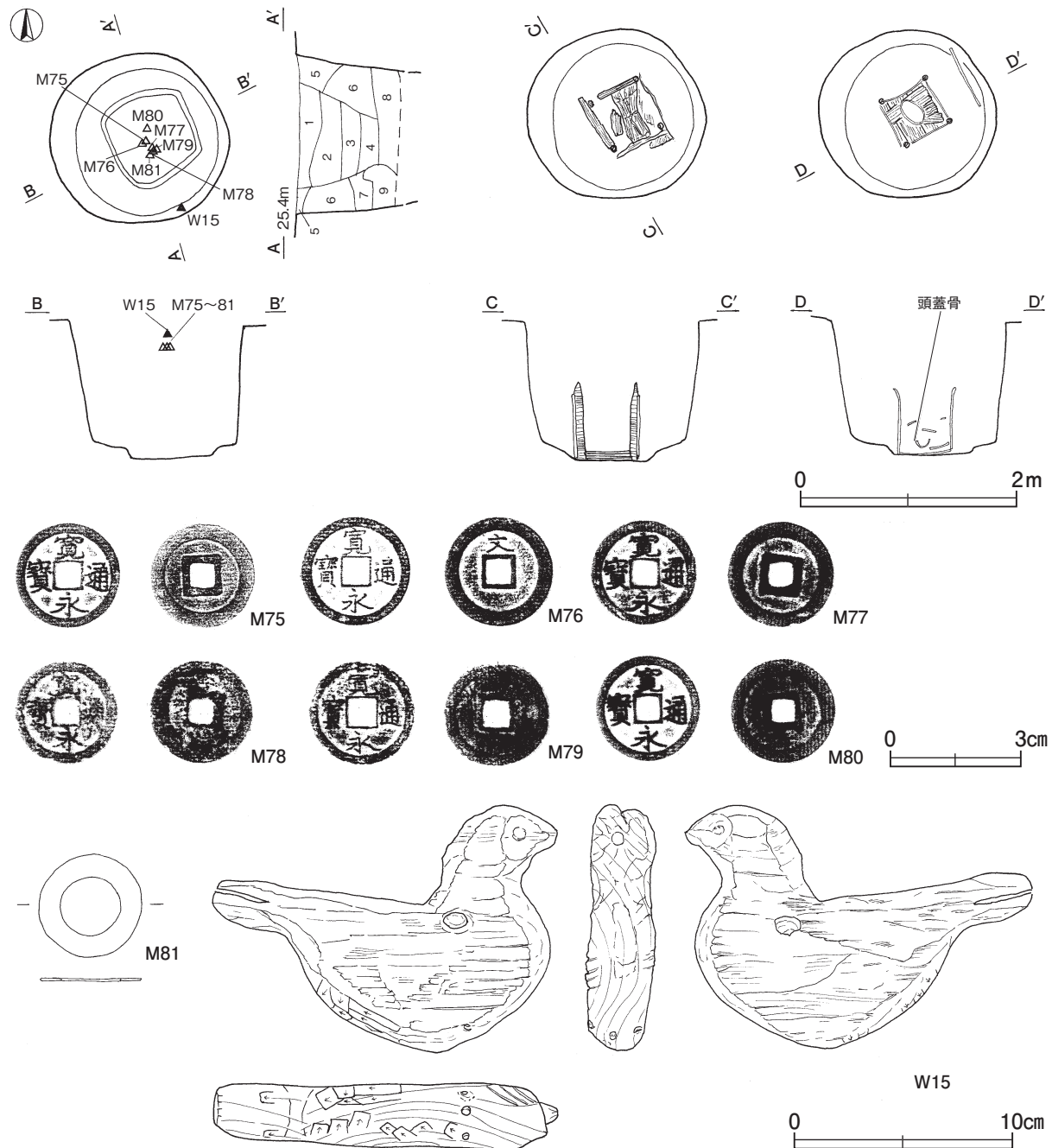
覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 明褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 8 明黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 4 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 9 褐灰色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 古銭6点〔新寛永通寶5, 寛永通寶(文銭)1〕, 銅製品1点(不明), 木製品1点(人形)が出土している。これらの遺物は, 中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から17世紀後半と考えられる。



第576図 第47号墓坑・出土遺物実測図

第47号墓坑出土遺物観察表（第576図）

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|------|------|-----|-------|----|-----------|------|-------|
| W15 | 人形 | 11.4 | 15.9 | 3.1 | 232.9 | 木 | 鳥形 足・羽部欠損 | 覆土上層 | 二葉マツ類 |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-----|-----|------|----|----|------|----|
| M75 | 新寛永通寶 | 2.4 | 0.6 | 3.0 | 1697 | 銅 | 無背 | 覆土上層 | |
| M76 | 寛永通寶 | 2.5 | 0.7 | 3.9 | 1668 | 銅 | 文銭 | 覆土上層 | |
| M77 | 新寛永通寶 | 2.5 | 0.6 | 2.9 | 1697 | 銅 | 無背 | 覆土上層 | |
| M78 | 新寛永通寶 | 2.5 | 0.6 | 3.2 | 1697 | 銅 | 無背 | 覆土上層 | |
| M79 | 新寛永通寶 | 2.3 | 0.5 | 3.2 | 1697 | 銅 | 無背 | 覆土上層 | |
| M80 | 新寛永通寶 | 2.4 | 0.6 | 3.0 | 1697 | 銅 | 無背 | 覆土上層 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 孔幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|----|------------------------------------|------|-------|
| M81 | 不明銅製品 | 4.7 | 2.7 | 0.1 | 9.3 | 銅 | 座金的なものカ 両面金箔が一部付着 線刻による花の文様が微かに見える | 覆土上層 | PL126 |

表35 近世墓坑一覧表

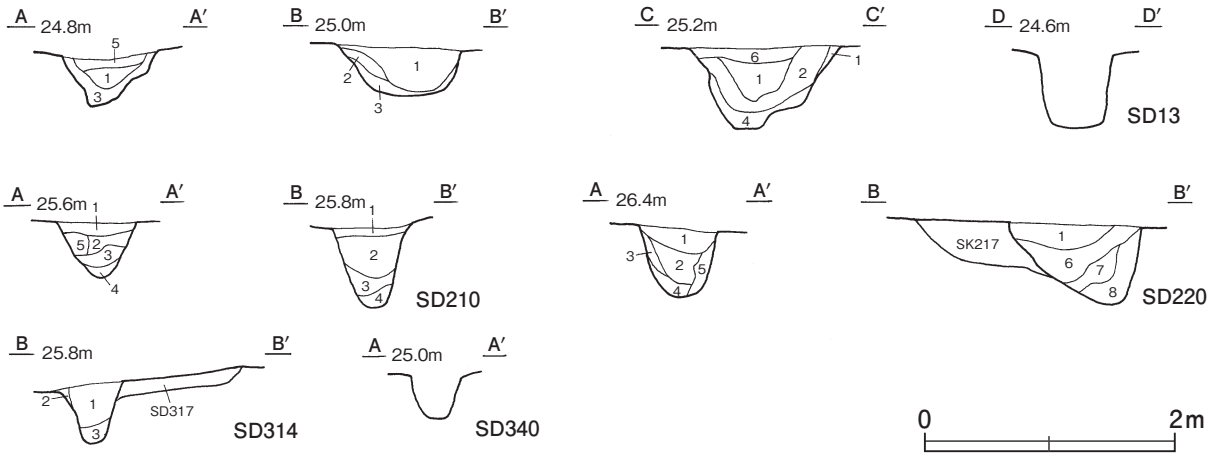
| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模(m) | | 底面 | 壁面 | 覆土 | 人骨 (有・無) | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係 旧→新) |
|----|--------|---------|-------|-----------------|------------|----|------|----|-------------|--------------|--------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ (cm) | | | | | | |
| 28 | I 7 g8 | N-22°-E | 円形 | 0.92 × 0.86 | 50~58 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | — | |
| 29 | L 4 j8 | N-66°-E | 楕円形 | 1.09 × 0.89 | 118 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 無 | — | |
| 30 | F 11c5 | N-3°-E | 円形 | 1.39 × 1.31 | 114~137 | 凹状 | 外傾 | 人為 | 無 | — | |
| 31 | E 10j0 | N-75°-W | 円形 | 1.38 × 1.32 | 142 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 無 | 古銭 | |
| 32 | E 11j1 | N-54°-E | 円形 | 1.44 × 1.40 | 181~185 | 凹状 | 垂直 | 人為 | 無 | — | |
| 33 | H 10e2 | N-17°-E | 円形 | 1.26 × 1.17 | 108~128 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 無 | 陶器, 古銭 | |
| 34 | H 7 d2 | N-87°-E | 隅丸長方形 | 1.84 × 1.07 | 28~50 | 凹状 | 外傾 | 人為 | 有 | 土師質土器 | |
| 35 | G 8 j3 | N-30°-W | 楕円形 | 1.37 × 1.22 | (134) | 不明 | 外傾 | 人為 | 無 | 土師質土器, 陶器 | SP10→ST36・38→本跡 |
| 36 | G 8 j3 | N-44°-E | 楕円形 | 1.75 × (0.61) | 84 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 無 | — | ST37・38→本跡→ST35 |
| 37 | G 8 j3 | N-73°-W | (楕円形) | (0.79) × (0.34) | 81 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | — | ST38→本跡→ST36 |
| 38 | G 8 j3 | N-71°-W | (楕円形) | 2.13 × 1.17 | 84~98 | 平坦 | ほぼ垂直 | 人為 | 無 | 磁器, 硯 | SP10→本跡→ST35 ~ 37 |
| 39 | H 8 a3 | N-60°-W | 円形 | 0.92 × 0.88 | 88 | 平坦 | ほぼ垂直 | 人為 | 有 | 古銭 | SI110→SP10→UP12→本跡 |
| 40 | H 8 a3 | N-6°-E | 楕円形 | 0.94 × 0.80 | 50~56 | 凸凹 | 外傾 | 人為 | 無 | — | SP10→本跡 |
| 41 | H 8 a3 | N-39°-W | 楕円形 | 1.14 × 0.66 | 47~52 | 凸凹 | 外傾 | 人為 | 無 | — | UP12→ST42→本跡 |
| 42 | H 8 b3 | N-32°-E | 不整長方形 | 3.31 × 1.16 | 68 | 平坦 | 外傾 | 人為 | 無 | — | UP12→本跡→ST41 |
| 43 | G 8 i6 | N-10°-E | 円形 | 0.98 × 0.94 | 117 | 平坦 | 垂直 | 人為 | 無 | — | |
| 44 | G 8 i6 | N-66°-W | 円形 | 1.56 × 1.50 | 148~152 | 凹状 | 垂直 | 人為 | 無 | — | SI132→本跡 |
| 45 | G 8 j6 | N-45°-E | 円形 | 1.83 × 1.74 | 120~128 | 凹状 | 垂直 | 人為 | 無 | — | SD245→本跡 |
| 46 | K 7 e5 | N-80°-W | 円形 | 1.22 × 1.18 | 110~120 | 皿状 | 垂直 | 人為 | 無 | — | |
| 47 | J 6 d5 | N-30°-W | 円形 | 1.65 × 1.52 | 112~126 | 凹状 | 垂直 | 人為 | 有 | 古銭, 銅製品, 木製品 | |

9 その他の遺構と遺物

(1) 溝跡

近代以降と考えられる溝跡は、5条確認されている。いずれの溝も、明治時代前半及び現在の地境と一致しており、掘り方の形状と出土遺物からも、根切り溝の類と考えられるものである。また、8条が時期不明である。これらの遺構については一覧表と全体図で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。

ア 近代以降 (第577図・付図)



第577図 第13・210・220・314・340号溝跡実測図

第13号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第210号溝跡土層解説

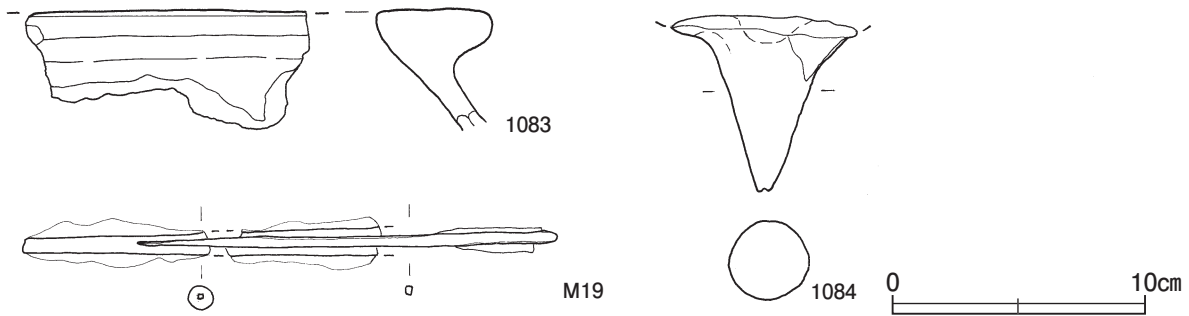
- 1 黒褐色 粘土ブロック, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量

第220号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 粘土ブロック中量
- 8 黒褐色 粘土ブロック多量

第314号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第578図 第314号溝跡出土遺物実測図

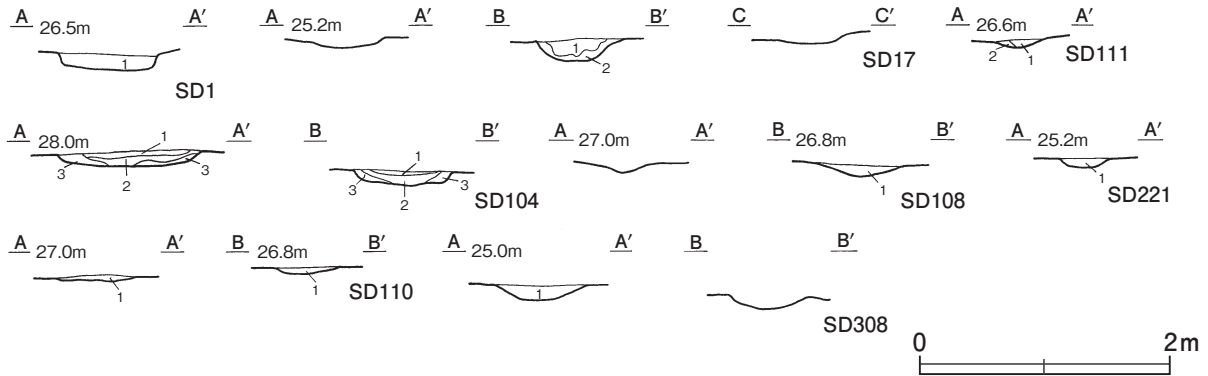
第314号溝跡出土遺物観察表 (第578図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|------|-----|-------|--------|---------------|-----------------|----|-------------|------|-------|
| 1083 | 土師質土器 | 鐏カ | — | (4.7) | — | 長石・石英・雲母・礫 | 橙 | 普通 | 掛部破片 内・外面ナデ | 覆土中 | 掛部煤付着 |
| 1084 | 土師質土器 | 鍋脚カ | — | (7.0) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐灰 | 普通 | 脚部破片 内・外面ナデ | 覆土中 | |
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | | | 出土位置 | 備考 |
| M19 | 不明 | 21.5 | 1.1 | 0.9 | (46.3) | 鉄 | 断面四角形の棒状の軸に鉄製の筒 | | | 覆土中 | |

表36 近代以降溝跡一覧表

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係など) |
|-----|---------------|--------------------|-------|------------|-----------|-----------|------------|-------|-------|----|-----------------|----------------------------|
| | | | | 確認長 (m) | 上幅 (m) | 下幅 (m) | 深さ (cm) | | | | | |
| 13 | J 4 i5~K 3 e9 | N-124°-E N-4°-W | 鉤の手状 | (75.5) | 0.40~1.20 | 0.10~0.52 | 38~78 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 磁器, 瓦 | SD4・5・8・14, SF1・2・UP8・9→本跡 |
| 210 | H 5 g3~G 5 j9 | N-26°-E N-99°-E | クランク状 | (49.0) | 0.60~0.96 | 0.12~0.40 | 42~62 | 緩斜・外傾 | 平坦・皿状 | 自然 | 土師質土器, 鉄片 | SD205・207・212・216・244→本跡 |
| 220 | G 5 g0~G 5 i0 | N-19°-E | 直線状 | (10.6) | 0.62~0.72 | 0.10~0.36 | 55~62 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器, 瓦 | SD216・217→本跡 |
| 314 | K 6 b8~J 7 j5 | N-109°-W | 直線状 | 31.8 | 0.30~0.64 | 0.05~0.40 | 30~42 | 垂直・外傾 | 平坦 | 自然 | 土師質土器, 不明鉄製品, 瓦 | SD317→本跡 |
| 340 | J 6 h8~J 7 g2 | N-76°-E | ほぼ直線状 | 15.5 | 0.22~0.40 | 0.12~0.25 | 30~38 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SD306・311→本跡 |

イ 時期不明 (第579図・付図)



第579図 第1・17・104・108・110・111・221・308号溝跡実測図

第1号溝跡土層解説

1 褐 色 ローム粒子多量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第17号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量

第104号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子多量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第108号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第110号溝跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第111号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第221号溝跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第308号溝跡土層解説

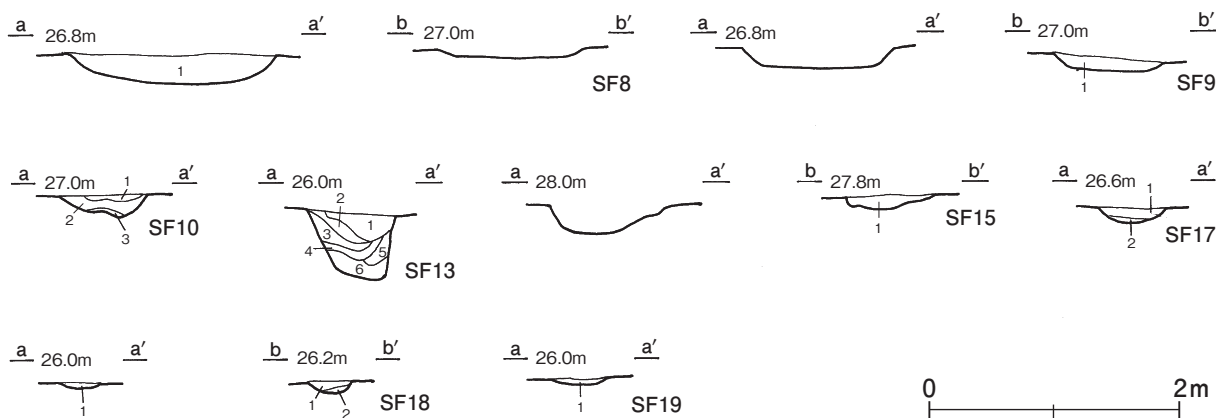
1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

表37 時期不明溝跡一覧表

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係など) |
|-----|---------------|----------|-------|------------|-----------|-----------|------------|----|----|-----|----------------|------------------------|
| | | | | 確認長 (m) | 上幅 (m) | 下幅 (m) | 深さ (cm) | | | | | |
| 1 | K 3 c9~K 3 c0 | N-97°-E | 直線状 | 4.4 | 0.72~0.90 | 0.50~0.77 | 14 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 剥片 | |
| 17 | K 4 a6~K 4 b9 | N-83°-W | 直線状 | (12.4) | 0.36~0.68 | 0.16~0.40 | 7~20 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | |
| 104 | G 9 b1~F 9 i6 | N-115°-W | 直線状 | 22.5 | 0.50~1.10 | 0.38~0.92 | 18~28 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SI32・33・34・75・SK744→本跡 |
| 108 | G10i7~G10j0 | N-106°-E | 直線状 | (14.6) | 0.40~0.66 | 0.04~0.30 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | — | SB32・34→本跡・SK683 |
| 110 | H10a6~H10d6 | N-4°-W | ほぼ直線状 | (12.6) | 0.38~0.90 | 0.09~0.38 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | — | SK694→本跡 |
| 111 | H10e6~H10e8 | N-112°-E | 直線状 | 6.5 | 0.38~0.58 | 0.12~0.26 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師器, 須恵器, 縄文土器 | |
| 221 | I 4 d9 | N-117°-E | 直線状 | (1.7) | 0.30~0.55 | 0.12~0.30 | 6 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | |
| 308 | I 6 j9~J 7 a3 | N-104°-E | 直線状 | 18.2 | 0.40~0.80 | 0.18~0.36 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 砥石 | |

(2) 道路跡 (第580図・付図)

近代以降と考えられる道路跡は、8条確認されている。いずれも、明治時代前半あるいは現在の地境と一致するもので、近代以前から農業等の道路として使用されていた可能性もある。その中で、第13号道路跡は、形状的に農道として使用される前は根切り溝または排水用として機能していたと推測され、第18号道路跡は削平され遺構の一部が確認されたと考えられる。これらの遺構については一覧表と全体図で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。



第580図 第8～10・13・15・17～19号道路跡実測図

第8号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第9号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第10号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第13号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 (締まりが強い)
- 2 暗褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 褐色粘土ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子微量
- 5 褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子中量
- 6 極暗褐色 褐色粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第15号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第17号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第18号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量

第19号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

表38 近代以降道路跡溝跡一覧表

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 主な出土遺物 | 備考 (新旧関係など) |
|----|-------------|---------|-----|------------|-----------|------------|------------|----------|----------|----|-----------|------------------------------------|
| | | | | 確認長 (m) | 上幅 (m) | 下幅 (m) | 深さ (cm) | | | | | |
| 8 | F10a4～F10f2 | N-30°-E | 直線状 | (21.0) | 0.86～1.70 | 0.52～1.30 | 22 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SI17→本跡・SF9 |
| 9 | F9c3～F10g5 | N-66°-W | 直線状 | (49.8) | 0.84～1.72 | 0.60～1.449 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SI18・27→本跡・SF8 |
| 10 | H10b2～H10c5 | N-75°-W | 直線状 | 9.9 | 0.40～0.74 | 0.18～0.40 | 10～15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器 | SI64→本跡 |
| 13 | F10a7～F11d2 | N-59°-W | 直線状 | (26.2) | 0.60～1.00 | 0.24～0.56 | 25～52 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SF14→本跡 |
| 15 | G9b5～G9f4 | N-28°-E | 直線状 | 19.7 | 0.28～1.08 | 0.09～0.45 | 9～23 | 外傾 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SI46・48・78, SK704・727・738, SB33→本跡 |
| 17 | G11j1～H10a0 | N-26°-E | 直線状 | (7.0) | 0.38～0.51 | 0.10～0.16 | 9～13 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 土師質土器, 石器 | SI70→本跡 |
| 18 | H5i7～H6j1 | N-75°-W | 直線状 | 15.3 | 0.26～0.38 | 0.18～0.40 | 4～10 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SD211→本跡 |
| 19 | I5b9～I5b0 | N-80°-W | 直線状 | (6.20) | 0.32～0.50 | 0.24～0.36 | 2～4 | 緩斜 | 皿状 平坦 | 自然 | 土師質土器 | |

(3) 土坑 (付図)

遺物や重複関係からも時期が明確にできなかった土坑は536基であり、時期については中・近世と推測されるが、これらについては全体図と一覧表で紹介した。

表39 その他の土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|--------|--------------------|---------|-----------------|-------|-------|----|----|--------------|--------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 1 | L 3 g6 | N-39°-E | 隅丸長方形 | 2.08 × 0.60 | 28 | 外傾 | 凸凹 | 自然 | — | |
| 2 | L 3 g8 | N-46°-E | 不定形 | 1.88 × 0.80 | 24 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | |
| 3 | L 3 g7 | N-50°-E | 方形 | 0.88 × 0.80 | 24 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | |
| 4 | L 3 i8 | N-7°-E | 不定形 | 1.56 × 1.34 | 80 | 外傾 | 凸凹 | 自然 | — | |
| 7 | K 3 b8 | N-10°-E | 楕円形 | 1.32 × 1.04 | 36 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 8 | K 3 c8 | N-23°-W | 楕円形 | 1.38 × 0.92 | 24~40 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器 | |
| 9 | K 3 c7 | N-7°-E | 楕円形 | 1.74 × 1.20 | 36 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 縄文土器, 土師器 | |
| 10 | K 3 d9 | N-72°-W | 楕円形 | 0.93 × 0.56 | 28 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | |
| 12 | K 3 d9 | N-16°-E | 円形 | 0.86 × 0.86 | 44 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 13 | K 3 d9 | N-11°-W | 楕円形 | 0.68 × 0.48 | 52 | 垂直 | 皿状 | 自然 | — | |
| 14 | K 3 d9 | N-13°-W | 円形 | 0.24 × 0.24 | 5 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 15 | K 3 d9 | N-40°-W | 楕円形 | 0.88 × 0.72 | 48 | 垂直 | 皿状 | 人為 | — | |
| 17 | K 3 i0 | N-20°-E | 長方形 | 1.12 × 0.88 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 18 | K 3 d0 | N-57°-E | 長楕円形 | 1.40 × 0.66 | 46 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 縄文土器, 土師器 | |
| 19 | K 4 a2 | N-84°-E | 楕円形 | 1.48 × 1.30 | 24 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 20 | K 4 h1 | N-20°-W | 楕円形 | 1.04 × 0.82 | 22 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 21 | K 4 b1 | N-48°-E | 円形 | 1.52 × 1.36 | 104 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 25 | K 4 a1 | N-70°-W | 長楕円形 | 1.36 × 0.40 | 64 | 外傾 | 皿状 | — | 土師器 | SD2→本跡 |
| 27 | K 4 i1 | N-49°-W | 楕円形 | 0.68 × 0.58 | 36 | 垂直 | 皿状 | 自然 | — | |
| 28 | K 3 h0 | N-65°-W | 隅丸長方形 | 2.08 × 1.18 | 12~72 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK40→本跡 |
| 32 | K 4 a1 | N-68°-E | 楕円形 | 0.70 × 0.60 | 46 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 34 | K 3 a0 | N-86°-W | 楕円形 | 0.60 × 0.48 | 49 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK33→本跡 |
| 36 | K 3 h0 | N-30°-W | [長方形] | (1.36) × 1.10 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | SK37→本跡 |
| 37 | K 3 h0 | N-52°-W | [長方形] | 1.12 × (0.54) | 10 | 不明 | 平坦 | — | — | 本跡→SK36・38 |
| 38 | K 3 h0 | N-58°-W | [方形] | [1.20] × [1.12] | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK37・39→本跡 |
| 39 | K 3 h0 | N-9°-E | [長方形] | (1.12) × (0.68) | 14 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK26→本跡→SK38 |
| 40 | K 3 h0 | N-48°-E N-33°-W | 不定形 | 南北1.64 × 0.60 | 22 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK28 |
| 41 | K 4 b4 | N-70°-E | 円形 | 1.08 × 0.94 | 54 | 外傾 | 皿状 | 自然 | — | SK107→本跡 |
| 66 | K 4 g1 | N-59°-W | 楕円形 | 1.05 × 0.90 | 26 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 70 | K 4 h1 | N-50°-W | 隅丸長方形 | 2.11 × 1.50 | 19 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 107 | K 4 b4 | N-44°-E | [楕円形] | (2.24) × 1.98 | 156 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK41 |
| 157 | L 3 f8 | N-0° | 円形 | 0.92 × 0.91 | 19 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SD10→本跡 |
| 304 | J 5 d7 | N-43°-W | 不整楕円形 | 1.51 × 0.89 | 8 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | PG11域 |
| 305 | J 5 c7 | N-89°-E | 不整楕円形 | 1.22 × 0.91 | 6 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG11域 |
| 306 | J 5 d5 | N-11°-E | 隅丸長方形 | 1.50 × 0.69 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SB1・PG11域 |
| 307 | J 5 d3 | N-2°-E | 楕円形 | 2.15 × 0.78 | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG11域 |
| 309 | J 5 d3 | N-24°-W | 不定形 | 0.88 × 0.59 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG11域 |
| 311 | J 5 c8 | N-10°-E | 不整楕円形 | 1.29 × 1.01 | 6 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 315A | K 4 c4 | N-10°-E | [不整楕円形] | (1.78) × (0.37) | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK315B→本跡 |
| 316 | K 4 d9 | N-25°-W | 隅丸長方形 | 1.05 × 0.89 | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 317 | K 4 e7 | N-10°-E | 円形 | 1.04 × 0.96 | 56 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 320 | K 4 e6 | N-0° | 円形 | 0.73 × 0.72 | 14 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | |
| 321 | K 4 e6 | N-17°-E | 楕円形 | 0.86 × 0.74 | 15 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 322 | K 4 g7 | N-2°-E | 不整楕円形 | 2.61 × 2.10 | 64 | 緩斜・外傾 | 凸凹 | 人為 | 石塔片(宝珠), 炭化物 | |
| 323A | K 4 c8 | N-27°-W | [楕円形] | (0.59) × 0.53 | 32 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK323B→本跡→SD16・SF2 |
| 323B | K 4 c8 | N-81°-E | [楕円形] | (0.50) × 0.46 | 26 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK323A・SD16・SF2 |
| 324A | K 4 a7 | N-31°-E | 楕円形 | 0.64 × (0.35) | 11 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK324B |
| 324B | K 4 a7 | N-64°-E | 楕円形 | 0.82 × 0.76 | 17 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK324A→本跡 |
| 325 | K 4 a7 | N-68°-W | 円形 | 0.78 × 0.73 | 19 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 326 | J 4 j7 | N-39°-E | 円形 | 0.76 × 0.71 | 22 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|--------|-------------|---------|-----------------|----|-------|----|-----|------|-----------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 327 | J 4 j7 | N-18°-W | 楕円形 | 0.86 × 0.65 | 26 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 330 | K 4 c6 | N-24°-W | 不整楕円形 | 0.99 × 0.89 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡→SD16・SF2 |
| 331 | K 4 d6 | N-20°-W | 円形 | 0.77 × 0.74 | 27 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | 本跡→SD16・SF2 |
| 333 | L 4 g9 | N-34°-W | 楕円形カ | 1.53 × 1.01 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SF6→本跡 |
| 334 | L 4 g8 | N-42°-W | 隅丸長方形 | 1.61 × 0.96 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK357・SF6→本跡 |
| 335 | K 4 f9 | N-31°-E | 楕円形 | 0.99 × 0.60 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | SK336→本跡→SB5 |
| 336 | K 4 f9 | N-21°-W | 楕円形カ | (1.01) × (0.91) | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK335・SB5 |
| 339 | L 4 j7 | N-35°-E | 不整長方形 | 1.01 × 0.67 | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SB20 |
| 340 | L 4 j7 | N-51°-E | 不整長方形 | 0.84 × 0.70 | 8 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | SB20 |
| 341 | L 4 j8 | N-36°-E | 不整楕円形 | 1.01 × 0.79 | 6 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 342 | L 4 a2 | N-35°-E | 隅丸長方形 | 2.43 × 1.16 | 22 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 底面粘土貼り |
| 344 | M 4 g5 | N-42°-E | 楕円形 | 1.40 × 0.90 | 6 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 底面粘土貼り, PG2域 |
| 345 | M 4 g4 | N-40°-E | 不整楕円形 | 1.18 × 0.67 | 12 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | 底面粘土貼り |
| 347 | M 4 g4 | N-67°-W | 楕円形 | 1.12 × 0.53 | 13 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 353 | L 4 d5 | N-35°-E | 隅丸長方形 | 1.06 × 0.90 | 15 | 外傾 | 平坦 | 不明 | — | PG4域 |
| 355 | L 3 g5 | N-44°-E | 隅丸長方形 | 0.86 × 0.72 | 36 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | |
| 357 | L 4 g8 | N-36°-W | 隅丸長方形 | 0.81 × 0.62 | 11 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK334 |
| 365 | M 4 b0 | N-39°-E | 隅丸長方形 | 1.15 × 0.92 | 24 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK362 PG6域 |
| 366 | M 5 c1 | N-31°-E | [不整楕円形] | 1.30 × (0.68) | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG6域 |
| 367 | M 4 f7 | N-39°-W | 楕円形 | 0.60 × 0.53 | 34 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | PG3域 |
| 368 | M 4 g7 | N-60°-W | 楕円形 | 0.81 × 0.85 | 26 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG3域 |
| 369 | M 4 f7 | N-39°-W | 不整長方形 | 0.91 × 0.78 | 35 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG3域 |
| 370 | K 4 g0 | N-54°-W | 隅丸長方形 | 1.30 × 0.88 | 4 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 371 | K 4 f9 | N-42°-W | 不定形 | 1.56 × 1.01 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 372 | K 5 e3 | N-55°-W | 隅丸長方形 | 1.92 × 0.98 | 19 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SD25→本跡 PG10域 |
| 374 | L 4 c5 | N-28°-W | 楕円形 | 1.24 × 0.99 | 51 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG5域 |
| 375 | K 5 e4 | N-39°-E | 円形 | 0.95 × 0.90 | 5 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | PG12域 |
| 376 | K 5 f5 | N-39°-E | 隅丸長方形 | 1.80 × 1.18 | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG12域 |
| 377 | K 5 g6 | N-51°-W | 円形 | 1.15 × 1.10 | 91 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | PG12域 |
| 378 | K 5 e6 | N-88°-E | 円形 | 0.69 × 0.64 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 379 | K 5 g5 | N-36°-E | 楕円形 | 0.91 × 0.71 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | PG12 |
| 380 | L 5 e4 | N-57°-E | 不整楕円形 | 2.87 × 1.57 | 26 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | 本跡→PG14 |
| 381 | L 5 e4 | N-74°-E | 不整楕円形 | 2.31 × 1.37 | 42 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | 本跡→PG14 |
| 382 | L 5 d4 | N-39°-E | 不整楕円形 | 3.09 × 1.37 | 27 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | 本跡→PG14 |
| 383 | L 5 g2 | N-24°-W | 楕円形 | 1.14 × 0.89 | 25 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG14域 |
| 391 | K 4 h0 | N-0° | 円形 | 0.69 × 0.68 | 14 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | |
| 394 | K 4 h9 | N-45°-E | [楕円形] | (1.34) × 0.67 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SD39→本跡 |
| 395 | L 4 b5 | N-54°-W | 楕円形 | 0.95 × 0.65 | 3 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | 炭化物 | PG5域 |
| 396 | L 4 b3 | N-58°-W | 楕円形 | 1.12 × 0.76 | 6 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK397→本跡 PG5域 |
| 397 | L 4 b3 | N-24°-W | 円形 | 0.54 × 0.46 | 48 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | 本跡→SK396 PG5域 |
| 398 | L 4 b3 | N-51°-E | [楕円形] | 0.96 × (0.62) | 8 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 399 | L 4 a4 | N-39°-W | 隅丸長方形 | 0.55 × 0.39 | 44 | 垂直 | 緩斜 | 人為カ | — | |
| 401 | J 5 b0 | N-9°-W | [隅丸長方形] | 1.20 × (0.76) | 36 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SD20 |
| 402 | J 5 g0 | N-16°-W | 楕円形 | 1.22 × 0.85 | 58 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SD20 |
| 404 | J 5 d8 | N-49°-W | 不定形 | 1.85 × 0.99 | 26 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→PG11 |
| 406 | J 5 f6 | N-20°-W | 楕円形 | 1.10 × 1.00 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG9域 |
| 407 | J 5 f6 | N-3°-E | 隅丸長方形 | 0.95 × 0.88 | 25 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG9域 |
| 408A | J 5 i7 | N-10°-E | 楕円形 | 1.59 × 0.86 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK408B PG9域 |
| 408B | J 5 i7 | N-83°-E | 楕円形 | 0.90 × 0.67 | 11 | 外傾・緩斜 | 緩斜 | 人為 | — | SK408A→本跡 |
| 410 | J 5 i7 | N-49°-W | 楕円形 | 1.27 × 1.15 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 413 | J 5 i8 | N-61°-W | [楕円形] | (1.72) × (1.25) | 32 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK427→本跡→SK416 |
| 414 | J 5 i8 | N-89°-W | 楕円形 | 1.08 × 0.86 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 415 | K 5 a8 | N-22°-W | 楕円形 | 1.62 × 1.29 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 416 | J 5 i8 | N-35°-W | 円形 | 1.54 × 1.48 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK413→本跡 |
| 417 | K 5 a9 | N-65°-W | 楕円形 | 1.33 × 1.08 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK417→SK428 |
| 418 | J 5 i0 | N-76°-W | 不整楕円形 | 1.56 × 0.94 | 26 | 緩斜 | 凸凹 | 不明 | — | |
| 421 | J 5 i7 | N-27°-E | 楕円形 | 1.48 × 0.97 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SB4→本跡 PG9域 |
| 423 | J 5 j8 | N-24°-E | 楕円形 | 1.61 × 0.84 | 60 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|--------|-------------|---------|-----------------|------|-------|----|-----|-----------|-----------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 424 | J 5 i2 | N-32°-W | 隅丸長方形 | 1.56 × 1.18 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 427 | J 5 j8 | N-76°-W | [楕円形] | 1.52 × (0.88) | 28 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK413 |
| 429 | J 5 h6 | N-5°-W | 不整楕円形 | 1.79 × 1.39 | 21 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG9域 |
| 432 | J 5 f2 | N-88°-E | 楕円形 | 1.20 × 0.73 | 23 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 441 | J 5 b6 | N-88°-W | 楕円形 | 0.79 × 0.60 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | — | PG11域 |
| 443 | K 5 f6 | N-24°-E | 不整楕円形 | 0.76 × 0.64 | 55 | 外傾 | 皿状 | 不明 | — | PG12域 |
| 444 | K 5 j4 | N-44°-W | 隅丸長方形 | 1.21 × 0.98 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | SB14 |
| 445 | K 5 j5 | N-27°-E | 不整楕円形 | 1.10 × 0.64 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | PG12域 |
| 446 | K 5 i4 | N-88°-W | 円形 | 0.71 × 0.64 | 22 | 外傾 | 凸凹 | 不明 | — | PG12域 |
| 447 | K 5 j5 | N-41°-E | 隅丸長方形 | 0.81 × 0.58 | 6 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | |
| 448 | K 5 g2 | N-36°-E | 楕円形 | 0.88 × 0.43 | 13 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG12域 |
| 449 | K 5 j1 | N-63°-E | 楕円形 | 1.84 × 0.92 | 58 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | |
| 452 | K 5 f5 | N-42°-E | 不整楕円形 | 0.72 × 0.50 | 16 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 453 | K 5 g7 | N-49°-W | 円形 | 0.84 × 0.76 | 10 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | PG12域 |
| 454A | K 5 h3 | N-32°-E | [不整楕円形] | (0.81) × 0.50 | 30 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | 本跡→SK454B PG12域 |
| 454B | K 5 h3 | N-45°-W | 瓢箪形 | 0.87 × 0.52 | 32 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK454A→本跡 PG12域 |
| 455 | K 5 g7 | N-47°-E | 円形 | 0.84 × 0.81 | 10 | 垂直 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 457 | K 5 g3 | N-39°-W | 楕円形 | 0.75 × 0.68 | 8 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SD19A→本跡 |
| 460 | L 5 a3 | N-0° | 円形 | 1.22 × 1.23 | 64 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 462 | L 4 a0 | N-34°-E | 円形 | 0.84 × 0.79 | 24 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 465 | K 5 j8 | N-44°-W | 不整楕円形 | 1.30 × 0.93 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | — | PG12域 |
| 466 | K 5 j9 | N-39°-W | 楕円形 | 1.38 × 1.19 | 12 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SD28A→本跡 |
| 467 | L 5 a0 | N-34°-W | 楕円形 | 0.90 × 0.67 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SD28A・SD29 |
| 468 | K 5 j0 | N-41°-E | 隅丸長方形 | 1.35 × 0.79 | 14 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | — | SD28A |
| 469 | K 5 h5 | N-66°-W | 隅丸長方形 | 1.98 × 0.89 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SB12 PG12域 |
| 470 | L 5 a8 | N-25°-E | 楕円形カ | 1.12 × (0.98) | 22 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SD28 |
| 471 | K 5 j6 | N-46°-E | [楕円形] | 1.75 × (0.95) | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SD19A・SK472→本跡 |
| 472 | K 5 j6 | N-32°-E | 楕円形 | 1.30 × 1.15 | 4 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK471 |
| 478 | M 4 b0 | N-33°-W | 不整楕円形 | 1.78 × 0.67 | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG18域 |
| 479 | M 4 a0 | N-4°-W | [不整楕円形] | [1.60] × [0.80] | 30 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK480 |
| 480 | M 4 a0 | N-39°-W | 楕円形 | 1.46 × 0.84 | 35 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SD52・SK479→本跡 |
| 482 | L 4 j0 | N-27°-E | 楕円形 | 1.16 × 1.00 | 26 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | — | SD46A→本跡 |
| 483 | M 4 a0 | N-40°-E | 隅丸長方形 | 1.09 × 0.78 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG6域 |
| 486 | L 4 j8 | N-18°-W | 楕円形 | 0.96 × 0.71 | 28 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→PG18 |
| 487 | L 4 a3 | N-45°-E | 円形 | 0.80 × 0.78 | 59 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | |
| 492 | M 4 b5 | N-47°-E | 円形 | 0.82 × 0.76 | 53 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 499 | M 4 c9 | N-44°-W | 不定形 | 1.51 × 0.50 | 54 | 垂直 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 500 | L 4 b3 | N-42°-E | 隅丸長方形 | 1.05 × 0.81 | 11 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK398 |
| 501 | L 4 g3 | N-69°-E | 不定形 | 1.47 × 0.75 | 34 | 緩斜 | 凸凹 | 人為カ | — | 本跡→SB9・10 |
| 506 | L 4 e8 | N-25°-W | 楕円形 | 1.26 × 0.99 | 34 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 507 | L 4 e9 | N-35°-W | 楕円形 | 1.20 × 0.95 | 34 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 511 | L 4 e8 | N-27°-W | 円形 | 1.00 × 0.94 | 39 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 512 | M 4 a1 | N-50°-W | T字型 | 3.21 × 1.96 | 56 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 514 | L 5 e5 | N-44°-W | 不定形 | 1.07 × 0.61 | 55 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | PG14域 |
| 516 | L 4 d1 | N-39°-E | 不整楕円形 | 0.60 × 0.48 | 44 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | SF3 |
| 517 | L 4 d1 | N-15°-W | [楕円形] | 0.52 × (0.45) | 37 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | SF3 |
| 520 | M 4 b0 | N-35°-E | 不定形 | 0.81 × 0.53 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 534 | K 5 j6 | N-55°-E | 円形 | 0.82 × 0.78 | 47 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SD19A→本跡 |
| 550 | F 10e7 | N-86°-E | 楕円形 | 2.74 × 1.04 | 12 | 緩斜 | 傾斜 | 人為 | — | |
| 551 | E 10j8 | N-18°-W | 長方形 | 1.96 × 0.78 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 552 | F 10a0 | N-64°-W | 楕円形 | 2.80 × 1.80 | 8~12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 607 | F 9 j8 | N-19°-W | 不定形 | 2.05 × 1.72 | 26 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 608 | F 9 g7 | N-14°-E | 円形 | 0.89 × 0.86 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | — | |
| 609 | F 9 g7 | N-18°-E | 楕円形 | 0.94 × 0.76 | 32 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 610 | F 9 f3 | N-1°-E | 隅丸長方形 | 2.08 × 0.88 | 17 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 611 | F 9 j2 | N-18°-E | 隅丸長方形 | 1.89 × 0.93 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 612 | F 9 i2 | N-19°-W | 不定形 | 1.19 × 1.03 | 34 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 土師器, 礫 | |
| 614 | G 9 a1 | N-10°-E | 楕円形 | 1.91 × 1.15 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | 縄文土器 | |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|-----|---------|-------------|---------|-----------------|----|-------|----|----|--------------------|-----------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 615 | G 9 a1 | N-15°-E | 長楕円形 | 1.63 × 0.91 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器 | 本跡→SI75 |
| 616 | G 9 b1 | N-81°-E | 楕円形 | 0.90 × 0.57 | 7 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 須恵器 | |
| 617 | F 9 j1 | N-32°-E | 不整長方形 | 1.62 × 0.92 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 618 | G 9 c1 | N-3°-W | 長楕円形 | 1.42 × 0.74 | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 619 | F 9 f3 | N-81°-W | 隅丸長方形 | 1.95 × 0.75 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器 | |
| 620 | G 9 b2 | N-60°-W | 楕円形 | 2.00 × 1.25 | 18 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器, 須恵器 | 本跡→SI75 |
| 621 | F 9 e3 | N-73°-W | 隅丸長方形 | 2.53 × 0.82 | 48 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師器 | SK627→本跡 |
| 623 | F 9 h2 | N-32°-E | 不整楕円形 | 3.22 × 2.52 | 17 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 灰釉陶器 | |
| 624 | F 9 e3 | N-7°-W | 円形 | 1.17 × 1.11 | 39 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | |
| 627 | F 9 e3 | N-3°-E | 隅丸長方形 | (0.90) × 0.76 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK621 |
| 630 | G 9 b4 | N-6°-E | 長楕円形 | 2.09 × 0.93 | 12 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器, 須恵器 | SI48→本跡 |
| 631 | G 8 d0 | N-86°-W | 楕円形 | 1.02 × 0.82 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SI77→本跡 |
| 632 | G 8 e0 | N-40°-W | 楕円形 | 1.62 × 0.69 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SI77→本跡 |
| 633 | F 10 d9 | N-1°-E | 長楕円形 | 1.25 × 0.56 | 7 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 634 | F 10 e8 | N-35°-E | 楕円形 | 0.81 × 0.67 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | |
| 635 | F 10 e7 | N-78°-E | 楕円形 | 1.76 × 1.44 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 636 | F 10 f9 | N-25°-W | 長楕円形 | 1.68 × 0.48 | 7 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 637 | F 10 d7 | N-74°-E | 長楕円形 | 3.37 × 0.78 | 6 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 638 | G 9 b6 | N-78°-W | [隅丸長方形] | (2.15) × (0.60) | 36 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 須恵器, 礫 | SI45・47→本跡 |
| 639 | F 9 h4 | N-12°-E | [楕円形] | (1.25) × (0.63) | 20 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SI29 |
| 640 | F 11 b1 | N-11°-E | 円形 | 0.57 × 0.51 | 24 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 641 | F 11 b1 | N-60°-W | 円形 | 0.40 × 0.39 | 22 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 642 | F 11 a1 | N-8°-E | 円形 | 0.37 × 0.36 | 12 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 643 | F 10 g1 | N-54°-E | 隅丸長方形 | 0.67 × 0.52 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 644 | F 10 g1 | N-44°-E | 円形 | 1.12 × 1.06 | 33 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 645 | F 9 g0 | N-71°-E | 円形 | 1.12 × 1.04 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 礫 | |
| 646 | G 10 b1 | N-70°-E | 楕円形 | 1.24 × 1.06 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 647 | G 10 c2 | N-60°-W | 楕円形 | 1.33 × 1.08 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 礫 | |
| 649 | G 9 b3 | N-27°-E | 不定形 | 2.26 × 1.26 | 36 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器, 礫 | 本跡→PG30 |
| 650 | G 9 h6 | N-80°-E | 円形 | 1.06 × 0.99 | 65 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SI54 |
| 651 | G 9 e1 | N-81°-E | 円形 | 1.26 × 1.21 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SK656→本跡 |
| 652 | G 9 e1 | N-14°-W | 円形 | 1.12 × 1.02 | 47 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 須恵器, 剥片(黒曜石) | |
| 654 | G 9 e2 | N-12°-W | 楕円形 | 0.49 × 0.43 | 71 | 垂直 | 皿状 | 人為 | 縄文土器 | |
| 655 | G 9 e5 | N-15°-E | 長楕円形 | 2.12 × 1.07 | 16 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器, 須恵器 | |
| 656 | G 9 e1 | N-14°-E | 隅丸長方形 | 1.23 × 0.72 | 45 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK651 |
| 657 | H 10 b3 | N-65°-W | 楕円形 | 1.62 × 1.26 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 659 | G 9 d2 | N-80°-W | 隅丸長方形 | 1.60 × 0.84 | 21 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 須恵器 | |
| 661 | H 11 b5 | N-36°-E | 楕円形 | 0.72 × 0.61 | 32 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 縄文土器, 土師器, 磨石 | |
| 662 | H 11 b6 | N-40°-W | 円形 | 0.75 × 0.72 | 40 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 663 | H 11 c7 | N-42°-E | 円形 | 0.80 × 0.78 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 剥片 | |
| 664 | H 11 d5 | N-9°-W | 不整楕円形 | 0.48 × 0.42 | 26 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 665 | H 11 d5 | N-36°-E | 長楕円形 | 0.79 × 0.45 | 22 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 666 | H 11 e5 | N-41°-W | 長楕円形 | 0.94 × 0.45 | 68 | 垂直 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器 | |
| 667 | H 11 f5 | N-34°-W | 円形 | 0.69 × 0.64 | 48 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 668 | H 11 e6 | N-17°-W | 楕円形 | 0.46 × 0.32 | 22 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 669 | H 11 f3 | N-5°-E | 円形 | 0.53 × 0.51 | 18 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 671 | G 10 g6 | N-26°-W | 楕円形 | 1.64 × 0.79 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 673 | H 10 b1 | N-3°-E | 楕円形 | 1.64 × 1.04 | 20 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 674 | G 9 j0 | N-20°-E | 楕円形 | 1.41 × 1.26 | 19 | 外傾 | 傾斜 | 自然 | 縄文土器, 土師器 | |
| 675 | H 10 a2 | N-58°-W | 円形 | 1.46 × 1.34 | 19 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK676→本跡 |
| 676 | H 10 a2 | N-77°-W | [楕円形] | 1.13 × (0.75) | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK675 |
| 677 | H 9 c6 | N-70°-W | 不定形 | 2.38 × 0.80 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 陶器 | |
| 678 | G 10 i8 | N-2°-E | 楕円形 | 1.45 × 0.98 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 679 | G 10 i7 | N-28°-E | 楕円形 | 0.98 × 0.57 | 16 | 外傾・緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 680 | G 10 j3 | N-20°-W | 円形 | 0.81 × 0.77 | 17 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 682 | G 10 i6 | N-24°-W | 楕円形 | 1.60 × 0.94 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SB34→本跡 |
| 683 | G 10 i6 | N-86°-W | 楕円形 | 1.05 × 0.95 | 20 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡・SD8 |
| 684 | H 10 b3 | N-12°-W | 円形 | 0.54 × 0.52 | 11 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|--------|-------------|--------|---------------|-------|-------|-----|-----|---------------------|-----------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 685 | H10b3 | N-19°-W | 楕円形 | 0.97 × 0.72 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 686 | H10b2 | N-44°-W | 円形 | 0.66 × 0.63 | 17 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 687 | H10a3 | N-29°-W | 不整楕円形 | 1.03 × 0.86 | 22 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 688 | H10a4 | N-68°-E | 円形 | 0.80 × 0.77 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 689 | H10b4 | N-79°-E | 不整楕円形 | 1.39 × 0.80 | 48 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 須恵器 | |
| 690 | G 9 h5 | N-63°-W | 楕円形 | 0.87 × 0.76 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 692 | H11f4 | N-72°-E | 不定形 | 2.25 × 1.07 | 35 | 緩斜 | 凸凹 | 自然 | 縄文土器, 礫 | |
| 694 | H10a7 | N-17°-W | 円形 | 0.86 × 0.80 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器 | 本跡→SD110 |
| 697 | H10b4 | N-71°-E | 円形 | 0.97 × 0.90 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK696→本跡 |
| 699 | H10c0 | N-74°-E | 長楕円形 | 1.89 × 0.69 | 19 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 700 | G 9 c4 | N-25°-W | 楕円形 | 1.26 × 0.81 | 32 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | SI49→本跡 |
| 701A | G 9 f7 | N-66°-E | 不整楕円形 | 2.50 × 2.35 | 36 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 礫 | 本跡→SK701B |
| 701B | G 9 f7 | N-35°-E | 楕円形 | 1.51 × 1.17 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SK701A→本跡 |
| 702 | G 9 g8 | N-67°-W | 不定形 | 0.57 × 0.53 | 73 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 土師質土器 | |
| 703 | G 9 g7 | N-67°-W | 不定形 | 3.46 × 2.46 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SI46→本跡→SK709→SD107 |
| 704 | G 9 b5 | N-80°-W | 楕円形 | 0.97 × 0.76 | 44 | 外傾 | 平坦 | 不明 | — | 本跡→SF15 |
| 705 | G 9 b9 | N-64°-E | [楕円形] | 1.14 × (0.87) | 15 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SK602・707→本跡→SK706 |
| 706 | G 9 b9 | N-57°-E | 楕円形 | 1.17 × 0.81 | 20 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器 | SK707→本跡 |
| 708 | G 9 b5 | N-21°-E | [楕円形] | 1.75 × (0.85) | 32 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SI46→本跡→SK709・827・828 |
| 709 | G 9 b5 | N-21°-E | 楕円形 | 2.00 × 1.36 | 52 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SI46・48→本跡→SK704・828 |
| 710 | F10g2 | N-40°-E | 楕円形 | 1.22 × 0.88 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | 縄文土器, 土師器, 石皿片(凹石) | |
| 711 | G 9 f5 | N-14°-E | 円形 | 0.95 × 0.90 | 17 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 713 | G 9 f4 | N-55°-W | 楕円形カ | (1.42) × 1.14 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | 本跡→SK712 |
| 714 | G 9 d5 | N-12°-W | 楕円形 | 2.46 × 1.96 | 55 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 礫 | SI47・SK737→本跡 |
| 722 | G 9 e3 | N-30°-E | 楕円形 | 0.41 × 0.38 | 18 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | SB33→本跡 |
| 723 | G 9 e3 | N-57°-W | 楕円形 | 0.54 × 0.38 | 21 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 自然カ | 縄文土器 | |
| 724 | G 9 f3 | N-37°-E | 楕円形 | 0.98 × 0.83 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器, 礫 | |
| 725 | G 9 f3 | N-73°-W | 不整楕円形 | 1.68 × 1.16 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 小礫 | |
| 726 | G 9 e2 | N-54°-E | 楕円形 | 0.41 × 0.36 | 52 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 737 | G 9 d5 | N-35°-E | 不整形 | 3.66 × 3.14 | 86 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 礫 | SI47→本跡→SK714 |
| 745 | G 9 c8 | N-59°-W | 隅丸長方形 | 3.28 × 2.42 | 73 | 緩斜 | U字状 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 礫 | 本跡→SK748 |
| 746 | F 9 j0 | N-72°-W | 楕円形 | 0.70 × 0.64 | 55 | 緩斜 | U字状 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SK800→本跡→SI36 |
| 747 | F 9 h7 | N-46°-E | [楕円形] | (3.06) × 2.26 | 56 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SI32 |
| 748 | G 9 c7 | N-35°-E | 楕円形 | 0.58 × 0.46 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK745→本跡 |
| 750 | H10e4 | N-26°-W | 円形 | 0.84 × 0.78 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 752 | E11j4 | N-62°-W | 円形 | 1.35 × 1.30 | 38 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 瓦片 | SI11→本跡 |
| 753 | G10j0 | N-45°-W | 不定形 | 0.86 × 0.56 | 10.21 | 緩斜 | 凸凹 | 人為カ | — | |
| 754 | G10j9 | N-12°-W | 不定形 | 0.92 × 0.88 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | |
| 755 | G10j9 | N-20°-W | 円形 | 0.85 × 0.77 | 30 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 弥生土器, 礫 | |
| 756 | G10j8 | N-74°-W | 楕円形 | 1.87 × 1.02 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 礫 | |
| 757 | G10j7 | N-66°-W | [楕円形] | (0.94) × 0.67 | 6 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | 本跡→SK758 |
| 758 | G10j7 | N-80°-W | 不整楕円形 | 1.30 × 1.03 | 26 | 緩斜 | 凸凹 | 人為カ | 縄文土器, 礫 | SK757→本跡 |
| 759 | H11c2 | N-19°-W | 楕円形 | 0.64 × 0.56 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | 縄文土器 | |
| 762 | H10e1 | N-65°-W | 円形 | 0.97 × 0.90 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 800 | F 9 j9 | N-75°-W | [長楕円形] | (0.98) × 0.51 | 31 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK746 |
| 803 | F 9 g6 | N-34°-W | 楕円形 | 0.58 × 0.48 | 19 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | SI39→本跡 |
| 804 | F 9 g6 | N-86°-W | 楕円形 | 0.61 × 0.44 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 不明 | — | SI39→本跡 |
| 806 | G 9 e6 | N-52°-W | [楕円形] | 1.98 × 1.27 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 縄文土器 | SI44→本跡 |
| 807 | G 9 e6 | N-22°-W | 楕円形 | 1.64 × 1.01 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |
| 808 | G 9 e6 | N-21°-E | 楕円形 | 0.51 × 0.41 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | |
| 809 | G 9 e5 | N-18°-W | 楕円形 | 0.48 × 0.42 | 20 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 810 | G 9 e6 | N-76°-W | 隅丸長方形 | 1.74 × 1.07 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SK811→本跡 |
| 811 | G 9 e6 | N-62°-W | 隅丸長方形 | 2.05 × 0.99 | 27 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 須恵器, 焼土塊 | SK812・819→本跡→SK810 |
| 812 | G 9 f6 | N-81°-W | 楕円形カ | 1.10 × (0.86) | 26 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK811 |
| 814 | G10b1 | N-16°-W | [楕円形] | (1.70) × 0.76 | 20 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器, 剥片 | 本跡→SI37 |
| 815 | F10j3 | N-68°-E | 楕円形 | 1.51 × 1.02 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 自然カ | 礫 | |
| 816 | G 9 b6 | N-82°-E | 楕円形 | 1.06 × 0.76 | 22 | 緩斜・外傾 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器 | |
| 818 | G 9 b7 | N-76°-W | 不定形 | 2.27 × 1.64 | 20 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|-----|--------|-------------|--------|---------------|-------|-------|----|-----|----------------|----------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 819 | G 9 f7 | N-40°-W | 楕円形カ | 1.28 × (0.96) | 37 | 緩斜 | 凸凹 | 不明 | 縄文土器 | 本跡→SK811 |
| 827 | G 9 c5 | N-7°-E | 楕円形 | 1.60 × 0.88 | 35 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 礫 | SI46・SK708→本跡 |
| 828 | G 9 b5 | N-18°-W | 楕円形 | 0.65 × 0.44 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器 | SI46・48・SK708・709→本跡 |
| 830 | H 9 c8 | N-51°-W | 長方形 | 1.09 × 0.70 | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 須恵器 | SI59→本跡 |
| 834 | H 9 c7 | N-24°-W | [円形] | 1.89 × (1.88) | 24 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | 台石カ | 本跡→SI59 |
| 842 | H10c2 | N-5°-W | 楕円形 | 1.57 × 1.07 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 自然カ | — | 本跡→SI64 |
| 847 | H10b3 | N-70°-W | 不整楕円形 | 1.79 × 1.43 | 11 | 外傾 | 緩斜 | 不明 | 縄文土器, 土師器 | 本跡→SI64 |
| 851 | H10c5 | N-0° | 円形 | 0.86 × 0.81 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 852 | G10e2 | N-24°-E | 不定形 | 3.85 × 1.25 | 27 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器 | SK853→本跡 |
| 853 | G10e2 | N-35°-E | 不定形 | 2.00 × 1.80 | 10~21 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器 | 本跡→SK852 |
| 854 | H11f1 | N-30°-W | 楕円形 | 0.98 × 0.84 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 855 | G10i1 | N-80°-E | 楕円形 | 0.54 × 0.47 | 23 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 須恵器 | |
| 856 | H11e1 | N-65°-E | 楕円形 | 1.15 × 1.02 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | 縄文土器 | |
| 857 | H11e2 | N-19°-W | 長楕円形 | 1.26 × 0.68 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 858 | H11f3 | N-38°-E | 楕円形 | 1.09 × 0.78 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器 | |
| 861 | H10g0 | N-64°-W | 不整楕円形 | 1.78 × 0.95 | 10 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 900 | L 6 h8 | N-33°-W | 隅丸長方形 | 1.22 × 0.98 | 34 | 外傾 | 平坦 | 人為カ | — | SD123A→本跡 |
| 902 | L 6 i8 | N-59°-W | [楕円形] | 0.88 × (0.54) | 36 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 903 | L 6 i8 | N-32°-W | 長方形 | 1.76 × 1.00 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 904 | L 6 g0 | N-47°-E | 隅丸長方形 | 1.75 × 0.86 | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 905 | L 6 h4 | N-46°-W | [楕円形] | 1.17 × (0.59) | 11 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | 本跡→SD125 |
| 906 | L 6 e8 | N-52°-E | 隅丸長方形 | 1.05 × 0.86 | 30 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 908 | L 6 b3 | N-84°-W | 楕円形 | 0.99 × 0.67 | 23 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 909 | L 6 d7 | N-34°-W | 楕円形 | 1.18 × 0.88 | 39 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 910 | L 6 g9 | N-36°-W | 長方形 | 2.07 × 1.40 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | — | |
| 911 | L 6 f8 | N-28°-W | 隅丸長方形 | 2.37 × 0.89 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 912 | L 6 g9 | N-24°-W | 隅丸長方形 | 1.75 × 0.88 | 33 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | |
| 913 | L 6 a5 | N-7°-W | 長楕円形 | 1.73 × 0.80 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | — | PG49域 |
| 914 | L 6 d0 | N-61°-W | 隅丸長方形 | 0.84 × 0.74 | 38 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | PG49域 |
| 915 | L 6 c8 | N-43°-W | 不整楕円形 | 1.13 × 0.69 | 29 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG49域 |
| 916 | L 6 b8 | N-31°-W | 不整楕円形 | 0.73 × 0.50 | 33 | 外傾 | 緩斜 | 人為 | — | PG49域 |
| 917 | L 6 b8 | N-83°-W | 不整楕円形 | 1.52 × 0.90 | 19 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG49域 |
| 918 | L 6 c9 | N-46°-E | 楕円形 | 1.09 × 0.81 | 22 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | PG49域 |
| 919 | L 7 c1 | N-46°-W | 円形 | 0.63 × 0.60 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SB69 PG49域 |
| 922 | L 6 h4 | N-72°-W | 楕円形 | 1.38 × 1.08 | 24 | 外傾 | 緩斜 | 人為 | — | SD125・126・WT13→本跡 |
| 924 | L 6 i3 | N-15°-E | 楕円形 | 1.30 × 0.90 | 9 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | SK925→本跡 PG48域 |
| 925 | L 6 i3 | N-62°-W | [楕円形] | (0.88) × 0.96 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | 本跡→SK924・926 PG48域 |
| 926 | L 6 i3 | N-33°-W | 長楕円形 | 1.50 × 0.85 | 25 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | SK925・927→本跡 |
| 927 | L 6 i3 | N-55°-E | [楕円形] | (1.16) × 1.15 | 13 | 緩斜 | 傾斜 | 人為カ | — | 本跡→SK926 |
| 934 | M 5 f3 | N-5°-E | 楕円形 | 0.92 × 0.72 | 49 | 外傾・緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SD134→本跡 PG42域 |
| 937 | L 5 j8 | N-28°-E | 不定形 | 1.13 × 1.03 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SE38→本跡 |
| 947 | M 5 i4 | N-23°-W | 不整楕円形 | 0.53 × 0.50 | 28 | 外傾・垂直 | 凸凹 | 人為 | — | PG42域 |
| 953 | M 5 g7 | N-63°-E | 不整長方形 | 1.70 × 0.90 | 24 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | |
| 956 | M 5 f6 | N-50°-W | 不定形 | 1.40 × 0.89 | 34 | 緩斜・外傾 | 凸凹 | 人為 | — | PG55域 |
| 957 | M 5 g7 | N-57°-W | 隅丸長方形 | 0.72 × 0.52 | 24 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG55域 |
| 959 | M 5 g7 | N-26°-W | 楕円形 | 0.59 × 0.46 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG55域 |
| 965 | M 5 f5 | N-24°-W | 不整長楕円形 | 1.45 × 0.68 | 62 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG55域 |
| 969 | M 5 g6 | N-20°-E | 不整楕円形 | 1.27 × 0.94 | 56 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | PG55域 |
| 970 | M 5 e6 | N-44°-W | 不整楕円形 | 0.82 × 0.65 | 50 | 緩斜・外傾 | 凸凹 | 人為 | — | PG55域 |
| 972 | L 5 d0 | N-48°-W | 不定形 | 2.30 × 1.92 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SD131A→本跡 |
| 975 | M 5 f5 | N-58°-E | 不整楕円形 | 0.53 × 0.39 | 36 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | PG55域 |
| 979 | M 5 h5 | N-48°-E | 不定形 | 1.40 × 1.11 | 30 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | PG42域 |
| 980 | M 5 h5 | N-50°-W | 不定形 | 0.48 × 0.46 | 29 | 垂直 | 皿状 | 自然カ | — | PG42域 |
| 981 | N 5 a2 | 不明 | 不定形 | 1.50 × 0.89 | 32 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | PG41域 |
| 982 | N 5 a3 | N-42°-E | 隅丸長方形 | 1.48 × 0.98 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | — | PG41域 |
| 984 | M 5 j4 | N-48°-W | 円形 | 1.15 × 1.12 | 30 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG41域 |
| 987 | M 5 h1 | N-46°-W | 不整長方形 | 1.36 × 0.86 | 11 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG41→本跡→SB24 |
| 988 | M 5 h1 | N-44°-E | 隅丸長方形 | 1.14 × 0.73 | 7 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | 本跡・SB24 PG41域 |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|--------|-------------|---------|---------------|-------|-------|-----|-----|------------------|--------------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 990 | M 4 i0 | N-72°-E | 円形 | 0.79 × 0.78 | 44 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG41域 |
| 991 | M 5 j2 | N-80°-W | 楕円形 | 0.60 × 0.51 | 26 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | PG41域 |
| 993 | M 4 i0 | N-9°-E | 楕円形 | 0.73 × 0.66 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG41域 |
| 994 | M 5 j3 | N-45°-E | 隅丸長方形 | 1.75 × 1.25 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG41域 |
| 997 | M 5 j3 | N-32°-E | 隅丸長方形 | 1.68 × 0.95 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG41域 |
| 1002 | I 5 f5 | N-85°-E | 楕円形 | 0.91 × 0.72 | 11 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | PG24域 |
| 1003 | I 5 e6 | N-47°-W | 楕円形 | 0.90 × 0.79 | 11 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | PG24域 |
| 1004 | I 5 d6 | N-50°-W | 楕円形 | 0.95 × 0.70 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG24域 |
| 1006 | I 5 e9 | N-29°-E | 不整楕円形 | 1.22 × 0.76 | 15 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1007 | I 5 c9 | N-16°-W | 不整楕円形 | 1.10 × 0.95 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1008 | I 5 c0 | N-30°-E | 楕円形 | 0.94 × 0.61 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1009 | I 5 b6 | N-64°-E | 楕円形 | 1.06 × 0.71 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG24域 |
| 1010 | I 5 d5 | N-20°-W | 楕円形 | 1.56 × 1.05 | 16 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | PG24域 |
| 1011 | I 5 a5 | N-38°-E | 楕円形 | 0.96 × 0.82 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG24域 |
| 1015 | G 6 e4 | N-50°-W | 楕円形 | 2.23 × 1.72 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SI104→本跡 |
| 1018 | G 6 g7 | N-11°-E | 楕円形 | 0.60 × 0.52 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1019 | G 6 g7 | N-4°-E | 楕円形 | 0.74 × 0.40 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1020 | G 6 h7 | N-13°-E | 楕円形 | 0.91 × 0.70 | 15 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1023 | H 7 c1 | N-64°-W | 楕円形 | 1.20 × 0.97 | 34 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SD235→本跡 PG26域 |
| 1026 | H 7 c1 | N-83°-W | [楕円形] | 0.77 × (0.51) | 6 | 緩斜 | — | 人為カ | — | 本跡→SD235 PG26域 |
| 1028 | G 6 i8 | N-4°-E | 不整楕円形 | 1.70 × 1.08 | 34 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1029 | H 7 e2 | N-35°-E | [楕円形] | 0.88 × (0.60) | 16 | 外傾 | 平坦 | — | — | PG26域 |
| 1033 | H 7 d2 | N-15°-E | 楕円形 | 0.81 × 0.69 | 55 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | SD237→本跡 PG26域 |
| 1034 | H 7 e2 | N-12°-E | 不整楕円形 | 1.10 × 0.53 | 30 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SD237→本跡 PG26域 |
| 1039 | H 6 d9 | N-80°-W | 楕円形 | 1.25 × 1.05 | 38 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK1073→本跡 |
| 1040 | H 6 c9 | N-78°-W | 長楕円形 | 1.56 × 0.62 | 5 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1041 | H 7 d1 | N-16°-E | 隅丸長方形 | 2.00 × 1.13 | 16 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG26域 |
| 1043 | H 7 d1 | N-4°-E | 楕円形 | 0.91 × 0.65 | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG26域 |
| 1045 | G 6 j7 | N-14°-E | 不整楕円形 | 1.08 × 0.96 | 34 | 垂直 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1046 | G 6 j7 | N-14°-E | 不整楕円形 | 1.65 × 1.50 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1050 | H 7 e1 | N-64°-W | 隅丸長方形 | 2.14 × 0.88 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK1051→本跡 PG26域 |
| 1051 | H 7 e1 | N-12°-E | [長楕円形] | (0.80) × 0.55 | 7 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK1050 PG26域 |
| 1052 | H 6 c9 | N-70°-E | 不定形 | (0.77) × 0.89 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1053 |
| 1053 | H 6 e9 | N-39°-E | 不整楕円形 | 1.10 × 0.54 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SK1053→本跡 |
| 1054 | H 7 d1 | N-15°-E | 隅丸長方形 | 1.50 × 0.97 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG26域 |
| 1055 | H 7 d1 | N-15°-E | 不整楕円形 | 2.80 × 1.23 | 18 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器 | PG26域 |
| 1075 | H 7 c6 | N-47°-W | 不整円形 | 1.04 × 0.94 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1080 | H 7 d0 | N-23°-W | 楕円形 | 1.13 × 0.65 | 19 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | |
| 1081 | H 7 f6 | N-13°-E | 楕円形 | 1.17 × 0.63 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG28域 |
| 1082 | H 7 f7 | N-32°-W | 円形 | 0.89 × 0.81 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG28域 |
| 1083 | H 7 g7 | N-61°-W | 円形 | 0.78 × 0.76 | 20 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG28域 |
| 1084 | H 7 e6 | N-60°-W | 隅丸長方形 | 2.09 × 0.94 | 35 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG28域 |
| 1085 | G 7 j0 | N-44°-W | 円形 | 1.21 × 1.20 | 21 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | TM1→本跡 |
| 1088 | H 7 f7 | N-27°-W | 円形 | 0.50 × 0.49 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG28域 |
| 1090 | H 7 e9 | N-64°-W | 楕円形 | 2.13 × 1.30 | 9 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器 | |
| 1092 | H 7 e0 | N-61°-W | 楕円形 | 1.01 × 0.94 | 52 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 円礫 | SK1091→本跡 |
| 1093 | H 7 e0 | N-70°-W | 楕円形 | 1.29 × 0.96 | 25 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 須恵器 | |
| 1104 | H 7 d6 | N-20°-E | 隅丸長方形 | 1.00 × 0.97 | 22 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK1077→本跡 PG28域 |
| 1105 | H 7 e7 | N-19°-E | 楕円形 | 1.40 × 1.09 | 26 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG28域 |
| 1113 | H 7 g0 | N-25°-E | [隅丸長方形] | 1.86 × (1.78) | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SK1186 |
| 1117 | H 7 f8 | N-63°-W | 円形 | 1.03 × 0.99 | 32 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG28域 |
| 1121 | G 8 j1 | N-29°-W | 楕円形 | 1.12 × 0.84 | 44 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | TM1→本跡 |
| 1123 | G 8 i2 | N-17°-E | 長楕円形 | 4.00 × 1.42 | 51・74 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 須恵器, 土師器 | SD231・TM1→本跡 |
| 1139 | H 8 c1 | N-72°-W | 不定形 | 1.20 × (0.86) | 32 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SX2・SK1140・TM1→本跡→SD229A |
| 1140 | H 8 b1 | N-10°-E | [楕円形] | (1.92) × 1.62 | 40 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 土師質土器 | TM1・SX2→本跡→SD251・SK1139 |
| 1143 | G 8 i2 | N-0° | 円形 | 0.78 × 0.78 | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | TM1→本跡 |
| 1154 | H 7 d0 | N-80°-W | 不定形 | 0.99 × 0.60 | 72 | 外傾 | U字状 | 人為 | — | TM1→本跡→SD229A |
| 1172 | H 7 f0 | N-15°-W | 楕円形 | 1.12 × 0.79 | 27 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|-------|--------|-------------|--------|---------------|-------|-------|-------|-----|-----------|---------------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 1179 | H 7 f6 | N-81°-W | 隅丸長方形 | 1.51 × 1.15 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK1178・1180→本跡 PG28域 |
| 1182 | H 7 f4 | N-10°-E | 隅丸長方形 | 0.95 × 0.62 | 15 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG27域 |
| 1183 | H 7 f4 | N-22°-E | 楕円形 | 0.95 × 0.55 | 25 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG27域 |
| 1185 | H 7 c3 | N-69°-E | 円形 | 0.97 × 0.91 | 124 | 垂直 | 皿状 | 人為 | — | PG27域 |
| 1186 | H 7 g0 | N-72°-W | 楕円形 | 1.33 × 0.80 | 25・55 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SD247・SK1113→本跡・PG52 |
| 1187 | H 8 e3 | 不明 | 不定形 | 2.53 × 1.35 | 39 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SD199→本跡 |
| 1196 | G 8 h6 | N-36°-W | 楕円形 | 1.16 × 0.93 | 115 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | SK1600→本跡 |
| 1199 | I 5 g9 | N-53°-W | [長楕円形] | (1.50) × 0.82 | — | 不明 | 不明 | 不明 | — | 本跡→SD203 |
| 1201 | M 5 i1 | N-53°-E | 円形 | 0.70 × 0.68 | 5 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | 土師質土器 | PG41域 |
| 1202 | M 5 j2 | N-70°-W | 楕円形 | 0.95 × 0.75 | 44 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG41域 |
| 1204 | M 4 i0 | N-60°-W | 円形 | 0.57 × 0.53 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG41域 |
| 1206 | M 5 j2 | N-47°-W | 不整形 | 0.57 × 0.55 | 21 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師質土器 | PG41域 |
| 1208 | M 5 i2 | N-57°-W | 楕円形 | 0.44 × 0.30 | 40 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | PG41域 |
| 1213 | M 5 i1 | N-43°-E | 隅丸長方形 | 1.61 × 1.09 | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | — | SK1212・1214→本跡・SB24 PG41域 |
| 1214 | M 5 i1 | N-55°-E | 長楕円形 | 1.53 × 0.78 | 4 | 緩斜 | 平坦 | 自然カ | — | 本跡→SK1213・SB24 PG41域 |
| 1215 | M 4 i0 | N-35°-W | 円形 | 0.64 × 0.62 | 50 | 垂直 | 凸凹 | 人為 | — | PG41域 |
| 1216 | M 4 i0 | N-29°-E | 円形 | 0.59 × 0.58 | 18 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | PG41域 |
| 1221 | M 4 ho | N-61°-W | 楕円形 | 1.10 × 0.90 | 23 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SB23 PG41域 |
| 1223 | M 4 g0 | N-55°-W | 楕円形 | 0.87 × 0.64 | 6 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | 土師質土器 | PG41域 |
| 1244 | M 6 c2 | N-41°-E | 不整形 | 3.17 × 1.52 | 86 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | PG44域 |
| 1248 | M 5 i5 | N-35°-E | 不定形 | 1.04 × 0.46 | 50 | 外傾 | 凸凹 | 人為カ | — | PG42域 |
| 1249 | M 5 d2 | N-86°-E | 不定形 | 1.38 × 1.04 | 34 | 外傾 | 傾斜・平坦 | 人為 | 土師質土器 | SD145→本跡 |
| 1253 | M 5 f1 | N-52°-W | 楕円形 | 1.10 × 0.70 | 30 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG42域 |
| 1271 | M 5 e3 | N-65°-E | 不整形楕円形 | 1.33 × 1.12 | 38 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG43域 |
| 1274 | M 5 d3 | N-47°-W | 不定形 | 1.31 × 0.93 | 35 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | PG43域 |
| 1276 | M 6 d2 | N-88°-W | 楕円形 | 1.65 × 0.80 | 14 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG44域 |
| 1277 | M 4 j0 | N-32°-E | 楕円形 | 0.54 × 0.48 | 28 | 緩斜 | 凸凹 | 人為カ | — | PG41域 |
| 1290 | M 5 g0 | N-27°-E | 長楕円形 | 1.35 × 0.74 | 5 | 緩斜 | 皿状 | 人為カ | — | |
| 1291B | M 6 c3 | N-27°-E | [円形] | 2.32 × (1.03) | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SK1291A→本跡→SD120 |
| 1293 | M 6 d2 | N-39°-E | [長楕円形] | (1.39) × 0.45 | 4 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SK1294・PG44 |
| 1294 | M 6 c3 | N-75°-W | 不定形 | 1.23 × 0.73 | 6 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SK1293→本跡 PG44域 |
| 1316 | M 5 i5 | N-7°-E | 楕円形 | 0.89 × 0.58 | 7 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | — | PG42域 |
| 1319 | M 5 d4 | N-42°-W | 不整形楕円形 | 0.62 × 0.46 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG43域 |
| 1329 | M 4 h9 | N-55°-W | 不定形 | 1.01 × 0.65 | 14 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1331 | M 4 h8 | N-0° | 円形 | 0.40 × 0.40 | 45 | 外傾・垂直 | 皿状 | 人為 | — | SD143→本跡 |
| 1332 | M 4 h8 | N-0° | 円形 | 0.32 × 0.32 | 30 | 外傾・垂直 | 皿状 | 人為 | — | SD143→本跡 |
| 1334 | N 5 c2 | N-85°-W | 楕円形 | 0.93 × 0.82 | 22 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 小礫 | |
| 1337 | M 5 b8 | N-54°-W | 楕円形 | 0.95 × 0.58 | 6 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG45域 |
| 1340 | M 5 d4 | N-33°-E | 円形 | 0.40 × 0.40 | 45 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK1341→本跡 PG43域 |
| 1341 | M 5 d4 | N-33°-E | [楕円形] | (0.80) × 0.45 | 33 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡→SK1340 PG43域 |
| 1342 | M 5 d5 | N-24°-W | 隅丸長方形 | 0.86 × 0.60 | 8・56 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | — | PG43域 |
| 1343 | M 5 c5 | N-59°-W | 長方形 | 0.98 × 0.82 | 13・48 | 外傾 | 皿状 | 人為カ | — | PG43域 |
| 1344 | M 5 d4 | N-21°-E | 不定形 | 0.70 × 0.46 | 27 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG43域 |
| 1350 | K 7 j3 | N-49°-E | 円形 | 0.68 × 0.64 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | 土師器 | PG49域 |
| 1351 | L 7 c2 | N-25°-W | 円形 | 0.78 × 0.73 | 17 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG49域 |
| 1352 | L 7 a1 | N-18°-E | 長楕円形 | 1.78 × 0.66 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG49域 |
| 1354 | K 6 g9 | N-56°-E | 長楕円形 | 1.81 × 0.85 | 42 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG49域 |
| 1355 | K 6 f9 | N-55°-E | 楕円形 | 0.90 × 0.78 | 44 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1356 | K 6 f0 | N-50°-W | 長楕円形 | 1.56 × 1.00 | 56 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器, 須恵器 | |
| 1358 | M 6 b2 | N-56°-W | 隅丸長方形 | 1.05 × 0.53 | 10 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG45域 |
| 1359 | L 6 b5 | N-40°-E | 長楕円形 | 1.40 × 0.54 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG49域 |
| 1361 | L 5 j9 | N-48°-E | 楕円形 | 0.92 × 0.55 | 38 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG45域 |
| 1363 | M 6 a1 | N-50°-E | 楕円形 | 0.86 × 0.58 | 9 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | 本跡・SB54 PG45域 |
| 1364 | K 6 c8 | N-80°-E | 長楕円形 | 2.10 × 1.14 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1365 | K 6 c9 | N-3°-E | 隅丸方形 | 1.16 × 1.10 | 5 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG50域 |
| 1366 | K 7 e4 | N-15°-W | 不整形楕円形 | 1.70 × 1.45 | 6 | 緩斜 | 凸凹 | 人為カ | — | PG50域 |
| 1367 | K 7 g4 | N-21°-E | 不整形長方形 | 1.39 × 0.39 | 12 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | PG50域 |
| 1368 | K 7 b2 | N-76°-W | 不整形楕円形 | 1.70 × 1.22 | 29 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG50域 |

| 番号 | 位置 | 長径(軸) 方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|--------|-------------|--------|---------------|-------|-------|-----|-----|-----------------|-----------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 1369 | K 7 b3 | N-43°-E | 不整楕円形 | 1.45 × 1.25 | 13 | 緩斜 | 緩斜 | 人為カ | — | PG50域 |
| 1370 | K 7 b3 | N-68°-W | 不整楕円形 | 1.43 × 1.14 | 5 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | — | PG50域 |
| 1374 | K 7 c4 | N-68°-W | 楕円形 | 0.85 × 0.60 | 38 | 外傾 | 皿状 | 人為カ | — | PG50域 |
| 1375 | K 7 b4 | N-70°-E | 不整楕円形 | 2.00 × 1.70 | 60 | 緩斜 | 平坦 | 自然カ | 縄文土器 | |
| 1376 | K 6 f8 | N-53°-E | 不定形 | 1.55 × 0.84 | 28 | 緩斜 | 凸凹 | 自然 | — | SK1377→本跡 |
| 1377 | K 6 f8 | N-77°-E | 不定形 | 1.35 × (0.90) | 34 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | 本跡→SK1376 |
| 1378 | L 7 d1 | N-54°-E | 長楕円形 | 1.74 × 1.08 | 44 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 礫 | PG49域 |
| 1379 | K 7 g4 | N-25°-E | 楕円形 | 0.50 × 0.45 | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG50域 |
| 1380 | K 7 g4 | N-48°-E | 楕円形 | 0.68 × 0.60 | 20 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | PG50域 |
| 1381 | K 7 c3 | N-16°-W | 不整楕円形 | 0.64 × 0.49 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | PG50域 |
| 1390 | K 7 d6 | N-12°-E | 不整楕円形 | 2.08 × 1.15 | 66 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 縄文土器, 土師器, 須恵器 | SI111→本跡 PG50域 |
| 1391 | K 7 c6 | N-17°-E | 不整楕円形 | 2.00 × 1.85 | 36 | 外傾 | 平坦 | 人為カ | 縄文土器, 土師器, 須恵器 | SI111→本跡 PG50域 |
| 1392 | K 7 d3 | N-55°-E | 楕円形 | 0.63 × 0.56 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG50域 |
| 1398 | K 7 d2 | N-20°-E | 不整長方形 | 1.73 × 0.95 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | PG50域 |
| 1401 | H 8 j1 | N-23°-E | 不整長方形 | 1.78 × 0.91 | 40 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | — | PG51域 |
| 1402 | H 7 i0 | N-76°-W | 長楕円形 | 2.11 × 0.71 | 40 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器, 礫 | PG51域 |
| 1407 | H 7 h7 | N-27°-W | 隅丸長方形 | 0.64 × 0.60 | 17 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | 須恵器, 土師質土器 | 本跡→SK1408 PG52域 |
| 1408 | H 7 h7 | N-31°-E | 不整楕円形 | 0.67 × 0.57 | 34 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 須恵器, 土師質土器 | SK1407→本跡 PG52域 |
| 1409 | H 7 h6 | N-66°-E | 楕円形 | 1.00 × 0.84 | 17 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | PG52域 |
| 1410 | H 7 h6 | N-49°-E | 楕円形 | 0.65 × 0.53 | 28 | 緩斜・外傾 | 凹状 | 人為 | — | PG52域 |
| 1411 | H 7 h6 | N-86°-E | 不定形 | 0.90 × 0.60 | 6・36 | 緩斜・外傾 | 凹状 | 人為 | 土師器, 須恵器, 土師質土器 | 本跡→PG52 |
| 1419 | I 7 i7 | N-28°-W | 楕円形 | 1.10 × 0.96 | 13 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1423 | H 7 h9 | N-41°-E | 不整楕円形 | 1.20 × 0.74 | 13 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | PG52域 |
| 1426 | H 7 h8 | N-16°-E | 長楕円形 | 0.90 × 0.77 | 8 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG52域 |
| 1427 | H 7 h8 | N-10°-E | 不整楕円形 | 1.28 × 0.68 | 21 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG52域 |
| 1432 | K 7 e2 | N-79°-E | 楕円形 | 1.11 × 0.64 | 26 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | PG50域 |
| 1433 | K 6 e0 | N-84°-E | 円形 | 0.70 × 0.67 | 13 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG50域 |
| 1436 | K 7 f5 | N-72°-E | 楕円形 | 0.48 × 0.44 | 14 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG50域 |
| 1437 | K 7 h5 | N-50°-W | 円形 | 0.49 × 0.44 | 7 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | |
| 1439 | K 7 d2 | N-29°-E | 不整長楕円形 | 2.06 × 0.85 | 30 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | — | 本跡→SI114 PG50域 |
| 1440 | K 7 e3 | N-78°-W | [長楕円形] | (1.81) × 0.68 | 12 | 緩斜 | 皿状 | 自然カ | — | 本跡→SI114 |
| 1441 | K 7 c9 | N-45°-W | 楕円形 | 1.83 × 1.64 | 68 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1442 | K 7 f1 | N-65°-E | 楕円形 | 0.90 × 0.78 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | PG50域 |
| 1447 | H 7 g0 | N-87°-W | 長楕円形 | 1.92 × 0.75 | 50 | 緩斜・外傾 | 平坦 | 人為カ | 縄文土器, 土師器 | PG51域 |
| 1448 | H 7 i8 | N-62°-E | 不定形 | 1.83 × 1.76 | 26 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG52域 |
| 1449 | I 8 b1 | N-41°-E | 不整長楕円形 | 1.58 × 1.04 | 20 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1453 | I 7 g0 | N-32°-E | 不整楕円形 | 1.40 × 1.28 | 56 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1473 | M 5 a4 | N-65°-W | [長楕円形] | (2.70) × 1.84 | 34 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | SD143→本跡 |
| 1474 | M 5 a4 | N-34°-E | 円形 | 0.38 × 0.32 | 27 | 緩斜・外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1475 | M 5 b4 | N-34°-E | 円形 | 0.42 × 0.42 | 31 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1476 | M 5 b4 | N-34°-E | 円形 | 0.43 × 0.42 | 25 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1477 | M 5 g8 | N-56°-E | 隅丸方形 | 0.98 × 0.92 | 19 | 外傾 | 皿状 | 不明 | — | |
| 1490 | I 7 i8 | N-72°-E | 楕円形 | 0.72 × 0.57 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師器, 須恵器 | |
| 1500 | J 6 f6 | N-10°-E | 長楕円形 | 0.80 × 0.52 | 33・45 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | PG61域 |
| 1510 | J 6 e6 | N-7°-E | 不定形 | 0.81 × 0.64 | 34~45 | 外傾・直立 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | 本跡→SB72 PG61域 |
| 1511 | J 6 f6 | N-15°-W | 楕円形 | 0.73 × 0.52 | 17~43 | 緩斜 | 凸凹 | 人為 | — | 本跡→SB72 PG61域 |
| 1523 | J 7 c1 | N-15°-E | 楕円形 | 1.40 × 1.03 | 18 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG62域 |
| 1525 | I 6 h4 | N-35°-W | 不整楕円形 | 1.03 × 0.93 | 17 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | |
| 1526 | H 8 h6 | N-27°-E | 楕円形 | 0.52 × 0.45 | 11 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SI120 |
| 1527 | H 8 g5 | N-5°-E | 楕円形 | 0.54 × 0.44 | (19) | 緩斜 | V字状 | 人為 | — | SD245→本跡 |
| 1528 | H 8 f8 | N-6°-W | 円形 | 0.57 × 0.52 | 12 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | 本跡→SI122 |
| 1530 | I 6 e9 | N-58°-E | 不整楕円形 | 0.99 × 0.86 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | PG64域 |
| 1536 | H 8 c6 | N-3°-W | 楕円形 | 1.56 × 0.52 | 9 | 緩斜 | 傾斜 | 自然 | — | 本跡→SI125 |
| 1537 | H 8 c7 | N-40°-W | 楕円形 | 0.85 × 0.73 | 17 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | SI125→本跡 |
| 1539 | H 8 e7 | N-58°-E | 楕円形 | 1.65 × 1.13 | 30 | 外傾 | 平坦 | 自然 | — | SI127→本跡 |
| 1540 | J 7 e3 | N-67°-E | 楕円形 | 1.17 × 1.27 | 18 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | — | SD333→本跡 |
| 1548 | I 7 d5 | N-20°-E | 楕円形 | 2.03 × 1.75 | 16 | 緩斜 | 平坦 | 人為カ | — | |
| 1551 | I 7 d3 | N-33°-E | 楕円形 | 1.10 × 0.74 | 10 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 土師質土器 | PG65域 |

| 番号 | 位置 | 長径(軸)方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|------|--------|---------|-------|---------------|-------|-------|----|-----|------------------------|-------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 1554 | I 7 e4 | N-54°-W | 楕円形 | 1.60 × 0.94 | 28 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師質土器 | |
| 1555 | I 7 e4 | N-65°-E | 楕円形 | 1.14 × 0.80 | 50 | 外傾 | 皿状 | 人為 | — | SK1553→本跡 PG65域 |
| 1556 | I 7 d4 | N-54°-W | 長方形 | 0.98 × 0.82 | 35 | 緩斜 | 凸凹 | 人為カ | — | PG65域 |
| 1557 | I 7 e3 | N-10°-E | 不整楕円形 | 0.92 × 0.70 | 27 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG65域 |
| 1571 | I 6 c9 | N-25°-E | 不整楕円形 | 1.43 × 1.30 | 11 | 緩斜 | 凸凹 | 人為カ | — | |
| 1572 | I 6 c9 | N-15°-E | 不整楕円形 | 0.98 × 0.83 | 8 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1581 | H 6 g1 | N-49°-W | 楕円形 | 0.84 × 0.56 | 16 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | PG22域 |
| 1582 | I 6 a5 | N-75°-W | 楕円形 | 0.84 × 0.72 | 37 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | PG23域 |
| 1583 | I 6 b5 | N-44°-W | 不整長方形 | 0.90 × 0.58 | 30 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | PG23域 |
| 1584 | I 6 c4 | N-21°-E | 不整楕円形 | 0.70 × 0.60 | 33 | 緩斜 | 皿状 | 不明 | — | PG23域 |
| 1587 | J 5 b4 | N-75°-W | 楕円形 | 1.24 × 0.82 | 13 | 外傾 | 皿状 | 不明 | — | PG11域 |
| 1588 | J 5 c3 | N-3°-W | 楕円形 | 1.27 × 0.66 | 15・26 | 緩斜・外傾 | 凸凹 | 不明 | — | PG11域 |
| 1589 | J 5 c3 | N-84°-W | 楕円形 | 1.09 × 0.58 | 4・33 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | PG11域 |
| 1590 | J 5 c3 | N-40°-W | 楕円形 | 0.75 × 0.65 | 7 | 外傾 | 皿状 | 不明 | — | PG11域 |
| 1591 | J 5 c4 | N-87°-E | 楕円形 | 0.99 × 0.84 | 9・20 | 外傾 | 皿状 | 不明 | — | PG11域 |
| 1600 | G 8 h7 | N-46°-W | [楕円形] | 1.14 × (0.78) | 90 | 垂直 | 平坦 | 人為 | — | SI131→本跡→SK1196 |
| 1601 | G 8 j8 | N-16°-E | 隅丸長方形 | 3.97 × 1.17 | 42 | 外傾 | 平坦 | 人為カ | 須恵器, 土師質土器, 現代瓦, 鎧 | SI132→本跡 |
| 1602 | H 8 a0 | N-25°-E | 楕円形 | 2.25 × 1.92 | 28 | 外傾 | 平坦 | 人為カ | 縄文土器, 弥生土器, 土師器, 土師質土器 | |
| 1604 | H 6 e7 | N-25°-E | 円形 | 1.65 × 1.63 | 67 | 緩斜 | 皿状 | 人為 | — | SD258・259→本跡 |
| 1609 | H 8 b4 | N-32°-W | 円形 | 0.90 × 0.83 | 66 | 外傾 | 平坦 | 人為 | — | TM1→本跡 |
| 1610 | H 6 a9 | N-0° | 円形 | 0.68 × 0.67 | 12 | 傾斜 | 平坦 | 人為 | — | |
| 1613 | H 8 a2 | N-36°-E | 長方形 | 1.71 × 0.59 | 59 | 外傾 | 平坦 | 不明 | 縄文土器 | SI110・UP12・TM1→本跡 |

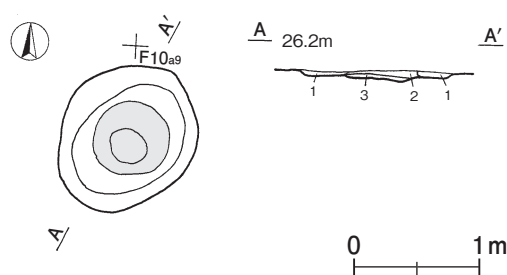
(4) 炉跡

北東部の縁辺に焼土の塊が数か所確認されたが、炉跡と認められるものは1か所だけで、第1号炉跡として報告する。

第1号炉跡 (第581図)

位置 調査区北東部のF10a9区で、標高26mほどの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 平面形は長径1.30m、短径1.10mの楕円形で、深さは7cmほどである。長径方向はN-81°-Wで、



第581図 第1号炉跡実測図

中央部に長径0.62m、短径0.60m、厚さ7cmの焼土塊が確認されている。焼土の周辺は、わずかに赤変し硬化している。

覆土 3層に分層される。第2・3層が炉の中心部であり、第1層が焼土の周辺部である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量

所見 時期は、周辺に古墳時代前期の集落があることや炉跡の規模から古墳時代前期と推測されるが、遺物が確認されていないことから判然としない。

(5) 炭焼遺構

第1号炭焼遺構 (第582図)

位置 調査区北東部のF11a2区で、標高26mほどの台地の縁辺部に位置している。

確認状況 掘り方の上部は削平され、底部だけが確認されている。

規模と形状 平面形は長径5.50m、短径1.22mの長楕円形で、深さは6～16cmである。長径方向はN-74°-Wで、短径の断面形は緩やかなU字状を呈している。底面には炭化材・炭化物が散らばる長径3.20m、短径0.56m、深さ5cmの燃焼部(炭化室)が確認されている。また、東端の部分は深さ11cmほどで皿状にくぼんでおり、焚口部と考えられる。

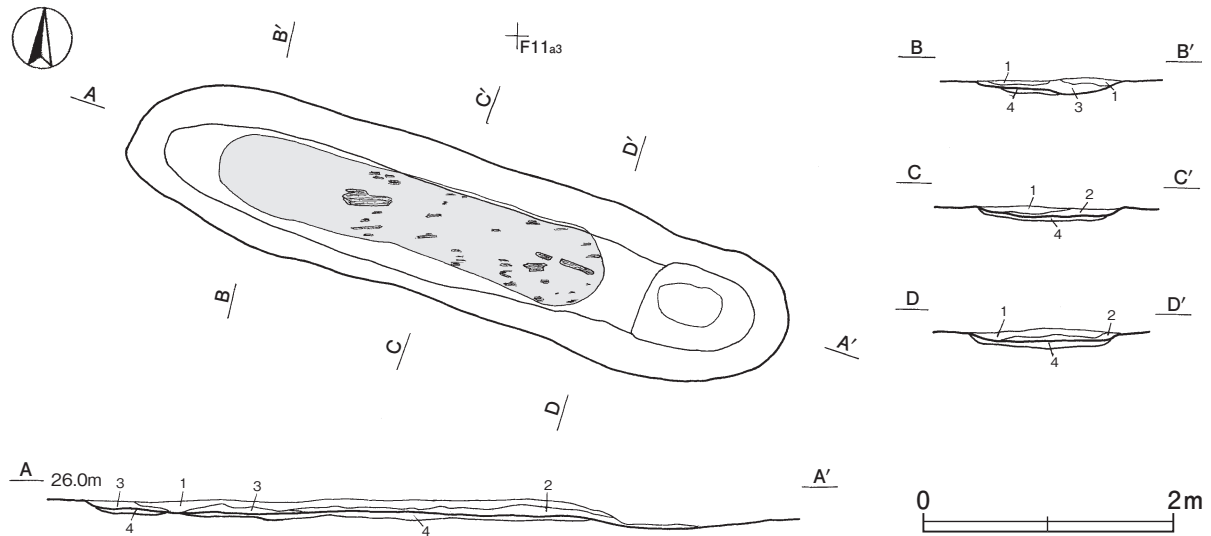
覆土 4層に分層される。第1層が燃焼部の覆土で、上部削平後に流れ込んだ土砂が堆積したものと考えられ、自然堆積である。第2・3層は燃焼部下部の土層、第4層が燃焼部下の掘り方の土層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量 | 3 黒褐色 | 炭化材中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化材少量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 焼土が広がる底面に、炭化材片が出土している。

所見 本跡は、緩斜面に沿って構築された小規模な炭焼遺構と考えられる。時期は、調査前の現況が炭材の原料となるクヌギを中心とした雑木林であったことなどから、近・現代と考えられる。



第582図 第1号炭焼遺構実測図

(6) 不明遺構

第1号不明遺構 (第583図)

位置 調査区北東部のF11c4区で、標高25mほどの台地の縁辺部に位置している。

確認状況 溝状の2基の不明遺構として調査されたが、連結したため1基の不明遺構として報告する。

規模と形状 平面形は長軸15.3m、短軸2.12mの不定形で、深さは2～32cmである。長径方向はN-67°-Wで、短径の断面形は緩やかなU字状を呈している。

覆土 2層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

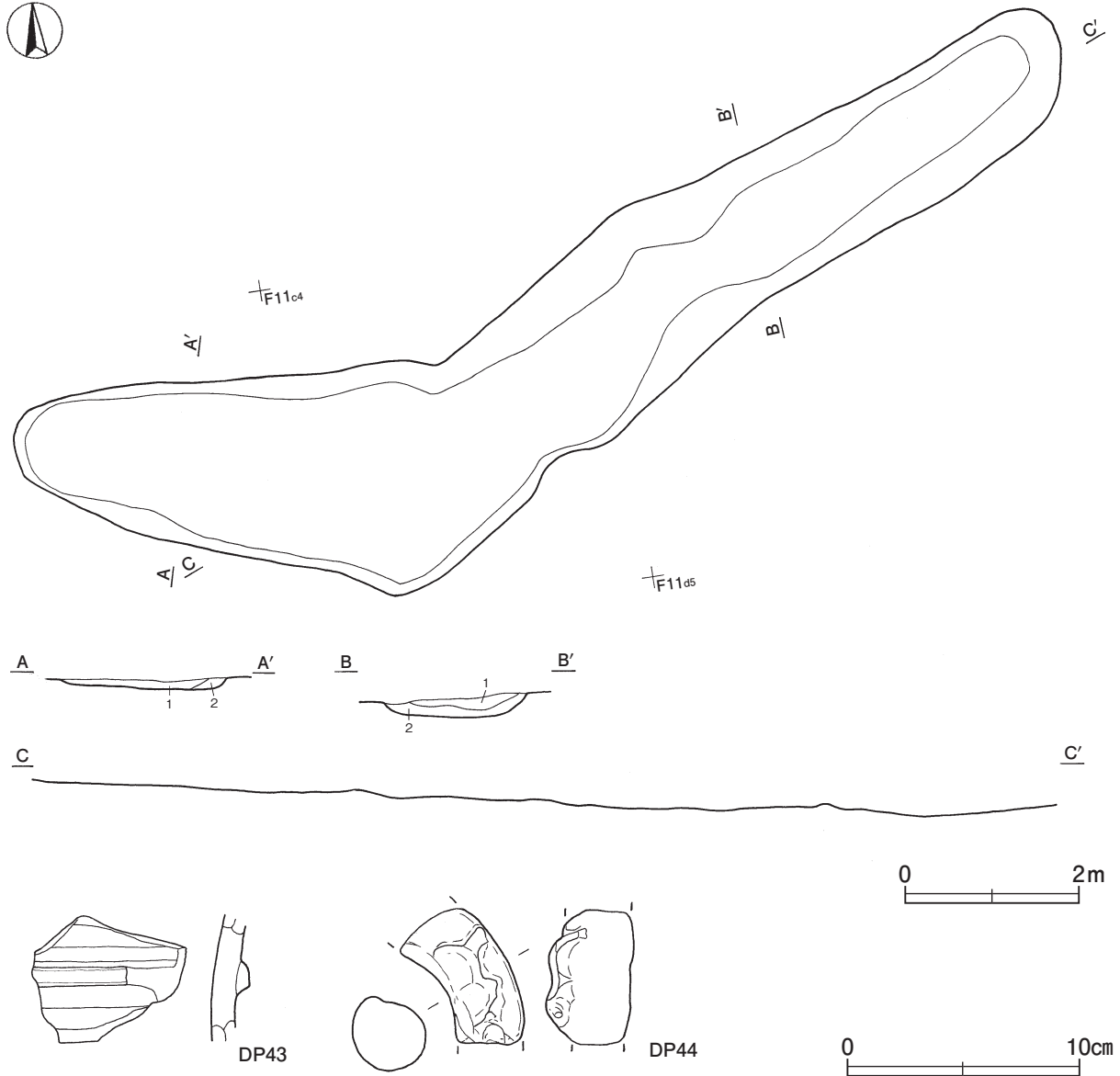
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片9点, 土師器片19点(甕類), 埴輪片24点, 礫6点が出土している。土器片はいずれも摩滅した小片である。DP43・DP44は, 東部の覆土中から出土している。

所見 本跡は, 緩斜面の等高線にほぼ沿って溝状を呈しており, 出土遺物の傾向から古墳の周溝の一部であったと推測される。



第583図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表 (第583図)

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 色調 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----------------|-------|-------|-----|--------|-----|---|------|----|
| DP43 | 円筒埴輪 | (5.5) | (6.6) | 1.7 | (56.8) | 明赤褐 | 内・外面摩滅 外面凸帯貼り付け後ハケ目カ を残すナデ 輪積痕 凸帯断面台形状 | 覆土中 | |
| DP44 | 形象埴輪 (人物埴輪) | (5.8) | 5.4 | 3.7 | (76.2) | 浅黄橙 | 人物の腕部 内・外面ナデ | 覆土中 | |

第2号不明遺構（第584図）

位置 調査区中央部のH 7 b0区で、標高27mほどの台地の平坦部に位置している。

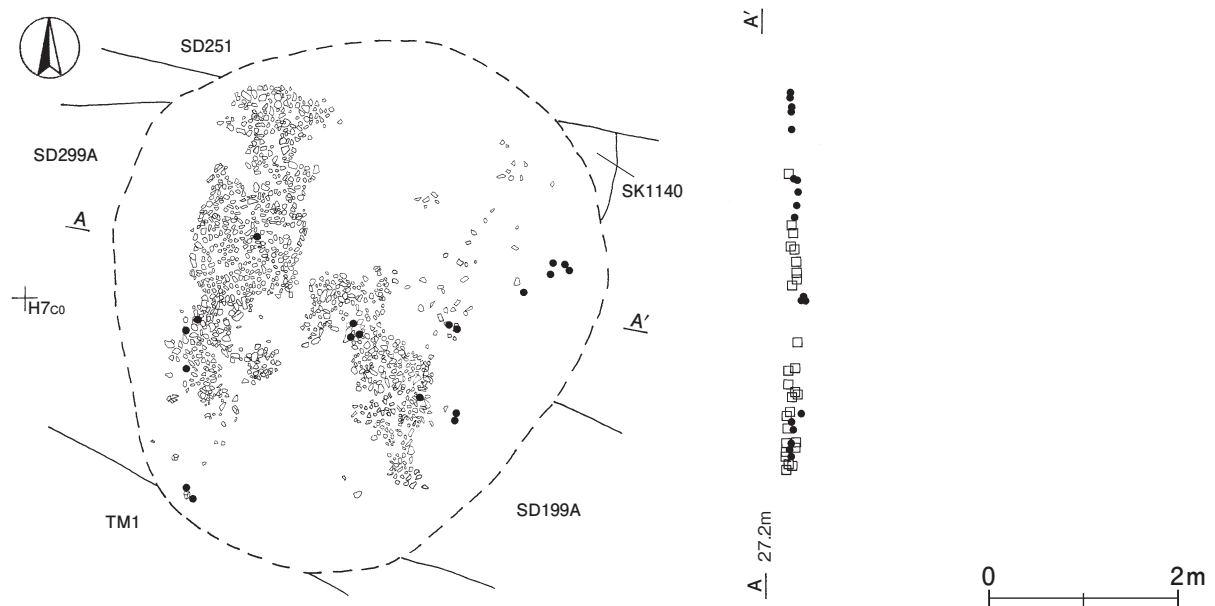
確認状況 遺構確認面上で、第1号墳の墳丘裾部に礫を敷き詰めたような状況で確認されている。

重複関係 第1号墳を掘り込み、第199A・229A・251号溝、第1139・1140号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径5.76m、短径5.22mの楕円形と考えられ、やや硬化した範囲が確認されている。長径方向はN-14°-Eで、深さは明確ではないが、敷き詰められた礫の厚さは10cmほどである。

遺物出土状況 土師質土器片16点（皿3、内耳鍋13）、陶器片1点（常滑系甕）、土師器片5点（甕）、円礫1033点が出土している。土器片はいずれも摩滅した小片であり、多くは流れ込んだものと考えられる。

所見 本跡は、第1号墳の墳丘南側の裾部に位置していることから、埋葬施設と推測される。その敷石類は、石棺の板石を抜き取るなど後世の攪乱を受けたと考えられる。当遺跡から1kmほど南東に位置している中根中谷津遺跡で、第1号墳から石材が抜かれた半地下式の埋葬施設（箱形石棺）と床面に小形の板石が敷かれていた状況が確認されており、時期的にも類似性が認められる。



第584図 第2号不明遺構実測図

第3号不明遺構（第585・586図）

位置 調査区中央部のI 6 g8区で、標高26mほどの台地の平坦部に位置している。

確認状況 第325号溝の底面から確認され、掘り込みを進めていった結果、大規模な袋状の土坑が確認された。この袋状の土坑を第1564A号土坑とし、土層断面から新たに確認された土坑を第1564B号土坑とした。調査の結果、いずれの土坑も性格が不明確であるため、合わせて1基の不明遺構として報告する。

重複関係 第325号溝に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.33m、短径1.83mの不整楕円形で、下端の平面形は長径4.92m、短径4.45mの楕円形である。第325号溝の底面である確認面から、深さ228cmの地点まで掘り下げたが、これ以下は湧水もあり危険性が高いため確認できなかった。長径方向はN-8°-Wで、長径の断面形は逆漏斗形を呈している。

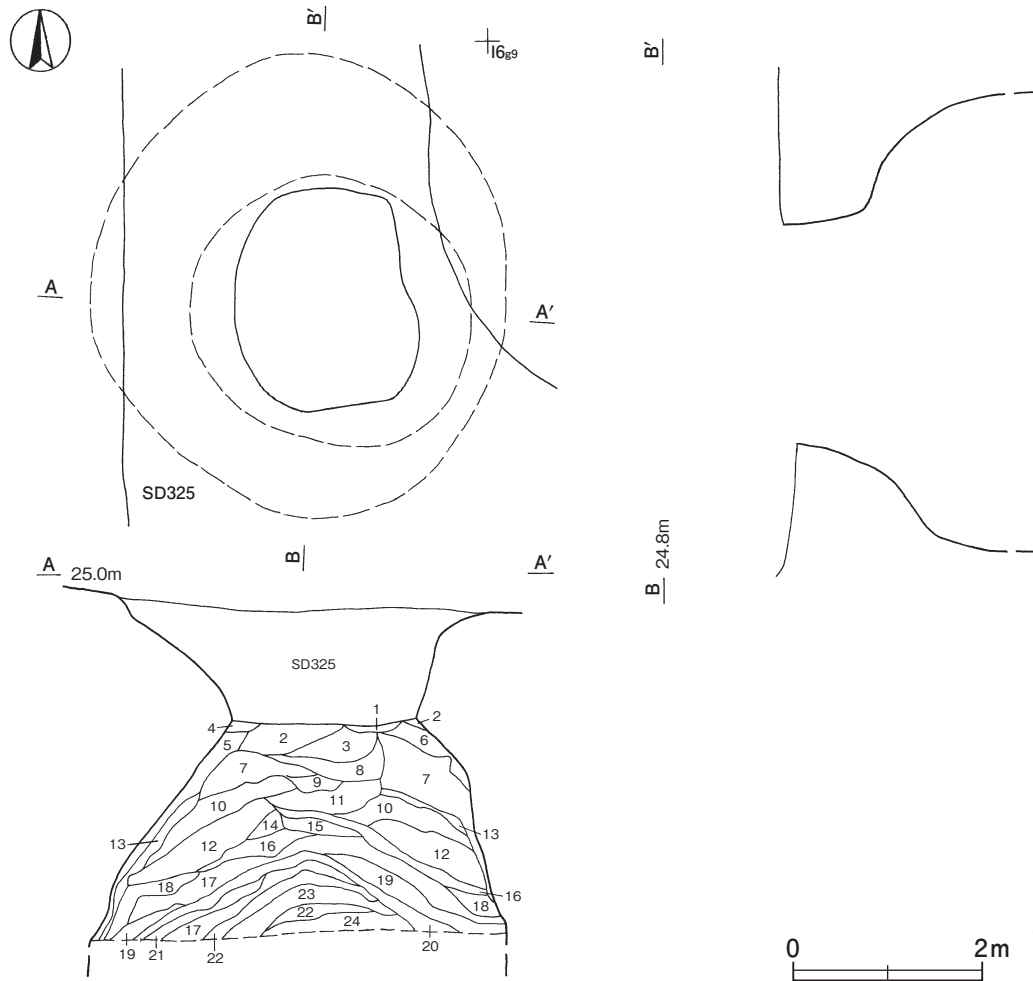
覆土 24層に分層され、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

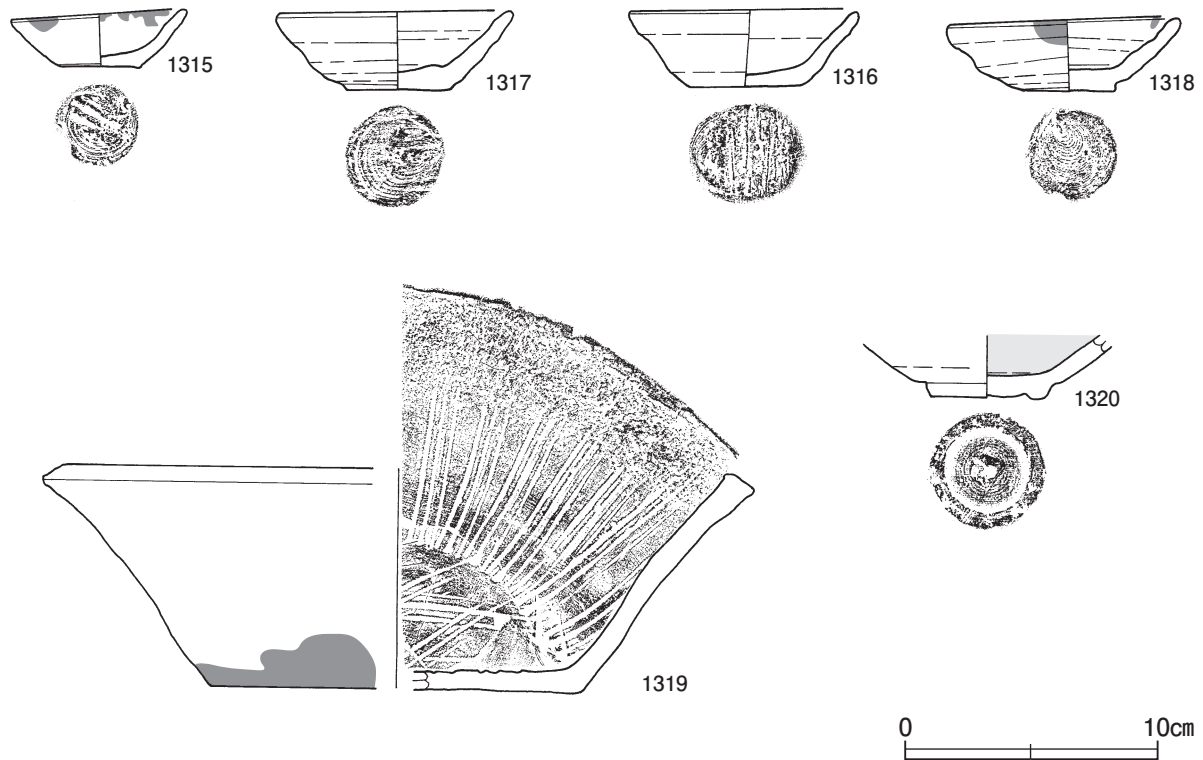
| | | | | | |
|-----------|---|-----------------------|-----------|---|--------------------------|
| 1 灰 | 色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 14 黒 | 色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 オリーブ黒色 | | 黒色泥多量, 砂粒微量 | 15 黒 | 色 | 粘土ブロック少量 |
| 3 オリーブ黒色 | | 砂粒中量, 黒色泥微量 | 16 黒 | 色 | 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子微量 |
| 4 オリーブ色 | | ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量 | 17 黒 | 色 | 粘土ブロック・炭化物少量, ローム粒子・砂粒微量 |
| 5 オリーブ色 | | 粘土粒子多量, ローム粒子中量 | 18 オリーブ黒色 | | 粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 6 オリーブ色 | | 砂粒多量, 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 19 黒 | 色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 7 灰オリーブ色 | | 砂粒多量, 黒色泥微量 | 20 黒 褐 | 色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 8 オリーブ黒色 | | 粘土粒子多量, 黒色泥中量 | 21 黒 褐 | 色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 9 黒 | 色 | 粘土粒子・黒色泥多量, 貝中量 | 22 オリーブ黒色 | | 粘土ブロック・砂粒少量 |
| 10 オリーブ黒色 | | 砂粒・黒色泥中量 | 23 黒 | 色 | 粘土粒子少量, 砂粒微量 |
| 11 黒 | 色 | 粘土ブロック・砂粒少量 | 24 黒 | 色 | 粘土ブロック・砂粒微量 |
| 12 オリーブ黄色 | | ローム粒子・砂粒少量, 粘土ブロック微量 | | | |
| 13 オリーブ黒色 | | 黒色泥多量, 焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師質土器片93点（皿24, 内耳鍋54, 甕4, 播鉢11）, 陶器片4点（皿3, 常滑系甕1）, 石器1点（石臼）, 木製品2点（杭, 曲げ物の蓋板カ）, 木片14片と、流れ込んだ縄文土器片1点, 土師器片1点, 須恵器片1点, 礫3点, 混入した瓦片1点（近世の平瓦カ）が出土している。1315～1320は、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は大規模な地下式坑と推測することもできるが、底面と下位の規模が確認できないため性格は不明である。16世紀後半に廃絶された溝跡の底面から確認されたこと、出土土器の様相も16世紀前半から中頃のものであることから、溝が掘削される前に機能していた可能性が考えられ、時期は16世紀前半と推定される。



第585図 第3号不明遺構実測図



第586図 第3号不明遺構出土遺物実測図

第3号不明遺構出土遺物観察表 (第586図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-------|--------|---------------|-------|----|-------------------------------------|------|--------------------|
| 1315 | 土師質土器 | 皿 | 6.9 | 2.4 | 3.1 | 長石・石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り・板目状圧痕 成形にゆがみ | 覆土中 | 80% 口辺部油煙附着 |
| 1316 | 土師質土器 | 皿 | 8.9 | 3.1 | 4.2 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り・板目状圧痕 | 覆土中 | 70% 成形にゆがみ |
| 1317 | 土師質土器 | 皿 | 9.1 | 3.2 | 4.0 | 長石・石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り・板目状圧痕 | 覆土中 | 70% |
| 1318 | 土師質土器 | 皿 | 9.2 | 3.0 | 3.6 | 長石・石英 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り | 覆土中 | 80% 成形にゆがみ 口辺部油煙附着 |
| 1319 | 土師質土器 | 播鉢 | [26.5] | 8.7 | [14.8] | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部端部角張る 内・外面ナデ 3条 1単位の播り目カ | 覆土中 | 40% 体部下端に煤附着 |
| 1320 | 陶器 | 皿 | — | (2.5) | 4.6 | 精良 透明釉 | 灰白・淡黄 | 良好 | 削りだし高台 内面全面施釉 | 覆土中 | 30% 瀬戸・美濃系 |

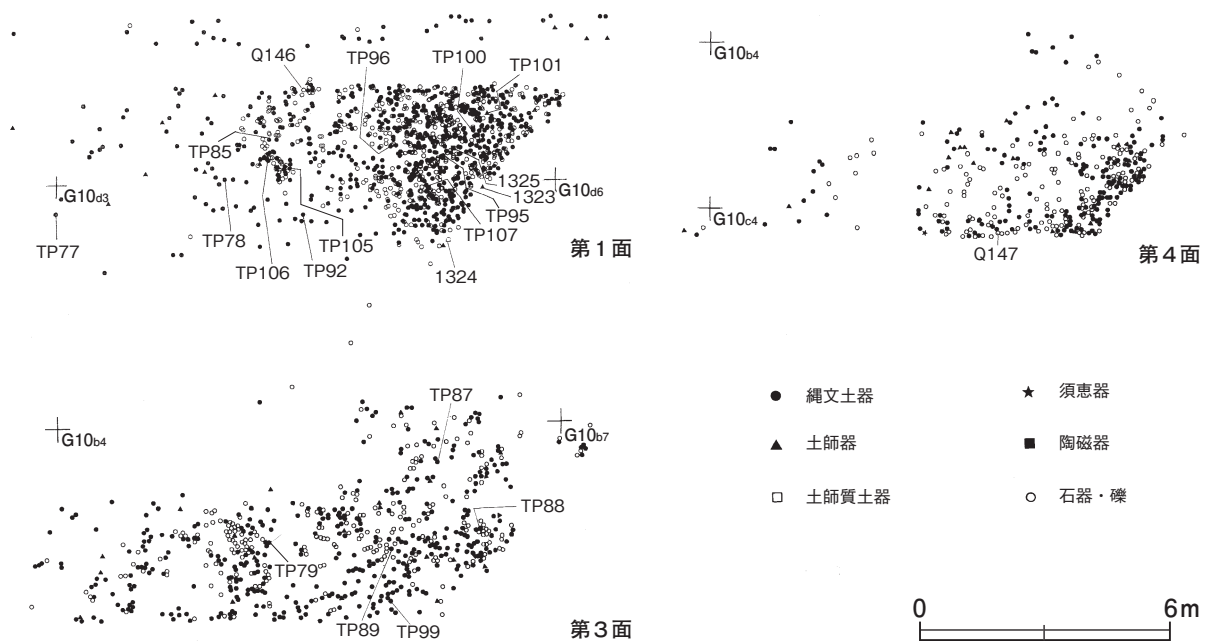
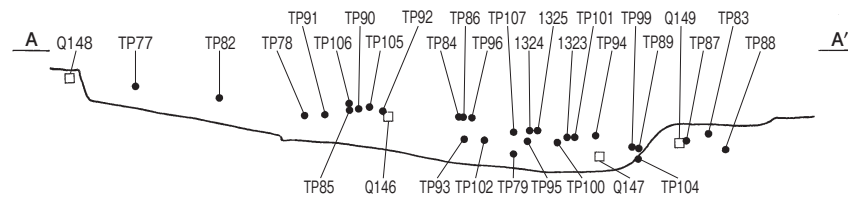
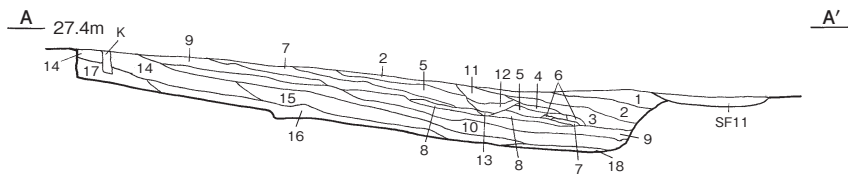
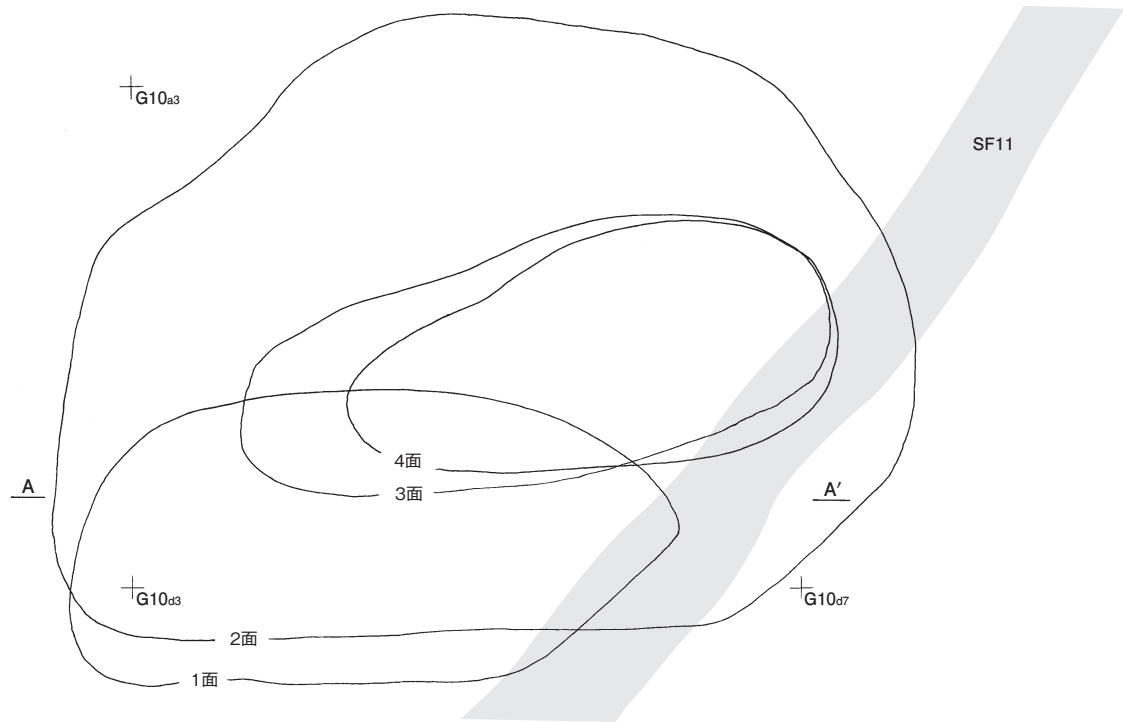
表40 不明遺構一覽表

| 番号 | 位置 | 長径(軸)方向 | 平面形 | 規模(m, 深さはcm) | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|----|-------|---------|-------|-----------------|-------|-----|----|----|--------------------|------------------------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸) | 深さ | | | | | |
| 1 | F11c4 | N-67°-W | 不定形 | 15.32 × 2.12 | 2~32 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 縄文土器, 土師器, 埴輪, 円礫 | |
| 2 | H7b6 | N-14°-E | 楕円形カ | (5.76) × (5.22) | — | 緩斜 | 不明 | 不明 | 土師質土器, 陶器, 土師器, 円礫 | TM1→本跡→SD199A・229A・251・SK1139・1140 |
| 3 | I6g8 | N-8°-W | 不整楕円形 | 2.33 × 1.83 | (228) | 漏斗状 | 不明 | 人為 | 土師質土器, 陶器, 土師器, 円礫 | SD325→本跡 |

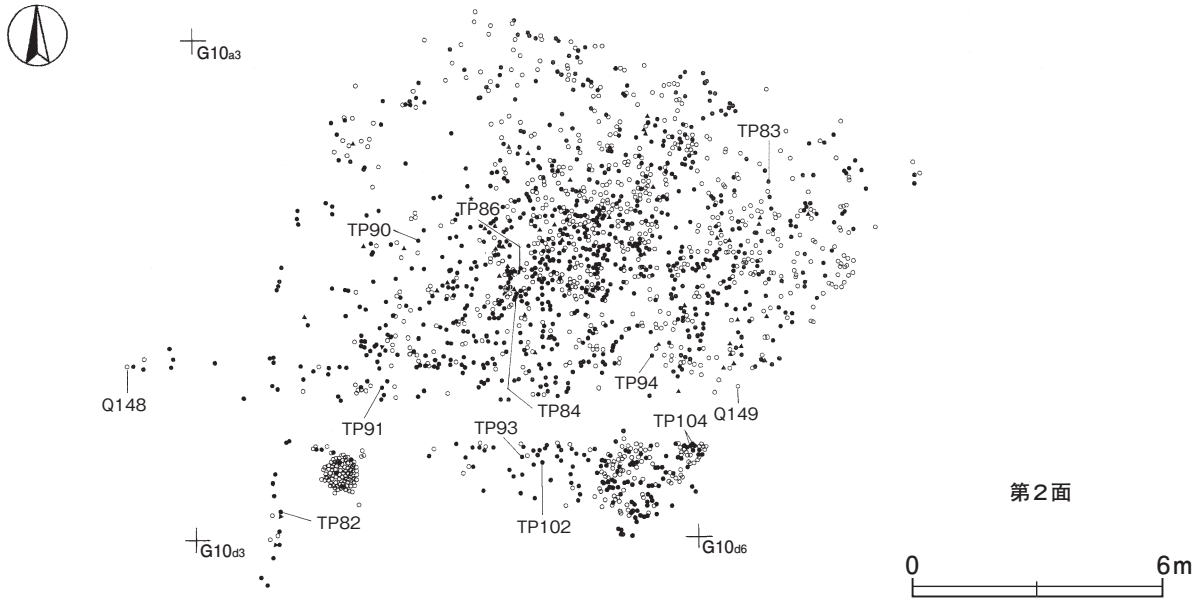
(7) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第587~591図)

位置 調査区北東部のG10a2~G10d7区で, 標高27mの台地東側斜面に位置している。



第587図 第1号遺物包含層実測図(1)



第588図 第1号遺物包含層実測図(2)

確認状況 G10区地点は標高24～27mで、東に入り込んでいる谷津へ流れ込むような斜面部が扇状に広がっている。斜面部には黒色土が堆積しており、黒色土中に縄文土器片と礫を中心とした遺物が多量に確認されたため、遺物包含層として調査を実施した。

調査範囲 G10a4～G10e8区域内の約68㎡の範囲である。

重複状況 調査範囲域を第11号道路が北東方向に延びている。

覆土 18層に分層される。第11～13層は攪乱を受けた層であり、第1～10・14～17層が流れ込んで堆積した層で、第18層は地山の土層である。

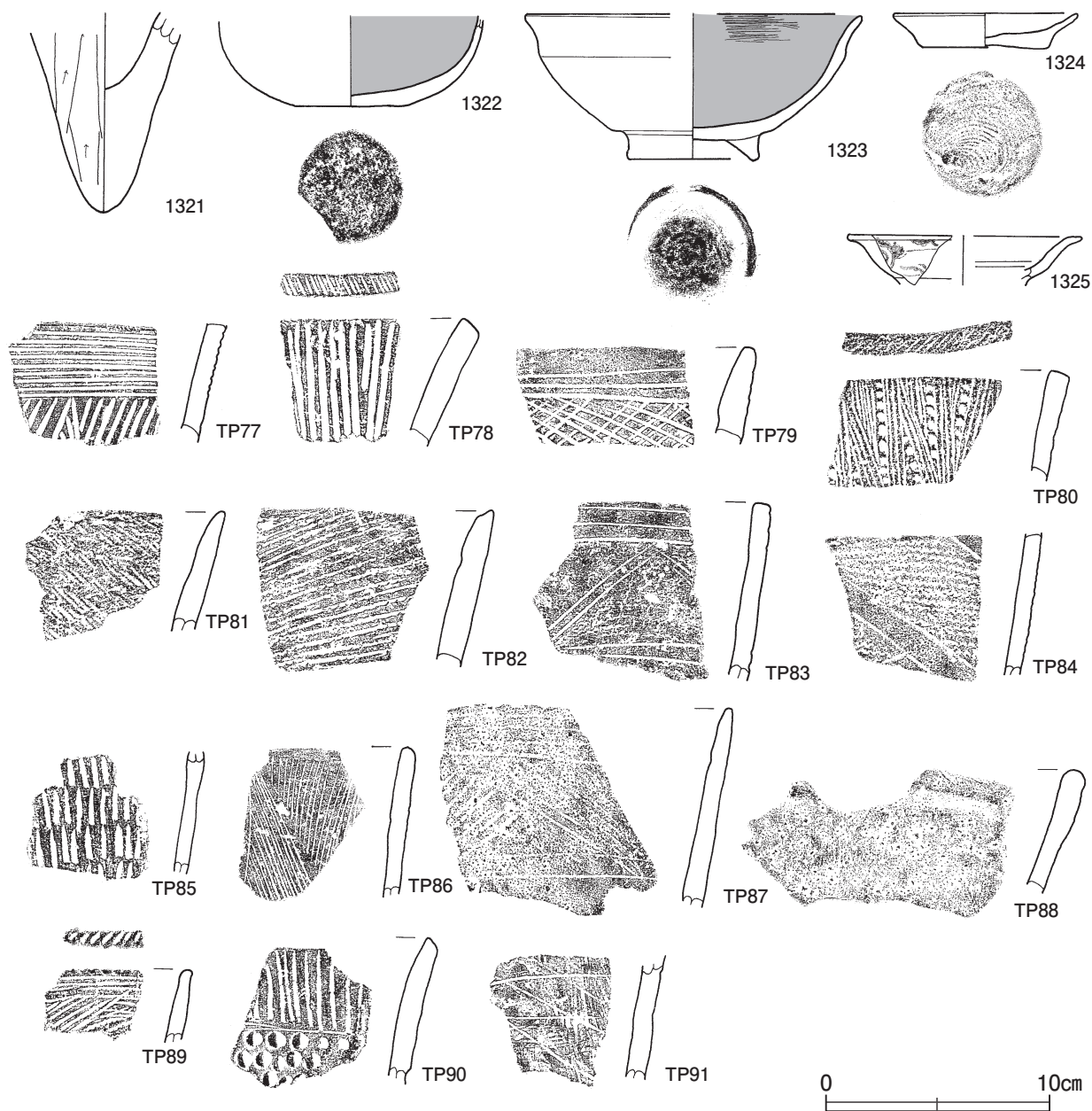
土層解説

| | | | |
|--------|---------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 8 黒色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 極暗褐色 | ローム粒子微量(粘土質で粘性・締まりとも強い) |

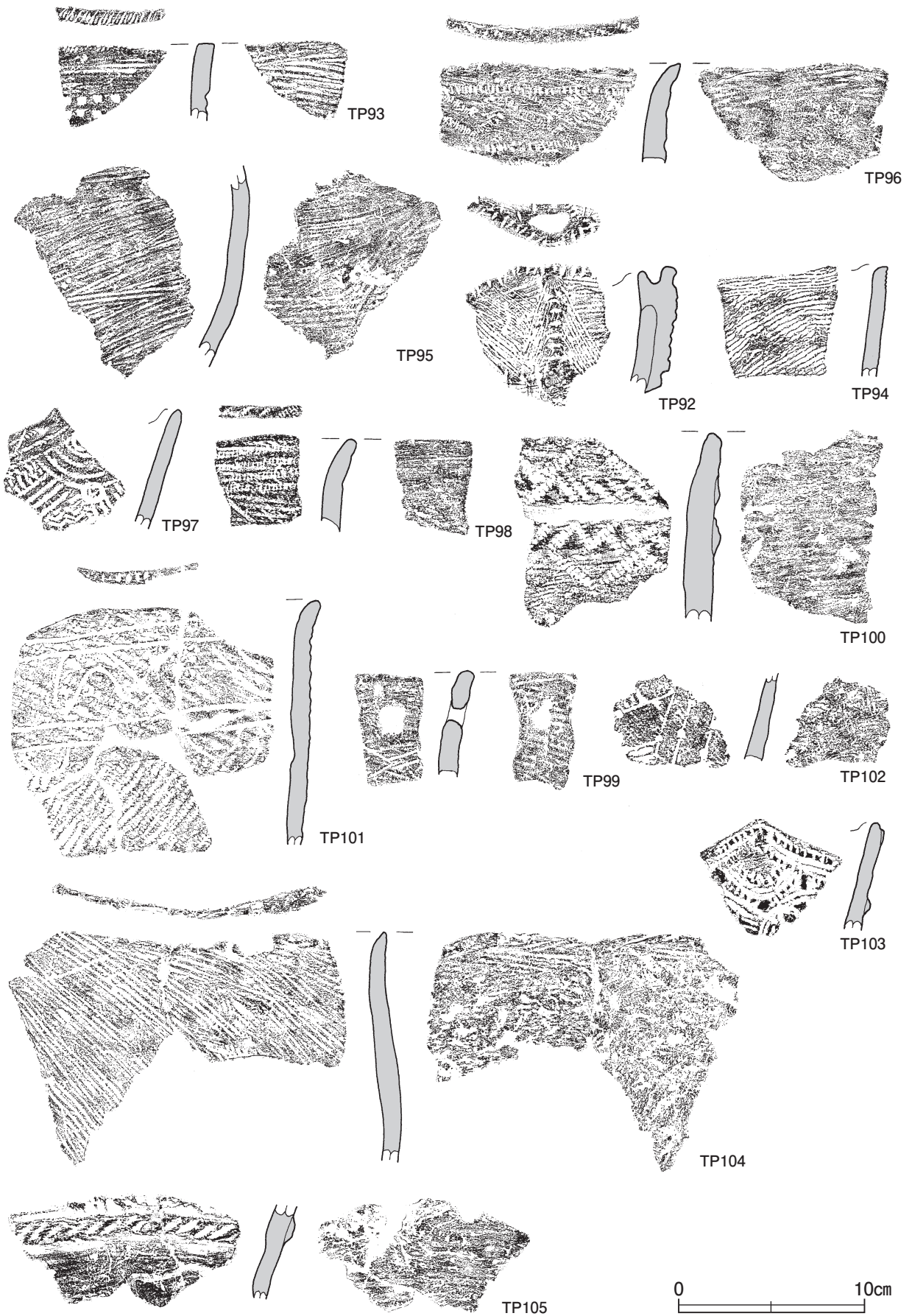
遺物出土状況 縄文土器片2495点(早期中葉255, 早期末葉から前期前半2152, 中期83, 後期5), 弥生土器片8点, 土師器片118点, 須恵器片2点, 土師質土器片23点, 陶器片1点, 磁器片1点, 土製品1点(球状土錘), 石器6点(磨石2, 鎌4), 剥片2点, 鉄製品3点(不明), 鉄滓1点, 礫2272点が出土している。遺物は、覆土第10層以下からは確認されていない。出土範囲と出土位置との関係を見ると、大きく4期にわたって流れ込んだと考えられ、第1～4面を中心に出土している。第4面では中央部を中心に出土しており、第3面では第4面の範囲よりやや広めの範囲で出土している。第2面では一部礫が集中的に出土している地点もあるが、ほとんどは広範囲に出土しており、第1面は南下半部に集中して出土している。出土土器は縄文時代早期から近世の陶磁器まで見られ、縄文土器はいずれの層位からも多量に確認されている。一方、土師器は第3・4面からも出土が見られるが、出土数の7割が第1・2面を中心に出土しており、陶磁器は第1面からの出土である。

所見 調査前の現況は桑畑であり、あまり人手が入っていない状況であった。中世後半から機能していたと考

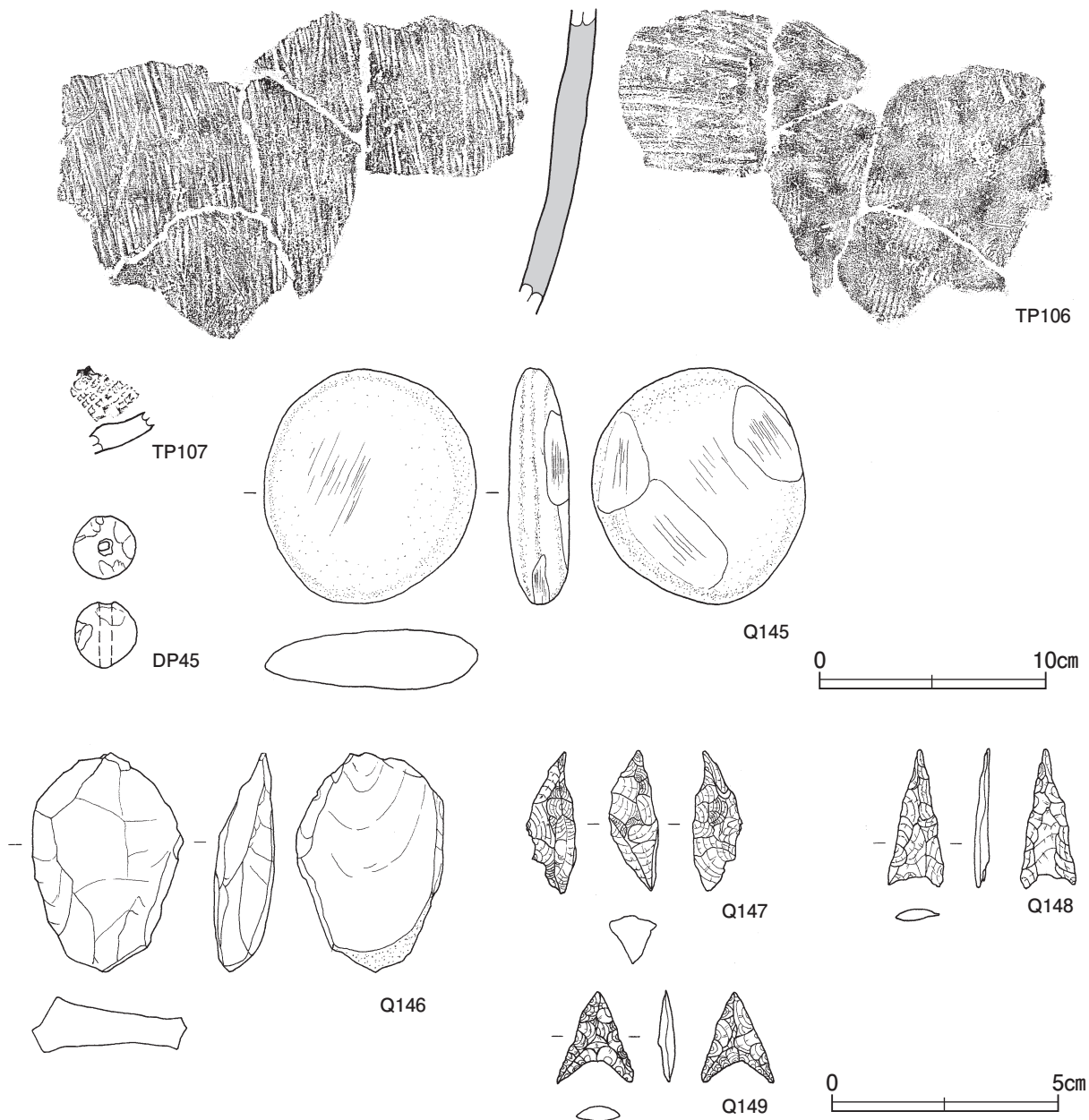
えられる第11号道路跡が覆土第1層上に構築されており、中世後半までに包含層のほとんどは形成されていたと推測される。また、早期末葉から前期前半期の多量の縄文土器は、縄文前期に集落が拡大したことを現し、土師器・須恵器が混在して出土していることは、平安時代以降にかなりの遺構が攪乱を受けたと想定できる。礫は、2272点出土しているが、焼けて赤変しているものが全体の14.3%、割れているもの20.2%、赤変し割れているものが33.9%を占めている。礫は古墳時代以降の住居跡の覆土からも流れ込んだ状況で出土しており、その多くは縄文時代早～前期のものと考えられる。また、この調査区は小字名で「石塔」と呼ばれる区域であり、中世後半頃にはすでに石塔が並ぶ墓域であった可能性が推測されるが、中世の墓坑は確認されておらず、石塔の並ぶ参り墓であった可能性が推察される。中世の墓域から礫や石塔が検出されている事例は、当遺跡から3kmほど北、同じ桜川右岸の台地縁辺に位置している松原遺跡内で確認されているが、本遺構との関連については不明である。



第589図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第590图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(2)



第591図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第1号遺物包含層 (第589～591図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|------|--------|-------|-------|---------------|-------|----|-------------------------|----------|------|
| 1321 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (9.0) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部片 体部内・外面ナデ | 覆土中 | 早期中業 |
| 1322 | 土師器 | 坏 | — | (4.1) | 4.7 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明黄褐 | 普通 | 外面摩滅のため調整不明 | 覆土中 | 30% |
| 1323 | 土師器 | 高台付碗 | [15.0] | 6.6 | [6.0] | 長石・石英・赤色粒子 | 黒・浅黄橙 | 普通 | 高台貼付 口辺部を除き内・外面摩滅内面磨き | G10d5区1面 | 40% |
| 1324 | 土師質土器 | 皿 | 8.3 | 1.6 | 5.6 | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 浅黄橙 | 普通 | 内・外面ロクロナデ 底面回転糸切り見込にくぼみ | G10d5区1面 | 95% |
| 1325 | 磁器 | 皿 | [10.6] | (2.2) | — | 精良 透明釉 | 灰白・緑灰 | 良好 | ロクロ成形 内面に2重の輪 外面に草花文カ | G10d5区1面 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様・手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|----|----|-------|----|---------------|----|----|---------------|----------|---------------|
| TP77 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.4) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 横位と縦位の沈線文 | G10d2区1面 | 早期中業 PL119 |
| TP78 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.8) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部に刻み、縦位の沈線文 | G10c4区1面 | 早期中業 PL119 |
| TP79 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (4.4) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 明褐 | 普通 | 斜格子の沈線文 | G10b5区3面 | 早期中業 PL119 |

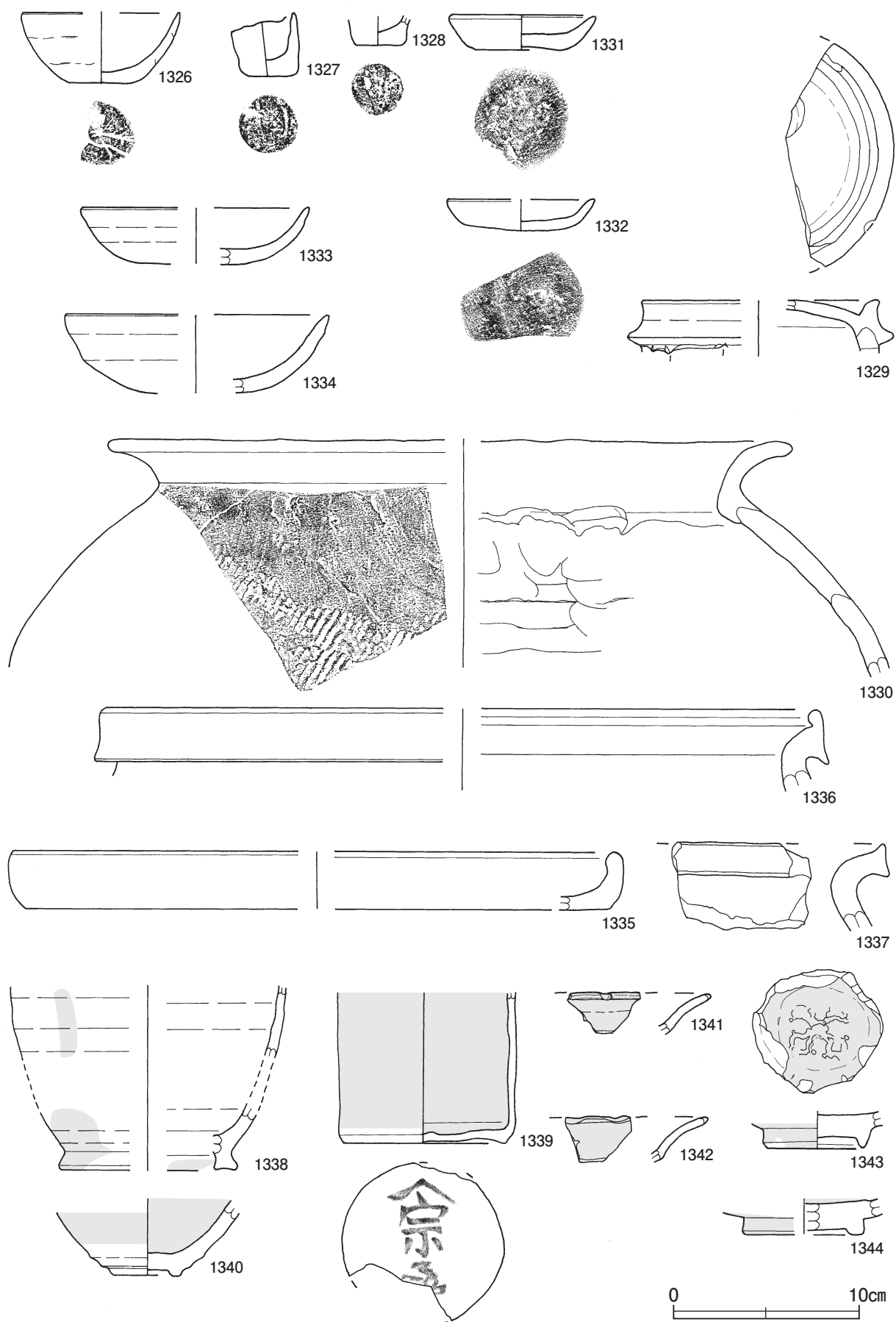
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 文様・手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|----|--------|----|------------------|----------|----|-------------------------------|------------|-----------------------|
| TP80 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (4.7) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口唇部に刻み、縦位の沈線文と刺突文 | G 10a8区 | 早期中葉 PL119 |
| TP81 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.3) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 短沈線文 | G 10b5区 | 早期中葉 PL119 |
| TP82 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (7.1) | — | 長石・石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 斜行の沈線文 | G 10c3区 2面 | 早期中葉 PL119 |
| TP83 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (8.0) | — | 長石・石英・雲母・礫 | 橙 | 普通 | 沈線文区画 | G 10a6区 2面 | 早期中葉 PL119 |
| TP84 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (6.3) | — | 長石・石英・雲母・礫 | 黄橙 | 普通 | 沈線文区画 区画内貝殻腹縁文 | G 10b4区 2面 | 早期中葉 PL119 |
| TP85 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.4) | — | 長石・石英・雲母 | 浅黄 | 普通 | 短沈線文 | G 10c4区 1面 | 早期中葉 PL119 |
| TP86 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (6.8) | — | 長石・石英・雲母 | 明褐 | 普通 | 細沈線文 | G 10b4区 2面 | 早期中葉 PL119 |
| TP87 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (8.9) | — | 長石・石英・雲母・礫 | 明褐 | 普通 | 沈線文区画 | G 10b6区 3面 | 早期中葉 PL119 |
| TP88 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.6) | — | 長石・石英・雲母・礫 | 橙 | 普通 | 表面摩滅 沈線文カ | G 10b6区 3面 | 早期中葉 PL119 |
| TP89 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (3.4) | — | 長石・石英・雲母・礫 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部に刻み、細沈線文 | G 10b5区 3面 | 早期中葉 PL119 |
| TP90 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (6.6) | — | 長石・石英・雲母 | 明褐 | 普通 | 沈線文と半竹管による刺突文 | G 10b4区 2面 | 早期中葉 PL119 |
| TP91 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.6) | — | 長石・石英・雲母 | 橙 | 普通 | 斜格子の沈線文 | G 10c4区 2面 | 早期 PL119 |
| TP92 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (6.9) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | 明黄褐 | 普通 | 地文貝殻条痕文 口唇部刻み沈線文 把手部片 | G 10d4区 1面 | 早期後葉 PL119 |
| TP93 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (4.2) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | にぶい黄褐 | 普通 | 地文貝殻条痕文 口唇部刻み沈線文 刺突文 | G 10c4区 2面 | 早期末葉 PL119 |
| TP94 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.4) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | にぶい黄褐 | 普通 | 口辺部沈線文 無節縄文L施文 | G 10b5区 2面 | 早期末葉 PL119 |
| TP95 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (10.8) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | にぶい褐 | 普通 | 表面面条痕文 | G 10c5区 1面 | 早期末葉 PL119 |
| TP96 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.3) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | にぶい褐 | 普通 | 地文貝殻条痕文 沈線文上を連続刺突 | G 10c5区 1面 | 早期末葉～前期 PL119 |
| TP97 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.4) | — | 長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維 | にぶい褐 | 普通 | 捺糸圧痕文 刺突文 円形竹管文 | 覆土中 | 前期前葉 花積下層 PL119 |
| TP98 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.0) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | にぶい橙 | 普通 | 地文貝殻条痕文 沈線文上を連続刺突 | 覆土中 | 早期末葉 TP96と同一個体カ PL119 |
| TP99 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.5) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | 明褐 | 普通 | 地文貝殻条痕文上沈線文 摩耗 | G 10c5区 3面 | 早期末葉 PL119 |
| TP100 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (9.7) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | 赤褐 | 普通 | 地文貝殻条痕文 口辺部横位隆帯 貝殻縁による三角状の文様帯 | G 10c5区 1面 | 早期末葉～前期 PL119 |
| TP101 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (12.9) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | 明赤褐 | 普通 | 地文LR, RLの羽状縄文, 口辺部沈線文 口唇部刻み | G 10c5区 1面 | 前期 PL119 |
| TP102 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (4.7) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | 橙 | 普通 | 地文貝殻条痕文 沈線文区画 竹管刺突文 | G 10c5区 2面 | 早期後葉 縄ヶ島台 PL119 |
| TP103 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.9) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | 明褐 | 普通 | 捺糸圧痕文と刻み 瘤状貼付 円形竹管刺突文 | 覆土中 | 前期前葉 花積下層 PL119 |
| TP104 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (12.5) | — | 長石・石英・雲母・礫・繊維 | 褐 | 普通 | 表裏貝殻条痕文 | G 10c5区 2面 | 前期 PL120 |
| TP105 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (5.0) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | にぶい黄橙 | 普通 | 地文貝殻条痕文 口辺部横位隆帯 | G 10c4区 1面 | 前期 PL120 |
| TP106 | 縄文土器 | 深鉢 | — | (13.6) | — | 長石・石英・雲母・繊維 | 褐 | 普通 | 表裏貝殻条痕文 | G 10c4区 1面 | 前期 PL120 |
| TP107 | 陶器 | 卸皿 | — | (3.0) | — | 長石・灰釉 | 灰白・にぶい黄橙 | 良好 | 斜格子の卸目 | G 10d5区 1面 | 中世 |

| 番号 | 器種 | 高さ | 孔径 | 幅 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|-----|-----|------|----|-------------|---------|----|
| DP45 | 球状土錘 | 3.0 | 0.5 | 2.8 | 24.4 | 土製 | 面取後ナデ 一部傷有り | G 10b6区 | |

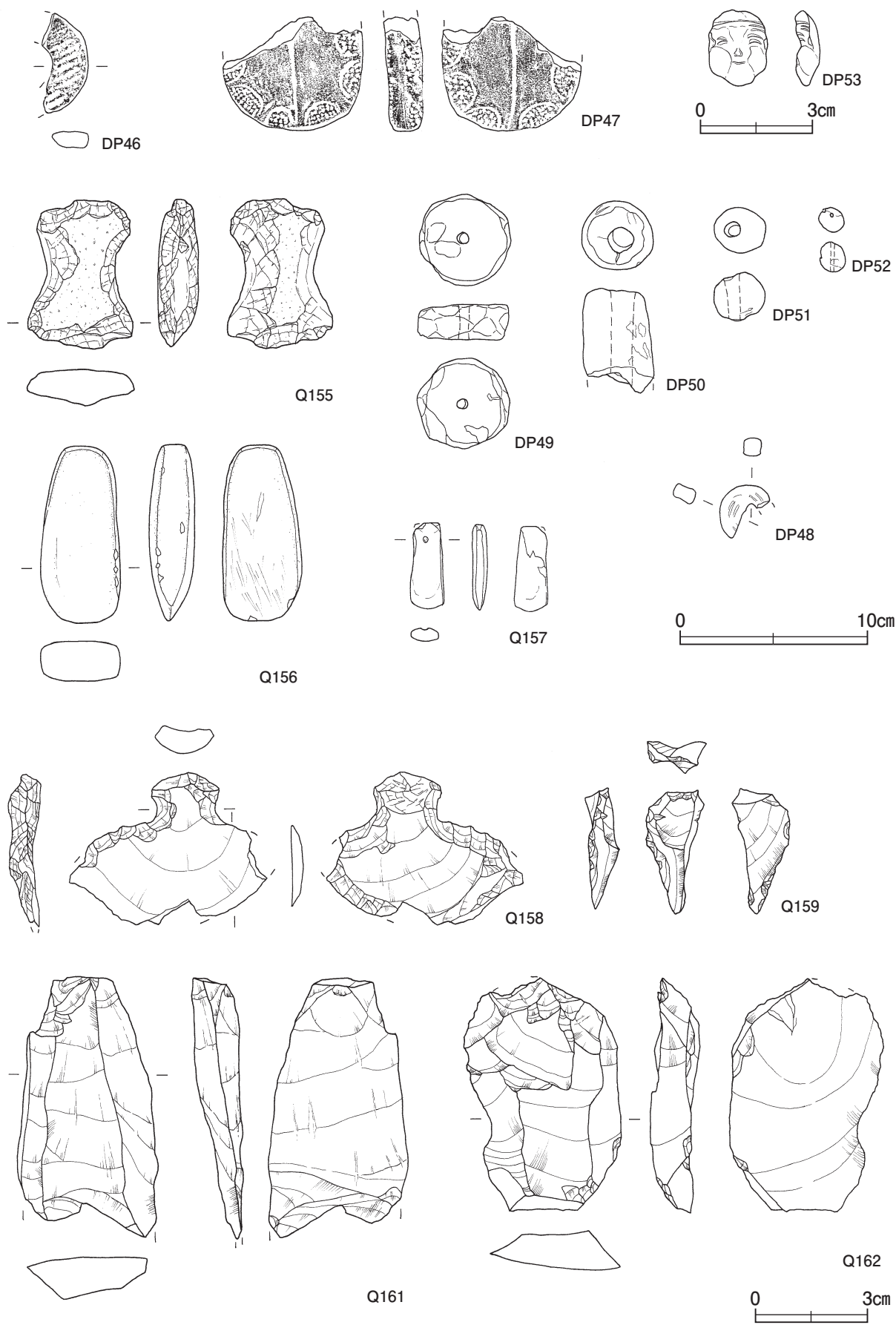
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|------|-----|-----|-------|-------|---------------------|------------|-------|
| Q145 | 磨石 | 10.5 | 9.6 | 2.7 | 362.4 | 安山岩 | 円板形 全面研磨痕 磨面4面 | 覆土中 | |
| Q146 | 剥片 | 4.9 | 3.4 | 1.3 | 22.5 | 硬質安山岩 | 縦長剥片 側縁に自然面を残す | G 10c4区 1面 | |
| Q147 | 剥片 | 3.1 | 1.1 | 1.1 | 2.9 | 黒曜石 | 縦長剥片 断面三角形 側縁部に調整 | G 10c5区 4面 | |
| Q148 | 石鎌 | 3.1 | 1.3 | 0.3 | 1.1 | チャート | 無茎 両面調整 側縁部に緻密な調整加工 | G 10b2区 2面 | PL120 |
| Q149 | 石鎌 | 2.0 | 1.7 | 0.4 | 0.7 | チャート | 無茎 両面調整 側縁部に緻密な調整加工 | G 10c6区 2面 | PL120 |

(8) 遺構外出土遺物 (第592～594図)

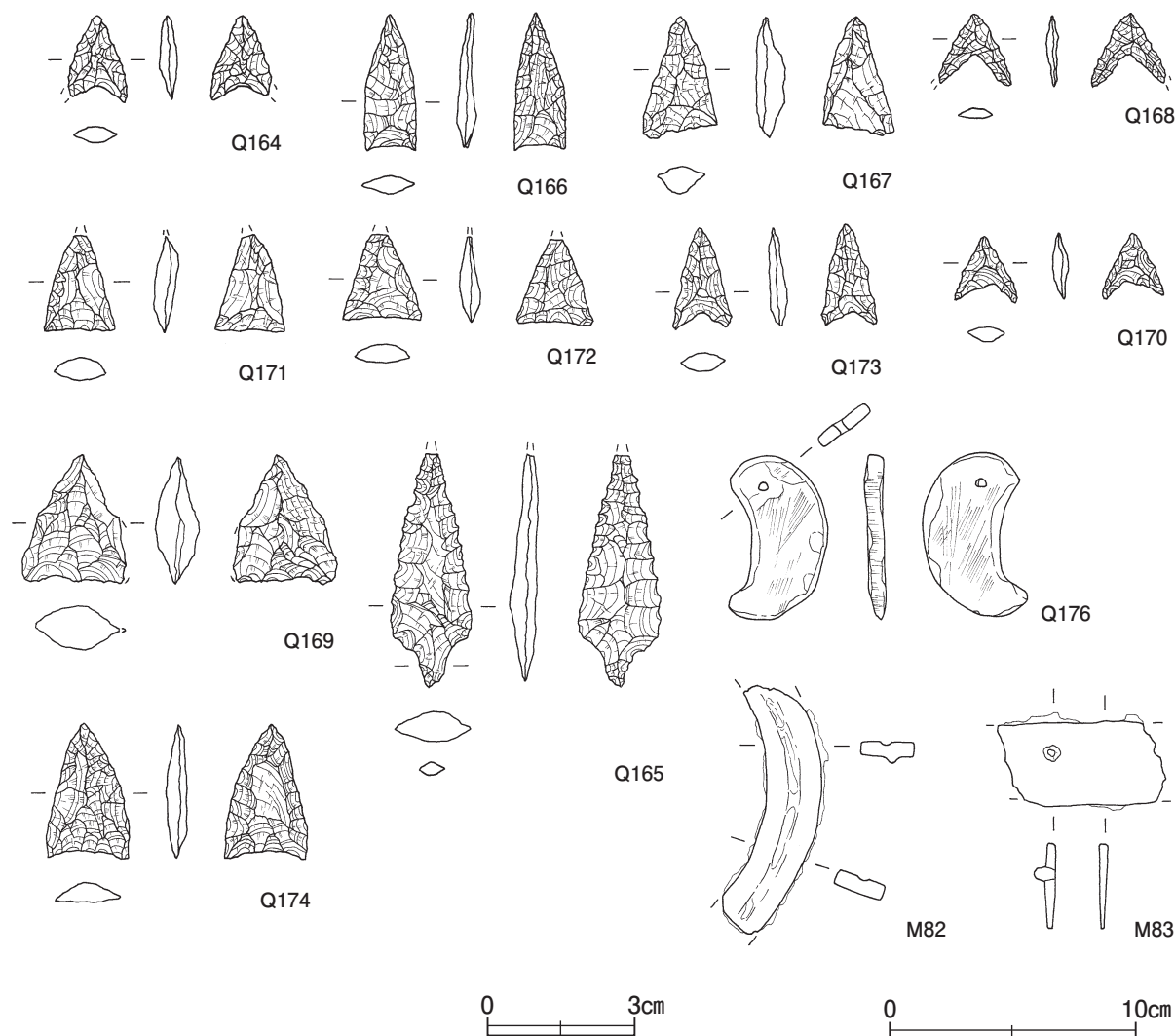
遺構に伴わない主な遺物については、実測図と出土遺物観察表で紹介した。



第592図 遺構外出土遺物実測図(1)



第593図 遺構外出土遺物実測図(2)



第594図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表 (第592 ~ 594図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|---------|--------|--------|--------|--------------|-----------|----|----------------------------------|--------------------|-----------------|
| 1326 | 土師器 | 椀 | [8.6] | (3.8) | 3.4 | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 外面輪積痕を残すナデ 内面丁寧なナデ 底部木葉痕 | SD245覆土中 | 25% 他に同器種4個体が出土 |
| 1327 | 土師器 | ミニチュア土器 | 3.3 | 3.5 | 3.0 | 長石・石英・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 内・外面指頭痕を残す丁寧なナデ | SI5覆土中 | 95% |
| 1328 | 土師器 | ミニチュア土器 | — | (1.6) | 2.6 | 長石・石英 | にぶい黄褐 | 普通 | 内・外面ナデ | SI5覆土中 | 70% |
| 1329 | 須恵器 | 円面硯 | [12.8] | (2.9) | — | 長石・石英 | 灰オリーブ | 普通 | 硯部滑らか 側面部ナデ 脚部に線刻と方形窓カ | TM1覆土中 | 10% |
| 1330 | 須恵器 | 甕 | [36.9] | (12.7) | — | 石英・雲母 | 褐灰 | 普通 | 口辺部横ナデ 体部外面斜位の敲き 内面当て具痕 輪積痕を残すナデ | SD28底面 | |
| 1331 | 土師質土器 | 皿 | 7.7 | 1.9 | — | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部丸底 底面ナデ調整 | SD28覆土下層 | 90% |
| 1332 | 土師質土器 | 皿 | [8.0] | 1.7 | — | 雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ 底部丸底 底面ナデ調整 | SD28覆土中層 | 30% |
| 1333 | 土師質土器 | 皿 | [12.2] | 3.0 | — | 黒色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底面丸底 | SD28覆土下層 | 35% |
| 1334 | 土師質土器 | 皿 | [14.4] | (4.3) | — | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底面丸底 | SD28覆土下層 | 30% |
| 1335 | 土師質土器 | 焙烙 | [32.2] | 3.1 | [31.6] | 長石・石英・赤色粒子・礫 | 黒褐 | 普通 | 内・外面ナデ | E 10h1~h6区 トレンチ | |
| 1336 | 陶器 | 甕 | [38.6] | (4.4) | — | 長石 | 暗灰黄 | 普通 | 口辺部片 内・外面横ナデ | SD47覆土中 | 常滑系カ |
| 1337 | 陶器 | 甕 | [27.6] | (4.7) | — | 長石・石英 | にぶい赤褐 | 良好 | 口辺部片 内・外面ナデ | SD245覆土中 | 常滑系 |
| 1338 | 陶器 | 瓶 | — | [10.0] | [9.4] | 緻密 灰釉 | 灰白・灰オリーブ | 良好 | 削り出し高台 ロクロ成形 外面に施釉 | SD245覆土中 | 10% 瀬戸・美濃系 |
| 1339 | 陶器 | 瓶 | — | (8.2) | 8.8 | 緻密 灰釉 | 淡黄・明オリーブ灰 | 良好 | 体部下半から底部の破片 筒状 底部に記名屋号カ 内・外面に施釉 | G8区 | 40% 墨書「宗屋」カ |
| 1340 | 陶器 | 天目茶碗 | — | (4.0) | 3.8 | 精良 褐釉カ | 灰白・黒褐 | 良好 | 底部回転系切り後削り出し高台 鉄釉の後に褐釉を施釉 露体に褐釉 | 底面 | 10% 瀬戸・美濃系 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土・釉薬 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|----|----|-------|-------|--------|----------|----|---------------------------------|----------|----|
| 1341 | 青磁 | 皿 | — | (2.0) | — | 精良 青磁釉 | 灰白・浅黄 | 良好 | 輪花皿の破片 口唇部内面に2条の沈線表面に貫入 | SI123覆土中 | |
| 1342 | 青磁 | 皿 | — | (2.2) | — | 精良 青磁釉 | 灰白・明緑灰 | 良好 | 輪花皿の破片 口唇部内面にわずかに2条の沈線を施す 表面に貫入 | L 4 c2区 | |
| 1343 | 青磁 | 皿 | — | (2.0) | 5.0 | 精良 青磁釉 | 灰白・灰オリーブ | 良好 | 底部破片 削り出し高台 畳付三角状内面に文様 高台部は雑に施釉 | J 5 j3区 | |
| 1344 | 青磁 | 皿 | — | (1.9) | [6.4] | 精良 青磁釉 | 淡黄・灰オリーブ | 良好 | 底部破片 削り出し高台 内・外面施釉 | K 4 c2区 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-------|-------|-----|--------|----|--------------------|----------|----------------|
| DP46 | 有孔円板カ | (5.4) | (2.5) | 0.9 | (10.8) | 土製 | 破片のため口径は不明 単節縄文を施文 | SD134覆土中 | PL122 |
| DP47 | 土版 | (6.2) | 7.5 | 2.1 | (98.8) | 土製 | 縁部に弧線区画 区画内刺突 | SD134覆土中 | 安行3c式 PL122 |
| DP48 | 挾状耳飾 | (2.9) | 3.0 | 1.0 | (5.1) | 土製 | ナデ調整 | K 4 d3区 | PL122 |
| DP53 | 泥面子 | 2.0 | 1.6 | 0.7 | 1.7 | 土製 | ひよつとこ面カ 一部摩滅 | L 3 g0区 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-------|---------|---------|--------|----|----------------|----------|-------|
| DP49 | 紡錘車 | 4.9 | 0.6 | 1.9 | (54.5) | 土製 | 側面取痕 全面ナデ 一部欠損 | SD134覆土中 | PL122 |
| DP50 | 管状土錘 | (6.6) | 1.2~1.4 | 3.7~3.9 | (77.5) | 土製 | 全面ナデ 50%ほどの破片カ | SD209確認面 | |
| DP51 | 球状土錘 | 2.7 | 0.6~0.9 | 2.5~2.8 | 16.6 | 土製 | 全面ナデ 一部摩滅 | H 10a5区 | PL122 |
| DP52 | 球状土錘 | 1.7 | 0.3 | 1.5 | (2.5) | 土製 | 全面ナデ 一部欠損 | H 10a5区 | PL122 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|--------|--------|-----|----------|-------|--------------------------------|-----------|----------------|
| Q155 | 打製石斧 | 8.0 | 5.7 | 2.2 | 122.7 | 安山岩 | 分銅型 刃部摩滅 | M 5 c1区 | PL121 |
| Q156 | 磨製石斧 | 9.5 | 4.3 | 2.5 | 183.4 | 安山岩 | 側面に擦痕 | SK943覆土中 | PL121 |
| Q157 | 磨製石斧 | 4.6 | 1.7 | 0.8 | (11.0) | 滑石 | 模造品カ 柄の部分にわずかな凹 柄の先端欠損 | SI124覆土中 | PL121 |
| Q158 | 石匙 | (4.1) | (5.3) | 0.9 | (11.7) | チャート | 両端部欠損 両面に剥離痕を残し、両側縁及び基部は両面から調整 | SI27覆土中 | PL121 |
| Q159 | 剥片 | 3.3 | 2.0 | 0.8 | 1.9 | 硬質安山岩 | 縦長剥片 両側縁部に剥離調整 | SI61覆土中 | |
| Q160 | 剥片 | 6.2 | 1.8 | 1.0 | 4.4 | 珪質頁岩 | 縦長剥片 彫刻刀形 背面中央に稜をもつ | SI118覆土中 | 実測図なし PL121 |
| Q161 | 剥片 | (7.0) | 3.8 | 1.5 | (23.0) | 珪質頁岩 | 縦長剥片 先端部欠損 両側縁部に剥離調整 | SI118覆土中 | PL121 |
| Q162 | 剥片 | (6.2) | 4.2 | 1.4 | (28.5) | 珪質頁岩 | 縦長剥片 先端部欠損 片側縁部に剥離調整 | G 5 f5区 | PL121 |
| Q163 | 石核 | 7.2 | 5.2 | 3.7 | 113.7 | 珪質頁岩 | 打面 1面に礫面を残す | PG63域 | 実測図なし PL121 |
| Q164 | 石鏃 | (1.7) | 1.2 | 0.4 | (0.5) | チャート | 無茎 片脚部端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SI15覆土中 | PL120 |
| Q165 | 石鏃 | (4.7) | 1.7 | 0.6 | (3.3) | 硬質頁岩 | 有茎 先端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SI25覆土中 | PL120 |
| Q166 | 石鏃 | 2.8 | 1.1 | 0.4 | 1.0 | チャート | 無茎 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SI26覆土中 | PL120 |
| Q167 | 石鏃 | 2.5 | 1.4 | 0.6 | 1.9 | 硬質安山岩 | 無茎 肥厚型 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SI29覆土中 | PL120 |
| Q168 | 石鏃 | 1.5 | 1.5 | 0.2 | (0.3) | チャート | 無茎 両面調整 側片部に緻密な調整加工 片脚部先端欠損 | SI34覆土中 | PL120 |
| Q169 | 石鏃 | 2.6 | 2.1 | 0.9 | (3.6) | 硬質頁岩 | 無茎 肥厚型 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SI37覆土中 | PL120 |
| Q170 | 石鏃 | 1.4 | 1.3 | 0.3 | 0.3 | チャート | 無茎 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SI75覆土中 | PL120 |
| Q171 | 石鏃 | (2.0) | 1.5 | 0.6 | (1.3) | 瑪瑙 | 無茎 肥厚型 先端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SK703覆土中 | |
| Q172 | 石鏃 | (1.7) | 1.6 | 0.4 | (1.0) | チャート | 無茎 先端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SK703覆土中 | PL120 |
| Q173 | 石鏃 | 2.0 | 1.2 | 0.4 | 0.6 | チャート | 無茎 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | SK1134覆土中 | PL120 |
| Q174 | 石鏃 | 2.7 | 1.7 | 0.4 | 2.0 | チャート | 無茎 両面調整 側片部に緻密な調整加工 | M 6 b4区 | PL120 |
| Q175 | 石皿 | (21.3) | (17.6) | 8.2 | (2399.8) | 安山岩 | 表面滑らか 表面口縁部と裏面底部に凹 凹石転用カ | SK710覆土中 | 実測図なし PL124 |
| Q176 | 模造品 | 3.3 | 2.1 | 0.4 | 4.1 | 滑石 | 勾玉 一方から穿孔 孔径0.2cm 全面研磨 | SK1143覆土中 | PL121 |
| Q177 | 穂積具カ | 8.8 | 5.0 | 1.7 | 89.8 | 安山岩 | 表面滑らか 断面三角形 裏面に擦痕3か所 | SI17覆土中 | 実測図なし PL121 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|--------|-------|---------|--------|----|--|----------|----------------|
| M82 | 蹄鉄 | (10.2) | (4.0) | 0.6~1.0 | (63.1) | 鉄 | 蹄鉄の一部 中央部に溝 釘孔錆により塞がる | SD227覆土中 | PL123 |
| M83 | 刀 | (6.9) | 3.4 | 0.4 | (17.7) | 鉄 | 茎のみ遺存 | SD227覆土中 | |
| M84 | メダル | 2.4 | 0.25 | 0.4 | 3.2 | 銅カ | 上部突起に紐をかける孔 表「栗原村」記名 裏日照旗が交差と桐・菊の図 中央に□□會記文 明治から昭和初期のものカ | 表採 | 実測図なし PL123 |

第4節 ま と め

今回の調査で、上野古屋敷遺跡が旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが確認された。ここでは、周辺遺跡との関連を踏まえて各時代ごとの様相の概要と、第1号墳の周溝内土壙1から出土した埴輪棺について述べ、まとめとする。

1 各時代の様相について

(1) 旧石器時代

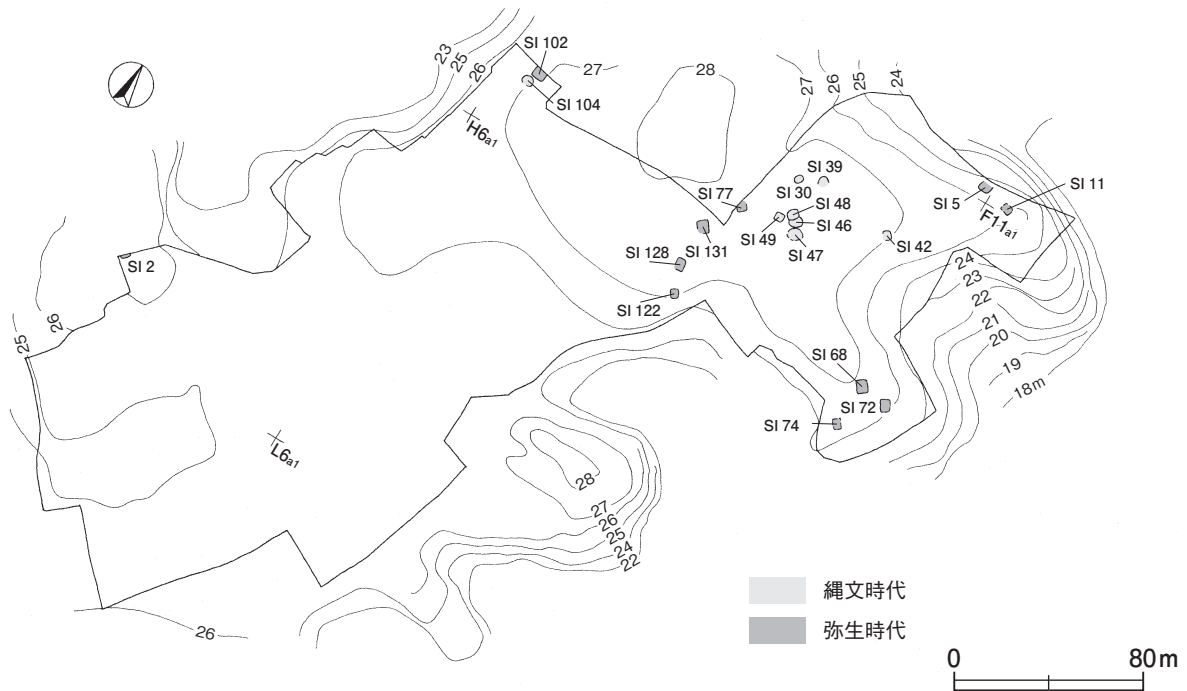
この時代の遺物は、ローム層が比較的厚く堆積している標高26～28mのやや標高の高い調査区北東部及び東部の遺構確認面と第1号石器出土地点から主に確認されている。石材は硬質安山岩と頁岩が中心で、調査区中央部の遺構確認面で珪質頁岩の石核1点が採集されているほかは、いずれも剥片である。石材の特徴は、谷を挟んで北西100mほどの地点に位置している上野陣場遺跡で確認されている石材の様相と同類である¹⁾。このことから、谷を挟んだ両台地上では、この時代の生活の痕跡が確認されている。

(2) 縄文時代（第595図）

遺構は、竪穴住居跡8軒（前期前半頃7、中期後葉1）、土坑22基（早期後葉1、前期前半17、前期後半1、中期中葉3）が確認されている。第104号住居跡が調査区西部の北端部に確認されている以外は、いずれも調査区北東部の標高27～28mの範囲から確認されている。確認された遺構は削平などの攪乱を受けて遺存状況が不良なため、住居跡の傾向や集落の特徴付けは困難である。出土した遺物は、早期中葉～後葉、前期前葉～前期後葉、中期中葉～中期後葉の3期に大別される。遺物は当該期の遺構のほか、第1号遺物包含層や表面採集、さらに後世の遺構からも早期後葉から前期前半にかけての土器を中心に磨石・石鏃・石斧などが確認され、後世の攪乱が激しかったことが推測される。遺構は確認されなかったが、早期中葉の土器が第1号遺物包含層を中心に数多く出土していることから、この時期には小規模な集落が形成され、遺構数や遺物の出土量から前期前半頃には小規模ながら集落が展開していたと想定される。そして中期には、当遺跡の北側に隣接する上野天神遺跡が中心的な遺跡に比定されていることから、当遺跡を含めた集落が前期に比べ、北側の台地縁辺部に移動して展開していたと推察される。上野陣場遺跡でも、同時代の竪穴住居跡8軒（前期前半6、前期後半1、中期後半1）、土坑8基（前期前半3、前期後半1、中期中葉2、後期前半1、縄文期1）と幅広い期間で遺構と遺物が確認されている²⁾ことから、谷を挟んだ台地上にも小規模な集落が点在していたと考えられる。さらに、当遺跡の南東に近在し縄文土器片の散布が確認されている上境作ノ内遺跡や南東方向約1kmの地点に所在している中・後期を主体とした上境旭台貝塚と中根中谷津遺跡を合わせて、長期間に台地縁辺部を中心として集落が展開していたことが窺える³⁾。

(3) 弥生時代（第595図）

弥生時代には後期の竪穴住居跡11軒が確認され、集落が沖積低地と谷津により近い台地縁辺部に形成されていたことが判明した。小規模な住居跡は方形、大型の住居跡は隅丸長方形を呈し、ほぼ中央部に炉を構築している。第2号住居跡が調査区南部西端の調査区域外との境、また第102号住居跡が調査区西部北端の調査区域外との境に確認されている以外は、調査区北東部と中央部の北寄りと東寄りに2～4軒で単位集団を形成している。これらは、第5・11号住居跡、第68・72・74号住居跡、第77・122・128・131号住居跡でまとめられる集団である。これらの中で第68号住居跡は、炉の作り替えによる移設が確認されている。なお、第5号住居跡を除いて、出土土器は少量である。



第595図 変遷図1（縄文・弥生時代）

この時期も、上野陣場遺跡では後期後半の時期に比定されている竪穴住居跡5軒、土坑1基と数は多くはないが確認されており⁴⁾、縄文時代と同様に当遺跡との密接な関係が想定される。このほか、当遺跡が位置している台地上の北方1.5kmにも同時期の住居跡が検出された玉取遺跡・玉取向山遺跡が所在し⁵⁾、当遺跡の南東側に近在している上境作ノ内遺跡でも弥生土器の散布が確認されている⁶⁾。いずれの遺跡も小規模の集落と想定され、当遺跡と同様に台地の縁辺部、谷津を利用できる台地上に位置している。この時期、台地に入り込んだ低湿地の谷部は、谷津田として開発されていったものと推測される。

(4) 古墳時代（第596図）

当該期の遺構は、竪穴住居跡54軒、掘立柱建物跡1棟、古墳1基、古墳周溝内土壙2基、土坑2基が確認されている。弥生時代の集落との継続性については不明であるが、集落は大規模化して前期前半から中期前半頃までの期間で展開していたことが認められる。その様相は前時代に比べ、台地の縁辺部から標高27m以上のやや内側に入り込んだ地域を中心に密に展開している。ただ、この時代の遺構も耕作による削平や重複による攪乱などを受け、遺存状況が不良の遺構が多い。そのため、遺構の特徴を捉えることが困難であるが、住居跡を時期・単位集団ごとに大別して集落の変遷を述べていきたい。

住居跡を時期ごとに区分すると前期前半7軒（SI10・12・13・16・17・21・31）、前期中頃から後半にかけて5軒（SI25A・25B・27・28・101）、前期後半16軒（SI18・19・37・44・53・57A・57B・63・75・95・96・98・103・105・106・111）、前期後半から中期にかけて13軒（SI24・33・35・36・41・59～61・78・110・120・125・126）、中期前半7軒（SI20・32・64・69～71・132）であり、資料が乏しいため不明確であるが、第23・26・34・107・108号住居跡が前期、第3号住居跡は前期または中期と推測される。今回の報告する調査範囲の中で、縄文時代から平安時代までの集落の変遷において古墳時代前期が軒数と規模から盛期と言える。

前期前半の7軒は、調査区北東部中央にまとまって展開しており、住居間が4～8mと狭いものの住居跡の形態や遺物から第13・16・17号住居跡と第12・21・31号住居跡の単位集団にまとまると考えられ、



第596図 変遷図2 (古墳時代)

第10号住居跡は炉が確認されておらず、倉庫的な性格が指摘されている。遺存状況が不良なために前期に比定されている第34号住居跡は、配置的に第12・21・31号住居跡と同じ単位集団に属していた可能性が考えられる。前期中頃では、第25A・25B号住居跡は建て替えであるため実質1軒と考えることが妥当で、第27・28号住居跡と合わせて3軒である。第101号住居跡は単独で確認されているため、単位集団については不明確である。第25A号住居跡は建て替えされ、当遺跡で唯一ベッド状施設が確認されており、配置と出土遺物からも集団の中心となる住居跡と考えられる。古墳時代第3期にあたる前期後半は、最多の16軒の住居跡が確認されている。この時期に前後して存在するものと考えられるが、第18・19号住居跡、第37・95号住居跡、第44・53・75・98号住居跡、第103・105・106号住居跡、第57A・57B・63号住居跡の6つの単位集団にまとめることができる。しかし、第111号住居跡は、南東部の調査区域外に接する地点で単独で確認されているため不明確である。また、単独の第96号住居跡は出土土器が多く、東海系の土師器壺(136・137・140)が出土しており、当遺跡では特異である。第4期は、前期後半から中期前半にかけて13軒が相当する。第24・33号住居跡、第35・36・41号住居跡、第59・61号住居跡や、距離的に建て替えられた可能性が考えられる第110・120・125・126号住居跡などが、単位集団を形成していたものと推測される。第60・78号住居跡は遺存状況が不良のため、同じ集団の可能性が想定されるが不明確である。最終段階の第5期は中期前半で、相当するのは7軒である。第20・32号住居跡は単位集団と考えられ、第64・69～71号住居跡で1つまたは2つの単位集団を形成していたものと想定される。大きな集団からやや距離をおく第132号住居跡は、調査区域外を挟んで単独で確認されている。

遺物を見ると、炉器台が1点ずつ第13・16・44号住居跡から出土している。同型の類似するものは、下総・印旛地方に多く見られるもので異形器台とも呼ばれている⁷⁾。また、当遺跡としては、台付甕・S字口縁甕が少ないことが1つの特徴である。

当遺跡を含む台地周辺で確認されている古墳は数多く、同時期に展開していたであろう集落も古墳に相当した規模と数が存在したと考えられる。当遺跡の南東側に隣接する上境作ノ内遺跡(縄文・弥生・古墳時代)も複合遺跡とされているが、当集落との関連が想定される。しかし、古墳時代前期から中期にかけての集落の調査は、当遺跡周辺を含めた桜川流域右岸ではあまり調査されておらず、今後の調査と資料の蓄積を待ちたい。

当遺跡内では、6世紀後半に比定される第1号墳が築造されているが、集落跡は確認されていないことから、上野陣場遺跡周辺域が居住域ではないかと推測される。上野陣場遺跡では前期5軒、中期1軒の住居跡が確認されているが、古墳時代後期、特に6世紀後半に入ってから竪穴住居跡が飛躍的に増え、7世紀後半には減少するものの6世紀代から7世紀代にかけて74軒が調査され、掘立柱建物跡3棟、土坑1基を含めた集落跡が確認されている⁸⁾。上野陣場遺跡の調査範囲が、遺跡全体の4分の1ほどの範囲であることから、大集落であったと想定される。この上野陣場遺跡のほかにも、北西や西方1kmの地点に、同時期の柴崎遺跡・大山遺跡・大山西遺跡等が調査・確認されている⁹⁾ことから、いくつかの大集落が存在していたものと推測され、近接する古墳の規模と数とともに、当該台地上が盛期となる時期と言える。

(5) 奈良時代(第597図)

8世紀代になると、当該域は河内郡菅田郷に属し、筑波郡栗原郷に接する¹⁰⁾。南方2kmの地点には河内郡衙(金田西・金田西坪B遺跡)、その西側に郡寺(九重東岡廃寺)、さらにその西側には郡衙と密接に関連する集落(東岡中原遺跡)が位置している。当遺跡において当該期の竪穴住居跡は7軒確認されており、

8世紀前葉3軒（SI55・112・118）、中葉2軒（SI29・121）、後葉2軒（SI115・116）と小規模の集落が継続的に展開していたことが看取できる。後葉の第115号住居跡と第116号住居跡は25mほどの距離があるが、単位集団と考えることができる。前葉・中葉の同時期の住居跡は70m以上の距離があるため、単位集団と認めるのは困難である。また、集団を構成していた住居跡は攪乱のため確認できなかったが、調査区域外に所在している可能性も推測できる。8世紀前葉の住居跡3軒は、いずれも一辺が4mを超える規模の住居跡であるが、中葉以降は規模が縮小し、第116号住居跡を除いて一辺が3mほどとなっている。また、いずれの住居跡も遺物の遺存率が不良で小片が多く、第55・118号住居跡を除いて、いずれの住居跡も破片数は110点以下で、須恵器片が少ないことが特徴的である。第116号住居跡の須恵器坏（遺物番号262）の内面には墨痕が確認できる。

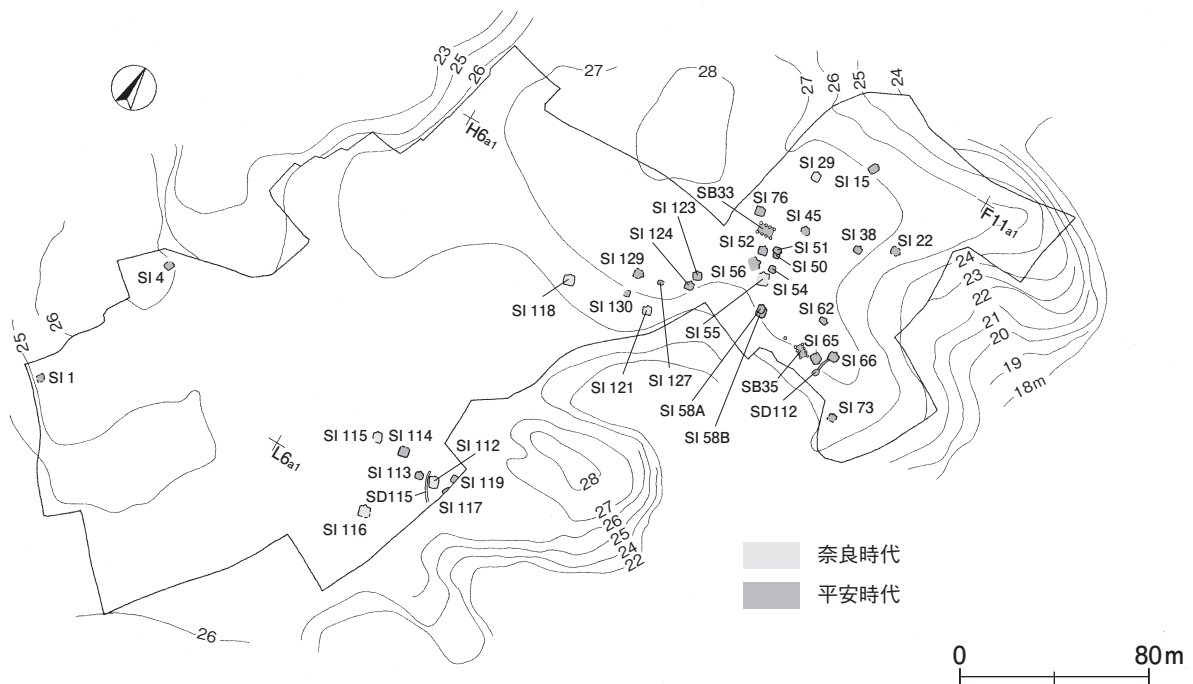
上野陣場遺跡における奈良時代の遺構は、堅穴住居跡15軒、大形円形土坑3基が確認されている¹¹⁾。住居跡の規模は、一辺が4m前後が主体で、当遺跡との差はそれほどでもない。また、主軸方向も8世紀前葉は北西方向に傾き、中葉以降は北から北東方向に傾くものが多いが、規格性は認められず、当遺跡や柴崎遺跡と共通する傾向である。遺物では、8世紀前葉に比定される住居跡から円面硯1点、8世紀中葉に比定されている第1号大型土坑から50点を超す灰釉陶器と10点の緑釉陶器が出土しており、出土遺物から遺跡の中心は、上野陣場遺跡または柴崎遺跡周辺に移っていると推測される¹²⁾。当遺跡では、東岡中原遺跡や島名熊の山遺跡で確認されている規則性のある住居跡や掘立柱建物跡群は確認されてはいないが、当然ながら律令体制の一部に組み入れられていたと考えられる¹³⁾。

(6) 平安時代（第597図）

当該期の遺構は、堅穴住居跡27軒、掘立柱建物跡2棟、溝跡2条、土坑2基が確認されている。この時代も、奈良時代に引き続いて小規模の集落が継続的に10世紀中葉頃まで展開していたことが認められる。9世紀前葉または前半に比定できる住居跡は7軒（SI56・58A・58B・76・113・114・119）である。第58A・58B号住居跡は建て替えられ、1軒と捉えると3軒ずつ2単位の単位集団とすることができる。1つは第56・58A（58B）・76号住居跡で、他方は第113・114・119号住居跡である。9世紀中葉では第50・66・73号住居跡の1つの単位集団が確認されている。9世紀後葉に比定できるのは7軒で、2つの単位集団が確認できる。1つは第124・127・130号住居跡で、他方は第45・52・123号住居跡である。第124・127・130号住居跡の単位集団は、第45・52・123号住居跡の単位集団より先行していたと考えられる。東竈を有している第62号住居跡は、時期的に第124号住居跡の集団と近いと推測されるが、出土資料も限られているため詳細は不明である。

9世紀後葉から10世紀前葉にかけては、第15・54・65・129号住居跡の4軒が挙げられる。このうち、単位集団と認められるものは第54・65・129号住居跡で、いずれも東竈である。10世紀中葉では、第22・38・51号住居跡の3軒が、単位集団を形成していたものと考えられる。その他、調査区の端部に確認された第1・4・117号住居跡は、出土資料に乏しいため9～10世紀の時期と推測することにとどめる。また、柱穴の規模等から穎稻などの一時的な貯蔵を目的とした簡易な倉庫と考えられる第33・35号掘立柱建物跡も、資料に乏しいため時期を明確にすることはできなかった。

住居跡の規模をみると長・短軸とも4mを超える住居跡は3軒のみ（9世紀前葉2、9世紀中葉1）で、他は一辺4m以下と小規模である。この傾向は、上野陣場遺跡や柴崎遺跡の住居跡群も同様であり、上野陣場遺跡では堅穴住居跡55軒、掘立柱建物跡11棟、土坑8基が確認されて、奈良時代同様に調査面積あたりの遺構数は、当遺跡に比べ密である。また、当該期当遺跡で確認されている灰釉陶器は1点、



第597図 変遷図3（奈良・平安時代）

墨書土器は皆無であるのに対し、上野陣場遺跡では灰釉陶器39点、墨書土器5点、さらに腰帯具3点（鉸具、巡方、鉞尾）等が出土しており、集落は9世紀から10世紀後葉頃まで隆盛であったことが報告されている¹⁴⁾。

当遺跡で特出される遺物は、有耳壺2点が第124号住居跡（9世紀後半）、灰釉陶器1点（短頸壺）が第62号住居跡（9世紀後葉）からそれぞれ出土し、円面硯2点は遺構外から確認されている。また、両遺跡で確認されている須恵器坏は10世紀前葉まで使用が確認されている。その理由としては、当該地が新治須恵器窯跡群まで直線で10kmの範囲に所在していることがあげられる。製品としては、東岡中原遺跡等で出土している土器に比べて良質のものとは言えず、一住居跡あたりの個体数も少なめである¹⁵⁾。

(7) 中世（第598・599図）

これまで当周辺域で中世の集落跡が確認されているのは柴崎遺跡だけであり、90軒の方形竪穴状の遺構が確認されている¹⁶⁾。当遺跡域で集落が再び営まれるのは、室町時代後半（戦国時代）に入ってからである。中世遺構と考えられるのは、掘立柱建物跡44棟、柵跡3列、ピット群48か所、溝跡200条、道路跡11条、井戸跡47基、水溜遺構21基、廃棄土坑1基、方形竪穴遺構12基、地下式坑15基、墓坑27基、火葬土坑6基、土坑110基、土坑群2か所である。15世紀後半の時期と考えられる井戸跡、方形竪穴遺構、地下式坑、土坑や、15世紀後半から16世紀代の建物跡と推測されるピット群が確認されていることから、墓域を伴う集落が15世紀末には成立していたと考えられる。また、集落は16世紀代に入り拡大し、17世紀初頭には現在の上野地区の集落がある桜川寄りの緩斜面部に移動したと推察される。ここでは、集落跡について概観をして中世のまとめとしたい。

ア 集落の立地と土地の利用について

集落跡は、樹枝状に入り込んだ谷津に開析された馬の背状の台地上に位置している。台地の標高は、24～28mと高低差があり、谷部との標高差は8～10mで縁辺部のため北・東・西方向は斜面である。現在の集落は、桜川に向かった斜面に50数軒で形成され¹⁷⁾、台地に入り込んだ谷津は、谷頭からの湧水を

利用した水田であったが、現在は休耕地や荒地となっている。水の管理や耕地の拡大を考えると、湧水は重要であり、現在の上野地区や南に隣接する上境地区では、昔はこの湧水を生活用水にも活用しており、現在でも、台地斜面部などからの湧水を利用して池州を設置している屋敷が認められる。湧水は谷部の農業には欠かせないものであり、上野陣場と上野古屋敷地区の境には、現在でも、人工の溜め池の上野池が地元の人々によって管理されている。隣の上境地区でも体見神社の周りに溜め池が認められるほか、この連続する台地縁辺部の谷部には現在でも溜め池が点在している。また、当遺跡周辺域では、台地部の山林や畑地には墓地が点在し、その数は10を超える。当遺跡の調査区中央部東側にある鹿島神社の入り口手前は、江戸時代後半の墓石が多数残る墓域となっている。谷部は谷津田、台地斜面部は宅地と畑地、斜面部の畑地下から桜川の堤防までの沖積地は水田、沖積地の微高地は畑と宅地である。台地上は畑地が中心で、ローム層が薄く水の浸透や排水が悪い調査区の中央部南から南部は芝畑や陸稲畑、かつての桑畑で、北東部の傾斜は元桑畑の荒地である。表土（耕作土）が比較的薄い地区は耕作に適さず、一時期粟畑や葡萄畑に転作されていた。また斜面部は傾斜がきついため、土地の有効利用と土砂の流出を防ぐために、雑木林・杉林・竹林・篠竹の藪となっている。以上のことから、集落跡地としては、それほど農地に適した地所とはいえないが、台地のほぼ突端部にあることから防御しやすい地区であったと考えられる。

調査区中央部の南から南部にかけては水が溜まりやすいため調査は困難な区域であったが、溝などが掘り進められていくうちに次第に水はけが良い土地となったと考えられる。この台地上から排水された水は、当時から灌漑用として利用されていたと想定され、耕地を拡大して、生産の安定を図る上で有用であったと推測される。

イ 集落の成立

15世紀後半頃、墓域と考えられる第1号土坑群や井戸跡（SE10・12・14～17・22・24・26～28・38・39・41・43・44）、方形竪穴遺構（SP 1～3・6・7）、地下式坑（UP 1・8～10）、墓坑（ST10・17・23）などの遺構が調査区全体に点在するように確認されていることから、散村的な小集落が成立していたのではないかと推測される。遺物は、土師質土器を中心に15世紀後半と考えられる遺構から出土しているほか、16世紀代の遺構からも確認されている。

ウ 集落の拡大

掘立柱建物跡の時期が16世紀代または16世紀後半に比定できることから、16世紀中頃には、軒数が増加して墓域を伴った集落へと展開したものと考えられる。16世紀中頃から後半にかけては、溝の掘り替えや掘り返し、木橋の付設（SD135・185・198・207・326・335）などが行われ、障子堀（SD123B・226A・306・325）などの防御性のある溝に再構築していったと考えられる。

エ 集落の廃絶と移動

掘り方の断面形が逆台形の中規模以上の溝跡は、一部を除いてほとんどが人為的に埋め戻されており、その埋土の中には多量の土師質土器が廃棄されている。それらの中での第20・134・189・199A・300・306・325号溝跡等が代表的なものとしてあげられ、溝が埋められた時期が、当集落の廃絶期と考えることが妥当である。また、埋土に含有されている多量の粘土は、溝を掘削したときの土であり、それらの土は溝に沿って積み上げられ土壘や住居の壁土等に利用されていたものと推測される。廃絶と移動の時期は、小田氏が佐竹氏に降伏する1583（天正11）年以降、佐竹氏配下の梶原政景が入城し、1590（天正18）年小田氏治が小田城奪回に失敗した頃と考えられる。廃絶と移動の理由としては、支配が小田氏から佐竹氏に

変わったことであり小田家支配下の土豪層は帰農したと考えられ、防御の必要性がなくなったことや戸数の増加などで耕地を増やし農業生産力を高める必要性などがあげられる¹⁸⁾。

オ 集落の性格について

当集落を一般農民層の集落と想定するよりは、国人層（在地領主）よりやや身分が下で、小田城主と関係する武力を有した半武士・半農民の土豪層（有力農民層）を中心とした集落跡と想定される。その根拠の1つとして、防御を意識した集落の構成があげられる。それら集落の立地場所とクリーク状に掘削された溝、また「古屋敷」の小字名の調査区中央部を二重、三重にL字状に区画している溝区画、さらに障子堀、木橋の付設などである。さらに、埋葬形態や墓域から類推すると、北東部の第1号遺物包含層を中心に確認されている円礫は集石遺構のものかは明確ではないが、笹生衛氏の言う国人的な武士層の存在や、火葬土坑や五輪塔・宝篋印塔などの出土は、武士階級の存在を暗示する資料である¹⁹⁾。また、狭い範囲で見れば、上層農民主導型墓域や農民層屋敷・垣内墓型墓域が存在した可能性も想定できる。出土遺物では、威信財と考えられる鉄釉の瓶子、青磁碗、青磁皿、青磁壺、白磁皿、白磁杯や飲茶の習慣を示す天目茶碗や茶釜、茶臼などの出土もその根拠となる。また、確認された鉄製品類の数は極少数であるが、検出された砥石の数は溝跡からだけでも129点と極めて多く、鍛冶を想定できる羽口や鉄滓も出土しており、鉄製品を豊富に保持していたと考えられる。

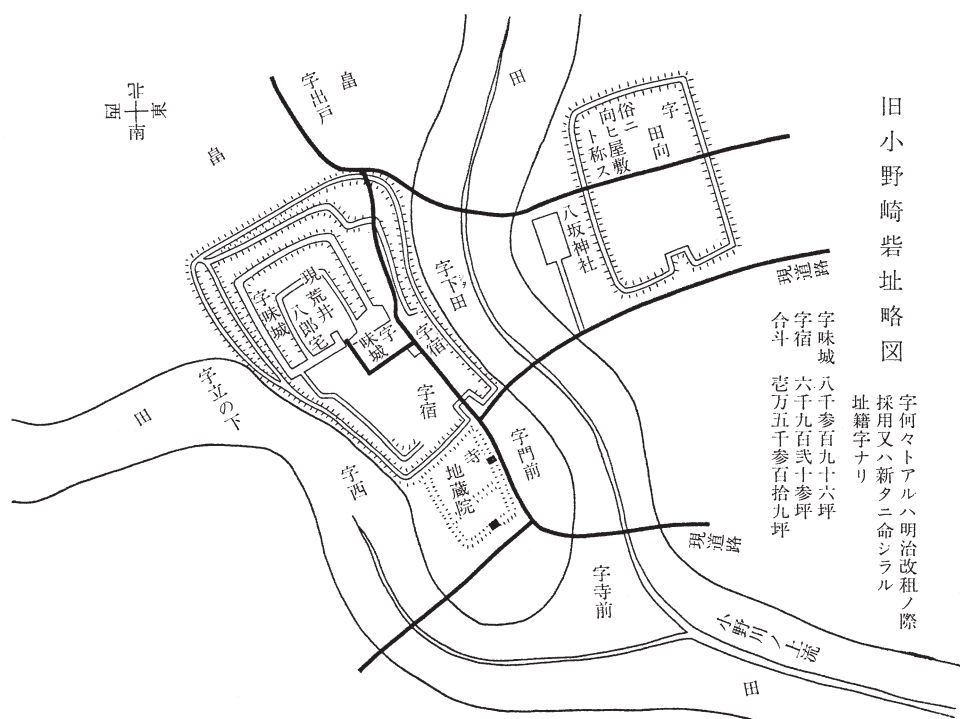
次に地名から類推すると、小字名「古屋敷」が現在も残るほか、隣接する小字名には「堂ノ前」・「石塔」・「柵ノ内」・「作ノ内」・「勢至前」、近隣には「陣場」と言った小字名が残っている。「堂ノ前」や「勢至前」は仏堂の存在が想定でき、「柵ノ内」は柵の内外の区画、「石塔」は石塔が並ぶ参り墓の存在、「陣場」は人馬を揃える陣場の存在など、相互に関連する施設の存在が想定される。立地の観点から見ると、桜川の低地に面する台地上に位置しており、同じ台地の縁辺部の南方約2kmに位置している小田家の有力家臣沼尻家の金田城との関連も想定される²⁰⁾。また、当集落は小田城まで6kmほどであり、金田城と小田城を直線に結ぶ線上に位置し、小田家配下の田土部館や斗利出（元は砦）城が桜川を挟んだ対岸に所在している。当集落からは小田城の動静は容易に確認することが可能であり、小田家の家臣で、小田家滅亡後帰農したと伝えられる太塚家は、当台地から北方1.5kmほどにある低地集落に屋敷を構えている²¹⁾。また小田家と関係の深い北斗寺は、太塚家北側の集落北辺に位置しており²²⁾、16世紀末の集落廃絶と移動は、小田氏が佐竹氏によって駆逐された時期とほぼ重なると考えられる。当集落跡出土の皿類は、小田城発掘調査の第1面（最上遺構面）で確認されている土師質土器（皿類）と極めて類似点が多く認められる²³⁾。

カ 屋敷域について

一単位の居住区としての屋敷域には、居宅とそれに付随する納屋的な倉庫または副屋等の建物、井戸、そして、近くには当遺跡としては特徴的な洗い場的な作業場があったものと想定される。居宅と考えられる建物跡は、小規模のものが桁行2間、梁行1間で、最大のものが第36・69号掘立柱建物跡で桁行5間、梁行1間である。屋敷域を区画する溝があるが、方形や長方形に囲む堀また溝は見あたらず、多くはL字状に配置した溝を組み合わせて区画していたと考えられる。かつて、調査時に伺った古老の話では「16世紀の終わり頃は16軒ほどの集落で、順次現在のところへ移り住んだ」ということである。溝による区画を手がかりに井戸を備えた居宅の数を数えると、建て替えを除いておおよそ13単位の大きなまとまりが確認できる。すなわち、第1号掘立柱建物跡を中心とした単位のほか、第4号掘立柱建物跡、5号掘立柱建物跡、第9・10号掘立柱建物跡、第12号掘立柱建物跡、第19号掘立柱建物跡、第20号掘立柱建物跡、第24号

掘立柱建物跡，第36号掘立柱建物跡，第54号掘立柱建物跡，第56号掘立柱建物跡，第66・68・69号掘立柱建物跡，第71・72号掘立柱建物跡をそれぞれ中心とした単位である。第5号掘立柱建物跡は単独であるが，重複や隣接が見られる第1・10号ピット群域に関連する施設があったと推測され，第36号掘立柱建物跡も第24号ピット群域に関連する施設があったと推測される。前述した13のままとりのほか，倉庫または副屋的な建物跡と考えられる第13～18号掘立柱建物跡の所在する第12号ピット群域，第3・4・9号井戸跡と重複している第23号ピット群域，第6号井戸跡・第3号水溜遺構と重複している第67号ピット群域，第13・17号井戸跡と重複する第53・54号ピット群域にも，居宅に相当する建物が存在して屋敷域を形成していたと思われる。なお，単独で倉庫または副屋的な建物跡として確認されている第31・32号掘立柱建物跡については，資料が乏しいため不鮮明である。

屋敷域として詳細な検討ができず，集落の時期ごとの明確な変遷については言及できないが，溝の形状や規模，または出土している遺物の量と性格から考えると，明らかに「古屋敷」の小字名が残る調査区中央部がこの集落の中心域と考えることができる。特に，中心部と考えられる部分に確認されている第29・53・54・67号ピット群付近は，掘立柱建物跡は確認されていないものの，北側に大きく三重（外からSD254，SD231・254，SD199A・199B・226A・229A）に溝が巡っており，第599図の館跡と比較しても，それに匹敵するような屋敷域の存在が推定される²⁴⁾。



第599図 旧小野崎砦跡略図

(8) 近世以降

17世紀以降は耕地となり，畑地となっている台地上の一部は座棺の墓坑が20基検出されていることから，墓地として利用されたことが認められる。近代になって墓地の一部は集落のある斜面や低地へと移動していったものの，畑地や山林の中に墓地が点在し，その景観が現代まで残り，中世後半の溝跡や道路跡の一部もそのまま地籍の境となっている。また，桜川下流域は土浦城を守る氾濫原となったことから，河

川改修や堤防の整備に伴い、移動先である集落が面する低地は新田として開発が進んだものと考えられる。一方、上野陣場遺跡も、中世遺構の火葬施設1基や近世の座棺の墓坑4基などが確認されている²⁵⁾ことから、当遺跡と対峙する上野陣場遺跡の中・近世は、主に畑地・墓域として土地利用されていたと考えられる。

2 埴輪棺について

第1号墳の周溝を掘り込んでいる周溝内土壙1から、2個体の円筒埴輪を使用した埴輪棺が確認されている。埴輪棺については、埴輪棺の埋設場所や構成、そして副葬品等を検証することで、被葬者の階層や被葬墳の主体者との関係を想定することができる。しかしながら、被葬者の年齢差や、洗骨葬か拾骨葬であったかなどの埋葬方法によって、明らかにされない部分が多い。また、転用棺は、群集墳の中で検出される例が多く、複数検出されることもあることから、階級的な側面や土師氏のような専門職種の工人集団との関係も推測されている²⁶⁾。ここでは、茨城県で確認されている埴輪棺について集成してまとめる。

諸星政得氏は、埴輪棺を以下のように分類している²⁷⁾。氏の分類に従って、県内の事例を列記する。

(1) 埴輪棺の2分類

- ① 形や質は埴輪によく似ているが、はじめから棺として作ったもの
- ② 円筒埴輪をそのまま利用したもの。その他の埴輪棺があてはまると考えられる

(2) 棺の構成の3分類

- ① 棺の主体部が1個の円筒であって、前後の両口を土器片や笠状の器でおおったもの
- ② 棺の主体部が2個の円筒からなり、あるものは挿入式、合口式になっているもの
- ③ 棺が埴輪円筒をそのまま利用しているもの

(3) 埋葬場所についての2分類

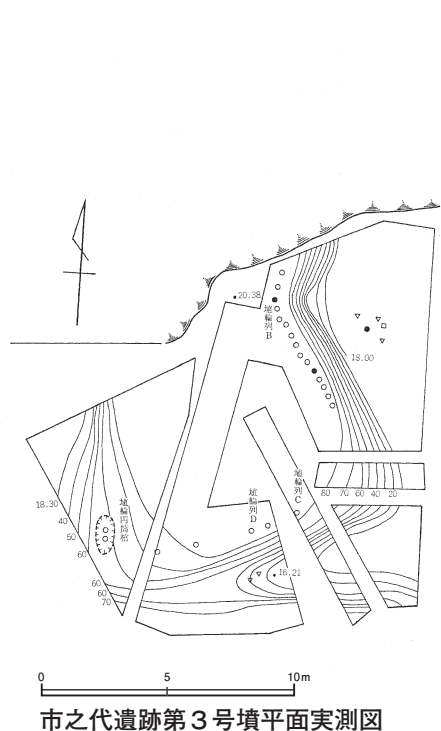
- ① 棺自体が主体部として埋葬されたもの
- ② 前方後円墳の前方部あるいはくびれ部などの中心を離れた場所、または墳丘の裾部や外堤部などの周辺部に埋葬されたもの。陪葬といわれる状態

以上の分類基準から、県内で周知されている例をまとめると下記の表となる。

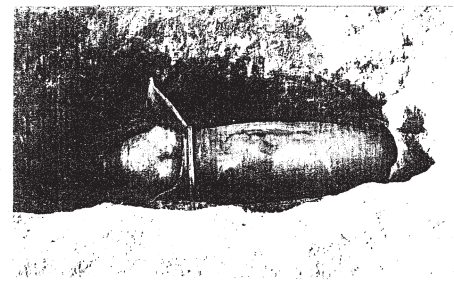
| | (1) 埴輪棺の2分類 | (2) 棺の構成の3分類 | (3) 埋葬場所についての2分類 |
|---|---|---|---|
| ① | 髭釜遺跡出土棺 舟塚山古墳出土棺 | 髭釜遺跡出土棺 | 髭釜遺跡出土棺 |
| ② | 高崎山古墳群墳出土棺 貝塚古墳付近出土棺 市之台遺跡出土棺 松延古墳群出土棺 東山稲荷古墳出土棺 北条中台遺跡出土棺 実穀寺子古墳群出土棺 上野古屋敷遺跡出土棺 | 舟塚山古墳出土棺 高崎山古墳群墳出土棺 貝塚古墳付近出土棺 市之台遺跡出土棺 松延古墳群出土棺 東山稲荷古墳出土棺 北条中台遺跡出土棺 上野古屋敷遺跡出土棺 | 舟塚山古墳出土棺 高崎山古墳群墳出土棺 貝塚古墳付近出土棺 市之台遺跡出土棺 松延古墳群出土棺 東山稲荷古墳出土棺 北条中台遺跡出土棺 実穀寺子古墳群出土棺 上野古屋敷遺跡出土棺 |
| ③ | | 実穀寺子古墳群出土棺 | |

髭釜遺跡第4号方形周溝墓例は主体部と考えられ、副葬品として34個の白玉を伴い、他の埴輪棺と性格が異なることが認識でき、時期は古墳時代前期である。舟塚山古墳例は、大形円筒の特別製の棺であり、墳丘裾部から出土しており、葬墓の被葬者と関係のある人物を追葬したものと考えられる。埴輪の時期は、5世紀末から6世紀初頭である。そのほかの埴輪棺は円筒埴輪の転用棺で、時期も6世紀代である。実穀寺子古墳群第8号墳例は、主体部の可能性があることが報告されているが、やや小さめの朝顔形円筒埴輪1個体を転用して墳丘裾部に埋葬したもので、追葬したものと考えられる。古谷毅氏は、「5世紀前半までの埴輪棺は棺用の特別な埴輪棺を使用していることが多く、髭釜遺跡の埴輪棺はその例の一つで、副葬品も重要である。この時期以降からは転用棺が多くなる。リーダー（葬墓の被葬者）は特製棺を使用し、主体部に埋葬される。一方、陪葬者層のものは転用棺を使用し、墳丘の裾部等に埋葬される。これは5世紀半ば以降に見られる傾向である。」とし、さらに「埴輪棺の設置（埋置）の仕方も考える必要がある。主軸方向については古墳と同じであるか、周溝と同じであるか、棺を埴輪や土器の破片によってふさいでいるか、意図的に割った形跡があるか、棺として手を加えた形跡があるか。それらを見極めないと、 unnecessary 復元をしてしまい、情報を消すことになる。出土した土坑の底面に粘土が張ってある場合もあり、調査時の観察と記録が大切である。」と指摘している²⁸⁾。

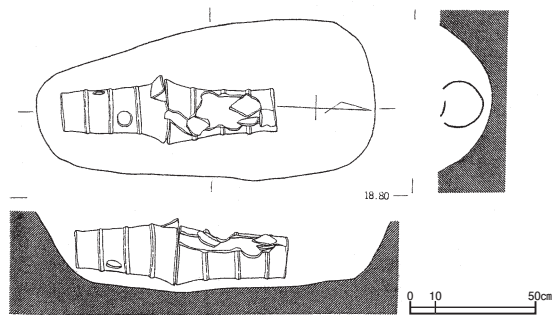
当遺跡内で確認された埴輪棺は、2個体の円筒埴輪をそのまま利用したもので、合口式である。この例は、外堤部などの周辺部（周溝内土壌）に埋葬された分類であり、陪葬といわれる状態である。以上のことから、この埴輪棺は、陪葬者層を埋葬したものと考えられる。このほか、周溝内土壌1に対して縦に配列した周溝内土壌1基も確認されている。これら周溝内の土壌内に棺材などは確認されておらず、追葬・陪葬遺構として墳丘裾部や周溝内を掘り込んだ土坑²⁹⁾や主体部と同じ主軸方向の周溝外土坑が確認されている例も、近年報告されている³⁰⁾。埴輪棺との比較検討からも、今後の事例の増加を待ちたい。



市之代遺跡第3号墳平面実測図

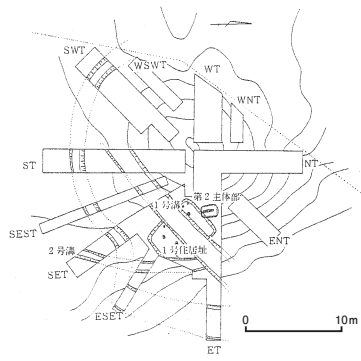


髭釜遺跡第4号方形周溝墓埴輪棺出土状況

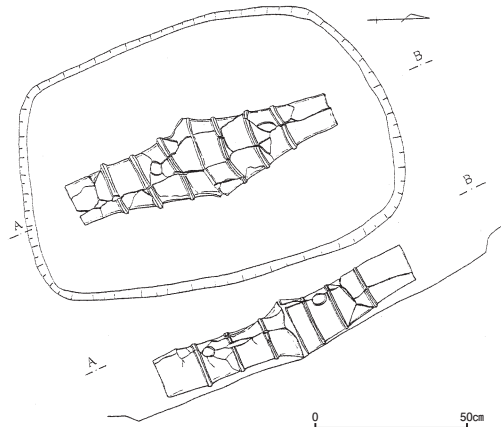


市之代遺跡第3号墳埴輪棺出土状況

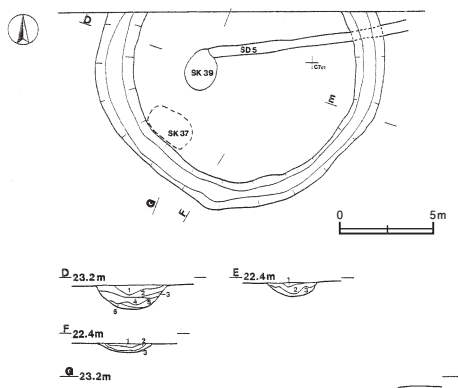
第600図 埴輪棺出土状況実測図(1)



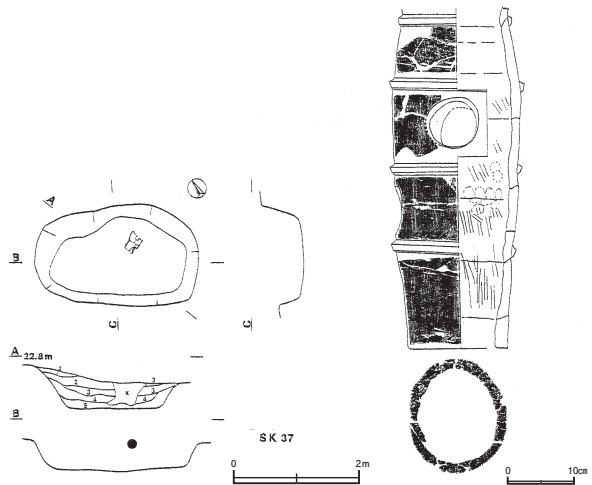
松延古墳群第4号墳平面実測図



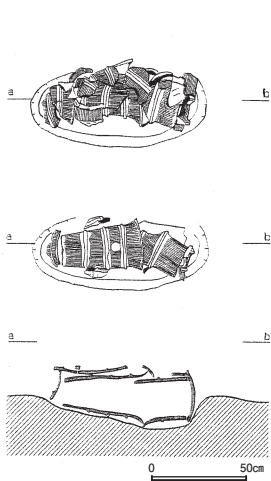
松延古墳群第4号墳埴輪棺出土状況実測図



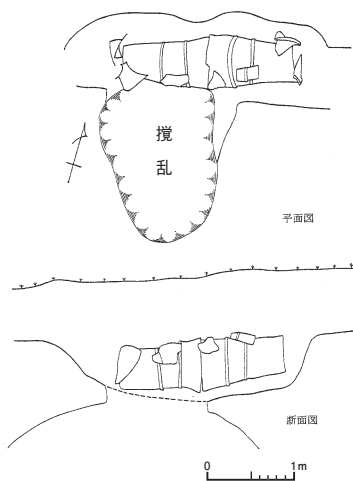
実穀寺子古墳群第8号墳平面実測図



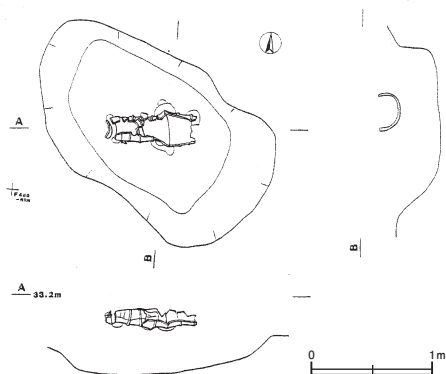
実穀寺子古墳群第8号墳，第37号土坑・出土埴輪実測図



東山稲荷古墳埴輪棺出土状況実測図



貝塚古墳付近発見の埴輪棺出土状況実測図



北条中台遺跡第61号墳埴輪棺出土状況実測図

第601図 埴輪棺出土状況実測図(2)

表41 茨城県内出土の埴輪棺一覽表

| 番号 | 遺跡・古墳名 | 所在地 | 埋設場所 | 土壌の規模 | 棺身 | | 遺物 | その他の特徴 | 備考 (古墳・埴輪等の時期, 調査年, 出典等) |
|----|-------------------------|-----------------|-----------------------------|---------------------------------|--------------|--------------------------|--------|---|---|
| | | | | | 構成 | 全長 | | | |
| 1 | 高崎山古墳群小円墳 | 新治郡新治村 | 円墳 墳丘の裾部 | 不明 | 円筒2 | 不明 | — | 円筒は器高60cm程度, 3段の突帯を持つ | 直径15m, 高さ1.5mの小円墳 昭和32～33年調査 『図説 新治村史』 新治村史編纂委員会 1986年1月 |
| 2 | 髭釜遺跡 第4号方形周溝墓 | 東茨城県大洗町 | 第4号方形周溝墓 墳丘・主体部 | 長辺2.1m, 南辺1.3m, 北辺0.9mの長方形 深さ不明 | 朝顔形円筒1 (特別製) | 82cm | 白玉 34個 | 土坑は溝底面を1.07m掘り込んでいる | 方形周溝墓は古墳前期 昭和51年度調査 まとめ註27b)より 第600図 |
| 3 | 舟塚山古墳 | 石岡市高浜 | 前方後円墳 前方部 墳丘の西側裾部 | 耕作中に発見 不明 | 大型円筒1 (特別製) | 不明 | — | 高さ約1m, 胴部直径約30cm 5段の突帯, 3段と4段に透かし 前口部は口縁部欠損の盞形土器を挿入, 後口部は盞形土器の底部で塞いでいる 前口部方向はS-30°-Wをさす | 古墳の埴輪は5世紀末～6世紀初頭と推定(車崎正彦「常陸舟塚山古墳の埴輪」『古代』59-60号(1976年)) まとめ註27a)より |
| 4 | 貝塚古墳付近 | 水海道市豊岡町 | 貝塚古墳の北方20mの位置, 表土下50cmの土坑から | [長径2.8m, 短径1m] の不整形円形カ 深さ0.9m | 円筒2 | 96.5cm(箱長), 実測図では全長187cm | — | 2段の突帯, 中間に一及の透かし | 6世期中葉と推定 吉田章一郎「貝塚古墳」『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』 1974年2月, 『水海道市史 上巻』 水海道市史編纂委員会 1983年3月 第601図 |
| 5 | 市之代遺跡 第3号墳 | 取手市市之代 | 円墳 墳丘の裾部 | 長径1.32m, 短径0.58mの楕円形 深さ0.34m | 円筒2 | 84cm | — | 長軸はほぼ南北に一致し, 埴輪郭線, 埴輪列線とも一致する | 6世期中葉 昭和52年度調査 まとめ註27a)より 第600図 |
| 6 | 松延古墳群 第4号墳(大塚古墳 群第24号墳) | かすみがうら市志筑 | 墳丘・第2主体部 | 長軸1.2m, 短軸0.9mの楕円長方形 深さ0.08m | 円筒2 | 90cm | — | 器高約45cm, 口径約24cm, 胴部中央径約17cm, 底径約14cm, 器厚約1cm | 6世紀後半カ 昭和57年度調査 黒沢彰成「松延3・4号墳発掘調査報告」茨城県千代田村教育委員会 1983年3月 第601図 |
| 7 | 東山稲荷古墳 | 東茨城県茨城町下土 師字稲荷前 | 円墳または前方後円墳・周溝内土壇 | 長径0.94m, 短径0.43mの楕円形 深さ0.17m | 円筒3 | 約78cm | — | 東側に完形品, 西側に口縁部～体部の破損品を置き, 中央で東側の口縁部に挿入している | 昭和61年12月一部調査 井上義安ほか 『茨城町東山稲荷古墳』 茨城町史編さん委員会 1985年11月 第601図 |
| 8 | 北条中台遺跡 第61号墳 | つくば市北条 | 墳丘・主体部 | 長軸2.2m, 短軸1.2mの楕円長方形 深さ0.45m | 円筒2 | 75cm | 極少量の骨片 | 周溝を伴わないタイプの古墳 | 6世紀後半 平成6年度調査 吉川明宏・新井聡・黒澤秀雄「(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財報告』第102集 1995年12月 第601図 |
| 9 | 実穀寺子古墳群 第8号墳 | 稲敷郡阿見町実穀寺子 | 円墳 墳丘裾部・第37号土坑 | 長径2.63m, 短径1.60mの楕円形 深さ0.45m | 朝顔形円筒1 | — | — | 墳丘の径約12.0mの円墳 上端0.9～2.4m, 下端0.4～0.9m, 深さ0.2～0.7m | 6世紀後半 平成7～9年度調査 まとめ註29)より 第601図 |
| 10 | 上野古屋敷遺跡 第1号墳 | つくば市上野 | 帆立貝式の前方後円墳・周溝内土壇 | [長径1.06m, 短径0.48m]の楕円形 深さ0.51m | 円筒2 | 84cm | — | 器高45.5cm, 口径24.3cm, 基部径13.0cmと器高38.6cm, 口径26.0cm, 基部径11.6cmの2個体 | 6世紀後半 平成13年度調査 P154～156に記載 |

3 小結にかえて

上野古屋敷地区を中心とした台地上は、縄文時代から中世まで断続的に集落が営まれ、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明した。今回の調査によって、古の人々の生活痕跡の一部を明らかにすることができたが、検討が不十分のため、その様相を明確にすることができなかつたことも多く残っている。今後も当遺跡を含めた周辺域の調査や整理が継続されることから、当地区の様相が明らかになると考えられ、さらなる研究の進展を期待したい。

註

- 1) 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭「上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- 2) 前掲1)
- 3) a 茨城県つくば市教育委員会『つくば市遺跡分布調査報告書 - 谷田部地区・桜地区-』2001年3月
b 川村満博「中谷津遺跡1 (仮称) 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第139集 1998年9月
- 4) 前掲1)
- 5) a 石橋充・関口友紀『玉取遺跡-火葬場建設に伴う発掘調査報告』つくば市教育委員会 2000年3月
b 奥沢哲也「玉取向山遺跡 県立つくば養護学校(仮称)整備事業地内埋蔵文化財報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第263集 2006年3月
- 6) 前掲3 a)
- 7) 高花宏行「印旛地域における古墳時代開始期の土器様相」『印旛都市文化財センター研究紀要』2 2001年3月
- 8) a 前掲1)
b つくば市教育委員会『つくば市内遺跡』-平成12年度発掘調査報告- 2001年3月 上境作ノ内遺跡内に所在している上境作ノ内古墳群第1号墳は平成12年度に調査され、当遺跡で調査されている第1号墳と同形態の帆立貝式の前方後円墳であり、括部のほぼ中央部東寄りに主体部である石棺が検出されている。時期は同時期の6世紀後半と比定されている。また、当遺跡の第1号墳と同様に墳丘上には現代の墓域が所在しており前地権者が調査開始まで長年墓地として墓碑をたてて供養してきたとのことである。なお、本年度の調査区(中央部北側)で6世紀前葉に比定されている住居跡が確認されている。
- 9) 前掲3 a) では、近在している上境作ノ内遺跡(縄文・弥生・古墳時代に比定)、上野陣場遺跡と支谷を挟んで隣接している大山遺跡(古墳、奈良・平安、中世に比定)・大山西遺跡(奈良・平安、中・近世に比定)は当遺跡と同様、周辺に古墳・古墳群が所在し、奈良・平安時代の遺物の散布が確認されている。
- 10) 桜村教育委員会『桜村の文化財』1983年3月 奈良の正倉院宝庫には「常陸国筑波郡栗原郷戸主多治比部□(里カ)戸多比部家主輪調瀑布台端…略…天平宝字七年十月」明記の献上された白布が現存している。前掲3 a) では、遺物の散布の状況と位置から栗原中台遺跡周辺が当時の栗原郷ではないかと想定している。
- 11) 前掲1)
- 12) a 土生朗治「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 柴崎遺跡Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月
b 前掲3 a) によると、上野陣場遺跡は隣接している上野中塚遺跡(昭和63年県教育財団による発掘調査、縄文、奈良・平安時代の遺跡)と一連の遺跡と考えられている。
- 13) 白田正子「常陸国河内郡内の律令期集落について」『領域の研究』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年4月
- 14) 前掲1)

- 15) 白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
- 16) 前掲12 a)
- 17) a 上野地区はテクノパーク桜（柴崎遺跡調査範囲）と接するところにも、1つのまとった集落があるが、ここでは、台地斜面部に所在する世帯数で、平成13年には55軒ほどであった。
- 18) a 茨城県西地区文化財研究協議会『茨城県西地区文化財研究協議会活動報告書』2005年3月 中世後半期の集落の移動の事例は数多く、代表的なものとして下妻市村岡（本屋敷遺跡・仲道遺跡 旧千代川村）、下妻市皆葉（皆葉遺跡内字「古屋敷」・「本屋敷」旧千代川村）等があげられる。下妻市村岡地区・同市皆葉地区の事例では、「新興農民層の台頭（村岡地区）・増加する農家のため屋敷地が手狭になったことや、村の西側にある共有地の林地（藪地）が他村の者の侵入を受け、雑木・竹などが盗まれていること」（皆葉地区、領主への願書による）などの理由があげられている。
- b 「皆葉遺跡発掘調査報告書」『千代川村埋蔵文化財発掘調査報告書』第9集 千代川村教育委員会 2003年3月
- c 前掲3) では、現在の上境地区は、上野地区と同様に台地縁辺に沿うように台地の斜面部から低地に沿って集落を形成しているが、上野地区がかつて台地上に集落を営んでいたことに対して、桜川寄りの沖積地の微高地に7軒ほどで集落を形成していたと言われている（現上境古屋敷遺跡範囲）。
- 19) a 笹生衛「東国における中世墓地の諸相－房総の事例を中心に－」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター 1995年 笹生衛氏は次のような類型化をしている。A 類型：武士層型墓域＝「蔵骨器を付随する火葬墓で集石遺構と石塔や板碑を伴う」。B 類型：供養塔・寺院型墓域＝「大型板碑・供養塔の周辺もしくは寺院内境内に蔵骨器を有する火葬墓を中心として土壙甕棺墓・土壙墓で構成され、被葬者は僧侶層やそれに帰した武士層で多くの板碑を伴う」。C 類型：土豪層主導型墓域＝「少数の火葬土坑もあるが多数の土壙墓に地下式壙が付随し、多数の石塔・板碑を伴う」。D 類型：上層農民主導型墓域＝「多数の土壙墓を中心に火葬土坑・地下式壙を伴うが板碑が極端に少ない」。E 類型：農民層屋敷・垣内墓型墓域＝「小規模で土壙墓の数が少なく板碑も極端に少ない」。
- b 当遺跡で、六地藏石幢（幢身）が確認されている。六地藏宝幢とも言い、中世に盛んに作られた。つくば市内では栄小学校（桜地区）前の道路側に、石なげ地蔵として置かれている。大穂地区では、吉沼インドウ共同墓地・覚心寺・大祥寺に各1基ずつ確認されている。筑波地区では、小田龍勝寺に1基、平沢八幡神社に1基、また、県立歴史館にもつくば市の個人蔵の1基が設置されている。六地藏というのは、一般に墓地や寺の入り口、辻等に立つ一体もしくは六体の地蔵である。六地藏石幢は、六面の幢身に地蔵を配している（桜村教育委員会『桜村の民俗』1985年3月、大穂町史編纂委員会『大穂町史』つくば市大穂地区教育事務所 1989年3月、筑波町史編纂委員会『筑波町石造物資料集』上巻 1983年3月、茨城県教育委員会『茨城の文化財』第43集 2005年3月より）。
- 20) 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月によると、強清水城とも言われ、金田官衙遺跡の北方200mの台地縁辺部に所在している。小田氏滅亡後、城主沼尻又五郎は帰農したと言われ、子孫が金田集落に現存する。
- 21) 太塚家は江戸時代栗原地区の名主であり、祖先は太田道灌の系図を引くとも語られ、「太塚」ではなく、「太塚」と称している。『小田家風紀』には、別家と思われるが廻座役の中に栗原大塚右衛門（五千二百石）の名が出ている。現存する太塚家住宅は18世紀前半のもので、国指定文化財になっている。
- 22) 茨城県教育委員会『茨城の文化財』第43集 2005年3月、桜村教育委員会『桜村の文化財』1983年3月によると、創建は弘仁12年（821年）と言われ、県指定文化財5点（いずれも中世、絵画3、書跡2）と小田城主小田氏治の肖像画を所蔵している。
- 23) a 広瀬季一郎『史跡小田城跡』－第50次調査（本丸跡確認調査Ⅴ）概要報告－ つくば市教育委員会 2005年3月
- b 前掲20) によると、「土器屋」という地名は、小田氏支配時に土器作りの工人5人が居住したために、この地名がついたとされ、畑地では土器片の散布が確認できる。また、近世前半の土師質土器の窯跡が、旧筑波町に所在している筑波観音下遺跡内で確認されており（『筑波古代地域史の研究』筑波大学 1981年）、小田城近辺には複数の窯跡があったものと推測される。

- 24) a 谷田部町史編さん委員会『谷田部町史』谷田部町教育委員会 1975年3月 第599図の「旧小野崎砦跡」はつくば市小野崎に所在し、戦国時代小田家家臣の荒井氏の館跡である。荒井氏は、小田氏滅亡後この地に帰農した。
- b 斎藤弘・進藤敏雄「北関東における中世集落について」『研究紀要』第3号 (財) 栃木県文化振興事業団埋蔵文化センター 1995年 本書の分類の在地領主層と有力農民層のほぼ中間にあてはまると推測される。
- 25) 前掲1)
- 26) 水沼良浩「栃木県内発見の埴輪棺について」『栃木の考古学』埴静夫先生古希記念論文集刊行会 2003年
本書では、塚山古墳群から11例の埴輪棺の出土例について。また、「広報ふじいでら」第327号では、大阪府藤井寺市から羽曳野市にまたがる古市古墳群内から80例を超す埴輪棺の出土について記載されている。
- 27) a 諸星政得・宮内良隆『市之代古墳群第3号墳調査報告』茨城県取手市教育委員会 1978年3月
b 藤井裕紀枝「第4号方形周溝墓」『ひいがま』(髭釜遺跡調査報告書)Ⅲ ひいがま遺跡発掘調査団 1976年3月
- 28) 2005年11月 茨城県教育財団整理第一課課内研修において、講師である古谷毅氏(独立行政法人「東京国立博物館」保存修復室主任研究員)に御指導を頂いた。
- 29) 浅野和久「実穀古墳群 実穀寺子遺跡1 荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財報告』第144集 1999年3月
- 30) 本橋弘巳「沢田古墳群 国道125号大谷バイパス建設事業に係る埋蔵文化財報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第276集 2007年3月

※ 図600・601は、表41の備考に記載した文献から引用した。

茨城県教育財団文化財調査報告第285集

上野古屋敷遺跡 1

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書区

中 巻

平成19(2007)年3月19日 印刷
平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

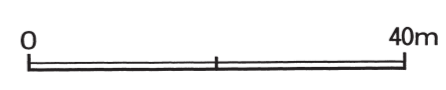
印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241(代)



E11



道路群
*土坑(SK)は、番号のみの表記とする



付図 上野古屋敷遺跡1 遺構全体図
〔茨城県教育財団文化財調査報告第285集〕